

医薬品集 2017

改訂第13版

独立行政法人 地域医療機能推進機構

九州病院

2017年

利 用 の 手 引 き

1. 頁数は、薬効群（アルファベットA～V）ごとに示した。

表記例：（A－2）

2. 医薬品の配列は、商品名の五十音順とした。

また、一般名は＜ ＞内に半角で示した。

製薬会社名を（ ）内に示した。

3. 長期投与の可否

平成14年度診療報酬改定により薬剤の投与期間に関する規制が、原則廃止された。例外として、麻薬および向精神薬、薬価収載後1年未満の新医薬品は投与期間の制限が設定された。

投与制限があるものには、投与制限：○日のように示した。

△14日：薬価収載日より1年経過すると（ ）内の年月より投与制限なし

14日、30日、90日

【※詳しくは巻末の“投与期間の制限が設けられている院内採用医薬品”を参照のこと】

4. 医薬品の薬価を規格の下に示した。

5. その他の略号

①【院外のみ】：院外処方にのみ投与できる医薬品

②【院内製剤】：院内製剤医薬品

③【用時購入】：必要時購入するもので、薬剤部に在庫がない医薬品

＊日本医薬品集の頁は記載していません。

オーダーリングシステムの医薬品情報検索システム(D I C S)よりD I 照会

またはD I 表示をご参照下さい。

6. 追加・取消

医薬品の追加、採用取消は年1回更新時に行う。

ただし、オーダー端末のデスクトップ上の、「医薬品情報PDF」フォルダ内”医薬品集”（更新は月1回）にて閲覧できる。

7. 本書の内容等に関する問い合わせ先

薬剤部 医薬品情報管理室（内線2727）

索引

略

Adobe Acrobatの検索機能をご利用ください。

1. 麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■全身麻酔薬				
イソゾール ＜チアミラル＞ (日医工)		500mg/管 ¥476/管	麻酔導入・維持, 痙攣	【DI照会参照】
スープレン ＜デスフルラン＞ (パクター)		液(240mL) ¥44.9/mL	全身麻酔の維持	
セボフルラン ＜セボフルラン＞ (ファイザー)		液(250mL) ¥44.4/mL	全身麻酔	
ディプリバン ＜プロポフォール＞ (アストラゼーカ)		200mg(20mL)/管 ¥1171/管	全身麻酔の導入・維持, 集中治療における人工呼吸中の鎮静	
		500mg(50mL)/キット ¥1920/キット		
ドロレプタン ＜ドロペリドール＞ (第一三共)		25mg(10mL)/瓶 ¥1170/瓶	フェンタニールとの併用による全身麻酔, 局所麻酔の補助, 単独投与による麻酔前投薬	
フォーレン ＜イソフルラン＞ (アボットジャパン)		液(250mL) ¥67/mL	全身麻酔	
プロポフォール ＜プロポフォール＞ (丸石)		2%:1000mg(50mL)/瓶 ¥1540/瓶	全身麻酔の導入・維持, 集中治療における人工呼吸中の鎮静	

1. 麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■局所麻酔薬				
アナペイン ＜ロピバカイン＞ (アストラセーレ)		0.2%(10mL/管) ¥339/管	術後鎮痛	12mg/h硬膜外腔持続
		0.2%(100mL/袋) ¥1673/袋		
		0.75%(20mL/管) ¥1138/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔	【Max: 150mg/回】
		1%(20mL/管) ¥1228/管	硬膜外麻酔	【Max: 200mg/回】
エムラ ＜リドカイン, プロピトカイン＞ (佐藤製薬)		クリーム(5g) ¥950.5/本	①皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和 ②注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	添付文書参照
カルボカイン ＜メピバカイン＞ (アストラセーレ)		1%(10mL/管) ¥107/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔, 浸潤麻酔	【Max: 500mg/回】
		2%(10mL/管) ¥159/管		
テトカイン ＜テトラカイン＞ (杏林)		20mg/管 ¥83/管	脊椎麻酔(腰椎麻酔), 硬膜外麻酔, 伝達麻酔, 浸潤麻酔, 表面麻酔	6~15mg 【Max: 100mg/回】
プロカニン ＜プロカイン＞ (光)		1%(5mL/管) ¥92/管	伝達麻酔	10~400mg/回
ベノキシール ＜オキシブプロカイン＞ (参天)		0.4%点眼液(10mL) ¥134/本	眼科領域における表面麻酔	1~4滴点眼/日
マーカイン ＜ブピバカイン＞ (アストラセーレ)		0.5%高比重(4mL/管) ¥395/管	脊椎麻酔(腰椎麻酔)	10~20mg/回 【Max: 20mg/回】
		0.5%等比重(4mL/管) ¥395/管		
ユーパッチテープ ＜リドカイン＞ (アキテクト)		18mg/枚 ¥35.0/枚	①静脈留置針穿刺時の疼痛緩和 ②伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和	①1回1枚, 予定部位に約30分間貼付 ②小児には1回2枚まで, 予定部位に約1時間貼付
キシロカインポリアンブ ＜リドカイン＞ (アストラセーレ)		1%(10mL/管) ¥98/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔(指趾神経遮断・肋間神経遮断), 浸潤麻酔, 表面麻酔	【Max: 200mg/回】
		2%(10mL/管) ¥140/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔(指趾神経遮断), 浸潤麻酔, 表面麻酔	

1. 麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
キシロカイン ＜リドカイン＞ (アストラゼーカ)		4%液(20mL) ¥13.3/mL	表面麻酔	80～200mg/回
		2%ゼリー(30mL) ¥228/本		
		8%ホップスプレー(80g) 【用時購入】 ¥1824/本		
		2%ヒスス(100mL) ¥5.8/mL		
キシロカインE ＜リドカイン・エピネ フリン＞ (アストラゼーカ)		1%(20mL/瓶) ¥212/瓶	硬膜外麻酔, 伝達麻酔, 浸潤麻酔	【Max: 50mL/回】
		2%(20mL/瓶) ¥320/瓶		【Max: 25mL/回】

2. 骨格筋弛緩薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■末梢性筋弛緩薬				
スキサメトニウム ＜スキサメトニウム＞ (アステラス)		100mg (5mL) / 管 ¥106/管	麻酔時の筋弛緩, 気管内挿管時・骨折脱臼の整復時・咽頭痙攣の筋弛緩, 精神神経科における電撃療法の際の筋弛緩, 腹部腫瘍診断時	＜間歇的投与法＞ 10～60mg/回静注 ＜持続点滴用法＞ 0.1～0.2%にし、2.5mg/分 ＜乳幼児及び小児＞1mg/kg静注又は2～3mg/kg筋注
ダントリウム ＜ダントロレン＞ (アステラス)	25mg/C ¥24/C		①痙攣性麻痺, 全身こむら返り病 ②悪性症候群	①25～150mg分1～3 ②75～150mg分3
		20mg/瓶 ¥9280/瓶	①麻酔時における悪性高熱症 ②悪性症候群	①1～7mg/kg静注 ②40～200mg/日 (7日以内)
ベクロニウム ＜ベクロニウム＞ (富士製薬工業)		¥239/管	麻酔時の筋弛緩, 気管内挿管時の筋弛緩	0.08～0.1mg/kg静注
ロクロニウム ＜ロクロニウム＞ (丸石製薬)		50mg (5mL) / 瓶 ¥437/瓶	麻酔時の筋弛緩、気管挿管時の筋弛緩	気管挿管時: 0.6mg/kg 【Max: 0.9mg/kg】 追加投与: 0.1～0.2mg/kg (静注), または7μg/kg/分 (持続注入)
■中枢性筋弛緩薬				
エペリゾン ＜エペリゾン＞ (東和薬品)	50mg/錠 ¥5.6/錠		筋緊張状態の改善, 痙攣性麻痺	150mg分3
ギャバロン ＜バクロフェン＞ (第一三共)	5mg/錠 ¥16.9/錠		痙攣性麻痺	5～30mg分1～3 ＜小児＞4～6歳5～15mg, 7～11歳5～20mg, 12～15歳5～25mg, 分2～3
チザニジン ＜チザニジン＞ (日医工)	1mg/錠 ¥5.6/錠		①筋緊張状態の改善 ②痙攣性麻痺	①3mg分3 ②3～9mg分3
	顆粒 (2mg/g) ¥12.3/g			
リンラキサー ＜クロルフェネシン＞ (大正富山)	125mg/錠 ¥9.9/錠		運動器疾患に伴う有痛性痙攣(腰背痛症, 変形性脊椎症椎間板ヘルニア, 脊椎分離・すべり症, 脊椎骨粗鬆症, 頸肩腕症候群)	750mg分3
■筋弛緩回復剤				
ブリディオール ＜スガマデクス＞ (MSD)		200mg (2mL) / 瓶 ¥10193/瓶	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	＜浅い筋弛緩状態＞1回2mg/kg静注 ＜深い筋弛緩状態＞1回4mg/kg静注 ＜緊急な筋弛緩状態からの回復＞1回16mg/kg静注

3. 催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■バルビット系				
フェノバル ＜フェノバルビタール＞ (藤永) 投与制限：90日	エリシル(4mg/mL) ¥4.3/mL 30mg/錠 ¥6.9/錠		不眠症, 不安緊張状態の鎮静 【抗てんかん薬(A-7)参照】	30～200mg分1～4 ＜小児＞2～4mg/kg/日
フェノバルビタール ＜フェノバルビタール＞ (マイラン) 投与制限：90日	散(100mg/g) ¥7.2/g			
ルピアール ＜フェノバルビタール＞ (久光) 投与制限：14日		50mg/坐剤 ¥53.7/個	催眠, 不安・緊張状態の鎮静, 熱性痙攣・てんかんの痙攣, 発作の改善	4～7mg/kg/日
■ベンゾジアゼピン系等 【各群とも上から下にいくほど作用時間が長くなる】 ＜超短時間作用型＞				
ゾルピデムOD ＜ゾルピデム＞ (東和薬品) 投与制限：30日	5mg/錠 ¥15.6/錠		不眠症	5～10mg分1【Max:10mg】
トリアゾラム ＜トリアゾラム＞ (日医工) 投与制限：30日	0.25mg/錠 ¥5.8/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①0.125～0.5mg分1 ②手術前日0.25～0.5mg分1
ルネスタ ＜エスゾピクロン＞ (エーザイ)	2mg/錠 ¥80.9/錠		不眠症	2mg分1【Max:3mg】 ＜高齢者＞1mg分1【MAX:2mg】
■ベンゾジアゼピン系等 ＜短時間作用型＞				
プロチゾラムOD ＜プロチゾラム＞ (沢井製薬) 投与制限：30日	0.25mg/錠 ¥9.9/錠		不眠症, 麻酔前投薬	0.25mg分1 手術前夜0.25mg分1 麻酔前0.5mg分1
リスミー ＜リルマザホン＞ (オノキ)	2mg/錠 ¥27.4/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①1～2mg分1 ②2mg分1
エバミール ＜ロルメタゼパム＞ (パリエル) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥19.8/錠		不眠症	1～2mg分1

3. 催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ベンゾジアゼピン系等 <中間作用型>				
ユーロジン <エスタゾラム> (武田) 投与制限：30日	2mg/錠 ¥14.4/錠		不眠症, 麻酔前投薬	1~4mg分1 手術前夜1~2mg分1 麻酔前2~4mg分1
ベンザリン <ニトラゼパム> (シオノギ) 投与制限：90日	細粒(10mg/g) ¥17.4/g		不眠症, 麻酔前投薬 【抗てんかん薬(A-7)参照】	5~10mg分1
	2mg/錠 ¥5.8/錠			
	5mg/錠 ¥10.4/錠			
フルニトラゼパム <フルニトラゼパム> (日本ゼネリッ) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥5.60/錠		不眠症, 麻酔前投薬	0.5~2mg分1
■ベンゾジアゼピン系等 <中・長時間作用型>				
ドラール <クアゼパム> (田辺三菱) 投与制限：30日	15mg/錠 ¥90.6/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①20mg分1【Max:30mg】 ②15~30mg手術前夜【Max:30mg】
■メラトニン受容体アゴニスト				
ロゼレム <ラメルテオン> (武田)	8mg/錠 ¥84.9/錠		不眠症における入眠 困難の改善	8mg分1
■オレキシン受容体拮抗薬				
ベルソムラ <スボレキサント> (MSD)	15mg/錠 ¥89.1/錠		不眠症	20mg分1, 高齢者は15mg分1
	20mg/錠 ¥107.9/錠			

3. 催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
エスクレ ＜抱水クロラル＞		250mg/坐剤 ¥37.1/個	理学検査時における 鎮静・催眠、静脈注射 が困難な痙攣重積状 態	＜小児＞30～50mg/kg直腸内挿入
(久光)		500mg/坐剤 ¥47.8/個		
エスクレ注腸用キット ＜抱水クロラル＞		500mg/筒 ¥247.8/筒		
(久光)				
トリクロリール ＜トリクロホスナトリ ウム＞	S Y (100mg/mL) ¥11.1/mL		不眠症, 脳波・心電図検査等 における睡眠	10～20mL/回就寝前または検査前 ＜小児＞0.2mL～0.8mL/Kg 【Max:20mL】
(アルフレッサ・ファーマ)				
プレセデックス ＜デクスメデトミジン ＞		200 μ g (2mL)/瓶 ¥5183/管	集中治療における人 工呼吸中及び離脱後 の鎮静、局所麻酔下 における非挿管での 手術及び処置時の鎮 静	初期負荷投与:6 μ g/kg/時, 10分間持 続静注 維持投与:0.2～0.7 μ g/kg/時, 持続 静注
(丸石)				
ミダゾラム ＜ミダゾラム＞		10mg (2mL)/管 ¥69/管	①麻酔前投薬 ②全身麻酔の導入・ 維持 ③集中治療における 人工呼吸中の鎮静 ④歯科・口腔外科領 域における手術及び 処置時の鎮静	①0.08～0.10mg/kg手術前30分～1時間筋注 ②0.15～0.30mg/kg1分以上で静注, 必要時初回量の半量ないし同量を追加投与 ③導入:0.03mg/kg1分以上で静注 【総量0.3mg/kgまで】 維持:0.03～0.06mg/kg/hより持続静注 (0. 03～0.18mg/kg/hの範囲が推奨) ＜小児＞DI照会参照 ④初回:1～2mg静注 追加:0.5～1mgを2分以上の間隔を空けて静 注【総量5mgまで】
(サント)				

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■大発作用				
アレピアチン ＜フェニトイン＞ (大日本住友)	散(100mg/g) ¥11.9/g 100mg/錠 ¥12.7/錠		てんかんの痙攣発作, 強直間代発作(全般痙攣発作・大発作), 焦点発作(ジャクソン型発作を含む), 自律神経発作, 精神運動発作, てんかん発作重積症	200～300mg分3 ＜小児＞4～8mg/kg/日 【Max: 300mg/回, 1g/日】
フェノパール ＜フェノバルビタール＞ (藤永) 投与制限: 90日	エリシル(4mg/mL) ¥4.3/mL 30mg/錠 ¥6.9/錠		不眠症, 不安緊張状態の鎮静, てんかんの痙攣発作, 強直間代発作(全般痙攣発作・大発作), 焦点発作(ジャクソン型発作を含む), 自律神経発作, 精神運動発作	30～200mg分1～4 ＜小児＞2～4mg/kg/日
フェノバルビタール ＜フェノバルビタール＞ (マイラン) 投与制限: 90日	散(100mg/g) ¥7.2/g			
ホストイン ＜ホスフェニトイン＞ (エーザイ)		750mg(10mL)/瓶 ¥6361/瓶	①てんかん重積状態 ②脳外科手術又は意識障害(頭部外傷等)時のてんかん発作の発現抑制 ③フェニトインを経口投与しているてんかん患者における一時的な代替療法	成人又は2歳以上の小児 ①＜初回＞22.5mg/kg静注 ＜維持＞5～7.5mg/kg/日静注 ②＜初回＞15～18mg/kg静注 ＜維持＞5～7.5mg/kg/日静注 ③経口フェニトインの1.5倍量を1日1回または分割にて静注
ルピアール ＜フェノバルビタール＞ (久光) 投与制限: 14日		50mg/坐剤 ¥53.7/個	催眠, 不安・緊張状態の鎮静, 熱性痙攣・てんかんの痙攣発作の改善	4～7mg/kg/日
■小発作				
エピレオプチマル ＜エトスクシミド＞ (エーザイ)	散(500mg/g) ¥42/g		定型欠神発作(小発作), 小型(運動)発作	450～1000mg分2～3 ＜小児＞15～30mg/kg分1～3
ベンザリン ＜ニトラゼパム＞ (オノキ) 投与制限: 90日	細粒(10mg/g) ¥17.4/g 2mg/錠 ¥5.8/錠 5mg/錠 ¥10.4/錠		①異型小発作群, 焦点性発作 ②不眠症、麻酔前投薬	①5～15mg ②5～10mg分1

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■大発作・小発作・その他				
エクセグラン ＜ゾニサミド＞ (大日本住友)	散(200mg/g) ¥56.5/g 100mg/錠 ¥29.8/錠		部分てんかん, 全般てんかん	100～600mg分1～3 ＜小児＞2～8mg/kg分1～3
セレニカR ＜バルプロ酸＞ (興和創薬)	顆粒(400mg/g) ¥36.7/g		①小発作, 焦点発作, 精神運動発作, 混合 発作及びてんかんに 伴う性格行動障害 (不機嫌, 易怒性等), 躁病, 躁うつ病の躁 状態 ②片頭痛発作の発症 抑制	①400～1200mg分1 ＜小児＞10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1【Max:1000mg】
デパケンR ＜バルプロ酸＞ (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥16.9/錠			①400～1200mg分1～2, ＜小児＞10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1～2【Max:1000mg】
デパケン ＜バルプロ酸＞ (協和発酵キリン)	細粒(400mg/g) ¥23.1/g			①400～1200mg分2～3 ＜小児＞10～50mg/kg/日 ②400～800mg分2～3【Max:1000mg】
	100mg/錠 ¥9.9/錠			
	200mg/錠 ¥13.5/錠			
バレリン ＜バルプロ酸＞ (大日本住友)	S Y (50mg/mL) ¥6.7/mL			

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イーケプラ ＜レベチラセタム＞ (大塚製薬)	250mg/錠 ¥123.7/錠		①てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む） ②他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法	＜成人または体重50kg以上の小児＞ 1000mg分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:3000mg】 ＜小児（4歳以上）＞ 20mg/kg/日、分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:60mg/kg/日】
		500mg (5mL) / 瓶 ¥1,978/瓶		＜成人または体重50kg以上の小児＞ 1000mg分2 2週間以上の間隔で1日用量として1000mg以下ずつ増量 【Max:3000mg】 ＜小児（4歳以上）＞ 20mg/kg/日、分2 2週間以上の間隔で1日用量として20mg/kg以下ずつ増量 【Max:60mg/kg/日】
イーケプラDS ＜レベチラセタム＞ (大塚製薬)	500mg/g ¥222/g			＜成人または体重50kg以上の小児＞ 1000mg分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:3000mg】 ＜小児（4歳以上）＞ 20mg/kg/日、分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:60mg/kg/日】
ガバペン ＜ガバペンチン＞ (ファイザー)	200mg/錠 ¥40.4/錠		部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用	初日600mg、2日目1200mg、3日目以降1200mg～1800mg分3【Max:2400mg】 ＜小児＞ 3～4歳：初日10mg/kg、2日目20mg/kg、3日目以降40mg/kg分3 5～12歳：初日10mg/kg、2日目20mg/kg、3日目以降25～35mg/kg分3 13歳以上：成人量 【Max:50mg/kg】
セルシン ＜ジアゼパム＞ (武田)		10mg (2mL) / 管 ¥93/管	けいれん重積	10mg筋注、静注、 必要に応じて3～4hr毎 ＜小児＞0.3～0.5mg/kg静注
ダイアップ ＜ジアゼパム＞ (和光堂) 投与制限：14日		4mg/坐剤 ¥59.9/個	熱性けいれん及びてんかんのけいれん発作の改善	0.4～0.5mg/kg/回、 1～2回直腸内挿入 【Max:1mg/kg/日】
		6mg/坐剤 ¥68.2/個		
		10mg/坐剤 ¥80.1/個		
テグレート ＜カルバマゼピン＞ (ノバルティス)	細粒 (500mg/g) ¥23.9/g		①てんかん(精神運動発作、痙攣発作、強直間代発作、てんかん性格・てんかんに伴う精神障害)、躁病、躁鬱病の躁状態、統合失調症の興奮状態 ②三叉神経痛	①200～600mg分1～2【Max:1200mg】 ＜小児＞10～25mg/kg/日 ②200～600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥11.1/錠			
トピナ ＜トピラマート＞ (協和発酵キリン)	50mg/錠 ¥107.8/錠		部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用	＜成人＞50mg/回、1～2回/日で開始 1週間以上の間隔で漸増 維持量200～400mg/日、分2 【Max:600mg】 ＜2歳以上の小児＞1mg/kg/日、2回/日で開始 2週間以上の間隔で2mg/kg/日へ増量、以後2週間以上の間隔で2mg/kg/日以下ずつ漸増 維持量6mg/kg/日、分2 【Max:9mg/kg/日もしくは600mg/日】
ノーベルパール ＜フェノバルビタールナトリウム＞ (アルフレッサファーマ)		250mg/瓶 ¥2119/瓶	①新生児けいれん ②てんかん重積状態	①初回20mg/kg静注、コントロールできない時追加投与可（初回量を超えない範囲で） 維持量2.5～5mg/kg分1静注 ②15～20mg/kg分1静注

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
フィコンパ ＜ペランパネル＞ (エーザイ)	2mg/錠 ¥189.7/錠		他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)、強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法	成人及び12歳以上の小児:2mg分1就寝前より開始 その後1週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増 ＜代謝を促進する抗てんかん薬との併用＞ 併用なし:維持用量8mg分1 併用あり:維持用量8～12mg分1 【Max:12mg】
プリミドン ＜プリミドン＞ (日医工)	細粒99.5% ¥30.7/g		てんかんの痙攣発作、強直間代発作(全般痙攣発作・大発作)、焦点発作(ジャクソン型発作を含む)、自律神経発作、精神運動発作、小型(運動)発作	250～2000mg分2～3 ＜小児＞10～30mg/kg/日
マイスタン ＜クロバザム＞ (アルフレッサ・ファーマ) 投与制限:90日	10mg/錠 ¥37.4/錠		下記発作型における抗てんかん薬との併用 ＜単純部分発作、複雑部分発作、二次性全般化強直間代発作、強直間代発作、強直発作非定型欠神発作、ミカドニ-発作、脱力発作＞	10～30mg分1～3 【Max:40mg/日】 ＜小児＞0.2～0.8mg/kg 【Max:1.0mg/kg】
リボトリール ＜クロナゼパム＞ (中外) 投与制限:90日	0.5mg/錠 ¥9.1/錠		小型(運動)発作、ミカドニ-発作、精神運動発作、自律神経発作	0.5～6mg分1～3 ＜乳・幼児＞0.1～0.2mg/kg分1～3
	2mg/錠 【院外のみ】 ¥24.8/錠			
	細粒(1mg/g) ¥14/g			

5. 抗精神病薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■フェノチアジン系				
コントミン ＜クロルプロマジン＞ (田辺三菱)		25mg (5mL) / 管 ¥92/管	統合失調症, 躁病, 悪心・嘔吐, 催眠・鎮静, 麻酔前投与, 神経症における不安・緊張・抑うつ	10~50mg/回筋注 ＜小児＞1~4mg/kg/日
	12.5mg/錠 ¥9.2/錠		統合失調症, 躁病, 神経症における不安・緊張・抑うつ, 悪心・嘔吐, 吃逆, 破傷風に伴う痙攣, 麻酔前投薬, 人工冬眠, 催眠・鎮静・鎮痛剤の効力増強	1日30~100mg, 分割投与 精神科領域: 1日50~450mg, 分割経口
	25mg/錠 ¥9.2/錠			
テグレート ＜カルバマゼピン＞ (ノバルティス)	細粒 (500mg/g) ¥23.9/g		統合失調症の興奮状態, 躁病, 躁鬱病の躁状態【A-9参照】	①200~600mg分1~2【Max:1200mg】 ＜小児＞10~25mg/kg/日 ②200~600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥11.1/錠			
ノバミン ＜プロクロルペラジン＞ (オノキ)	5mg/錠 ¥9.6/錠		①統合失調症 ②悪心・嘔吐	①15~45mg/日 ②5~20mg/日
ヒルナミン ＜レボメプロマジン＞ (オノキ)	25mg/錠 ¥5.6/錠		統合失調症, 躁病・うつ病における不安・緊張	25~200mg
ベゲタミンB ＜クロルプロマジン (12.5mg) フェノバルビタール (30mg)＞ (オノキ) 投与制限: 30日	錠 ¥6.1/錠		統合失調症, 老年精神病, 躁病・うつ病又はうつ状態, 神経症における鎮静催眠	鎮静: 3~4錠, 催眠: 1~2錠分1就寝前 【禁忌: 2歳未満の乳幼児】
■フェノチアジン類似系				
ロドピン ＜ゾテピン＞ (アステラス)	25mg/錠 ¥20.7/錠		統合失調症	75~150mg【Max: 450mg】
■ブチロフェノン系				
セレネース ＜ハロペリドール＞ (大日本住友)	0.75mg/錠 ¥7.8/錠		統合失調症, 躁病	0.75~6mg
	1.5mg/錠 ¥9.4/錠			
		5mg (1mL) / 管 ¥89/管		5mg/回, 1~2回/日筋注

5. 抗精神病薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非定型抗精神病薬				
エビリファイ ＜アリピプラゾール＞ (大塚製薬)	6mg/錠 ¥156.7/錠		①統合失調症 ②双極性障害における躁症状の改善 ③うつ病・うつ状態(既存治療で十分な効果が認められない場合) ④小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性(原則として6歳以上18歳未満の患者に使用)	①6～12mg/日より開始 6～24mg/日, 分1～2【Max:30mg】 ②24mg/日より開始 12～24mg/日, 分1【Max:30mg】 ③3mg, 分1【Max:15mg】 ④1mg/日より開始 1～15mg/日, 分1【Max:15mg】(増量幅は最大3mg/日)
クエチアピン ＜クエチアピン＞ (東和薬品)	25mg/錠 ¥14.7/錠 100mg/錠 ¥49.8/錠		統合失調症	25mg/回, 2～3回/日より開始徐々に増量 150～600mg/日, 2～3回/日 【Max:750mg/日】
ジプレキサザイデリス ＜オランザピン＞ (日本イーライリリ-)	5mg/錠 ¥258.3/錠		①統合失調症 ②双極性障害における躁症状の改善	①5～10mg/日, 分1より開始 10mg/日, 分1【Max:20mg/日】 ②10mg/日, 分1【Max:20mg/日】
リスペリドンOD ＜リスペリドン＞ (東和薬品)	1mg/錠 ¥16.9/錠		統合失調症	2～6mg分2 【Max:12mg】
ルーラン ＜ペロスピロン＞ (大日本住友)	4mg/錠 ¥17.8/錠			4mg/回, 3回/日より開始徐々に増量 12～48mg/日, 3回/日 【Max:48mg/日】

6. 抗うつ薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

■三環系 【第一世代】

24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。

アナフラニール ＜クロミプラミン＞ (アルフレッサ・ファーマ)	25mg/錠 ¥19.2/錠		①うつ病・うつ状態 ②遺尿症 ③カルコレシに伴う情動脱力発作	①50～100mg分1～3 【Max:225mg/日】 ②＜6歳未満＞10～25mg分1～2, ＜6歳以上＞20～50mg分1～2 ③10～75mg分1～3
トフラニール ＜イミプラミン＞ (ノバルティス)	25mg/錠 ¥9.9/錠		①うつ病・うつ状態 ②遺尿症	①25～200～(300)mg ②＜幼児＞25mg分1 ＜学童＞25～50mg分1～2
トリプタノール ＜アミトリプチリン＞ (日医工)	10mg/錠 ¥9.6/錠 25mg/錠 ¥9.6/錠		①うつ病・うつ状態 ②夜尿症 ③末梢性神経障害性疼痛	①30～150～(300)mg ②10～30mg分1 ③初期用量1日10mg, 適宜増減【Max:150mg】

■三環系 【第二世代】

24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。

アモキサン ＜アモキサピン＞ (ファイザー)	25mg/C ¥13.1/C		うつ病・うつ状態	25～150【Max:300mg】分1～数回

■四環系 【第二世代】

24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。

テトラミド ＜ミアンセリン＞ (第一三共)	10mg/錠 ¥15.3/錠		うつ病・うつ状態	30～60mg分1

■その他 【第二世代】

スルピリド ＜スルピリド＞ (沢井製薬)	50mg/錠 ¥6.3/錠		①統合失調症 ②うつ病・うつ状態	①300～600mg【Max:1200mg】 ②150～300mg【Max:600mg】

■その他 【第二世代】

24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。

デジレル ＜トラゾドン＞ (ファイザー)	25mg/錠 ¥16.8/錠		うつ病・うつ状態	75～100～(200)mg分1～数回

6. 抗うつ薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害剤) 【第三世代】 24歳以下の患者で自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、リスクとベネフィットを考慮すること。				
ジェイゾロフト ＜セルトラリン＞ (ファイザー)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥93.5/錠 50mg/錠 【院外のみ】 ¥161.9/錠		うつ病・うつ状態、パニック障害、外傷後ストレス障害	初期用量25mg分1、100mg分1まで漸増【Max:100mg/日】
パキシル ＜パロキセチン＞ (グラクソ・スミスクライン)	10mg/錠 ¥92.3/錠 20mg/錠 【院外のみ】 ¥160.7/錠		①うつ病・うつ状態 ②パニック障害 ③強迫性障害 ④社会不安障害 ⑤外傷後ストレス障害	①20～40mg分1夕食後 10～20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】 ②30mg分1夕食後 10mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:30mg/日】 ③40mg分1夕食後 20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:50mg/日】 ④20mg分1夕食後 10mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】 ⑤20mg分1夕食後 10～20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】
パキシルCR ＜パロキセチン＞ (グラクソ・スミスクライン)	12.5mg/錠 ¥92.9/錠		うつ病・うつ状態	12.5mg分1夕食後 12.5mgより開始、1週ごとに12.5mg/日ずつ増量【Max:50mg/日】
ルボックス ＜フルボキサミン＞ (アサヒ・フジ・ジャパン)	25mg/錠 ¥32.7/錠		うつ病・うつ状態、強迫性障害、社会不安障害	50～150mg分2
レクサプロ ＜エスシタロプラム＞ (田辺三菱)	10mg/錠 ¥216.4/錠		うつ病・うつ状態、社会不安障害	10mg、分1夕食後【Max:20mg】
■SNRI (セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤) 【第四世代】 24歳以下の患者で自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、リスクとベネフィットを考慮すること。				
サインバルタ ＜デュロキセチン＞ (塩野義)	20mg/C ¥173.5/C		①うつ病・うつ状態 ②糖尿病性神経障害に伴う疼痛 ③線維筋痛症、慢性腰痛症に伴う疼痛、変形性関節症に伴う疼痛	①②20mg分1より開始 40mg分1朝食後【Max:60mg/日】 ③20mg分1より開始 60mg分1朝食後
トレドミン ＜ミルナシプラン＞ (旭化成)	25mg/錠 ¥30.1/錠		うつ病・うつ状態	初期用量25mg分2～3食後、100mg/日まで漸増 【高齢者】初期用量25mg分2～3食後、60mg/日まで漸増
■NaSSA (ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤) 24歳以下の患者で自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、リスクとベネフィットを考慮すること。				
リフレックス ＜ミルタザピン＞ (明治)	15mg/錠 ¥170.8/錠		うつ病・うつ状態	15～30mg分1就寝前 15mgより開始、1週ごとに15mg/日ずつ増量【Max:45mg/日】

7. 躁病治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
セレンカR ＜バルプロ酸＞ (興和創薬)	顆粒(400mg/g) ¥36.7/g		①小発作, 焦点発作, 精神運動発作, 混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌, 易怒性等), 躁病, 躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400～1200mg分1 ＜小児＞10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1【Max:1000mg】
テグレトール ＜カルバマゼピン＞ (ノバルティス)	細粒(500mg/g) ¥23.9/g 200mg/錠 ¥11.1/錠		①てんかん(精神運動発作, 痙攣発作, 強直間代発作, てんかん性格・てんかんに伴う精神障害), 躁病, 躁鬱病の躁状態, 統合失調症の興奮状態 ②三叉神経痛	①200～600mg分1～2【Max:1200mg】 ＜小児＞10～25mg/kg/日 ②200～600mg【Max:800mg】
デパケンR ＜バルプロ酸＞ (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥16.9/錠			①400～1200mg分1～2, ＜小児＞10～50mg/kg/日 ②400～800mg分1～2【Max:1000mg】
デパケン ＜バルプロ酸＞ (協和発酵キリン)	細粒(400mg/g) ¥23.1/g 100mg/錠 ¥9.9/錠 200mg/錠 ¥13.5/錠		①小発作, 焦点発作, 精神運動発作, 混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌, 易怒性等), 躁病, 躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400～1200mg分2～3 ＜小児＞10～50mg/kg/日 ②400～800mg分2～3【Max:1000mg】
バレリン ＜バルプロ酸＞ (大日本住友)	S Y (50mg/mL) ¥6.7/mL			
リーマス ＜炭酸リチウム＞ (大正富山)	200mg/錠 ¥19.8/錠		躁病, 躁うつ病の躁状態	400～1200mg分1～3

8. 抗不安薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■弱作用				
グランダキシ ＜トフィソパム＞ (持田)	50mg/錠 ¥14.6/錠		自律神経失調症, 頭部・頸部損傷, 更年期障害・卵巣欠落症状における頭痛・頭重, 倦怠感, 心悸亢進, 発汗等の自律神経症状	150mg分3
リーゼ ＜クロチアゼパム＞ (田辺三菱) 投与制限: 30日	5mg/錠 ¥6.3/錠		①心身症, 自律神経失調症におけるめまい・肩こり・食欲不振 ②麻酔前投薬	①15~30mg分3 ②10~15mg就寝前または術前
■中等度作用				
アタラックスP ＜ヒドロキシジン＞ (ファイザー)	25mg/C ¥6.2/C		①神経症 ②じんましん, 皮膚疾患に伴う掻痒	①75~150mg分3~4 ②50~75mg分2~3
		25mg(1mL)/管 ¥56/管	神経症, 麻酔前投薬, 術前・術後の悪心・嘔吐の防止	25~50mg/回静注 50~100mg/回筋注
アルプラゾラム ＜アルプラゾラム＞ (東和薬品) 投与制限: 30日	0.4mg/錠 ¥5.6/錠		心身症	1.2~2.4mg分3~4
セディール ＜タンドスピロン＞ (大日本住友)	10mg/錠 ¥28.8/錠		心身症における身体症候・抑うつ・不安・焦燥・睡眠障害, 神経症における抑うつ・恐怖	30mg分3【Max:60mg】
セルシン ＜ジアゼパム＞ (武田) 投与制限: 90日	散(10mg/g) ¥16.3/g		①神経症, うつ病における不安・緊張, 心身症における身体症候, 不安・緊張・抑うつ ②脳脊髄疾患に伴う筋痙攣・疼痛における筋緊張の軽減 ③麻酔前投薬	①4~20mg分2~4 外来患者は1日15mg以内 ＜小児＞0.04~0.2mg/kg/回 ②6~40mg分3~4 ③5~10mg就寝前または術前
	2mg/錠 ¥5.9/錠			
	5mg/錠 ¥9.2/錠			
セルシン ＜ジアゼパム＞ (武田)		10mg(2mL)/管 ¥93/管	不安・興奮・抑うつの軽減	10mg筋注, 静注, 以後必要に応じ3~4hr毎
メイラックス ＜ロフラゼパ酸エチル＞ (明治) 投与制限: 30日	1mg/錠 ¥20.1/錠		神経症, 心身症	2mg分1~2

8. 抗不安薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■強作用				
エチゾラム ＜エチゾラム＞ (エーザイ)	0.5mg/錠 ¥6.3/錠 1mg/錠 ¥6.4/錠		①神経症・うつ病に おける不安・緊張・睡 眠障害 ②心身症、頸椎症・腰 痛症・筋収縮性頭痛 における不安・緊張・ 抑うつ・筋緊張 ③統合失調症におけ る睡眠障害	①3mg分3 ②1.5mg分3 ③1～3mg分1
セパゾン ＜クロキサゾラム＞ (第一三共) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥5.6/錠		神経症、心身症、術前 の不安除去	3～12mg分3
レキソタン ＜プロマゼパム＞ (エーザイ) 投与制限：30日	2mg/錠 ¥5.8/錠		①神経症、うつ病に おける不安・緊張 ②心身症 ③麻酔前投薬	①6～15mg分2～3 ②3～6mg分2～3 ③5mg就寝前または術前
ロラゼパム ＜ロラゼパム＞ (沢井製薬) 投与制限：30日	0.5mg/錠 ¥5.0/錠		神経症における不安 ・緊張・抑うつ、心身 症(自律神経失調症、 心臓神経症)におけ る身体症候並びに不 安・緊張・抑うつ	1～3mg分2～3

9. 抗パーキンソン薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アキネトン ＜ピペリデン＞	1mg/錠 ¥5.6/錠			3～6mg/日
(大日本住友)		5mg(1mL)/管 ¥58/管	パーキンソン病, パーキンソン症候群, アジジ ⁷	5～10mg筋注・(静注)
アーテン ＜トリヘキシフェニジル＞	2mg/錠 ¥8.6/錠			2～10mg分3～4
(ファイザー)				
エフピーOD ＜セレギリン＞	2.5mg/錠 ¥313.4/錠		パーキンソン病 (レボドパ含有製剤を併用する場合: Yahr 重症度ステージⅠ～Ⅲ、レボドパ含有製剤を併用しない場合: Yahr 重症度ステージⅠ～Ⅲ)	＜レボドパ含有製剤を併用する場合＞ 始め1日1回2.5mg朝食後以後2週毎に2.5mgずつ漸増し維持量を定める(標準維持量1日7.5mg) 5mg以上の時朝・昼食後 7.5mg以上朝5mg昼2.5mg 【Max:10mg/日】 ＜レボドパ含有製剤を併用しない場合＞ 始め1日1回2.5mg朝食後以後2週毎に2.5mgずつ漸増し1日10mg 5mg以上の時朝・昼食後 7.5mg以上朝5mg昼2.5mg 【Max:10mg/日】
カバサル ＜カベルゴリン＞	0.25mg/錠 【院外のみ】 ¥73.9/錠		①パーキンソン病 ②乳汁漏出症, 高プロラクチン血性排卵障害, 高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ③産褥性乳汁分泌抑制	①始め1日0.25mg朝食後, 2週目0.5mg, 以後1週毎に0.5mgずつ増量し, 維持量を定める 【Max:3.0mg】 ②初回0.25mg/分1就寝前/週1回, 漸増投与, 維持量0.25mg～0.75mg 【Max:1.0mg】 ③1.0mg/1回のみ, 胎児娩出後, 食後投与
(ファイザー)	1.0mg/錠 ¥245.5/錠			
シンメトレル ＜アマンタジン＞	50mg/錠 ¥25.8/錠		①パーキンソン症候群 ②脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善 ③A型インフルエンザウイルス感染症	①100～200mg分2(～3) 【Max:300mg】 ②100～150mg分2～3 ③100mg分1～2
ドブスOD ＜ドロキシドパ＞	100mg/錠 ¥64.9/錠		①パーキンソン病のすくみ足, 立ちくらみの改善 ②シャイトレーガー症候群, 家族性アミロイドオリニューロパチーにおける起立性低血圧	①600mg分3 ②300～600mg分3【Max:900mg】
(大日本住友)				
トレリーフOD ＜ゾニサミド＞	25mg/錠 ¥1115.9/錠		パーキンソン病(レボドパ含有製剤に他の抗パーキンソン病薬を使用しても十分に効果が得られなかった場合)	25mg分1(レボドパ含有製剤と併用) ＜パーキンソン病における症状の日内変動(wearing-off現象)の改善の場合＞50mg分1
(大日本住友)				
ネオドパストン ＜レボドパ, カルビドパ＞	100mg/錠 ¥31.6/錠		パーキンソン病, パーキンソン症候群	始め1回50～100mg, 1日100～200mg以後漸増し最適投与量を定め維持量300～600mg分3
(第一三共)				
パーロデル ＜プロモクリプチン＞	2.5mg/錠 ¥99.4/錠		①パーキンソン症候群 ②産褥性乳汁分泌抑制, 乳汁漏出症, 高プロラクチン血性排卵障害, 高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ③末端肥大症, 下垂体性巨人症	①7.5～22.5mg分2～3漸増投与 ②5.0～7.5mg分2～3 ③2.5～7.5mg分2～3
(ノバルティス)				

9. 抗パーキンソン薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ビ・シフロール ＜プラミペキソール＞ (パ・リンカ・ー)	0.5mg/錠 ¥155.4/錠		①パーキンソン病 ②中等度から高度の特発性ストレスレグス症候群	①0.25mg/日からはじめ、2週目に1日量を0.5mg、以後1週間毎に1日量として0.5mgずつ増量し、1.5～4.5mg/日とする【Max:4.5mg/日】 ②0.125mg/日から開始、0.25mg分1就寝2～3時間前、増量は1週間以上の間隔で【Max:0.75mg/日】
マドパー ＜レボドパ、ベンセラジド＞ (中外)	100mg/錠 ¥29.6/錠		パーキンソン病、パーキンソン症候群	始め1回50～100mg、1日100～200mg以後漸増し最適投与量を定め維持量300～600mg分3

10. 脳循環代謝薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■脳血管拡張剤				
イフェンプロジル酒石酸塩錠20mg「トーワ」 ＜イフェンプロジル＞ (東和薬品)	20mg/錠 ¥5.8/錠		脳梗塞後遺症、脳出血後遺症に伴うめまいの改善	60mg分3
ケタス ＜イブジラスト＞ (杏林)	10mg/C ¥22.6/C		①脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害によるめまいの改善 ②気管支喘息	①30mg分3 ②20mg分2
サアミオン ＜ニセルゴリン＞ (田辺三菱)	5mg/錠 ¥29.5/錠		脳梗塞後遺症、脳出血後遺症に伴う慢性脳循環障害による諸症状	15mg分3
ユベラN ＜ニコチン酸トコフェロール＞ (エーザイ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状、 高脂血症、 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300～600mg分3
■脳代謝賦活剤				
アデホス ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)	20mg/錠 ¥5.6/錠		頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善、心不全、調節性眼精疲労における調整機能の安定化、消化管機能低下のみられる慢性胃炎	120～180mg分3
アデホスール ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥60/管	頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善、心不全、筋ジストロフィー症及びその類縁疾患、急性灰白髄炎、脳性小児麻痺(弛緩型)、進行性脊髄性筋萎縮症・その類似疾患、調節性眼精疲労における調整機能の安定化、耳鳴・難聴、消化管機能低下のみられる慢性胃炎、慢性肝疾患における肝機能の改善	静注：1回5～40mg、1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応)： 1回40～80mg、1日1回 ＜小児＞0.5mg/kg急速静注(増量可能)
		40mg(2mL)/管 ¥61/管		
グラマリール ＜チアプリド＞ (アステラス)	25mg/錠 ¥23.2/錠		脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行動、精神興奮、徘徊、せん妄の改善、特発性ジストニア・パーキンソン症に伴うジストニア	75～150mg分3
トリノシン ＜アデノシン三リン酸＞ (トーアエイヨー)	顆粒(100mg/g) ¥18.1/g		①心不全、頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善、消化管機能低下のみられる慢性胃炎、調節性眼精疲労における調整機能の安定化 ②メニエル病・内耳障害に基づくめまい	①120～180mg分3 ②300mg分3

10. 脳循環代謝薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

■脳保護剤(フリージングカプセル)

エダラボン ＜エダラボン＞ (ニプロ)		バッグ30mg(100mL)/袋 ¥1879/袋	脳梗塞急性期に伴う神経症候, 日常生活動作障害, 機能障害の改善	1回30mg(1袋)1日2回点静, 発症後24hr以内に投与 【Max:14日間】

■その他

エリル ＜ファスジル＞ (旭化成)		30mg(2mL)/管 ¥2670/管	脳膜下出血術後の脳血管攣縮・脳虚血症状の改善	60～90mg分2～3, 点静
キサンボンS ＜オザグレル＞ (キッセイ)		40mg/管 ¥1498/管	①脳膜下出血後の脳血管攣縮 ②脳血栓症(急性期)	①80mg, 24hr 静脈内持続投与 ②160mg分2, 持続静注
セレジストOD ＜タルチレリン＞ (田辺三菱)	5mg/錠 ¥1042.3/錠		脊髄小脳変性症における運動失調の改善	10mg分2
ヒルトニン ＜プロチレリン＞ (武田)		0.5mg(1mL)/管 ¥1995/管	①頭部外傷・くも膜下出血(意識障害固定期間3週間以内)に伴う昏睡・半昏睡を除く遷延性意識障害 ②脊髄小脳変性症における運動失調の改善 ③下垂体TSH分泌機能検査	①0.5～2mg分1静注, 点静10日間 ②2mg分1筋注, 静注, 2～3週間投与後2～3週間休薬, 以後反復投与。又は週2～3回 ③0.5mg分1, 静注, 皮下

■アルツハイマー型認知症治療薬 ◆コリンエステラーゼ阻害薬

ドネペジルOD ＜ドネペジル＞ (東和薬品)	3mg/錠 ¥85.5/錠		アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	3mg分1から開始1～2週後5mg分1 【Max:10mg/日】
	5mg/錠 ¥125.7/錠			
	10mg/錠 ¥233.3/錠			

■アルツハイマー型認知症治療薬 ◆NMDA受容体拮抗薬

メマリーOD ＜メマンチン＞ (第一三共)	5mg/錠 ¥137.7/錠		中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	5mg分1から開始 5mg/週ずつ増量し維持量20mg分1

1 1. 重症筋無力症治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アンチレクス ＜エドロホニウム＞ (杏林)		10mg(1mL)/管 ¥115/管	重症筋無力症の診断	10mg/回静注(2mgを15～30秒かけて注射, 45秒後反応をみて必要に応じて8mg注射) ＜乳児＞0.5～1mg静注 ＜小児＞体重35kg未満1mg(追加5mg迄)
ウブレチド ＜ジスチグミン＞ (鳥居)	5mg/錠 ¥19.7/錠		①手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難 ②重症筋無力症	①5mg/日 ②5～20mg分1～4
マイテラーゼ ＜アンペノニウム＞ (アルフレッサ・ファーマ)	10mg/錠 ¥21.7/錠		重症筋無力症	15mg分3
メスチノン ＜ピリドスチグミン＞ (共和)	60mg/錠 ¥24.6/錠			180mg分3
ワゴスチグミン ＜ネオスチグミン＞ (シオノギ)		0.5mg(1mL)/管 ¥94/管	①重症筋無力症, クーレリ剤による遷延性呼吸抑制, 手術後および分娩後の腸管麻痺, 排尿困難 ②非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	①0.25～3mg分1～3皮下, 筋注 ②0.5～2.0mg/日静注ただし、硫酸アトロピンを静脈内により併用

12. 副交感神経興奮薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アトワゴリバース <配合剤: ネオスチグミン1mg, アトロピン0.5mg> (テルモ)		3mL/筒 ¥416/筒	非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	1.5～6mL/回緩徐に静注
ワゴスチグミン <ネオスチグミン> (シオノギ)		0.5mg(1mL)/管 ¥94/管	①非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗 ②重症筋無力症, クレー剤による遷延性呼吸抑制, 手術後および分娩後の腸管麻痺, 排尿困難	①0.5～2.0mg/日静注ただし、硫酸アトロピンを静脈内により併用 ②0.25～3mg分1～3皮下, 筋注

13. その他

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■注意欠陥／多動性障害治療剤				
ストラテラ ＜アトモキセチン＞ (日本イーライリリ)	5mg/C ¥272.5/C 10mg/C ¥324.7/C 25mg/C ¥409.5/C		注意欠陥／多動性障害 (AD/HD)	18歳未満:0.5mg/kg分2より開始 以後増量し維持量1.2～1.8mg/kg/日,分2 【Max:1.8mg/kg又は120mg/日】 18歳以上:40mg分1～2より開始 以後増量し維持量80～120mg分1～2 【Max:120mg/日】
■末梢性神経障害性疼痛治療薬				
リリカOD ＜プレガバリン＞ (ファイザー)	25mg/錠 ¥67.8/錠 75mg/錠 ¥112.9/錠		①神経障害性疼痛 ②線維筋痛症に伴う疼痛	①初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300mg分2 【Max:600mg,分2】 ②初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300～450mg分2 【Max:450mg,分2】
■その他				
リタリン ＜メチルフェニデート＞ (パルティス) 投与制限:30日	10mg/錠 ¥9.6/錠		ナルコレプシー	20～60mg分1～2

【 抗てんかん薬の種類と血中濃度 】

■主な抗てんかん薬の治療域血中濃度と薬物動態

一般名称	略号	薬剤名	維持量		治療域の血中濃度 ($\mu\text{g/mL}$)	半減期(時間)		主な副作用
			成人(mg)	小児(mg/kg)		成人	小児	
フェノバルビタール	PB	フェノバルビタール	30～200	2～7	15～25(～40)	79～117	25～75	眠気、多動、攻撃的
プリミドン	PRM	プリミドン	1500	10～20	3～12	19.4		眠気、めまい、頭痛、肝機能異常
カルバマセピン	CBZ	テグレトール	400～1200	5～25	5～10	10～26	8～20	眠気、失調、複視、発疹(5～10%)
フェニトイン	PHT	アレビアチン	200～300	3～12	7～20	血中濃度 $5\mu\text{g/mL}$ 前後		失調、眼振、歯肉増殖、多毛、ざ瘡
						7～42	2～16	
						血中濃度 $10\mu\text{g/mL}$ 以上		
						20～70	8～30	
ゾニサミド	ZNC	エクセグラン	200～600	4～12	10～30	50～63	16～36	眠気、食欲不振、自発性低下、精神活動緩慢
バルプロ酸	VPA	デパケン バレリンシロップ	400～1200	15～50	50～100	10～19	6～15	食欲不振、肥満、脱毛、血小板減少
バルプロ酸徐放剤	VPA-R	デパケンR セレニカR	400～1200	15～40		12～26	6～12	
エトスクシמיד	ESM	エピレオプチマル	450～1000	15～40	50～100	40～60	24～41	嘔吐、嘔気、頭痛、汎血球減少
クロナゼパム	CZP	リボトリール	2～6	0.025～0.2	0.02～0.07	26～49	22～33	眠気、唾液分泌増加、筋緊張低下、攻撃性
ニトラゼパム	NZP	ベンザリン	5～15	0.2～0.5	0.02～0.1	24～31		眠気、唾液分泌増加、筋緊張低下
ジアゼパム	DZP	セルシン ダイアップ		0.1～0.5	0.2～0.5	32～41	8～20	眠気、ふらつき、興奮
クロバザム	CLB (N-DMCLB)	マイスタン	10～40	0.2～1.0	未確定	17～49 (N-DMCLB)36～46	16 (N-DMCLB)15	眠気、ふらつき、めまい(5%以上)
アセタゾラミド	AZM	ダイアモックス	250～750	10～20	10～14	10～15		眠気、食欲不振、多尿、アシドーシス
臭化カリウム	KBr	臭化カリウム	1500～3000	20～80	750～1250	10～13日	5～8日	悪心・嘔吐、頭痛、めまい、ふらつき、ざ瘡
ガバペンチン	GBP	ガバペン	600～2400	5～45	—	6～9		傾眠、めまい、頭痛、複視、倦怠感、痙攣
トピラマート	TPM	トピナ	200～600	4～10	—	20～30	13～20	傾眠、体重減少、めまい、無食欲、大食症候群
ラモトリギン	LTG	ラミクタール	150～400	1～5	—	30～40	19～33	傾眠、めまい、肝機能障害、発疹、複視
VPA併用時			100～200	1～3	—	30～48	45～66	
PB、PRM、PHT、 CBZ併用時			200～400	5～15	—	12～15	7～8	

【抗うつ薬について】

1. 薬物療法の要点

- 1) 単剤を低用量から開始
- 2) 効果発現までに2-3週間を要する
- 3) 有害作用に注意しながら可能な限り速やかに増量
- 4) 十分な最終投与量を投与し、十分期間効果判定を待つ
- 5) 寛解維持期には少なくとも半年程度同量の抗うつ薬を継続
- 6) ベンゾジアゼピン系受容体作動薬併用時は、必要最小限とし、常用量依存に注意

2. 抗うつ薬使用時の留意点

- 1) 抗うつ薬投与初期及び増量時のアクチベーション(焦燥感や不安感の増大、不眠、パニック発作、アカシジア、敵意・易刺激性・衝動性の亢進、躁・軽躁状態の出現等)に注意
- 2) セロトニン症候群(錯乱、軽躁、焦燥、ミオクローヌス、反射亢進、発汗、発熱、下痢、振戦等)に注意

3. 各薬剤の特徴

分類		特徴
三環系 四環系		抗コリン作用による口渇、便秘、排尿障害に注意 抗ヒスタミン作用による眠気に注意 心筋伝導障害を来す可能性や過量内服時の致死性に注意
デジレル		比較的鎮静作用が強い
ドグマチール		錐体外路障害に注意(特に高齢者や女性、小児の場合)
新規抗うつ薬	SSRI	投与初期の悪心に注意(通常は2,3日で消失) 不安を有するうつ病患者に適している(パニック障害や強迫性障害等にも有効) CYP、P糖蛋白関連の相互作用に注意 ※パロキセチン(CYP2D6阻害), フルボキサミン(CYP2C9, 1A2, 3A4阻害)等
	SNRI	投与初期の悪心に注意(通常は2,3日で消失) 痛みを有するうつ病患者に適している 排尿困難が現れることがあるので、高齢男性には注意が必要
	NaSSA	薬物相互作用が少なく、効果発現が早い 食欲増進効果もあり、癌患者のうつ病に適している 抗ヒスタミン作用による眠気に注意

【参考】日本うつ病学会治療ガイドライン, Pocket Drugs2014

【ベンゾジアゼピン系睡眠薬および抗不安薬の作用時間と作用特性】

1. 催眠鎮静薬

区分	商品名	一般名	Tmax(時間)	半減期(時間)	筋弛緩作用	力価
超短時間型	ゾルピデム	ゾルピデム	0.7～0.9	2.3	±～+	高
	ルネスタ	エスゾピクロン	0.5～2.0	5	±～+	高
	トリアゾラム	トリアゾラム	1.2	2.9	++	高
短時間型	ブロチゾラム	ブロチゾラム	1.0～1.5	7	+	高
	エバミール	ロルメタゼパム	1～2	10	++	高
	リスミー	リルマサホン	3	10.5	±～+	高
中間型	フルニトラゼパム	フルニトラゼパム	1	7	++～+++	高
	ユーロジン	エスタゾラム	5	24	++	高
	ベンザリン	ニトラゼパム	1.6～2	27	++～+++	高
間長型	ドラー	クアゼパム	3.4	37～116	±	低

2. 抗不安薬

					作用特性				
区分	商品名	一般名	Tmax(時間)	半減期(時間)	抗不安	鎮静催眠	筋弛緩	抗痙攣	抗うつ
短時間型	グラダキシ	トフィソパム	1	47.1分	+	±	—	—	±
	エチゾラム	エチゾラム	3	6	3+	3+	2+	—	2+
	リーゼ	クロチアゼパム	1	6.3	2+	+	±	±	+
中時間型	アルプラゾラム	アルプラゾラム	2	14	2+	2+	+	—	2+
	ロラゼパム	ロラゼパム	2	12	3+	2+	+	—	+
	レキソタン	プロマゼパム	1	8～19	3+	2+	3+	2+	+
長時間型	セルシン	ジアゼパム	1	27～28	2+	3+	3+	3+	+
	コントロール	クロルジアゼポキシド	1	6.6～28	2+	2+	+	±	—
	セパゾン	クロキサゾラム	活性代謝物 2～4	11～21	3+	+	+	—	+
	リボトリール	クロナゼパム	2	成人:19～46 小児:13～33	3+	3+	2+	3+	±
	メイラックス	ロフラゼパム	1.2	122	2+	2+	+	—	±

【参考】

- ・治療薬マニュアル2012
- ・CURRENT THERAPY 2000 Vol.18 No.17
- ・医薬ジャーナル Vol.37 No.8 (2001)

(2015年3月作成)
(2017年3月改訂)

1. 強心薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■強心配糖体				
ジゴシン ＜ジゴキシン＞ (中外)	散0.1mg/g 【院内製剤】 ¥1.07/g 0.125mg/錠 ¥9.6/錠 0.25mg/錠 ¥9.6/錠		うっ血性心不全, 心房細動・粗動による頻脈, 発作性上室性頻拍	i) 急速飽和療法: 初回0.5mg以後0.5mg/6~8時間毎 ii) 維持療法: 0.25~0.5mg 腎排泄型(半減期=36hr) ＜小児＞維持療法: 0.01mg/kg/日, 分2 【DI照会参照】
		0.25mg(1mL)/管 ¥92/管		
ラニラピッド ＜メチルジゴキシン＞ (中外)	0.1mg/錠 ¥8.8/錠			維持療法: 0.1~0.2mg 腎排泄型(半減期=24hr)
■カテコールアミン類				
イノバン0.3% ＜ドパミン＞ (協和発酵キリン)		150mg(50mL)/シリンジ ¥1180/シリンジ	急性循環不全(心原性ショック, 出血性ショック)	1~5μg/kg/min持続静注 【Max: 20μg/kg/min】
ドブタミン ＜ドブタミン＞ (沢井)		100mg(5mL)/管 ¥261/管	急性循環不全	1~5~(20)μg/kg/min点静
ドミニン ＜ドパミン＞ (日本新薬)		100mg(5mL)/管 ¥411/管		
プロタノールL ＜ノルイソプロテレノール＞ (興和創薬)		0.2mg(1mL)/管 ¥226/管	7分4秒・ストークス症候群の発作時, 急性心不全, 術後の低心拍出量症候群, 気管支喘息の重症発作時	0.2~1.0mg点静 ＜緊急時＞0.2mgを静注, 筋注, 皮下 ＜小児＞0.01~0.5~1μg/kg/min点静
■キサンチン類				
ネオフィリン ＜アミノフィリン＞ (エーザイ)		250mg(10mL)/管 ¥92/管	気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎, 閉塞性肺疾患	0.7~1mg/kg/hr, 点静

1. 強心薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■心筋代謝性				
アデホス ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)	20mg/錠 ¥5.6/錠		頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善, 心不全, 調節性眼精疲労における調整機能の安定化, 消化管機能低下のみられる慢性胃炎	120～180mg分3
アデホスール ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥60/管	頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善, 心不全, 筋ジストロフィー症及びその類縁疾患, 急性灰白髄炎, 脳性小児麻痺(弛緩型), 進行性脊髄性筋萎縮症・その類似疾患, 調節性眼精疲労における調整機能の安定化, 耳鳴・難聴, 消化管機能低下のみられる慢性胃炎, 慢性肝疾患における肝機能の改善	静注: 1回5～40mg, 1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40～80mg, 1日1回 ＜小児＞0.5mg/kg急速静注(増量可能)
		40mg(2mL)/管 ¥61/管		
トリノシン ＜アデノシン三リン酸＞ (トーアエイヨー)	顆粒(100mg/g) ¥18.1/g		①心不全, 頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善, 消化管機能低下のみられる慢性胃炎, 調節性眼精疲労における調整機能の安定化 ②メニエル病・内耳障害に基づくめまい	①120～180mg分3 ②300mg分3
■ホスホジエステラーゼ阻害薬				
コアテック ＜オルプリノン＞ (エーザイ)		5mg(5mL)/管 ¥4725/管	急性心不全	10 μ g/kgを5分かけて緩徐に静注後, 0.1～0.3 μ g/kg/分, 点静 【Max: 0.4 μ g/kg/分】
ピモベンダン ＜ピモベンダン＞ (トーアエイヨー)	1.25mg/錠 ¥62.6/錠		急性・慢性心不全 (軽症～中等症)	5mg分2
■心房性ナトリウム利尿ペプチド				
ハンプ ＜カルペリチド＞ (第一三共)		1000 μ g/瓶 ¥2017/瓶	急性心不全(急性憎悪期を含む)	0.1～(0.2) μ g/kg/min点静

2. 血管収縮薬（昇圧薬）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アドレナリン注0.1%シリンジ ＜エピネフリン＞ (テルモ)		1mg(1mL)/筒 ¥159/筒	①気管支喘息・百日咳に基づく気管支痙攣の緩解 ②急性低血圧・ショック時の補助治療, 心停止の補助治療	①0.2~1mg/回皮下, 筋注 ②0.25mg/回静注
エホテール ＜エチレフリン＞ (パージンガー)		10mg(1mL)/管 ¥58/管	起立性低血圧, 急性低血圧・ショック時の補助治療	2~10mg/回皮下, 筋注, 静注
ネオシネジン ＜フェニレフリン＞ (興和創薬)		5mg(1mL)/管 ¥59/管	急性低血圧・ショック時, 局麻時の作用延長, 発作性上室頻拍	(1)~2~5~(10)mg皮下, 筋注 ＜乳児＞0.05mg静注 ＜幼児＞0.1~2mg静注
ノルアドリナリン ＜d-1-ノルエピネフリン＞ (第一三共)		1mg(1mL)/管 ¥92/管	急性低血圧, ショック時の補助治療	0.1~1 μ g/kg/min点静 0.1~1mg/回皮下
ボスミン ＜エピネフリン＞ (第一三共)		1mg(1mL)/管 ¥92/管	気管支痙攣, 急性低血圧, ショック時の補助治療	0.2~1mg/回皮下, 筋注 0.25mg/回静注
メトリジン ＜ミドドリン＞ (大正富山)	2mg/錠 ¥41/錠		本態性低血圧, 起立性低血圧	4~8mg分2 ＜小児＞4~6mg分2
リズミック ＜アメジニウム＞ (大日本住友)	10mg/錠 ¥45.7/錠		①本態性低血圧, 起立性低血圧 ②透析施行時の血圧低下の改善	①20mg分2, ②10mg/開始時

3. 不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のI a				
アミサリン ＜プロカインアミド＞ (第一三共)		100mg (1mL) / 管 ¥92/管	期外収縮(上室性, 心室性), 発作性頻拍(上室性, 心室性), 手術および麻酔に伴う不整脈, 心房細動, 心房粗動(静注のみ)	0.5g/回筋注, 4~6hr 毎 0.2~1g/回, 50~100mg/hr 静注 ＜小児＞5~15mg/kg, 5分以上で静注
シベノール ＜シベンゾリン＞ (トアエー)		70mg (5mL) / 管 ¥885/管	頻脈性不整脈	0.1mL (1.4mg) / kg / 回 血圧及び心電図監視下2~5分間かけて
シベンゾリン ＜シベンゾリン＞ (沢井製薬)	50mg/錠 ¥19.1/錠			300mg分3 【Max: 450mg】
リスモダン ＜ジソピラミド＞ (サファイ)	50mg/C ¥29.7/C		期外収縮, 発作性上室性頻脈, 心房細動	300mg分3 ＜小児＞5~15mg/kg/日分3~4
リスモダンR ＜ジソピラミド＞ (サファイ)	150mg/錠 ¥74.2/錠		頻脈性不整脈	300mg分2
リスモダンP ＜ジソピラミド＞ (サファイ)		50mg (5mL) / 管 ¥393/管	期外収縮, 発作性上室性頻拍, 発作性心房細・粗動	50~100mg (1~2mg/kg) ＜小児＞5~10mg/kg, 5分以上で静注 0.4mg/kg/hr, 点静
■Vaughan-William分類のI b				
アスペノン ＜アブリンジン＞ (パリエル)	10mg/C ¥45.8/C		頻脈性不整脈	40~(60)mg分2~3 ＜小児＞0.5~1.5mg/kg/日, 分2~3
		100mg (10mL) / 管 ¥820/管		5%ブドウ糖等で10倍に希釈, 1.5~2mg/kg (希釈液として1.5~2.0mL/kg) / 回, 5~10mL/分の速度で静注 【Max: 100mL (100mg) / 回】
キシロカイン ＜リドカイン＞ (アストラ・社)		100mg (5mL) / 管 (静注用, 2%) ¥92/管	期外収縮(心室性), 発作性頻拍(心室性), 急性心筋梗塞時・手術に伴う心室性不整脈の予防	50~100mg/回静注 1~2~(4)mg/min点静 ＜小児＞1~2mg/kg静注 ＜維持＞15~50μg/kg/min
メキシチール ＜メキシレチン＞ (ベリンガー)	50mg/C ¥28/C		①頻脈性不整脈(心室性) ②糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛, しびれ感)の改善	①300~(450)mg分3 ＜小児＞5~15mg/kg/日, 分3 ②300mg分3
	100mg/C ¥46.2/C			
リドカイン静注用2% シリンジ ＜リドカイン＞ (フレ)		100mg (5mL) / 筒 ¥157/管	期外収縮(心室性), 発作性頻拍(心室性), 急性心筋梗塞時・手術に伴う心室性不整脈の予防, 期外収縮(上室性), 発作性頻拍(上室性)	50~100mg/回静注 (1~2mg/kg) 【Max: 300mg/hr】

3. 不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のⅠc				
サンリズム ＜ピルジカイニド＞ (第一三共)	50mg/C ¥75.8/C		頻脈性不整脈	150mg分3 【Max:225mg/回】
タンボコール ＜フレカイニド＞ (エーザイ)	50mg/錠 ¥77.5/錠 細粒(100mg/g) ¥192.4/g		①頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動,心室性) ②小児:頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動,発作性上室性,心室性)	①100~200mg分2 ②<6ヵ月以上>50~100mg/m ² 分2~3, <6ヵ月未満>50mg/m ² 分2~3 【Max:200mg/m ² /日】
■Vaughan-William分類のⅡ				
インデラル				【B-11参照】
■Vaughan-William分類のⅢ				
アミオダロン ＜アミオダロン＞ (トアエー)	50mg/錠 ¥88.1/錠 100mg/錠 ¥155.7/錠		心室細動,心室性頻拍,心不全(低心機能)又は肥大型心筋症を伴う心房細動	<導入期>400mg分1~2 <維持期>200mg分1~2
アンカロン ＜アミオダロン＞ (サノイ)		150mg(3mL)/管 ¥3154/管	①心室細動,血行動態不安定な心室頻拍(生命に危険のある,難治性かつ緊急を要する場合) ②電氣的除細動抵抗性の心室細動あるいは無脈性心室頻拍による心停止	【DI照会参照】
シンビット ＜ニフェカラン＞ (森比・ラ・ジ・ヤパン)		50mg/瓶 ¥4818/瓶	心室頻拍,心室細動	<単回静注法> 0.3mg/kg/回5分かけて <維持静注法> 心電図の連続監視下に0.4mg/kg/hrを等速度で
ベプリコール ＜ベプリジル＞ (第一三共)	50mg/錠 ¥69.5/錠		①他の抗不整脈薬が使用できないか又は無効の頻脈性不整脈(心室性),狭心症 ②他の抗不整脈薬が使用できないか又は無効の持続性心房細動	①200mg分2 ②100mg分2から開始,【Max:200mg】

3. 不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のIV				
ヘルベッサー ＜ジルチアゼム＞ (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥1276/瓶	頻脈性不整脈(上室性)【B-12参照】	10mg/回, 約3分間で静注
ワソラン ＜ベラパミル＞ (エーザイ)	40mg/錠 ¥7.1/錠		頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-14参照】, 狭心症, 心筋梗塞(急性期を除く), その他の虚血性心疾患 ＜小児＞頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)	120～240mg分3 ＜小児＞3～6mg/kg/日, 分3 【Max: 240mg/日】
		5mg (2mL) /管 ¥263/管	頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-14参照】	5mg/回静注 ＜小児＞0.1～0.2mg/kg/回静注 【Max: 5mg/回】 【新生児は慎重投与】
■その他				
アデホスール ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)		10mg (2mL) /管 ¥60/管	【適応外: 上室性頻拍】	静注: 1回5～40mg, 1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40～80mg, 1日1回 ＜小児＞0.5mg/kg急速静注(増量可能)

4. 冠血管拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■亜硝酸製剤				
一硝酸イソソルビド ＜硝酸イソソルビド (一硝酸塩)＞ (沢井製薬)	20mg/錠 ¥7.6/錠		狭心症	40mg分2【Max:80mg/日】
硝酸イソソルビド ＜硝酸イソソルビド (二硝酸塩)＞ (高田製薬)		5mg(10mL)/管 ¥174/管	①急性心不全 ②不安定狭心症 ③冠動脈造影時の冠 れん縮緩解	①1.5～8mg点静 ②2～5mg/hr点静 ＜小児＞0.5～3～(6)μg/kg/min点静 ③5mg/h ¹ ル ¹ ₁ 洞内注入
ニトロプロ ＜ニトロプルシドNa ＞ (丸石)		6mg(2mL)/管 【用時購入】 ¥716/管	①手術時の低血圧維持 ②手術時の異常高血 圧の緊急処置	①0.5μg/kg/分で投与開始, 通常2.5μg/kg/分以下で維持 【Max:3μg/kg/分】 ②0.5μg/kg/分で投与開始,通常2.0 μg/kg/分
ニトロペン ＜ニトログリセリン＞ (日本化薬)	0.3mg/錠(PTP 包装) ¥13.6/錠		狭心症, 心筋梗塞, 心 臓喘息 ⁷ カ ⁷ の一時的 緩解	0.3～0.6mg/回
フランドルテープS ＜硝酸イソソルビド (二硝酸塩)＞ (ト ⁷ イ ³)		40mg/枚(10cm ×10cm) ¥73.3/枚	狭心症, 心筋梗塞, そ の他の虚血性心疾患	1枚/1～2日, 胸部・上腹部又は背部 に貼付
ミオコール ＜ニトログリセリン＞ (ト ⁷ イ ³)		5mg(10mL)/管 ¥321/管	手術時の低血圧維持 ・異常高血圧の緊急 処置, 急性心不全, 不 安定狭心症	1～5μg/kg/min ＜小児＞5μg/kg/min点静
ミオコールスプレー ＜ニトログリセリン＞ (ト ⁷ イ ³)		7.2g/缶 ¥1764.6/本	狭心症発作の寛解	1噴霧/回
ミリストープ ＜ニトログリセリン＞ (日本化薬)		5mg/枚(4.05cm ×4.5cm) ¥46.2/枚	狭心症, 急性心不全	2枚分2
■その他				
シグマート ＜ニコランジル＞ (中外)		48mg/瓶 ¥3973/瓶	①不安定狭心症 ②急性心不全(慢性 心不全の急性増悪期 を含む)	①2～6mg/hr ②0.2mg/kgを5分程かけて静注し、 引き続き0.05～0.2mg/kg/hr
ジピリダモール ＜ジピリダモール＞ (長生堂)	散(125mg/g) 【院外のみ】 ¥24.5/g		狭心症, 心筋梗塞, う っ血性心不全, そ の他の虚血性心疾患	75mg分3 ＜小児＞5mg/kg/日, 分3
ニコランジル ＜ニコランジル＞ (日医工)	5mg/錠 ¥5.8/錠		狭心症	15mg分3

5. 利尿薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■チアジド系				
フルイトラン <トリクロルメチアジド> (オノキ)	2mg/錠 ¥9.6/錠		高血圧症(本態性、腎性等)、悪性高血圧、心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫、月経前緊張症	2~8mg分1~2
■ループ利尿薬				
アゾセミド <アゾセミド> (日本ゼネリック)	60mg/錠 ¥17.4/錠		うっ血性心不全 腎性浮腫、肝性浮腫	60mg分1
フロセミド <フロセミド> (ニプロ)	20mg/錠 ¥6/錠		高血圧症(本態性、腎性等)、悪性高血圧、心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫、月経前緊張症、末梢血管障害による浮腫、尿路結石排出促進	40~80mg分1 <小児>1~4mg/kg/日分1~4
	40mg/錠 ¥6.3/錠			40~80mg分1 <小児>1~4mg/kg/日、分1~4
フロセミド <フロセミド> (日医工)		20mg(2mL)/管 ¥57/管	高血圧症(本態性、腎性等)、悪性高血圧、心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫、脳浮腫、尿路結石排出促進	20mg/回静注、筋注
ラシックス <フロセミド> (日医工)	細粒(40mg/g) ¥15.3/g		高血圧症(本態性、腎性等)、悪性高血圧、心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫、月経前緊張症、末梢血管障害による浮腫、尿路結石排出促進	40~80mg分1 <小児>1~4mg/kg/日分1~4
ルブラック <トラセミド> (大正富山)	4mg/錠 ¥23.4/錠		心性浮腫、腎性浮腫、肝性浮腫	4~8mg/日
■抗アルドステロン薬				
アルダクトンA <スピロノラクトン> (ファイザー)	細粒(100mg/g) ¥92.2/g		高血圧症(本態性、腎性等) 心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫、特発性浮腫、悪性腫瘍に伴う浮腫及び腹水、栄養失調性浮腫 原発性アルドステロン症の診断及び症状の改善	50~100mg <小児>2~4mg/kg/日、分2~3
	25mg/錠 ¥20.7/錠			
ソルダクトン <カンレノ酸カリウム> (ファイザー)		100mg/管 ¥438/管	原発性アルドステロン症、うっ血性心不全、肝性浮腫、開心術及び開腹術時における水分・電解質代謝異常	100~200mg/回、1~2回/日ゆっくり静注 【Max: 600mg】
■炭酸脱水素酵素阻害薬				
ダイアモックス <アセタゾラミド> (三和化学)	250mg/錠 ¥25.6/錠		①緑内障 ②てんかん、メニール病・メニール症候群 ③肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善	①250~1000mg ②250~750mg <小児>5mg/kg/日、分1 ③250~500mg
		500mg/瓶 ¥618/瓶		

5. 利尿薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非チアジド系				
ナトリックス <インダパミド> (大日本住友)	1mg/錠 ¥11.4/錠		本態性高血圧症	2mg分1 朝食後
■V2-受容体拮抗剤				
サムスカ <トルパブタン> (大塚製薬)	7.5mg/錠 ¥1280.8/錠		①ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ③腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②1日1回7.5mg ③60mg分2(朝45mg, 夕15mg)で開始し、1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】
	15mg/錠 ¥1948.4/錠		①ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②60mg分2(朝45mg, 夕15mg)で開始し、1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】
	顆粒1% ¥1,901.50/g		①ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ③腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②1日1回7.5mg ③60mg分2(朝45mg, 夕15mg)で開始し、1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】

6. β 遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非選択性 ◆Prichard分類の1類2群 [ISA(－), MSA(+)]				
インデラル <プロプラノロール> (アストレ [®] 勸)	10mg/錠 ¥14.1/錠		①本態性高血圧症 (軽症～中等症) ②狭心症, 褐色細胞 種手術時 ③期外収縮(上室性, 心室性), 発作性頻拍 の予防, 頻拍性心房 細動, 洞性頻脈, 新鮮 心房細動, 発作性心 房細動の予防 ④片頭痛発作の発症 抑制 ⑤右心室流出路狭窄 による低酸素発作の 発症抑制	①30～60mg分3 【Max: 120mg】 ②30～90mg分3 ③30～90mg分3 <小児>低容量より開始し 0.5～2mg/kg, 分3～4 【Max: 4mg/kg/日, 90mg/日】 ④20～30mg分2～3 【Max: 60mg】 ⑤0.5～2mg/kg/日, 分3～4 【Max: 4mg/kg/日】
		2mg (2mL)/管 ¥90/管	①狭心症, 期外収縮, 発作性頻拍, 頻拍性 心房細動, 新鮮心房 細動, 褐色細胞種手 術時 ②麻酔に伴う不整 脈, 洞性頻拍	①2～10mg静注 <小児>0.01～0.1mg/kg, 10分以上で 静注 ②1～5mg静注
■非選択性 ◆Prichard分類の1類3群 [ISA(+), MSA(－)]				
小児用ミケラン <カルテオロール> (大塚)	細粒(2mg/g) ¥14.3/g		アレルギーに伴うアレルギー発作	0.1～0.3mg/kg/日, 分2

6. β 遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ β 1選択性 ◆Prichard分類の2類4群 [ISA(－), MSA(－)]				
オノアクト ＜ランジオロール＞ (小野薬品)		50mg/瓶 ¥6577/瓶	①手術時の心房細動, 心房粗動, 洞性頻脈の頻脈性不整脈に対する緊急処置 ②手術後の循環動態監視下における心房細動, 心房粗動, 洞性頻脈の頻脈性不整脈に対する緊急処置 ③心機能低下例における心房細動, 心房粗動の頻脈性不整脈	①1分間0.125mg/kg/min静脈内持続後, 0.04mg/kg/min静脈内持続 ②1分間0.06mg/kg/min静脈内持続後, 0.02mg/kg/min静脈内持続投与開始. 5～10分を目安に目標とする徐拍作用が得られない場合は, 1分間0.125mg/kg/minの速度で静脈内持続投与した後, 0.04mg/kg/minの速度で静脈内持続投与する ③1 μ g/kg/minの速度で静脈内持続投与開始後, 1～10 μ g/kg/minの速度で適宜調節する.
コアベータ ＜ランジオロール＞ (小野薬品)		12.5mg/瓶 ¥2709/瓶	コンピューター断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善	0.125mg/kg/回, 1分間で静注
テノミン ＜アテノロール＞ (アストラ・ゼカ)	25mg/錠 ¥50.6/錠 50mg/錠 ¥85.4/錠		本態性高血圧症, 狭心症, 頻脈性不整脈	50～100mg分1
ピソノテープ ＜ピソプロロール＞ (ト・アイ・イー)		¥86.6/枚	本態性高血圧症	8mg/日, 胸部・上腹部又は背部に貼付【Max:8mg/日】
メインテート ＜ピソプロロール＞ (田辺三菱)	2.5mg/錠 ¥61/錠		①本態性高血圧症, 狭心症, 心室性期外収縮 ②虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全 【ACE阻害薬又はARB, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者】 ③頻脈性心房細動	①5mg分1 ②0.625mg分1開始, 以後漸増, 維持量1.25～5mg分1【Max:5mg/日】 ③2.5mg分1開始, 効果不十分な場合5mg分1へ増量【Max:5mg/日】
	0.625mg/錠 ¥20/錠		虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全 【ACE阻害薬又はARB, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者】	0.625mg分1開始, 以後漸増, 維持量1.25～5mg分1【Max:5mg/日】
ロブレスール ＜メトプロロール＞ (ノバルティス)	20mg/錠 ¥13.6/錠		①本態性高血圧症 ②狭心症, 頻脈性不整脈	①60～240mg分3 ②60～120mg分2～3

6. β 遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ α , β -遮断薬 ◆Prichard分類の3類2群 [ISA(－), MSA(+)]				
カルベジロール ＜カルベジロール＞ (沢井製薬)	2.5mg/錠 ¥9.9/錠		慢性心不全(虚血性心疾患, 拡張型心筋症) 【ACE阻害薬, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者】	2.5mg分2開始, 以後漸増, 維持量5～20mg分2
	10mg/錠 ¥22.9/錠		①本態性高血圧症, 腎実質性高血圧症 ②腎実質性高血圧症 ③狭心症 ④慢性心不全(虚血性心疾患, 拡張型心筋症) 【ACE阻害薬, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者】	①10～20mg分1 ②20mg分1 ③2.5mg分2開始, 以後漸増, 維持量5～20mg分2

7. Ca拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ジヒドロピリジン誘導体				
アゼルニジピン ＜アゼルニジピン＞ (東和薬品)	8mg/錠 ¥14.3/錠		高血圧症	8～16mg分1【Max:16mg/日】
アムロジピンOD ＜アムロジピン＞ (東和薬品)	2.5mg/錠 ¥14.2/錠		①高血圧症 ②狭心症	①1日1回2.5～5mg【Max:10mg/日】 ＜小児:6歳以上＞1日1回2.5mg【Max:5mg/日】 ②5mg分1
	5mg/錠 ¥26.2/錠			
シルニジピン ＜シルニジピン＞ (沢井製薬)	10mg/錠 ¥32.5/錠		高血圧症	5～10mg分1【Max:20mg】
セパミットR ＜ニフェジピン＞ (MSD)	細粒(10mg/0.5g/包) ¥17.6/包		①本態性高血圧症 ②狭心症	①20～40mg分2 ②40mg分2
ニカルジピン ＜ニカルジピン＞ (沢井製薬)		10mg(10mL)/管 ¥176/管	①手術時異常高血圧 ②高血圧性緊急症 ③急性心不全	①2～10 μ g/kg/minで開始以後血圧をモニターして投与量を調節 ②0.5～6 μ g/kg/min ③0.5～2 μ g/kg/min
ニフェジピンCR ＜ニフェジピン＞ (東和薬品)	20mg/錠 ¥13.5/錠		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症, 腎血管性高血圧症 ③狭心症, 異型狭心症	①20～40mg分1【Max:40mg/回, 80mg/日】 ②20～40mg分1 ③40mg分1【Max:60mg】
ベニジピン ＜ベニジピン＞ (沢井製薬)	4mg/錠 ¥19.5/錠		①高血圧症, 腎実質性高血圧症 ②狭心症	①2～4mg分1【Max:8mg】 ②8mg分2, 朝・夕食後

7. Ca拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■心抑制型				
ジルチアゼム ＜ジルチアゼム＞ (沢井製薬)	30mg/錠 ¥5.6/錠		①本態性高血圧症 ②狭心症, 異型狭心症	①90～180mg分3 ②90mg分3【Max:180mg】 ＜小児＞1.5mg/kg/日, 分3
ジルチアゼムR ＜ジルチアゼム＞ (沢井製薬)	100mg/C ¥13.3/C			①100～200mg分1 ②100mg分1【Max:200mg】
ヘルベッサー ＜ジルチアゼム＞ (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥1276/瓶	①頻脈性不整脈(上室性) ②手術時の異常高血圧 ③高血圧性緊急症 ④不安定狭心症	①10mg/回, 約3分間でiv ②10mg/回, 約1分間でiv, 5～15μg/kg/min, 点静 ③5～15μg/kg/min, 点静 ④1～(5)μg/kg/min, 点静
ワソラン ＜ベラパミル＞ (エーザイ)	40mg/錠 ¥7.1/錠		頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-14参照】, 狭心症, 心筋梗塞(急性期を除く), その他の虚血性心疾患 ＜小児＞頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)	120～240mg分3 ＜小児＞3～6mg/kg/日, 分3【Max:240mg/日】
		5mg(2mL)/管 ¥263/管	頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-5参照】	5mg/回静注 ＜小児＞0.1～0.2mg/kg/回静注【Max:5mg/回】 【新生児は慎重投与】

8. ACE阻害薬・アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

■ACE阻害薬

エナラプリル ＜エナラプリル＞ (ファイザー)	2.5mg/錠 ¥11.8/錠		①高血圧症 ②慢性心不全	①1日1回2.5～10mg ＜小児：生後1ヵ月以上＞ 0.08mg/kg/日, 1日1回 【Max:10mg/日】 ②1日1回2.5～10mg
	5mg/錠 ¥13/錠			
タナトリル ＜イミダプリル＞ (田辺三菱)	5mg/錠 ¥54.4/錠		①高血圧症, 腎実質性高血圧症 ②1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症	①2.5～10mg分1 ＜小児＞0.1mg/kg/日, 分1 ②5mg分1

■アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

アジルバ ＜アジルサルタン＞ (武田)	20mg/錠 【院外のみ】 ¥139.8/錠		高血圧症	20mg分1 【Max:40mg】
	40mg/錠 【院外のみ】 ¥209.9/錠			
オルメテックOD ＜オルメサルタン＞ (第一三共)	20mg/錠 ¥112.8/錠			5～20mg分1 【Max:40mg】
カンデサルタンOD ＜カンデサルタン＞ (エルメッドエーザイ)	4mg/錠 ¥22.9/錠		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症	①4～8mg分1 【Max:12mg】 ②2mg分1 【Max:8mg】
バルサルタンOD ＜バルサルタン＞ (東和薬品)	20mg/錠 ¥21.1/錠		高血圧症	40～80mg分1 【Max:160mg】 ＜小児：6歳以上＞ 35kg以上：1日1回40mg 35kg未満：1日1回20mg 【Max:40mg/日】
ミカルディス ＜テルミサルタン＞ (アステラス)	20mg/錠 ¥60.9/錠			20～40mg分1 【Max:80mg】
ロサルタンK ＜ロサルタンカリウム＞ (ファイザー)	50mg/錠 ¥50.2/錠		①高血圧症 ②高血圧及び蛋白尿を伴う2型糖尿病における糖尿病性腎症	①25～50mg分1 【Max:100mg】 ②(25～)50mg分1 【Max:100mg】

■持続性ARB・利尿剤合剤

プレミネントLD ＜ロサルタン・ヒドロクロチアジド＞ (MSD)	50mg/12.5mg/錠 ¥128.5/錠		高血圧症	1錠分1

8. ACE阻害薬・アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ARB・Ca拮抗剤合剤				
アイミクスHD ＜イルベサルタン, アムロジピン＞ (大日本住友)	100mg/10mg/錠 【院外のみ】 ¥148.6/錠		高血圧症	1錠分1
エックスフォージ配合OD ＜バルサルタン, アムロジピン＞ (ノバルティス)	80mg, 5mg/錠 【院外のみ】 ¥114.6/錠			
ミカムロAP ＜テルミサルタン, アムロジピン＞ (アステラス)	40mg, 5mg/錠 ¥117.4/錠			
レザルタスHD ＜オルメサルタン, アゼルニジピン＞ (第一三共)	20mg/16mg/錠 ¥138.3/錠			1錠分1朝食後

9. その他の血圧降下剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヒドララジン類				
アプレゾリン <ヒドララジン> (パルテリス)	10mg/錠 ¥9.2/錠		本態性高血圧症, 妊娠中毒症による高血圧	30~40~(200)mg分3~4 <小児>0.75~4mg/kg/日, 分3~4
■ α 1遮断薬				
エブランチル <ウラピジル> (科研)	15mg/C ¥17.3/C		本態性高血圧症, 腎性高血圧症, 褐色細胞腫による高血圧症	30~(120mg)mg分2
ドキサゾシン <ドキサゾシン> (エルメット・エーザイ)	2mg/錠 ¥27.9/錠		高血圧症, 褐色細胞種による高血圧症	0.5mg分1から開始し漸増, 維持量1~4mg分1 【Max:8mg(褐色細胞種は16mg)】
■ α 2刺激薬				
アルドメット <メチルドパ> (ザイダスファーマ)	250mg/錠 ¥9.6/錠		高血圧症	250~750mg~(2000mg)分1~3
■選択的抗アルドステロン薬				
セララ <エプレレノン> (ファイザー)	25mg/錠 ¥47.4/錠		①高血圧症 ②慢性心不全で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンⅠ受容体拮抗薬、 β 遮断薬、利尿薬等の基礎治療を受けている患者	①50mg分1【Max:100mg】 ②25mg分1開始、4週以降50mg分1 中等度腎機能障害時:25mg分1隔日【Max:25mg】

10. 高脂血症用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■HMG-CoA還元酵素阻害薬				
アトルバスタチンOD ＜アトルバスタチン＞ (東和薬品)	5mg/錠 【院外のみ】 ¥43.5/錠 10mg/錠 ¥43.5/錠		①高コレステロール血症 ②家族性高コレステロール血症	①10mg分1 【Max:20mg】 ②10mg分1 【Max:40mg】
クレストールOD ＜ロスバスタチン＞ (アストラ・レオ)	2.5mg/錠 ¥63.1/錠 5mg/錠 ¥121.3/錠		高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症	2.5～5mg分1から開始, 開始4週以降10mgまで増量可 【Max:20mg】
プラバスタチンNa ＜プラバスタチン＞ (東和薬品)	10mg/錠 ¥33.7/錠		高脂血症, 家族性高コレステロール血症	10mg分1～2 【Max:20mg】
ローコール ＜フルバスタチン＞ (ハル・リス)	30mg/錠 ¥88.8/錠		高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症	20～30mg分1夕食後 【Max:60mg】
■クロフィブラート類				
ベザトールSR ＜ベザフィブラート＞ (キッセイ)	200mg/錠 ¥33.8/錠		高脂血症	400mg分2
■イオン交換樹脂				
コレバインミニ83% ＜コレステミド＞ (田辺三菱)	1.81g/包 ¥91.224		高コレステロール血症, 家族性高コレステロール血症	2包分2朝・夕食前 【Max:4g】
■ニコチン酸類				
ユベラN ＜ニコチン酸トコフェロール＞ (エーザイ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300～600mg分3
■小腸コレステロールトランスポーター阻害剤				
ゼチーア ＜エゼチミブ＞ (バイエル)	10mg/錠 ¥185.3/錠		高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症 純接合体性コレステロール血症	10mg分1食後
■その他				
イコサペント酸エチル 粒状カプセル ＜イコサペント酸エチル＞ (沢井製薬)	900mg/包 ¥44.0/包		①閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍, 疼痛及び冷感の改善 ②高脂血症	①1回600mg1日3回 ②1回900mg1日2回または1回600mg1日3回 【Max:1回900mg1日3回】

1 1. 末梢血管拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロスタグランジン類				
アルプロスタジル ＜アルプロスタジル＞ (日本ケミファ)		5 μ g(1mL)/管 ¥1514/管 10 μ g(2mL)/管 ¥1540/管	①慢性動脈閉塞症, 進行性全身性硬化症・全身性リウマチ・糖尿病における皮膚潰瘍, 振動病 ②動脈管の開存 ③経上腸間膜動脈性門脈造影	①1~2mL分1静注, 点静 ②5ng/kg/min持続静注 ③1回1mL
アルプロスタジルアルファデクス ＜アルプロスタジル＞ (アルフレッサファーマ)		20 μ g/瓶 ¥397/瓶	I＜動脈内投与＞慢性動脈閉塞症における四肢潰瘍, 安静時疼痛の改善 II＜静脈内投与＞ ①振動病における末梢血行障害に伴う自覚症状の改善ならびに末梢循環・神経・運動機能障害の回復 ②血行再建術後の血流維持 ③動脈内投与が不適と判断される慢性動脈閉塞症における四肢潰瘍ならびに安静時疼痛の改善 ④動脈管依存性先天性心疾患における動脈管の開存 III＜陰茎海綿体内投与＞勃起障害の診断	I. 10~15 μ g持続動注 (0.1~0.15ng/kg/min) 0.05~0.2ng/kg/minの間で適宜増減 II. ①-③40~60 μ g点静 (5~10ng/kg/min) ④50~100ng/kg/min持続静注 III. 20 μ g/1ml陰茎海綿体注
プロスタンディン ＜アルプロスタジル＞ (小野薬品)		500 μ g/瓶 ¥18961/瓶	手術時の低血圧維持 手術時の異常高血圧の救急処置	5~10 μ g/kg/min点静 (0.1~0.2 μ g/kg/min)
ベラサスLA ＜ベラプロスト＞ (科研)	60 μ g/錠 【院外のみ】 ¥242.6/錠		肺動脈性肺高血圧症	120 μ g分2から開始し, 漸次増量 【Max:360 μ g/日】
ベラプロストNa ＜ベラプロスト＞ (東和薬品)	20 μ g/錠 ¥21.6/錠		①慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍, 疼痛及び冷感の改善 ②原発性肺高血圧症	①120 μ g分3 ②60~180 μ g分3~4
■ニコチン酸類				
ユベラン ＜ニコチン酸トコフェロール＞ (エーザイ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300~600mg分3

12. 肺血管拡張剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロスタグランジン類				
エポプロステノール ＜エポプロステノール ナトリウム＞ (アケリオン)		0.5mg(溶解液なし)/瓶 ¥7474/瓶 1.5mg(溶解液なし)/瓶 ¥14176/瓶	肺動脈性肺高血圧症	＜精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)により持続静注＞ 【成人】2ng/kg/分より開始 15分以上の間隔をおいて1～2ng/kg/分ずつ漸増 10ng/kg/分までの範囲で最適投与速度を決定 【小児】0.5～2ng/kg/分より開始 1～4週の間隔をおいて0.5～2ng/kg/分ずつ漸増 20～40ng/kg/分を目安とし最適投与速度を決定
エポプロステノール専用溶解液 ＜生理食塩液＞ (アケリオン)		50ml/瓶 専用溶解液 ¥110/瓶		
■ホスホジエステラーゼ5阻害剤				
レバチオ ＜シルデナフィル＞ (ファイザー)	20mg/錠 ¥1213.5/錠		肺動脈性肺高血圧症	60mg分3
■選択的プロスタサイクリン受容体作動薬				
ウプトラビ ＜セレキシパグ＞ (日本新薬) 投与制限：14日△ (平成29年11月末まで)	0.2mg/錠 ¥1,407.90/錠 0.4mg/錠 ¥2,815.80/錠		肺動脈性肺高血圧症	0.2mg/回, 1日2回食後 7日以上の間隔で0.2mg/回ずつ最大耐用量まで増量し維持量を決定 【Max:1.6mg/回】
■エンドセリン受容体拮抗薬				
オプスミット ＜マシテンタン＞ (アケリオン ファーマシューティカルズ ジャパン)	10mg/錠 ¥14594/錠		肺動脈性肺高血圧症	10mg分1
トラクリア小児用 ＜ボセンタン＞ (アケリオン ファーマシューティカルズ ジャパン) 投与制限：14日△ (平成29年11月末まで)	分散錠32mg/錠 ¥4523.3/錠			2mg/kg/回, 1日2回朝夕 【Max:120mg/回, 240mg/日】

13. その他の循環器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■循環系ホルモン				
カルナクリン ＜カリジノゲナーゼ＞ (三和化学)	50単位/錠 ¥20.7/錠		高血圧症・メニエール症候群・閉塞性血栓血管炎(ビュルガ一病)における末梢循環障害の改善 更年期障害・網脈絡膜の循環障害の改善	75～150単位分3
■血栓溶解剤				
ウロナーゼ ＜ウロキナーゼ＞ (持田)		6万単位/瓶 ¥2934/瓶	①脳血栓症 ②末梢動・静脈閉塞症	①6万単位/日, 静注7日間 ②6～24万単位/日, 静注, 7日間
		12万単位/瓶 ¥6032/瓶	急性心筋梗塞	48～96万単位, 冠動脈内注入
クリアクター ＜モンテプラーゼ＞ (エーザイ)		40万単位/瓶 ¥46281/瓶	①急性心筋梗塞 ②不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症	①27500単位/kg静注 ②13750～27500単位/kg静注 【Max: 27500単位/kg】
■動脈開存症治療剤				
インダシン ＜インドメタシン＞ (ノーベルファーマ)		1mg/瓶 ¥6799/瓶	未熟児の動脈開存症	下記の用量(mg/kg)を12～24hr間隔で, 3回静脈内投与 生後48hr未満: 1回目0.2, 2・3回目0.1 生後2～7日未満: 0.2 生後7日以上: 1回目0.2, 2・3回目0.25
■高カリウム血症用薬				
カリメート ＜ポリステレンスルホン酸カルシウム＞ (興和創薬)	末(5g/包) ¥76/包		高カリウム血症	＜経口＞15～30g, 分2～3 ＜注腸＞30g/回
	経口液20%(25g/包) ¥88.2/包		急性および慢性腎不全に伴う高カリウム血症	75～150g(3～6包), 分2～3
ケイキサレート ＜ポリステレンスルホン酸ナトリウム＞ (鳥居)	末(5g/包) ¥93.5/包		高カリウム血症	＜経口＞30g, 分2～3 ＜注腸＞30g/回
	DS76%(3.27g/包) ¥53.6/包		急性および慢性腎不全に伴う高カリウム血症	39.24g(12包), 分2～3
■その他				
オビソート ＜アセチルコリン＞ (第一三共)		100mg/管(溶解液2mL付) ¥364/管	【適応外: 冠動脈攣縮の誘発】 【D-13参照】	【DI照会参照】

13. その他の循環器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■高リン血症治療剤				
キックリン ＜ピキサロマー＞ (アステラス)	250mg/C ¥30.5/C		慢性腎臓病患者にお ける高リン血症の改善	1500mg分3, 食直前 【Max: 7500mg】
沈降炭酸カルシウム ＜沈降炭酸カルシウム ＞ (三和化学研究所)	500mg/錠 ¥5.7/錠		保存期及び透析中の 慢性腎不全患者にお ける高リン血症の改善	3g分3, 食直後
ホスレノール ＜ランタン＞ (パイエル)	250mg/包 ¥169.7/包		慢性腎臓病患者にお ける高リン血症の改 善	750mg分3, 食直後 【Max: 2250mg】

不整脈用薬

V a u g h a n - W i l l i a m s の分類

ク ラ ス			作用機序	医 薬 品 名 (一般名)
I	N a チ ャ ネ ル 抑 制	I a	A P D 延長	アミサリン (プロパフェノン) シベノール (シベツザリン) リスモダン (ジプロピラミド)
		I b	A P D 短縮	アスペノン (アプロピジン) アレピアチン (フェニチン) キシロカイン (リドカイン) リドカイン (リドカイン) メキシチール (メキシチン)
		I c	A P D 不変	サンリズム (ピルジカインド) タンボコール (フレカインド)
II	交感神経受容体遮断			インデラル (プロプラノロール) その他の β 遮断薬 (B-11参照)
III	A P D 延長			アンカロン (アミオダロン) シンビット (ニフェカラン)
IV	C a チャンネル抑制			ワソラン (ベラパミル) ベプリコール (ベフロピジル) ヘルベッサー (ジルチアゼム)
その他				アデホスーL (アデノシン3リン酸)

A P D : 活動電位持続時間

β 遮断薬

Prichard 分類

分類		I S A	M S A	医薬品名（一般名）
類	群			
1 類 （非選択性）	1 群	+	+	
	2 群	—	+	インデラル（プロプラノロール）
	3 群	+	—	ミケラン（カルテオロール）
	4 群	—	—	
2 類 （β ₁ 選択性）	1 群	+	+	
	2 群	—	+	
	3 群	+	—	
	4 群	—	—	テノーミン（アテノロール） メインテート（ビソプロロール） ビソノテープ（ビソプロロール） ロプレソール（メトプロロール） オノアクト（ランゾロール）
3 類 （α 遮断）	2 群	—	+	カルベジロール（カルベジロール）
	4 群	—	—	

I S A（intrinsic sympathetic activity）：内因性交感神経刺激作用

M S A（membrane stabilizing activity）：膜安定化作用

1. 呼吸促進剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
塩酸ナロキソン ＜ナロキソン＞ (アルフレッサ・ファーマ)		0.2mg (1mL) / 管 ¥929/管	麻薬による呼吸抑制・覚醒遅延の改善	0.2mg/回, 効果不十分な場合2～3分間隔で1～2回静注 ＜小児＞0.01mg/kg
ドブラム ＜ドキサブラム＞ (キッセイ)		400mg (20mL) / 瓶 ¥2080/瓶	①麻酔時における呼吸抑制ならびに覚醒遅延 ②中枢神経系抑制剤による中毒時における呼吸抑制ならびに覚醒遅延 ③遷延性無呼吸の鑑別診断 ④急性ハイパーカーブニアを伴う慢性肺疾患 ⑤早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)(ただしサリチン製剤による治療で十分な効果が得られない場合に限る)	①0.5～1.0mg/kg, 静注, 必要に応じ5分間隔で投与【Max:2.0mg/kg】 または5mg/minで点静【Max:5.0mg/kg】 ②0.5～2.0mg/kg, 静注, 維持量として5～10分間隔で投与, ついで1～2時間間隔で投与を繰り返す または1.0～3.0mg/kg/hrで点静 ③1.0～2.0mg/kg, 静注 ④1.0～2.0mg/kg/hr, 点静【Max:2400mg】 ⑤初回投与:1.5mg/kg, 1時間で点静 維持投与:0.2mg/kg/hr, 点静【Max:0.4mg/kg/hr】
フルマゼニル ＜フルマゼニル＞ (マイラン)		0.2mg (2mL) / 管 ¥682/管	ベンゾジアゼピン系薬剤による鎮静の解除・呼吸抑制の改善	初回0.2mg静注, 4分以内に覚醒状態が得られない場合0.1mgずつ追加 【Max:1mg, ICU領域は2mg】
■その他				
エラスポール ＜シベレスタットナトリウム＞ (小野薬品)		100mg/瓶 ¥4517/瓶	全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善	1日量(4.8mg/kg) 24時間持続静注 ＜14日以内＞

2. 鎮咳去痰剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■中枢性麻薬性鎮咳薬				
リン酸コデイン ＜コデイン＞ (武田)	散(10mg/g) ¥8.1/g		各種呼吸器疾患における鎮咳, 疼痛時における鎮痛, 激しい下痢症状の改善	60mg分3 ＜小児＞1(～4)mg/kg/日
■中枢性非麻薬性鎮咳薬				
アスペリン ＜チペピジン＞ (田辺三菱)	散(100mg/g) ¥10.2/g S Y (5mg/mL) ¥1.8/mL		急性・慢性気管支炎, 感冒, 上気道炎(咽喉頭炎, 鼻カ), 肺炎, 肺結核, 気管支拡張症に伴う咳嗽・喀痰 喀出困難	60～120mg分3 ＜小児＞1歳未満: 5～20mg, 1歳～2歳: 10～25mg, 分3
メジコン ＜デキストロメトर्फ ァン臭化水素酸塩水和 物＞ (塩野義製薬)	15mg/錠 ¥5.6/錠		①感冒, 急性気管支炎, 慢性気管支炎, 気管支拡張症, 肺炎, 肺結核, 上気道炎に伴う咳嗽 ②気管支造影術及び気管支鏡検査時の咳嗽	1回15～30mg, 1日1～4回
■去痰剤				
アンブロキソール ＜アンブロキソール＞ (東和薬品)	15mg/錠 ¥5.6/錠		急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核, 塵肺症, 手術後の喀痰喀出困難, 慢性副鼻腔炎の排膿	45mg分3
カルボシステイン ＜カルボシステイン＞ (高田製薬)	D S (500mg/1g) ¥11.4/g		＜成人＞上気道炎(咽喉頭炎, 喉頭炎), 急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核の去痰, 慢性副鼻腔炎の排膿 ＜小児＞上気道炎(咽喉頭炎, 喉頭炎), 急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核の去痰, 慢性副鼻腔炎の排膿, 滲出性中耳炎の排液	1500mg分3 ＜小児＞30mg/kg/日, 分3
カルボシステイン ＜カルボシステイン＞ (東和薬品)	500mg/錠 ¥7.8/錠		上気道炎(咽喉頭炎, 喉頭炎), 急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核の去痰, 慢性副鼻腔炎の排膿	
ブロムヘキシン塩酸塩 ＜ブロムヘキシン＞ (テバ)		4mg(2mL)/管 ¥56/管	肺結核, 手術後, 塵肺症における経口投与困難な場合の去痰, 気管支造影後の造影剤の排泄促進	4～8mg分1～2筋注, 静注
ムコサール ＜アンブロキソール＞ (パ・リンガー)	D S (15mg/g) ¥38.5/g		急性気管支炎, 気管支喘息の去痰	＜幼・小児＞0.9mg/kg, 分3
ムコソルバンL ＜アンブロキソール＞ (帝人ファーマ)	45mg/錠 【院外のみ】 ¥62.3/錠		急性気管支炎, 気管支喘息, 慢性気管支炎, 気管支拡張症, 肺結核, 塵肺症, 手術後の喀痰喀出困難の去痰	1日1回1錠(45mg)

3. 気管支拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■β2刺激剤 ◆第3世代				
ツロブテロールテープ 「HMT」 ＜ツロブテロール＞ (久光製薬)		0.5mg/枚 ¥24.9/枚 1mg/枚 ¥34.9/枚 2mg/枚 ¥45.4/枚	気管支喘息, 急性気管支炎, 慢性気管支炎, 肺気腫	2mg/日 0.5~3才未満0.5mg 3~9才未満1mg 9才以上2mg
ホクナリン ＜ツロブテロール＞ (ア・ツジ・ヤパン)	D S (1mg/g) ¥29.5/g		気管支喘息, 肺気腫, 急性・慢性気管支炎, 喘息性気管支炎, けい肺症, 塵肺症	0.04mg/kg分2
メブテンミニ ＜プロカテロール＞ (大塚)	25μg/錠 ¥16.7/錠		気管支喘息, 急性・慢性気管支炎, 喘息様気管支炎, 肺気腫	50~100μg/回, 1~2回
■キサンチン系				
アブニション ＜アミノフィリン＞ (エーザイ)		15mg(3mL)/管 ¥139/管	早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)	初回0.8~1.2mg/kg 維持量0.4~1.2mL/kg/日分2~3回。 静脈内注射
テオフィリン ＜テオフィリン＞ (沢井製薬)	D S (200mg/g)【小児のみ】 ¥53/g		気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎	＜小児＞8~16mg/kg分2
テオフィリン徐放錠 ＜テオフィリン＞ (沢井製薬)	100mg/錠 ¥5.6/錠		気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎, 慢性気管支炎, 肺気腫	400~800mg分2 ＜小児＞200~400mg分2
	200mg/錠 ¥5.8/錠			400~800mg分2
ネオフィリン ＜アミノフィリン＞ (エーザイ)		250mg(10mL)/管 ¥92/管	気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎, 閉塞性肺疾患【循環器用薬B-1参照】	0.7~1mg/kg/hr点静
ユニフィルL A ＜テオフィリン＞ (大塚)	200mg/錠 ¥20.2/錠		気管支喘息, 慢性気管支炎, 肺気腫	400mg分1
レスピア ＜カフェインクエン酸塩＞ (ノバルファーマ)		60mg(3mL)/瓶 ¥810/瓶	早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)	初回投与: 20mg/kg, 30分かけて静注 維持投与(初回投与から24時間後以降): 5mg/kg, 1日1回, 10分かけて静注 または経口投与 【Max: 10mg/kg】
■α, β刺激剤				
エフェドリン ＜エフェドリン＞ (日医工)		40mg(1mL)/管 ¥92/管	急性・慢性気管支炎, 感冒, 気管支喘息, 上気道炎(咽喉頭炎, 喘息性気管支炎, 肺結核, 鼻カタル)に伴う鎮咳	25~40mg/回皮下

3. 気管支拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

■抗アレルギー剤

【F参照】				

■ロイコトリエン拮抗薬

キプレス ＜モンテルカストナトリウム＞ (杏林)	10mg/錠 ¥203.5/錠		①気管支喘息 ②アレルギー性鼻炎	①10mg分1就寝前 ②5～10mg分1就寝前
	細粒(4mg/0.5g/包) 【院外のみ】 ¥194.4/包		気管支喘息(1歳以上6歳未満)	4mg分1就寝前
プラナルカスト ＜プラナルカスト＞ (東和薬品)	112.5mg/C ¥28.7/C		気管支喘息 アレルギー性鼻炎	450mg分2, 朝夕食後
	D S (100mg/g) ¥40.7/g		気管支喘息	＜小児＞7mg/kg/日, 分2朝夕食後 【Max: 10mg/kg/日, 450mg/日】

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■呼吸促進剤				
サーファクテン ＜サーファクタント＞ (田辺三菱)		120mg/瓶 ¥86556.5/瓶	呼吸窮迫症候群	120mg/kg気管内注入
■去痰薬				
ブロムヘキシン塩酸塩 ＜ブロムヘキシン＞ (テバ)		吸入液(2mg/mL, 45mL/本) ¥8.9/mL	急性気管支炎, 慢性気管支炎, 肺結核, 塵肺症, 手術後の去痰	6mL分3
■気管支拡張薬(β刺激薬) ◆第2世代				
サルタノールインヘラー ＜サルブタモール＞ (グラクソ・スミスクライン)		(24mg/13.5mL(18g)/瓶) ¥892.6/瓶	気管支喘息, 小児喘息, 急性・慢性気管支炎, 肺気腫, 肺結核	発作時のみ使用 2吸入/回 ＜小児＞1吸入/回 【Max: 4回/日】
ベネトリン ＜サルブタモール＞ (グラクソ・スミスクライン)		吸入液(5mg/mL, 30mL/本) ¥23.6/mL		0.3～0.5mL/回 ＜小児＞0.1～0.3mL/回
■気管支拡張薬(β刺激薬) ◆第3世代				
メブチンキッドエアー(トースカウンター付) ＜プロカテロール＞ (大塚)		エアゾール(0.143mg/g, 2.5mL/瓶) ¥710.4/瓶	気管支喘息, 慢性気管支炎, 肺気腫	発作時のみ使用 4吸入/回 ＜小児＞2吸入/回
メブチン吸入液ユニット ＜プロカテロール＞ (大塚)		吸入液(0.1mg/mL, 0.3mL/管) ¥16.8/管		0.3～0.5mL/回 ＜小児＞0.1～0.3mL/回
		吸入液(0.1mg/mL, 0.5mL/管) ¥22.2/管		
■気管支拡張薬(β刺激薬) ◆長時間作用型				
オンブレス ＜インダカテロール＞ (ノバルティスファーマ)		吸入用カプセル(150μg/1C) ¥143.2/C	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	1C/回, 1回/日 【Max: 1C/日】

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ステロイド薬				
パルミコート200タービュヘイラー ＜ブデソニド＞ (アストラ・ゼネカ)		ドライパウダー(200 μg/吸入, 22.4mg/本) ¥2198.4/本	気管支喘息	100～400 μg/回, 2回/日 【Max: 1600 μg/日】 ＜小児＞100～200 μg/回, 2回/日 【Max: 800 μg/日】
パルミコート吸入液 ＜ブデソニド＞ (アストラ・ゼネカ)		吸入液(0.25mg/2mL/管) ¥257.3/管		0.5mg/回, 2回/日又は1mg/回, 1回/日 ＜6ヶ月以上の乳幼児＞ 0.25mg/回, 2回/日又は0.5mg/回, 1回/日 【Max: 1mg/日】
フルタイド50エアゾール ＜フルチカゾン＞ (ゲラケ・スミスクライン)		エアゾール(50 μg/噴霧) ¥1874.3/個		100 μg/回, 2回/日 【Max: 800 μg/日】 ＜小児＞50 μg/回, 2回/日 【Max: 200 μg/日】

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■気管支拡張薬（β刺激薬）・ステロイド薬 合剤				
アドエア ＜サルメテロール, フ ルチカゾン＞ (グラクソ・スミスクライン)		ドライバークター(サルメテロール:50μg, フルチカゾン:100μg/フリスター) 【院外のみ】 ¥6267.3/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合, 小児も可)	1吸入/回, 2回/日 【Max:10吸入/日】
		ドライバークター(サルメテロール:50μg, フルチカゾン:250μg/フリスター) ¥7208.4/個	気管支喘息, 慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回, 2回/日 【Max:4吸入/日】
		エアール(サルメテロール:25μg, フルチカゾン:125μg/1噴霧) ¥7713.5/瓶		2吸入/回, 2回/日
シムビコートタービューハイラー ＜ホルモテロール, ブ デソニド＞ (アステラス)		ドライバークター(ホルモテロール:4.5μg, ブデソニド:160μg/フリスター) ¥5877.7/個	吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合の ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)	①1回1吸入1日2回【Max:8吸入/日】 ＜発作時＞維持療法に加え1回1吸入 発作持続時はさらに1吸入追加 【Max:1回6吸入】 【維持療法と頓用の合計Max:12吸入/日】 ②1回2吸入1日2回
フルティフォーム ＜ホルモテロール, フ ルチカゾン＞ (杏林)		エアール(ホルモテロール:5μg, フルチカゾン:125μg/1噴霧) ¥6742.2/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	2～4吸入/回, 2回/日
レルベア ＜ビランテロール, フ ルチカゾン＞ (グラクソ・スミスクライン)		ドライバークター(ビランテロール:25μg, フルチカゾン:100μg/フリスター) ¥5987.2/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合) 慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回, 1回/日
		ドライバークター(ビランテロール:25μg, フルチカゾン:200μg/フリスター) ¥6692.6/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	
■抗コリン薬 【長期間作用型】				
エンクラッセエリプタ ＜ウメクリジニウム＞ (グラクソ・スミスクライン)		エリプタ(62.5μg/吸入, 30吸入用/キット) ¥6166.60/キット	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	1日1回1吸入
スピリーバレスピマツト ＜チオトロピウム＞ (バーリンガー)		レスピマツト(2.5μg/吸入, 150μg/本) ¥6879.1/本	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎, 肺気腫), 気管支喘息の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	慢性閉塞性肺疾患:1回2吸入, 1日1回 気管支喘息:1回2吸入(症状に応じて1～2吸入), 1日1回

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗コリン薬（長期間作用型）・気管支拡張薬（ β 刺激薬）合剤				
アノーロエリプタ ＜ウメクリジニウム, ビランテロール＞ (ガラクシ・スミスクライン)		30吸入用/キット ¥8324.2/キット	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β 2刺激剤の併用が必要な場合)	1日1回1吸入
ウルティプロ ＜グリコピロニウム, インダカテロール＞ (ノバルティスファーマ)		吸入用カプセル ¥268.5/C	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(長時間作用性抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β 2刺激剤の併用が必要な場合)	1C/回, 1回/日 【Max: 1C/日】
■その他 【遅効性に使用】				
ステリ・ネブ クロモリン ＜クロモグリク酸ナトリウム＞		吸入液 (10mg/mL, 2mL/管) ¥37.40/管	気管支喘息	20mg/回, 3～4回/日

5. その他

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗線維化剤				
オフエブ ＜ニンテダニブ＞ (日本ベーリンガー・インゲルハイム)	100mg/C ¥4382.9/C		特発性肺線維症	1回150mg, 1日2回朝・夕食後 患者の状態により1回100mg1日2回へ 減量
	150mg/C ¥6574.4/C			

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロトンポンプ阻害剤				
タケキャブ ＜ポノプラザン＞ (武田薬品)	10mg/錠 ¥160.1/錠 20mg/錠 ¥240.2/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎 ③低用量7ｽﾍﾞﾘﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ④非ｽﾍﾞﾘﾝ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑤胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒトリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒトリの除菌の補助	①20mg分1 胃潰瘍: 8週間まで 十二指腸潰瘍: 6週間まで ②20mg分1, 4週間まで 効果不十分時: 8週間まで 再発・再燃の維持療法: 10mg分1, 効果不十分時: 20mg分1 ③④10mg分1 ⑤1回にﾎﾟﾉﾌﾟﾗｻﾞﾝ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200mg の3剤を1日2回, 7日間 ＜上記による除菌が不成功の場合＞ 1回にﾎﾟﾉﾌﾟﾗｻﾞﾝ20mg, ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ﾏﾄﾞﾆﾀﾞﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回, 7日間
タケプロン ＜ランソプラゾール＞ (武田)		30mg/瓶 ¥477/瓶	出血を伴う胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 急性ストレス潰瘍及び急性胃粘膜病変	60mg分2点静, 静注
ネキシウム ＜エソメプラゾール＞ (第一三共)	20mg/C ¥145.1/C		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症【10mgCap】 ④非ｽﾍﾞﾘﾝ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑤低容量7ｽﾍﾞﾘﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑥胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒトリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒトリ除菌の補助	①1日1回20mg 胃潰瘍, 吻合部潰瘍: 8週間まで 十二指腸潰瘍: 6週間まで ②1日1回20mg, 8週間まで 再発・再燃の維持療法: 1日1回10～20mg ③1日1回10mg, 4週間まで ④⑤1日1回20mg ⑥1回にｴｽｵﾒﾌﾟﾗｻﾞｰﾙ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200～400mg の3剤を1日2回, 7日間 ＜上記による除菌が不成功の場合＞ 1回にｴｽｵﾒﾌﾟﾗｻﾞｰﾙ20mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ﾏﾄﾞﾆﾀﾞﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回, 7日間
ラベプラゾールNa ＜ラベプラゾール＞ (東和薬品)	10mg/錠 ¥67.2/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症 ④胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒトリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒトリ除菌の補助	①10～20mg分1 胃潰瘍, 吻合部潰瘍: 8週間まで 十二指腸潰瘍: 6週間まで ②10～20mg分1, 8週間まで 効果不十分時: 20～40mg分2, 8週間追加 【40mg分2は重度粘膜障害に限る】 再発・再燃の維持療法: 10mg分1 ③10mg分1, 4週間まで ④1回にﾗﾍﾞﾌﾟﾗｻﾞｰﾙ10mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ200～400mg の3剤を1日2回, 7日間 ＜上記による除菌が不成功の場合＞ 1回にﾗﾍﾞﾌﾟﾗｻﾞｰﾙ10mg ｱﾓｷｼｼﾘﾝ750mg, ﾏﾄﾞﾆﾀﾞﾞｰﾙ250mg の3剤を1日2回, 7日間

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ランソプラゾールOD <ランソプラゾール> (東和薬品)	15mg/錠 ¥31.5/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison 症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症【15mg錠のみ】 ④低用量7スポット投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制, 非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制【15mg錠のみ】 ⑤胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ピロリ感染胃炎におけるヘルピクター・ピロリ除菌の補助	①1日1回30mg 胃潰瘍, 吻合部潰瘍:8週間まで 十二指腸潰瘍:6週間まで ②1日1回30mg, 8週間まで 再発・再燃の維持療法:1日1回15~30mg ③1日1回15mg, 4週間まで ④1日1回15mg ⑤1回にランソプラゾール30mg アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200~400mg <上記による除菌が不成功の場合> 1回にランソプラゾール30mg アモキシシリン750mg, メトニタゾール250mg の3剤を1日2回, 7日間
	30mg/錠 ¥55.6/錠			

■ヘルピクター・ピロリ除菌治療剤

ボノサップパック400 <ボノプラザン、アモキシシリン、クラリスロマイシン> 略名: AMPC, CAM (武田薬品)	タキヤブ(20)2錠, アモリン(250)6錠, クラリス(20)2錠/シート ¥733.8/シート		胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘルピクター・ピロリ感染症、ヘルピクター・ピロリ感染胃炎	1回にボノプラザン20mg, アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200mg~400mg の3剤を1日2回(1日1シート), 7日間

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■H2受容体拮抗剤				
アシノン ＜ニザチジン＞ (ゼリア)	150mg/錠 ¥33/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎 ③急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん, 出血, 発赤, 浮腫)の改善 《Zollinger-Ellison症候群なし》	①300mg分1就寝前～2朝食後, 就寝前 ②300mg分2朝食後, 就寝前 ③150mg分2朝食後, 就寝前
ファモチジンOD ＜ファモチジン＞ (東和薬品)	10mg/錠 ¥9.9/錠 20mg/錠 ¥16.2/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 逆流性食道炎, 吻合部潰瘍, 上部消化管出血, Zollinger-Ellison症候群 ②胃炎	①40mg分1～2 ②20mg分1～2
ファモチジン ＜ファモチジン＞ (沢井)		10mg/管 ¥95/管 20mg/管 ¥123/管	①Zollinger-Ellison症候群, 上部消化管出血, 侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制 ②麻酔前投薬	①40mg分2静注, 点静, 筋注 ②20mg/回, 麻酔導入1時間前に筋注, 静注
プロテカジンOD ＜ラファチジン＞ (大鵬)	10mg/錠 ¥35.1/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 逆流性食道炎 ②急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん, 出血, 発赤, 浮腫)の改善 ③麻酔前投薬	①20mg分2 ②10mg分1 ③10mg/回, 手術前日就寝前・手術当日麻酔導入2時間前の2回
■プロスタグランジン類				
サイトテック ＜ミソプロストール＞ (科研)	200μg/錠 ¥34.3/錠		非ステロイド性消炎鎮痛剤の長期投与時にみられる胃潰瘍, 十二指腸潰瘍	800μg分4
■抗ペプシン剤				
スクラルファート ＜スクラルファート＞ (日医工)	液(100mg/mL, 10mL/包) ¥25/包		胃・十二指腸潰瘍, 胃炎	30mL分3

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■防御因子増強剤				
ガストローム ＜エカベトナトリウム＞ (田辺三菱)	顆粒(667mg/ g, 1.5g/包) ¥29.25/包		胃潰瘍, 胃炎	3.0g分2
サンメール ＜アルギン酸ナトリウム＞ (サト)	液(50mg/mL) ¥1.02/mL		①胃・十二指腸潰瘍、びらん性胃炎における止血及び自覚症状の改善 ②逆流性食道炎における自覚症状の改善 ③胃生検の出血時の止血	①②60～240mL分3～4 ③10～30mL分1経内視鏡的投与もしくは30mL分1経口投与
スルピリド ＜スルピリド＞ (沢井製薬)	50mg/錠 ¥6.3/錠		胃・十二指腸潰瘍	150mg分3
テブレノン ＜テブレノン＞ (東和薬品)	50mg/C ¥6.2/C 細粒(50mg/0.5g/包) ¥5.95/包		胃潰瘍, 胃炎	
ポラプレジンクOD ＜ポラプレジンク＞ (沢井製薬)	75mg/錠 ¥19.5/錠		胃潰瘍	150mg分2
レバミピド ＜レバミピド＞ (エルメット・エーザイ)	100mg/錠 ¥9.9/錠		胃潰瘍, 胃炎	300mg分3
■配合剤				
トーフズレン ＜配合剤＞ (東和薬品)	顆粒(0.67g/包) ¥6.4/包		胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃炎	1.5～2g分3～4

2. 制酸剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■吸収性				
炭酸水素ナトリウム ＜炭酸水素ナトリウム＞ (マイラン)	末 ¥0.74/g		＜経口＞胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善, アトピー性皮膚炎の改善, 尿酸排泄の促進と痛風発作の予防 ＜含嗽・吸入＞上気道炎の補助療法(粘液溶解)	＜経口＞1日3～5g数回に分割 ＜含嗽・吸入＞1回量1～2%液100mL, 1日数回

■非吸収性Mg・Al化合物

アシドレス ＜配合剤＞ (カゲン)	懸濁液 ¥1.28/mL		胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常	16～48mL分数回
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田)	細粒84%(0.4g/包) ¥5.04/包		①胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防	①0.5～1g, 分数回 ②2g分1～3 ③0.2～0.6g/日, 多量の水と共に
	細粒84%(0.6g/包) ¥7.56/包			
	細粒84%(0.8g/包) ¥10.08/包			
	細粒84%(1.2g/包) ¥15.12/包			
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田製薬)	錠(330mg/錠) ¥5.6/錠			

3. 健胃消化薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■健胃消化製剤				
F K散 ＜配合剤＞ (扶桑)	末(1.3g/包) ¥8.06/包		食欲不振, 胃部不快感, 胃もたれ, 嘔気・嘔吐の改善	2.6～3.9g分2～3
■乳糖分解酵素製剤				
ガランターゼ ＜β-ガラクトシダーゼ＞ (田辺三菱)	散(250mg/0.5g/包) ¥20/包		乳糖不耐症	0.25～0.5g/回
■総合消化酵素製剤				
タフマック E ＜配合剤＞ (小野薬品)	カブセル ¥6.2/C		消化異常症状の改善	2～60分2～3
ベリチーム ＜配合剤＞ (オノキ)	顆粒(1g/包) ¥12.1/包			1.2～3g分3

4. 止瀉・整腸薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■タンニン酸系				
タンニン酸アルブミン ＜タンニン酸アルブミン＞ (丸石)	末 ¥7.2/g		下痢症	3～4g分3～4
■その他				
ロペラミド塩酸塩細粒 小児用0.05%「タイヨー」 ＜ロペラミド＞ (テバ製薬)	小児用細粒(0.5mg/g) ¥12.7/g		急性下痢症	1～2mg分1～2 ＜小児＞0.02～0.04mg/kg, 分2～3
ロペラミド錠1mg「EMEC」 ＜ロペラミド＞ (エルメット・エーザイ)	1mg/錠 ¥8.5/錠		下痢症	
■乳酸菌製剤				
ビオフェルミン ＜乳酸菌製剤＞ (ビオフェルミン)	散 ¥6.2/g		腸内菌叢の異常による諸症状の改善	3～9g分3
ビオフェルミンR ＜耐性乳酸菌製剤＞ (ビオフェルミン)	散 ¥6.2/g		抗生物質, 化学療法剤投与時の腸内菌叢の異常による諸症状の改善	3g分3
	散(1g/包) ¥6.2/包			
	錠 ¥5.8/錠			3錠分3
ビオフェルミン ＜乳酸菌製剤＞ (ビオフェルミン)	散(1g/包) ¥6.2/包		腸内菌叢の異常による諸症状の改善	3～9g分3
	錠 ¥5.6/錠			3～6錠分3

5. 下剤・浣腸用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■塩類性下剤				
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田)	細粒84%(0.4g/包) ¥5.04/包 細粒84%(0.6g/包) ¥7.56/包 細粒84%(0.8g/包) ¥10.08/包 細粒84%(1.2g/包) ¥15.12/包		①胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防	①0.5~1g, 分数回 ②2g分1~3 ③0.2~0.6g/日, 多量の水と共に
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田製薬)	錠(330mg/錠) ¥5.6/錠			
マグコロールP ＜クエン酸マグネシウム＞ (堀井)	50g/包 ¥390/包		大腸検査(X線・内視鏡)前処置における腸管内容物の排除, 腹部外科手術時における前処置用下剤	＜高張液投与＞ 40~50g(水120~150mLに溶解)を検査予定時10~15時間前に経口 ＜等張液投与＞ 100gを水に溶解し全量1800mLとし検査予定時間の4時間以上前に200mLずつ約1時間かけて経口
■大腸刺激性下剤				
アローゼン ＜センナ・センナ実＞ (ホーラファルマ)	末(0.5g/包) ¥3.8/包		便秘(痙れん性便秘除く)	0.5~1g/回, 1~2回
センノシド ＜センノサイドA・B＞ (東和薬品)	12mg/錠 ¥5/錠		便秘症	12~24~(48)mg分1
テレミンソフト ＜ピサコジル＞ (味の素)		2mg/坐剤 ¥19.3/個	便秘症, 消化管検査時・手術前後の排便促進	＜小児＞1号坐剤1~2個分1~2
		10mg坐剤 ¥20.6/個		3号坐剤1~2個分1~2
ピコスルファートナトリウム ＜ピコスルファート＞ (日医工)	液(7.5mg/g, 10mL/本) ¥98/本		①各種便秘症 ②術後排便補助 ③造影剤投与後の排便促進 ④大腸検査前処置における腸管内容物の排除	①10~15滴(0.67~1.0mL)分1, ＜小児＞6ヵ月以下2滴(0.13mL), 7~12ヵ月3滴(0.20mL), 1才~3才6滴(0.40mL), 4~6才7滴(0.46mL) ②10~15滴(0.67~1.0mL)分1, ③6~15滴(0.40~1.0mL) ④検査予定時間の10~15時間前に20mL
■クロライドチャンネル活性化下剤				
アミティーザ ＜ルビプロストン＞ (アムネオジャパン)	24 μ g/C 【院外のみ】 ¥161.1/C		慢性便秘症(器質的疾患による便秘を除く)	2錠, 分2

5. 下剤・浣腸用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■経口末梢性μオピオイド受容体拮抗薬				
スインプロイク錠0.2mg ＜ナルデメジントシル 酸塩＞ (塩野義製薬) 投与制限：14日△ (平成30年5月末まで)	0.2mg/錠 ¥272.10/錠		オピオイド誘発性便秘症	1錠, 分1
■膨張性下剤				
カルボキシメチルセル ロース ＜カルボキシメチルセ ルロース＞ (丸石)		1%液 【院内製剤】	便秘症	1.5～6g分3
		2%液 【院内製剤】		
■浣腸剤				
グリセリン ＜グリセリン＞ (健栄)		25%液 【院内製剤】	浣腸用薬	30～60mL
ケンエーG 浣腸液 ＜グリセリン＞ (健栄)		30mL/本 ¥107.9/本	便秘, 腸疾患時の排 便	10～150mL/回
		60mL/本 ¥103.9/本		
■経口洗腸液				
ニフレック ＜配合剤＞ (味の素)	137.155g/包 (2L分) ¥1071.9/包		大腸内視鏡検査, バリ ウム注腸X線造影検査 及び大腸手術時の前 処置における腸管内 内容物の排除	1袋を水に溶解2Lとし, 約1L/時間で 経口, 排泄液が透明になった時点で 投与終了【Max: 4L/2袋】
モビブレップ ＜配合剤＞ (味の素)	244.212g/袋 (2L分) ¥2259.3/袋		大腸内視鏡検査・大 腸手術時の前処置に おける腸管内容物の 排除	1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とし, 約1L/ 時間で経口投与 約1L投与した後, 水又はお茶を約0.5L飲用 排泄液が透明になった時点で投与を終了し, 投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用 する。【Max: 2L/1袋】

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■肝臓用薬				
アデラビン 9号 <配合剤> (三和化学)		2mL/管 ¥257/管	慢性肝疾患, 湿疹・皮膚炎群, 口唇炎・口角炎・口内炎, びまん性表層角膜炎でビタミンB2の欠乏又は代謝障害によるもの, ビタミンB2の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦等)	1~2mL/日, 分1~2皮下, 筋注, 静注
強力ネオミノファーゲンシーP <グリチルリチン配合剤> (エーザイ)		20mL/管 ¥125/管	①慢性肝疾患における肝機能異常の改善 ②湿疹・皮膚炎, 蕁麻疹, 皮膚そう痒症, 薬疹・中毒疹, 口内炎, 小児ストロフルス, フリクテン	①40~100mL分1静注または点静 ②5~20mL分1静注
強力ネオミノファーゲンシー <グリチルリチン配合剤> (エーザイ)		40mL/シリンジ ¥340/シリンジ		
グリチロン <グリチルリチン配合剤> (エーザイ)	錠剤 ¥5.6/錠		慢性肝疾患, 脱毛症	6~9錠分3 <小児>3錠分3
■高アンモニア血症用薬				
カロリールゼリー <ラクツロース> (佐藤)	ゼリー (16.05g/個) 【1個あたりシリンジ10mLに相当】 ¥53.0/個		①高アンモニア血症 ②産婦人科術後の排ガス, 排便	①3~6個分3 ②3~6個分2
ピアーレ <ラクツロース> (日本化薬)	S Y (650mg/mL) ¥4.8/mL		①高アンモニア血症 ②産婦人科術後の排ガス, 排便 ③小児便秘症	①30~60mL分3 ②30~60mL分2 ③0.5~2mL/kg分3

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インターフェロン製剤				
スミフェロンDS <インターフェロン- α > (大日本住友)		300万国際単位/ 筒 ¥6549/筒	①腎癌, 多発性骨髄腫, ヘリ細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セグメント1の血中HCV RNA量が高い場合を除く) ⑤亜急性硬化性全脳炎におけるイソシプラハクスとの併用による臨床症状の進展抑制 ⑥HTLV-I脊椎症(HAM)	①300~600万単位/日皮下, 筋注 ②300~600万単位/日皮下, 筋注 ③300~900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300~600万単位/日週3回皮下, 筋注 ⑤100~300万単位/日週1~3回髄腔内(脳室内を含む)投与(イソシプラハクス併用) ⑥300万単位/日皮下, 筋注
		600万国際単位/ 筒 ¥12424/筒	①腎癌, 多発性骨髄腫, ヘリ細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セグメント1の血中HCV RNA量が高い場合を除く)	①300~600万単位/日皮下, 筋注 ②300~600万単位/日皮下, 筋注 ③300~900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300~600万単位/日週3回皮下, 筋注
ペガシス皮下注 <ペグインターフェロン- α -2a> (中外)		90 μ g/瓶 【用時購入】 ¥14376/瓶	①C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 ②リバビリンとの併用による以下のいずれかのC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 i) セグメント1(ジェノタイプ I (1a) 又は II (1b)) でHCV-RNA量が高い患者 ii) インターフェロン単独療法で無効又はインターフェロン単独療法後再燃した患者 ③リバビリンとの併用によるC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 ④B型慢性活動性肝炎におけるウイルス血症の改善	①1回180 μ g, 週1回皮下 ②<リバビリン併用> 1回180 μ g, 週1回皮下 ③<リバビリン併用> 1回90 μ g, 週1回皮下 ④1回90~180 μ g, 週1回皮下

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ペガシス皮下注 ＜ペグインターフェロ ン-α-2a＞ (中外)		180 μg/瓶 【用時購入】 ¥27920/瓶	①C型慢性肝炎にお けるウイルス血症の改善 ②リバビリンとの併用 による以下のいずれ かのC型慢性肝炎に おけるウイルス血症の改 善 i) セクアル-1(ジェノ タイプ I (1a) 又は II (1 b)) でHCV-RNA量が高 値の患者 ii) インターフェロン単 独療法で無効又はイン ターフェロン単独療法後再燃 した患者 ③B型慢性活動性肝 炎におけるウイルス血 症の改善	①1回180 μg, 週1回皮下 ②＜リバビリン併用＞ 1回180 μg, 週1回皮下 ③1回90～180 μg, 週1回皮下
ペグイントロン ＜ペグインターフェロ ン-α-2b＞ (MSD)		100 μg (0.5mL) / 瓶 ¥30607/瓶	①リバビリンとの併用 による次のいずれか のC型慢性肝炎にお けるウイルス血症の改善 1) 血中HCV RNA量が 高値の患者 2) インターフェロン製剤単 独療法で無効の患者 又はインターフェロン製剤単 独療法後再燃した患 者 ②リバビリンとの併用 によるC型代償性肝 硬変におけるウイルス 血症の改善 ③悪性黒色腫におけ る術後補助療法	①＜リバビリンと併用＞1.5 μg/kg/回, 週 1回皮下 ②＜リバビリンと併用＞1.0 μg/kg/回, 週 1回皮下 ③8週目まで: 6 μg/kg/回, 週1回皮下 9週目以降: 3 μg/kg/回, 週1回皮下

■抗ウイルス化学療法剤 ◆B型肝炎治療剤

ゼフィックス ＜ラミブジン＞ (ゲラックスミスクライン)	100mg/錠 ¥532.8/錠		B型肝炎ウイルスの増殖 を伴い肝機能の異常 が確認されたB型慢 性肝疾患におけるB 型肝炎ウイルスの増殖抑 制	100mg分1
テノゼット ＜テノホビル ジソプロ キシルフマル酸塩＞ (ゲラックスミスクライン)	300mg/錠 【用時購入】 ¥996.5/錠		B型肝炎ウイルスの増殖 を伴い肝機能の異常 が確認されたB型慢 性肝疾患におけるB 型肝炎ウイルスの増殖抑 制	300mg, 分1
バラクルード ＜エンテカビル水和物 ＞ (ブリストル)	0.5mg/錠 【用時購入】 ¥1061.8/錠		B型肝炎ウイルスの増殖 を伴い肝機能の異常 が確認されたB型慢 性肝疾患におけるB 型肝炎ウイルスの増殖抑 制	0.5mg分1, 空腹時 (ラミブジン不応患者には) 1mg分1, 空腹 時

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ウイルス化学療法剤 ◆C型肝炎治療剤				
ヴィキラックス ＜オムビタスビル水和物、パリタプレビル水和物、リトナビル＞ (アッガイ)	配合錠 【院外のみ】 ¥23057.5/錠		①セググループ1(ジェノタイプ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 ②セググループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善	①1日1回2錠, 12週間 ②1日1回2錠, 16週間(リバビリン併用)
エレルサ ＜エルバスビル＞ (MSD) 投与制限: 14日△ (平成29年11月末まで)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥26,900.5/錠		セググループ1(ジェノタイプ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1回50mg1日1回(クラジフルビル併用), 12週間
グラジナ ＜グラソプレビル＞ (MSD) 投与制限: 14日△ (平成29年11月末まで)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥9,607.3/錠		セググループ1(ジェノタイプ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1回100mg1日1回(エンバスビル併用), 12週間
コペガス ＜リバビリン＞ (アステラス)	200mg/錠 ¥789.2/錠		①次のいずれかのC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 i)セググループ1(ジェノタイプ1(1a)又はII(1b))でHCV-RNA量が高値の患者 ii)インターフェロン製剤単独療法で無効の患者又はインターフェロン製剤単独療法後再燃した患者 ②C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 ③ソホブールとの併用による次のいずれかのC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 i)セググループ2(ジェノタイプ2)の患者 ii)セググループ1(ジェノタイプ1)又はセググループ2(ジェノタイプ2)のいずれにも該当しない患者	＜ペグインターフェロンα-2aまたはソホブールと併用すること＞ 600～1000mg分2 体重60kg以下: 600mg/日 体重60kgを越え80kg以下: 800mg/日 体重80kg以上: 1000mg/日 ペグインターフェロンα-2a: 週1回皮下注 ①180μg, ②90μg
ソバルディ ＜ソホスブビル＞ (ギリアド・サイエンズ)	400mg/錠 【院外のみ】 ¥42239.6/錠		次のいずれかのC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 1)セググループ2(ジェノタイプ2)の患者 2)セググループ1(ジェノタイプ1)又はセググループ2(ジェノタイプ2)のいずれにも該当しない患者	1回400mg1日1回(リバビリン併用), 12週間

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ハーボニー配合錠 ＜レジパスビル，ソホスブビル＞ (ギリアド・サイエンス)	錠 【院外のみ】 ¥54796.9/錠		セロゲルブ1(ジェノタイプ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1日1回1錠，12週間
レベトール ＜リバビリン＞ (MSD)	200mg/C ¥580.1/C		①インターフェロン α -2b，ペグインターフェロン α -2b又はインターフェロン β との併用による次のいずれかのC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 1)血中HCV RNA量が高値の患者 2)インターフェロン製剤単独療法で無効の患者又はインターフェロン製剤単独療法後再燃した患者 ②ペグインターフェロン α -2bとの併用によるC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 ③ソホスブビルとの併用による次のいずれかのC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 1)セロタイプ2(ジェノタイプ2)の患者 2)セロゲルブ1(ジェノタイプ1)又はセロゲルブ2(ジェノタイプ2)のいずれにも該当しない患者 ④エタシビル水和物・パリタビル水和物・リタビル配合剤との併用によるセロゲルブ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善	①③④600～1000mg分2 体重60kg以下600mg/日 体重60kg以上80kg以下800mg/日 体重80kg以上1000mg/日 ②600～1000mg分2 投与開始前のヘモグロビン濃度が14g/dL以上の患者 体重60kg以下600mg/日 体重60kg以上80kg以下800mg/日 体重80kg以上1000mg/日 投与開始前のヘモグロビン濃度が14g/dL未満の患者 体重60kg以下400mg/日 体重60kg以上80kg以下600mg/日 体重80kg以上800mg/日

■利胆薬

ウルソ ＜ウルソデオキシコール酸＞ (田辺三菱)	顆粒(50mg/g) ¥7.4/g		①胆道(胆管・胆嚢)系疾患・肝疾患における利胆，慢性肝疾患，消化不良 ②コレステロール系胆石の溶解	①150mg分3 ＜小児＞1才40mg， 3才50mg，分3 ②600mg分3
ウルソデオキシコール ＜ウルソデオキシコール酸＞ (東和薬品)	100mg/錠 ¥6.5/錠		①胆道(胆管・胆嚢)系疾患・肝疾患における利胆，慢性肝疾患，消化不良 ②コレステロール系胆石の溶解 ③原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善 ④C型慢性肝疾患における肝機能の改善	①150mg分3 ＜小児＞1才40mg， 3才50mg，分3 ②600mg分3 ③600mg分3 【Max:900mg】 ④600mg分3 【Max:900mg】

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■膵酵素阻害薬				
カモスタットメシル酸塩 ＜カモスタット＞ (東和薬品)	100mg/錠 ¥10.2/錠		①慢性膵炎における急性症状の緩解 ②術後逆流性食道炎	①600mg分3 ②300mg分3食後
コアヒビター ＜ナファモスタット＞ (陽進堂)		10mg/瓶 ¥338/瓶	①急性膵炎、慢性膵炎の急性増悪、術後の急性膵炎、膵管造影後の急性膵炎、外傷性膵炎の改善 ②DIC ③体外循環時の凝固防止	①10mg/回、1日1～2回点静(約2時間) ②0.06～0.2mg/kg/hr, 24時間持続点静 ③【DI照会参照】
		50mg/瓶 ¥794/瓶	①DIC ②体外循環時の凝固防止	①0.06～0.2mg/kg/hr, 24時間持続点静 ②【DI照会参照】
ミラクリッド ＜ウリナスタチン＞ (持田)		2.5万単位/管 ¥942/管	①急性膵炎、慢性再発性膵炎の急性増悪期 ②急性循環不全	①初期量25000～50000単位/回、1～3回/日静注、点静 ②10万単位/回、1～3回/日、静注、点静 ＜小児＞5000単位/kg/回1日2回
		10万単位/管 ¥2177/管		
レミナロン ＜ガベキサート＞ (オノキ)		100mg/瓶 ¥165/瓶	①急性膵炎・慢性再発性膵炎の急性増悪期・術後の急性膵炎 ②DIC	①100mg/回、1～3回/日、点静 ②20～39mg/kg/日 24時間持続静注
		500mg/瓶 ¥699/瓶	DIC	20～39mg/kg/日 24時間持続静注

7. 消化管運動調整薬・制吐薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■消化管運動調整薬				
オビソート ＜アセチルコリン＞ (第一三共)		100mg/管(溶解液2mL付) ¥364/管	①麻酔後の腸管麻痺 急性胃拡張 ②円形脱毛症	①100mg/回, 1日1～2回皮下, 筋注 ②100g/回/週皮内
ガナトン ＜イトブリド＞ (アボットジャパン)	50mg/錠 ¥16.7/錠		慢性胃炎に伴う消化器症状	150mg分3
トリメブチンマレイン酸塩 ＜トリメブチン＞ (東和薬品)	100mg/錠 ¥5.60/錠		①慢性胃炎 ②過敏性腸症候群	①300mg分3 ②300～600mg分3
ドンペリドン ＜ドンペリドン＞ (エルメット・エーザイ)	10mg/錠 ¥5.8/錠		下記疾患および薬剤投与時の消化器症状 ＜成人＞慢性胃炎, 胃下垂症, 胃切除後症候群, 抗悪性腫瘍剤またはレボドパ製剤投与時 ＜小児＞周期性嘔吐症, 上気道感染症, 抗悪性腫瘍剤投与時	1回5～10mg 1日3回 ＜小児＞1～2mg/kg/日, 分3 【Max: 30mg/日, 6歳以上は1mg/kg/日まで】
ナウゼリン ＜ドンペリドン＞ (協和発酵キリン)		10mg坐剤 ¥57.8/個	消化管機能の亢進	60mg/回, 2回 ＜小児＞30mg/回, 2回 ＜3歳未満＞10mg/回, 2～3回
		30mg坐剤 ¥95.6/個		
		60mg坐剤 ¥129.3/個		
プリンペラン ＜メトクロプラミド＞ (アステラス)	S Y (1mg/mL) ¥3.17/mL		消化器機能異常, X線検査時のバリウムの通過促進	＜小児＞0.5～0.7mg/kg分2～3
		10mg (2mL)/管 ¥57/管		10mg/回1～2回筋注・静注
ペラプリン ＜メトクロプラミド＞ (アバ製薬)	5mg/錠 ¥5.6/錠			2～6錠分2～3 ＜小児＞0.5～0.7mg/kg分2～3
モサプリド ＜モサプリド＞ (沢井薬品)	5mg/錠 ¥9.9/錠		①慢性胃炎に伴う消化器症状	①15mg分3

7. 消化管運動調整薬・制吐薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

■制吐薬 ◆5-HT₃拮抗薬

アロキシ ＜パロノセトロン＞ (大鵬)		0.75mg(5mL)/瓶 ¥14937/瓶	抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)(遅発期を含む)	0.75mg静注または点静
カイトリル ＜グラニセトロン＞ (中外)	1mg/錠 ¥572.1/錠		抗悪性腫瘍剤投与及び放射線照射に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)	2mg分1
		1mg(1mL)/管 ¥1485/管	①抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐) ②放射線照射に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)	①40μg/kg静注,点静 症状改善ない場合同量追加 ＜小児＞40μg/kg点静 症状改善ない場合同量追加 ②40μg/kg点静 【Max:1日2回】
グラニセトロン ＜グラニセトロン＞ (Meiji)		バッグ3mg(100mL)/袋 ¥1978/袋		
ナゼア ＜ラモセトロン＞ (アステラス)		0.3mg(2mL)/管 ¥4345/管	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐	0.3mg静注, 症状改善ない場合同量追加
ナゼアOD ＜ラモセトロン＞ (アステラス)	0.1mg/錠 ¥1215.5/錠		抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)	0.1mg分1

■制吐薬 ◆選択的NK₁拮抗薬

イメンド ＜アプレピタント＞ (小野薬品)	80mg/C ¥3393/C		抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)(遅発期を含む)	＜他の制吐剤と併用＞ 成人及び12歳以上の小児 抗悪性腫瘍剤投与1日目:125mg 2日目以降:80mg,分1
	125mg/C ¥4972.7/C			
プロイメンド ＜ホスアプレピタント＞ (小野薬品)		150mg/瓶 ¥14705/瓶		＜成人及び12歳以上の小児＞ 他の制吐剤と併用し,抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回150mg,点静 ＜生後6ヵ月以上の乳幼児及び12歳未満の小児＞ 他の制吐剤と併用し,抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回3mg/kg,点静【Max:150mg】

■制吐薬 ◆その他

ノバミン ＜プロクロルペラジン＞ (オノギ)	5mg/錠 ¥9.6/錠		①統合失調症 ②悪心・嘔吐	①15～45mg/日 ②5～20mg/日

8. 鎮痙剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アトロピン注0.05%シリンジ <アトロピン> (テルモ)		0.5mg(1mL)/筒 ¥152/筒	①胃・十二指腸潰瘍における分泌並びに運動亢進, 胃腸の痙攣性疼痛, 痙攣性便秘, 胆管・尿管の痙攣, 副交感神経興奮剤の中毒, 迷走神経性徐脈・迷走神経性房室伝導障害, 麻酔前投薬, その他の徐脈及び房室伝導障害, ECTの前投与 ②有機リン系殺虫剤の中毒	①0.5mg/回皮下, 筋注, 静注 ②軽症:0.5~1mg皮下 中等症:1~2mg皮下, 筋注, 静注 重症:2~4mg静注
塩酸パパペリン <パパペリン> (日医工)		40mg(1mL)/管 ¥92/管	①胃炎, 胆道(胆管・胆嚢)系疾患に伴う内臓平滑筋の痙攣症状, 末梢循環障害, 冠循環障害における血管拡張と症状の改善 ②急性動脈栓塞 ③急性肺栓塞	①30~50mg/回, 100~200mg/日, 皮下, 筋注 ②50mg/回, 動注 ③50mg/回, 静注
トランコロン <メペンゾラート> (アストラ)	7.5mg/錠 【院外のみ】 ¥5.6/錠		過敏大腸症	45mg分3
ブスコパン <ブチルスコポラミン> (パナソニック)	10mg/錠 ¥6.9/錠		胃・十二指腸潰瘍, 食道痙攣, 幽門痙攣, 胃炎, 腸炎, 腸痙攣, 痙攣性便秘, 機能性下痢, 胆道疾患, 尿路結石, 膀胱炎, 月経困難症	30~100mg分3~5
ブチルスコポラミン臭化物 <ブチルスコポラミン> (日医工)		20mg(1mL)/管 ¥56/管	胃・十二指腸潰瘍, 食道痙攣, 幽門痙攣, 胃炎, 腸炎, 腸痙攣, 痙攣性便秘, 機能性下痢, 胆のう・胆管炎, 胆石症, 胆道ジスキネジー, 胃・胆のう切除後の後遺症, 尿路結石, 膀胱炎, 月経困難症, 胃切除後の後遺症, 器具挿入による尿道・膀胱痙攣, 分娩時の子宮下部痙攣, 消化管のX線及び内視鏡検査の前処置	10~20mg皮下, 筋注, 静注

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■炎症性腸疾患用薬				
アサコール ＜メサラジン＞ (協和発酵キリン)	400mg/錠 ¥76.2/錠		潰瘍性大腸炎（重症を除く）	2400mg分3 寛解期は、2400mg分1も可 活動期は、3600mg分3 ★pH7以上で薬剤を放出するpH依存型放出調整製剤 主に回腸末端から大腸全域に薬剤放出
サラゾスルファピリジン ＜サラゾスルファピリジン＞ (テバ製薬)	500mg/錠 ¥9.40/錠		潰瘍性大腸炎、限局性腸炎、非特異性大腸炎	4～8～(16)錠分4～6
ゼンタコート ＜ブテソニド＞ (ザリア新薬工業) 投与制限：14日△ (平成29年11月末まで)	3mg/C ¥256.9/錠		軽症から中等症の活動期クローン病	9mg分1朝
プレドネマ ＜プレドニゾン＞ (杏林)		注腸用 ¥679.2/本	潰瘍性大腸炎、限局性腸炎	1個/回、直腸内注入
ペンタサ ＜メサラジン＞ (杏林)		1g/坐剤 ¥293.9/個	潰瘍性大腸炎（重症を除く）	1日1個、直腸内挿入
		注腸用 ¥724.9/本		1日1個、直腸内注入
	顆粒(1000mg/1.06g/包) ¥174.8/包 顆粒(2000mg/2.12g/包) ¥349.6/包		①潰瘍性大腸炎（重症を除く） ②加齢病	①1日1,500mg、分3(寛解期は分1も可)【Max:2,250mg】 活動期:1日4,000mg、分2 ＜小児＞1日30～60mg/kg、分3【Max:2,250mg】 ②1日1,500mg～3,000mg、分3 ＜小児＞1日40～60mg/kg、分3
メサラジン ＜メサラジン＞ (東和薬品)	500mg/錠 ¥52.5/錠		①潰瘍性大腸炎(重症を除く) ②加齢病	①1500～2250mg分3 寛解期:1500mg分1も可 活動期:4000mg分2(8週まで) ＜小児＞30～60mg/kg/日、分3【Max:2250mg分3】 ②1500～3000mg分3 ＜小児＞40～60mg/kg/日、分3 ★小腸から大腸までの全域で薬剤が放出される時間依存型徐放製剤
リアルダ ＜メサラジン＞ (持田製薬) 投与制限：14日△ (平成29年11月末まで)	1200mg/錠 ¥212.0/錠		潰瘍性大腸炎(重症を除く)	2400mg分1 活動期:4800mg分1
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ (オノキ)		0.5mg/坐剤 ¥73.1/個	潰瘍性大腸炎(直腸炎型)	0.5～2mg分1～2、直腸内挿入
		1mg/坐剤 ¥103.2/個		

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■過敏性腸症候群治療剤				
イリボー ＜ラモセトロン＞ (アステラス)	2.5 μ g/錠 【院外のみ】 ¥88.3/錠		下痢型過敏性腸症候群	男性:5 μ g分1【Max:10 μ g/日】 女性:2.5 μ g分1【Max:5 μ g/日】
	5 μ g/錠 【院外のみ】 ¥144.2/錠			
コロネル ＜ポリカルボフィルカルシウム＞ (アステラス)	細粒(1000mg/ 1.2g/包) 【院外のみ】 ¥30.96/包		過敏性腸症群における便通異常(下痢,便秘)及び消化器症状	1.5~3.0g分3 (錠:3~6錠,細粒:1.8~3.6g)
	500mg/錠 ¥16.5/錠			
リンゼス ＜リナクロチド＞ (アステラス) 投与制限:14日△ (平成30年2月末まで)	0.25mg/錠 ¥92.4/錠		便秘型過敏性腸症候群	0.5mg分1食前

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ヒトTNF α モノクローナル抗体				
ヒュミラ <アダリムマブ> (エーザイ)		40mg (0.4mL) / 筒 ¥65144/筒	①関節リウマチ ②尋常性乾癬、関節症性乾癬 ③強直性脊椎炎 ④多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 ⑤腸管型ヘーシェット病 ⑥非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎 ⑦中等症又は重症の活動期にあるクローン病の緩解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る) ⑧中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)	①③40mg/2週皮下注【Max: 80mg】 ②初回80mg, 以後40mg/2週皮下注【Max: 80mg】 ④体重15~30kg: 20mg/2週皮下注 体重30kg以上: 40mg/2週皮下注 ⑤⑧初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 ⑥初回80mg, 1週後40mg, 3週後以降40mg/2週皮下注 ⑦初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 効果が減弱した場合80mg/2週に増量可
		80mg (0.8mL) / 筒 ¥126272/筒	①関節リウマチ ②尋常性乾癬、関節症性乾癬 ③強直性脊椎炎 ④腸管型ヘーシェット病 ⑤非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎 ⑥中等症又は重症の活動期にあるクローン病の緩解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る) ⑦中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)	①③40mg/2週皮下注【Max: 80mg】 ②初回80mg, 以後40mg/2週皮下注【Max: 80mg】 ④⑦初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 ⑤初回80mg, 1週後40mg, 3週後以降40mg/2週皮下注 ⑥初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 効果が減弱した場合80mg/2週に増量可
レミケード <インフリキシマブ> (田辺三菱)		100mg/瓶 ¥83243/瓶	①関節リウマチ ②ヘーシェット病による難治性網膜ぶどう膜炎 ③尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症 ④強直性脊椎炎 ⑤腸管型ヘーシェット病、神経型ヘーシェット病、血管型ヘーシェット病 ⑥川崎病の急性期 ⑦中等度から重度の活動期または外瘻を有するクローン病の治療及び維持療法 ⑧中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療	①3mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔【Max: 10mg/kg】 ②⑧5mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔 ③5mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔<最短の投与間隔4週間> 【投与間隔8週の場合Max: 10mg/kg】 【投与間隔短縮の場合Max: 6mg/kg】 ④5mg/kg分1点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後6~8週間隔 ⑤⑦5mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔<最短の投与間隔4週間> 6週の投与以後, 効果減弱の場合: 10mg/kg/回で可 投与間隔を短縮する場合: 5mg/kg/回 ⑥5mg/kg分1, 単回点静

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
ガスコン ＜ジメチコン＞ (キッセイ)	40mg/錠 ¥5.6/錠 ドロップ(20mg/ mL) ¥3.7/mL		①胃腸内消泡剤 ②胃腸管内のガスに 起因する腹部症状の 改善	①40～80mg, 検査15～40分前に約10m Lの水とともに ②120～240mg分3
サリベート ＜人工唾液＞ (帝人)		50g/本 ¥604.9/本	シェーグレン症候群によ る口腔乾燥症, 頭頸 部の放射線照射によ る唾液腺障害に基づ く口腔乾燥症	1～2秒間噴霧/回, 4～5回/日口腔内噴霧
ランコロ ＜メペンソラート＞ (アステラス)	7.5mg/錠 【院外のみ】 ¥5.6/錠		過敏大腸症	45mg分3

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非麻薬性鎮痛剤 【麻薬についてはU参照】				
トラマールOD ＜トラマドール＞ (日本新薬)	25mg/錠 ¥38.6/錠		非オピオイド鎮痛剤で治療困難な各種癌における鎮痛, 慢性疼痛	100～300mg分4【Max:100mg/回, 400mg/日】
ワントラム ＜トラマドール＞ (ファイザー)	100mg/錠 ¥119.1/錠			100～300mg分1【Max:400mg/日】
トラムセット ＜トラマドール, アセトアミノフェン＞ (ヤンセンファーマ)	37.5mg/325mg/錠 ¥70.1/錠		＜非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合＞ ①非がん性慢性疼痛 ②抜歯後の疼痛	①4錠分4 ②2錠/回, 4時間以上あけて2錠/回追加投与可 【Max:8錠/日, 2錠/回】
ノルスパンテープ ＜ブプレノルフィン＞ (久光製薬) 投与制限: 14日		5mg/枚 ¥1572.8/枚	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な変形性関節症, 腰痛症に伴う慢性疼痛における鎮痛	初回貼付用量: 5mg, 症状に応じて適宜増減【Max:20mg】 7日毎に貼り替え 前胸部, 上背部, 上腕外部又は側胸部に貼付
		10mg/枚 ¥2423.7/枚		
ソセゴン ＜ベンタゾシン＞ (丸石製薬)		15mg(1mL)/管 ¥65/管	①各種癌, 術後, 心筋梗塞, 胃・十二指腸潰瘍, 腎・尿路結石, 閉塞性動脈炎, 胃・尿路・膀胱検査器具使用時における鎮痛 ②麻酔前投薬・麻酔補助	①15mg/回, 筋注, 皮下, 必要に応じて3～4時間毎反復注射 ②30～60mg筋注, 皮下, 静注
■感冒用薬				
PL ＜サリチルアミド配合剤＞ (オノギ)	顆粒(1g/包) ¥6.4/包		感冒, 上気道炎	4g分4 【禁忌: 2歳未満の乳幼児】
■頭痛用薬 ◆5-HT _{1B/1D} 選択的作用薬				
イミグラン ＜スマトリプタン＞ (グラクソ・スミスクライン)		3mg(1mL)/管 ¥3100/管	片頭痛, 群発頭痛	3mg/回皮下 【Max:3mg/回, 6mg/日】
ゾーミッグRM ＜ゾルミトリプタン＞ (アストラ・ゼカ)	2.5mg/錠 ¥784.9/錠		片頭痛	2.5mg/回偏頭痛発現時 2時間以上あけて追加投与 次回偏頭痛発現時5mg/回 【Max:10mg/日】
■解熱・鎮痛剤 ◆アスピリン				
アスピリン ＜アスピリン＞ (吉田)	末 ¥2.94/g		関節リウマチ, リウマチ熱, 変形性関節症, 強直性脊椎症などの鎮痛, 解熱	1～4.5g分3
バファリン330mg ＜アスピリン(330mg)・ダイアルミニート＞ (エーザイ)	錠 ¥5.7/錠		①関節リウマチ, リウマチ熱, 症候性神経痛 ②頭痛, 歯痛, 月経痛, 感冒の解熱	①4～12錠分2～3 ②4錠分2

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■解熱・鎮痛剤 ◆ピリン系				
SG ＜配合剤： イソプロピルアンチピ リン150mg アリルイソプロピルア セチル尿素60mg アセトアミノフェン2 50mg 無水カフェイン50m g＞ (オノキ)	顆粒(1g/包) ¥10.8/包		鎮痛, 解熱	3～4g分3～4
メチロン ＜スルピリン＞ (第一三共)		250mg(1mL)/管 ¥92/管	解熱	0.25～0.5～(1)g/回, 皮下, 筋注
■解熱・鎮痛剤 ◆アニリン系				
アセトアミノフェン ＜アセトアミノフェン ＞ (アステラス)	原末 ¥7.8/g		①頭痛, 耳痛, 症候性 神経痛, 腰痛症, 筋肉 痛, 打撲痛, 捻挫痛, 月経痛, 分娩後痛, が んによる疼痛, 歯痛, 歯科治療後の疼痛, 変形性関節症 ②急性上気道炎の解 熱・鎮痛 ③小児科領域におけ る解熱・鎮痛	①300～1000mg/回 投与間隔は4～6 時間以上 【Max: 4000mg/日】 ②300～500mg/回1日2回まで 【Max: 1500mg/日】 ③10～15mg/kg/回, 4～6時間毎 【Max: 60mg/kg/日】
アセリオ ＜アセトアミノフェン ＞ (テルモ)		1000mg(100mL)/ 袋 ¥332/袋	経口製剤及び坐剤の 投与が困難な場合 における疼痛及び発熱	＜成人における疼痛＞ 1回300～1000mg, 15分かけて静注, 投与間隔4 ～6時間以上【Max: 4000mg/日】 体重50kg未満: 1回15mg/kg【Max: 60mg/kg/ 日】 ＜成人における発熱＞ 1回300～500mg, 15分かけて静注, 投与間隔4～ 6時間以上, 1日2回まで【Max: 1500mg/日】 ＜2歳以上の小児における疼痛及び発熱＞ 1回10～15mg/kg, 15分かけて静注, 投与間隔4 ～6時間以上【Max: 60mg/kg/日】 ＜乳児及び2歳未満の幼児における疼痛及び 発熱＞ 1回7.5mg/kg, 15分かけて静注, 投与間隔4～6 時間以上【Max: 30mg/kg/日】
アンヒバ ＜アセトアミノフェン ＞ (アボットジャパン)		100mg/坐剤 ¥19.3/個 200mg/坐剤 ¥28/個	小児科領域における 解熱・鎮痛	1歳未満50mg 1～3歳未満50～100mg 3～6歳未満100mg 6～12歳100～200mg分1 【原則5日間】
カロナール ＜アセトアミノフェン ＞ (昭和薬品化工)	200mg/錠 ¥7.6/錠		①頭痛, 耳痛, 症候性 神経痛, 腰痛症, 筋肉 痛, 打撲痛, 捻挫痛, 月経痛, 分娩後痛, が んによる疼痛, 歯痛, 歯科治療後の疼痛, 変形性関節症 ②急性上気道炎の解 熱・鎮痛 ③小児科領域におけ る解熱・鎮痛	①1.5～5錠/回 投与間隔は4～6時 間以上 【Max: 20錠/日】 ②1.5錠～2.5錠/回1日2回まで 【Max: 7.5錠/日】 ③10～15mg/kg/回, 4～6時間毎 【Max: 60mg/kg/日】
	SY(20mg/mL) ¥4.6/mL		小児科領域における 解熱・鎮痛	10～15mg/kg/回, 4～6時間毎 【Max: 60mg/kg/日】 5kg: 2.5～3.75mL/回 10kg: 5.0～7.5mL/回 20kg: 10～15mL/回 30kg: 15～22.5mL/回

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆アントラニル酸系				
ポンタール ＜メフェナム酸＞ (第一三共)	S Y (32.5mg/ mL) ¥6.4/mL		急性上気道炎での解熱・鎮痛	0.2mL/kg/回 1日2回まで
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆フェニール酢酸系				
セルタッチ ＜フェルビナク＞ (武田)		パップ 70(6枚/ 包) 【院外のみ】 ¥124.2/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
ジクロフェナクNa ＜ジクロフェナク＞ (東和薬品)	25mg/錠 ¥5.6/錠		関節リウマチ・変形性関節症, 歯痛などの鎮痛・消炎, 解熱	75~100mg分3 頓用25~50mg
ボルタレン ＜ジクロフェナク＞ (ノバルティス)		25mg/坐剤 ¥46.8/個	関節リウマチ・変形性関節症などの鎮痛, 消炎, 解熱	25~100mg分1~2 ＜小児＞0.5~1mg/kg/回 1~2回/日
		50mg/坐剤 ¥57.4/個		
ジクロフェナク ＜ジクロフェナク＞ (日本臓器製薬)		ゲル(25g) ¥185/本	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛(筋・筋膜性腰痛症等)外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	数回/日, 塗擦
ジクロフェナクNa徐 放カプセル ＜ジクロフェナク＞ (東和薬品)	37.5mg/C ¥7.0/C		関節リウマチ・変形性関節症などの鎮痛, 消炎	75mg分2
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆ピラノ酢酸系				
オステラック ＜エトドラク＞ (あすか)	200mg/錠 ¥25.4/錠		関節リウマチ・変形性関節症などの鎮痛, 消炎	400mg分2

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆プロピオン酸系				
アドフィード ＜フルルビプロフェン＞ (科研)		パップ 40mg (6枚/包) ¥101.4/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
ケトプロフェン ＜ケトプロフェン＞ (日医工)		テープ 40mg (7枚/包) ¥117.6/包	腰痛症(筋・筋膜性腰痛症, 変形性脊椎症, 椎間板症, 腰椎捻挫), 変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛, 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛	1回/日, 貼付
		パップ 30mg (7枚/包) ¥81.9/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
フルルバン ＜フルルビプロフェン＞ (科研)		パップ 40mg (6枚/包, 微温感タイプ) ¥103.2/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
モーラス ＜ケトプロフェン＞ (久光)		パップ XR120mg (7枚/包) 【院外のみ】 ¥281.4/包	腰痛症(筋・筋膜性腰痛症, 変形性脊椎症, 椎間板症, 腰椎捻挫), 変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛, 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛	1回/日, 貼付
		パップ 60mg (7枚/包) 【院外のみ】 ¥235.2/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
		テープ L40mg (7枚/包) 【院外のみ】 ¥280.7/包	腰痛症(筋・筋膜性腰痛症, 変形性脊椎症, 椎間板症, 腰椎捻挫), 変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛, 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛	1回/日, 貼付
ロキソプロフェンナトリウム ＜ロキソプロフェン＞ (日医工)	60mg/錠 ¥5.6/錠	テープ 50mg (7枚/包) 【院外のみ】 ¥102.9/包	変形性関節症, 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎 変形性関節症, 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	180mg分3, 頓用60～120mg 1日1回

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ロキソプロフェンナトリウム ＜ロキソプロフェン＞ (日医工)		テープ 100mg (7枚/包) ¥158.9/包	変形性関節症, 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	1日1回
		パップ 100mg (7枚/包) ¥158.9/包		
ロコアテープ ＜エスフルビプロフェン・ハッカ油＞ (帝人)		テープ 剤 (7枚/包) ¥313.6/包	変形性関節症における鎮痛・消炎	1日1回, 患部に貼付
ロピオン ＜フルビプロフェンアキセチル＞ (科研)		50mg (5mL)/管 ¥229/管	手術後, 各種癌における鎮痛	50mg/回, 静注

■非ステロイド系抗炎症剤 ◆オキシカム系

モービック ＜メロキシカム＞ (パーリンガー)	10mg/錠 ¥52.6/錠		関節リウマチ・変形性関節症, 腰痛症, 頸肩腕症候群, 肩関節周囲炎などの鎮痛・消炎	10mg分1 【Max: 15mg/日】

■非ステロイド系抗炎症剤 ◆コキシブ系

セレコックス ＜セレコキシブ＞ (アステラス)	100mg/錠 ¥68.5/錠		①関節リウマチ ②変形性関節症, 腰痛症, 肩関節周囲炎, 頸肩腕症候群, 腱・腱鞘炎 ③手術後, 外傷後並びに抜歯後の消炎・鎮痛	①1回100～200mg 1日2回朝夕食後 ②1回200mg 1日2回朝夕食後 ③初回のみ400mg, 2回目以降1回200mg 1日2回 頓用: 初回のみ400mg, 2回目以降6時間以上あけて1回200mg

■その他

アルツディスポ ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (科研)		25mg (2.5mL)/筒 ¥1348/筒	変形性膝関節症, 肩関節周囲炎, 関節リウマチにおける膝関節痛	1筒/週, 連続5回 膝関節腔内又は肩関節内投与
サイビスクディスポ ＜ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマー＞ (帝人ファーマ)		16mg (2mL)/筒 ¥9924/筒	保存的非薬物治療及び経口薬物治療が十分奏効しない疼痛を有する変形性膝関節症の患者の疼痛緩和	1筒/週, 連続3回膝関節腔内
ノイロトロピン ＜ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液＞ (日本臓器)	4単位/錠 ¥31.1/錠		腰痛症, 頸肩腕症候群, 肩関節周囲炎, 変形性関節症, 帯状疱疹後神経痛	4錠分2
リリカOD ＜プレガバリン＞ (ファイザー)	25mg/錠 ¥67.8/錠		①神経障害性疼痛 ②線維筋痛症に伴う疼痛	①初期用量150mg分2, 以後1週間以上かけて漸増し300mg分2 【Max: 600mg, 分2】 ②初期用量150mg分2, 以後1週間以上かけて漸増し300～450mg分2 【Max: 450mg, 分2】
	75mg/錠 ¥112.9/錠			

2. 抗リウマチ剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アザルフィジンEN ＜サラゾスルファピリジン＞ (参天)	500mg/錠 ¥60.8/錠		関節リウマチ	1000mg分2
リウマトレックス ＜メトトレキサート＞ (ファイザー)	2mg/C ¥258.9/C			6mg/週 6mg/日, 分1～2, 6日間休薬 または2mg/回を初日から2日目にかけて1 2時間間隔で3回投与, 5日間休薬 【Max: 16mg/週】
リマチル ＜ブシラミン＞ (参天)	100mg/錠 ¥63.3/錠			300mg分3

主なNSAIDsの分類

基本構造分類				一般名	採用医薬品
酸性 活性体	アリール カン酸系	カル ボン 酸系	サリチル酸系	アスピリン	アスピリン バファリン配合錠A330
			アントラニル酸系	メフェナム酸	ポンタールシロップ [°]
		酢 酸系	フェニル酢酸系	ジクロフェナク	ジクロフェナク錠・ゲル・SRカプセル ボルタレン坐剤
				フェルビナク	セルタッチハップ [°]
			ピラノ酢酸系	エトドラク	オステラック錠
			インドール酢酸系		
		プロ ピ オン 酸系	フェニール系	ケトプロフェン	モーラスハップ60・XR120・テープL ケトプロフェンハップ30・テープL
				フルルビプロフェン	ロピオン注 アドフィードハップ [°] フルルバンハップ [°] ヤクバンテープ [°]
				エスフルルビプロフェン	ロコアテープ [°]
				ロキソプロフェン	ロキソプロフェン錠 ロキソプロフェンハップ [°] ・テープ [°]
		オキシカム系		メロキシカム	モービック錠
	コキシブ系		セレコキシブ	セレコックス錠	
塩基性活性体					

貼付剤一覧

パップ剤	アドフィードハップ・セルタッチハップ・モーラスハップ60/XR120・ケトプロフェンハップ30(冷感タイプ) ロキソプロフェンハップ(冷感タイプ) フルルバンハップ(微温感タイプ)
テープ剤	モーラス(ケトプロフェン)テープL・ロキソプロフェンテープ・ロコアテープ

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ヒスタミン薬				
アタラックスP ＜ヒドロキシジン＞	25mg/C ¥6.2/C		①神経症 ②蕁麻疹、皮膚疾患 に伴う掻痒	①75～150mg分3～4 ②50～75mg分2～3
(ファイザー)		25mg(1mL)/管 ¥56/管	神経症、麻酔前投薬、 術前・術後の悪心・嘔 吐の防止	25～50mg/回静注 50～100mg/回筋注
セレスタミン ＜配合剤： ベタメタゾン0.25 mg, d-クロルフェニラミ ン2mg＞	錠 ¥9.9/錠		蕁麻疹、湿疹・皮膚炎 群、薬疹、アレルギー性鼻 炎	1～8錠、分1～4
(MSD)				
ペリアクチン ＜シプロヘプタジン＞	4mg/錠 ¥5.7/錠		蕁麻疹、枯草熱、皮膚 疾患に伴う掻痒、アレルギー性 鼻炎、血管運動 性鼻炎、感冒等上気 道炎に伴うくしゃみ ・鼻汁・咳嗽	4～12mg分1～3 ＜小児＞0.25mg/kg
(日医工)				
ポララミン ＜d-クロルフェニラ ミン＞		5mg(1mL)/管 ¥58/管	蕁麻疹、枯草熱、皮膚 疾患に伴うそう痒 (湿疹・皮膚炎、皮膚 そう痒症、薬疹、咬刺 症)、アレルギー性鼻炎、 血管運動性鼻炎	1日1回5mg、皮下・筋注又は静注
(高田製薬)				
■抗アレルギー薬 【抗ヒスタミン作用なし】				
リザベン ＜トラニラスト＞	100mg/C ¥47/C		気管支喘息、アレルギー 性鼻炎、アトピー性皮膚 炎、クロイツフェル・ ヤコブ病、肥厚性瘢痕	300mg分3 ＜小児＞5mg/kg/日、分3
(キッセイ)	細粒(100mg/ g) ¥50.4/g			

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗アレルギー薬 【抗ヒスタミン作用あり】				
アレジオン ＜エピナスチン＞ (パ・リンカ・)	20mg/錠 ¥120.3/錠		①気管支喘息, 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 痒疹, 掻痒を伴う尋常性乾癬 ②アレルギー性鼻炎	①20mg分1 ②10～20mg分1
	D S 10mg/g ¥80.6/g		①アレルギー性鼻炎 ②蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	①＜小児＞0.25～0.5mg/kg/日, 分1 【Max: 20mg/日】 ②＜小児＞0.5mg/kg/日, 分1 【Max: 20mg/日】
アレロック顆粒 ＜オロパタジン＞ (協和発酵杉)	顆粒(0.5g/包) ¥34.35/包		＜成人＞アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎, 痒疹, 皮膚掻痒症, 尋常性乾癬, 多形滲出性紅斑) ＜小児＞アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症)に伴う掻痒	＜成人および7歳以上＞10mg分2朝・就寝前 ＜2歳以上7歳未満＞5mg分2朝・就寝前
オロパタジンOD ＜オロパタジン＞ (Meiji)	5mg/錠 ¥21.7/錠			＜7歳以上＞10mg分2朝・就寝前
ザイザル ＜レボセチリジン＞ (グ・ラク・スミスクライン)	5mg/錠 ¥96.4/錠		＜成人＞アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 痒疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症 ＜小児＞アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎・皮膚掻痒症に伴う掻痒	5mg分1就寝前【Max: 10mg】 ＜7歳以上の小児＞5mg分2, 朝食後就寝前
	S Y (0.5mg/mL) ¥17.9/mL			10mL分1就寝前【Max: 20mL】 ＜6ヵ月以上1歳未満の小児＞2.5mL分1 ＜1歳以上7歳未満の小児＞5mL分2, 朝食後就寝前 ＜7歳以上の小児＞10mL分2, 朝食後就寝前
ザジテン ＜ケトチフェン＞ (第一三共)	D S (1mg/g) ¥65.7/g		気管支喘息, アレルギー性鼻炎, 湿疹・皮膚炎, 蕁麻疹, 皮膚掻痒症	＜小児＞0.06mg/kg/日, 分2
タリオンOD ＜ベシル酸ベポタスチン＞ (田辺三菱)	10mg/錠 ¥46.4/錠		＜成人＞アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮膚炎, 痒疹, 皮膚そう痒症) ＜小児＞アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	7歳以上の小児および成人: 1回10mg1日2回
デザレックス ＜デスロラタジン＞ (杏林製薬) 投与制限: 14日△ (平成29年11月末まで)	5mg/錠 【院外のみ】 ¥69.40/錠		アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	12歳以上の小児及び成人: 5mg分1
ビラノア ＜ピラスチン＞ (大鵬薬品工業) 投与制限: 14日△ (平成29年11月末まで)	20mg/錠 【院外のみ】 ¥79.7/錠		アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	20mg分1空腹時
フェキシフェナジン ＜フェキシフェナジン＞ (日医工)	60mg/錠 ¥34.4/錠		アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚湿疹に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, アトピー性皮膚炎)	120mg分2

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ロイコトリエン受容体拮抗薬				
プランルカスト ＜プランルカスト＞ (東和薬品)	112.5mg/C ¥28.7/C DS (100mg/g) ¥40.7/g		気管支喘息 アレルギー性鼻炎	450mg分2, 朝夕食後 ＜小児＞7mg/kg/日, 分2朝夕食後 【Max: 10mg/kg/日, 450mg/日】
■減感作療法薬				
ノイロトロピン ＜ワクシニアウイルス 接種家兎炎症皮膚抽出 液＞ (日本臓器)	4単位/錠 ¥31.1/錠		腰痛症, 頸肩腕症候 群, 肩関節周囲炎, 変 形性関節症, 帯状疱 疹後神経痛	4錠分2
■その他				
アレルゲン診断用エキ ス・抗原別各種 ＜一＞ (鳥居)		バイタル 【用時購入】	アレルギー性疾患のアレ ルギ-の確認	【DI照会参照】
アレルゲン治療用エキ ス・抗原別各種 ＜一＞ (鳥居)		バイタル 【用時購入】	気管支喘息	
強力ネオミノファーゲ ンシーP ＜グリチルリチン配合 剤＞ (エーザイ)		20mL/管 ¥125/管	①慢性肝疾患におけ る肝機能異常の改善 ②湿疹・皮膚炎, 蕁麻 疹, 皮膚そう痒症, 薬 疹・中毒疹, 口内炎, 小児ストロフルス, フリクテ	①40～100mL分1静注または点静 ②5～20mL分1静注
強力ネオミノファーゲ ンシー ＜グリチルリチン配合 剤＞ (エーザイ)		40mL/シリンジ ¥340/シリンジ		
グリチロン ＜グリチルリチン配合 剤＞ (エーザイ)	錠剤 ¥5.6/錠		慢性肝疾患, 脱毛症	6～9錠分3 ＜小児＞3錠分3

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■成長ホルモン剤				
ノルディトロピンS ＜ソマトロピン＞ (ノルディスク)		10mg/1.5mL ¥57159/筒	①骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症 ②骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群における低身長 ③骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症における低身長 ④成人成長ホルモン分泌不全症(重症に限る) ⑤骨端線閉鎖を伴わないSGA (small-for-gestational age) 性低身長症	①0.175mg/kg/週, 皮下(分6～7) ②③0.35mg/kg/週, 皮下(分6～7) ④0.021mg/kg/週, 皮下(分6～7) 【Max:0.084mg/kg/週, 1mg/日】 ⑤0.23mg/kg/週, 皮下(分6～7) 【Max:0.47mg/kg/週】
■ゴナドトロピン剤 ＜胎盤性性腺刺激ホルモン＞				
HCG (持田)		5000単位/管(1mL溶解液付) ¥573/管	【DI照会参照】	
■下垂体後葉ホルモン剤				
アトニンO ＜オキシトシン＞ (あすか)		5単位(1mL)/管 ¥157/管	①子宮収縮の誘発・促進, 子宮出血の治療(分娩誘発, 微弱陣痛) ②弛緩出血, 胎盤娩出前後, 子宮復古不全, 流産, 人工妊娠中絶 ③帝王切開術	①5～10単位点静 0.25～0.5単位から開始, 陣痛発来・胎児心拍により漸増, 皮下, 筋注 ②5～10単位点静, 静注, 筋注 ③5～10単位点静, 静注, 子宮筋注
デスモプレシン ＜デスモプレシン＞ (協和発酵社)		ｽﾌﾟﾚ (125μg/5mL/本) (1噴霧=2.5μg) ¥4643.8/本	中枢性尿崩症	1日1～2回, 1回5～10μg鼻腔内投与 ＜小児＞1日1～2回, 1回2.5～5μg鼻腔内投与
ピトレシン ＜バソプレシン＞ (第一三共)		20単位(1mL)/管 ¥720/管	①下垂体性尿崩症 ②食道静脈瘤出血の緊急処置 ③下垂体性又は腎性尿崩症の鑑別診断 ④腸内ガスの除去	①2～10単位/回 1日2～3回皮下, 筋注 ②20単位 0.1～0.4単位/分持続静注 ③5～10単位皮下, 筋注又は0.1単位静注 ④5～10単位皮下, 筋注
ミニリンメルトOD ＜デスモプレシン＞ (協和発酵社)	120μg/錠 ¥202.7/錠		①尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症 ②中枢性尿崩症	①1回120～240μg, 1日1回就寝前 ②1回60～120μg, 1日1～3回 【Max:240μg/回, 720μg/日】

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■副腎髄質ホルモン剤				
アドレナリン注0.1%シリンジ <エピネフリン> (テルモ)		1mg(1mL)/筒 ¥159/筒	気管支喘息・百日咳に基づく気管支痙攣の緩解, 急性低血圧・ショック時の補助治療, 心停止の補助治療	0.2~1mg/回皮下, 筋注 0.25mg/回静注
ノルアドリナリン <d1ーノルエピネフリン> (第一三共)		1mg(1mL)/管 ¥92/管	急性低血圧, ショック時の補助療法	1mg/回静注 0.1~1mg/回皮下
ボスミン <エピネフリン> (第一三共)		外用液(1mg/mL, 100mL/本) ¥7.9/mL	気管支喘息, 百日咳等に基づく気管支痙攣, 開放隅角緑内障, 虹彩毛様体炎, 出血の予防と治療, 局所麻酔時作用延長	【DI照会参照】
■甲状腺ホルモン剤				
チラーヂンS <レボチロキシン> (あすか)	散(100μg/g) ¥58/g		乳幼児甲状腺機能低下症	乳幼児: 10μg/kg/日, 分1 未熟児: 5μg/kg/日, 分1より開始, 8日目より10μg/kg/日, 分1
	25μg/錠 【院外のみ】 ¥9.6/錠		甲状腺機能低下症, 甲状腺腫, 粘液水腫, クレチン病	25~400μg分1 (開始量25~100μg, 維持量100~400μg)
	50μg/錠 ¥9.6/錠			
■抗甲状腺剤				
チウラジール <プロピルチオウラシル> (田辺三菱)	50mg/錠 ¥9.6/錠		甲状腺機能亢進症	初期量: 300~600mg, 維持量: 50~100mg分1~2 <小児> 初期量: 10~15歳: 200~300mg分2~4, 維持量: 50~100mg分1~2 <妊婦> 初期量: 150~300mg, 維持量: 50~100mg分1~2
メルカゾール <チアマゾール> (中外)	5mg/錠 ¥9.6/錠			初期量: 30~60mg 維持量: 5~10mg分1~2 <小児> 初期量: 10~15歳: 20~30mg分2~4, 維持量: 5~10mg分1~2 <妊婦> 初期量: 15~30mg 維持量: 5~10mg分1~2

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■副腎皮質ホルモン剤				
ケナコルトA ＜トリアムシノロンアセトニド＞ (ブリストル)		40mg(1mL)/瓶 ¥836/瓶		【DI照会参照】
コートリル ＜ヒドロコルチゾン＞ (ファイザー)	10mg/錠 ¥7.3/錠		【DI照会参照】	10～120mg分1～4
ソルコーテフ ＜ヒドロコルチゾン＞ (ファイザー)		100mg(溶解液2mL付)/瓶 ¥321/瓶		【DI照会参照】
		500mg(4mL)/瓶 ¥1291/瓶	急性循環不全(出血性ショック、外傷性ショック)、ショック様状態における救急、気管支喘息	
ソル・メルコート ＜メチルプレドニゾン＞ (富士製薬)		40mg/瓶(溶解液1mL付) ¥189/瓶	①急性循環不全(出血性ショック) ②急性循環不全(感染性ショック) ③腎臓移植に伴う免疫反応の抑制 ④受傷後8時間以内の急性脊髄損傷患者(運動機能障害、感覚機能障害を有する場合)における神経機能障害の改善 ⑤わろせ症候群 ⑥気管支喘息(40mg, 125mg) ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ ⑦再発又は難治性の悪性リンパ腫(40mg, 125mg, 500mg) ⑧多発性硬化症の急性増悪	①125～2000mg/回静注, 点静 ②1000mg/回1～2回 ③40～1000mg/日静注, 点静 ④30mg/kg/回, 15分間点静 45分間休業後5.4mg/kg/時間23時間点静 ⑤500～1000mg/日静注, 点静 ＜小児＞30mg/kg/日静注, 点静【Max: 1000mg/日】 ⑥40mg～125mg/初回静注, 点静 その後40mg～80mg/4～6時間 ＜小児＞1.0～1.5mg/kg/初回静注, 点静 その後1.0mg～1.5mg/4～6時間 ⑦250～500mg/日, 5日間静注, 点静 3～4週ごとに繰り返す ⑧500～1000mg/日静注, 点静
		125mg/瓶(溶解液2mL付) ¥372/瓶		
		500mg/瓶(溶解液8mL付) ¥1079/瓶		
		1000mg/瓶(溶解液16mL付) ¥1901/瓶		
デカドロン ＜デキサメタゾン＞ (日医工)	0.1mg/mL ¥4.2/mL		【DI照会参照】	0.5～8mg分1～4 ＜小児＞0.15～4mg分1～4
	0.5mg/錠 ¥5.6/錠			0.5～8mg分1～4
	4.0mg/錠 ¥35.8/錠			
デキサート ＜デキサメタゾン＞ (富士製薬)		1.65mg(2mg/0.5mL)/管 ¥56/瓶	【DI照会, 添付文書参照】	【DI照会参照】
		6.6mg(8mg/2mL)/瓶 ¥170/瓶		
ハイドロコートン ＜ヒドロコルチゾン＞ (日医工)		100mg(2mL)/瓶 ¥403/瓶	外科的ショック、ショック様状態における救急、術中・術後のショック	100～1000mg/回, 1～数回/日静注, 点静

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
プレドニゾン ＜プレドニゾン＞ (武田)	散(10mg/g) ¥8.4/g 5mg/錠 ¥9.6/錠		【DI照会参照】	5～60mg分1～4
プレドニン ＜プレドニゾン＞ (オノキ)		20mg/管 ¥203/管		【DI照会参照】
ベタメタゾン ＜ベタメタゾン＞ (沢井製薬)	0.5mg/錠 ¥6.3/錠			0.5～8mg分1～4
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ (オノキ)		2mg(0.5mL)/管 ¥183/管		
フロリネフ ＜フルドロコルチゾン＞ (プリストル)	0.1mg/錠 ¥334.1/錠		塩喪失性先天性副腎皮質過形成症, 塩喪失性副腎皮質機能不全(アジソン病)	0.02～0.1mg分2～3 【Max:＜新生児＞0.025mg/日, ＜1歳未満＞0.05mg/日】
プレドナマ ＜プレドニゾン＞ (杏林)		注腸用 ¥679.2/本	潰瘍性大腸炎, 限局性腸炎	1個/回, 直腸内注入

■男性ホルモン剤

テストノンデポー ＜テストステロン＞ (持田)		125mg(1mL)/管 【用時購入】 ¥651/管	①男性性腺機能不全 ②造精機能障害による男子不妊症 ③再生不良性貧血, 骨髓繊維症, 腎性貧血	①100mg/回, 7～10日間毎, 又は250mg/回2～4週間毎筋注 ②50～250mg/回, 2～4週間毎筋注(無精子症迄) ③100～250mg/回, 1～2週間毎筋注

■蛋白同化ホルモン剤

プリモボラン ＜メテノロン＞ (パイー)	5mg/錠 ¥11.4/錠		骨粗鬆症, 再生不良性貧血	10～20mg分2～3

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■卵胞ホルモン剤				
エストラーナテープ ＜エストラジオール＞ (久光)		テープ (0.72mg/枚) ¥106.2/枚	①更年期障害及び卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状(Hot flush及び発汗), 泌尿生殖器の萎縮症状 ②閉経後骨粗鬆症 ③性腺機能低下症, 性腺摘出又は原発性卵巣不全による低エストロゲン症	①②1回1枚(0.72mg), 下腹部・臀部のいずれかに貼付, 2日毎貼り替え ③1回1枚(0.72mg)から開始, ＜小児＞1回0.09mgから開始, その後0.18mg, 0.36mg, 0.72mgと段階的に増量 下腹部・臀部のいずれかに貼付, 2日毎貼り替え
エストリール ＜エストリオール＞ (持田)	1mg/錠 ¥15.3/錠		①更年期障害, 膣炎, 子宮頸管炎, 子宮腔部びらん ②老人性骨粗鬆症	①0.1～2mg分1～2 ②2mg分2
プレマリン ＜エストロゲン＞ (ファイザー)	0.625mg/錠 【院外のみ】 ¥18.6/錠		①更年期障害, 卵巣欠落症状, 卵巣機能不全症 ②機能性子宮出血, 膣炎	①0.625～1.25mg/日 ②0.625～3.75mg/日
■黄体ホルモン剤				
デュファストン ＜ジドロゲステロン＞ (第一三共)	5mg/錠 ¥36.4/錠		①切迫流産, 習慣性流産, 黄体機能不全による不妊症, 月経困難症, 機能性子宮出血, 無月経, 月経周期異常 ②子宮内膜症	①5～15mg分1～3 ②5～20mg
ヒスロンH ＜メドロキシプロゲステロン＞ (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥259.9/錠		①乳癌 ②子宮体癌(内膜癌)	①600～1200mg分3 ②400～600mg分2～3
プロゲデポー ＜ヒドロキシプロゲステロン＞ (持田)		125mg(1mL)/管 【用時購入】 ¥180/管	無月経, 機能性子宮出血, 黄体機能不全による不妊症, 切迫流産, 習慣性流産	65～125mg/回筋注
プロベラ ＜メドロキシプロゲステロン＞ (ファイザー)	2.5mg/錠 【院外のみ】 ¥26.4/錠		無月経, 月経周期異常, 月経量異常, 機能性子宮出血, 黄体機能不全による不妊症, 切迫流産, 習慣性流産	2.5～15mg分1～3
プロスタール ＜クロルマジノン＞ (あすか)	25mg/錠 ¥93.2/錠		①前立腺肥大症 ②前立腺癌	①50mg分2 ②100mg分2

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■混合ホルモン剤				
プラノパール ＜配合剤： ノルゲストレル0. 5 m g, エチニルエストラジオ ール0. 0 5 m g＞ (あすか)	錠 ¥14/錠		①機能性子宮出血 ②月経困難症, 月経 周期異常(稀発月経, 頻発月経), 過多月 経, 子宮内膜症, 卵巣 機能不全	①1錠/日, 7～10日間 ②1錠/日, 月経周期第5日より約3週 間
ヤーズ ＜配合剤, 淡赤色： ドロスピレノン3m g, エチニルエストラジオ ール0. 0 2 m g 白色：プラセボ＞ (バイエル)	錠 【院外のみ】 ¥7097. 8/シート		月経困難症	1錠/日, 28日間連日投与
ルナベルLD ＜配合剤： ノルエチステロン1 m g, エチニルエストラジオ ール0. 0 3 5 m g＞ (日本新薬)	錠 【院外のみ】 ¥270. 1/錠			1錠/日, 21日間投与, 7日間休薬
ルナベルULD ＜配合剤： ノルエチステロン1 m g, エチニルエストラジオ ール0. 0 2 m g＞ (日本新薬)	錠 【院外のみ】 ¥336. 4/錠			
■経口避妊剤				
トリキュラー2 1 ＜配合剤, 赤褐色： レボノルゲストレル 0. 0 0 5 0 m g エチニルエストラジオ ール0. 0 0 3 0 m g 白色： レボノルゲストレル 0. 0 7 5 m g エチニルエストラジオ ール0. 0 4 0 m g 淡黄褐色： レボノルゲストレル 0. 1 2 5 m g エチニルエストラジオ ール0. 0 3 0 m g＞ (バイエル)	錠 【院外のみ】 ¥1396/錠		避妊	1錠/日, 21日間 7日間休薬
■子宮内黄体ホルモン放出システム				
ミレーナ ＜レボノルゲストレル ＞ (バイエル)		¥26984. 3/個	①避妊【保険適応 外】 ②過多月経 ③月経困難症	1回1個, 子宮腔内に装着(装着後は5 年以内に除去又は交換)

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他のホルモン剤				
オクトレオチド酢酸塩 ＜オクトレオチド＞ 略名：SAS (サンド)		100 μ g (1mL)/管 ¥1400/管	①消化管ホルモン産生腫瘍(VIP産生腫瘍, ガリノイド症候群の特徴を示すガリノイド腫瘍, ガストリン産生腫瘍), 先端巨大症・下垂体性巨人症における成長ホルモン, ソマトジン分泌過剰状態 ②進行・再発癌患者の緩和医療における消化管閉塞に伴う消化器症状の改善	①100～300 μ g 分2～3皮下 ②300 μ g/日を24時間持続皮下
クロミッド ＜クロミフェン＞ (オノキ)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥104/錠		排卵障害に基づく不妊症の排卵誘発	50～100mg (5日間)
ディナゲスト ＜ジエノゲスト＞ (持田)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥475.5/錠		子宮内膜症, 子宮腺筋症に伴う疼痛の改善	2mg 分2 (月経周期第2～5日より連続投与)
ナサニール ＜ナファレリン＞ (ファイザー)		点鼻液 (10mg/5mL/瓶) 【院外のみ】 ¥8843.9/瓶	子宮内膜症, 子宮筋腫	1噴霧/回(片鼻腔), 2回/日, 月経周期1～2日目より投与
プレグランディン ＜ゲメプロスト＞ (小野薬品)		膣坐剤 (1mg/個) ¥4089.6/個	妊娠中期における治療的流産	1個/回/3時間毎, 後膣円蓋部挿入 【1日に5個まで】
プロスタグランジンE ₂ ＜ジノプロストン＞ (科研)	0.5mg/錠 ¥272.1/錠		妊娠末期における陣痛誘発, 陣痛促進	1錠/回, 1時間毎, 6回/1ケル
プロスタルモンF ＜ジノプロスト＞ (小野薬品)		1mg (1mL)/管 ¥875/管	①妊娠末期における陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進 ②腸管蠕動亢進 ③治療的流産	①1～2mg (0.1 μ g/kg/min) 静注, 点静, 持続注入 ②1～2mg (10～20 μ g/min)/回, 1日2回点静 ③卵膜外投与【DI照会参照】
ゴナックス ＜デガレリクス＞ (アステラ)		80mg/瓶(溶解液付) ¥24370/瓶	前立腺癌	初回240mg (120mgずつ腹部2カ所に) 皮下注 2回目以降80mg皮下注, 4週間毎
		120mg/瓶(溶解液付) ¥29958/瓶		
ゾラデックス ＜ゴセレリン＞ (キヤイ)		1.8mg/筒 ¥27295/キット	子宮内膜症	1筒/4週間毎, 前腹部皮下
ゾラデックス ＜ゴセレリン＞ (アストラ・ゼー)		3.6mg/筒 ¥35907/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
リュープリン ＜リュープロレリン＞ (武田)		1. 88mg/キット ¥28897/キット	子宮筋腫, 子宮内膜症	1. 88mg (又は3. 75mg) /回/4週皮下
		3. 75mg/キット ¥37777/キット	①子宮筋腫, 子宮内膜症 ②前立腺癌, 閉経前乳癌	①1. 88mg (又は3. 75mg) /回/4週皮下 ②3. 75mg/回/4週皮下
リュープリンPRO ＜リュープロレリン＞ (武田)		22. 5mg/キット ¥102414/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	22. 5mg/24週毎, 皮下注
リュープリンSR ＜リュープロレリン＞ (武田)		11. 25mg/キット ¥66891/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌, 球脊髄性筋萎縮症の 進行抑制	11. 25mg/回/12週皮下

生物活性 作用時間 分類	一般名	商品名	規格	対応量*1 (mg)	力価比 (/コルチゾール)*2		血中半減期 (hr)	生物学的半 減期(hr)*3	副作用出現状況				
					抗炎症 作用	電解質 作用			HPA抑制量 (mg/day)*4	Na蓄積作 用の強さ	食欲増加 作用	精神変調	筋障害また はミオパチー
短時間型	ヒドロコルチゾン	コートリル錠	10mg	20	1	1	1.5	8～12	30	2+	2+	1+	1+
		ハイドロコートン注	100mg										
		ソルコーテフ注	100mg, 500mg										
中間型	プレドニゾン	プレドニゾン錠	5mg	5	4	0.8	2.75	12(18)～36	7.5	1+	3+	2+	1+
		プレドニゾン散	10mg/g										
		プレドニン注	20mg										
	メチルプレドニゾン	メドロール錠	4mg	4	5	0.5	3	12(18)～36	6	0	2+	1+	1+
		ソル・メルコート注	40mg, 125mg, 500mg, 1000mg										
	トリアムシノロン	ケナコルトA筋注用	40mg	4	5	0	4.2	24～48	6	0	0	-	3+
		ケナコルトA皮内用	50mg										
長時間型	デキサメタゾン	デカドロン錠	0.5mg, 4mg	0.75	25～30	0	5	36～54	0.75～1	0	4+	4+	2+
		デカドロンエリキシル	0.1mg/mL										
		デキサート注	1.65mg/0.5mL 6.6mg/2mL										
	ベタメタゾン	ベタメタゾン錠	0.5mg	0.6	25～30	0	5	36～54	0.75～1	0	4+	?	2+
		リンデロン注	2mg/0.5mL										

*1: コルチゾールの1日平均分泌量(20mg)に対応する投与量を示す

*2: 副腎皮質ホルモンのコルチゾールは生理的糖質コルチコイドであり、糖代謝作用、抗炎症作用、および免疫抑制作用をもっている。さらにこの抗炎症作用を目的とするためには無視できない副作用として、ナトリウムの体内貯留など電解質(鉱質コルチコイド作用)を併せもっている

*3: HPA(Hypothalamic-Pituiary-Adrenocortical: 視床下部-下垂体-副腎)系の分泌抑制作用から生物活性の半減期を測定

*4: 長期投与によりHPA系を抑制すると考えられる1日投与量

1. ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンB1製剤				
アリナミンF ＜フルスルチアミン＞ (武田)	25mg/錠 ¥5.8/錠		ビタミンB1欠乏症の予防・治療	25～100mg分1～3
■ビタミンB2製剤				
フラビタン ＜フラビンアデニンジ ヌクレオチド＞ (トアイヨー)	5mg/錠 ¥5.6/錠		ビタミンB2欠乏症の予防・治療	5～45mg分1～3
■ビタミンB6製剤				
ビタミンB6 ＜ピリドキシン＞ (丸石製薬)	散(100mg/g) ¥21.7/g		ビタミンB6欠乏症の予防及び治療、ビタミンB6の需要が増大し食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦など)、ビタミンB6依存症(ビタミンB6反応性貧血など)、口角炎、口唇炎、舌炎、急・慢性湿疹、脂漏性湿疹、接触皮膚炎、末梢神経炎、放射線障害(宿酔)のうちビタミンB6の欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合	10～100mg/日
ピドキサール ＜ピリドキサル＞ (中外)	10mg/錠 ¥5.6/錠		ビタミンB6欠乏症の予防・治療 末梢神経炎	10～60mg分1～3
■ビタミンB12製剤				
メチコパール ＜メコバラミン＞ (エーザイ)	500μg/錠 ¥17.1/錠		末梢性神経障害	1500μg分3
		500μg(1mL)/管 ¥112/管	末梢性神経障害 巨赤芽球性貧血	500μg/日, 3回/週, 筋注, 静注
■ビタミンB複合剤				
ビタメジン ＜配合剤＞ (第一三共)	カプセル ¥5.6/C		ビタミン類の欠乏	3～4カプセル/日
		バイアル ¥123/瓶		1瓶/日, 静注, 点静

1. ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンC製剤				
シナール ＜アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム＞ (オノキ)	200mg/錠 ¥6.1/錠		ビタミンCの欠乏状態	1～3錠/回, 1～3回/日
ハイシー ＜アスコルビン酸＞ (武田)	顆粒(250mg/g/包) ¥6.2/包		ビタミンC欠乏症の予防・治療	50～2000mg分1～数回
ビーシー ＜アスコルビン酸＞ (日医工)		500mg(2mL)/管 ¥82/管		50～2000mg分1～数回皮下・筋肉内・静注
■ビタミンD製剤				
アルファロール ＜アルファカルシドール＞ (中外)	液(0.5μg/mL) ¥69.5/mL		①慢性腎不全, 骨粗鬆症 ②副甲状腺機能低下症, ビタミンD抵抗性ケ病・骨軟化症	①0.5～1μg分1 ＜小児＞0.01～0.03μg/kg/日分1 ②1～4μg分1 ＜小児＞0.05～0.1μg/kg/日分1 ＜乳幼児＞0.008～0.1μg/kg/日分1
オキサロール ＜マキサカルシトール＞ (中外)		5μg(1mL)/管 ¥1351/管	維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	2.5～10μg/回/週3回 透析回路静脈側に注入（静注）
カルフィーナ ＜アルファカルシドール＞ (共和薬品工業)	0.5μg/錠 ¥5.8/錠		①慢性腎不全, 骨粗鬆症 ②副甲状腺機能低下症, ビタミンD抵抗性ケ病・骨軟化症	①0.5～1μg分1 ＜小児＞0.01～0.03μg/kg/日分1 ②1～4μg分1 ＜小児＞0.05～0.1μg/kg/日分1 ＜乳幼児＞0.008～0.1μg/kg/日分1
ロカルトロール ＜カルシトリオール＞ (杏林)	0.25μg/C ¥30.4/C		①骨粗鬆症 ②慢性腎不全 ③副甲状腺機能低下症, ビタミンD抵抗性ケ病・骨軟化症	①0.5μg分2 ②0.25～0.75μg分1 ③0.5～2.0μg分1
■ビタミンE製剤				
ユベラ ＜トコフェロール＞ (エーザイ)	50mg/錠 ¥5.6/錠		ビタミンE欠乏症の予防・治療, 末梢循環障害	100～300mg分2～3

1. ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンK製剤				
グラケ ＜メナテトレノン＞ (エザイ)	15mg/C ¥31/C		骨粗鬆症における骨量・疼痛の改善	45mg分3
ケイツーN ＜メナテトレノン＞ (エザイ)		10mg(2mL)/管 ¥80/管	①ビタミンK欠乏による低プロトロン血症(胆道閉鎖・胆汁分泌不全, カリウム系抗凝薬投与中)分娩時出血 ②新生児低プロトロン血症 ③カリウム系殺鼠剤中毒時における低プロトロン血症	①10～20mg静注 ②1～2mg/回, 静注2～3回 ③20mg/回【Max:40mg/日】
ケイツー ＜メナテトレノン＞ (エザイ)	S Y (2mg/mL/包) ¥26.7/mL		①新生児出血・新生児低プロトロン血症の治療 ②新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防	①2～6mg分1 ②1回2mg, 1日1回 生後1ヶ月までに3回投与
■その他のビタミン				
ニコチン酸アミド ＜ニコチン酸アミド＞ (鳥居)	散(100mg/g) ¥11.3/g		ニコチン酸欠乏症の予防・治療	25～200mg/日
パントール ＜パンテノール＞ (トアイト)		100mg(1mL)/管 ¥56/管	①パントテン酸欠乏症の予防・治療 ②術後腸管麻痺	①20～200mg分1～2筋注, 静注 ②50～500mg/回, 1～3～(6)回/日筋注, 静注
フォリアミン ＜葉酸＞ (日本製薬)	5mg/錠 ¥9.6/錠		葉酸欠乏症の予防・治療 吸収不全症候群	5～20mg分2～3 ＜小児＞5～10mg分2～3
■レボカルニチン製剤				
エルカルチンFF ＜レボカルニチン＞ (大塚)	1000mg/10ml/瓶 ¥72.40/ml		カルニチン欠乏症	1日1.5～3g分3 ＜小児＞25～100mg/kg/日, 分3
■総合ビタミン剤				
パンビタン末 ＜ビタミン類＞ (武田)	末 ¥6.2/g		本剤に含まれるビタミン類の需要が増大し, 食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦等)	1～2g/日
ビタジェクト ＜ビタミン類＞ (テルモ)		キット(A液5mL, B液5mL) ¥283/キット	経口, 経腸管栄養補給が不能又は不十分で高加リ静脈栄養に頼らざるを得ない場合のビタミン補給	1キット/日点静

2. ミネラル

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■カルシウム剤				
L-アスパラギン酸Ca ＜アスパラギン酸カルシウム＞ (沢井製薬)	200mg/錠 【1.3mEq】 ¥5.6/錠		低カルシウム血症に起因するリン・リン関連症状、骨粗鬆症・骨軟化症・発育期・妊娠・授乳時におけるカルシウム補給	6錠分2～3
カルチコール ＜グルコン酸カルシウム＞ (日医工)		5mL/管 ¥62/管	【栄養輸液Ⅰ-6参照】	
乳酸カルシウム ＜乳酸カルシウム＞ (吉田)	末(1g/包) ¥3.77/包		低カルシウム血症に起因するリン、妊婦・産婦の骨軟化症、発育期におけるカルシウム補給	2～5g分2～5
乳酸カルシウム ＜乳酸カルシウム＞ (マイラン)	末 ¥3.77/g			
■カリウム剤				
グルコンサンK ＜グルコン酸カリウム＞ (科研)	細粒(937mg/g) 【4mEq】 ¥8.7/g		カリウム補給	30～40mEq分3～4
ケーサプライ ＜塩化カリウム＞ (アルフレッサファーマ)	600mg/錠 【8mEq】 ¥5.6/錠		低カルシウム血症の改善	4錠分2
KCL ＜塩化カリウム＞ (テルモ)		10mEq/キット(10mL) ¥178/キット	カリウム補給	【栄養輸液Ⅰ-6参照】
■鉄剤【含量はFeとしての量を表示】　＜内服剤＞				
インクレミン ＜溶性ピロリン酸第二鉄＞ (アルフレッサファーマ)	SY【Fe:6mg/mL】 ¥6.1/mL		鉄欠乏性貧血	＜小児＞0.6mL(4mg)/kg/日、分2～3、 6～15歳10～15mL
クエン酸第一鉄Na ＜クエン酸第一鉄ナトリウム＞ (沢井)	50mg/錠 ¥5.6/錠			100～200mg分1～2
フェロミア ＜クエン酸第一鉄ナトリウム＞ (エーザイ)	顆粒【Fe:50mg/0.6g】 ¥15.6/g			

2. ミネラル

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鉄剤【含量はFeとしての量を表示】 <注射剤>				
フェジン <含糖酸化鉄> (日医工)		2mL/管【Fe:40mg】 ¥61/管	鉄欠乏性貧血	40～120mg静注
■ヨウ素剤				
ヨウレチン <ヨウ素レシチン> (第一薬品産業)	50 μ g/錠 ¥6.1/錠		ヨード不足による甲状腺腫・甲状腺機能低下症, 中心性網膜症・網膜出血・硝子体出血・混濁・網膜中心静脈閉塞症, 小児気管支喘息・喘息様気管支炎	300～600 μ g(10 μ g/Kg) 分2～3
■その他				
エレメンミック <配合剤> (味の素)		2mL/管 ¥231/管	高加リ-静脈栄養時の亜鉛・鉄・銅・マンガン・ヨウ素の補給	1管/日点静

1. 栄養剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■半消化態栄養剤				
エネーボ ＜略＞ (アボットジャパン)	250mL/缶(300kcal) ¥192.5/缶			1000～1667mL/日 経管投与：62.5～104mL/時間
エンシュア・リキッド ＜略＞ (アボットジャパン)	250mL/缶(250kcal) フレーバー：バナナ コーヒー ¥142.5/缶			1500～2250mL/日 経管投与：100～150mL/時間
エンシュア・H 【用時購入】 ＜略＞ (アボットジャパン)	250mL/缶(375kcal) フレーバー：バナナ バナナ コーヒー 黒糖 メロン ¥252.5/缶		経口的食事摂取困難な場合の経腸栄養補給	1000～1500mL/日 経管投与：50～100mL/時間【Max：400mL/時間】
ラコールN F ＜略＞ (大塚)	200mL/70mLパック(200kcal) フレーバー：ミルキー コーヒー ¥156/袋			1200～2000mL/日を経鼻チューブ、胃瘻又は腸瘻より胃、十二指腸又は空腸に1日12～24時間かけて投与 投与速度75～125mL/hr 経口摂取可能な場合は1日1回又は数回に分けて経口投与することもできる
ラコールN F 半固形 ＜略＞ (大塚)	300g/70mLパック(300kcal) ¥327/袋			通常、成人標準量として1日1,200～2,000g(1,200～2,000kcal)を胃瘻より胃内に1日数回に分けて投与する。投与時間は100g当たり2～3分(300g当たり6～9分)とし、1回の最大投与量は600gとする。 また、初めて投与する場合は、投与後によく観察を行い臨床症状に注意しながら増量して数日で標準量に達するようにする。 なお、年齢、体重、症状により投与量、投与時間を適宜増減する。
■成分栄養剤				
エレンタール ＜略＞ (味の素)	80g/包 ¥460/包		経口的食事摂取困難な場合の経管栄養補給	1回1包を300mLになるように微温湯に溶かし24時間持続注入、480～640g/日分数回経口
エレンタールP ＜略＞ (味の素)	40g/包 ¥268.4/包		新生児・乳幼児の栄養管理	＜小児＞1歳未満20～30g/kg 1～2歳15～25g/kg 2歳以上3～10g/kgから開始し、投与量を増やし3～10日間で維持量に達する、分数回、24時間持続投与
■肝不全用成分栄養剤				
ヘパンED ＜略＞ (味の素)	80g/包 ¥697.6/包		肝性脳症を伴う慢性肝不全の栄養状態の改善	1回1包を約250mLの温湯に溶かし1日2回食事と共に摂取
■分岐鎖アミノ酸製剤				
リーバクト ＜略＞ (味の素)	顆粒(4.15g/包) ¥199/包		低アルブミン血症	3包分3

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	会社名	容量　mL	p H	浸透 圧比	熱量 k cal/袋	電　解　質　（mEq/袋）										その他	ブドウ糖g/袋	アミノ酸g/ 袋	N含量g /袋	
						Na+	K+	Ca2+	Mg2+	Cl-	SO4 2-	Ace-	Glu-	Pmg	ZnμM					
■高カロリー輸液　（　Ace-：Acetate-、Glu-：Gluconate-、Lac-：Lactate-　）																				
エルネオパN F 1号	（大塚）	1500mL/袋 ¥1757/袋	約5.2	約4	840	75	33	6	6	75	6	58		235	45	ビ　タ　ミ　ン 微　量　元　素	180	30	4.7	
エルネオパN F 2号		1500mL/袋 ¥1899/袋	約5.4	約6	1230		41	7.6	7.5		8	72		280			262.5	45	7.05	
フルカリック 1号	（テルモ）	903mL/袋 ¥953/袋	4.5～ 5.5	約4	560	50	30	8.5	10	49	11.9	8.5	250	20	ビ　タ　ミ　ン	120	20	3.12		
フルカリック 2号		1003mL/袋 ¥1007/袋	4.8～ 5.8	約5	820											175	30	4.68		
フルカリック 3号		1103mL/袋 ¥1144/袋	4.9～ 5.9	約6	1160											250	40	6.24		
ハイカリック 1号		700mL/袋	3.5～	約4	480					10	25	150	10		120					
ハイカリック 2号		¥350/袋	4.5	約6	700										175					
ハイカリックRF			500mL/袋 ¥428/袋	4.0～ 5.0	約11	1000			25		3	3	15			3		Lac-： 15	250	

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量　mL	p H	浸透 圧比	熱量 kcal/L	電　解　質　（mEq/L）												その他	アミノ酸 濃度　%	N含量　g /L	E/N比	BCAA比 率　%
					Na+	K+	Ca2+	Mg2+	Cl-	SO4 2-	Ace-	Lac-	Cit-	Pmm	ZnμM						
■アミノ酸輸液　（　Ace-：Acetate-、Glu-：Gluconate-、Lac-：Lactate-、Cit-：Citrate3-　）																					
プロテアミン１２ （テル）	200mL/袋 ¥339/袋	5.7～ 6.7	約5	454	約150				約150									11.36	18.15	0.88	21.3
アミノレバン （大塚）	500mL/袋 ¥748/本	約5.9	約3	319.6	約14				約94									7.99	12.2	1.09	35.5
ネオアミュー （味の素）	200mL/袋 ¥485/袋	6.6～ 7.6	約2	236	約2				約47									5.9	8.1	3.21	42
プレアミンP （扶桑）	200mL/袋 ¥403/袋	6.5～ 7.5	2.3～ 2.8	304	約3				約80									7.6	11.75	1.26	39
ビーフリード （大塚）	500mL/袋 ¥436/袋	約6.7	約3	420	35	20	5	5	35	5	16	20	6	10	5	ブドウ糖： 75g/L チ7シ （VB1）： 1.5mg	3	4.7	1.44	30	

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ace ⁻	その他

■糖質輸液

5 %ブドウ糖 (大塚)	20mL/管 ¥65/管	3.5～ 6.5	約1	200							
	50mL/本 ¥95/本										
	100mL/本 ¥113/本										
	250mL/本 ¥139/本										
	500mL/本 ¥174/本										
10 %ブドウ糖 (大塚)	500mL/袋 ¥172/本		約2	400							
20 %ブドウ糖 (扶桑)	20mL/管 ¥61/管		約5	800							
50 %ブドウ糖 (大塚)	200mL/袋 ¥251/袋		約12	2000							
ブドウ糖注50 % シリンジ (テルモ)	20mL/筒 ¥119/管										

■脂肪輸液

イントラリポス 10 % (大塚製薬)	250mL/袋 ¥633/袋	6.5~ 8.5	約1	1100							タ [*] イ [*] 油:100g/L 卵黄レシチン:12g/L グリセリン:22g/L

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq／L)						
					Na＋	K＋	Ca2＋	Cl－	Lac－	Ace－	その他
■電解質輸液 (Lac－：Lactate－、Ace－：Acetate－、Cit：Citrate3－)											
ヴィーンD (興和創薬)	500mL/本 ¥193/本	4.0～ 6.5	約2	200	130	4	3	109		28	ブドウ糖：50g/L
生食注シリンジ (大塚)	10mL/筒 ¥104/筒	4.5～ 8.0	約1		154			154			
生理食塩液 (大塚)	20mL/管 ¥61/管	4.5～ 7.0									
	50mL/本 ¥110/本										
	100mL/本 ¥113/本										
	生理食塩液キットH (ニプロファーマ)										
生理食塩液ソフトバック (大塚)	250mL/袋 ¥130/袋										
	500mL/袋 ¥149/袋										
	1000mL/袋 ¥233/袋										
	生理食塩液プラボトル (大塚)										
生理食塩液P L (扶桑)	2000mL/袋 ¥408/袋										
ソルデム 1 (テルモ)	200mL/袋 ¥128/袋		4.5～ 7.0	104	90			70	20		ブドウ糖：26g/L
	500mL/袋 ¥131/袋										

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq／L)						
					Na+	K+	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
ソルデム 2 (テルモ)	500mL/袋 ¥123/袋	4.5～ 7.0	約1	58	77.5	30		59	48.5		ブドウ糖:14.5g/L
ソルデム 3 A (テルモ)	200mL/袋 ¥123/袋	5.0～ 6.5		172	35	20		35	20		ブドウ糖:43g/L
	500mL/袋 ¥121/袋										
ソルデム 3 A G (テルモ)	200mL/袋 ¥126/袋		約2	300					ブドウ糖:75g/L		
	500mL/袋 ¥125/袋										
ソルラクト (乳酸 リンゲル) (テルモ)	500mL/袋 ¥200/袋	6.0～ 7.5	約0.9		131	4	3	110	28		
デノサリン 1 (テルモ)	500mL/袋 ¥130/袋	3.5～ 6.0	約1	100	77			77			ブドウ糖:25g/L
ピカーボン (陽進堂)	500mL/袋 ¥219/袋	6.8～ 7.8	0.9～ 1.0		135	4	3	113			Mg2+:1 HCO3-:25
フィジオ 1 4 0 (大塚)	500mL/袋 ¥175/袋	5.9～ 6.2	約1	40	140			115		25	Mg2+:2 ブドウ糖:10g/L

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ac ⁻	その他

■電解質補正液＜注射剤＞ (Asp⁻: Aspartate⁻、Glu⁻: Gluconate⁻)

カルチコール ＜グルコン酸カル シウム＞ (日医工)	5mL/管 ¥62/管	6.0～ 8.2	約0.9				390				Glu ⁻ :390
KCL ＜塩化カリウム＞ (テル)	10mEq/キット (10mL) ¥178/キット	5.0～ 6.5	約6			1000					
補正用塩化ナトリ ウム (大塚)	20mL/管 ¥74/管	5.0～ 7.5	約7		1000			1000			
補正用硫酸マグネ シウム (大塚)	20mL/管 ¥93/管	5.5～ 7.5	約2								Mg ²⁺ :1000 SO ₄ ²⁻ :1000
リン酸Na補正液 (大塚)	20mL/管 ¥130/管	6.2～ 6.8	約3		750						P: 10mmol (310mg) /20mL (0.5mmol (15.5mg)/mL)
メイロン（炭酸水 素ナトリウム） ＜炭酸水素ナトリ ウム＞ (大塚)	20mL/管 ¥94/管 250mL/袋 ¥234/袋	7.6～ 8.6	約5		833						HCO ₃ ⁻ :833

■電解質補正液＜経口＞＜電解質濃度mEq/L（1包を水100mlに溶解した時）＞

ソリタ T 顆粒 3号 (味の素)	4g/包 ¥33.3/包			13/包	35	20		30			Mg ²⁺ :3 Po ₄ :5mmol/L Citrate ³⁻ :20

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq/L)							
					Na+	K+	Ca2+	Cl-	Lac-	Acet-	その他	
■その他の輸液												
アートセレブ脳脊 髄手術用洗浄灌流 液 (大塚製薬)	500mL/袋 ¥1931/袋	約7.3	約1		145	2.8	2.3	129			HC03-: 23.1 ブドウ糖: 0.61g/L	
グリセオール (中外)	200mL/袋 ¥256/袋	3.0～ 6.0	約7	637	154			154			濃グリセリン:100g/L	
蒸留水（注射用 水） (大塚)	20mL/管 ¥61/管											
	100mL/本 ¥114/本											
	500mL/本 ¥163/本											
	1000mL/本 ¥216/本											
低分子デキストラ ンL (大塚)	250mL/袋 ¥464/袋	5.0～ 7.5	約1		130	4	3	109			コイト 浸透圧89.5m mHg 平均分子量 4 万	
ヘスパンダー (フレコウスカビジ ヤパン)	500mL/袋 ¥757/袋	5.0～ 7.0			40		105.6	2.7	92.3			ヒドロキシルデンプン (平均分子量7万) 30.0g/袋 コイト 浸透圧18.6m mHg ブドウ糖10g/L
ボルベン (フレコウスカビジ ヤパン)	500mL/袋 ¥970/袋	4.0～ 5.5					154		154			ヒドロキシルデンプン (平均分子量13万) 30.0g/袋
マンニトール 20% (陽進堂)	300mL/本 ¥477/本	4.5～ 7.0	約5								Dマンニトール:200g/L	
ミオテクター冠血 管注 (持田製薬)	500mL (A液4 95mL, B液5m L)/袋 ¥1804/袋	7.6～ 8.0	約1		120	16	2.4	160. 4			HC03-: 10.0	

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca2+	Cl-	Lac-	Acet-	その他

■人工透析用剤 (Lac- : Lactate-, Ace- : Acetate-)

キンダリー液AF 3号 (扶桑)	A液6L, B液 7.56L ¥2238/本	4.5~ 4.9	0.7~ 0.8					114. 5		8	Mg2+:1.0 HCO3-: 25 ブドウ糖:1.5g/L
Dドライ2.5S (日機操)	A剤2670.4 g, B剤661.6 g ¥1250/セット				140	2	2.5	112. 5			Mg2+:1.0 HCO3-: 25 ブドウ糖:1.0g/L

■腹膜透析液

ミッドペリックL 135 (テルモ)	シングルパック 1.5L/袋 ¥793/袋	6.3~ 7.3	1.2		135		2.5	98	40		Mg2+:0.5 ブドウ糖:13.5g/L
	シングルパック2 L/袋 ¥1047/袋										
	ツインパック1L/ 袋 ¥1326/袋										
	ツインパック1.5 L/袋 ¥1635/袋										

1. 止血剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■対血管性止血剤				
アドナ ＜カルバゾクロム＞ (田辺三菱)	30mg/錠 ¥10.8/錠	50mg(10mL)/管 ¥59/管	毛細血管抵抗性の減弱及び透過性亢進による出血(皮膚・粘膜、眼底、腎、子宮、術中・術後の出血)	30～90mg分3 25～100mg/日静注, 点静
■抗プラスミン剤				
トラネキサム酸 ＜トラネキサム酸＞ (陽進堂)	250mg/錠 ¥9.9/錠			750～2000mg分3～4
トランサミン5% ＜トラネキサム酸＞ (第一三共)		250mg(5mL)/管 ¥64/管	線溶亢進が関与すると考えられる出血, 薬疹 【その他はDI照会参照】	250～2500mg分1～2筋注, 静注, 点静
トランサミン10% ＜トラネキサム酸＞ (第一三共)		1000mg(10mL)/管 ¥123/管		
■食道静脈瘤硬化剤				
エトキシスクレロール ＜ポリドカノール＞ (カイゲン)		0.3g/瓶(1%液) ¥18582/瓶	食道静脈瘤の止血・硬化退縮	1穿刺あたり10～30mgを注入 【Max:300mg】
オルダミン ＜オレイン酸モノエタノールアミン＞ (あすか)		1g/瓶 ¥18732/瓶		静脈瘤1条あたり1～5mLを注入 【Max:20mL】
■凝固因子製剤				
トロンビン ＜トロンビン＞ (持田)		液(5000単位/PB) ¥995.9/キット	毛細管出血	希釈して噴霧, 散布, 経口投与 【注射厳禁】
経口用トロンビン ＜トロンビン＞ (持田)	細粒(5000単位/包) ¥903/包		上部消化管出血	200～400単位/mL経口投与
PPSB-HT ＜乾燥濃縮人血液凝固第9因子＞ (日本製薬)		500単位(25mL溶解液付)/瓶 ¥31822/瓶	【特定生物由来製品のため患者さんへの説明および同意書が必要です】 血液凝固第IX因子欠乏患者の出血傾向の抑制	1回200～1200単位, 静注
フィブロガミンP ＜乾燥濃縮人血液凝固第13因子＞ (CSLベーリング)		瓶 【用時購入】 ¥8173/瓶	【特定生物由来製品のため患者さんへの説明および同意書が必要です】 ①先天性及び後天性血液凝固第XIII因子欠乏による出血傾向 ②縫合不全及びろう孔 ③シェンライン・ヘノック紫斑病	①4～20mL/日静注 ②12～24mL/日静注 【急性炎症, 急性感染の消退後、血清総蛋白、血清アルブミン等に異常がなく、縫合不全、ろう孔が存続し血液凝固第13因子が70%以下に低下している患者に使用。5日間投与しても改善が認められない場合は中止】 ③＜小児＞12～24mL分1静注 【血液凝固第13因子が90%以下に低下している患児に使用。原則的に3日間投与】

1. 止血剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

■その他の製剤

プロタミン ＜プロタミン＞ (持田)		10mL/瓶 ¥671/瓶	ヘパリンの中和	ヘパリン1000単位に対して1～1.5mLを投与

■外用止血剤

サージセル ＜酸化セルロース＞ (ジヨンソソ・イント・ジヨンソソ)		綿型(2.5cm×5.1cm) ¥1721.5/枚	各種手術時の補助的な止血	出血部位に適当量をあてるか充填、止血の達成後余剰分は可能な限り取り除く
		ニューネット(2.5cm×8.9cm) ¥1928.4/枚		
		ニューネット(15.2cm×22.9cm) ¥2916.7/枚		

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヘパリン製剤				
クレキサソ ＜エノキサパリンナトリウム＞ (科研)		2000単位/筒 (0.2mL) ¥1066/筒	股関節全置換術, 膝関節全置換術, 股関節骨折手術下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 静脈血栓塞栓症の発症リスクの高い, 腹部手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制	2000IU/回, 皮下
ダルテパリン ＜ダルテパリン＞ (ニッポ)		5000単位/シリンジ (5mL) ¥731/シリンジ	① 灌流血液の凝固防止 ② DIC	① 【DI照会参照】 ② 75単位/kg/日, 24時間持続静注
ヘパリンNa ＜ヘパリンナトリウム＞ (持田)		5000単位/瓶 (5mL) ¥190/瓶	① DIC, 血栓塞栓の治療及び予防 ② 輸血時の血液凝固防止 ③ 血液検査時の血液凝固防止	① APTTが正常の2～3倍になるように調節 皮下, 筋注, 静注, 点静 ＜小児＞100単位/kg/回1日4回静注 ② 血液100mLに対して400～500単位 ③ 血液20mLに対して100単位
フラグミン ＜ダルテパリン＞ (キッセイ)		5000単位/瓶 (5mL) ¥1089/瓶	① 灌流血液の凝固防止 ② DIC	① 【DI照会参照】 ② 75単位/kg/日, 24時間持続静注
ヘパフラッシュ ＜ヘパリンナトリウム＞ (テルモ)		100単位/mLシリンジ (10mL) ¥138/シリンジ	静脈内留置ルートの血液凝固防止	静脈内留置ルートを充填するのに十分な量
ヘパリンナトリウム ＜ヘパリンナトリウム＞ (陽進堂)		5000単位/管 (5mL) ¥153/管	① DIC, 血栓塞栓の治療及び予防 ② 輸血時の血液凝固防止 ③ 血液検査時の血液凝固防止	① APTTが正常の2～3倍になるように調節 皮下, 筋注, 静注, 点静 ＜小児＞100単位/kg/回1日4回静注 ② 血液100mLに対して400～500単位 ③ 血液20mLに対して100単位
ヘパリンカルシウム ＜ヘパリンカルシウム＞ (持田)		5000単位/筒 (0.2mL) ¥359/筒	① DIC ② 血栓塞栓の治療及び予防	① 初回15000～20000単位, 以後10000～15000単位/回, 1日2回皮下 ② 5000単位/回1日2回, 7～10日間皮下
ヘパリンカルシウム ＜ヘパリンカルシウム＞ (沢井)		20000単位/瓶 (0.8mL) ¥646/瓶		① 5000～10000単位/回, 1日2回皮下 ② 5000単位/回1日2回, 7～10日間皮下
ヘパリンNa透析用 ＜ヘパリンナトリウム＞ (ニッポ)		5000単位 (20mL) /シリンジ ¥195/シリンジ	血液透析の体外循環装置使用時の血液凝固の防止	全身ヘパリン化法: 透析開始に先だって, 1000～3000単位を投与, 透析開始後は, 1時間当り500～1500単位を持続的に, 又は1時間毎に間歇的に追加。 局所ヘパリン化法: 1時間当り1500～2500単位持続注入し, 体外灌流時に硫酸プロタミンで中和。

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Xa阻害剤				
イグザレルト ＜リバーロキサバン＞ (パイール)	10mg/錠 ¥383/錠 15mg/錠 ¥545.6/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②深部静脈血栓症及び肺血栓症の治療及び再発抑制	①15mg分1 ②発症後の初期3週間:30mg分2, その後15mg分1
エリキュース ＜アピキサバン＞ (ファイザー)	2.5mg/錠 ¥149/錠 5mg/錠 ¥272.8/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓症)の治療及び再発抑制	①10mg分2 腎障害時:腎機能に応じて5mg分2 ②20mg分2 7日間投与後10mg分2
リクシアナ ＜エドキサバン＞ (第一三共)	15mg/錠 ¥294.2/錠 30mg/錠 ¥538.4/錠 60mg/錠 ¥545.6/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓症)の治療及び再発抑制 ③膝関節全置換術, 股関節全置換術, 股関節骨折手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制	①②体重60kg以下:1日1回30mg 体重60kg以上:1日1回60mg(腎機能, 併用薬に応じて1日1回30mg) ③1日1回30mg(腎機能に応じて1日1回15mg)
■経口抗凝固剤				
ワーファリン ＜ワルファリン＞ (エーザイ)	顆粒(2mg/g) ¥880/g 1mg/錠 ¥9.6/錠		血栓塞栓の治療及び予防	＜成人＞1～5mg/日, 分1 ＜小児＞12ヵ月未満:0.16mg/kg/日 1歳以上15歳未満:0.04～0.1mg/kg/日 PT(1.5～2.0), TT(10～25)でコントロール(疾患により異なる)
■直接トロンビン阻害剤				
プラザキサ ＜ダビガトラン＞ (日本ペーリンガー)	75mg/C ¥136.4/C 110mg/C ¥239.3/C		非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	220mg～300mg分2

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■血液凝固阻止剤				
アンスロビンP ＜アンチトロンビンⅢ＞ (CSLベーリング)		500単位/瓶(溶解液10mL付) ¥25264/瓶	①先天性ATⅢ欠乏に基づく血栓形成傾向 ②ATⅢ欠乏に基づく汎発性DIC【ATⅢ70%以下】	①1000～3000単位(20～60単位/kg)/日, 静注, 点静 ②1500単位(30単位/kg)/日 静注, 点静【ヘパリンと併用】 原則3(～5)日間。
		1500単位/瓶(溶解液30mL付) ¥65433/瓶		
リコモジュリン ＜トロンボモデュリン アルファ＞ (旭化成ファーマ)		12800単位/瓶 ¥39448/瓶	汎発性血管内血液凝固症(DIC)	380U/kg分1, 点静

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■血小板凝集抑制剤				
イコサペント酸エチル 粒状カプセル ＜イコサペント酸エチル＞ (沢井製薬)	900mg/包 ¥44.0/包		①閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善 ②高脂血症	①1回600mg1日3回 ②1回900mg1日2回または1回600mg1日3回 【Max: 1回900mg1日3回】
エフィエント ＜プラスグレル＞ (第一三共)	3.75mg/錠 ¥282.7/錠 20mg/錠 ¥1150.2/錠		経皮的冠動脈形成術が適用される急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞), 安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞	投与開始日1回20mg, 以後1日1回3.75mg
クロピドグレル ＜クロピドグレル＞ (日医工)	25mg/錠 ¥36.4/錠 75mg/錠 ¥90.9/錠		①虚血性脳血管障害(心原性脳塞栓症を除く)後の再発抑制 ②経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞), 安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞 ③末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制	①1日1回75mg ②投与開始日1回300mg, 以後1日1回75mg ③1日1回75mg
サルボグレラート ＜サルボグレラート＞ (サンド)	100mg/錠 ¥51.8/錠		慢性動脈閉塞症	300mg分3
シロスタゾールOD ＜シロスタゾール＞ (沢井製薬)	100mg/錠 ¥33.1/錠		慢性動脈閉塞症に基づく潰瘍、疼痛及び冷感等の虚血性諸症状の改善 脳梗塞(心原性脳塞栓症を除く)発症後の再発抑制	200mg分2
ノバスタンHI ＜アルガトロバン＞ (田辺三菱)		10mg(2mL)/管 ¥3053/管	①慢性動脈閉塞症 ②脳血栓症急性期(発症後48時間以内, ラテ除く) ③先天性ATⅢ欠乏患者, ATⅢ低下患者, ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)Ⅱ患者における血液体外循環時の凝固血液の凝固防止(血液透析) ④ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)Ⅱにおける経皮的冠介入ペーシェン施行時の血液の凝固防止 ⑤ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)Ⅱにおける血栓症の発症抑制	①20mg分2点静2～3hr ②2日間60mg24時間持続点適, その後の5日間20mg分2点静3hr ③開始時回路に10mg, 開始後25mg/hrより投与し, 5～40mg/hrを目安 ④0.1mg/kg, 3～5分で静注, 術後4時間まで6μg/kg/min持続静注, 以後継続が必要な場合0.7μg/kg/min持続静注 ⑤0.7μg/kg/minより点静開始し, 持続点静

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
バイアスピリン <アスピリン> (バ イル)	100mg/腸溶錠 ¥5.6/錠		①狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症), 心筋梗塞, 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA), 脳梗塞)における血栓・塞栓形成の抑制, 冠動脈バイパス術(CAGB), 経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後における血栓・塞栓の抑制 ②川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)	①1錠分1 【Max:300mg】 ②<急性期有熱期間> 30~50mg/kg/日, 分3 <解熱後の回復期から慢性期> 3~5mg/kg/日, 分1
パナルジン <チクロピジン> (サノイ)	100mg/錠 ¥50.7/錠		①手術後血栓・塞栓の治療 ②慢性動脈閉塞症 ③虚血性脳血管障害 ④くも膜下出血術後の脳血管攣縮	①③200~300mg分2~3 ②300~600mg分2~3 (200mg分1も可) ④300mg分3
バファリン81mg <アスピリン(81mg)・ダイアルミネート> (エザイ)	錠 ¥5.6/錠		①狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症), 心筋梗塞における血栓・塞栓の抑制 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA), 脳梗塞)冠動脈バイパス術(CAGB), 経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後における血栓・塞栓形成の抑制 ②川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)	①1錠分1 【Max:4錠】 ②<急性期>30~50mg/kg分3 <回復期~慢性期>3~5mg/kg分1
ベラサスL A <ベラプロスト> (科研)	60 μ g/錠 【院外のみ】 ¥242.6/錠		肺動脈性肺高血圧症	120 μ g分2から開始し, 漸次増量 【Max:360 μ g/日】
ベラプロストNa <ベラプロスト> (東和薬品)	20 μ g/錠 ¥21.6/錠		①慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍, 疼痛及び冷感の改善 ②原発性肺高血圧症	①120 μ g分3 ②60~180 μ g分3~4
リマプロストアルファ デクス <リマプロストアルファデクス> (日医工)	5 μ g/錠 ¥24.9/錠		①閉塞性血栓血管炎 ②腰部脊柱管狭窄症	①30 μ g分3 ②15 μ g分3

3. その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■エリスロポエチン製剤				
エスポー ＜エポエチンアルファ＞ (協和発酵キリン)		750単位(0.5mL)/筒 ¥638/筒	未熟児貧血	【投与対象：Hb12g/dL未満を目安】 1回200単位/kg, 週2回皮下
エスポー皮下用 ＜エポエチンアルファ＞ (協和発酵キリン)		24000単位(0.5mL)/シリンジ ¥20911/シリンジ	①腎性貧血 ②自己血貯血	①【DI照会参照】 ②【Hb13g/dl未満の場合は初回採血1週間前から、13～14g/dlの場合は初回採血後より皮下】 【初回採血は、800mL貯血の場合は手術2週間前、1200mL貯血の場合は手術3週間前を目安とする】 24000単位/回, 週1回
■ダルベポエチン製剤				
ネスプ ＜ダルベポエチンアルファ＞ (協和発酵キリン)		10 μ g(1mL)/シリンジ ¥2451/シリンジ	①腎性貧血 ②骨髓異形性症候群に伴う貧血	①＜血液透析患者＞ 【初回用量】下記を週1回静注 20 μ g/回 EPO製剤からの切替え時: 15～60 μ g/回 ＜小児＞0.33 μ g/kg/回 【維持用量】下記を週1回静注 15～60 μ g/回 ＜小児＞5～60 μ g/回 【維持用量(貧血改善後の維持期)】 その時点での1回投与量の2倍量を開始 用量として, 30～120 μ g/回(小児: 10～120 μ g), 2週に1回静注も可【Max: 180 μ g/回】 ＜腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者＞ 【初回用量】下記を2週に1回皮下又は静注 30 μ g/回 EPO製剤からの切替え時: 30～120 μ g/回 ＜小児＞0.5 μ g/kg(Max: 30 μ g)/回 EPO製剤からの切替え時: 10～60 μ g/回 【維持用量】下記を2週に1回皮下又は静注 30～120 μ g/回 ＜小児＞5～120 μ g/回 【維持用量(貧血改善後の維持期)】 その時点での1回投与量の2倍量を開始 用量として, 60～180 μ g(小児: 10～180 μ g)/回, 4週に1回皮下注または静注も可 【Max: 180 μ g/回】 ②240 μ g/回, 週1回皮下注
		20 μ g(1mL)/シリンジ ¥4422/シリンジ		
		30 μ g(1mL)/シリンジ ¥6349/シリンジ		
		40 μ g(1mL)/シリンジ ¥7873/シリンジ		
		60 μ g(0.6mL)/シリンジ ¥11278/シリンジ		
		120 μ g(0.6mL)/シリンジ ¥20007/シリンジ		
		180 μ g(0.9mL)/シリンジ ¥28140/シリンジ		

3. その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ G-C S F 製剤				
グラン <フィルグラスチム> (協和発酵刊)		75 μ g (0.3mL)/シリンジ ¥8477/シリンジ 150 μ g (0.6mL)/シリンジ ¥16961/シリンジ	①造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進 ②HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症 ③骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症 ④再生不良性貧血に伴う好中球減少症 ⑤先天性・特発性好中球減少症 ⑥急性白血病【癌化学療法による好中球減少症】 ⑦悪性リンパ腫・小細胞肺癌、胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍、卵巢腫瘍等)・神経芽細胞腫、小児がん【癌化学療法による好中球減少症】 ⑧その他のがん腫【癌化学療法による好中球減少症】 ⑨同種及び自家末梢血幹細胞採取時のフィルグラスチム単独投与による動員【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑩自家末梢血幹細胞採取時の癌化学療法剤投与終了後のフィルグラスチム投与による動員【造血幹細胞の末梢血中への動員】	①300 μ g/m ² , 分1点静<小児>同量 投与開始: 造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ②200 μ g/m ² , 分1点静<小児>同量 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止: 投与期間は2週間を目安とするが、好中球数3000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ③100 μ g/m ² , 分1点静 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ④400 μ g/m ² , 分1点静<小児>同量 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑤50 μ g/m ² , 分1皮下<小児>同量 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑥200 μ g/m ² , 分1点静, 100 μ g/m ² , 分1皮下<小児>同量 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降)で、末梢血中に骨髓芽球が認められない時 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑦50 μ g/m ² , 分1皮下 100 μ g/m ² , 分1点静<小児>同量 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑧50 μ g/m ² , 分1皮下 100 μ g/m ² , 分1点静<小児>同量 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満の時また好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満が観察され、引き続き同一の化学療法を施行する時は次回以降は好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑨400 μ g/m ² , 分1又は分2, 5日間連日又は末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下 投与開始: 好中球数1500/ μ l(白血球数3000/ μ l)未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑩400 μ g/m ² , 分1又は分2 末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下 投与開始: 好中球数1000/ μ l(白血球数2000/ μ l)未満 <小児>好中球数500/ μ l(白血球数1000/ μ l)未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 【詳しくはD I 照会参照】
グランM <フィルグラスチム> (協和発酵刊)		300 μ g (0.7mL)/管 ¥21117/管		
ジーラスタ <ペグフィルグラスチム> (協和発酵刊)		3.6mg (0.36mL)/シリンジ ¥106660/筒	がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制	がん化学療法剤投与終了後の翌日以降に化学療法1サイクルあたり1回3.6mg皮下注

3. その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ノイトロジン <レノグラステム> (中外)		250 μ g/瓶 【用時購入】 ¥21098/瓶	①造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進 ②HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症 ③骨髓異形成症候群に伴う好中球減少症 ④再生不良性貧血に伴う好中球減少症 ⑤先天性・特発性好中球減少症 ⑥免疫抑制療法(腎移植)に伴う好中球減少症 ⑦急性骨髓性白血病, 急性リンパ性白血病【癌化学療法による好中球減少症】 ⑧悪性リンパ種・小細胞肺癌, 胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍, 卵巣腫瘍等)・神経芽細胞腫, 小児がん【癌化学療法による好中球減少症】 ⑨その他のがん腫【癌化学療法による好中球減少症】 ⑩免疫抑制療法(腎移植)に伴う好中球減少症【癌化学療法による好中球減少症】 ⑪癌化学療法終了後に末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑫自家末梢血幹細胞移植を目的として本剤単独で末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑬末梢血幹細胞移植ドナーに対して本剤単独で末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】	①5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ②5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 投与期間は2週間を目安とするが, 好中球数3000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ③5 μ g/kg, 分1静注 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ④5 μ g/kg, 分1静注 <小児>5 μ g/kg, 分1静注, 皮下 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑤2 μ g/kg, 分1静注・皮下<小児>同 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑥2 μ g/kg, 分1皮下<小児>同 投与開始: 好中球数1500/ μ l (白血球数3000/ μ l) 未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑦5 μ g/kg, 分1点静, 2 μ g/kg分1皮下<小児>同 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降)で, 末梢血中に骨髓芽球が認められない時 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑧2 μ g/kg, 分1皮下5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑨2 μ g/kg, 分1皮下, 5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満の時, また好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満が観察され, 引き続き同一の化学療法を施行する時は次回以降は好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑩2 μ g/kg, 分1皮下 投与開始: 好中球数1500/ μ l (白血球数3000/ μ l) 未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑪5 μ g/kg, 分1~2, フォレス終了時まで皮下 【Max: 10 μ g/kg/日】<小児>同 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止: フォレス終了前に白血球数が50000/ μ l以上に増加した場合は減量し、減量後、白血球数が75000/ μ lに達した場合は中止 ⑫10 μ g/kg, 分1~2皮下, 4~6日間フォレス終了時まで<小児>同 投与中止: フォレス終了前に白血球数が50000/ μ l以上に増加した場合は減量し、減量後、白血球数が75000/ μ lに達した場合は中止 ⑬10 μ g/kg, 分1~2皮下, 4~6日間フォレス終了時まで 投与中止: フォレス終了前に白血球数が50000/ μ l以上に増加した場合は減量し、減量後、白血球数が75000/ μ lに達した場合は中止 【詳しくはD I 照会参照】

■その他

セファランチン <セファランチン> (化研生薬)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥8.4/錠		①放射線による白血球減少症 ②脱毛症	①3~6mg分2~3 ②1.5~2mg分2~3

1. 解毒剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■出血性膀胱炎防止薬				
ウロミテキサン ＜メスナ＞ (オノギ)		100mg (1mL) / 管 ¥400/管	①イブサファミド [®] 投与又は ②シクロファミド [®] (造血 幹細胞移植の前治 療) 投与に伴う泌尿 器系障害(出血性膀 胱炎, 排尿障害等) の 発現抑制	①1回量300～600mg (イブサファミド [®] 1日量の20% 相当量) を1日3回 (イブサファミド [®] 投与時, 4時間 後, 8時間後) 静注, 【Max: イブサファミド [®] 1日量 の最大100%相当量】 ②シクロファミド [®] 1日量の40%相当量を1回量 とし, 1日3回 (シクロファミド [®] 投与時, 4時間 後, 8時間後) 30分かけて点静
		400mg (4mL) / 管 ¥942/管		
■その他				
球形吸着炭細粒「マイ ラン」 ＜球形吸着炭＞ (扶桑薬品)	2g/包 ¥127/包		慢性腎不全(進行性) における尿毒症症状 の改善及び透析導入 の遅延	6g分3
デスフェラール ＜デフェロキサミン＞ (ノバルティス)		500mg/瓶 ¥1552/瓶	原発性・続発性ヘモフィ トシス	1000mg分1～2
デトキソール ＜チオ硫酸ナトリウム ＞ (日医工)		2g (20mL) / 管 ¥464/管	①ジアン・シアン化合物に よる中毒 ②ヒ素剤による中毒	①12.5～25g/回静注 ②1～2g静注
ノベルジン ＜酢酸亜鉛水和物＞ (ノベルファーマ)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥422.3/錠		①ケイルン病(肝臓・核 変性症) ②低亜鉛血症	①150mg分3 【Max: 250mg】 ＜小児＞(6歳以上) 75mg分3, (1歳以上6歳未満) 5 0mg分2 食前1時間以上又は食後2時間以上あけて投与 ②＜成人及び体重30kg以上の小児＞50～100mg分 2 【Max: 150mg (1回50mg1日3回)】 ＜体重30kg未満の小児＞25mg分1 【Max: 75mg (1 回25mg1日3回)】 食後に投与
パム ＜プラリドキシムヨウ 化メチル＞ (大日本住友)		500mg (20mL) / 管 ¥617/管	有機リン剤の中毒	1g/回静注
バル ＜ジメルカプロール＞ (第一三共)		100mg (1mL) / 管 ¥1615/管	ヒ素・水銀・鉛・銅・金・ ヒスス・クロム・アンチモン の中毒	第1日目10mg/kg分4 第2日目以降6日間2.5mg/kg分1 ＜重症緊急中毒症状＞ 最初2日間15mg/kg分6 3日目10mg/kg分4 以降10日間あるいは回復する迄毎日5mg/kg分 2
薬用炭 ＜薬用炭＞ (日医工)	末 ¥8.3/g		自家中毒・薬物中毒 時の吸着・解毒	2～20g分服

2. 痛風治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アロプリノール <アロプリノール> (沢井製薬)	100mg/錠 ¥7.7/錠		痛風, 高尿酸血症	200~300mg分2~3
フェブリク <フェブキソスタット> (帝人)	10mg/錠 ¥32/錠		①痛風, 高尿酸血症 ②がん化学療法に伴う高尿酸血症	①10mg分1より開始, 維持量40mg分1【Max: 60mg】 ②1日1回60mg, 化学療法開始1~2日前から5日目まで, 適宜延長可
	20mg/錠 ¥58.0/錠			
	40mg/錠 ¥109.6/錠			
ユリノーム <ベンズプロマロン> (鳥居)	50mg/錠 ¥25.6/錠		①痛風 ②高尿酸血症	①25~50mg分1 以後維持量50~150mg分1~3 ②50~150mg分1~3

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インスリン製剤 ◆超速効性				
アピドラ注ソロスター ＜インスリングルリジン＞ (サノフィ)		100単位/mL【3mL】 ¥2301/キット	糖尿病	【DI照会参照】
ノボラピッド注フレックスタッチ ＜インスリンアスパルト＞ (ノボ・ルディ・ISK)		100単位/mL【3mL】 ¥2385/キット		
ノボラピッド注イノレット ＜インスリンアスパルト＞ (ノボ・ルディ・ISK)		100単位/mL【3mL】 【用時購入】 ¥2211/キット		
ヒューマログ注ミリオペン ＜インスリンリスプロ＞ (日本イーライリリー)		100単位/mL【3mL】 ¥1952/キット		
■インスリン製剤 ◆速効性				
ノボリンRフレックスペン ＜ヒトインスリン＞ (ノボ・ルディ・ISK)		100単位/mL【3mL】 ¥1950/キット	糖尿病	【DI照会参照】
ヒューマリンR ＜ヒトインスリン＞ (日本イーライリリー)		100単位/mL【10mL】 ¥3110/瓶		
■インスリン製剤 ◆中間型NPH製剤				
ノボリンNフレックスペン ＜ヒトインスリン＞ (ノボ・ルディ・ISK)		100単位/mL【3mL】 ¥1986/キット	糖尿病	【DI照会参照】
■インスリン製剤 ◆中間型混合製剤				
イノレット30R注 ＜ヒトインスリン＞ (ノボ・ルディ・ISK)		100単位/mL【3mL】 【用時購入】 ¥1920/キット	糖尿病	【DI照会参照】
■インスリン製剤 ◆二相性製剤				
ノボラピット30ミックス注フレックスペン ＜インスリンアスパルト＞ (ノボ・ルディ・ISK)		100単位/mL【3mL】 ¥2352/キット	糖尿病	【DI照会参照】

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インスリン製剤 ◆混合型				
ヒューマログミックス 25注ミリオペン ＜インスリンリスプロ＞ (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥1953/キット	糖尿病	【DI照会参照】
ヒューマログミックス 50注ミリオペン ＜インスリンリスプロ＞ (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥1953/キット		
■インスリン製剤 ◆持効型製剤				
インスリン グラルギン BS ＜インスリングラルギン＞ (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥1612/キット	インスリン療法が適応となる糖尿病	【DI照会参照】
トレシーバフレックス タッチ ＜インスリンデグルデク＞ (ノボ・ルデ・ISK)		100単位/mL【3mL】 ¥2619/キット	インスリン療法が適応となる糖尿病	
ランタスXR注ソロスター ＜インスリングラルギン＞ (サノフィ)		300単位/mL【1.5mL】 ¥3102/キット		
レベミル注300フレックス ペン ＜インスリンデテミル＞ (ノボ・ルデ・ISK)		100単位/mL【3mL】 ¥2601/キット		
レベミル注イノレット ＜インスリンデテミル＞ (ノボ・ルデ・ISK)		100単位/mL【3mL】 【用時購入】 ¥2401/キット		
■SU剤				
グリミクロン ＜グリクラジド＞ (大日本住友)	40mg/錠 ¥24.4/錠		インスリン非依存型糖尿病	40～120mg分1～2, 食前または食後 【Max:160mg/日】
グリメピリドOD ＜グリメピリド＞ (日医工)	0.5mg/錠 ¥9.6/錠		2型糖尿病	1～4mg分1～2朝または朝夕, 食前または食後 【Max:6mg】
	1mg/錠 ¥9.9/錠			

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ ビグアナイド剤				
メトホルミン塩酸塩 ＜メトホルミン＞ (第一三共)	250mg/錠 ¥9.9/錠 500mg/錠 ¥9.9/錠		2型糖尿病	1日500mgより開始 750～1500mg分2～3【Max:2250mg】 10歳以上の小児:1日500mgより開始 500～1500mg分2～3【Max:2000mg】
■ インスリン抵抗性改善剤				
アクトス ＜ピオグリタゾン＞ (武田)	15mg/錠 ¥68.6/錠		2型糖尿病	30mg分1朝食前または食後 【Max:45mg】
■ α グルコシダーゼ阻害剤				
セイブル ＜ミグリトール＞ (三和化学)	50mg/錠 ¥52.4/錠		糖尿病の食後過血糖 の改善	150mg分3食直前 【Max:225mg】
ボグリボースOD ＜ボグリボース＞ (東和薬品)	0.3mg/錠 ¥20.1/錠			0.6mg分3食直前 【Max:0.9mg】
■ 速効型食後血糖降下剤				
ファスティック ＜ナテグリニド＞ (持田製薬)	30mg/錠 ¥17.5/錠 90mg/錠 ¥44/錠		2型糖尿病の食後血 糖推移の改善	270mg分3食直前 【Max:360mg】
■ アルドース還元酵素阻害剤				
キネダック ＜エパルレスタット＞ (小野薬品)	50mg/錠 ¥112.1/錠		糖尿病性末梢神経障 害 【HbA1c:7.5%以上 の時】	150mg分3食前
■ DPP-4 阻害剤				
エクア ＜ビルダグリプチン＞ (ノバルティスファーマ)	50mg/錠 ¥80.1/錠		2型糖尿病	50mg～100mg分1～2
ジャヌビア ＜シタグリプチン＞ (MSD)	25mg/錠 ¥73.9/錠			50～100mg分1
	50mg/錠 ¥136.5/錠			
テネリア ＜テネリグリプチン＞ (第一三共)	20mg/錠 ¥169.9/錠			20～40mg分1
トラゼンタ ＜リナグリプチン＞ (日本ペーリンカール・インゲルハイム)	5mg/錠 ¥171.9/錠			5mg分1

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■GLP-1受容体作動薬				
バイエッタ ＜エキセナチド＞ (日本イーライリリー)		300 μ g/キット ¥9937/キット	2型糖尿病	5 μ g/回1日2回朝夕食前,皮下注 【Max:10 μ g/回1日2回】
ビクトーザ ＜リラグルチド＞ (ノボ・ノルディスク)		18mg(3mL)/キット ¥10245/キット		1日1回0.3mgより開始 1週間以上の間隔で0.3mgずつ増量 維持量1日1回0.9mg皮下注,朝又は夕 【MAX:0.9mg】

4. その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫抑制剤				
アザニン ＜アザチオプリン＞ (田辺三菱)	50mg/錠 ¥139.9/錠		①腎移植における拒否反応の抑制 ②肝・心及び肺移植における拒絶反応の抑制 ③ステロイド依存性の加齢病及び緩解維持並びにステロイド依存症の潰瘍性大腸炎の緩解維持 ④治療抵抗性の下記リウマチ性疾患 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎、ウェゲナ肉芽腫症、結節性多発動脈炎、Churg-Strauss症候群、大動脈炎症候群等)、全身性エリマトデス(SLE)、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、及び難治性リウマチ性疾患	①初期量2～3mg/kg/日、維持量0.5～1mg/kg/日 ②初期量2～3mg/kg/日、維持量1～2mg/kg/日 ③50～100mg ＜小児＞1～2mg/kg ④1～2mg/kg/日【Max:3mg/kg/日】
ジレニア ＜フィンゴリモド＞ (ノバルティスファーマ)	0.5mg/C ¥8148.7/C		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	1日1回0.5mg
ネオオラル ＜シクロスポリン＞ (ノバルティス)	25mg/C ¥227.5/C		①腎移植における拒否反応の抑制 ②肝移植における拒否反応の抑制 ③心移植・肺移植・脾移植における拒否反応の抑制 ④小腸移植における拒否反応の抑制 ⑤骨髄移植における拒否反応及び移植片対宿主病の抑制 ⑥パーチェット病(眼症状)及びその他の非感染性ぶどう膜炎 ⑦尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬 ⑧再生不良性貧血(重症)、赤芽球癆 ⑨初老症候群(頻回再発型) ⑩初老症候群(ステロイド抵抗性) ⑪全身型重症筋無力症 ⑫アトピー性皮膚炎	①移植1日前から9～12mg/kg/日分1～2、以降2mg/kg/日ずつ減量、維持量4～6mg/kg/日 ②移植1日前から14～16mg/kg/日分2、徐々に減量し、維持量5～10mg/kg/日 ③移植1日前から10～15mg/kg/日分2、徐々に減量し、維持量2～6mg/kg/日 ④移植1日前から14～16mg/kg/日分2を注射剤で開始、徐々に減量し、維持量5～10mg/kg/日、内服可能時は速やかに経口投与へ切り替える ⑤移植1日前から6～12mg/kg/日分1～2、3～6ヵ月間継続し、徐々に減量する ⑥5mg/kg/日分2、以後1ヵ月毎に1～2mg/kg/日減量又は増量 維持量3～5mg/kg/日 ⑦5mg/kg/日分2、以後1ヵ月毎に1mg/kg/日減量 維持量3mg/kg/日 ⑧6mg/kg/日分2 ⑨1.5mg/kg/日分2 ＜小児＞2.5mg/kg/日分2 ⑩3mg/kg/日分2 ＜小児＞5mg/kg/日分2 ⑪5mg/kg/日分2、徐々に減量し、維持量3mg/kg/日 ⑫3mg/kg/日分2【Max:5mg/kg/日】
ミソリビン ＜ミソリビン＞ (ファイザー)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥134/錠		①腎移植における拒否反応の抑制 ②ループス腎炎 ③関節リウマチ	①初期量2～3mg/kg/日分1～3、維持量1～3mg/kg/日分1～3 ②150mg分3 ③150～300mg分3

4. その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■高カルシウム血症用薬 ◆ビスホスホネート製剤				
ゾレドロン酸点滴静注 ＜ゾレドロン酸水和物＞ (ニッポ)		4mg(100mL)/袋 ¥14890/袋	①悪性腫瘍による高カルシウム血症 ②多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変	①4mg/回, 点静(15分以上かけて) ②4mg/回, 点静(15分以上かけて)3～4週間間隔で
パミドロン酸二Na ＜パミドロン酸二ナトリウム＞ (富士製薬工業)		15mg/瓶 ¥5021/瓶	①悪性腫瘍による高カルシウム血症 ②乳癌の溶骨性骨転移(化学療法, 内分泌療法, あるいは放射線療法と併用) ③骨形成不全症	①30～45mg/回, 点静(4時間以上かけて)1週間以上の間隔で ②90mg/回, 点静(4時間以上かけて)4週間間隔で ③1日1回点滴静注(4時間以上かけて), 3日間連続【Max:1日60mg】 2歳未満:1回0.5mg/kg, 投与間隔2ヵ月 2歳以上3歳未満:1回0.75mg/kg, 投与間隔3ヵ月 3歳以上:1回1.0mg/kg, 投与間隔4ヵ月
■高カルシウム血症用薬 ◆その他				
エルシトニン ＜エルカトニン＞ (旭化成)		40単位/管(1mL) ¥1086/管	①高カルシウム血症 ②骨ページェット病	①80単位/日分2筋注, 点静(1～2hrかけて) ②40単位/日分1筋注
■骨粗鬆症用薬 ◆ビタミンD製剤				
エディロール ＜エルデカルシトール＞ (大正富山)	0.75μg/C ¥99.2/C		骨粗鬆症	0.5～0.75μg分1
■骨粗鬆症用薬 ◆ビスホスホネート製剤				
アクトネル ＜リセドロン酸ナトリウム＞ (エーザイ)	17.5mg/錠 ¥620.7/錠 75mg/錠 ¥2770.6/錠		①骨粗鬆症 ②骨ページェット病	①17.5mg, 週1回朝起床時(水約180mLとともに) ②17.5mg, 分1朝起床時 8週間連日投与(水約180mLとともに)
ボナロン ＜アレンドロン酸ナトリウム＞ (帝人)	35mg/錠 ¥591.4/錠		骨粗鬆症	75mg, 月1回朝起床時(水約180mLとともに) 35mg, 週1回朝起床時(水約180mLとともに)
■骨粗鬆症用薬 ◆SERM				
エビスタ ＜ラロキシフェン＞ (日本イーライリリ)	60mg/錠 ¥109.2/錠		閉経後骨粗鬆症	60mg分1
ビビアント ＜バゼドキシフェン＞ (ファイザー)	20mg/錠 ¥109.7/錠			20mg分1
■骨粗鬆症用薬 ◆その他				
テリボン ＜テリパラチド酢酸塩＞ (旭化成ファーマ)		56.5μg/瓶 ¥10837/瓶	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	56.5μg, 週1回皮下注(24ヵ月まで)

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
葛根湯 〈カッコントウ〉 ツム51 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥21.75/包	自然発汗がなく頭痛、発熱、悪寒、肩こり等を伴う比較的体力のあるものの諸症[感冒、鼻かぜ、熱性疾患の初期、炎症性疾患(結膜炎、角膜炎、中耳炎、扁桃炎、腺炎、リンパ節炎)、肩こり、上半身の神経痛、蕁麻疹]	辛温解表・舒筋	7.5g分2～3
加味帰脾湯 〈カミキヒトウ〉 ツム5137 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥69.25/包	虚弱体質で血色の悪いものの諸症[貧血、不眠症、精神不安、神経症]	心脾両虚・肝鬱化火	
加味逍遙散 〈カミショウヨウサン〉 ツム524 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥42.5/包	体質虚弱な婦人で肩がこり、疲れやすく、精神不安等の精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの諸症[冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症]	疏肝解鬱・健脾補血・清熱涼血・利水・調経	
桔梗湯 〈キキョウトウ〉 ツム5138 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥14.25/包	咽喉がはれて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎	清熱解毒・去痰排膿	
桂枝加竜骨牡蛎湯 〈ケイシカリユウコツボレイトウ〉 ツム526 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥22/包	下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えているものの諸症「小児夜尿症、神経衰弱、性的神経衰弱、遺精、陰萎」	補陽安神・収斂	
桂枝茯苓丸 〈ケイシブクリョウガン〉 ツム525 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥22.25/包	体格はしっかりして赤ら顔が多く、腹部は大体充実、下腹部に抵抗のあるものの諸症[子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、帯下、更年期障害(頭痛、めまい、のぼせ、肩こり等)、冷え症、腹膜炎、打撲症、痔疾患、睾丸炎]	活血化お・消腫・調経	
牛車腎気丸 〈コシャジンキガン〉 ツム5107 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥28.5/包	疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少または多尿で時に口渴がある次の諸症[下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ]	温補腎陽・温陽利水・活血	
柴胡加竜骨牡蛎湯 〈サイコカリユウコツボレイトウ〉 ツム512 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥54.25/包	比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだち等の精神症状のあるものの諸症[高血圧症、動脈硬化症、慢性腎臓病、神経衰弱症、神経性心悸亢進症、てんかん、ヒステリー、小児夜啼症、陰萎]	清熱安神・疏肝解鬱・補気健脾	9.0g分2～3
柴胡桂枝湯 〈サイコケイシトウ〉 ツム510 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥63.5/包	発熱汗出て、悪寒し、身体痛み、頭痛、はきけのあるものの次の諸症[感冒・流感・肺炎・肺結核などの熱性疾患、胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胆のう炎・胆石・肝機能障害・脾臓炎などの心下部緊張疼痛]	和解半表半裏・解表・疏肝解鬱・和胃止痛・清熱	
柴芩湯 〈サイレイトウ〉 ツム5114 (ツム)	エキス顆粒(3.0g/包) ¥143.1/包	吐き気、食欲不振、のどの渇き、排尿が少ないものの諸症[水瀉性下痢、急性胃腸炎、暑気あたり、むくみ]	疏肝解鬱・補気健脾・止嘔・化痰止咳・利水・止瀉	

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
芍薬甘草湯 〈シャクヤクカンゾウトウ〉 ツム568 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥18/包	急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛, 筋肉・関節痛, 胃痛, 腹痛	解痙止痛	7.5g分2~3
十全大補湯 〈シュウゼンタイホウトウ〉 ツム48 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥49/包	病後の体力低下, 疲労倦怠, 食欲不振, 寝汗, 手足の冷え, 貧血	気血双補	
小柴胡湯 〈ショウサイコウトウ〉 ツム59 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥76.75/包	体力中等度で上腹部がはって苦しく, 舌苔を生じ, 口中不中不快, 食欲不振, 時により微熱, 悪心等のあるものの諸症[急性熱性病, 肺炎, 気管支炎, 気管支喘息, 感冒, リンパ節炎, 慢性胃腸障害, 産後回復不全], 慢性肝炎における肝機能障害の改善	疏肝解鬱・補気健脾・止嘔・化痰止咳・清熱(陰虛, 乾燥傾向がある時は使用しない)	
小青竜湯 〈ショウセイリユウトウ〉 ツム19 (ツム)	エキス顆粒(3.0g/包) ¥41.1/包	気管支炎, 気管支喘息, 鼻炎, アレルギー性鼻炎, アレルギー性結膜炎, 感冒における水様の痰, 水様鼻汁, 鼻閉, くしゃみ, 喘鳴, 咳嗽, 流涙	辛温解表・散寒・止咳・平喘	9.0g分2~3
大建中湯 〈タイケンチュウトウ〉 ツム100 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥23.25/包	腹が冷えて痛み, 腹部膨満感のあるもの	温中散寒・解痙止痛・補気健脾	15g分2~3
当帰芍薬散 〈トウキシャクヤクサン〉 ツム23 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥23.5/包	筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく, 腰脚の冷えやすいものの諸症[貧血, 倦怠感, 更年期障害(頭重, 頭痛, めまい, 肩こり等), 月経不順, 月経困難, 不妊症, 動悸, 慢性腎炎, 妊娠中の諸病(浮腫, 習慣性流産, 痔, 腹痛), 脚氣, 半身不随, 心臓弁膜症]	補血活血・健脾利水・調經止痛	7.5g分2~3
麦門冬湯 〈ハクモンドウトウ〉 ツム29 (ツム)	エキス細粒(3.0g/包) ¥53.1/包	痰の切れにくい咳, 気管支炎, 気管支喘息	生津・補気健脾・化痰・止咳	9.0g分2~3
八味地黄丸 〈ハチミジオウガン〉 ツム07 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥26/包	疲労, 倦怠感著しく, 尿利減少または頻数, 口渇し, 手足に交互的に冷感と熱感のあるものの諸症[腎炎, 糖尿病, 陰萎, 坐骨神経痛, 腰痛, 脚氣, 膀胱がん, 前立腺肥大, 高血圧]	温補腎陽	7.5g分2~3
半夏厚朴湯 〈ハンゲコウボクトウ〉 ツム16 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥24.75/包	気分がふさいで, 咽喉, 食道部に異物感があり, ときに動悸, めまい, 嘔気などを伴う次の諸症[不安神経症, 神経性胃炎, つわり, せき, しわがれ声, 神経性食道狭窄症, 不眠症]	降逆化痰・理気開鬱	
半夏瀉心湯 〈ハンゲシャシントウ〉 ツム14 (ツム)	エキス細粒(2.5g/包) ¥59/包	みぞおちがつかえ, ときに悪心, 嘔吐があり食欲不振で腹が鳴って軟便または下痢の傾向にあるものの諸症[急・慢性胃腸がん, 醗酵性下痢, 消化不良, 胃下垂, 神経性胃炎, 胃弱, 二日酔, げっぷ, 胸やけ, 口内炎, 神経症]	寒熱併調・化湿・止嘔・健脾・脾胃不和・脾胃湿熱	

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
補中益気湯 〈ホチュウエッキトウ〉 ツム41 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥60.5/包	消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい 虚弱体質者の諸症[夏やせ、病後の体 力増強、結核症、食欲不振、胃下垂、感 冒、痔、脱肛、子宮下垂、陰萎、半身不 随、多汗症]	補気健脾・昇提・ 固表・生肌	7.5g分2〜3
麻黄附子細辛湯 〈マオウブシサイシントウ〉 ツム127 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥48.25/包	悪寒、微熱、全身倦怠、低血圧で頭痛、 めまいあり、四肢にとう痛冷感ある ものの次の諸症[感冒、気管支炎]	助陽解表・利水	
ヨクイニン 〈ヨクイニンジョウ〉 (コロー)	錠 【院外のみ】 ¥5.8/錠	青年性扁平疣贅、尋常性疣贅		9〜18錠分3
抑肝散 〈ヨクカンサン〉 ツム54 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【用時購入】 ¥28.5/包	虚弱な体質で神経がたかぶるものの 次の諸症[神経症、不眠症、小児夜な き、小児疳症]	平肝熄風・補気血	7.5g分2〜3
六君子湯 〈リックンシトウ〉 ツム43 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【用時購入】 ¥48.25/包	胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞ おちがつかえ、疲れやすく、貧血性で 手足が冷えやすいものの諸症[胃炎、 胃下垂、胃下垂、消化不良、食欲不振、 胃痛、嘔吐]	補気健脾・理気化 痰	

中医学的表現（五十音順・中医学用語には下線付け）

安神（あんしん）：精神安定・催眠作用。

温中散寒（おんちゅうさんかん）：消化器系を温めることで、主に循環改善を通して上部消化管平滑筋のトーンズ上昇を正常化させ、結果として嘔吐・下痢・便秘・腹痛を止める作用

活血化癥（かつけつお）：血証を改善すること

→血癥（けつお）：Blood Stasis Syndrome(BSS)

微小循環障害。静脈系の停滞であるうっ血を主とした病変に相当するが、微小循環系の停滞（うっ血・充血）
血液粘稠度増大・凝固の昂進・血栓・癒着・繊維化・増殖性病変・瘢痕・血腫などのさまざまな病態を含む。
血行障害による阻血性疼痛がしばしば症状としてみられ、固定性・持続性であることが多い

→活血薬：主として動脈系の血流改善作用をもつ薬。Ca拮抗剤や強心配糖体に近い作用と想定される。

→化癥薬：主として静脈系のうっ血を改善する薬。亜硝酸剤に近い作用と想定される

気血双補（きけつじゅう）：気血両虚を改善する作用

→気血両虚（きけつりょうきょ）：気虚と血虚の症候が同時にある状態。機能面の不足と物質面の不足が併存する状態。

→気虚の症状：きつい、だるい、疲れやすい、食欲がない、意欲がない

→血虚の症状：皮膚のかさつき、爪が脆い、髪が抜ける、過少月経、こむらがり、不眠など

祛痰止咳（きょたんしけい）：

祛風湿（きょふうしつ）：痺証の治法

→痺証：“しびれ痛み”を主症状とする筋肉・関節疾患の総称。慢性関節リウマチ、変形性・炎症性関節症に相当する。

祛風止痒（きょふうしやう）：皮膚の血行を良くして痒みを止める作用

→風（ふう）：身体外部環境による病因のひとつ。いわゆる風（かぜ）にあたって体が冷えたり、皮膚の不感蒸泄がふえ皮膚が乾燥したり、あるいは細菌・ウイルス感染が考えられる。

化湿（けいし）：主に消化管内に停滞した水分を軽度ながら血中に吸収する作用、消化管の蠕動調整・悪心嘔吐の抑制・気道分泌抑制にも働く

化痰止咳（けたんしけい）：鎮咳・去痰の作用

→痰（たん）：生理的体液の流通が停滞し粘稠となって流動性をうしなった物。現代医学の喀痰よりも広い概念。

→化痰（けたん）：喀痰の生成抑制と排出

化痰熄風（けたんそくふう）：

→熄風（そくふう）：内風を止めること

→内風（ないふう）：中枢・自律神経系の過度の興奮状態で、ふるえ、しびれ、けいれん、めまいなどの症状をおこす、身体内部で生じた病因のひとつ。肝気鬱結が高じた時などにおこると考えられている。

解毒（げどく）：主として細菌・ウイルス感染によりひきおこされた熱や炎症反応を解消すること。

健脾補血（けんぴじゅうけつ）：消化吸收機能を高め、造血を促し、血液の生理機能を高める作用。

→脾虚（ひきょ）：消化器系の機能低下状態

→脾（ひ）：現代医学の脾臓ではなく、上部消化管機能に相当する。食物を体内に取り入れる過程であり、「非自己」を自己化する過程でもあり、免疫やアレルギーとの関連も想定される。

健脾利水（けんぴりすい）：消化吸收機能を改善し、消化管内に停滞する余剰水分を血管内に吸収する。この改善が、ひいては全身の組織間内の余剰水分の代謝も改善すると考える。

固表（こひょう）：表虚の治法。体表の血行改善，汗腺の機能正常化による止汗の効果。

→表虚（ひょうじょ）：細菌やウイルス感染時に，生体の防御反応のひとつとして熱産生が高まるが，この時おこる体表での末梢血管収縮，立毛，汗腺の閉塞などの反射が，不十分で，悪風，自汗などの症状を呈する状態。もともと汗かきで感冒にかかりやすい人にみられやすい。

散寒（さんかん）：寒邪を取り除く方法。

→寒邪（かんじや）：寒け・冷えの状態を引き起こす外因で，クーラーや季節などの寒冷の外部環境や，ウイルスや細菌感染

止嘔（しおう）

止咳（しがい）

止痙（しがい）

止痛（しつう）

消腫（しょうしゅ）

生津止渴（しんじんとく）：津液（津液参照）を補い，渇きを止めること。生津には脱水の抑制，気道粘膜分泌促進などの意味がある。

昇提（しやうてい）：平滑筋・骨格筋の緊張を増し，アトニー状態を改善する。胃下垂・下痢，脱肛，子宮脱などを改善する作用。脳の興奮性を増す作用も一部考えられる

舒筋（じょく）：筋緊張低下作用

辛温解表（しんおんかいひょう）：味が辛く温める性質をもつ薬物を用いて発汗させる作用

生肌（せい）：良性肉芽の増生による創傷治癒機転の促進効果。

清熱瀉火（せいねつしゃか）：消炎・解熱・抗菌・抗ウイルス・鎮静・毛細血管の透過性亢進の抑制などの作用

→熱証（ねつしやう）：熱感・ほてり・のぼせがあり，寒冷を好むような状態

①実熱（じつねつ）：熱邪（ウイルス・細菌などの病原微生物や暑熱などの外部環境）によって急性に発症する熱証

②虚熱（きょねつ）：陰虚の異化作用の亢進・自律神経系の興奮に伴う熱証

→陰虚（いんきょ）：陰液が不足した状態

→陰液（いんえき）：人体を構成する基本成分を気・血・津液・精と考え，血・津液・精を陰液という

→血（けつ）：栄養・滋潤作用をもつ基本成分

津液（しんえき）：組織液・細胞内液・分泌液など正常な水液

精（せい）：生命活動の基本物質。先天的にそなわっている物と消化吸収された栄養物質から精選され・補充されている物があると考えられる。ホルモン様物質に近い。

気（き）：主に人体の生理機能を指すがその機能を発現させる精微物質も含んだ概念。生命エネルギー。

清熱涼血（せいねつりやうけつ）：清熱瀉火とほとんど同じ作用と考えてよいが，感染による病状が深く進展し，重篤な合併症（たとえば敗血症や熱性けいれんなど）に及んだ状態を改善する作用。

疏肝解鬱（そかんかいうつ）：肝気鬱結を解く作用。疏肝は精神安定作用，自律神経機能調整作用。解鬱は抑うつ・緊張を緩解させる作用。

→肝気鬱結（かんきうつけつ）：主にストレスにより生じる精神的な緊張・抑うつや自律神経系の機能失調状態

→肝（かん）：現代医学の肝臓の機能に加えて，情動などの視床下部・下垂体系，大脳辺縁系を介した中枢神経系機能あるいは自律神経系の機能を合わせもつと考える。

調経（ちやうけい）：月経不順・月経痛・閉経・月経血過多過少など月経に関する不調を調整する作用

平喘（へいぜん）：気管支平滑筋のけいれんを解除して呼吸困難を改善する作用。

補気健脾（ほきけんぴ）：

- 補気：身体生理機能や基礎代謝を高めて、元氣をつけ抵抗力を高める作用
- 健脾：消化吸收機能を促進して補気の働きを補助する作用

補血活血（ほつかつけつ）：

- 補血（ほけつ）：血虚（血が不足した状態）を改善する作用。栄養・滋潤の作用と脳の抑制過程を強めて、精神安定・催眠に働く作用が考えられる。
- 活血（かつけつ）：循環改善作用に相当する。

補陽散寒（ほようさんかん）：

- 補陽（ほいう）：陽虚を改善する作用。機能・代謝を促進し、抵抗力や元氣をつけ、循環改善、脳の興奮性を高めて体をあたためる作用。強壯作用もあると考えられる。
- 陽虚（ようきょ）：気虚が進行し、体を温める作用が低下した状態。機能低下に同化作用・異化作用・末梢循環・脳の興奮性が低下したための寒けや冷えなどの寒の症状が加わった状態。
- 気虚（ききょ）：気の不足で、全身の機能・代謝・抵抗力が低下し、脳の興奮性も低下した状態。
- 散寒（さんかん）：血管拡張・血行促進・脳の興奮・局所の刺激などによって、身体全体あるいは局所を温める効果。

補腎益精（ほじんえきせい）：「腎は精を蔵す」と言われており、腎を補う上で、精を補充することが基本となる。

- 腎（じん）：現代医学の腎臓の機能に副腎皮質・髄質の機能、加えて内分泌系全体の機能が包括して考えられる。成長、加齢、性機能、水分代謝・排泄、脳機能、聴覚機能、免疫機能などとの関連が想定される。

利水（りすい）：現代医学の利尿ではなく、主として消化管や組織中の余剰水分を血中にひきこむ作用。結果的に下痢を止めたり、浮腫を減らしたりする。

利水止瀉（りすいしりゃ）：利水の効果で下痢を止める

涼血止血（りようけつしけつ）：病気が重篤な場合の熱をさまし、止血する効果。

<参考文献>

森 雄材著「図説・漢方処方の構成と適用」医歯薬出版
創医学会術部主編「漢方用語大辞典」燎原
「THE KAMPO DIARY」カネリ薬品株式会社
花輪壽彦著「漢方治療のレッスン」金原出版

後記

少しでも多くの医師に中医学を理解していただき、漢方エキス製剤の適切な運用に寄与できるようにと意図して、院内採用漢方エキス製剤の中医学的効能とそこに出てくる中医学用語の現代医学的解説を試みた。しかし、この作業が容易なことではないということが感想として残った。

あいまいな表現を極力避けるために、やや強引に言い切った箇所があることをお許しいただきたい。ご批判・ご指摘をお願いしたい。全文に関して、共に学ぶ九州中国医学研究会の仲間と検討したが、文責はまだまだ勉強不足のわたくしにある。

精神科 垣替芳隆

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アルキル化剤 ◆ナイトロジェンマスタード類				
アルケラン ＜メルファラン＞ 略名：L-PAM (ゲラクソ・スミスクライン)	2mg/錠 ¥188.7/錠		多発性骨髄腫	i) 2～4mg/日×連日 ii) 6～10mg/日×4～10日間 維持量2mg/日 iii) 6～12mg/日×4～10日間反復
イホマイド ＜イホスファミド＞ 略名：IFM (オノギ)		1g/瓶 【用時購入】 ¥3217/瓶	①肺小細胞癌, 前立腺癌, 子宮頸癌, 骨肉腫 ②再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍) ③悪性リンパ腫 ＜他の抗悪性腫瘍剤との併用＞ ④悪性骨・軟部腫瘍, 小児悪性固形腫瘍(ユーク・肉腫ファミリー腫瘍, 横紋筋肉腫, 神経芽腫, 網膜芽腫, 肝芽腫, 腎芽腫等)	①1日1.5～3g(30～60mg/kg), 3～5日間連日, 3～4週間毎 ②1日1.2g/m ² , 5日間連日, 3～4週間毎 ③1日0.8～3g/m ² , 3～5日間連日, 3～4週間毎 【総投与量：1コ-10g/m ² 以下】 【小児：全治療コ-80g/m ² 以下】 ④【DI照会参照】
エンドキサン ＜シクロホスファミド＞ 略名：GPA (オノギ)	50mg/錠 ¥33.9/錠		①多発性骨髄腫, 悪性リンパ腫, 乳癌, 急性白血病, 真性多血症, 肺癌, 神経腫瘍(神経芽腫, 網膜芽腫), 骨腫瘍 ＜他の抗悪性腫瘍剤との併用＞ 慢性リンパ性白血病, 慢性骨髄性白血病, 咽頭癌, 胃癌, 膀胱癌, 肝癌, 結腸癌, 睾丸腫瘍, 絨毛性疾患, 黄紋筋肉腫, 悪性黒色腫, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌 ②治療抵抗性の全身性リウマチー入, 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎, ウェグナ肉芽腫症, 結節性多発動脈炎, Churg-Strauss症候群, 大動脈炎症候群等), 多発性筋炎/皮膚筋炎, 強皮症, 混合性結合組織病, 及び血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患 ③ウェグナ症候群	①100～200mg/日 ②50～100mg/日 ③50～100mg/日, 8～12週間 ＜小児＞2～3mg/kg/日, 8～12週間 【Max: 100mg/日, 総投与量300mg/kg】

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エンドキサン <シクロホスファミド> 略名：CPA (オノキ)		100mg/瓶 ¥320/瓶	①多発性骨髄腫, 悪性リンパ腫, 肺癌, 乳癌, 急性白血病, 真性多血症, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌, 神経腫瘍(神経芽腫, 網膜芽腫), 骨腫瘍 <他の抗悪性腫瘍剤と併用> 慢性リンパ性白血病, 慢性骨髄性白血病, 咽頭癌, 胃癌, 膀胱癌, 肝癌, 結腸癌, 睾丸腫瘍, 絨毛性疾患, 横紋筋肉腫, 悪性黒色腫, 乳癌(手術可能例における術前あるいは術後) ②褐色細胞腫 ③急性白血病, 慢性骨髄性白血病, 骨髄異形成症候群, 重症再生不良性貧血, 悪性リンパ腫, 遺伝性疾患(免疫不全, 先天性代謝障害及び先天性血液疾患)における造血幹細胞移植の前治療 ④治療抵抗性の全身性エリテマトーデス, 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎, ウェーゲナー肉芽腫症, 結節性多発動脈炎, Churg-Strauss症候群, 大動脈炎症候群等), 多発性筋炎/皮膚筋炎, 強皮症, 混合性結合組織病, 及び血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患	【DI 照会参照】
		500mg/瓶 ¥1254/瓶		

■アルキル化剤 ◆ニトロソウレア類

ギリアデル <カルムスチン> (エーザイ)		7.7mg/枚 ¥160912.4/枚	悪性神経膠腫	腫瘍切除腔の大きさや形状に応じて、本剤8枚(カルムスチンとして61.6mg)又は適宜減じた枚数を脳腫瘍切除術時の切除面を被覆するように留置
サイメリン <ラニムスチン> 略名：MCNU (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥11405/瓶	慢性骨髄性白血病, 真性多血症, 骨髄腫, 悪性リンパ腫, 膠芽腫, 本態性血小板増多症	50~90mg/m ² /日, 6~8週毎 <成人T細胞白血病リンパ腫に対し他の抗がん剤と併用する場合> 投与間隔：4週間以上

■アルキル化剤 ◆その他

ダカルバジン <ダカルバジン> 略名：DTIC (協和発酵キリン)		100mg/瓶 【用時購入】 ¥3794/瓶	①悪性黒色腫 ②杉本病(杉本リンパ腫) ③褐色細胞腫	①100~200mg/日×5日間を4週間毎 ②他の抗悪性腫瘍剤と併用し, 375mg/m ² /日を2週間毎×2回 ③シタキスチン, ビンクリスチンと併用し, 600mg/m ² /日×2日間を3週間毎

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆フルオロウラシル類				
ゼローダ ＜カペシタピン＞ (中外)	300mg/錠 ¥360.2/錠		手術不能又は再発乳癌(A,B) 結腸・直腸癌における術後補助化学療法(B) 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌(C) 胃癌(C) 直腸癌における補助化学療法(放射線併用)(D)	＜A＞体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、21日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す 体表面積1.31㎡未満：900mg/回、 体表面積1.31㎡以上～1.64㎡未満：1200mg/回、 体表面積1.64㎡以上：1500mg/回 【DI照会参照】 ＜B＞体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、14日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す 体表面積1.33㎡未満：1500mg/回、 体表面積1.33㎡以上～1.57㎡未満：1800mg/回、 体表面積1.57㎡以上～1.81㎡未満：2100mg/回、 体表面積1.81㎡以上：2400mg/回 【DI照会参照】 ＜C＞体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、14日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す(他の抗癌剤と併用で) 体表面積1.36㎡未満：1200mg/回、 体表面積1.36㎡以上～1.66㎡未満：1500mg/回、 体表面積1.66㎡以上～1.96㎡未満：1800mg/回、 体表面積1.96㎡以上：2100mg/回 【DI照会参照】 ＜D＞体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、5日間連続経口投与し、その後2日間休薬する。これを繰り返す(放射線照射と併用で) 体表面積1.31㎡未満：900mg/回、 体表面積1.31㎡以上～1.64㎡未満：1200mg/回、 体表面積1.64㎡以上：1500mg/回 【DI照会参照】
ティーエスワン ＜配合剤： テガフル20mg ギメラシル5.8mg オテラシルカリウム19.6mg＞ 略名：TS-1 (大鵬)	20mg/C 【院外のみ】 ¥564.7/C			
ティーエスワン ＜配合剤： テガフル25mg ギメラシル7.25mg オテラシルカリウム24.5mg＞ 略名：TS-1 (大鵬)	25mg/C 【院外のみ】 ¥680.6/C		胃癌、結腸・直腸癌、頭頸部癌、非小細胞肺癌、手術不能又は再発乳癌、膵癌、胆道癌	初回投与量(1回量)を体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回、28日間連続経口投与し、その後14日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す 【Max:75mg/回】 体表面積1.25㎡未満：初回基準量(テガフル相当量)40mg/回、 体表面積1.25㎡以上～1.5㎡未満：初回基準量(テガフル相当量)50mg/回、 体表面積1.5㎡以上：初回基準量(テガフル相当量)60mg/回 【DI照会参照】
ティーエスワンOD ＜配合剤： テガフル20mg ギメラシル5.8mg オテラシルカリウム19.6mg＞ 略名：TS-1 (大鵬)	20mg/錠 ¥564.7/錠			
ティーエスワンOD ＜配合剤： テガフル25mg ギメラシル7.25mg オテラシルカリウム24.5mg＞ 略名：TS-1 (大鵬)	25mg/錠 ¥680.6/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
5-FU ＜フルオロウラシル＞ 略名：5-FU (協和発酵社)		250mg (5mL) / 管 ¥337 / 管	①胃癌, 肝癌, 結腸・直腸癌, 乳癌, 膀胱癌, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌 ＜他の抗腫瘍剤, 放射線と併用＞ ②食道癌, 肺癌, 咽頭部腫瘍 ＜他の抗悪性腫瘍剤との併用療法＞ ③頭頸部癌 ＜レボ・リナート・フルオウラシル持続静注併用療法＞ ④結腸・直腸癌, 治癒切除不能な膀胱癌	① i) 5～15mg/kg/日 × 5日の後, 5～7.5mg/kg/日を隔日 ii) 5～15mg/kg/日隔日 iii) 5mg/kg/日 × 10～20日 iv) 10～20mg/kg/週 ② 5～10mg/kg, i) に準じ, 又は間歇的に週1～2回動注 ③ 1000mg/m ² /日, 4～5日連続持続点滴, 少なくとも3週間あける ④ 【DI照会参照】
ユーエフティ E ＜テガフル, ウラシル＞ 略名：UFT (大鵬)	顆粒 (200mg/g / 包) ¥598.4 / 包		①頭頸部癌, 肺癌, 胃癌, 肝癌, 胆嚢・胆管癌, 膀胱癌, 結腸癌, 膀胱癌, 前立腺癌, 乳癌 ②子宮頸癌	① 300～600mg 分2～3 ② 600mg 分2～3
ユーエフティ ＜テガフル, ウラシル＞ 略名：UFT (大鵬)	100mg/C ¥243.1/C			

■代謝拮抗剤 ◆ヌクレオシド系

ロンサーフ ＜配合剤：トリフルリジン 20mg, チピラシル 7.065mg＞ (大鵬薬品)	15mg/錠 ¥2489.6/錠		治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	初回投与量(1回量)を体表面積に合わせて次の基準量とし(トリフルリジンとして約35mg/m ² /回【DI参照】), 1日2回朝夕食後, 5日間連続経口投与したのち2日間休薬, これを2回繰り返したのち14日間休薬, これを1コースとして投与を繰り返す
ロンサーフ ＜配合剤：トリフルリジン 15mg, チピラシル 9.42mg＞ (大鵬薬品)	20mg/錠 ¥3340.9/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆シタラビン類				
キロサイド ＜シタラビン＞ 略名：Ara-C (日本新薬)		20mg(1mL)/管 ¥385/管	①急性白血病(赤白血病, 慢性骨髄性白血病の急性転化を含む) ②消化器癌(胃癌, 胆嚢癌, 胆道癌, 膵癌, 肝癌, 結腸癌, 直腸癌), 肺癌, 乳癌, 女性性器癌(子宮癌, 卵巣癌等) ③膀胱腫瘍	① i) 寛解導入: 下記投与量を2～3週間連続 0.8～1.6mg/kg/日静注又は点静 ＜小児＞0.6～2.3mg/kg/日静注又は点静 ii) 維持(i)の用量を週1回皮下, 筋注, 静注 iii) 髄腔内化学療法: 25～40mg/回, 1週間に1～2回髄腔内投与 ＜小児＞添付文書参照 ②＜他の抗悪性腫瘍剤と併用する時＞ i) 0.2～0.8mg/kg, 1週間に1～2回静注 ii) 0.2～0.4mg/kg, 持続動注 ③＜単独＞200～400mg, ＜併用＞100～300mg膀胱内注入
		40mg(2mL)/管 ¥731/管		
		200mg(10mL)/管 ¥2879/管		
キロサイドN ＜シタラビン＞ 略名：Ara-C (日本新薬)		400mg(20mL)/管 ¥4949/管	①急性骨髄性白血病 ②急性リンパ性白血病 ③悪性リンパ腫	①2g/m ² /回を12時間毎最大6日間連日静注 ＜小児＞3g/m ² /回を12時間毎, 3日間連日静注 ②他の抗腫瘍剤と併用し2g/m ² /回を12時間毎最大6日間連日静注 ＜小児＞2g/m ² /回を12時間毎, 3日間連日静注 ③他の抗腫瘍剤と併用し2g/m ² /回, 1～2回/日1～2日間連日静注 ＜小児＞2g/m ² /回を12時間毎, 3日間連日静注
		1000mg(50mL)/瓶 ¥10701/瓶		
ゲムシタビン ＜ゲムシタビン＞ 略名：GEM (ヤクルト本社)		200mg/瓶 ¥2213/瓶	①非小細胞肺癌, 膵癌, 胆道癌, 尿路上皮癌, がん化学療法後に増悪した卵巣癌, 再発又は難治性の悪性リンパ腫 ②手術不能又は再発乳癌	①1000mg/m ² , 30min点静週1回3週連続4週目休薬を1クールとする ②1250mg/m ² , 30min点静週1回2週連続3週目休薬を1クールとする
		1g/瓶 ¥10298/瓶		
スタラシド ＜シタラビンオクホスファート＞ 略名：SPAC (日本化薬)	100mg/C 【院外のみ】 ¥675.9/C		①成人急性非リンパ性白血病 ②骨髄異形成症候群	①100～300mg/日×2～3週間連続投与し2～3週間休薬。これを繰り返す ②100～200mg/日×2～3週間連続投与し2～3週間休薬これを繰り返す
フルダラ ＜フルダラビン＞ 略名：FL (サファイ)		50mg/瓶 【用時購入】 ¥34252/瓶	①慢性リンパ性白血病(貧血又は血小板減少症を伴う) ②再発又は難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫, マントル細胞リンパ腫 ③同種造血幹細胞移植の前治療	①②20mg/m ² /日×5日, 23日間休薬, これを1クールとし繰り返す ③30mg/m ² /日×6日

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆葉酸代謝拮抗薬				
アリムタ ＜ペメトレキセド＞ (日本イーライリリ)		100mg/瓶 ¥44248/瓶	①悪性胸膜中皮腫 ②切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	①シスプラチンとの併用において、1日1回500mg/m ² を10分間かけて点滴静注し、少なくとも20日間休薬、これを1コースとし繰り返す ②1日1回500mg/m ² を10分間かけて点滴静注し、少なくとも20日間休薬、これを1コースとし繰り返す
アリムタ ＜ペメトレキセド＞ (日本イーライリリ)		500mg/瓶 ¥185374/瓶		
メソトレキセート ＜メトトレキサート＞ 略名：MTX (ファイザー)	2.5mg/錠 ¥38.2/錠		①急性白血病, 慢性骨髄性白血病, 慢性リンパ性白血病 ②絨毛性疾患 ③＜MTX・ロコホリン＞救済療法＞肉腫 ④＜MTX・ロコホリン＞救済療法＞急性白血病(中枢神経系, 睾丸への浸潤)悪性リンパ腫(中枢への浸潤) ⑤＜MTX・フルオウラシル＞交代療法＞胃癌 ⑥乳癌 【注射用5mg, 50mgのみ】 ⑦尿路上皮癌	① i) 5~10mg/日×3~6日/週 ＜小児＞2.5~5mg/日×3~6日/週 ＜幼児＞1.25~2.5mg/日×3~6日/週 ii) その他の投与経路髄腔 ② 10~30mg/日×5日後7~12日休薬 ③ 100~300mg/kg静注後ロコホリン投与, 1~4週毎 ④ 30~100mg/kg静注後ロコホリン投与, 1~4週毎 ⑤ MTX100mg/m ² (3mg/kg) 静注した後1~3時間後にフルオウラシル600mg/m ² (18m/kg)を静注, その後ロコホリン投与 ⑥ CMF療法 4週毎CPA65mg/m ² /日経口14日間連続MTX40mg/m ² /日静注第1, 8日目FU500mg/m ² /日静注第1, 8日目 ⑦ M-VAC療法 4週毎MTX30mg/m ² 静注第1, 15, 22日目VLB3mg/m ² 静注第2, 15, 22日目DXR30mg/m ² , CDDP70mg/m ² 静注第2日目
		5mg/瓶 ¥813/瓶	①＜MTX通常療法＞急性白血病, 慢性骨髄性白血病, 慢性リンパ性白血病 ②＜MTX通常療法＞絨毛性疾患 ③＜CMF療法＞乳癌 ④＜MTX・LV救済療法＞肉腫 ⑤＜MTX・LV救済療法＞急性白血病(中枢神経系, 睾丸への浸潤)悪性リンパ腫(中枢への浸潤) ⑥＜MTX・フルオウラシル＞交代療法＞胃癌 ⑦＜M-VAC療法＞尿路上皮癌 【適応規格：④⑤⑥は50mgのみ】	① i) 1週間に3~6回, 静注または筋注 ＜成人＞1日5~10mg ＜小児＞1日2.5~5mg ＜幼児＞1日1.25~2.5mg ii) 髄膜白血病には髄注 0.2~0.4mg/kg, 2~7日毎 ② 1日10~30mg静注×5日間, 7~12日休薬 ③ MTX: 1日40mg/m ² 静注, 第1, 8日目 FU: 1日500mg/m ² 静注, 第1, 8日目 CPA: 1日65mg/m ² 経口, 14日間連続, 4週毎 ④ 週1回100~300mg/kg点滴静注後LV投与, 1~4週間隔 ⑤ 週1回30~100mg/kg点滴静注後LV投与, 1~4週間隔 ⑥ MTX100mg/m ² (3mg/kg) 静注 1~3時間後にフルオウラシル600mg/m ² (18m/kg), 静注または点静, その後LV投与, 1週間隔 ⑦ MTX: 30mg/m ² 静注, 第1, 15, 22日目 VLB: 3mg/m ² 静注, 第2, 15, 22日目 DXR: 30mg/m ² およびCDDP: 70mg/m ² 静注, 第2日目, 4週毎
		200mg (8mL)/瓶 ¥9323/瓶	＜MTX・LV救済療法＞ ①肉腫 ②急性白血病(中枢神経系, 睾丸への浸潤)悪性リンパ腫(中枢への浸潤)	①週1回100~300mg/kg点滴静注後LV投与, 1~4週間隔 ②週1回30~100mg/kg点滴静注後LV投与, 1~4週間隔
		1000mg (40mL)/瓶 ¥41081/瓶		
■代謝拮抗剤 ◆その他				
ハイドレア ＜ヒドロキシカルバミド＞ 略名：HU (ブリストル)	500mg/C ¥299.6/C		慢性骨髄性白血病, 本態性血小板血症, 真性多血症	500~2000mg/日＜維持量＞500~1000mg/日
ビダーザ ＜アザシチジン＞ (日本新薬)		100mg/瓶 ¥51421/瓶	骨髄異形成症候群	75mg/m ² 分1皮下または点静7日間, 3週間休薬, これを1クールとし繰り返す

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■白金系抗癌薬				
アクブラ ＜ネダプラチン＞ 略名：CDGP (オノキ)		50mg/瓶 ¥24072/瓶	頭頸部癌, 肺小細胞癌, 肺非小細胞癌, 食道癌, 膀胱癌, 精巣(睾丸)腫瘍, 卵巣癌, 子宮頸癌	80～100mg/m ² /日, 4週間休薬, これを繰り返す
		100mg/瓶 ¥44936/瓶		
エルプラット ＜オキサリプラチン＞ 略名：L-OHP (ヤルト)		50mg (10mL) / 瓶 ¥27923/瓶	① 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ② 結腸癌における術後補助化学療法 ③ 治癒切除不能な膵癌 ④ 胃癌	①②A法またはB法 ③A法 ④B法 ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ A法：85mg/m ² , 1回/日, 2時間で点静, 少なくとも13日間休薬 B法：130mg/m ² , 1回/日, 2時間で点静, 少なくとも20日間休薬 これを1サイクルとして投与を繰り返す
		100mg (20mL) / 瓶 ¥51378/瓶		
		200mg (40mL) / 瓶 ¥93955/瓶		
カルボプラチン ＜カルボプラチン＞ 略名：CBDCA (日医工)		50mg (5mL) / 瓶 ¥3213/瓶	① 頭頸部癌, 肺小細胞癌, 睾丸腫瘍, 卵巣癌, 子宮頸癌, 悪性リンパ腫, 非小細胞肺癌 ② 乳癌 ③ 小児悪性固形腫瘍(神経芽腫・肝芽腫・中枢神経系胚細胞腫瘍, 再発又は難治性のユーンク肉腫ファミリー腫瘍・腎芽腫) ④ 小児悪性固形腫瘍(網膜芽腫)	① 300～400mg/m ² /日, 後4週間休薬, これを繰り返す ② ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ 300～400mg/m ² /日, 後3週間休薬, これを繰り返す ③ ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ 635mg/m ² /日, 1日間または400mg/m ² /日, 2日間, 後3～4週間休薬, これを繰り返す ④ ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ 560mg/m ² /日, 後3～4週間休薬, これを繰り返す 36ヵ月齢以下：18.6mg/kg
		150mg (15mL) / 瓶 ¥7786/瓶		
		450mg (45mL) / 瓶 ¥13725/瓶		
ミリプラ ＜ミリプラチン＞ (大日本住友)		70mg/瓶 ¥47955/瓶	肝細胞癌におけるリビド・トリゼーション	70mgを懸濁用液3.5mLに懸濁, 1日1回肝動脈内に挿入されたカテーテルより投与 【DI照会参照】
ミリプラ懸濁液 ＜ヨード化キシ油＞ (大日本住友)		4mL/管 ¥333/管	ミリプラ動注用70mgの懸濁用	ミリプラチン70mgに対し, 3.5mLを加えて使用
ランダ ＜シスプラチン＞ 略名：CDDP (日本化薬)		10mg (20mL) / 瓶 ¥2563/瓶	睾丸腫瘍, 膀胱癌, 腎盂・尿路腫瘍, 前立腺癌(A, C) 卵巣癌(B, A, C) 頭頸部癌(D, B) 非小細胞肺癌(E, F) 食道癌(B, A) 子宮頸癌(A, E) 神経芽細胞腫, 胃癌(E) 小細胞肺癌(E) 尿路上皮癌(H) 骨肉腫(G) 胆道癌(I) ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ 胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍)(F) 悪性骨腫瘍, 子宮体癌, 再発・難治性悪性リンパ腫, 小児悪性固形腫瘍(横紋筋肉腫, 神経芽腫, 肝芽腫その他肝原発性悪性腫瘍, 髄芽腫等)	＜A＞15～20mg/m ² ×5日間後, 2週間休薬, これを繰り返す ＜B＞50～70mg/m ² 後, 3週間休薬, これを繰り返す ＜C＞25～35mg/m ² 後, 1週間休薬, これを繰り返す ＜D＞10～20mg/m ² ×5日間後, 2週間休薬, これを繰り返す ＜E＞70～90mg/m ² 後, 3週間休薬, これを繰り返す ＜F＞20mg/m ² ×5日間後, 2週間休薬, これを繰り返す ＜G＞100mg/m ² 後, 3週間休薬, これを繰り返す ＜H＞M-VAC療法【M-4参照】 ＜I＞25mg/m ² , 週1回, 2週投与1週休薬, これを繰り返す その他は【DI照会参照】
		25mg (50mL) / 瓶 ¥6210/瓶		
		50mg (100mL) / 瓶 ¥10939/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性抗生物質 ◆アントラサイクリン系製剤				
アクラシノン ＜アクラルピシン＞ 略名：ACR (アステラス)		20mg/瓶 【用時購入】 ¥3315/瓶	①急性白血病, 肺癌, 胃癌, 乳癌, 卵巣癌 ②悪性リンパ腫	①20mg/日 (0.4mg/kg/日) × 10～15日間 ② i) 40～50mg/日 (0.8～1mg/kg/日) を2 回/週 (1, 2日連日又は1, 4日目) ii) 20mg/日 (0.4mg/kg/日) × 7日間, 7日間 休薬
アドリアシン ＜ドキソルピシン＞ 略名：DXR (協和発酵パナ)		10mg/瓶 ¥1856/瓶	①肺癌, 消化器癌(胃 癌, 胆嚢・胆管癌, 膵 臓癌, 肝癌, 直腸癌, 結腸癌等), 乳癌, 骨 肉腫 ②乳癌(手術可能例 における術前, 術後 化学療法), 子宮体癌 (術後化学療法, 転移 ・再発時化学療法), 悪性骨・軟部腫瘍, 悪 性骨腫瘍, 多発性骨 髄腫, 小児悪性固形 腫瘍(ユーンク肉腫ファミ リ腫瘍, 横紋筋肉腫, 神経芽腫, 網膜芽腫, 肝芽腫, 腎芽腫等) ③膀胱腫瘍 ④尿路上皮癌 ⑤悪性リンパ腫(細網 肉腫, リンパ肉腫, 杉キ ン病)	① i) 10mg/日 × 4～6日, 後7～10日休 薬, 2～3回繰り返す ii) 20mg/日 × 2～3日, 後7～10日休 薬, 2～3回繰り返す iii) 20～30mg/日 × 3日, 後18日休薬, 2 ～3回繰り返す 【総投与量500mg/m ² 以下】 ②【DI照会参照】 ③30～60mg/日, 1回/日連日または2 ～3回/週, 膀胱注 ④<M-VAC療法>30mg/m ² /回 ⑤①と同じ 他の抗悪性腫瘍剤との併用【DI照会 参照】
		50mg/瓶 ¥8322/瓶		
イダマイシン ＜イダルピシン＞ 略名：IDAR (ファイザー)		5mg/瓶 ¥12753/瓶	急性骨髄性白血病 (慢性骨髄性白血病 の急性転化を含む)	12mg/m ² × 3日間静注後, 骨髄機能回 復迄休薬これを繰り返す
カルセド ＜アムルピシン＞ 略名：AMR (日本化薬)		20mg/瓶 ¥7904/瓶	非小細胞肺癌, 小細 胞肺癌	45mg/m ² , 1回/日, 3日間連続静注, 3～ 4週間休薬
		50mg/瓶 ¥17673/瓶		
ダウノマイシン ＜ダウノルピシン＞ 略名：DRC (明治)		20mg/瓶 ¥1631/瓶	急性白血病(慢性白 血病の急性転化を含 む)	0.4～1mg/kg/日, 3～5日間(連日又は隔日) ＜小児＞1mg/kg/日, 3～5日間(連日又は隔日)
ドキシル ＜ドキソルピシン＞ 略名：DXR (ヤンセンファーマ)		20mg/瓶 【用時購入】 ¥99301/瓶	①がん化学療法後に 増悪した卵巣癌 ②エイズ関連がん肉 腫	①50mg/m ² , 1回/1日, 後4週間休薬, こ れを繰り返す ②20mg/m ² /日, 1回/1日, 後2～3週間 休薬, これを繰り返す
ノバントロン ＜ミトキサントロン＞ 略名：MIT (日本製薬)		10mg(5mL)/瓶 ¥21125/瓶	①急性白血病(慢性 骨髄性白血病の急性 転化を含む) ②悪性リンパ腫, 乳癌 ③肝細胞癌	①2～5mg/m ² × 5日間/3～4週間毎 ② i) 2～4mg/m ² × 5日間/3～4週間毎 ii) 8～14mg/m ² /3～4週間毎 ③6～12mg/m ² /3～4週間毎
ピノルビン ＜ピラルピシン＞ 略名：THP (日本化薬)		10mg/瓶 ¥6101/瓶	頭頸部癌(C, D) 急性白血病(E) 胃癌, 乳癌(A, C) 卵巣癌, 子宮癌(A) 悪性リンパ腫(A, D) 尿路上皮癌(膀胱癌, 腎盂・尿管腫瘍)(A, B)	<A>40～60mg (25～40mg/m ²) 投与後, 3～4週間 休薬, これを繰り返す 30～40mg (20～25mg/m ²) × 2日間, 3～4週間 休薬, これを繰り返す <C>20～40mg (14～25mg/m ²) × 1回/週 × 2～3 回, 3～4週間休薬, これを繰り返す <D>10～20mg (7～14mg/m ²) × 3～5日間, 3～4週 間休薬, これを繰り返す <E>10～30mg (7～20mg/m ²) × 5日間, 骨髄回復 迄休薬, これを繰り返す <F>頭頸部癌, 膀胱癌10～20mg (7～14mg/m ²) / 連日・隔日 × 5～10回動注 <G>膀胱癌15～30mg × 3回/週, 1～2時間把持膀 胱内注入
		20mg/瓶 ¥11841/瓶		
		30mg/瓶 ¥17452/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エピルビシン ＜エピルビシン＞ 略名：EPI (日本化薬)		10mg/瓶 ¥2471/瓶	①急性白血病 ②悪性リンパ腫 ③肝癌 ④表在性膀胱癌 ⑤乳癌、卵巣癌、胃癌、尿路上皮癌(腎盂・尿管腫瘍) ＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ ⑥乳癌(手術可能例における術前あるいは術後)	①15mg/m ² /日×5～7日間、後3週間休薬後、これを2～3回繰り返す ②40～60mg/m ² 後3～4週間休薬後、これを3～4回繰り返す ③60mg/m ² 肝動注後3～4週間休薬後、これを3～4回繰り返す ④60mg/日注後4日間休薬、これを2～4回繰り返す ⑤60mg/m ² 後3～4週間休薬後、これを3～4回繰り返す ⑥シクロホスファミド、シクロホスファミド・フルオウラシルと併用：100mg/m ² 、1日1回、20日間休薬。これを4～6回繰り返す
		50mg/瓶 ¥11687/瓶		
ファルモルビシン ＜エピルビシン＞ 略名：EPI (ファイザー)		10mg/瓶 ¥4329/瓶	①急性白血病 ②悪性リンパ腫 ③肝癌 ④表在性膀胱癌 ⑤乳癌、卵巣癌、胃癌、尿路上皮癌(腎盂・尿管腫瘍) ＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ ⑥乳癌(手術可能例における術前あるいは術後)	①15mg/m ² /日×5～7日間、後3週間休薬後、これを2～3回繰り返す ②40～60mg/m ² 後3～4週間休薬後、これを3～4回繰り返す ③60mg/m ² 肝動注後3～4週間休薬後、これを3～4回繰り返す ＜肝動脈化学塞栓療法(TACE)の場合＞ 10mgにエトール化甘油脂肪酸エステルを0.5～2mLの割合で加え肝動注、60mg/m ² を適宜増減し腫瘍血管に乳濁液が充満した時点で終了 ④60mg/日注後4日間休薬、これを2～4回繰り返す ⑤60mg/m ² 後3～4週間休薬後、これを3～4回繰り返す ⑥シクロホスファミド、シクロホスファミド・フルオウラシルと併用：100mg/m ² 、1日1回、20日間休薬。これを4～6回繰り返す
		50mg/瓶 ¥19153/瓶		

■抗癌性抗生物質 ◆マイトマイシン系製剤

マイトマイシン ＜マイトマイシンC＞ 略名：MMC (協和発酵キリン)		2mg/瓶 ¥440/瓶	慢性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、頭頸部腫瘍、肺癌、胃癌、膀胱癌、直腸・結腸癌、膀胱腫瘍、乳癌、子宮頸癌、子宮体癌、肝癌	i) 4～6mg×1～2日/週、静注 ii) 2mg/連日静注 iii) 10～30mg×1回/1～3週間 iv) ＜他の抗悪性腫瘍剤との併用＞2～4mg×1～2/週 v) ＜その他の投与経路＞動注、髄腔内、胸・腹腔内2～10mg 膀胱内注入(膀胱腫瘍) ＜予防＞4～10mg/連・隔日 ＜治療＞10～40mg/連日
		10mg/瓶 ¥2042/瓶		

■抗癌性抗生物質 ◆ブレオマイシン系製剤

ブレオ ＜ブレオマイシン＞ 略名：BLM (日本化薬)		15mg/瓶 ¥5158/瓶	悪性リンパ腫(ホジキン病、リンパ肉腫、細網肉腫等)、神経膠腫、頭頸部癌(上顎癌、舌癌、口唇癌、咽頭癌、喉頭癌、口口腔癌等)甲状腺癌、肺癌特に原発性・転移性扁平上皮癌)、食道癌、子宮頸癌、子宮体癌、肝癌	15～30mg×2回/週皮下、筋注、静注 5～15mg×2回/週動注 【総投与量300mg以下】

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性植物成分 ◆植物アルカロイド				
イリノテカン塩酸塩 ＜イリノテカン＞ 略名：CPT-11 (大鵬)		40mg(2mL)/瓶 ¥2890/瓶	①小細胞肺癌, 非小細胞肺癌, 乳癌, 有棘細胞癌 ②子宮頸癌, 卵巣癌, 胃癌, 結腸・直腸癌 ③悪性リンパ腫(非ホジキンリンパ腫) ④小児悪性固形腫瘍 ⑤治療切除不能な膀胱癌	①A法:100mg/m ² /日, 1週間間隔で3～4回点静2週間休薬 ②A法またはB法:150mg/m ² /日, 2週間間隔で2～3回点静3週間休薬 ③C法:40mg/m ² /日, 3日間連日, 1週毎2～3回点静, 2週間休薬 ④D法:20mg/m ² /日, 5日間連日, 1週毎2回点静, 1週間休薬 ⑤E法:180mg/m ² /日, 2週間休薬
		100mg(5mL)/瓶 ¥6473/瓶		
エクザール ＜ビンブラスチン＞ 略名：VLB (日本化薬)		10mg/瓶 【用時購入】 ¥2921/瓶	①悪性リンパ腫, 絨毛性疾患(絨毛癌, 破壊胎状奇胎, 胎状奇胎) ②再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍) ③ランゲルハンス細胞組織球症 ④尿路上皮癌	①0.1mg/kg/週静注を0.05mg/kgずつ増量し, 0.3mg/kg/週 ②0.11mg/kg/日, 2日間静注, 19～26日間休薬 ③＜導入療法＞6mg/m ² /回静注, 週1 ＜維持療法＞6mg/m ² /回静注, 2～3週毎 ④＜M-VAC療法＞3mg/m ² /回静注, 4週毎
オンコビン ＜ビンクリスチン＞ 略名：VCR (日本化薬)		1mg/瓶 ¥2826/瓶	①白血病(急性白血病, 慢性白血病の急性転化時を含む), 悪性リンパ腫(ホジキン病, リンパ肉腫, 細網肉腫), 小児腫瘍(神経芽腫, 黄紋筋肉腫, ウイルス腫瘍, 睾丸胎児性癌, 血管肉腫等) ＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ ②多発性骨髄腫 ③悪性星細胞腫, 乏突起膠腫成分を有する神経膠腫 ④褐色細胞腫	①0.02～0.05mg/kg/週静注 ＜小児＞0.05～0.1mg/kg/週 【Max: 2mg/回】 ②0.4mg/日, 24時間持続静注, 4日間, 17～24日間休薬 ③1.4mg/m ² /回静注, 3週後2回目, 【Max: 2mg/回】 ④1.4mg/m ² /回静注, 3週後2回目 【Max: 2mg/回】
ナベルピン ＜ビノレルピン＞ 略名：NVB (協和発酵杉)		10mg/瓶(1mL) ¥4954/瓶	①非小細胞肺癌 ②手術不能又は再発乳癌	①20～25mg/m ² , 1週間間隔で静注 【Max: 25mg/m ² 】 ②25mg/m ² , 1週間間隔で2週連続投与, 3週目休薬
		40mg/瓶(4mL) ¥17662/瓶		
ハイカムチン ＜ノギテカン＞ (日本化薬)		1.1mg/瓶 ¥8610/瓶	①小細胞肺癌 ②がん化学療法後に増悪した卵巣癌 ③小児悪性固形腫瘍 ④進行又は再発の子宮頸癌	①1.0mg/m ² /日, 5日間連日点静, 16日間休薬 ②1.5mg/m ² /日, 5日間連日点静, 16日間休薬 ③＜他の抗悪性腫瘍剤との併用＞0.75mg/m ² /日, 5日間連日点静, 16日間休薬 ④＜シスプラチンとの併用＞0.75mg/m ² /日, 3日間連日点静, 18日間休薬

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性植物成分 ◆タキサン環類【過誤防止のため、一般名ドセタキセル、又はパクリタキセルで処方のこと】				
ワンタキソテール ＜ドセタキセル＞ 略名：DOC (サノフィ)		0.05%:10mg (20mL)/管 ¥22751/管	①乳癌, 非小細胞肺癌, 胃癌, 頭頸部癌 ②卵巣癌 ③前立腺癌 ④食道癌, 子宮体癌	①60mg/m ² /日, 3～4週間間隔で点静 【Max: 75mg/m ² 】 ②70mg/m ² /日, 3～4週間間隔で点静 【Max: 75mg/m ² 】 ③75mg/m ² /日, 3週間間隔で点静 ④70mg/m ² /日, 3～4週間間隔で点静
パクリタキセル ＜パクリタキセル＞ 略名：PTX (日本化薬)		30mg (5mL)/瓶 ¥5391/瓶	非小細胞肺癌, 子宮体癌(A) 再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍)(他の抗癌性腫瘍剤併用A法) 乳癌(A, B) 卵巣癌(Aまたはカルボプラチン併用C法) 胃癌(AまたはE法) 再発または遠隔転移を有する頭頸部癌, 食道癌, 血管肉腫(B) 進行または再発の子宮頸癌(シスプラチン併用D法)	＜A＞1日1回210mg/m ² , 3時間で点静, 3週間休薬 ＜B＞1日1回100mg/m ² , 1時間で点静, 週1回, 6週連続2週休薬を1クール ＜C＞1日1回 80mg/m ² , 1時間で点静, 週1回, 3週連続を1クールとする ＜D＞1日1回135mg/m ² , 24時間で点静, 3週休薬を1クールとする ＜E＞1日1回80mg/m ² , 1時間で点静, 週1回, 3週連続2週休薬を1クール
■抗癌性植物成分 ◆タキサン環類 (アルブミン懸濁型)				
アブラキサン ＜パクリタキセル＞ 略名：ABI-007 (大鵬)		100mg/瓶 ¥49103/瓶	乳癌, 胃癌(A) 非小細胞肺癌(B) 治癒切除不能な膀胱癌(C)	＜A＞1日1回260mg/m ² , 30分で点静 20日間以上休薬を1クールとする ＜B＞1日1回100mg/m ² , 30分で点静 週1回×3週を1クールとする ＜C＞1日1回125mg/m ² , 30分で点静 週1回×3週, 4週目休薬を1クールとする
■抗癌性植物成分 ◆その他				
ハラヴェン ＜エリブリン＞ (エーザイ)		1mg/瓶 (2mL) ¥65901/瓶	手術不能又は再発乳癌、悪性軟部腫瘍	1.4mg/m ² , 1週間間隔で2週連続投与, 3週目休薬
ベプシド ＜エトポシド＞ 略名：VP-16 (ブリストル)	25mg/C ¥759.1/C		①肺小細胞癌 ②悪性リンパ腫 ③子宮頸癌 ④がん化学療法後に増悪した卵巣癌	①A法: 175～200mg×5日間, 3週間休薬 ②A法またはB法: 50mg×21日間, 1～2週間休薬 ③B法 ④50mg/m ² ×21日, 1週間休薬
		100mg (5mL)/瓶 ¥4777/瓶	①肺小細胞癌, 悪性リンパ腫, 急性白血病, 膀胱癌, 睾丸腫瘍, 絨毛性疾患 ②胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍) ＜他の抗癌性腫瘍剤との併用＞ ③小児悪性固形腫瘍(ユイノク肉腫ファミリー腫瘍, 横紋筋肉腫, 神経芽腫, 網膜芽腫, 肝芽腫その他肝原発悪性腫瘍, 腎芽腫その他腎原発悪性腫瘍等)	①60～100mg/m ² /日×5日間後3週間休薬 ②＜他の抗癌性腫瘍剤との併用＞100mg/m ² /日, 5日間, 16日間休薬, これを繰り返す ③100～150mg/m ² /日, 3～5日間3週間休薬, これを繰り返す

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ホルモン製剤				
アリミデックス ＜アナストロゾール＞ 略名：(ARM) (アストラ・ゼカ)	1mg/錠 ¥452/錠		閉経後乳癌	1mg分1
アロマシン ＜エキセメスタン＞ 略名：(EXE) (ファイザー)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥432.3/錠			25mg分1
イクスタンジ ＜エンザルタミド＞ (アステラス)	40mg/C ¥2354.1/C		去勢抵抗性前立腺癌	160mg分1
エストラサイト ＜エストラムスチン＞ 略名：EMP (日本新薬)	156.7mg/C ¥337.8/C		前立腺癌	560mg分2
オクトレオチド酢酸塩 ＜オクトレオチド＞ 略名：SAS (サント)		100 μ g (1mL)/管 ¥1400/管	①消化管ホルモン産生腫瘍(VIP産生腫瘍, ガチノイト症候群の特徴を示すガチノイト腫瘍, ガストリン産生腫瘍), 先端巨大症・下垂体性巨人症における成長ホルモン, ソマトロピン分泌過剰状態 ②進行・再発癌患者の緩和医療における消化管閉塞に伴う消化器症状の改善	①100～300 μ g分2～3皮下 ②300 μ g/日を24時間持続皮下
オダイン ＜フルタミド＞ 略名：(NK7205) (日本化薬)	125mg/錠 ¥264.2/錠		前立腺癌	375mg分3
カソデックスOD ＜ピカルタミド＞ 略名：CAS (アストラ・ゼカ)	80mg/錠 ¥813.2/錠			80mg分1
ゴナックス ＜デガレリクス＞ (アステラス)		80mg/瓶(溶解液付) ¥24370/瓶 120mg/瓶(溶解液付) ¥29958/瓶		初回240mg(120mgずつ腹部2カ所に)皮下注 2回目以降80mg皮下注, 4週間毎
ゾラデックス ＜ゴセレリン＞ 略名：ZOL (アストラ・ゼカ)		3.6mg/筒 ¥35907/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	3.6mg/4週間毎, 前腹部皮下注
ゾラデックスLA ＜ゴセレリン＞ 略名：ZOL (アストラ・ゼカ)		10.8mg/筒 ¥62889/キット		10.8mg/12～13週毎, 前腹部皮下注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ノルバデックス ＜タモキシフェン＞ 略名：TAM (アストラゼネカ)	10mg/錠 ¥150.1/錠		乳癌	20mg分1～2
ヒスロンH ＜メドロキシプロゲステロン＞ 略名：MPA (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥259.9/錠		①乳癌 ②子宮体癌(内膜癌)	①600～1200mg分3 ②400～600mg分2～3
フェアストン ＜トレミフェン＞ 略名：TOR (日本化薬)	40mg/錠 ¥337.5/錠		閉経後乳癌	40～(120)mg分1
フェマーラ ＜レトロゾール＞ 略名：RET (中外)	2.5mg/錠 【院外のみ】 ¥547.6/錠			2.5mg分1
プロスタール ＜クロルマジノン＞ 略名：(CMA) (あすか)	25mg/錠 ¥93.2/錠		①前立腺癌 ②前立腺肥大症	①100mg分2 ②50mg分2
リュープリン ＜リュープロレリン＞ (武田)		1.88mg/キット ¥28897/キット	子宮筋腫, 子宮内膜症	1.88mg (又は3.75mg) /4週毎, 皮下注
		3.75mg/キット ¥37777/キット	①子宮筋腫, 子宮内膜症 ②前立腺癌, 閉経前乳癌	①1.88mg (又は3.75mg) /4週毎, 皮下注 ②3.75mg /4週毎, 皮下注
リュープリンSR ＜リュープロレリン＞ (武田)		11.25mg/キット ¥66891/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌, 球脊髄性筋萎縮症の 進行抑制	11.25mg /12週毎, 皮下注
リュープリンPRO ＜リュープロレリン＞ (武田)		22.5mg/キット ¥102414/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	22.5mg /24週毎, 皮下注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆チロシンキナーゼ阻害薬				
イレッサ ＜ゲフィチニブ＞ 略名：(IRESSA) (アストラ・ゼカ)	250mg/錠 ¥6712.7/錠		EGFR遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌	250mg分1
グリベック ＜イマチニブ＞ 略名：(GLI) (バ・ルティス)	100mg/錠 ¥2465.5/錠		①慢性骨髄性白血病 ②KIT(CD117)陽性消化管間質腫瘍 ③フィラ・リット染色体陽性急性リンパ性白血病 ④FIP1L1-PDGFR α 陽性の好酸球増多症候群, 慢性好酸球性白血病	①慢性期400mg分1【Max:600mg分1】 移行期又は急性期600mg分1【Max:800mg分2】 ②400mg分1 ③600mg分1 ④100mg分1【Max:400mg分1】
ジオトリフ ＜アファチニブ＞ (ヘーリンガー・インゲルハイム)	20mg/錠 ¥5840.7/錠 30mg/錠 ¥8547.4/錠 40mg/錠 ¥11198.5/錠		EGFR遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌	1日1回40mg, 空腹時【Max:50mg】
タルセバ ＜エルロチニブ＞ (中外)	150mg/錠 ¥10642.6/錠		切除不能な再発・進行性で, がん化学療法施行後に増悪した非小細胞肺癌, EGFR遺伝子変異陽性の切除不能な再発・進行性で, がん化学療法未治療の非小細胞肺癌	150mg分1 【食事の1時間以上前又は食後2時間以降】

■分子標的治療薬 ◆キナーゼ阻害薬

ヴォトリエント ＜バゾパニブ＞ (グラクソミスクライン)	200mg/錠 【用時購入】 ¥4142.3/錠		①悪性軟部腫瘍 ②根治切除不能又は転移性の腎細胞癌	800mg分1 【食事の1時間以上前又は食後2時間以降】
スチバーガ ＜レゴラフェニブ＞ (バ・イエル)	40mg/錠 ¥5579.3/錠		治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌, がん化学療法後に増悪した消化管間質腫瘍, がん化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌	1日1回160mg, 3週間連日投与後1週間休薬
レンビマ ＜レンパチニブ＞ (エーザイ)	4mg/C ¥3956.4/C 10mg/C ¥9354.2/C		根治切除不能な甲状腺癌	24mg分1

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆モノクローナル抗体				
アドセトリス ＜ブレンツキシマブ ペ ドチン＞ (武田薬品)		50mg/瓶 ¥465701/瓶	再発又は難治性のCD 30陽性のリンパ腫、 未分化大細胞リン パ腫	3週間に1回1.8mg/kg, 点静
アバステン ＜ペバシズマブ＞ (中外)		100mg (4mL) /瓶 ¥41738/瓶	① 治癒切除不能な進 行・再発の結腸・直 腸癌 ② 扁平上皮癌を除く 切除不能な進行・再 発の非小細胞肺癌 ③ 手術不能又は再発 乳癌 ④ 悪性神経腫瘍 ⑤ 卵巣癌 ⑥ 進行又は再発の子 宮頸癌	①＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ 5mg/kgまたは10mg/kg, 点静, 2週間 以上休薬 または7.5mg/kg, 点静, 3週間以上 休薬 ②⑤⑥＜他の抗悪性腫瘍薬と併用＞ 15mg/kg, 点静, 3週間以上休薬 ③＜パクリタキセル併用＞ 10mg/kg, 点静, 2週間以上休薬 ④10mg/kg, 点静, 2週間以上休薬 または15mg/kg, 点静, 3週間以上休 薬
		400mg (16mL) /瓶 ¥158942/瓶		
アービタックス ＜セツキシマブ＞ 略名: C225 (メルク・セルゲイ・ ノール)		100mg (20mL) /瓶 【用時購入】 ¥36920/瓶	① EGFR陽性の治癒切 除不能な進行・再発 の結腸・直腸癌 ② 頭頸部癌	＜初回＞400mg/m ² /回を2時間 ＜2回目以降＞250mg/m ² /回を1時間 1週間間隔で点静
オブジーボ ＜ニボルマブ（遺伝子 組換え）＞ (小野薬品工業)		20mg (2mL) /瓶 ¥75, 100/瓶	① 根治切除不能な悪 性黒色腫 ② 切除不能な進行・ 再発の非小細胞肺癌 ③ 根治切除不能又は 転移性の腎細胞癌 ④ 再発又は難治性の 古典的ホジキンリン パ腫 ⑤ 再発又は遠隔転移 を有する頭頸部癌	①＜化学療法未治療＞3mg/kg, 点静, 2 週間間隔 ＜化学療法既治療＞3mg/kg, 点静, 2 週間間隔 または2mg/kg, 点静, 3 週間間隔 ②③④⑤3mg/kg, 点静, 2週間毎
		100mg (10mL) /瓶 ¥364, 925/瓶		
カドサイラ ＜トラスツズマブエム タンシン＞ (中外)		100mg/瓶 ¥235108/瓶	HER2陽性の手術不能 又は再発乳癌	1回3.6mg/kg点静, 3週間間隔
		160mg/瓶 ¥373945/瓶		
キイトルーダ ＜ペムブロリズマブ （遺伝子組換え）＞ (MSD)		100mg (4mL) /瓶 ¥410, 541/瓶	① 根治切除不能な悪 性黒色腫 ② PD-L1陽性の切除 不能な進行・再発の 非小細胞肺癌	① 2mg/kg/回点静, 3週間間隔 ② 200mg/回点静, 3週間間隔
サイラムザ ＜ラムシルマブ＞ (日本イーライリリー)		100mg (10mL) /瓶 ¥75265/瓶	① 治癒切除不能な進 行・再発の胃癌 ② 治癒切除不能な進 行・再発の結腸・直 腸癌 ③ 切除不能な進行・ 再発の非小細胞肺癌	① 1回8mg/kg, 2週間に1回点滴静注 ②＜リリナカ塩酸塩水和物, レボ・リナート, フルオラウラシルと併用＞ 1回8mg/kg, 2週間に1回点滴静注 ③＜ドセタキセルと併用＞ 1回10mg/kg, 3週間に1回点滴静注
		500mg (50mL) /瓶 ¥355450/瓶		
パージェタ ＜ペルツズマブ＞ (中外)		420mg/瓶 ¥238491/瓶	HER2陽性の手術不能 又は再発乳癌	＜トラスツズマブ＞と他の抗悪性腫瘍剤との 併用 初回840mg/回, 2回目以降420mg/回, 1 回/日, 3週間間隔で点静

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ハーセプチン ＜トラスツズマブ＞ (中外)		60mg/瓶 ¥24469/瓶	①HER2過剰発現が確認された乳癌(AまたはB) ②HER2過剰発現が確認された治療切除不能な進行・再発の胃癌(B:他の抗悪性腫瘍薬と併用)	<A>初回4mg/kg/回, 2回目以降2mg/kg/回, 1回/日, 1週間間隔で点静 初回8mg/kg/回, 2回目以降6mg/kg/回, 1回/日, 3週間間隔で点静
		150mg/瓶 ¥57289/瓶		
ベクティビックス ＜パニツムマブ＞ (武田)		100mg (5mL)/瓶 ¥77726/瓶	KRAS遺伝子野生型の治療切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	6mg/kg/回を60分以上で点静 2週間間隔
リツキサン ＜リツキシマブ＞ 略名: RIT (中外)		100mg (10mL)/瓶 ¥43641/瓶	①CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫, 免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞性リンパ増殖性疾患 ②ダウエル肉芽腫症, 顕微鏡的多発血管炎 ③難治性のネフローゼ症候群(頻回再発型あるいはステロイド依存性を示す場合) ④ABO血液型不適合腎移植, 肝移植における抗体関連型拒絶反応の抑制 ⑤インジウム(111In)イリツモマブチキセタン(遺伝子組換え)注射液及びイットリウム(90Y)イリツモマブチキセタン(遺伝子組換え)注射液投与前投与 ⑥慢性特発性血小板減少性紫斑病	①375mg/m ² /回, 点静, 1週間間隔または他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合1サイクルあたり1回【Max:8回】 維持療法:375mg/m ² /回, 点静, 8週間間隔を目安【Max:12回】 ②⑥375mg/m ² /回, 点静, 1週間間隔, 4回 ③375mg/m ² /回, 点静, 1週間間隔, 4回【Max:1回500mg】 ④375mg/m ² /回, 点静 腎移植:移植術2週間前及び1日前に2回 肝移植:移植術2週間以上前に1回, 1回投与で抗体価又はB細胞数の減少が不十分な場合には, さらに1回追加投与 ⑤250mg/m ² /回, 点静
		500mg (50mL)/瓶 ¥213815/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他 ◆抗造血器悪性腫瘍剤				
ベサノイド ＜トレチノイン＞ 略名：ATRA (中外)	10mg/C【用時 購入】 ¥690.8/C		急性前骨髄球性白血病	60～80mg (45mg/m ²) 分3
ペラゾリン ＜ソブゾキサン＞ 略名：(MST-16) (全薬)	細粒(400mg/ 包) ¥1854.6/包		悪性リンパ腫, 成人T 細胞白血病リンパ腫	1600mg分1～2×5日間, 後2～3週間休 薬これを繰り返す 【Max: 2400mg】
ベルケイド ＜ボルテソミブ＞ (ヤンセンファーマ)		3mg/瓶 ¥137409/瓶	①未治療の多発性骨 髄腫 ②再発又は難治性の 多発性骨髄腫 ③ mantle 細胞リンパ腫	①<他の抗悪性腫瘍剤との併用> 1. 3mg/m ² /回静注または皮下注 ×8回(1・4・8・11・22・25・29・32日目), 以後10日間休薬×4サイクル 5サイクル以降1. 3mg/m ² /回静注または皮下注 ×4回(1・8・22・29日目), 以後13日間休薬×9サイクル ②1. 3mg/m ² /回静注または皮下注 2回/週×2週間(1・4・8・11日目), 以後10日間休薬, これを繰り返す または8サイクル以降維持療法として1回/週 ×4週間(1・8・15・22日目), 以後13日間休薬 ③<他の抗悪性腫瘍剤との併用> 1. 3mg/m ² /回静注または皮下注 ×4回(1・4・8・11日目), 以後10日間休薬×6サイクル
レナデックス ＜デキサメタゾン＞ (セルゲン)	4mg/錠 ¥173.8/錠		多発性骨髄腫	40mg分1, 4日間
レブラミド ＜レナリドミド＞ (セルゲン)	5mg/C ¥9114.2/C		①多発性骨髄腫 ②5番染色体長腕部 欠失を伴う骨髄異形 成症候群 ③再発又は難治性の 成人T細胞白血病リ ンパ腫	①25mg分1, 21日間連日投与, 7日間休 薬, これを1サイクルとし繰り返す ②10mg分1, 21日間連日投与, 7日間休 薬, これを1サイクルとし繰り返す ③25mg分1, 連日投与
ロイナーゼ ＜アスパラギナーゼ＞ 略名：L-ASP (協和発酵キリン)		5000単位/瓶 【用時購入】 ¥2200/瓶	急性白血病(慢性骨 髄性白血病の急性転 化を含む), 悪性リン パ腫	<静脈内投与> 50～200単位/kg/日, 連日・隔日 <筋肉内投与> 10000単位/m ² /日, 週3回または25000 単位/m ² /日, 週1回

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イムノブラダー ＜乾燥BCG＞ (日本ビーズ社)		40mg/瓶 ¥8786.9/瓶	表在性膀胱癌 膀胱上皮内癌	1回80mg/週, 膀胱内注入8週間繰り返す
塩酸プロカルバジン ＜プロカルバジン＞ 略名: PCZ (中外)	50mg/C【用時購入】 ¥368.3/C		①悪性リンパ腫(ホジキン病, 細網肉腫, リンパ肉腫) ＜他の抗悪性腫瘍薬との併用＞ ②悪性星細胞腫, 乏突起膠腫成分を有する神経膠腫	①150～300mg分3 【総投与量5～7g】 ②60～75mg/m ² /日, 分1～3, 14日間, 6～8週毎繰り返す
サビーン ＜デクスラゾキサン＞ (キッセイ)		500mg/瓶 ¥45593/瓶	アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出	1日1回, 3日間連続, 1～2時間かけて静注 1～2日目: 1000mg/m ² 【Max: 2000mg】 3日目: 500mg/m ² 【Max: 1000mg】 血管外漏出後6時間以内に可能な限り速やかに投与開始, 2日目及び3日目は投与1日目と同時刻に投与を開始
無水エタノール ＜無水エタノール＞ (扶桑)		5mL/管 ¥940/管	肝細胞癌における経皮的エタノール注入療法	腫瘍体積により決定する。 【Max: 10mL/日】
ラスリテック ＜ラスブリカーゼ＞ (サノofi)		7.5mg/管(溶解液5mL付) ¥51365/瓶	がん化学療法に伴う高尿酸血症	0.2mg/kg分1, 30分以上かけて点静

■免疫療法剤 ◆インターフェロン製剤

スミフェロンDS ＜インターフェロンα＞ (大日本住友)		300万国単位/筒 ¥6549/筒	①腎癌, 多発性骨髄腫, 骨髄細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セロコンバージョンの血中HCV RNA量が高い場合を除く) ⑤HTLV-I脊椎症(HAM)	①300～600万単位/日皮下, 筋注 ②300～600万単位/日皮下, 筋注 ③300～900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300～600万単位/日週3回皮下, 筋注 ⑤300万単位/日皮下, 筋注
		600万国単位/筒 ¥12424/筒	①腎癌, 多発性骨髄腫, 骨髄細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セロコンバージョンの血中HCV RNA量が高い場合を除く)	①300～600万単位/日皮下, 筋注 ②300～600万単位/日皮下, 筋注 ③300～900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300～600万単位/日週3回皮下, 筋注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫療法剤 ◆その他				
ピシバニール <ピシバニール> 略名：OK-432 (中外)		1KE/瓶(溶解液2 mL付) ¥3132/瓶	①胃癌(手術例)患者・原発性肺癌患者における化学療法との併用による生存期間の延長 ②消化器癌患者・肺癌患者における癌性胸・腹水の減少 ③他剤無効の頭頸部癌(上顎癌, 喉頭癌, 咽頭癌, 舌癌), 甲状腺癌 ④リンパ管腫	①初回0.2~0.5KEで連日・隔日2~3週間かけて2~5KE維持量2~5KE/回, 1~2回/週, 筋注, 皮下 ②5~10KE/回, 1~2回/週, 漿膜腔内投与 ③5~10KE/回/連日~数日毎, 腫瘍内・腫瘍周辺部注入 ④吸引リンパ管腫液量と同量の0.05~0.1KE/mL懸濁溶液を局注 【Max:2KE/回】
ユーゼル <ホリナートカルシウム> 略名：LV (大鵬)	25mg/錠 ¥2264.9/錠		結腸・直腸癌に対する カ・フル・ウシルの抗 腫瘍効果の増強	75mg分3(約8時間ごとに)28日間連日投与, その後7日間休薬 <リナート・カ・フル・ウシル療法> 【DI照会参照】
ユニタルク <タルク> (ノーベルファーマ)		4g/瓶 ¥7105/瓶	悪性胸水の再貯留抑制	4gを生食50mLで懸濁し胸膜腔内注入
レボホリナート <レボホリナート> 略名：L-LV (日本化薬)		25mg/瓶 ¥1060/瓶	①レボ・リナート・フルオウシル療法: 胃癌, 結腸, 直腸癌に対するフルオウシルの抗腫瘍効果の増強 ②レボ・リナート・フルオウシル持続静注併用療法: 結腸・直腸癌及び治療切除不能な肺癌に対するフルオウシルの抗腫瘍効果の増強	①250mg/m ² 2hr点静 開始1hr後5FU600mg/m ² 静注 1回/1週6週間連続2週間休薬を1クールとする ②【DI照会参照】
ロイコボリン <ホリナートカルシウム> 略名：LV (ファイザー)		3mg(1mL)/管 ¥436/管	葉酸代謝拮抗剤の毒性軽減	<メトレキサート通常療法・CMF療法・メトレキサート慢性関節リウマチ療法, M-VAC療法> 24~48mg分4筋注 <メトレキサート・ロイコボリン救援療法&メトレキサート・フルオウシル交代療法> 【DI照会参照】

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

	剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
1	外用	ウブレチド点眼液	0.5% 5ml/本		毒薬	限定
2		ギリアデル脳内留置用剤	7.7mg	抗癌剤		限定
3	内用	アイクルシグ錠	15mg	抗癌剤		限定
4		アフィニトール錠	2.5mg	抗癌剤		限定
5			5mg	抗癌剤		限定
6		アフィニトール分散錠	2mg	抗癌剤		限定
7			3mg	抗癌剤		限定
8		アミオダロン錠	50mg		毒薬	
9			100mg		毒薬	
10		アリミデックス錠	1mg	抗癌剤		
11		アルケラン錠	2mg	抗癌剤	毒薬	
12		アレセンサカプセル	20mg	抗癌剤		限定
13			40mg	抗癌剤		限定
14			150mg	抗癌剤		限定
15		アロマシン錠	25mg	抗癌剤		
16		イクスタンジカプセル	40mg	抗癌剤		
17		イムブルビカカプセル	140mg	抗癌剤		限定
18		イレッサ錠	250mg	抗癌剤		
19		インライタ錠	1mg	抗癌剤		限定
20			5mg	抗癌剤		限定
21		ヴォトリエント錠	200mg	抗癌剤		
22		ウブレチド錠	5mg		毒薬	
23		エストラサイトカ [®] セル	156.7mg	抗癌剤		
24		エンドキサン錠	50mg	抗癌剤		
25		オダイン錠	125mg	抗癌剤		
26		カソデックスOD錠	80mg	抗癌剤		
27		グリベック錠	100mg	抗癌剤		
28		ザイティガ錠	250mg	抗癌剤		限定
29		ザーコリカプセル	200mg	抗癌剤		限定
30			250mg	抗癌剤		限定
31		サレドカ [®] セル	25mg	抗癌剤	毒薬	限定
32			50mg	抗癌剤	毒薬	限定
33			100mg	抗癌剤	毒薬	限定
34		ジオトリフ錠	20mg	抗癌剤		限定
35			30mg	抗癌剤		限定
36			40mg	抗癌剤		限定
37			50mg	抗癌剤		限定
38		ジャカビ錠	5mg	抗癌剤		限定
39		スタラシドカ [®] セル	100mg	抗癌剤		
40		スチバーガ錠	40mg	抗癌剤		
41		スーテントカ [®] セル	12.5mg	抗癌剤		限定
42		スプリセルカ [®] セル	20mg	抗癌剤		限定
43			50mg	抗癌剤		限定
44		ゼローダ錠	300mg	抗癌剤		
45		ゾリンザカプセル	100mg	抗癌剤		限定
46		タイケルブ錠	250mg	抗癌剤		限定
47			250mg	抗癌剤		限定
48		タグリッソ錠	40mg	抗癌剤		限定
49			80mg	抗癌剤		限定
50		タシグナカ [®] セル	150mg	抗癌剤		限定
51			200mg	抗癌剤		限定

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
52	内用	25mg	抗癌剤		限定
53		100mg	抗癌剤		限定
54		150mg	抗癌剤		
55		20mg	抗癌剤		
56		25mg	抗癌剤		
57		20mg	抗癌剤		
58		25mg	抗癌剤		
59		20mg	抗癌剤		限定
60		25mg	抗癌剤		限定
61		20mg	抗癌剤	毒薬	限定
62		100mg	抗癌剤	毒薬	限定
63		200mg	抗癌剤		限定
64		10mg	抗癌剤		
65		500mg	抗癌剤		
66		450mg		毒薬	限定
67		200mg	抗癌剤		
68		10mg	抗癌剤		限定
69		15mg	抗癌剤		限定
70		40mg	抗癌剤		
71		2. 5mg	抗癌剤		
72		10mg	抗癌剤		限定
73		200mg	抗癌剤		限定
74		50mg	抗癌剤		
75		25mg	抗癌剤		
76		10mg	抗癌剤		
77		25mg	抗癌剤		
78		400mg/包	抗癌剤		
79		100mg	抗癌剤		限定
80		1mg	抗癌剤	毒薬	限定
81		2mg	抗癌剤	毒薬	限定
82		4mg	抗癌剤	毒薬	限定
83		1%	抗癌剤		限定
84		2. 5mg	抗癌剤		
85		100mg	抗癌剤		
86		200mg/包	抗癌剤		
87		5mg	抗癌剤	毒薬	
88		4mg	抗癌剤		限定
89		10mg	抗癌剤		限定
90		10%	抗癌剤		限定
91		15mg	抗癌剤		
92		20mg	抗癌剤		
93	注射	50mg	抗癌剤	毒薬	限定
94		100mg	抗癌剤	毒薬	限定
95		50mg	抗癌剤	毒薬	
96		100mg	抗癌剤	毒薬	
97		20mg	抗癌剤		
98		10mg		毒薬	限定
99		50mg	抗癌剤		
100		10mg	抗癌剤		
101		50mg	抗癌剤		
102		100mg	抗癌剤		
103		400mg	抗癌剤		
104		100mg	抗癌剤		

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
105	アブラキサン点滴静注用	100mg	抗癌剤	毒薬	
106	アムビゾーム点滴静注用	50mg		毒薬	限定
107	アリムタ注射用	100mg	抗癌剤		
108		500mg	抗癌剤		
109	アルケラン静注用	50mg	抗癌剤	毒薬	限定
110	イダマイシン静注用	5mg	抗癌剤	毒薬	
111	注射用イホマイド注	1g	抗癌剤		
112	イムシスト膀胱注用	81mg	抗癌剤		限定
113	イムノブラダー膀胱注用	40mg	抗癌剤		
114	イムノマックスγ注	100万単位	抗癌剤		限定
115		300万単位	抗癌剤		限定
116	イリノテカン塩酸塩点滴静注液「タイハウ」	100mg	抗癌剤		
117		40mg	抗癌剤		
118	イントロンA注射用	300万単位	抗癌剤		限定
119		600万単位	抗癌剤		限定
120	エクザール注射用	10mg	抗癌剤		
121	エスラックス静注	50mg		毒薬	
122	エピルビシン塩酸塩注射用「NK」	10mg	抗癌剤		
123		50mg	抗癌剤		
124		50mg	抗癌剤	毒薬	
125	エルプラット注射用	100mg	抗癌剤	毒薬	
126		200mg	抗癌剤	毒薬	
127	注射用エンドキサン注	100mg	抗癌剤		
128		500mg	抗癌剤		
129	オクトレオチド酢酸塩皮下注	100μg	抗癌剤		
130	オブジーボ点滴静注	20mg	抗癌剤		
131		100mg	抗癌剤		
132	オンコビン注射用	1mg	抗癌剤		
133	カイプロリス点滴静注用	10mg	抗癌剤	毒薬	限定
134		40mg	抗癌剤	毒薬	限定
135	カドサイラ点滴静注用	100mg	抗癌剤		
136		160mg	抗癌剤		
137	カルセド注射用	20mg	抗癌剤		
138		50mg	抗癌剤		
139	カルボプラチン注射液「日医工」	150mg	抗癌剤	毒薬	
140		450mg	抗癌剤	毒薬	
141		50mg	抗癌剤	毒薬	
142	キイトルーダ点滴静注	100mg	抗癌剤		
143		20mg	抗癌剤		限定
144		20mg	抗癌剤		
145	キロサイド注	40mg	抗癌剤		
146		200mg	抗癌剤		
147	キロサイドN注	400mg	抗癌剤		
148		1g	抗癌剤		
149	ゲムシタビン点滴静注用「ヤクルト」	1000mg	抗癌剤		
150		200mg	抗癌剤		
151	コスメゲン静注用	0.5mg	抗癌剤		限定
152	コホリン注用	7.5mg	抗癌剤		限定
153	ゴナックス皮下注用	120mg	抗癌剤		
154		80mg	抗癌剤		
155	注射用サイメリン	50mg	抗癌剤		
156	サイラムザ点滴静注液	100mg	抗癌剤		
157		500mg	抗癌剤		

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
158	ジェブタナ点滴静注	60mg	抗癌剤	毒薬	限定
159	スキサメトニウム注	100mg		毒薬	
160	スミフェロンDS注	300万単位	抗癌剤		
161		600万単位	抗癌剤		
162	ゾラデックスLAデポ	10.8mg	抗癌剤		限定
163	ゾラデックス・デポ	3.6mg	抗癌剤		
164	ダウノマイシン静注用	20mg	抗癌剤		
165	ダカルバジン注用	100mg	抗癌剤		
166	デノシン点滴静注用	500mg		毒薬	限定
167	テモダール点滴静注用	100mg	抗癌剤	毒薬	限定
168	ドキシル注	20mg	抗癌剤		
169	ドセタキセル注	20mg	抗癌剤	毒薬	
170		80mg	抗癌剤	毒薬	
171	ドセタキセル点滴静注用「サワイ」	20mg	抗癌剤	毒薬	限定
172		80mg	抗癌剤	毒薬	限定
173	トリセノックス注	10mg	抗癌剤	毒薬	限定
174	トーリセル点滴静注	25mg	抗癌剤		限定
175	トレアキシン点滴静注用	100mg	抗癌剤		限定
176		25mg	抗癌剤		限定
177	ナベルビン注	10mg	抗癌剤	毒薬	
178		40mg	抗癌剤	毒薬	
179	ニトプロ持続静注用	6mg		毒薬	
180	ノバントロン注	10mg	抗癌剤	毒薬	
181	ハイカムチン注射用	1.1mg	抗癌剤		
182	パクリタキセル注「NK」	100mg	抗癌剤	毒薬	
183		30mg	抗癌剤	毒薬	
184	ハーセプチン注射用	60mg	抗癌剤		
185		150mg	抗癌剤		
186	ハラヴェン静注	1mg	抗癌剤	毒薬	
187	パージェタ点滴静注	420mg	抗癌剤		
188	ピシバニール注射用	1KE	抗癌剤		
189		5KE	抗癌剤		
190	ビダーザ注射用	100mg	抗癌剤		
191	ピノルビン注射用	10mg	抗癌剤		
192		20mg	抗癌剤		
193		30mg	抗癌剤		
194	フェソロデックス筋注	250mg	抗癌剤		限定
195	５－ＦＵ注	250mg	抗癌剤		
196		1000mg	抗癌剤		
197	フィルデシン注	1mg	抗癌剤		
198		3mg	抗癌剤		
199	フエロン注射用	100万単位	抗癌剤		限定
200		300万単位	抗癌剤		限定
201		600万単位	抗癌剤		限定
202	ブスルフェクス点滴静注用	60mg	抗癌剤		限定
203	フルダラ静注用	50mg	抗癌剤		
204	ブレオ注射用	15mg	抗癌剤		
205	ベクティビックス点滴静注	100mg	抗癌剤		限定
206	ベクロニウム静注用	4mg		毒薬	
207	ベプシド注	100mg	抗癌剤		
208	ベルケイド注射用	3mg	抗癌剤	毒薬	限定
209	点滴静注用ホスカビル注	6000mg		毒薬	限定
210	ポテリジオ点滴静注	20mg	抗癌剤		限定

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

	剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
211	注射	ボトックス注用	50単位		毒薬	限定
212			100単位		毒薬	限定
213		マイトマイシン注用	2mg	抗癌剤		
214			10mg	抗癌剤	毒薬	
215		マブキャンパス点滴静注	30mg	抗癌剤		限定
216		ミリプラ動注用	70mg	抗癌剤		
217		注射用メソトレキセート	5mg	抗癌剤		
218			50mg	抗癌剤		
219		メソトレキセート点滴静注液	200mg	抗癌剤		
220			1000mg	抗癌剤		
221		ランダ注	10mg	抗癌剤	毒薬	
222			25mg	抗癌剤	毒薬	
223			50mg	抗癌剤	毒薬	
224		リツキサン注	100mg	抗癌剤		
225			500mg	抗癌剤		
226		リユープリン注射用キット	3.75mg	抗癌剤		
227			1.88mg	抗癌剤		
228		リユープリンPRO注射用キット	22.5mg	抗癌剤		
229		リユープリンSR注射用キット	11.25mg	抗癌剤		
230		ロイスタチン注	8mg	抗癌剤		限定
231		ロイナーゼ注用	5000KU	抗癌剤		

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■MRSA用薬 ☆初回投与時は、「MRSA治療報告書」を提出して下さい。					
キュビシン ＜ダプトマイシン＞ (MSD)		350mg/瓶 ¥13530/瓶	①6mg/kg, 24時間毎, 30分かけて点静 または緩徐に静注 ②4mg/kg, 24時間毎, 30分かけて点静 または緩徐に静注	①敗血症, 感染性心内膜炎 ②深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創 等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
ザイボックス ＜リネゾリド＞ 略名: LZD (ファイザー)		600mg (300mL) /袋 ¥14997/袋	1回600mg1日2回12時間毎 ＜12歳未満の小児＞1回10mg/kg8時間 毎【Max: 1回600mg】	①敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外 傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎②各種 感染症	①メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) ②バンコ マイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム (VRE)
テイコプラニン ＜テイコプラニン＞ 略名: TEIC (ニッポ)		200mg/瓶 ¥2397/瓶	初日400mg又は800mg, 分2点静 以後200mg又は400mg, 分1点静 ＜乳児・小児＞10mg/kgを12時間間隔で 3回 以後6～10mg/kgを24時間毎に30分か けて点静 ＜新生児＞初回16mg/kg, 以後8mg/kgを 24時間毎に30分以上かけて点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外傷・ 熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 膿胸, 慢 性呼吸器病変の二次感染	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
ハベカシン ＜アルベカシン＞ 略名: ABK (明治)		100mg (2mL) / 管 ¥4543/管	150～200mg, 分1(分2も可)点静, 筋注 ＜小児＞4～6mg/kg/日, 分1(分2も可) 点静	敗血症, 肺炎	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
塩酸バンコマイシン ＜バンコマイシン＞ 略名: VCM (ファイザー)		0.5g/瓶 ¥971/瓶 1g/瓶 ¥1318/瓶	2g, 分2～4点静 ＜小, 幼児＞40mg/kg/日, 分2～4 ＜新生児＞1週迄20～30mg/kg/日, 分2 1ヵ月迄30～45mg/kg/日, 分2 (必ず60分以上かけて点静)	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術 創等の二次感染, 骨髄炎, 関節炎, 肺炎, 肺膿 瘍, 膿胸, 腹膜炎, 化膿性髄膜炎	①メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) ②メチリン耐性コグラーセ陰性ブドウ球菌 (MRC NS) ③ペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) ④MRSA又はMRCNS感染が疑われる発熱性 好中球減少症
塩酸バンコマイシン ＜バンコマイシン＞ 略名: VCM (オノキ)	500mg/瓶 ¥2710.7		消化管内殺菌: 2～3g, 分4～6 MRSA・C. デイフィリ腸炎: 0.5～2g, 分4	感染性腸炎(偽膜性大腸炎を含む)	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA), クロストリ ウム・デイフィリ

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■ペニシリン系					
アモキシシリン ＜アモキシシリン＞ 略名：AMPC （東和薬品）	250mg/C ¥8.6/C		750～1000mg, 分3～4 ＜小児＞20～40mg/kg/日, 分3～4 【Max: 90mg/kg】 ヘリコバクター・ピロリ除菌の補助 【D-2 参照】	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 淋菌感染症, 梅毒, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 涙囊炎, 麦粒腫, 中耳炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎, 猩紅熱, 胃潰瘍・十二指腸潰瘍MA LTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリ感染症, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 大腸菌, フロウチス・ミラリス, インフルエンザ菌, ヘリコバクター・ピロリ, 梅毒トレポネマ
オーグメンチン ＜アモキシシリン, クラバン酸カリウム＞ （グラクソ・スミスクライン）	375mg/錠 ¥36.1/錠		1回1錠, 1日3～4回6～8時間毎	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 淋菌感染症, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 中耳炎	ブドウ球菌属, 淋菌, 大腸菌, クレブシエラ属, フロウチス属, インフルエンザ菌, バクテロイデス属, プレブテラ属(プレブテラ・ヒビアを除く)
スルバシリン ＜アンピシリン, スルバクタム＞ 略名：ABPC/SBT （Meiji Seika）		0.75g/瓶 ¥291/瓶 1.5g/瓶 ¥335/瓶	①6g, 分2静注, 点静 【Max: 1回3g1日4回(12g/日)(重症感染症の場合)】 ②3g, 分2静注, 点静 ＜小児＞60～150mg, 分3～4静注, 点静	①肺炎, 肺膿瘍, 腹膜炎 ②膀胱炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, フロウチス属, インフルエンザ菌
タゾピペ ＜タゾバクタム, ピペラシリン＞ 略名：TAZ/PIPC （Meiji Seika ファルマ）		2.25g＜タゾバクタム0.25g, ピペラシリン2.0g＞ ¥827/瓶 4.5g＜タゾバクタム0.5g, ピペラシリン4.0g＞ ¥1231/瓶	①1回4.5g1日3回点静又は静注 肺炎: 1回4.5g1日3～4回 ＜小児＞112.5mg/kg/回, 1日3回点静又は静注 【小児Max: 4.5g/回】 ②1回4.5g1日2～3回点静又は静注 ＜小児＞112.5mg/kg/回, 1日2～3回点静又は静注 【小児Max: 4.5g/回】 ③1回4.5g1日4回点静又は静注 ＜小児＞90mg/kg/回, 1日4回点静又は静注 【小児Max: 4.5g/回】	①敗血症, 肺炎, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎及び胆管炎 ②腎盂腎炎, 複雑性膀胱炎 ③発熱性好中球減少症	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(フランハム)・カタールリス, 大腸菌, シロバクター属, クレブシエラ属, エンテロバクター属, セリチア属, フロウチス属, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシトバクター属, ヘクトストレプトコッカス属, クロストリジウム属(クロストリジウム・デフィシルを除く), バクテロイデス属, プレブテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ビクシリン <アンピシリン> 略名：ABPC (明治)		0.25g/瓶 ¥151/瓶	250mg～1000mg/回を1日2～4回筋注 1～2g/日、分1～2静注 1～4g/日、分1～2点静 <小児>100～200mg/kg/日、分3～分4 静注、点静【Max:400mg/kg/日】 <新生児>50～200mg/kg/日、分2～4静 注、点静	敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、 深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿 皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳 腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管 支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二 次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜 炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、化膿性髄 膜炎、眼瞼膿瘍、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中 耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎 炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭 疽、放線菌症	グ・トリ球菌属、レン球菌属、肺炎球菌、腸球 菌属、淋菌、髄膜炎菌、炭疽菌、放線菌、大 腸菌、赤痢菌、プロトス・ミラビリス、インフルエン 菌、リステリア・モノサイトゲネス
		0.5g/瓶 ¥219/瓶			
		1g/瓶 ¥353/瓶			
ペニシリンG <ベンジルペニシリン> 略名：PCG (明治)		100万単位/瓶 ¥317/瓶	①1回30～60万単位、1日2～4回筋注 ②1回400万単位、1日6回点静 ③1回400万単位、1日6回点静 【Max:500単位/回、3000万単位/日】 ④1回300～400万単位、1日6回点静	①敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、淋菌感染症、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、炭疽、ジフテリア(抗毒素併用)、鼠咬症、破傷風(抗毒素併用)、ガス壊疽(抗毒素併用)、放線菌症、回帰熱、ワイル病 ②化膿性髄膜炎 ③感染性心内膜炎 ④梅毒	グ・トリ球菌属、レン球菌属、肺炎球菌、腸球 菌属、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、炭疽菌、 放線菌、破傷風菌、ガス壊疽菌群、回帰熱 レリア、ワイル病プロトス・ミラリス、鼠咬症スピリルム、梅毒ト レボネマ
ペントシリン <ピペラシリン> 略名：PIPC (大正富山)		1g/瓶 ¥406/瓶	2～4g、分2～4静注または筋注 【Max:1回4g、1日4回(難治性または 重症感染症)】 <小児>50～125mg/kg/日、分2～4静注 【Max:300mg/kg、分3(難治性または 重症感染症)】	敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢 性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、 胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮 付属器炎、子宮旁結合組織炎、化膿性髄膜炎	グ・トリ球菌属、レン球菌属、肺炎球菌、腸球 菌属、大腸菌、シロバクテラ属、肺炎桿菌、エンテ ロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネ ー、プロビデンス属、インフルエンザ菌、緑膿菌、バク テロイデス属、プレモナラ属(プレモナラ・ヒベアを除 く)
		2g/瓶 ¥688/瓶			
ユナシン <スルタミシリン> 略名：SBTPC (ファイザー)	375mg/錠 ¥56.1/錠		750～1125mg、分2～3	表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リン パ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気 管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、 膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、子宮内感染、涙嚢 炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎	グ・トリ球菌属、レン球菌属、肺炎球菌、腸球 菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラリス、インフ レンザ菌
ワイドシリン <アモキシシリン> 略名：AMPC (Meiji Seikaファル マ)	細粒(200mg/ g) ¥13.6/g		750～1000mg、分3～4 <小児>20～40mg/kg/日、分3～4 【Max:90mg/kg】 ヘルコバクター・ヒトリの除菌の補助 【D-2 参照】	表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節 炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、び らん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃 炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、 膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体 炎(副睾炎)、淋菌感染症、梅毒、子宮内感染、子宮付属 器炎、子宮旁結合組織炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織 炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱、胃潰瘍・十二指腸潰瘍にお けるヘルコバクター・ヒトリ感染症	グ・トリ球菌属、レン球菌属、肺炎球菌、腸球 菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラリス、インフ レンザ菌、ヘルコバクター・ヒトリ、梅毒トトレボネマ

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■セフェム系 第1世代					
ケフラール ＜セファクロル＞ 略名：CCL (オノキ)	250mg/C ¥53.7/C		750～1500mg, 分3	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 麦粒腫, 中耳炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎, 猩紅熱	ブドウ球菌属, レイコバクテリウム属, 肺炎球菌, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス・ミラビリス, インフルエンザ菌
	細粒(100mg/g) ¥44.6/g		<小児>20～40mg/kg/日, 分3		
セファゾリン ＜セファゾリン＞ 略名：CEZ (日医工)		0.5g/瓶 ¥110/瓶	1～3g, 分2～3筋注, 静注, 点静 <小児>20～40～(100)mg/kg/日 分2～3筋注, 静注, 点静	敗血症, 感染性心内膜炎, 表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染, 乳腺炎, 骨髓炎, 関節炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合組織炎, 眼内炎(全眼球炎を含む)中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎	ブドウ球菌属, レイコバクテリウム属, 肺炎球菌, 大腸菌, 肺炎桿菌, プロテウス・ミラビリス, プロピデンス菌属
		1g/瓶 ¥119/瓶			
■セフェム系 第2世代					
セフメタゾールNa ＜セフメタゾール＞ 略名：CMZ (日医工)		0.25g/瓶 ¥95/瓶	1～2～(4)g, 分2～4静注, 点静 <小児>25～100～(150)mg/kg/日, 分2～4静注, 点静	敗血症, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合組織炎, 顎骨周囲の蜂巣炎, 顎炎	黄色ブドウ球菌, 大腸菌, 肺炎桿菌, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロピデンス菌属, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロデス属, プレオテラ属(プレオテラ・ビビアを除く)
		0.5g/瓶 ¥153/瓶			
		1g/瓶 ¥266/瓶			
フルマリン ＜フロモキシセフ＞ 略名：FMOX (オノキ)		1g/瓶 ¥1263/瓶	1～2～(4)g分2～4静注, 点静 <小児>60～80～(150)mg/kg/日分3～4静注, 点静 <未熟児, 新生児> 生後3日まで40～60～(150)mg/kg/日 分2～3～(4)静注, 点静 生後4日以降60～80～(150)mg/kg/日 分3～4静注, 点静	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 尿道炎, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合組織炎, 中耳炎, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, レイコバクテリウム属, 肺炎球菌, 淋菌, モラクセラ(ブランチア)・カタールリス, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロピデンス菌属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロデス属, プレオテラ属(プレオテラ・ビビアを除く)
■セフェム系 第3世代					
クラフォラン ＜セフォタキシム＞ 略名：CTX (サノイ)		500mg/瓶 ¥510/瓶	1～2g, 分2静注または筋注 【Max: 4g, 分2～4】 <小児> 50～100mg/kg/日, 分3～4静注 【Max: 150mg/kg】 化膿性髄膜炎300mg/kg/日	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合組織炎, 化膿性髄膜炎	レイコバクテリウム属, 肺炎球菌, 大腸菌, シロヘクター属, クレブシエラ属, エテロヘクター属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロピデンス菌属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロデス属
		1g/瓶 ¥745/瓶			

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
セフカペンピボキシル ＜セフカペンピボキシル＞ 略名：CFPN-PI （東和薬品）	細粒(100mg/g) ¥107.3/g		300mg, 分3【Max:150mg/回】 ＜小児＞9mg/kg/日, 分3	＜成人＞表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 尿道炎, 子宮頸管炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎 ＜小児＞表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 猩紅熱	＜成人＞ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, 淋菌, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く), アキネ菌 ＜小児＞ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く), アキネ菌
	100mg/錠 ¥31.3/錠			表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 尿道炎, 子宮頸管炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, 淋菌, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く), アキネ菌
セフジトレンピボキシル ＜セフジトレンピボキシル＞ 略名：CDTR-PI （東和薬品）	MS細粒(100mg/g) ¥110.4/g		＜成人＞1回100～200mg, 1日3回 ＜小児＞肺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎:1回3～6mg/kg, 1日3回 その他の疾患:1回3mg/kg, 1日3回【Max:600mg/日】	＜成人＞表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 眼瞼膿瘍, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎 ＜小児＞表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 歯周組織炎, 顎炎, 猩紅熱, 百日咳	＜成人＞ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレボテラ属, アキネ菌 ＜小児＞ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, 百日咳菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレボテラ属, アキネ菌
	100mg/錠 ¥35.3/錠		300～(600)mg, 分3 ＜小児＞9mg/kg/日, 分3	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 眼瞼膿瘍, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレボテラ属, アキネ菌
セフジニル ＜セフジニル＞ 略名：CFDN （沢井製薬）	細粒(100mg/g) ¥64.7/g		300mg, 分3 ＜小児＞9～18mg/kg/日, 分3	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 猩紅熱	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌属, モラクセラ(ブランチマ)・カタールリス, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス属, ミラビリス, インフルエンザ菌

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
セフトジジム ＜セフトジジム＞ 略名：CAZ (マイラン)		0.5g/瓶 ¥375/瓶	1～2～(4)g、分2～4静注、点静 ＜小児＞40～100～(150)mg/kg/日 分2～4静注、点静	敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シロバクテラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンス属、インフルエンザ菌、シュートモナス属、緑膿菌、バーキッリア・セパシア、ステノトロモナス(ザントモナス)・マルティリヤ、アシネバクテラ属、ヘブトストレプトコッカス属、ハクトロイテス属、フレボテラ属(フレボテラ・ヒビアを除く)
		1g/瓶 ¥431/瓶			
セフトリアキソンNa ＜セフトリアキソン＞ 略名：CTRX (日医工)		0.5g/瓶 ¥188/瓶	1～2g、分1～2静注、点静【Max:4g】 ＜小児＞20～60mg/kg/日、分1～2静注、点静【Max:120mg/kg】 ＜未熟児・新生児＞ 0～3日齢：1回20mg/kg、1日1回 4日齢以降：1回20mg/kg、1日2回静注又は点静 【Max:1回40mg/kg1日2回、生後2週間以内は1日50mg/kgまで】	敗血症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、精巣上体炎(副辜丸炎)、尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患、直腸炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、シロバクテラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンス属、インフルエンザ菌、ヘブトストレプトコッカス属、ハクトロイテス属、フレボテラ属(フレボテラ・ヒビアを除く)
		1g/瓶 ¥289/瓶			
セフボドキシムプロキセチル ＜セフボドキシムプロキセチル＞ 略名：CPDX-PR (東和薬品)	100mg/錠 ¥39/錠		200～400mg分2	表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、バルトリン腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ(ブランチマ)・カテリス、大腸菌、シロバクテラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテラ属、プロテウス属、プロビデンス属、インフルエンザ菌、ヘブトストレプトコッカス属
ワイスタール ＜セフォペラゾン／スルバクタム＞ 略名：CPZ/SBT (ニプロファーマ)		1g/瓶 ¥331/瓶	1～2～(4)g、分2静注、点静 ＜小児＞40～80～(160)mg/kg/日 分2～4静注、点静	敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎	ブドウ球菌属、大腸菌、シロバクテラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンス属・レットゲリ、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネバクテラ属、ハクトロイテス属、フレボテラ属

■セフェム系 第4世代

ファーストシン ＜セフォゾプラン＞ 略名：CZOP (武田)		1g/瓶 ¥1332/瓶	1～2～(4)g、分2～4静注、点静 ＜小児＞40～80～(160)mg/kg/日、分3～4点静 髄膜炎200mg/Kg/日、 【Max:4g/日】	敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む)、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼窩感染、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、眼内炎(全眼球炎を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランチマ)・カテリス、大腸菌、シロバクテラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンス属、インフルエンザ菌、シュートモナス属、緑膿菌、バーキッリア・セパシア、ステノトロモナス(ザントモナス)・マルティリヤ、アシネバクテラ属、ヘブトストレプトコッカス属、ハクトロイテス属、フレボテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
マキシピーム ＜セフェピム＞ 略名：CFPM (ブリストル)		1g/瓶 ¥804/瓶	1～2～(4)g, 分2静注, 点静 発熱性好中球減少症: 4g分2静注, 点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む), 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 子宮内感染, 子宮旁結合織炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 発熱性好中球減少症	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロレンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリヤ・セパシア, ステノトロモナス(ザントモナス)・マルティリヤ, アシトバクテラ属, ペプトストレプトコッカス属, バクテロイデス属, プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く)
■カルバペネム系					
カルベニン ＜パニペネム＞ 略名：PAPM/BP (第一三共)		0.25g/瓶 ¥982/瓶 0.5g/瓶 ¥1421/瓶	1～(2)g, 分2点静 ＜小児＞30～60～(100)mg/kg/日, 分3～4点静 【Max: 2g/日】	敗血症, 感染性心内膜炎, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, ハルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎, 眼窩感染, 眼内炎(全眼球炎を含む), 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロレンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリヤ・セパシア, ペプトストレプトコッカス属, バクテロイデス属, プレボテラ属
チエナム ＜イミペネム＞ 略名：IPM/CS (MSD)		0.5g/瓶 ¥1347/瓶	0.5～1～(2)g, 分2～3点静 ＜小児＞30～80～(100)mg/kg/日, 分3～4点静	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髄炎, 関節炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, ハルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 角膜炎(角膜潰瘍を含む), 眼内炎(全眼球炎を含む)	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロレンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリヤ・セパシア, アシトバクテラ属, ペプトストレプトコッカス属, バクテロイデス属, プレボテラ属
フィニバックス ＜ドリペネム＞ 略名：DRPM (オノキ)		0.25g/瓶 ¥1165/瓶 0.5g/瓶 ¥1625/瓶	1回0.25g, 1日2～3回点静 重症・難治性感染症: 1回0.5～1.0g, 1日3回点静 【Max: 1g/回, 3.0g/日】 ＜小児＞1回20mg/kg, 1日3回点静 重症・難治性感染症: 1回40mg/kg, 1日3回点静 【Max: 1g/回, 3.0g/日】	敗血症, 感染性心内膜炎, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髄炎, 関節炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む), 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎, 眼窩感染, 角膜炎(角膜潰瘍を含む), 眼内炎(全眼球炎を含む), 中耳炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属(エンテロコッカス・フェシウムを除く), モラクセラ(ブランチエラ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, フロレンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, アシトバクテラ属, ペプトストレプトコッカス属, バクテロイデス属, プレボテラ属
メロペネム ＜メロペネム＞ 略名：MEPM (ファイザー)		0.5g/瓶 ¥685/瓶	①1日0.5～1g, 分2～3回点静 【Max: 1回1g, 1日3g(重症・難治性感染症)】 ＜小児＞1日30～60mg/kg, 分3点静 【Max: 1日120mg/kgまたは1日3g(重症・難治性感染症)】 ②1日3g, 分3点静 ＜小児＞1日120mg/kg, 分3点静 【Max: 1日3g】	①敗血症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む), 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎, 眼内炎(全眼球炎を含む), 中耳炎, 副鼻腔炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎 ②発熱性好中球減少症	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 髄膜炎菌, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, プロテウス属, フロレンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリヤ・セパシア, バクテロイデス属, プレボテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■アミノグリコシド系					
カナマイシン ＜カナマイシン＞ 略名：KM (明治)	250mg/C ¥39.3/C		2～4g, 分4 ＜小児＞50～100mg/kg/日, 分4	感染性腸炎	大腸菌, 赤痢菌, 腸炎ビブリオ
ゲンタシン ＜ゲンタマイシン＞ 略名：GM (MSD)		10mg(1mL)/管 ¥114/管	3mg/kg/日, 分3, 筋注または点静 【Max: 5mg/kg/日, 分3～4】 ＜小児＞1回2.0～2.5mg/kg, 1日2～3回, 筋注または点静	敗血症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 中耳炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, クレブシエラ属, エンテロバクター属, セラチン属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア属, 緑膿菌
		60mg(1.5mL)/管 ¥301/管			
トブラシン ＜トブラマイシン＞ 略名：TOB (ジェイトル)		60mg(1.5mL)/管 ¥413/管	120～180mg, 分2～3筋注, 点静 ＜小児＞3mg/kg/日, 分2～3筋注, 点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎	大腸菌, クレブシエラ属, エンテロバクター属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア属, 緑膿菌
ハベカシン ＜アルベカシン＞ 略名：ABK (明治)		100mg(2mL)/管 ¥4543/管	150～200mg, 分1(分2も可)点静, 筋注 ＜小児＞4～6mg/kg/日, 分1(分2も可)点静	敗血症, 肺炎	メチリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)
硫酸アミカシン ＜アミカシン＞ 略名：AMK (日医工)		100mg(1mL)/管 ¥341/管	100～400mg, 分1～2筋注, 点静 ＜小児＞4～8mg/kg/日, 分1～2筋注, 点静	敗血症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎	大腸菌, シロバクター属, クレブシエラ属, エンテロバクター属, セラチン属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア属, 緑膿菌
■ニューキノロン系					
アベロックス ＜モキシフロキサシン＞ 略名：MFLX (富士フイルムファーマ)	400mg/錠 ¥500.2/錠		400mg, 分1	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールリス, 大腸菌, クレブシエラ属, エンテロバクター属, プロテウス属, インフルエンザ菌, レジオネラ・ニューモフィラ, アクネ菌, 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
オゼックス小児用 ＜トスフロキサシン＞ 略名：TFLX (大正富山)	150mg/g ¥486.5/g		＜小児＞6mg/kg/回, 分2 【Max: 1回180mg, 1日360mg, 分2】	肺炎, コレラ, 中耳炎, 炭疽	肺炎球菌(ペニシリン耐性肺炎球菌を含む), モラクセラ(ブランチエラ)・カタールリス, 炭疽菌, コレラ菌, インフルエンザ菌(βラクタム耐性インフルエンザ菌を含む), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
クラビット ＜レボフロキサシン＞ 略名：LVFX (第一三共)		500mg (100mL) /袋 ¥5417/袋	500mg, 分1点静	外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 腸チフス, パラチフス, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 炭疽, プルチラ症, ペスト, 野兔病, Q熱	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールシ, 炭疽菌, 大腸菌, チフス菌, パラチフス菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロチウス属, モルガネラ・モルガニ, プロテジテンシア属, ペスト菌, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシネバクテラ属, レジオネラ属, プルチラ属, 野兔病菌, ペプトストレプトコッカス属, プレボテラ属, Q熱リケッチア(コクシエラ・プルチイ), トロコマクラミジア(クラミジア・トロコマティス), 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
グレースビット ＜シタフロキサシン水和物＞ 略名：STFX (第一三共)	50mg/錠 ¥232.6/錠		100mg分1～2 200mg分1	咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副鼻腔炎, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 尿道炎, 子宮頸管炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールシ, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロチウス属, モルガネラ・モルガニ, インフルエンザ菌, 緑膿菌, レジオネラ・ニューモフィラ, ペプトストレプトコッカス属, プレボテラ属, ホルフィロモナス属, フソバクテリウム属, トロコマクラミジア(クラミジア・トロコマティス), 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
ジェニナック ＜ガレノキサシン＞ 略名：GRNX (アステラス)	200mg/錠 ¥224.7/錠		400mg分1	咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌(ペニシリン耐性肺炎球菌を含む), モラクセラ(ブランチエラ)・カタールシ, 大腸菌, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, インフルエンザ菌, レジオネラ・ニューモフィラ, 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
シプロキサン ＜シプロフロキサシン＞ 略名：CPFX (パイエル)	200mg/錠 【院外のみ】 ¥85.2/錠		200～600mg, 分2～3 炭疽：800mg, 分2	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 感染性腸炎, バルトリ腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 炭疽	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロチウス属, モルガネラ・モルガニ, プロテジテンシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシネバクテラ属, レジオネラ属, ペプトストレプトコッカス属
パシル ＜パズフロキサシン＞ 略名：PZFX (大正富山)		500mg (100mL) /袋 ¥1891/袋	600～1000mg分2点静 敗血症, 肺炎球菌による肺炎, 重症・難治性の呼吸器感染症(肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染に限る): 2000mg分2	敗血症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, 子宮付属器炎, 子宮旁結合組織炎	パズフロキサシンに感性的なブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(ブランチエラ)・カタールシ, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロチウス属, モルガネラ・モルガニ, プロテジテンシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシネバクテラ属, レジオネラ属, バクテロイデス属, プレボテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
レボフロキサシン ＜レボフロキサシン＞ 略名：LVFX (第一三共)	500mg/錠 ¥169.9/錠		500mg, 分1 腸チフス・パルチフス: 500mg, 分1 14日間	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, さ瘡(化膿性炎症を伴うもの), 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症・慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 子宮頸管炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 感染性腸炎, 腸チフス, パルチフス, コレラ, バルトルン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎, 炭疽, プルラ症, ペスト, 野兔病, 肺結核及びその他の結核症, Q熱	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, モラクセラ(ブランチ)・カタリス, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, サルモネラ属, チフス菌, パルチフス菌, シロヘクター属, クレブシエラ属, エンテロヘクター属, セラチ菌, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロビデンス属, ペスト菌, コレラ菌, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシネバクター属, レジオネラ属, プルラ菌, 野兔病菌, カンピロバクター属, ヘリコバクター属, アクター菌, Q熱リケッチア(コクシエラ・ブルネティ), トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

■ホスホマイシン系

ホスミシンS ＜ホスホマイシン＞ 略名：FOM (明治)		0.5g/瓶 ¥355/瓶	2～4g, 分2静注, 点静 ＜小児＞100～200mg/kg/日, 分2～4静注, 点静	敗血症, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, バルトルン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合組織炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, セラチ菌, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロビデンス属・レクテリ, 緑膿菌
		2g/瓶 ¥847/瓶			
ホスミシン ＜ホスホマイシン＞ 略名：FOM (明治)	500mg/錠 ¥62.9/錠		2～3g, 分3～4 ＜小児＞40～120mg/kg/日, 分3～4	深在性皮膚感染症, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 感染性腸炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, 赤痢菌, サルモネラ属, セラチ菌, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロビデンス属・レクテリ, 緑膿菌, カンピロバクター属
	D S (400mg/g) ¥84.6/g				

■マクロライド系

エリスロシン ＜エリスロマイシン＞ 略名：EM (マイランEPD)	D S W (200mg/g) ¥22.5/g		800～1200mg, 分4～6 ＜小児＞25～50mg/kg/日, 分4～6	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷および手術創等の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 梅毒, 子宮内感染, 中耳炎, 猩紅熱, シンジチ, 百日咳	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 淋菌, 髄膜炎菌, シンジチ菌, 百日咳菌, 梅毒トレポネーマ, トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), マイコプラズマ属
	100mg/錠 ¥8.5/錠			表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 乳腺炎, 骨髄炎, 扁桃炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 軟性下疳, 梅毒, 子宮内感染, 中耳炎, 歯冠周囲炎, 猩紅熱, シンジチ, 百日咳, 破傷風	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 淋菌, 髄膜炎菌, シンジチ菌, 軟性下疳菌, 百日咳菌, 破傷風菌, 梅毒トレポネーマ, トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), マイコプラズマ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
クラリスロマイシン ＜クラリスロマイシン＞ 略名：CAM (Meiji Seikaファルマ)	小児用50mg/ 錠 ¥29.2/錠		＜小児＞ ①10～15mg/kg/日、分2～3 レゾリス菌：15mg/kg/日、分2～3 ②15mg/kg/日、分2	①一般感染症(表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷および手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、百日咳) ②後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレクス(MAC)症	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、インフルエンザ菌、レジオネラ菌、百日咳菌、カンピロバクター属、クラミジア属、マイコプラズマ属、MAC
	200mg/錠 ¥43/錠		①400mg、分2 ②800mg、分2 ③400mg、分2【Max:800mg、分2】	①一般感染症(表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷および手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、尿道炎、子宮頸管炎、感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎) ②MACを含む非結核性抗酸菌症 ③ヘルペスウイルス感染症【D-2参照】	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、インフルエンザ菌、レジオネラ属、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属、クラミジア属、マイコプラズマ属、マイコバクテリウム属、マイコバクテリウム属、ヘリコバクター・ヒロリ
クラリスロマイシン ＜クラリスロマイシン＞ 略名：CAM (東和薬品)	DS(100mg/ g) ¥51.9/g		＜小児＞ ①10～15mg/kg/日、分2～3 レゾリス菌：15mg/kg/日、分2～3 ②15mg/kg/日、分2	①一般感染症(表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷および手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、百日咳) ②後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレクス(MAC)症	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、インフルエンザ菌、レジオネラ菌、百日咳菌、カンピロバクター属、クラミジア属、マイコプラズマ属、MAC
ジスロマック ＜アジスロマイシン＞ 略名：AZM (ファイザー)		500mg/瓶 ¥2535/瓶	1日1回500mg、点静	肺炎、骨盤内炎症性疾患	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、インフルエンザ菌、レジオネラ・ニューモフィラ、ペプトストレプトコッカス属、プロテオバクテリウム属、クラミジア属、マイコプラズマ属
	250mg/錠 ¥246.2/錠		①1日1回500mg、3日間 ②1000mg1回 ③注射剤による治療後、1日1回250mg	①深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 ②尿道炎、子宮頸管炎 ③骨盤内炎症性疾患	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、インフルエンザ菌、レジオネラ・ニューモフィラ、ペプトストレプトコッカス属、プロテオバクテリウム属、クラミジア属、マイコプラズマ属、淋菌
ジスロマックSR ＜アジスロマイシン＞ 略名：AZM (ファイザー)	ドライシロップ(2g/ 瓶) ¥2055.7		2g分1空腹時 1回、用時懸濁	深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、尿道炎、子宮頸管炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、クラミジア属、マイコプラズマ属
ルリッド ＜ロキシスロマイシン＞ 略名：RXM (サノフィ)	150mg/錠 ¥63.2/錠		300mg、分2	表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス、アクチ菌、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■リンコマイシン系					
ダラシンS ＜クリンダマイシン＞ 略名：CLDM (ファイザー)		300mg (2mL) / 管 ¥393/管	600～1200～ (2400)mg, 分2～4点静 ＜小児＞15～25～ (40)mg/kg/日, 分3～ 4点静	敗血症, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副 鼻腔炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	ブドウ球菌属, リン球菌属, 肺炎球菌, ペプト ストربتコッカ属, バクテロイデス属, フレブテラ属, マ イコラスマ属
		600mg (4mL) / 管 ¥571/管			
■グリシルサイクリン系					
タイガシル ＜チゲサイクリン＞ (ファイザー)		50mg/瓶 ¥12536/瓶	初回100mg 以後12時間毎に1回50mg点静	深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及 び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感 染, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎	大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテ ラ属, アシネバクテラ属 (他の抗菌薬に耐性を示した菌株に限る)
■テトラサイクリン系					
ミノサイクリン塩酸塩 錠 ＜ミノサイクリン＞ 略名：MINO (東和薬品)	50mg/錠 ¥14.80/錠		初回100～200mg, 以後100mg, 分1～2 ＜小児＞2～4mg/kg/日, 分1～2	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節 炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳 腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感 染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上 体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 淋菌感染症, 梅毒, 腹膜炎, 感染 性腸炎, 外陰炎, 細菌性膣炎, 子宮内感染, 涙のう炎, 麦粒 腫, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 歯周組織 炎, 歯冠周囲炎, 上顎洞炎, 顎炎, 炭疽, つつが虫病, オム病	ブドウ球菌属, リン球菌属, 肺炎球菌, 腸球 菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, シロバ クテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, プロテウス 属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア属, 緑膿 菌, 梅毒トレポネマ, リケッチア属(オリエンチア・ツツガム シ), クラミジア属, 肺炎マイコラスマ(マイコラスマ・ ニューモニエ)
ミノサイクリン ＜ミノサイクリン＞ 略名：MINO (日医工)		100mg/瓶 ¥139/瓶	初回100～200mg 以後100mg, 分1～2点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 扁桃 炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二 次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 炭疽, つつ が虫病, オム病	黄色ブドウ球菌, リン球菌属, 肺炎球菌, 腸 球菌属, モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルト菌), 炭疽菌, 大腸菌, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, インフルエンザ菌, シュドモリス・フロレッセン, 緑膿菌, バーケルデリア・セパシア, ステノトモナス(サントモナス)・ マルトフィリア, アシネバクテラ属, フラバ・バクテリウム属, レ ジオネラ・ニューモフィラ, リケッチア属(オリエンチア・ツツガム シ), クラミジア属, 肺炎マイコラスマ(マイコラスマ・ ニューモニエ)
ミノマイシン ＜ミノサイクリン＞ 略名：MINO (ファイザー)	100mg/錠 【院外のみ】 ¥50.1/錠		初回100～200mg, 以後100mg, 分1～2 ＜小児＞2～4mg/kg/日, 分1～2	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節 炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳 腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感 染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上 体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 淋菌感染症, 梅毒, 腹膜炎, 感染 性腸炎, 外陰炎, 細菌性膣炎, 子宮内感染, 涙のう炎, 麦粒 腫, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 歯周組織 炎, 歯冠周囲炎, 上顎洞炎, 顎炎, 炭疽, つつが虫病, オム病	ブドウ球菌属, リン球菌属, 肺炎球菌, 腸球 菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, シロバ クテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, プロテウス 属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア属, 緑膿 菌, 梅毒トレポネマ, リケッチア属(オリエンチア・ツツガム シ), クラミジア属, 肺炎マイコラスマ(マイコラスマ・ ニューモニエ)

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
レダマイシン ＜デメチルクロルテトラサイクリン＞ 略名：DMCTC (※-ラファルマ)	150mg/C ¥18.9/C		450～600mg, 分2～4	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 乳腺炎, 骨髓炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 軟性下疳, 性病性(鼠径)リンパ肉芽腫, 子宮内感染, 涙のう炎, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 猩紅熱, 炭疽, 百日咳, 野兔病, ガス壊疽, ワイル病, 発疹チフス, 発疹熱, つつが虫病	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア属, インフルエンザ菌, 軟性下疳菌, 百日咳菌, 野兔病菌, ガス壊疽菌群, ワイル病レプトスピラ, リケッチア属, クラミジア属, 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

■サルファ剤

バクタ ＜スルファメトキサゾール, トリメトプリム＞ 略名：ST (オノキ)	顆粒(1g/包) ¥77.4/包		①4錠(g), 分2 ②＜治療＞9～12錠(g), 分3～4 小児：(トリメトプリムとして)15～20mg/kg/日, 分3～4 ＜発症抑制＞1日1回1～2錠(g), 連日又は週3日 小児：(トリメトプリムとして)4～8mg/kg/日, 分2, 連日又は週3日	①一般感染症(肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 感染性腸炎, 腸チフス, パラチフス) ②ニューモシス肺炎の治療及び発症抑制	腸球菌属, 大腸菌, 赤痢菌, チフス菌, パラチフス菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, フロビデンシア・レトリ, インフルエンザ菌, ニューモシス・イロハチ
	錠 ¥67.9/錠				
バクトラミン ＜スルファメトキサゾール, トリメトプリム＞ 略名：ST (中外)		スルファメトキサゾール 400mg, トリメトプリム 80mg/5mL/管 ¥530/管	トリメトプリムとして15～20mg/kg/日, 分3, 1管あたり125mLに溶解し, 1～2hrかけて点静	カリニ肺炎	ニューモシス・カリニ

■抗結核薬

イスコチン ＜イソニアジド＞ 略名：INH (第一三共)	100mg/錠 ¥9.6/錠		200～500mg (4～10mg/kg), 分1～3 【Max: 成人1g, 13才未満20mg/kg】	肺結核およびその他の結核症	結核菌
エサンブトール ＜エサンブトール＞ 略名：EB (サト)	250mg/錠 ¥18.6/錠		①750～1000mg, 分1～2 ②500～750mg, 分1 【Max: 1000mg】	①肺結核およびその他の結核症 ②マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症	マイコバクテリウム属
ストレプトマイシン ＜ストレプトマイシン＞ 略名：SM (明治)		1g/瓶 ¥389/瓶	①＜他の抗結核薬と併用＞ 1日1g筋注, 週2～3回, あるいははじめの1～3ヵ月は毎日, その後週2回 ②1日0.75～1g筋注, 週2～3回 ③1日1～2g, 分1～2, 筋注	①肺結核及びその他の結核症 ②マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症 ③感染性心内膜炎(ヘンリッセル・ニシリン又はアンビシリンと併用の場合に限る), ペスト, 野兔病, ワイル病	マイコバクテリウム属, 結核菌, ペスト菌, 野兔病菌, ワイル病レプトスピラ

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ピラマイド ＜ピラジナミド＞ 略名：PZA (第一三共)	原末 ¥30.1		1.5～2.0g/日、分1～3 他の抗結核薬と併用すること	肺結核およびその他の結核症	結核菌
リファジン ＜リファンピシン＞ 略名：RFP (第一三共)	150mg/C ¥28.7/C		①450mg、分1 ②450mg、分1【Max:600mg/日】 ③600mg/回、1～2回/月または450mg/回、分1連日	①肺結核およびその他の結核症 ②マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症 ③ハンセン病	マイコバクテリウム属

■抗真菌薬

アネメトロ ＜メトロニダゾール＞ (ファイザー)		500mg/瓶 ¥1252/瓶	1回500mg1日3回点静 難治性又は重症感染症:1回500mg1日4回	①嫌気性感染症(敗血症、深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、骨盤内炎症性疾患、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、肝膿瘍、化膿性髄膜炎、脳膿瘍) ②感染性腸炎 ③アトピー性赤痢	①ヘパトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、フレネラ属、ホフフィウチス属、フゾバクテリウム属、クロストリジウム属、ユーバクテリウム属 ②クロストリジウム・デフィシル
アムピゾーム ＜アムホテリシンBリボゾーム＞ (大日本住友)		50mg/瓶 ¥9811/瓶	①2.5mg/kg、分1点静、1～2時間以上かけて 【Max:5mg/kg、クリプトコッカス髄膜炎は6mg/kg】 ②2.5mg/kg、分1点静、1～2時間以上かけて ③免疫能正常:2.5mg/kg、分1点静、1～2時間以上かけて、投与1～5日目連日・14・21日目 免疫不全:4mg/kg、分1点静、1～2時間以上かけて、投与1～5日目連日・10・17・24・31・38日目	①真菌血症、呼吸器真菌症、真菌髄膜炎、播種性真菌症 ②真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ③リシュマニア症	アスペルギルス、カンジダ、クリプトコッカス、ムコール、アブシジア、リゾプス、リゾムコール、クラトスクリウム、クラトヒアロホーラ、ホセカエア、ヒアロホーラ、イクソフィアラ、コグシオイテス、ヒストプラズマ、プラストミセス
イトリゾール ＜イトラコナゾール＞ 略名：ITGZ (ヤンセンファーマ)	50mg/C ¥354.2/C		50～200mg、分1 爪白癬パルス療法:400mg、分2×7日、3週休業(3サイクル)	真菌血症、呼吸器真菌症、消化器真菌症、尿路真菌症、真菌髄膜炎、スポトリコシス、カモコシス、白癬、カンジダ症、癩風、マラセフィア毛包炎、爪白癬	皮膚糸状菌(トリコフィトン属、ミクロスポルム属、エピデルモフィトン属)、カンジダ属、マラセフィア属、アスペルギルス属、クリプトコッカス属、スポトリコックス属、ホセカエラ属
	10mg/mL ¥108.8		①④200mg(20mL)分1、空腹時 【Max:400mg(40mL)分2】 ②200mg(20mL)分1、空腹時 ③＜イトラコナゾール注射液から切り替え＞ 200mg(20mL)分1、空腹時 【Max:400mg(40mL)分2】	①真菌感染症(真菌血症、呼吸器・消化管・尿路真菌症、真菌髄膜炎、プラストミセス属、ヒストプラズマ属) ②口腔咽頭カンジダ、食道カンジダ ③真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ④好中球減少が予測される血液悪性腫瘍又は造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	アスペルギルス属、カンジダ属、クリプトコッカス属、プラストミセス属、ヒストプラズマ属
ハリゾン ＜アムホテリシンB＞ 略名：AMPH (富士製薬工業)	S Y (100mg/mL, 24mL/瓶) ¥53.6/mL		100mg/回を1日2～4回 ＜小児＞50～100mg/回	消化管におけるカンジダ異常増殖	カンジダ

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ファンガード ＜ミカファンギン＞ 略名：MCFG (アステラス)		50mg/瓶 ¥6711/瓶	①アスペルギルス症：50～150mg分1静注 【Max：300mg】 カンジダ症：50mg分1静注 【Max：300mg】 ②50mg分1静注，小児：1mg/kg	①真菌血症，呼吸器真菌症，消化管真菌症 ②造血幹細胞移植患者におけるアスペルギルス症及びカンジダ症の予防	アスペルギルス属，カンジダ属
ブイフェンド ＜ポリコナゾール＞ 略名：VRCZ (ファイザー)	50mg/錠 ¥1139.2/錠		＜成人（体重40kg以上）＞ 初日：600mg，分2，食間 【Max800mg】 以降：300～400mg，分2，食間 【Max：600mg】 ＜成人（体重40kg未満）＞ 初日：300mg，分2，食間 以降：200mg，分2，食間 【Max：300mg】 ＜小児（2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満）＞ ブイフェント注による治療後 18mg/kg，分2，食間 効果・忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ増減 【Max：700mg】 ＜小児（12歳以上で体重50kg以上）＞ ブイフェント注による治療後 400mg，分2，食間 【Max：600mg】	①重症又は難治性真菌感染症 ②造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	アスペルギルス属，カンジダ属，クリプトコックス属，フザリウム属，スケトスポリウム属
		200mg/瓶 ¥11987/瓶	＜成人＞ 初日：12mg/kg，分2点静 以後：6～8mg/kg，分2点静 ＜小児（2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満）＞ 初日：18mg/kg，分2点静 以後：16mg/kg，分2点静 効果・忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ増減 ＜小児（12歳以上で体重50kg以上）＞ 初日：12mg/kg，分2点静 以後：8mg/kg，分2点静		

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ボリコナゾール ＜ボリコナゾール＞ 略名：VRCZ （第一三共）	50mg/錠 ¥481.6/錠		＜成人（体重40kg以上）＞ 初日：600mg, 分2, 食間 【Max:800mg】 以降：300～400mg, 分2, 食間 【Max:600mg】 ＜成人（体重40kg未満）＞ 初日：300mg, 分2, 食間 以降：200mg, 分2, 食間 【Max:300mg】	重症又は難治性真菌感染症	アスペルギルス属, カンジダ属, クリプトコッカス属, フサリウム属, ステノスポリウム属
フラジール ＜メトロニダゾール＞ （オノキ）	250mg/錠 ¥35.5/錠		①1回250mg1日2回, 10日間 ②1回500mg1日3～4回 ③1回250mg1日4回または 1回500mg1日3回, 10～14日間 ④1回250mg1日3回または 1回500mg1日2回, 7日間 ⑤1回フラジール:250mg, サリシン:750mg プロトンポンプ阻害剤の3剤を1日2回, 7日間 ⑥1回500mg1日3回, 10日間 ⑦1回250mg1日3回, 5～7日間	①トリコモナス症（腔トリコモナスによる感染症） ②嫌気性菌感染症（真性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髓炎, 肺炎, 肺膿瘍, 骨盤内炎症性疾患, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 肝膿瘍, 脳膿瘍） ③感染性腸炎 ④細菌性陰症 ⑤胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒドリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒドリ感染症 ⑥アトピー性皮膚炎 ⑦ランブル鞭毛虫感染症	①腔トリコモナス ②ヘブトストレプトコッカス属, ハクトロイデス属, プレボテラ属, ホルフィロチス属, フソバクテリウム属, クロストリジウム属, ユーバクテリウム属 ③クロストリジウム・デフィシル ④ヘブトストレプトコッカス属, ハクトロイデス・フラシリス, プレボテラ・ヒドリア, モニルカス属, ガートネラ・ハジナリス ⑤ヘルピクター・ヒドリ
フルコナゾール ＜フルコナゾール＞ 略名：FCZ （沢井）	100mg/C ¥328.6/C		①カンジダ：50～100mg, 分1 ＜小児＞3mg/kg, 分1 クリプトコッカス：50～200mg分1 ＜小児＞3～6mg/kg, 分1 ＜新生児の投与間隔＞ 生後14日まで：72時間毎 生後15日以降：48時間毎 【Max:400mg, 小児：12mg/kg】 ②400mg, 分1 ＜小児＞12mg/kg, 分1 【Max:400mg】	①真菌血症, 呼吸器真菌症, 消化管真菌症, 尿路真菌症, 真菌髄膜炎 ②造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	カンジダ属, クリプトコッカス属
プロジフ ＜ホスフルコナゾール＞ 略名：FCZ （ファイザー）		100mg (1.25mL)/瓶 ¥5405/瓶	50～400～(800)mg, 分1静注	真菌血症, 呼吸器真菌症, 真菌腹膜炎, 消化管真菌症, 尿路真菌症, 真菌髄膜炎	カンジダ属, クリプトコッカス属
		200mg (2.5mL)/瓶 ¥10063/瓶			
		400mg (5mL)/瓶 ¥18958/瓶			

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
フロリード ＜ミコナゾール＞ 略名：MCZ (持田)	2%カ ^ル 経口用 (5g/1本) ¥482		200～400mg, 分4	口腔カンジ ^ダ 症, 食道カンジ ^ダ 症	カンジ ^ダ
ラミシール ＜テルビナフィン＞ (ハ ^ル ルティス)	125mg/錠 【院外のみ】 ¥184. 2/錠		125mg, 分1	白癬性肉芽腫, ス ^テ ロイド ^ス 、加モコ ^ス 、白癬, カ ンジ ^ダ 症	皮膚糸状菌(トリコフィトン属, ミクロスポ ^ル ム属, エ ^ピ デルモフィトン属), カンジ ^ダ 属, ス ^テ ロトリックス属, ホ ^セ カ ^エ 7属

■抗ウイルス薬

アシクロビン ＜アシクロビル＞ 略名：ACV (日本ケミファ)		250mg (10mL) / 管 ¥600/管	①髄膜炎, 脳炎, 15mg/kg, 分3点静 【Max: 30mg/kg】 その他15mg/kg, 分3点静, 7日間 ＜小児＞15mg/kg, 分3点静 【Max: 60mg/kg】 ②30mg/kg, 分3点静, 10日間 【Max: 60mg/kg】	①免疫機能の低下した患者(悪性腫瘍・自己免 疫疾患など)に発症した単純疱疹・水痘・帯状 疱疹, 脳炎・髄膜炎 ②新生児単純ヘル ^ペ スウイルス感染症	単純ヘル ^ペ スウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス
シナジス ＜パリビズマブ＞ (ア ^ボ ット ^ジ ヤ ^パ ン)		50mg/瓶 ¥79014/瓶 100mg/瓶 ¥156417/瓶	RSウイルス感染 15mg/kg, 月1回, 筋注	RSウイルス(Respiratory Syncytial Virus)感染 による重篤な下気道疾患の発症抑制【DI照会 参照】	RSウイルス(Respiratory Syncytial Virus)
ゾビラックス ＜アシクロビル＞ 略名：ACV (ゲ ^ラ ク ^シ ・スミスクライン)	200mg/錠 ¥221. 8/錠		骨髄移植後の単純疱疹の発症抑制: 1 000mg, 分5 帯状疱疹: 4000mg, 分5	単純疱疹, 骨髄移植における単純ヘル ^ペ スウイルス感 染症(単純疱疹)の発症抑制, 帯状疱疹	単純ヘル ^ペ スウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
バラシクロビル <バラシクロビル> 略名：VACV (日医工)	顆粒(500mg/ g) ¥240.6/g		①1000mg,分2 5日間(初発型性器ヘルペスは最長10日間) ②3000mg,分3 7日間 ③500mg,分1 (HIV感染症の成人：1000mg,分2) ④小児：75mg/kg,分3, 5日間 【Max：3000mg/日】 成人：3000mg,分3 5～7日間 ⑤1000mg,分2 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ヘルペスの再発抑制 ④水痘 ⑤造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制	単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス
	500mg/錠 ¥188.8/錠		①1000mg,分2 5日間(最長10日間) ②3000mg,分3 7日間 ③500mg,分1 (HIV感染症の成人：1000mg,分2) ④3000mg,分3 成人：5～7日間,小児：5日間 ⑤1000mg,分2 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ヘルペスの再発抑制 ④水痘(成人と体重40kg以上の小児) ⑤造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制	
ファムビル <ファムシクロビル> 略名：FCV (マル林)	250mg/錠 ¥489.9/錠		単純疱疹：750mg,分3 帯状疱疹：1500mg,分3	単純疱疹, 帯状疱疹	単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス

■抗HIV薬

アイセントレス <ラルテグラビルカリウム> 略名：RAL (MSD)	400mg/錠 ¥1,553.60/錠		2錠,分2	HIV感染症	
ツルバダ <配合剤：エムトリシタビン200mg, フマル酸テノホビルジソプロキシル300mg> 略名：FTC/TFV (鳥居)	錠 ¥3863.6/錠		1錠,分1	HIV感染症	

2. 感染症治療薬（外用）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鼻腔内MRSA除菌剤				
バクトロバン鼻腔用 ＜ムピロシン＞ (ゲラケイ・スミスクライン)		軟膏(3g/本) ¥1688.7/本	鼻腔内のMRSAの除菌	1日3回鼻腔内塗布

3. インフルエンザウイルス用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗インフルエンザウイルス剤				
イナビル ＜ラニナミビル＞ (第一三共)		(20mg/キット) ¥2139.9/キット	①A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の治療 ②A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①10歳以上:2キット/回 10歳未満:1キット/回 ②10歳以上:2キット/回単回投与または1キット/回, 2日間 10歳未満:1キット/回
シンメトレル ＜アマンタジン＞ (田辺三菱製薬)	50mg/錠 ¥25.8/錠		A型インフルエンザウイルス感染症	①100～200mg分2(～3) 【Max:300mg】 ②100～150mg分2～3 ③100mg分1～2
タミフル ＜オセルタミビル＞ (中外)	D S (30mg/g) ¥244/g		①A型又はB型インフルエンザウイルス感染症 ②65歳以上または基礎疾患を有する者のA型又はB型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①＜成人＞150mg分2, 5日間, ＜小児＞4mg/kg/日, 分2, 5日間 ＜新生児, 乳児＞6mg/kg/日, 分2, 5日間 【Max:75mg/回】 【1歳未満, 8.1kg未満は脳へ移行するため慎重投与】 ②＜成人＞75mg分1日, 7～10日間 ＜小児＞2mg/kg分1, 10日間【Max:75mg/回】
	75mg/C ¥283/C		①A型又はB型インフルエンザウイルス感染症(成人及び体重37.5kg以上の小児) ②65歳以上または基礎疾患を有する者のA型又はB型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①150mg分2, 5日間, ②75mg分1日, 7～10日間(成人), 10日間(小児)
ラピアクタ ＜ペラミビル＞ (オノギ)		300mg (60mL)/袋 ¥6216/袋	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症	300mg分1, 単回点滴静注 重症化するおそれのある患者には600mg分1, 単回点滴静注, 連日反復投与可能 ＜小児＞10mg/kg/日 分1【Max:600mg/回】
リレンザ ＜ザナミビル＞ (ゲラク・スミスカイン)		(5mg/フリスター) ¥152.9/BL	①A型・B型インフルエンザウイルス感染症 ②A型・B型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①10mg (2フリスター)/回 2回/日, 5日間 (小児も同量) ②10mg (2フリスター)/回 1回/日, 10日間

■ワクチン類

インフルエンザHAワクチン ＜インフルエンザHAワクチン＞		1mL/瓶 ¥3500/回	インフルエンザの予防	＜アステラス(1mL)＞ ＜田辺三菱(0.5mL, 1mL)＞ 2～4週間の間隔において2回皮下, 6ヶ月以上3歳未満0.25mL/回, 3歳以上13歳未満0.5mL/回, 1回又は1～4週間の間隔において2回皮下, 13歳以上0.5mL/回 ＜第一三共(0.25mL, 0.5mL, 1mL)＞ 2～4週間の間隔において2回皮下, 1歳以上3歳未満0.25mL/回, 3歳以上13歳未満0.5mL/回, 1回又は1～4週間の間隔において2回皮下, 13歳以上0.5mL/回
		0.5mL/筒 ¥3500/回		
		0.25mL/筒 ¥3500/回		

オーダリング上細菌検査の感受性検査で表示する抗菌薬略号について（＊を表示）（H28.3）

No.1
（△測定しているが表示していない）

系統	報告書略号	一般名	商品名	用法		菌種別の感受性検査対象薬剤					当院採用	使用届制
				注射	内服	腸内細菌群 大腸菌など	緑膿菌	ブドウ球菌 腸球菌	連鎖球菌	ヘモフィルス		
P	ABPC	アンピシリン	ピクシリン	○		*		*	*	*	○	
	PCG	ペンシムルベニシリン	ベニシリンG	○	○			△	*		○	
	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン	○		*	*				○	
	AMPC	アモキシシリン	アモキシシリン		○						○	
	A/S	アンピシリン/スルバクタム	スルバシリン	○				△		*	○	
	SBTP	スルタミシリン	ユナシン		○			△		*	○	
	A/C	アモキシシリン/クラブラン酸	オーグメンチン		○	△		△	*	*	○	
	P/T	ピペラシリン/タゾバクタム	ゾシン	○		*					○	
	MPIP	オキサシリン						*			×	
C-1	CEZ	セファゾリン	セファゾリン	○		*		*			○	
	CCL	セファクロール	ケフラー		○	△				*	○	
	CEX	セファレキシン	ケフレックス		○						×	
C-2	CTM	セフォチアム	パンスホリン(T)	○	○	△		*	*	*	○	
CM	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾール	○		*					○	
OC	LMOX	ラモキシセフ	シオマリ	○			*				×	
OC	FMOX	フロモキシセフ	フルマリ	○		△	*	*			○	
C-3	CTX	セフォタックス	クラフォラン	○		*			*	*	○	
	CAZ	セフトアジジム	セフトアジジム	○		*	*				○	
	CTR	セフトリアキソン	セフトリアキソン	○		*			*	*	○	
	S/C	スルバクタム/セフォペラゾン	ワイスター	○		*	*				○	
	CFDN	セフジニル	セフジニル		○	*		*			○	
	CFIX	セフィキシム	セフスパン		○					*	×	
	CPDX	セフホドキシムプロキセチル	セフホドキシム		○						○	
	CFPN	セフカペンヒポキシ	セフカペンヒポキシ		○	△					○	
	CDTR	セフトレニヒポキシ	セフトレニヒポキシ		○			*	*	*	○	
	GZOP	セフォゾフラン	ファーストシン	○		*	*	*	*	*	○	
C-4	CFPM	セフェピム	マキシピム	○			*		*	*	○	
	CPR	セフピロム	ケイテン	○		△	△	△			×	
MoB	AZT	アストレオナム	アザクタム	○		*	*				(限定)	
CarP	IPM	イミペネムシラスチン	チエナム	○		*	*	*			○	○
	MEPM	メロペネム	メロペネム	○		*	*	*	*	*	○	○
	PAPM	パニペネムベタミロン	カルベニン	○							○	○
Pe	FRPM	ファロペネム	ファロム		○						×	

系統記号の意味

P: ペニシリン系 C-1; 第1世代セフェム C-2; 第2世代セフェム C-3; 第3世代セフェム C-4; 第4世代セフェム
CM; セファマイシン系 OC; オキサセフェム系 MoB; モノバクタム CarP; カルバペネム系 Pe; ペネム系

オーダリング上細菌検査の感受性検査で表示する抗菌薬略号について（＊を表示）（H28.3）

No.2
（△測定しているが表示していない）

系統	報告書略号	一般名	商品名	用法		菌種別の感受性検査対象薬剤					当院採用	使用届制
				注射	内服	腸内細菌群 大腸菌など	緑膿菌	ブドウ球菌 腸球菌	連鎖球菌	ヘモフィルス		
AG	AMK	アミカン	硫酸アミカン	○		*	*				○	
	ISP	イセパシ	エクサシ	○			*				○	
	GM	ゲンタマイシ	ゲンタシ	○		*	*	*			○	
	TOB	トブラマイシ	トブラシ	○			*				○	
	NLT	ネチルマイシ	ネチリン	○							×	
	DKB	ジベカシ	パニマイシ	○							(限定)	
	ABK	アルベカシ	ハベカシ	○				*			○	
	KM	カナマイシ	カナマイシ	○	○						○	
M	EM	エリスロマイシ	エリスロシ		○			*	*		○	
	CAM	クラリスロマイシ	クラリスロマイシ		○					*	○	
	AZM	アジスロマイシ	ジスロマック	○	○				*		○	
	TEL	テリスロマイシ	ケテック		○						×	
	RXM	ロキスロマイシ	ルリット		○						○	
LM	CLDM	クリンダマイシ	ダラシ	○	○			*	*		○	
TC	MINO	ミノサイクリン	ミノマイシ	○	○	*	*	*	*		○	
	DMCT	ジメチルクロルテトラサイクリン	レダマイシ		○						○	
	TC	テトラサイクリン	アクロマイシ	○	○					*	×	
CP	CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチ	○	○		△		*	*	×	
Fo	FOM	ホスホマイシ	ホスミン	○	○	*	△	△			○	
NQ	LVFX	レボフロキサシ	クラビット	○	○	*	*	*	*	*	○	
	CPFX	シプロフロキサシ	シプロキサ		○	*	*			*	○	
	TFLX	トスフロキサシ	トスキサシ		○		*				×	
	GFLX	ガチフロキサシ	ガチフロ								×	
	PZFX	パズフロキサシ	パシル	○							○	
PP	VCM	バンコマイシ	塩酸バンコマイシ	○	○			*	*		○	○
	TEIC	テイコプラニン	タゴシット	○				*			○	○
他	LZD	リネゾリット	サイボックス	○	○			*			○	○
	DAP	ダプトマイシ	キュービシ	○							○	○
	ST	スルファメキサザールトリメプリム	バクタミン、バクタ	○	○	*	*	*	*	*	○	
	RFP	リファンピシ	リファジン		○				*	*	○	

系統記号の意味

AG;アミノ配糖体系 M;マクロライド系 LM;リンコマイシ系 TC;テトラサイクリン系 Fo;ホスホマイシ系
NQ;ニューキノロン系 PP;ポリペプチド系 CP;クロラムフェニコール

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■縮瞳剤				
サンピロ ＜ピロカルピン＞ (参天)		1%液(5mL) ¥127.7/本 2%液(5mL) ¥152.5/本	緑内障・縮瞳	3～5回点眼/日
■散瞳剤※閉塞隅角緑内障および閉塞隅角緑内障を起こす素因のある患者には禁忌				
アトロピン ＜アトロピン＞ (日点)		1%液(5mL) ¥145.5/本	散瞳・調節麻痺	1～3回点眼/日
アトロピン ＜アトロピン＞		0.5%液(5mL) 【院内製剤】		
サイプレジン ＜シクロペントラート＞ (参天)		1%液(10mL) ¥842/本		1～2回(1回目5～10分後)点眼
ネオシネジン ＜フェニレフリン＞ (興和創薬)		5%液(10mL) ¥450/本	散瞳	1回点眼
ミドリンM ＜トロピカミド＞ (参天)		0.4%液(5mL) ¥108.5/本	①散瞳 ②調節麻痺	①1回点眼 ②3～5分おきに2～3回点眼
ミドリンP ＜トロピカミド・フェニレフリン＞ (参天)		液(10mL) ¥291/本		①3～5分おきに1～2回点眼 ②3～5分おきに2～3回点眼
■緑内障眼圧降下薬 ◆副交感神経刺激薬(縮瞳)				
サンピロ ＜ピロカルピン＞ (参天)		1%液(5mL) ¥127.7/本 2%液(5mL) ¥152.5/本	緑内障, 縮瞳	3～5回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆α 1 遮断薬				
デタントール ＜ブナゾシン＞ (参天)		0.01%液(5mL) ¥1576.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■緑内障眼圧降下薬 ◆β遮断薬				
チモプトール ＜チモロール＞ (MSD)		0.5%液 (5mL) ¥1562.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日
チモプトールXE ＜チモロール＞ (MSD)		0.5%液 (2.5mL) ¥1684.75/本		1回点眼/日
ミケランLA ＜カルテオロール＞ (大塚)		2%液 (2.5mL) ¥1312.75/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆α1β遮断薬				
ハイパジール ＜ニプラジロール＞ (興和創薬)		0.25%液 (5mL) ¥1743.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆プロスタグランジン製剤				
キサラタン ＜ラタノプロスト＞ (ファイザー)		0.005%液 (2.5mL) ¥1677.5/本	緑内障, 高眼圧症	1回点眼/日
タプロス ＜タフルプロスト＞ (参天)		0.0015%液 (2.5mL) ¥2463/本		
トラバタンズ ＜トラボプロスト＞ (日本7ルン)		0.004%液 (2.5mL) ¥2519/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆プロスタミド誘導体制剤				
ルミガン ＜ピマトプロスト＞ (千寿)		0.03%液 (2.5mL) ¥2399.25/本	緑内障, 高眼圧症	1回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆炭酸脱水酵素阻害薬				
エイゾプト ＜プリンゾラミド＞ (日本7ルン)		1%液 (5mL) ¥2253.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日 【Max：3回まで】
ダイアモックス ＜アセタゾラミド＞ (三和化学)	250mg/錠 ¥25.6/錠		緑内障	250～1000mg
		500mg/瓶 ¥618/瓶		250～1000mg静注, 筋注
トルソプト ＜ドルゾラミド＞ (MSD)		1%液 (5mL) ¥1200.5/本		

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■緑内障眼圧降下薬 ◆アドレナリンα2受容体作動薬				
アイファガン ＜プリモニジン＞ (千寿)		点眼液 (5mL) ¥2253.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日
■白内障治療薬				
カリーユニ ＜ピレノキシリン＞ (参天)		0.005%液 (5mL) ¥63.7/本	初期老人性白内障	3～5回点眼/日
タチオン ＜グルタチオン＞ (田辺製薬)		2%液 (5mL) 【院外のみ】 ¥110.5/本	初期老人性白内障, 角膜潰瘍, 角膜上皮 剥離, 角膜炎	
■角膜保護剤				
ヒアレイン ＜ヒアルロン酸ナトリ ウム＞ (参天)		0.1%液 (5mL) ¥398.5/本	角結膜上皮障害	5～6回点眼/日
ムコスタUD ＜レバミピド＞ (大塚)		2%液 (0.35mL) ¥27.1/本	ドライアイ	4回点眼/日
■ステロイド系抗炎症薬				
ネオメドロールEE ＜配合剤：メチルプレ ドニゾロン・フラジオ マイシン＞ (ファイザー)		軟膏 (3g) ¥150.6/本	外眼部・前眼部の炎 症性疾患, 外耳の湿 疹・皮膚炎・耳鼻咽喉 科領域における術後 処置	1～数回点眼・塗布/日
フルメトロン ＜フルオロメトロン＞ (参天)		0.1%液 (5mL) ¥314.5/本	外眼部, 前眼部の炎 症性疾患	2～4回点眼/日
プレドニン ＜プレドニゾロン＞ (オノキ)		眼軟膏 (5g) ¥245/本	外眼部・前眼部の炎 症性疾患(眼瞼炎, 結 膜炎, 角膜炎, 強膜 炎, 上強膜炎, 前眼部 ブドウ膜炎, 術後炎 症)	1～数回塗布
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ (オノキ)		0.1%液 (5mL) 点 眼点耳用 ¥345/本	外眼部・前眼部の炎 症性疾患, 外耳・中耳(耳管含 む), 上気道の炎症・7 日以内性疾患, 術後処 置	3～4回点眼/日, 1～数回点耳・点鼻・耳浴/日, 軟膏・点 眼薬

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド抗炎症薬				
ジクロード ＜ジクロフェナク＞ (わかもと)		0.1%液(5mL) ¥396/本	白内障手術時の術後の炎症症状, 術中・術後合併症	眼手術前4回(3時間前, 2時間前, 1時間前, 30分前), 眼手術後3回点眼
ネバナック ＜ネパフェナク＞ (日本7ルン)		0.1%液(5mL) ¥956.5/本	内眼部手術における術後炎症	眼手術前日より1滴/回, 3回/日点眼 眼手術当日は術前3回, 術後1回点眼
プロナック ＜プロムフェナク＞ (千寿)		0.1%液(5mL) ¥525.5/本	外眼部・前眼部の炎症性疾患の対症療法(眼瞼炎, 結膜炎, 強膜炎(上強膜炎を含む), 術後炎症	2回点眼/日
■抗アレルギー薬				
パタノール ＜オロパタジン＞ (協和発酵杉)		0.1%液(5mL) ¥983.5/本	アレルギー性結膜炎	4回点眼/日
リザベン ＜トラニラスト＞ (キッセイ)		0.5%液(5mL) ¥634/本		
リボスチン ＜レボカバステチン＞ (参天)		0.025%液(5mL) ¥659.5/本		

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■手術用・検査用薬				
アイリーア ＜アフリベルセプト＞ (参天)		2mg/0.05mL/瓶 ¥142605/瓶	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 ②網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫	①2mg(0.05mL)/回、硝子体内投与 導入期:1ヵ月毎に連続3ヵ月間 維持期:2ヵ月毎に1回 1ヵ月以上間隔をあけて ②③2mg(0.05mL)/回、硝子体内投与 1ヵ月以上間隔をあけて ④2mg(0.05mL)/回、硝子体内投与 導入期:1ヵ月毎に連続5回 維持期:2ヵ月毎に1回 1ヵ月以上間隔をあけて
オベガードネオキット ＜オキシグルタチオン＞ (大塚)		液(500mL/袋) 【用時購入】 ¥4118.4/袋	手術(白内障、硝子体、緑内障)時の眼灌流・洗浄	用時、オキシグルタチオン液と希釈液を混合し用いる。用量は症例により一定でない。
オペガン ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (参天)		1%液(1.1mL) ¥7395/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続施行時 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.4～1.0mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.6mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.5mL前房内注入、提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
オペガンハイ ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (参天)		1%液(0.85mL) ¥6451.6/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.2～0.75mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.4mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.6mL前房内注入、提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
オペリード ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (千寿)		1%液(1.1mL) ¥6666.7/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.4～1.0mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.6mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.5mL前房内注入、提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
シェルガン ＜ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム＞ (参天)		液(0.5mL) ¥5,658.70/筒	①超音波乳化吸引法による白内障摘出術 ②眼内レンズ挿入術	①0.1～0.4mL前房内注入 ②0.1～0.3mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL
スコピゾル15 ＜配合剤＞ (千寿)		液(15mL/本) ¥1500/本	眼科診断の際・光凝固手術時、特殊コンタクト類の角膜装着を容易・密にする	レンズ凹面1～2滴滴下し角膜に装着
ディスコビスク ＜ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム＞ (日本7ルン)		1mL/筒 ¥9887.3/筒	水晶体再建術の手術補助	白内障摘出時・眼内レンズ挿入時:0.1～0.4mL前房内注入 眼内レンズコーティング:約0.1mL
ビーエスエスプラス ＜オキシグルタチオン＞ (参天)		液(500mL) ¥3752.8/本	手術(白内障、硝子体、緑内障)時の眼灌流・洗浄	【症例により一定でない】
ビスダイン ＜ベルテポルフィン＞ (パルテックス)		15mg/瓶 ¥187663/瓶	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	6mg/m ² (体表面積)を静注し、投与開始から15分後にレーザー光を治療スポットに照射

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ヒーロン ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (ファイザー)		1%液(0.4mL) ¥5189.1/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.2～0.75mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.4mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.6mL前房内注入, 提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
ヒーロンV ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (ファイザー)		2.3%液(0.6mL) ¥9506/本	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術	①0.3～0.6mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.3mL前房内注入 ③0.1～0.4mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL
マキュエイド ＜トリウムシノロンアセトニド＞ (わかもと)		40mg/瓶 ¥8296/瓶	【硝子体内投与】 ①硝子体手術時の硝子体可視化 ②糖尿病黄斑浮腫 【テノン嚢下投与】 ③糖尿病黄斑浮腫, 網膜静脈閉塞症, 非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫の軽減	①10mg/mlに用時懸濁後, 0.5mg/0.05ml～4mg/0.4ml硝子体内注入 ②40mg/mlに用時懸濁後, 4mg/0.1ml硝子体内注入 ③40mg/mlに用時懸濁後, 20mg/0.5mlテノン嚢下投与
マクジェン ＜ペガブタニブナトリウム＞ (ホッショム)		0.3mg(90μL)/筒 ¥110526/筒	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	0.3mg/回を6週間毎に硝子体内投与
ルセンチス ＜ラニビズマブ＞ (ハルティス)		0.5mg/0.05mL/筒 ¥157776/筒	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 ②網脈静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫	①＜導入期＞0.5mg(0.05mL)/回, 1ヵ月毎に連続3ヵ月間硝子体内投与 ＜維持期＞0.5mg(0.05mL)/回, 1ヵ月以上の間隔で適宜調節 ②③④0.5mg(0.05mL)/回, 1ヵ月以上の間で硝子体内投与

■表面麻酔薬

ベノキシール ＜オキシブプロカイン＞ (参天)		0.4%点眼液(10mL) ¥134/本	表面麻酔	1～4滴点眼/日

■その他

アダプチノール ＜ヘレニエン＞ (バイエル)	5mg/錠 【院外のみ】 ¥44.1/錠		網膜色素変性症における一時的な視野・暗順応の改善	10～20mg分2～4
サンコバ ＜シアノコバラミン＞ (参天)		0.02%液(5mL) ¥87.6/本	調節性眼精疲労における微動調節の改善	3～5回点眼/日
PA・ヨード ＜ヨウ素, ポリビニルアルコール＞ (日本点眼薬研究所)		点眼・洗眼液0.2%液(20mL) ¥442/瓶	角膜ヘルペス, 洗眼殺菌	原液(有効ヨウ素濃度0.2%)を通常, 精製水又は0.9%食塩水で4～8倍に希釈して用いる

2. 抗生物質・抗菌剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エコリシン ＜コリスチン・エリス ロマイシン＞ (参天)		眼軟膏 (3.5g) ¥160.3/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 角膜炎 (角膜潰瘍を含む)	数回塗布
ガチフロ ＜ガチフロキサシン＞ (千寿)		0.3%液 (5mL) ¥645/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周術期 の無菌化療法	3回点眼/日 手術前5回点眼
クラビット ＜レボフロキサシン＞ (参天)		1.5%液 (5mL) ¥546.5/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周 術期の無菌化療法	3回点眼/日
タリビッド ＜オフロキサシン＞ (参天)		眼軟膏 (3.5g) ¥389.9/本	眼瞼炎, 麦粒腫, 涙の う炎, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎, 角膜潰 瘍, 術後感染症	3回塗布
トスフロ ＜トスフロキサシン＞ (日東マディック)		0.3%液 (5mL) ¥552/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周術期 の無菌化療法	3回点眼/日
ベガモックス ＜モキシフロキサシン ＞ (日本711)		0.5%液 (5mL) ¥652.5/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周 術期の無菌化療法	3回点眼/日 手術前5回点眼/日, 術後3回点眼/日
ベストロン ＜セフメノキシム＞ (千寿)		0.5%液 (5mL) ¥269/本		4回点眼/日

3. 抗ウイルス剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ゾビラックス <アシクロビル> (ゲラツ・スミスクライン)		眼軟膏 (5g) ¥2707.5/本	単純ヘルペスに起因する角膜炎	5回塗布

4. 抗真菌剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ジフルカン ＜フルコナゾール＞		0.2%液 (5mL) 【院内製剤】	真菌性角膜炎	6回点眼/日
ピマリシン ＜ピマリシン＞ (千寿)		眼軟膏 (5g) ¥2969/本	角膜真菌症	4～5回/日塗布
		5%点眼液 (5mL) ¥3084.5/本		1～2滴/回, 6～8回/日
フロリード ＜ミコナゾール＞		0.1%液 (5mL) 【院内製剤】	真菌性角膜炎	6回点眼/日

1. 耳鼻用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鎮暈薬				
イソバイド ＜イソソルビド＞ (興和創薬)	70%液20mL/包 ¥102.5/包 70%液30mL/包 ¥153.2/包		①メニール病 ②脳腫瘍, 頭部外傷時の脳圧亢進, 腎・尿管結石(利尿), 緑内障(眼圧降下)	①90～120mL(1.5～2.0mL/kg)分3 ②70～140mL分2～3
セファドール ＜ジフェニドール＞ (日本新薬)	25mg/錠 ¥12.5/錠		内耳障害に基づくめまい	3～6錠分3
トラベルミン ＜ジフェンヒドラミン(40mg) ジプロフイリン(26mg)＞ (エーザイ)	錠 ¥5.8/錠		動揺病, メニール症候群に伴う悪心・嘔吐・めまい	1回1錠, 1日3～4回
ベタヒスチン ＜ベタヒスチン＞ (東和薬品)	6mg/錠 ¥6/錠		メニール病, メニール症候群, 眩暈症	3～6錠分3
■耳鳴緩和剤				
ストミンA ＜ニコチン酸アミド, 塩酸パパベリン＞ (ザンセルード)	錠 【用時購入】 ¥5.6/錠		内耳及び中枢障害による耳鳴	6錠分3
■外用薬 ＜ステロイド系抗炎症薬＞				
ネオメドロールEE ＜配合剤: メチルプレドニゾロン・フラジオマイシン＞ (ファイザー)		軟膏(3g) ¥150.6/本	外耳の湿疹・皮膚炎・術後処置, 外眼部・前眼部の細菌感染症	1～数回点眼/日, 塗布
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ (オノギ)		0.1%液(5mL)点 眼点耳用 ¥345/本	①外眼部・前眼部の炎症性疾患 ②外耳・中耳(耳管含む), 上気道の炎症・アレルギー性疾患, 術後処置	①3～4回点眼/日 ②1～数回点耳・点鼻・耳浴/日, 水ライザー, タンポン
■外用薬 ＜点耳用＞				
ジオクチルソジウムスルホサキシネート ＜ジオクチルソジウムスルホサキシネート＞ (武田薬品工業)		5%液(10mL)耳科用 ¥5420/本	耳垢の除去	外耳へ塗布 除去困難時, 数滴点耳後5～29分後に微温湯で洗浄 高度耳垢栓塞時, 3回/日, 1～2日連続点耳後微温湯で洗浄
タリビッド ＜オフロキサシン＞ (第一三共)		0.3%液(5mL)耳科用 ¥546/本	外耳炎, 中耳炎	6～10滴/回, 2回/日点耳 点耳後約10分間耳浴
ベストロン ＜セフメノキシム＞ (あすか)		1%液(50mL)耳鼻科用 ¥4550/本		

1. 耳鼻用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■外用薬 <点鼻用>				
アラミスト <フルチカゾン> (ゲラツ・スミスクライン)		点鼻液 (27.5 μ g / 噴霧, 56回分) ¥2017.1/瓶	アレルギー性鼻炎	1日1回両鼻腔に各2噴霧 <小児>1日1回両鼻腔に各1噴霧
エリザス <デキサメタゾン> (日本新薬)		点鼻粉末 (200 μ g / 噴霧, 28回分) ¥1779.5/瓶		1日1回両鼻腔に各1噴霧
ナゾネックス <モメタゾン> (MSD)		点鼻液 (5mg/10g / 瓶, 56回分) ¥1912.3/瓶		1日1回両鼻腔に各2噴霧 <小児> 12歳未満には1日1回両鼻腔に各1噴霧 12歳以上には1日1回両鼻腔に各2噴霧
プリピナ耳科用 <ナファゾリン> (パルティス)		0.05%液 (5mL) ¥21.5/本	①上気道の諸疾患の 充血・うっ血 ②上気道粘膜の表面 麻酔時	①鼻腔内2～4滴/回, 咽頭・喉頭1～2mL/回, 数回/日, 塗布・噴霧 ②局麻剤1mLあたり2～4滴添加

2. 口腔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■含嗽薬				
アズノール ＜アズレン＞ (日本新薬)		液(5mL) ¥217.5/本	咽頭炎, 扁桃炎, 口内炎, 急性歯肉炎, 舌炎, 口腔創傷	1回押し切り分、又は5～7滴/回, 数回/日, 約100mLに溶解後含嗽
ポビドンヨードガーグル ＜ポビドンヨード＞ (Meiji Seika ファルマ)		液(30mL) ¥69/本	咽頭炎, 扁桃炎, 口内炎, 抜歯創を含む口腔創傷の感染予防, 口腔内の消毒	15～30倍に希釈し1日数回含嗽
■口腔用薬				
アフタシールS ＜トリアムシノロンアセトニド＞ (大正富山)		0.025mg/枚(付着フィルム) ¥39.2/枚	777性口内炎	1患部に1枚/回, 1～2回/日
オラドル ＜ドミフェン＞ (大洋薬品)	0.5mg/錠 ¥5.8/錠		咽頭炎, 扁桃炎, 口内炎, 抜歯創を含む口腔創傷感染予防	0.5mg/回, 3～6回/日, 口中で溶解
ケナログ ＜トリアムシノロンアセトニド＞ (ブリistol)		軟膏(5g) ¥336/本	慢性剥離性歯肉炎, 糜爛・潰瘍を伴う難治性口内炎, 舌炎	1～数回患部に塗布
サラジェン ＜ピロカルピン＞ (キッセイ)	5mg/錠 ¥133.7/錠		①頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善 ②シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症状の改善	15mg分3
サリベート ＜人工唾液＞ (帝人)		50g/本 ¥604.9/本	シェーグレン症候群による口腔乾燥症, 頭頸部の放射線照射による唾液腺障害に基づく口腔乾燥症	1～2秒間噴霧/回, 4～5回/日 口腔内噴霧
デキサルチン ＜デキサメタゾン＞ (日本化薬)		軟膏(5g) ¥278.5/本	糜爛・潰瘍を伴う難治性口内炎, 舌炎	1～数回患部に塗布

1. 肛門用薬・泌尿器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■痔疾用剤				
ネリプロクト ＜ジフルコルトロン： リドカイン（0.2mg： 40mg）＞ （バ・イェル）		坐剤 ¥36.7/個	痔核の症状の緩解	2個分2肛門内挿入
		軟膏（2g） ¥66.2/本		1日2回適量を肛門内に注入
強力ポステリザン ＜大腸菌死菌浮遊液・ ヒドロコルチゾン＞ （マルホ）		軟膏（2g） ¥47.2/本	内痔核、肛門周囲の 湿疹・皮膚炎、軽度な 直腸炎の症状の緩解	1日1～3回適量を患部に塗布、注入
■泌尿器官用薬 ◆植物・アミノ酸製剤				
ウロカルン ＜ウラジログシ＞ （日本新薬）	225mg/錠 ¥9/錠		腎結石・尿管結石の 排出促進	1350mg分3
エビプロスタット配合錠DB ＜配合剤：オオウメガサソウエキス、ハコヤナギエキス、セイヨウオキナグサエキス、スギナエキス、コムギ胚芽油＞ （日本新薬）	錠 ¥42.9/錠		前立腺肥大に伴う排尿障害、残尿（感）、頻尿	3錠分3
■泌尿器官用薬 ◆α1遮断薬				
エブランチル ＜ウラピジル＞ （科研）	15mg/C ¥17.3/C		①前立腺肥大症に伴う排尿障害 ②神経因性膀胱に伴う排尿困難	①30mg～（90mg）分2 ②30mg～60mg分2【Max:90mg】
タムスロシンOD ＜タムスロシン＞ （東和薬品）	0.2mg/錠 ¥50.1/錠		前立腺肥大症に伴う排尿障害	0.2mg分1
フリバスOD ＜ナフトピジル＞ （旭化成）	50mg/錠 ¥90.6/錠			50～75mg分1
ユリーフ ＜シロドシン＞ （第一三共）	4mg/錠 ¥75.5/錠			8mg分2
■泌尿器官用薬 ◆ホスホジエステラーゼ5阻害薬				
ザルティア ＜タダラフィル＞ （日本イーライリリー）	5mg/錠 ¥230.6/錠		前立腺肥大症に伴う排尿障害	5mg分1

1. 肛門用薬・泌尿器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■泌尿器官用薬 ◆頻尿治療薬				
ネオキシテープ ＜オキシブチニン＞ (久光製薬)		73. 5mg/枚 (6cm × 6cm) ¥194. 8/ 枚	過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿及 び切迫性尿失禁	1枚/日、下腹部・腰部又は大腿部に 貼付
バップフォー ＜プロピペリン＞ (大鵬)	20mg/錠 ¥109. 8/錠		神経因性膀胱、神経 性頻尿、不安定膀胱、 膀胱刺激状態におけ る頻尿、尿失禁 過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿及 び切迫性尿失禁	20mg分1 【Max: 40mg】
ブラダロン ＜フラボキサート＞ (日本新薬)	200mg/錠 ¥42. 3/錠		神経性頻尿、慢性前 立腺炎、慢性膀胱炎 に伴う頻尿・残尿感	600mg分3
ベシケアOD ＜ソリフェナシン＞ (アステラス)	5mg/錠 ¥194. 7/錠		過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿及 び切迫性尿失禁	5mg分1 【Max: 10mg】
■泌尿器官用薬 ◆その他				
ウブレチド ＜ジスチグミン＞ (鳥居)	5mg/錠 ¥19. 7/錠		①手術後及び神経因 性膀胱などの低緊張 性膀胱による排尿困 難 ②重症筋無力症	①5mg/日 ②5～20mg分1～4
■勃起不全治療薬				
バイアグラ ＜シルデナフィル＞ (ファイザー)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥1100/錠		勃起不全	25mg～50mg分1
	50mg/錠 【院外のみ】 ¥1300/錠			
■その他				
ウロマチックS ＜D-ソルビトール＞ (バクスター)		3%3L液/袋 ¥1080. 2/袋	前立腺・膀胱疾患の 経尿道的手術時、そ の他の泌尿器科手術 時・術後の洗浄	1000～15000mL

2. 生殖器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■生殖器官用薬				
エストリール ＜エストリオール＞ (持田)		0.5mg錠 ¥19.5/錠	膣炎(老人, 小児, 非特異性), 子宮頸管炎, 子宮腔部びらん	0.5～1mg分1腔内挿入
オキナゾール ＜オキシコナゾール＞ (田辺三菱)		600mg錠 ¥319.2/錠	カンジダに起因する膣炎・外陰膣炎	1錠(600mg)週1回, 腔内挿入
フラジール ＜メトロニダゾール＞ (オノキ)		250mg錠 ¥37.6/錠	①トリコモナス膣炎 ②細菌性膣症	①1日1回250mg, 10～14日間腔内挿入 ②1日1回250mg, 7～10日間腔内挿入
■子宮収縮剤				
エルゴメトリンF ＜エルゴメトリン＞ (富士製薬)		0.2mg/管(1mL) ¥92/管	①子宮収縮の促進, 子宮出血の予防・治療, 帝王切開術, 弛緩出血【緊急時, 他療法が無効の場合に使用】 ②【適応外】冠攣縮の誘発	①0.2mg/回, 皮下, 筋注, 静注 ②【DI照会参照】
メチルエルゴメトリン ＜メチルエルゴメトリン＞ (あすか)	0.125mg/錠 ¥9.9/錠		子宮収縮の促進, 子宮出血の予防・治療	0.25～1.0mg分2～4
■切迫早産治療薬				
ウテメリン ＜リトドリン＞ (キヤイ)	5mg/錠 ¥106.9/錠		切迫早産	15mg分3
マグセント ＜硫酸マグネシウム, ブドウ糖＞ (東亜薬品)		各10g/100mL/本 ¥2246/本	切迫早産における子宮収縮の抑制, 重症妊娠高血圧症候群における子癇の発症抑制及び治療	初回量40mLを20分以上かけて静注後10mL/hrで持続静注【Max: 20mL/hr】
リトドリン ＜リトドリン＞ (日医工)		50mg/管(5mL) ¥200/管	緊急に治療を必要とする切迫流・早産	50～150 μ g/min, 点静【Max: 200 μ g/min】

2. 生殖器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロラクチン分泌抑制薬				
カバサル ＜カベルゴリン＞ (ファイザー)	0.25mg/錠 【院外のみ】 ¥73.9/錠		①乳汁漏出症, 高プロラクチン血性排卵障害, 高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ②産褥性乳汁分泌抑制	①初回0.25mg/分1就寝前/週1回, 漸増投与, 維持量0.25mg~0.75mg【Max:1.0mg】 ②1.0mg/1回のみ, 胎児娩出後, 食後投与
	1.0mg/錠 ¥245.5/錠			
パーロデル ＜プロモクリプチン＞ (ハルティス)	2.5mg/錠 ¥99.4/錠		①産褥性乳汁分泌抑制, 乳汁漏出症, 高プロラクチン血性排卵障害, 高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ②末端肥大症, 下垂体性巨人症 ③パーキンソン症候群	①5.0~7.5mg分2~3 ②2.5~7.5mg分2~3 ③7.5~22.5mg分2~3漸増投与

1. 皮膚科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫抑制剤				
ネオオーラル ＜シクロスポリン＞ (パルテックス)	25mg/C ¥227.5/C		①尋常性乾癬, 膿疱性乾癬, 乾癬性紅皮症, 関節症性乾癬 ②アトピー性皮膚炎	①5mg/kg/日分2, 以後1ヵ月毎に1mg/kg/日減量 維持量3mg/kg/日 ②3mg/kg/日分2 【Max:5mg/kg/日】
■その他				
チガソン ＜エトレチナート＞ (中外)	10mg/C 【院外のみ】 ¥324.2/C		難治性皮膚疾患, 口腔乳頭腫・口腔扁平苔癬	【同意書要】 導入:40~50mg分2~3を2~4週間 【Max:75mg/日】 ＜小児＞1mg/kg分1~3 維持量:10~30mg分1~3 ＜小児＞0.6~0.8mg/kg分1~3
プロペシア ＜フィナステリド＞ (MSD)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥250/錠		男性における男性型脱毛症の進行遅延	0.2mg分1 【Max:1mg】

2. 外皮用薬 [褥瘡・潰瘍治療剤]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アクトシン <ブクラデシンナトリウム> (マルホ)		軟膏(30g) ¥1449/本	褥瘡, 皮膚潰瘍	1~2回貼布, 塗布
アズノール <アズレン> (日本新薬)		0.033%軟膏(500g) ¥2.83/g	湿疹, 熱傷, びらん・潰瘍	数回塗布
フィブラストスプレー <トラフェルミン(遺伝子組み換え)> (科研)		500 μ g/瓶(溶解液5mL付) ¥11108/瓶	褥瘡, 皮膚潰瘍	1Vを添付溶解液に溶かし潰瘍面から約5cm離して5噴霧
プロスタンディン <アルプロスタジル> (小野薬品)		軟膏(10g) ¥520/本		2回貼付, 塗布
メイSPAN <ポビドンヨード, 白糖> (Meiji Seika ファルマ)		軟膏(100gチューブ) ¥1070/本	褥瘡、皮膚潰瘍(熱傷潰瘍、下腿潰瘍)	1~2回貼付, 塗布

3. 外皮用薬〔乾癬・皮膚軟化・腐蝕用〕

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ウレパール ＜尿素＞ (大塚)		10%クリーム(20g) ¥132/本	アトピー性皮膚, 老人性 乾皮症	2～3回塗布
オキサロール ＜マキサカルシトール＞ (マルホ)		軟膏(10g) ¥1155/本	尋常性乾癬, 魚鱗癬, 掌跖角化症, 掌跖膿 疱症	1日2回塗布 【Max: 10g/日】
		ローション(10g) 【院外のみ】 ¥1155/本		1日2回塗擦 【Max: 10g/日】
サリチル酸ワセリン ＜サリチル酸＞ (東豊)		軟膏(10%, 500g) ¥2.54/g	乾癬, 白癬(頭部浅在 性白癬, 小水疱性斑 状白癬, 汗疱状白癬, 頑癬), 癬風, 紅色皰 糠疹, 紅色陰癬, 角化 症(尋常性魚鱗癬, 先 天性魚鱗癬, 毛孔性 苔癬, 先天性手掌足 底角化症(腫), ダリエ 病, 遠山連環状皰糠 疹)湿疹(角化を伴 う), 口囲皮膚炎, 掌 跖膿疱症, ヘルペス 皰糠疹, アトピー性皮膚 炎, さ瘡, せつ, 腋臭 症, 多汗症, その他角 化性の皮膚炎	1～2回塗布
硝酸銀 ＜硝酸銀＞ (マイラン)		5%液 【院内製剤】	口内炎, 潰瘍面の不 良肉芽	用時適用
スピール膏M ＜サリチル酸＞ (ニチバン)		絆創膏 ¥87.5/枚	疣贅, 鶏眼, 胼胝腫の角質剥離	患部に貼付
ドボネックス ＜カルシボトリオール＞ (鳥居)		軟膏(10g) ¥1111/本	尋常性乾癬	1日2回塗布 【Max: 90g/週】
ドボベット ＜カルシボトリオー ル, ベタメタゾン＞ (協和発酵キリン)		軟膏(15g) ¥3952.5/本		1日1回塗布 【Max: 90g/週】
尿素クリーム ＜尿素＞ (ファイザー)		20%クリーム(20g) ¥130/本	魚鱗癬, 老人性乾皮 症, アトピー皮膚, 進 行性指掌角皮症(主 婦湿疹の乾燥型), 足 趾部皸裂性皮膚炎, 掌跖角化症, 毛孔性 苔癬	1～数回塗擦

4. 外皮用薬〔鎮痛・鎮痒・収斂・消炎〕

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オイラックス ＜クロタミトン＞ (ハル信)		クリーム(500g) ¥4.1/ g	湿疹, じん麻疹, 神経 皮膚炎, 皮膚掻痒症, 小児スリム	1日数回塗布, 塗擦
グリメサゾン ＜デキサメタゾン, グ リテール＞ (第一三共)		軟膏(5g) ¥197.5/本	湿疹・皮膚炎群(進行 性指掌角皮症, ビター ル苔癬, 放射線皮膚 炎, 日光皮膚炎を含 む), 皮膚掻痒症, 尋 常性乾癬, 虫さされ	1日1～数回塗布, 塗擦, 貼付
サトウザルベ ＜亜鉛華軟膏＞ (佐藤)		10%軟膏(500g) ¥2.16/ g	皮膚疾患の収斂・消 炎・保護・防腐	1日1～数回塗擦, 貼付
フェノール亜鉛華リニ メント(カチリ) ＜配合剤＞ (健栄)		リメント ¥1.7/ g	皮膚掻痒症, 汗疹, 蕁 麻疹, 小児スリム, 虫 さされ	1日1～数回塗布
レスタミン ＜ジフェンヒドラミン ＞ (興和創薬)		クリーム(1kg) ¥3.05/ g	蕁麻疹, 湿疹, 小児ス リム, 皮膚掻痒症, 虫 さされ	数回患部に塗布

5. 外皮用薬〔副腎皮質ホルモン剤〕

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【mild】				
アルメタ ＜アルクロメタゾン＞ (オノギ)		軟膏(5g) ¥182/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリマトーシス, その他	【DI照会参照】
キンダベート ＜クロベタゾン＞ (ゲラクリ・スミスクライン)		軟膏(5g) ¥158.5/本	湿疹・皮膚炎群	
リドメックス ＜プレドニゾン＞ (興和創薬)		軟膏(5g) ¥106/本 ローション(10g) ¥212/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症	
ロコイド ＜ヒドロコルチゾン＞ (鳥居)		クリーム(5g) ¥75/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌蹠膿胞症	
【strong】				
ドレニゾン ＜フルドロキシコルチド＞ (大日本住友)		テープ(7.5cm×10cm/枚) ¥79.8/枚	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 慢性円板状エリマトーシス, 皮膚アモイブーシス, その他	【DI照会参照】
リンデロンV ＜ベタメタゾン＞ (オノギ)		軟膏(5g) ¥137/本	湿疹・皮膚炎群, 乾癬, 掌蹠膿胞症, その他	
リンデロンVG ＜ベタメタゾン, ゲンタマイシン＞ (オノギ)		ローション(10mL) ¥272/本		

5. 外皮用薬〔副腎皮質ホルモン剤〕

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【very strong】				
アンフラベート ＜ベタメタゾン＞ (日医工)		クリーム(5g) ¥69/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌跖膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚7ミロイドーシス, 天疱瘡・類天然痘, その他	【DI照会参照】
		軟膏(5g) ¥69/本		
		ローション(10g) ¥138/本		
トプシム ＜フルオシノニド＞ (田辺三菱)		クリーム(5g) 【院外のみ】 ¥118.5/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌跖膿胞症, その他	
ネリゾナ ＜ジフルコルトロン＞ (パリエル)		ソリューション(10mL) ¥276/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌跖膿胞症, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚7ミロイドーシス, その他	
		軟膏(5g) ¥138/本		
		ユニバーサルクリーム(5g) ¥138/本		
マイザー ＜ジフルプレドナート＞ (田辺三菱)		クリーム(5g) ¥104/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌跖膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚7ミロイドーシス, その他	
		軟膏(5g) ¥104/本		
【strongest】				
デルモベート ＜クロベタゾール＞ (ゲラク・スミスクライン)		スカルプ(10g) 【院外のみ】 ¥328/本	湿疹・皮膚炎群, 乾癬	【DI照会参照】
		軟膏(5g) ¥143.5/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌跖膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚7ミロイドーシス, 天疱瘡・類天然痘, その他	

6. 外皮用薬 [化膿性疾患用剤]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■細菌性				
アクアチム ＜ナジフロキサシン＞ (大塚)		クリーム(10g) ¥377/本	①表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, ②ざ瘡(化膿性炎症 を伴うもの)	①1日2回塗布 ②1日2回洗顔後塗布
		軟膏(10g) ¥377/本	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症	1日2回塗布
クロマイP ＜配合剤: プレドニゾ ロン・クロラムフェニ コール・フラジオマイ シン＞ (第一三共)		軟膏(25g) ¥897.5/本	湿疹・癬・結核, 二 次感染を伴う湿疹・ 皮膚炎群, 熱傷	1日1～数回塗布, 塗擦
ゲーベン ＜スルファジアジン銀 ＞ (田辺三菱)		クリーム(100g) ¥12.6/g	熱傷, 皮膚潰瘍	1日1回塗布, 貼付
ゼビアックス ＜オゼノキサシン＞ (マル林)		ローション2%(10g) ¥822/本	①表在性皮膚感染症 ②ざ瘡(化膿性炎症 を伴うもの)	①1日1回塗布 ②1日1回洗顔後塗布
ソフラチュール ＜フラジオマイシン＞ (サノフィ)		ガーゼ(10×10cm /枚) ¥56.7/枚	外傷・熱傷・その他の 二次感染	1～数枚貼付
バラマイシン ＜バシトラシン, フラ ジオマイシン＞ (小野薬品)		軟膏(10g) ¥70/本	膿疱疹, 毛のう炎, 尋 常性毛瘡, せつ, よ う, その他の膿皮症, 外傷・熱傷・その他の 疾患によるびらん・ 潰瘍及び術後の二次 感染, 感染予防, 腋臭 症	1日1～数回塗布, 貼付
フシジンレオ ＜フシジン酸ナトリウ ム＞ (第一三共)		軟膏(10g) ¥176/本	膿皮症, 外傷・熱傷・ 縫合創・植皮創にお ける二次感染	1日数回適量を患部に塗布, 貼付
ロゼックスゲル ＜メトロニダゾール＞ (ガルデマ)		ゲル0.75%(50g) ¥5070/本	がん性皮膚潰瘍部位 の殺菌・臭気の軽減	1日1～2回潰瘍面を清拭後塗布
■ウイルス性				
アラセナA ＜ピダラビン＞ (持田)		軟膏(5g) ¥1523/本	帯状疱疹, 単純疱疹	1日1～4回塗布, 貼付
ベセルナ ＜イミキモド＞ (持田)		クリーム(250mg/包) ¥1168.5/包	①尖圭コンジローマ(外 性器又は肛門周囲に 限る) ②日光角化症(顔面 又は禿頭部に限る)	適量を1日1回, 週3回, 就寝前に塗布 塗布後はそのままの状態を保ち, 起床後に塗 布した薬剤を石鹸を用い, 水又は温水で洗い 流す ①疣贅部位に塗布 ②治療部位に塗布, 4週間塗布後4週間休業し, 効果不十分の場合はさらに4週間塗布

7. 外皮用薬〔寄生性皮膚疾患用薬〕

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

【白癬用】

サリチル酸ワセリン ＜サリチル酸＞ (東豊)		軟膏(10%, 500g) ¥2.54/g	白癬(頭部浅在性白癬, 小水疱性斑状白癬, 汗疱状白癬, 頑癬), 癬風	1~2回塗布

【白癬・カンジダ用】 イミダゾール系

アスタット ＜ラノコナゾール＞ (マル林)		軟膏(1%, 10g) ¥377/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 間擦 疹・指間びらん症, 爪囲炎	1 日 1 回
ニゾラル ＜ケトコナゾール＞ (ヤンセンファーマ)		クリーム(2%, 10g) ¥369/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 間擦 疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑, 脂漏性皮膚炎	
		ローション(2%, 10g) ¥369/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 間擦 疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑	
ルリコン ＜ルリコナゾール＞ (ボーマファルマ)		液(1%, 10mL) ¥549/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 皮膚 カンジダ症, 間擦疹・ 指間びらん症	
		クリーム(1%, 10g) ¥549/本		
クレナフィン ＜エフィナコナゾール＞ (科研)		爪外用液(10%, 3.56g(4mL)) ¥5900.7/本	爪白癬	1 日 1 回罹患爪全体に塗布

【白癬・カンジダ用】 その他

ゼフナート ＜リラナフタート＞ (鳥居)		クリーム(2%, 10g) ¥408/本	足白癬, 体部白癬, 股部白癬	1日1回
ペキロン ＜アモロルフィン＞ (杏林)		クリーム(0.5%, 10g) 【院外のみ】 ¥356/本	足部白癬, 股部白癬, 手部白癬, 体部白癬, 癬風, 皮膚カンジダ症, 間擦疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑, 爪囲炎	
ラミシール ＜テルビナフィン＞ (ハルティス)		クリーム(1%, 10g) ¥357/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 皮膚カンジダ症, 間擦疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑	

8. 外皮用薬 [その他]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アトピー性皮膚炎治療剤				
プロトピック小児用 ＜タクロリムス＞ (アステラス)		軟膏(0.03%, 5g) 【院外のみ】 ¥701.5/本	アトピー性皮膚炎	1～2回塗布 【Max:5g/回】
プロトピック ＜タクロリムス＞ (アステラス)		軟膏(0.1%, 5g) ¥589/本		

8. 外皮用薬〔その他〕

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イオウ・カンフルローション ＜イオウ・カンフル＞ (丸石)		液(100mL) ¥251/本	ざ瘡, 酒さ	1日2回塗布 朝は上澄み液, 夜は混濁液を使用
エキザルベ ＜ヒドロコルチゾン配合剤＞ (マル林)		0.25%軟膏(5g) ¥109.5/本 0.25%軟膏(100g) 【院外のみ】 ¥21.9/g	湿疹・皮膚炎群, 熱傷, 術創, 湿疹様変化を伴う膿皮症	1～数回患部に塗布塗擦, 貼付
ザーネ ＜ビタミンA油＞ (エーザイ)		軟膏(0.5%, 500g) ¥3.3/g	角化性皮膚疾患	2～3回塗擦
ディフェリン ＜アダパレン＞ (塩野義)		ゲル(15g) 【院外のみ】 ¥1813.5/本	尋常性ざ瘡	1日1回洗顔後塗布
ヒルドイドソフト ＜ヘパリン類似物質＞ (マル林)		軟膏(25g) ¥592.5/本	皮脂欠乏症, 進行性指掌角皮症, 凍瘡, 肥厚性瘢痕・加齢, 血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患, 血栓性静脈炎(痔核を含む), 外傷後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎, 筋性斜頸	1～数回塗擦, 貼付
ヒルドイドローション ＜ヘパリン類似物質＞ (マル林)		(25g) ¥592.5/本		
フロジン ＜カルプロニウム＞ (第一三共)		5%液(30mL) 【院外のみ】 ¥909/本	脱毛防止・発毛促進, 乾性脂漏, 尋常性白斑	2～3回塗布
ベピオ ＜過酸化ベンゾイル＞ (マル林)		ゲル(15g) 【院外のみ】 ¥1813.5/本	尋常性ざ瘡	1日1回洗顔後塗布
ヘマンジオール ＜プロプラノロール塩酸塩＞ (マルホ)	S Y小児用(3.75mg/mL) ¥260.70/mL		乳児血管腫	1mg～3mg/kg分2、空腹時を避けて経口投与 1mg/kg/日から開始、2日以上の間隔をあけ1mg/kgずつ増量、3mg/kg/日で維持
ペルニオ軟膏 ＜配合剤＞		軟膏 【院内製剤】	凍瘡	塗布

9. 外皮用薬 [製剤原料]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オリブ油 ＜オリブ油＞ (健栄)		(25mL) ¥2.75/mL	軟膏剤, 硬膏剤, リント剤などの基剤, 皮膚粘膜の保護	乳剤, 軟膏, 基剤, また塗擦剤として脱脂綿, ガーゼ等に浸して用いる
親水軟膏 ＜親水軟膏＞ (健栄)		軟膏(500g) ¥2.31/g	軟膏剤の基剤, 皮膚の保護剤	
水酸化カリウム ＜水酸化カリウム＞ (北薬)		5%液 【院内製剤】		
白色ワセリン ＜白色ワセリン＞ (健栄)		(500g) ¥2.34/g	軟膏剤の基剤, 皮膚の保護剤	

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アルコール系				
エタノール ＜エタノール＞ (健栄)		95%液(500mL) ¥1.69/mL	【消毒剤指針参照のこと】	
消毒用エタプロコール ＜エタノール：76.9～81.4vol%, 及び添加物としてイソプロパノール＞ (丸石)		76.9～81.4%液(500mL) ¥0.63/mL		
エレファコットンエコE ＜エタノール＞ (ハグザウ)		4cm×4cm100枚 ¥400/箱		
ハイポエタノール ＜チオ硫酸ナトリウム、ゲラニオール変性アルコール＞ (アトルファーマ)		2%液(500mL) ¥0.68/mL		
無水エタノール ＜エタノール＞ (丸石)		99.5%液(500mL) ¥17.8/mL		

■アルデヒド系

ディスオーパ ＜フタラール＞ (ジ・ヨンソク・イント・ジ・ヨンソク)		0.55%液(3.8L) ¥8000/本	【消毒剤指針参照のこと】	
パラホルムアルデヒド ＜ホルムアルデヒド＞ (和光)		顆粒(くん蒸用) ¥2000/本		
ホルマリン ＜ホルムアルデヒド＞		5%ホルマリンアルコール 【院内製剤】		
ホルマリン ＜ホルムアルデヒド＞ (健栄)		液(500mL) ¥0.88/mL		

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヨウ素系				
希ヨードチンキ ＜ヨードチンキ, エタノール＞ (丸石)		チンキ(500mL) ¥1.41/mL	【消毒剤指針参照のこと】	
複方ヨードグリセリン ＜ヨードグリセリン＞ (丸石)		液(500mL) ¥1.67/mL		
ポビドンヨード ＜ポビドンヨード＞ (Meiji Seika ファルマ)		10%液(250mL) ¥295/本		
		10%ゲル(4g) ¥16.56/本		
ポビドンヨードスクラブ ＜ポビドンヨード＞ (Meiji Seika ファルマ)		7.5%液(500mL) ¥1145/本		
ヨードホルムガーゼ ＜ヨードホルム＞ (ハザウ)		ガーゼ(30cm×8m) ¥8000/瓶		
■塩素系				
ニューアロマ ＜次亜塩素酸ナトリウム＞ (丹平)		5%液(1.8L) ¥390/本	【消毒剤指針参照のこと】	
■陽性界面活性剤				
ウエルパス ＜ベンザルコニウム, エタノール＞ (丸石)		0.2%液(300mL) ¥1470/本	【消毒剤指針参照のこと】	
		0.2%液(1L) ¥4750/本		
デアミトール水 ＜ベンザルコニウム＞ (丸石)		0.025%液(500mL) ¥280/本		
		0.025%液(5L) ¥2800/本		
デアミトール ＜ベンザルコニウム＞ (丸石)		10%液(500mL) ¥320/本		
■両性界面活性剤				
エルエイジー１０ ＜アルキルジアミノエチルグリシン＞ (吉田)		10%液(500mL) ¥335/本	【消毒剤指針参照のこと】	

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビグアナイド系				
ウエルアップハンドロ ーション1% ＜クロルヘキシジンゲ ルコン酸塩＞ (丸石製薬)		1%液(1L)	【消毒剤指針参照の こと】	
ヒビスクラブ ＜クロルヘキシジン＞ (大日本住友)		4%液(500mL) ¥3600/本		
ヒビスコール液A(噴射 ポンプ付) ＜クロルヘキシジン, エタノール＞ (サヤ)		0.2%, 83%液(1L) ¥3350/本		
ヒビテン ＜クロルヘキシジン＞ (大日本住友)		5%液(500mL) ¥950/本		
ヒビテングルコネート ＜クロルヘキシジン＞ (大日本住友)		20%液(100mL) ¥492/本		
マスクインR・エタノール ＜クロルヘキシジン, エタノール＞ (丸石)		0.5%液(500mL) ¥315/本		
マスクイン水 ＜クロルヘキシジン＞ (丸石)		0.05%液(500mL) ¥285/本		
■過酸化物系				
アセサイド ＜過酢酸＞ (リンパ・メディカルシステム ズ)		第一液:750mL(6 %過酢酸液), 第二液:750mL (pH調整及び安 定化) ¥13000/セット	【消毒剤指針参照の こと】	
オキシフル ＜オキシドール＞ (第一三共)		液(500mL) ¥385/本		
■フェノール系				
液状フェノール ＜フェノール＞ (丸石)		液(500mL/本) ¥650/瓶	【消毒剤指針参照の こと】	

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■色素系				
アクリノール ＜アクリノール＞ (健栄)		0.02%液(500mL) 【院内製剤】 0.1%液(500mL) ¥335/本	【消毒剤指針参照のこと】	
■石鹼				
カリ石鹼 ＜カリ石鹼＞ (エース)		10%液 【院内製剤】	【消毒剤指針参照のこと】	
■その他				
イオウ・サリチル酸・ チアントール ＜イオウ配合剤＞ (丸石)		軟膏(500g) ¥6/g	【消毒剤指針参照のこと】	
BBオイラックス ＜クロタミトン, 安息香酸＞		軟膏 【院内製剤】		

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ X線造影剤 ◆イオン (ヨード系)				
ウログラフィン60% ＜アミドトリゾ酸＞ (パイル)		20mL/管 ¥479/管	逆行性尿路撮影, 内視鏡的逆行性膵胆管撮影, 経皮経肝胆道撮影, 関節撮影	【DI照会参照】
ピリスコピンDIC ＜イオトロクス酸メグルミン＞ (パイル)		100mL/瓶 ¥2386/瓶	胆のう・胆管撮影	1回100mL, 30～60分点滴静注

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ X線造影剤 ◆非イオン(3-ド系)				
イオパミロン300 ＜イオパミドール＞		20mL/瓶 ¥1668/瓶	脳血管撮影, 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影, 逆行性尿路撮影	【D1照会参照】
(パイル)		100mL/瓶 ¥6615/瓶		
イオパミロン300シリンジ ＜イオパミドール＞		100mL/筒 ¥6754/筒		
(パイル)				
イオパミロン370 ＜イオパミドール＞		20mL/瓶 ¥1862/瓶		
(パイル)		100mL/瓶 ¥6633/瓶		
イオパミロン370シリンジ ＜イオパミドール＞		100mL/筒 ¥7765/筒		
(パイル)				
イオプロミド300注シリンジ「FRI」 ＜イオプロミド＞		100mL/筒 ¥6299/筒	脳血管撮影, 胸部血管撮影, 腹部血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	【D1照会参照】
(富士フイルムRIFAーマ)				
イオプロミド370注シリンジ「FRI」 ＜イオプロミド＞		100mL/筒 ¥7251/筒		
(富士フイルムRIFAーマ)				
イソピスト240 ＜イオトロラン＞		10mL/瓶 ¥6139/瓶	脊髓撮影, 脊髓撮影コンピュータ断層撮影における脳室, 脳槽, 脊髓造影	
(パイル)				
オイパロミン300 ＜イオパミドール＞		20mL/瓶 ¥1025/瓶	脳血管撮影, 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影, 逆行性尿路撮影	
(富士製薬)		50mL/瓶 ¥2122/瓶		
		100mL/瓶 ¥4085/瓶		
オイパロミン300シリンジ ＜イオパミドール＞		50mL/筒 ¥2792/筒		
(富士製薬)		100mL/筒 ¥4341/筒		

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オイパロミン370 ＜イオパミドール＞ (富士製薬)		20mL/瓶 ¥1114/瓶	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	【DI照会参照】
		50mL/瓶 ¥2185/瓶		
		100mL/瓶 ¥4096/瓶		
オイパロミン370シ リンジ ＜イオパミドール＞ (富士製薬)		100mL/筒 ¥4913/筒		
オムニパーク240 ＜イオヘキソール＞ (第一三共)		10mL/瓶 ¥807/瓶	コンピューター断層撮影による脳槽造影, コンピューター断層撮影による脊髄造影, 頸部脊髄撮影, 胸部脊髄撮影, 腰部脊髄撮影	
オムニパーク300PB ＜イオヘキソール＞ (第一三共)		100mL/瓶 ¥6933/瓶	脳血管撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	
オムニパーク300シ リンジ ＜イオヘキソール＞ (第一三共)		50mL/筒 ¥3879/筒		
		100mL/筒 ¥6787/筒		
		150mL/筒 ¥10755/筒		
オムニパーク350シ リンジ ＜イオヘキソール＞ (第一三共)		100mL/筒 ¥7865/筒	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影, 小児血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む)	
ビジパーク270 ＜イोजキサノール＞ (第一三共)		20mL/瓶 ¥1944/瓶	脳血管撮影, 四肢血管撮影, 逆行性尿路撮影, 内視鏡的逆行性膵胆管撮影	

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ X線造影剤 ◆油性 (ヨード系)				
リピオドールウルトラ フルイド ＜ヨード化ケシ油＞ (テルモ)		10mL/管 ¥7421/管	リンパ系撮影, 子宮卵 管撮影, 医薬品又は 医療機器の調製	【DI照会参照】
■ X線造影剤 ◆経口 (ヨード系)				
ガストログラフィン ＜アミドトリゾ酸＞ (バ イエル)	100mL ¥15.1/mL		消化管撮影, コンピュ ー断層撮影における 上部消化管造影	【DI照会参照】
■ X線造影剤 ◆経口 (非ヨード系)				
エネマスター注腸 ＜硫酸バリウム＞ (伏見)	散 (98.1%/35 0g) 【用時購入】 ¥514.5/本		消化管 (大腸) 撮影	検査部位及び検査方法に応じ, 本剤 の適量に適量の水 (200mL～2000mL) を加えて適当な濃度 (20～130w/v%) とし, その適量を注腸する。 【DI照会参照】
コロنفォート ＜硫酸バリウム＞ (伏見製薬)	内用懸濁液 (2 5%32mL/瓶) ¥501.60/瓶		腸内容物の標識によ る大腸コンピュータ ー断層撮像の補助	1回32mL (硫酸バリウムとして8g) を検査前日から毎食後に3回経口投 与。
バムスターS100 ＜硫酸バリウム＞ (カイケンファーマ)	液100% (400mg /400mL/本) ¥528/本		消化管撮影	検査部位及び検査方法に応じ, 本剤 をそのまま又は本剤の適量に適量の水 を加えて適当な濃度とし経口投与 又は注腸 【DI照会参照】
バリテスターA ＜硫酸バリウム＞ (伏見)	散 (98.5%/35 0g) 【用時購入】 ¥490/本		食道・胃・十二指腸 二重造影撮影	100gに対し水18～26mLを加えて200w /v%～240w/v%の濃度の懸濁液とし、 経口投与。 【DI照会参照】
	散 (98.5%/1. 2kg/本) 【用時購入】 ¥1680/本			
	散 (98.5%/3. 6kg/本) 【用時購入】 ¥5040/本			

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■MRI用造影剤				
EOB・プリモビスト ＜ガドキセト酸ナトリウム＞		5mL/筒 ¥14042/筒	磁気共鳴コンピュータ断層撮影における肝腫瘍の造影	0.1mL/kg静注
(パイル)		10mL/筒 ¥20917/筒		
オムニスキャンシリンジ ＜ガドジアミド＞		10mL/筒 ¥5352/筒		0.2mL/kg静注, (腎臓の場合0.1mL/kg)
(第一三共)		15mL/筒 ¥7614/筒		
ガドピストシリンジ ＜ガドブトロール＞		5mL/筒 ¥5114/筒	磁気共鳴コンピュータ断層撮影における脳・脊髄造影, 躯幹部・四肢造影	0.1mL/kg静注
(パイル)		7.5mL/筒 ¥7457/筒		
		10mL/筒 ¥9745/筒		
ボースデル ＜塩化マンガン＞	10mg/250mL/袋 ¥1080.6/袋		磁気共鳴胆道膵管撮影における消化管陰性造影	250mL(1袋)を経口投与
マグネスコープシリンジ ＜ガドテル酸メグルミン＞		10mL/筒 ¥5271/筒	磁気共鳴コンピュータ断層撮影における脳・脊髄造影, 躯幹部・四肢造影	0.2mL/kg静注, (腎臓の場合0.1mL/kg)
(テルモ)		15mL/筒 ¥7007/筒		
		20mL/筒 ¥9206/筒		
■超音波診断用造影剤				
ソナゾイド ＜ペルフルブタンマイクロバブル＞		16μL/瓶 ¥13372/瓶	超音波検査における肝腫瘍性病変の造影	0.015mL/kgを静脈内投与
レボピスト ＜ガラクトース・パルミチン酸混合物＞		2.5g/瓶 ¥9564/瓶	①心エコー図検査における造影 ②ドプラ検査における造影 ③子宮卵管エコー図検査における造影	①濃度300mg/mLで5mL静注 ②心臓血管：濃度200mg/mLで4～8mL, 頭・頸部, 躯幹部・四肢：300mg/mLで5mL静注 ③濃度200mg/mLで5～18mL子宮腔内投与
(パイル)				

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■造影補助剤 ◆経口				
ニフレック ＜配合剤＞ (味の素)	137.155g/包 (2L分) ¥1071.9/包		大腸内視鏡検査、バリウム注腸X線造影検査及び大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解2Lとし、約1L/時間で経口、排泄液が透明になった時点で投与終了【Max:4L/2袋】
バリエース発泡顆粒 ＜炭酸水素ナトリウム、酒石酸＞ (伏見)	5g/本 ¥70.5/本		胃・十二指腸の透視・撮影の造影補助	100～400mLの炭酸ガスの発生量に相当する量を経口
マグコロールP ＜クエン酸マグネシウム＞ (堀井)	50g/包 ¥390/包		大腸検査(X線・内視鏡)前処置における腸管内容物の排除、腹部外科手術時における前処置用下剤	＜高張液投与＞ 40～50g(水120～150mLに溶解)を検査予定時10～15時間前に経口 ＜等張液投与＞ 100gを水に溶解し全量1800mLとし検査予定時間の4時間以上前に200mLずつ約1時間かけて経口
モビブレップ ＜配合剤＞ (味の素)	244.212g/袋 (2L分) ¥2259.3/袋		大腸内視鏡検査・大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とし、約1L/時間で経口投与 約1L投与した後、水又はお茶を約0.5L飲用 排泄液が透明になった時点で投与を終了し、投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用する。【Max:2L/1袋】
■造影補助剤 ◆注射				
コアベータ ＜ランジオロール＞ (小野薬品)		12.5mg/瓶 ¥2709/瓶	コンピュータ断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善	0.125mg/kg/回, 1分間で静注

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■機能診断用薬				
アルギニン ＜アルギニン＞ (味の素)		300mL/袋 ¥2136/袋	下垂体機能検査	5mL/kg, 点静
アンチレクス ＜エドロホニウム＞ (杏林)		10mg(1mL)/管 ¥115/管	①重症筋無力症の診断 ②筋弛緩剤投与後の遷延性呼吸抑制の作用機序の鑑別	①10mg/回静注 (2mgを15～30秒かけて注射, 45秒後反応をみて必要に応じて8mg注射) ＜小児＞0.5～1mg静注 ＜小児＞体重35kg未満1mg(追加5mg迄) ②5～10mg/回30～40秒静注 (判定:改善されれば非脱分極性ブロック, 増強されれば脱分極性ブロック) 必要あれば5～10分以内に同量を反復投与
インジゴカルミン ＜インジゴカルミン＞ (第一三共)		20mg/管(5mL) ¥241/管	①腎機能検査(分腎機能測定による) ②乳癌, 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定	①20～40mg静注後, 膀胱鏡で初排泄時間調べる ②乳癌:20mg以下を皮下投与 悪性黒色腫:4～12mgを皮内投与
LH-RH ＜ゴナドレリン＞ (田辺三菱)		0.1mg/管 ¥3840/管	下垂体LH分泌機能検査	0.1mg/回, 皮下・筋注・静注
エルゴメトリンF ＜エルゴメトリン＞ (富士製薬)		0.2mg/管(1mL) ¥92/管	【適応外】冠攣縮の誘発	【DI照会参照】
グルカゴン ＜グルカゴン＞ (味の素)		1単位/瓶(溶解液1mL付) ¥1753/瓶	①成長ホルモン分泌機能検査 ②インスリンの診断 ③肝糖原検査 ④低血糖時の救急処置 ⑤消化管X線・内視鏡検査の前処置	①1単位又は0.03単位/kg, 皮下・筋注 ②1単位, 静注 ③1単位, 3分で静注 ＜小児＞0.03単位/kg, 筋注 ④1単位, 筋注・静注 ⑤0.5～1単位, 筋注・静注
ジアグノグリーン ＜インドシアニングリーン＞ (第一三共)		25mg/瓶 ¥588/瓶	①肝機能検査 ②循環機能検査 ③脳神経外科手術時における脳血管の造影 ④乳癌, 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定	①0.5mg/kg, 静注 ②【DI照会参照】 ③5mLの注射用水で溶解後, 0.1～0.3mg/kg静注 ④5mLの注射用水で溶解後, 乳癌:5mL以下, 皮下投与 悪性黒色腫:1mL, 皮内投与
CRH ＜コルチコレリン＞ (田辺三菱)		100 μ g/瓶(溶解液1mL付) 【用時購入】 ¥19631/瓶	視床下部・下垂体・副腎皮質系ホルモン分泌機能検査	100 μ g静注 ＜小児＞1.5 μ g/kg
注射用GHRP科研 ＜ラルモレリン＞ (科研製薬)		100 μ g/瓶 ¥8392/瓶	成長ホルモン分泌不全症の診断	4歳以上18歳未満では2 μ g/kg(但し、体重が50kgを超える場合は100 μ g)を、18歳以上では100 μ gを空腹時、静脈内に緩徐に注射
ヒルトニン ＜プロチレリン＞ (武田)		0.5mg(1mL)/管 ¥1995/管	①下垂体TSH分泌機能検査 ②頭部外傷・くも膜下出血(意識障害固定期間3週間以内)に伴う昏睡・半昏睡を除く遷延性意識障害 ③脊髄小脳変性症における運動失調の改善	①0.5mg分1静注・皮下 ②＜頭部外傷＞0.5～2mg分1静注・点静10日間 ＜くも膜下出血＞2mg分1静注・点静10日間 ③0.5～2mg分1, 筋注・静注, 2～3週間投与後2～3週間休薬, 以後反復投与又は週2～3回

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他の診断用薬				
ゴナスティックW (持田製薬)		20テスト/箱 ¥6000/箱	妊娠診断の補助	尿に3秒間浸し、3～4分後判定
精製ツベルクリン1人用 ＜精製ツベルクリン＞ (ビーズ・ザ・ライ)		0.25 μ g/瓶 ¥795/瓶	結核の診断	0.1mL皮内注
トレランG ＜デンプン部分加水分解物＞ (味の素)		75g/瓶(225mL) ¥205.1/瓶	糖尿病診断時の糖負荷試験	75g/回, 経口 ＜小児＞1.75g/kg/回
フルオレサイト ＜フルオレセイン＞ (日本7ルン)		500mg/瓶 ¥1174/瓶	葡萄膜・網膜・視神経等の疾患の診断	200～500mg肘静注
プロナーゼMS ＜プロナーゼ＞ (科研)	散(2万単位/ 0.5g/包) ¥132.3/包		色素散布法による胃内視鏡検査における胃内粘液の溶解除去	2万単位/回, 検査15～30分前, 炭酸水素ナトリウム1gと共に50～80mLの水に溶かし経口
ミンクリア ＜リーメントール＞ (日本製薬)		20mL/筒 ¥882.5/筒	上部消化管内視鏡時の胃蠕動運動の抑制	20mLを内視鏡の鉗子口より胃幽門前庭部に散布
ユービット ＜尿素(13C)＞ (大塚)	100mg/錠 ¥2825.7/錠		ヘリコバクター・ピロリの感染診断 (13C-尿素呼吸試験法薬)	100mg(1錠)を空腹時に100mLの水で, 経口投与
アラベル ＜アミノレブリン酸塩酸塩＞ (ノーベルファーマ)	1.5g/瓶 ¥90377.8/瓶		悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化	20mg/kgを手術時の麻酔導入前3時間(範囲: 2～4時間)に水に溶解して経口投与

1. 生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ワクチン類				
アクトヒブ ＜乾燥ヘモフィルス b 型ワクチン＞ (第一三共)		10 μ g/瓶 (溶解 液0.5mL付) ¥4500/瓶	インフルエンザ [*] 菌b型によ る感染症の予防	添付溶剤0.5mLで溶解し、その全量 を使用 初回免疫：4～8週間の間隔で3回皮 下（必要時3週間隔も可） 追加免疫：初回免疫後の1年の間隔 において1回皮下
イモバックスポリオ皮 下注 ＜不活化ポリオワクチ ン＞ (サノフィ・スール)		0.5mL/シリンジ [*] ¥5450/シリンジ [*]	急性灰白髄炎の予防	＜初回免疫＞0.5mL/回皮下、生後3ヶ月 から初回接種開始し、3週間以上間隔 において3回接種 ＜追加免疫＞初回免疫から6ヶ月以上 の間隔で0.5mL、1回皮下
インフルエンザHAワ クチン ＜インフルエンザHA ワクチン＞		0.25mL/筒 ¥3500/回	インフルエンザ [*] の予防	＜アストラ(1mL)＞ ＜田辺三菱(0.5mL、1mL)＞ 2～4週間の間隔において2回皮下、 6ヶ月以上3歳未満0.25mL/回、 3歳以上13歳未満0.5mL/回、 1回又は1～4週間の間隔において2回皮下、 13歳以上0.5mL/回 ＜第一三共(0.25mL、0.5mL、1mL)＞ 2～4週間の間隔において2回皮下、 1歳以上3歳未満0.25mL/回、 3歳以上13歳未満0.5mL/回、 1回又は1～4週間の間隔において2回皮下、 13歳以上0.5mL/回
		0.5mL/筒 ¥3500/回		
		1mL/瓶 ¥3500/回		
乾燥弱毒生おたふくか ぜワクチン ＜乾燥弱毒生おたふく かぜワクチン＞ (武田)		0.7mL/瓶 ¥2830/瓶	おたふくかぜの予防	0.5mL、1回皮下 1歳以上(24～60ヵ月)
クアトロバック皮下注 シリンジ ＜沈降精製百日せきジ フテリア破傷風不活化 ポリオ（セービン株） 混合ワクチン＞ (化血研)		0.5mL/シリンジ [*] ¥6500/シリンジ [*]	百日せき、ジフテリア、破 傷風及び急性灰白髄 炎の予防	＜初回免疫＞小児に0.5mL/回皮下、3週 間以上の間隔で3回 ＜追加免疫＞初回免疫から6ヶ月以上 の間隔で0.5mL、1回皮下
サーバリックス ＜組換え沈降2価ヒト パピローマウイルス様 粒子ワクチン＞ (グラクサ・ミスクライン)		0.5mL/シリンジ [*] 【用時購入】 ¥16800/回	ヒトパピローマウイルス（HP V）16型及び18型感 染に起因する子宮頸 癌（扁平上皮細胞 癌、腺癌）及びその 前駆病変（子宮頸部 上皮内腫瘍（CIN）2 及び3）の予防	10歳以上の女性に1回0.5mLを0、1、6 ヵ月後、上腕の三角筋部に筋注
ジェービックV ＜乾燥細胞培養日本脳 炎ワクチン＞ (田辺三菱)		0.7mL/瓶 ¥3250/瓶	日本脳炎の予防	＜初回免疫＞0.5mL/回皮下、1～4週間 間隔で2回 3歳未満0.25mL/回 ＜追加免疫＞初回免疫から約1年後に 0.5mL、1回皮下 3歳未満0.25mL/回
乾燥弱毒生水痘ワクチ ン ＜乾燥弱毒生水痘ワク チン＞ (田辺三菱)		0.7mL/瓶 ¥4500/瓶	水痘及び50歳以上の 者に対する帯状疱疹 の予防	0.5mL、1回皮下

1. 生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT) ＜沈降ジフテリア破傷風混合ワクチン＞ (化血研)		1mL/瓶 ¥1750/瓶	ジフテリア, 破傷風の予防	＜初回免疫＞0.5mL/回皮下, 3～8週毎2回 10歳以上0.1mL/回 ＜追加免疫＞初回免疫後12～18ヵ月間に0.5mL, 1回, 10歳以上0.1mL以下/回
沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン(DPT) ＜沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン＞ (第一三共)		0.5mL/シリンジ* ¥1400/シリンジ*	百日咳, ジフテリア, 破傷風の予防	＜初回免疫＞0.5mL/回皮下, 3～8週毎3回 ＜追加免疫＞初回免疫後12～18ヵ月間に0.5mL, 1回
ニューモバックスNP ＜肺炎球菌ワクチン＞ (MSD)		0.5mL/瓶 【用時購入】 ¥4666/瓶	2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険性が高い次のような患者・個人, i. 脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防, ii. 肺炎球菌による感染症の予防(保険適応外)	0.5mL/回皮下, 筋注
ビームゲン ＜B型肝炎ワクチン＞ (化血研)		0.25mL/瓶 ¥2154/瓶	①B型肝炎の予防 ②B型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用) ③HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)	①0.5mLずつ4週間間隔で2回, 20～24週経過後1回皮下, 筋注 ＜10歳未満＞0.25mL/回 ②生後2～3ヶ月後, 及び初回注射後1ヶ月後, 3ヶ月後に0.25mL/回皮下 ③事故発生後7日以内及び初回注射後1ヶ月後, 3ヶ月後0.5mL/回皮下, 筋注 ＜10歳未満＞0.25mL/回
		0.5mL/瓶 ¥2390/瓶		
乾燥弱毒生風疹ワクチン ＜乾燥弱毒生風疹ワクチン＞ (武田)		0.7mL/瓶 ¥2830/瓶	風疹の予防	0.5mL, 1回皮下
プレベナー ＜沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン＞ (ファイザー)		0.5mL/シリンジ* ¥7200/本	①高齢者: 肺炎球菌(血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F及び23F)による感染症の予防 ②小児: 肺炎球菌(血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F及び23F)による侵襲性感染症の予防	①高齢者: 0.5mL/回筋注 ②小児: ＜初回免疫＞0.5mL/回皮下, 27日間以上の間隔で3回 ＜追加免疫＞初回免疫後60日以上の間隔をおいて0.5mL/回皮下, 1回
乾燥弱毒生麻疹ワクチン ＜乾燥弱毒生麻疹ワクチン＞ (第一三共)		0.7mL/瓶 ¥2800/瓶	麻疹の予防	0.5mL, 1回皮下 第1期: 12～24ヵ月 第2期: 5～7才 第3期: 13才となる年度(平成25年3月31日まで) 第4期: 18才となる年度(平成25年3月31日まで)

1. 生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ミールビック ＜乾燥弱毒生麻疹風疹 混合ワクチン＞ (田辺三菱)		0.7mL/瓶 ¥6050/瓶	麻疹・風疹の予防	0.5mL, 1回皮下
ロタリックス内用液 ＜弱毒性ヒトロタウィ ルスワクチン＞ (第一三共)	液(1.5mL/本) ¥10000/本		ロタウイルスによる胃腸炎 の予防	1.5mL/回経口接種, 生後6週から初回 接種開始し, 少なくとも4週間の間隔 をおいて2回目を接種

■トキソイド類

沈降破傷風トキソイド キット ＜沈降破傷風トキソイ ド＞ (武田)		0.5mL/筒 ¥615/筒	破傷風の予防	＜初回免疫＞筋注, 皮下0.5mL/回, 3～8 週間間隔で2回 ＜追加免疫＞筋注, 皮下0.5mL/回, 初回 免疫後12～18ヶ月の間に

■抗毒素類

乾燥まむし抗毒素 ＜乾燥蝮ウマ抗毒素＞ (化血研)		6000単位/瓶 ¥32981/瓶	蝮咬傷の治療	早期に約6000単位, 症状軽減しない時, 2～3時間後3000 ～6000単位追加筋注(皮下), 静注

2. 血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■グロブリン製剤				
ヴェノグロブリンⅠH ＜人免疫グロブリンG＞ (田辺三菱)		2.5g/50mL/瓶 ¥22295/瓶	①低並びに無γグロブリン血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期(重症であり冠動脈障害の発生の危険がある場合) ⑤多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る) ⑥慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロンを含む)の筋力低下の改善 ⑦全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る) ⑧天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) ⑨血清IgG2値の低下を伴う肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず発症を繰り返す場合に限る) ⑩水疱性類天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) ⑪ギラン・バレー症候群(急性増悪期で歩行困難な重症例)	①200～600mg(4～12mL)/kg/回, 3～4週間隔, 点静または静注 ②2500～5000mg(50～100mL)/回, 点静または静注 ＜小児＞100～150mg(2～3mL)/kg/回 ③200～400mg(4～8mL)/kg/回, 点静または静注 ④400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静または静注 または2000mg(40mL)/kg/回, 点静 ⑤400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静 ⑥400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静または静注 ⑦⑧400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静 ⑨初回300mg(6mL)/kg, 2回目以降200mg(4mL)/kg, 4週間隔 ⑩⑪400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静
ガンマグロブリン ＜人免疫グロブリン＞ (日本製薬)		450mg/瓶 ¥1551/瓶	①低・無γグロブリン血症 ②麻疹・A型肝炎・ポリオの予防・症状の軽減	①100～300mg/kg1回/月筋注 ②15～50mg/kg/回筋注
献血ベニロンⅠ ＜乾燥スルホ化人免疫グロブリン＞ (帝人ファーマ)		500mg/瓶 ¥4889/瓶	①低・無γグロブリン血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期(重症・冠動脈障害の発生危険がある場合) ⑤ギラン・バレー症候群、チャーグ・ストラウス症候群、アレルギー性肉芽腫性血管炎における神経障害の改善	①200～600mg/kg/回静注, 点静3～4週間隔 ②2.5～5g/回静注, 点静【総量10g迄】 ＜小児＞50～150mg/kg/回 ③200～400mg/kg/日 ④200mg/kg/日【5日間】 ⑤400mg/kg/日【5日間】
		2500mg/瓶 ¥22377/瓶		
		5000mg/瓶 ¥43414/瓶		

2. 血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
日赤ポリグロビンN注 5% ＜pH4処理酸性人免疫グロブリン＞ (日赤)		500mg(10mL)/瓶 ¥4877/瓶	①低・無カ・マ・グ・ロ・ブ・リン血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期(重症・冠動脈障害の発生危険がある場合)	①200～600mg/kg/回静注, 点静3～4週間隔 ②2.5～5g/回静注, 点静【総量10g迄】 ＜小児＞50～150mg/kg/回 ③400mg/kg/日静注, 点静 ④200mg/kg/日静注, 点静【5日間】 又は2000mg/kg/回, 点静(12時間以上)
		2.5g(50mL)/瓶 ¥21441/瓶		
日赤ポリグロビンN注 10% ＜pH4処理酸性人免疫グロブリン＞		5g(50mL)/瓶 ¥40438/瓶		
(日赤)		10g(100mL)/瓶 ¥77660/瓶		

■抗HBsグロブリン製剤

乾燥HBグロブリン ＜抗HBs人免疫グロブリン＞ (日本製薬)		1000単位/瓶 ¥36267/瓶	①HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防 ②新生児のB型肝炎予防(沈降B型肝炎ワクチンとの併用)	①5～10mL/回筋注 ＜小児＞0.16～0.24mL/kg, 事故発生48時間(～7日)以内 ②初回:0.5～1.0mL/回筋注 生後12時間(～5日)以内 追加:0.16～0.24mL/kg
ヘパトセーラ筋注200単位 ＜抗HBs人免疫グロブリン＞ (化血研)		200単位/瓶 ¥8996/瓶		

■抗D(Rho)グロブリン製剤

抗Dグロブリン ＜乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン＞ (日本製薬)		1000倍/2mL/瓶 ¥19789/瓶	D(Rho)陰性で以前にD(Rho)因子で感作を受けていない女性に対する、D(Rho)因子投与による感作抑制 ①分娩後、流産後、人工妊娠中絶後、異所性妊娠後、妊娠中の検査・処置後(羊水穿刺、胎位外回転術等)又は腹部打撲後等のD(Rho)感作の可能性がある場合 ②妊娠28週前後	①72時間以内に1瓶筋注 ②1瓶筋注

■抗破傷風グロブリン製剤

テタノブリンIH ＜抗破傷風人免疫グロブリン＞ (田辺三菱)		250単位/瓶 ¥3899/瓶	①破傷風の発症予防 ②発症後の症状軽減のための治療	①250単位静注, 点静 重症外傷例1500単位 ②軽～中等症:1500～3000単位 重症例:3000～4500単位

■ハプトグロビン製剤

ハプトグロビン ＜人ハプトグロビン＞ (田辺三菱)		2000単位/瓶 ¥43569/瓶	熱傷・火傷、輸血、体外循環下開心術等の溶血反応を伴うヘモリチン血症、ヘモグロビン尿症の治療	4000単位/回 点静、灌流液注入

2. 血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■組織接着剤				
タコシール ＜配合剤＞ (CSLベールンゲ)		9.5cm×4.8cm/ 枚 ¥60810.2/枚	組織の接着・閉鎖： (肝臓外科、肺外科、 心臓血管外科、産婦 人科、泌尿器外科領 域)	適切な大きさにし、乾燥状態のまま あるいは生理食塩液でわずかに濡ら し、その活性成分固着面を接着・閉鎖 部位に貼付し、通常3～5分圧迫する。
ベリプラストPコンビ セット ＜配合剤＞ (CSLベールンゲ)		5mL/セット ¥59259.3/セット	組織の接着・閉鎖	組織に対し各1mL/10cm ² を滴下・噴 霧、混合して患部に使用
ボルヒール ＜配合剤＞ (化血研)		0.5mL/セット ¥7338.7/セット		
		3mL/セット ¥35760.6/セット		

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量

【注】中毒時の処置

- ①ベンゾジアゼピン系拮抗薬（アネキセート）：初回0.2mg静注，4分以内に覚醒状態が得られない場合1～2回追加
 ②麻薬拮抗薬（塩酸ナロキソン）：0.2mg/回，効果不十分な場合2～3分間隔で1～2回静注。小児の場合0.01mg/kg

■アヘンアルカロイド系

アンペック ＜モルヒネ＞ (大日本住友) 投与制限：30日		10mg/坐剤 ¥314.3/個		20～120mg分2～4
MSコンチン 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ (オノキ) 投与制限：30日	10mg/錠 ¥241.1/錠		激しい疼痛を伴う各種癌における鎮痛	20～120mg分2
塩酸モルヒネ 【速効性】 ＜モルヒネ＞ (第一三共) 投与制限：30日	10倍散(100mg/g) 【院内製剤】 ¥218.6/g		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静，激しい咳嗽発作における鎮咳，激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管蠕動運動の抑制	5～10mg/回，15mg/日
	10倍散(100mg/g) 【院内製剤】			
塩酸モルヒネ 【速効性】 ＜モルヒネ＞ (大日本住友) 投与制限：30日	10mg/錠 ¥125.8/錠		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静，激しい咳嗽発作における鎮咳，激しい下痢症状の改善および手術後等の腸管蠕動運動の抑制	
塩酸モルヒネ ＜モルヒネ＞ (第一三共)		10mg(1mL)/管 ¥299/管	＜皮下及び静脈内投与＞ 激しい疼痛時における鎮痛・鎮静，激しい咳嗽発作における鎮咳，激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管蠕動運動の抑制，麻酔前投薬，麻酔の補助，中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛 ＜硬膜外及びくも膜下投与＞ 激しい疼痛時における鎮痛，中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	＜皮下及び静脈内投与＞ 5～10～(50～200)mg/回皮下，静注 ＜硬膜外投与＞ 2～6mg/回，硬膜外腔注入，2～10mg/回，硬膜外腔持続注入 ＜くも膜下投与＞ 0.1～0.5mg/回，くも膜下腔注入
		50mg(5mL)/管 ¥1346/管		
		200mg(5mL)/管 ¥4973/管		
オブソ内服液 【速効性】 ＜モルヒネ＞ (大日本住友) 投与制限：30日	5mg(2.5mL)/包 ¥118.2/包		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	30～120mg分6
モルペス 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ (藤本) 投与制限：30日	2%細粒(10mg/0.5g/包) ¥202.8/包		激しい疼痛を伴う各種癌における鎮痛	20～120mg分2

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■合成麻薬				
レミフェンタニル ＜レミフェンタニル＞ (第一三共)		2mg/瓶 ¥1114/瓶	全身麻酔の導入及び維持における鎮痛	【DI照会参照】
アブストラル ＜フェンタニル＞ (協和発酵社) 投与制限：14日	100 μ g/錠 ¥581.8/錠		強壮 ^① オピ ^② 鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛	1回100～800 μ g、舌下投与 1日4回まで【MAX:800 μ g/回】
	200 μ g/錠 ¥811.9/錠			
アルチバ ＜レミフェンタニル＞ (ヤンセンファーマ)		2mg/瓶 ¥2566/瓶	＜成人＞全身麻酔の導入及び維持における鎮痛 ＜小児＞全身麻酔の維持における鎮痛	【DI照会参照】
ケタラール ＜ケタミン＞ (第一三共)		200mg (20mL)/瓶 ¥705/瓶	麻酔導入・維持	
タペンタ ＜タペンタ ドール＞ (ヤンセンファーマ) 投与期限：14日	25mg/錠 ¥108.7/錠		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	50～400mg分2
	50mg/錠 ¥206.3/錠			
ペチジン ＜ペチジン＞ (武田)		35mg (1mL)/管 ¥335/管	①激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮痙 ②麻酔前投薬 ③麻酔の補助 ④無痛分娩	①35～50mg/回、必要時3～4時間毎皮下、筋注 ②50～100mg、麻酔前30～90分前 ③10～15～(50)mg静注 ④【DI照会参照】
メサペイン ＜メサドン＞ (テルモ) 投与制限：14日	5mg/錠 ¥183.4/錠		他の強壮 ^① オピ ^② 鎮痛剤で治療困難な中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	1回5～15mg、1日3回 (他の強オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用)
	10mg/錠 ¥348.2/錠			
デュロテップMTパッチ 【徐放性】 ＜フェンタニル＞ (ヤンセンファーマ) 投与制限：30日		2.1mg/枚 ¥1840.4/枚	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛 中等度から高度の慢性疼痛における鎮痛	1枚/3日毎 (他剤から切り替えて投与)
		4.2mg/枚 ¥3310.9/枚		
フェンタニル ＜フェンタニル＞ (第一三共)		0.1mg (2mL)/管 ¥289/管	全身麻酔、全身麻酔における鎮痛 局所麻酔における鎮痛の補助 激しい疼痛(術後疼痛、癌性疼痛など)に対する鎮痛	【DI照会参照】
フェントステープ 【徐放性】 ＜フェンタニル＞ (協和発酵社) 投与制限：30日		1mg/枚 ¥586.9/枚	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛、中等度から高度の慢性疼痛	1枚/1日毎 (他剤から切り替えて投与)
		2mg/枚 ¥1094/枚		
		4mg/枚 ¥2039/枚		

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
フェントステープ 【徐放性】 ＜フェンタニル＞ (協和発酵キリン) 投与制限：30日		8mg/枚 ¥3800.7/枚	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛、中等度から高度の慢性疼痛	1枚/1日毎 (他剤から切り替えて投与)
ペチロルファン ＜配合剤：ペチジン50mg・レバロルファン0.625mg＞ (武田)		1mL/管 ¥353/管	①鎮痛・鎮静・鎮痙 ②麻酔前投薬 ③麻酔の補助 ④無痛分娩	①35～50mg/回必要時3～4時間毎皮下, 筋注, 静注 ②50～100mg, 麻酔前30～90分前 ③10～15～(50)mg静注 ④70～100mg/回皮下, 筋注

■その他のアヘンアルカロイド系

オキシコドン 【徐放性】 ＜オキシコドン＞ (第一三共) 投与制限：30日	5mg/錠 ¥101.80/錠		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	10～80mg分2
	10mg/錠 ¥187.20/錠			
	20mg/錠 ¥344.60/錠			
	40mg/錠 ¥630.30/錠			
オキノーム 【速効性】 ＜オキシコドン＞ (シノギ) 投与制限：30日	散2.5mg(0.5g/包) ¥67.1/包			10～80mg分4
	散5mg(1.0g/包) ¥134.1/包			
	散10mg(1.0g/包) ¥268.3/包			
オキファスト ＜オキシコドン＞ (シノギ)		10mg(1mL)/管 ¥362/管		7.5mg～250mg/日, 持続静注又は持続皮下注
		50mg(5mL)/管 ¥1655/管		
ナルサス 【徐放性】 ＜ヒドロモルフォン＞ (第一三共) 投与制限：14日	2mg/錠 ¥202.80/錠			4～24mg分1
	6mg/錠 ¥530.20/錠			
ナルラピド 【速効性】 ＜ヒドロモルフォン＞ (第一三共) 投与制限：14日	1mg/錠 ¥110.60/錠			4～24mg分4～6
	2mg/錠 ¥202.80/錠			

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■癌性疼痛治療剤（非麻薬性鎮痛剤）				
トラマールOD ＜トラマドール＞ （日本新薬）	25mg/錠 ¥38.6/錠		非オピオイド鎮痛剤 で治療困難な各種癌 における鎮痛, 慢性 疼痛	100～300mg分4【Max: 100mg/回, 400mg/日】
ワントラム ＜トラマドール＞ （ファイザー）	100mg/錠 ¥119.1/錠			100～300mg分1【Max: 400mg/日】
ソセゴン ＜ペンタゾシン＞ （丸石製薬）		15mg(1mL)/管 ¥65/管	①各種癌等における 鎮痛 ②麻酔前投薬および 麻酔補助	①15mg/回, 筋注, 皮下, 必要に応じて3～4時間毎反復注射 ②30～60mg/回, 筋注, 皮下, 静注

当院採用のオピオイド換算表

分類	医療用麻薬										非麻薬性がん性疼痛治療薬		
成分名	モルヒネ			オキシコドン			フェンタニル			メサドン	タベンタドール	トラマドール	リン酸コデイン
剤形	経口徐放製剤	注射剤	坐剤	経口徐放製剤	注射剤		貼付剤	貼付剤	注射剤	経口剤	経口剤	経口剤	経口剤
当院採用品目	MSコンチン錠10mg バシーフカブセル 30・60・120mg モルベス細粒10・30mg	塩酸モルヒネ注 10・50・200mg	アンベック坐剤 10・20mg	オキシコンチン錠 5・10・20・40mg	オキファスト注 10・50mg		デュロテップMTパッチ 2.1・4.2・8.4・16.8mg (3日毎貼り替え)	フェントステープ 1・2・4・8mg (1日毎貼り替え)	フェンタニル注0.1mg	メサベイン錠 5・10mg	タベンタ錠 25・50mg	トラマールカブセル 25mg ワントラム錠100mg	リン酸コデイン散1%
					経口オピオイド／ フェンタニル貼付・注射剤※8 より切り替え時	モルヒネ注射 より切り替え時							
投与量	30mg	15mg	20mg	20mg	15mg	5	2.1mg	1mg	0.3mg	推奨されない	100mg	150mg	通常用量：60～160mg/日 (120mg＝経口モルヒネ20mg相当) 天井効果があるため、 鎮痛効果不十分となった場合は 他のオピオイドへ切り替える。
	5	20mg	5	5	5	25mg	5	5	5		5	5	
	60mg	30mg	40mg	40mg	30mg	5	4.2mg	2mg	0.6mg		200mg	300mg	
	5	40mg	5	5	5	50mg	5	5	5	15mg	5	5	
	120mg	60mg	80mg	80mg	60mg	75mg	8.4mg	4mg	1.2mg		初回投与量として 400mg/日を超える用 量は推奨されない。	1日量400mgを超える 場合は、他のオピオイド へ切り替える。	
	5	80mg	5	5	5	100mg	5	5	5				
	180mg	90mg	120mg	120mg	90mg	5	12.6mg	6mg	1.8mg				
	5	100mg	5	5	5	125mg	5	5	5				
	240mg	120mg	160mg	160mg	120mg	150mg	16.8mg ※6	8mg ※6	2.4mg	5			
換算比 ※経口モルヒネを 1とする	1	1/2	2/3	2/3	1/2	－	－	－	1/100	－	3.3	5	6

- ※1 変更したオピオイドの使用量は、計算した等鎮痛量の70%の量を目安とする。
- ※2 ローテーションの方法として、変更する日に全て新しいオピオイドに変更する方法と、2～3日かけて1/2～1/3くらいずつ変更していく方法がある。
特に高容量オピオイド使用時は、2～3日かけて徐々に変更していく方法が適している。
- ※3 ローテーション後も鎮痛の程度を細かく確認し、可能であれば日中に行う方が安全である。
- ※4 傾眠や呼吸抑制が出現する等オピオイドが過量である場合は、20～30%減量する。
- ※5 腎機能が低下している患者では、オキシコドンやフェンタニルからモルヒネ類に変更すると、モルヒネが排泄されず過度の鎮静や呼吸抑制が起きる危険性がある。
- ※6 フェンタニル貼付剤は他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。また、切り替え後の初回貼付用量として、高容量のフェンタニル貼付剤は推奨されない。
- ※7 他のオピオイド鎮痛剤からフェンタニル貼付剤への切り替え時は、フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため、少なくとも2日間は増量を行わない。
また、鎮痛効果が得られるまで時間を要するため、下記を参考に切り替え前に使用していたオピオイド鎮痛剤の投与を行うことが望ましい。

使用していたオピオイド鎮痛剤の投与回数	オピオイド鎮痛剤の使用法
1日1回投与	投与12時間後にフェンタニル貼付を開始する。
1日2～3回投与	フェンタニル貼付開始と同時に1回量を投与する。
1日4～6回投与	フェンタニル貼付開始と同時に及び4～6時間後に1回量を投与する。
持続投与	フェンタニル貼付開始後6時間まで継続して持続投与する。

※8 フェンタニル貼付剤からオキシコドン注射剤に切り替える場合は、剥離後にフェンタニルの血中濃度が適切な濃度に低下するまで時間をあけるとともに、オキシコドン注射剤は低用量から開始する。

(参考文献)
各薬剤添付文書
がんの痛みケア・ノート(2007年、照林社)
フェントステープポケット換算表(協和発酵キリン株式会社)
オキファスト注投与量換算の目安(シオノギ製薬)

(2017年3月作成)

1. 寄生動物用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
コンバントリン <ピランテル> (佐藤)	10% D S (100mg/1g/包) 【院外のみ】 ¥78. 3/包		蟯虫・回虫・鉤虫・東洋毛様線虫の駆除	10mg/kg分1, 1回のみ投与 50kg以上: 500mg/日【Max】
ストロメクトール <イベルメクチン> (マル林)	3mg/錠 ¥772. 6/錠		①腸管糞線虫症 ②疥癬	①200 μ g/kgを2週間間隔で2回 ②200 μ g/kgを1回
フラジール <メトロニダゾール> (オノキ)	250mg/錠 ¥35. 5/錠		①トリコモナス症(腔トリコモナスによる感染症) ②嫌気性菌感染症(真在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髓炎, 肺炎, 肺膿瘍, 骨盤内炎症性疾患, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 肝膿瘍, 脳膿瘍) ③感染性腸炎 ④細菌性膣症 ⑤胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒドリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒドリ感染症 ⑥アモバ赤痢 ⑦ランブル鞭毛虫感染症	①1回250mg1日2回, 10日間 ②1回500mg1日3~4回 ③1回250mg1日4回または1回500mg1日3回, 10~14日間 ④1回250mg1日3回または1回500mg1日2回, 7日間 ⑤1回フラジール: 250mg, サリリン: 750mg, フロムホンゾインビターの3剤を1日2回, 7日間 ⑥1回500mg1日3回, 10日間 ⑦1回250mg1日3回, 5~7日間

2. 公衆衛生用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
安息香チンキ ＜アンソッコウ＞ (司生堂製薬)		200%液 (500mL) ¥2.17/mL	創傷の防腐, 製剤の 乳化, 製剤原料	適量を水剤等に混和し外用

3. 調剤用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
塩化ナトリウム ＜塩化ナトリウム＞ (大塚)	末 ¥0.65/g		食塩喪失時の補給, 皮膚・創傷・粘膜面の 洗浄・湿布, 含嗽・噴 霧吸入剤として気管 支粘膜洗浄・喀痰排 出促進, 医療用器具 の洗浄	【DI照会参照】
オリーブ油 ＜オリーブ油＞ (健栄)		液(500mL) ¥2.75/mL	皮膚・粘膜の保護, 製 剤原料	
グリセリンBC ＜グリセリン＞ (吉田)		液(500mL) ¥2100/本	浣腸液の調整, 溶剤・ 軟膏基材・湿潤・粘滑 剤として調剤に使用	
蒸留水 ＜蒸留水＞ (大塚)		20mL/管 ¥61/管	粉末注射剤の溶解剤	
		100mL/本 ¥114/本		
		500mL/本 ¥163/本		
		1000mL/本 ¥216/本		
単シロップ ＜単シロップ＞ (健栄)	液(500mL) ¥0.81/mL		矯味目的	【DI照会参照】
乳糖 ＜乳糖＞ (マイラン)	末 ¥1.95/g		賦形剤として製剤に 使用	
白色ワセリン ＜白色ワセリン＞ (健栄)		(500g) ¥2.34/ g	軟膏剤の基剤	
バレイショデンプン ＜バレイショデンプン＞ (健栄)	末 ¥0.74/g		賦形剤として製剤に 使用	

4. 治療を目的としない医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アロンアルファA ＜シアノアクリレート＞ (第一三共)		0.5g/管 ¥166.8/管	生体組織の創傷癒合	適量塗布
ACD-A液 ＜クエン酸ナトリウム、クエン酸、ブドウ糖＞ (テルモ)		500mL/本 ¥700/本	血液保存	血液量100mLにつき、本品15mLの割合で使用する。
チャンピックス ＜バレニクリン＞ (ファイザー)	0.5mg/錠 【院外のみ】 ¥136.4/錠 1mg/錠 【院外のみ】 ¥244.2/錠		禁煙の補助	第1～3日目は0.5mg分1, 第4～7日目は1mg分2, 第8日目以降2mg分2 12週間まで
ニコチネルTTS ＜ニコチン＞ (ハルeis)		10:17.5mg/枚 ¥353.4/枚		1日1枚24時間貼付 最初の4週間ニコチネルTTS30を貼付, 次の2週間ニコチネルTTS20を貼付, 最後の2週間ニコチネルTTS10を貼付
		20:35mg/枚 ¥372/枚		
		30:52.5mg/枚 ¥398.8/枚		

医薬品集＜付録＞

改訂第 1 3 版

I. 薬剤投与期間の改訂

II. 医薬品情報特別版

1. 抗血液凝固薬の休薬の目安

1－1：抗血液凝固薬の休薬の目安（後発医薬品を含む）

1－2：新規経口抗凝固薬（NOAC）の腎機能に応じた休薬の目安

1－3：手術前に注意が必要な薬剤

2. 医薬品とグレープフルーツジュースとの相互作用

3. 各種輸液製剤の予備用量について

4. 感染症治療薬の点滴速度

5. バイアル入り注射剤および消毒剤等の開封後の安定性について

6. パクリタキセル注（タキソール注）の投与時における

「フィルター付き点滴セット」の使用について

7. 抗MRSA薬のTDMについて

8. 透析患者禁忌の薬剤について

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

III. 処方せんの書き方（発行）等

IV. 静注・点滴静注薬リスト：投与法による分類

V. 中毒 1 1 0 電話番号

独立行政法人 地域医療機能推進機構

九州病院

投与期間の制限が設けられている院内採用医薬品（追加・訂正）

■追加・訂正（2017年4月1日現在）

【14日分を限度とされる内服薬および外用薬】

（1）麻薬	（3）新採用医薬品
アブストラル舌下錠100・200 μ g メサペイン5・10mg（院内のみ） タペンタ錠25・50mg	2017年5月まで イムブルピカカプセル140mg （限定） タグリッソ錠40・80mg（限定） フィコンバ錠2mg
（2）向精神薬 サノレックス錠0.5mg （限定・院外のみ）	2017年2月まで オテズラ錠10・20・30mg （限定・院外のみ） テクフィデラカプセル120・240mg （限定・院外のみ）
ダイアップ坐剤4mg ダイアップ坐剤6mg ダイアップ坐剤10mg ルピアール坐剤50mg ノルspanテープ5・10mg	2016年8月まで ビムバット錠50・100mg（限定） 2016年11月まで アイクルシグ錠15mg（限定） ウプトラビ錠0.2・0.4mg エレルサ錠50mg（院外のみ） グラジナ錠50mg（院外のみ） ゼンタコートカプセル3mg デザレックス錠5mg（院外のみ） ピラノア錠20mg（院外のみ） リアルダ錠1200mg

【30日分を限度とされる内服薬および外用薬】

（1）麻薬	（2）向精神薬
アンベック坐薬10mg アンベック坐薬20mg MSコンチン錠10mg 塩酸モルヒネ末 塩酸モルヒネ散10%《院内製剤》 塩酸モルヒネ錠10mg オプソ内服液5mg パシーフカ [®] セル30mg パシーフカ [®] セル60mg パシーフカ [®] セル120mg モルペス細粒10mg	a) 催眠鎮静薬 エチゾラム錠0.5・1mg エバミール錠1mg コントロール散10%（限定・院外のみ） ドラール錠15mg トリアゾラム錠0.25mg ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg ユーロジン錠2mg フルニトラゼパム錠1mg プロチゾラムOD錠0.25mg b) 抗不安薬 セパゾン錠1mg アルプラゾラム錠0.4mg ベゲタミンB錠 メイラックス錠1mg リーゼ錠5mg レキソタン錠2mg ロラゼパム錠0.5mg c) その他 コンサータ錠18mg（限定・院内のみ） リタリン錠10mg ベタナミン錠10mg（限定・院内のみ）
オキシコンチン錠5mg オキシコンチン錠10mg オキシコンチン錠20mg オキシコンチン錠40mg オキノーム散2.5mg オキノーム散5mg オキノーム散10mg デュロテップMT [®] ハ [®] チ2.1mg デュロテップMT [®] ハ [®] チ4.2mg フェントステープ1mg フェントステープ2mg フェントステープ4mg フェントステープ8mg	

【90日分を限度とされる内服薬】

セルシン錠2mg
セルシン錠5mg
セルシン散1%
フェノバルビタール散10%
フェノバルエリキシル0.4%
フェノバル錠30mg
ベンザリン錠2mg
ベンザリン錠5mg
ベンザリン細粒1%
マイスタン細粒1%（限定・院外のみ）
マイスタン錠10mg
リボトリール錠0.5mg
リボトリール細粒0.1%
リボトリール錠2mg（院外のみ）

〈 注意 〉

①催眠鎮静薬のリスミー錠2mgやルネスタ錠2mgは、向精神薬の指定をうけていません。したがって、投与期間の制限はありません。

②添付文書等に投与日数の制限のある場合は、その投与日数に限定されます。

例：ジスロマック錠250mg 3日間
タミフルカ[®]セル・ト[®]ライソップ[®] 5日間
など

1. 血液凝固作用薬の作用発現時間、休薬の目安

	薬品名	休薬の目安	作用持続時間	作用の可逆性	Tmax(hr)	半減期(hr)	効果発現(hr)	主な作用機構
抗凝固薬	ワルファリン	3～4日前	2～3日	非可逆的	3～9	36	12～24で発現、36～48時間後に十分な効果が得られる	ビタミンK代謝サイクルの中のビタミンK依存性エポキシドレダクターゼとビタミンKキノンレダクターゼを阻害
	プラザキサ	別紙参照	—	可逆的	0.5～2.0	13～27 ※腎機能低下により延長	2	直接トロンビン阻害
	イグザレルト		24時間	可逆的	4	5.8	0.5～4	第Ⅹa因子阻害
	エリキュース		24～48時間で作用消失	可逆的	3～3.5	8～10	3～3.5	第Ⅹa因子阻害
	リクシアナ	24時間以上前	24時間で作用消失	可逆的	1～2	9～11	PT、APTTは1時間で最大延長、24時間後には前値に回復	第Ⅹa因子阻害
抗血小板薬	アスピリン	7日前	7～10日	不可逆的	0.39	0.4	24	血小板のシクロオキシゲナーゼの阻害
	クロピドグレル		8～10日	不可逆的	1.9	6.9		血小板膜上のADP受容体に結合し、PI3キナーゼの活性化を抑制、GPⅡb/Ⅲaの活性化を阻害。さらに、各種血小板凝集因子による凝集反応を抑制
	パナルジン		8～10日	不可逆的	2	1.6	24	血小板のアデニレートシクラーゼ活性増強、血小板のGPⅡb/Ⅲa受容体へのフィブリノーゲンの結合を抑制
	エフィエント		8～10日	不可逆的	0.6 ※活性代謝物	20mg単回:4.9 3.75mg反復:0.9 ※活性代謝物	20mg負荷投与時:1時間 3.75mg連日投与時:5日間	血小板膜上のADP受容体P2Y ₁₂ を選択的かつ非可逆的に阻害
	シロスタゾール	2日前	0.5～1日	可逆的	3	18	3	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	ベラプロスト	1日前	6時間	可逆的	1.42	1.11	1	プロスタグランジン受容体への結合からアデニレートシクラーゼ活性化
	リマプロストアルファデクス	1日前	3時間	可逆的	1	7	1	プロスタグランジン受容体への結合からアデニレートシクラーゼ活性化
	サルボクレラート塩酸塩	1日前	12時間	可逆的	0.92	0.69	1.5	血小板の5-HT ₂ レセプター阻害
	イコサペント酸エチル	7～10日前	7～10日	不可逆的(EPAが血小板膜に取り込まれる)	6		1～2週間後	血小板膜リン脂質中のEPA含量を増加させ、血小板膜からのアラキドン酸代謝を競合的に阻害する
	ロトリガ			不可逆的(EPAが血小板膜に取り込まれる。DHAの抗血小板作用はEPAより弱い。)	6			
	ロコルナール	2日前	24時間	可逆的	1	1.35	4～6時間	ホスホジエステラーゼ活性阻害、トロンボキサンA ₂ 合成阻害
	コメリアン	2日前	不明	可逆的	0.5～1.0	4	1～2	血小板のホスホリパーゼ活性阻害
	ペルサンテン	2日前	不明	可逆的	1.22	1.7	不明	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	ジピリダモール							
	ケタス	3日前	不明	不明	4	12	不明	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	イフェンプロジル	2日前	不明	可逆的	0.74～1.77	1.33～1.4	1～3	血小板のα ₂ -レセプターを介する作用

腎機能別にみた手術/侵襲的手技前における投与中止期間

腎機能 (CCr、 mL/min)	プラザキサ		イグザレルト		エリキュース	
	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)
≥80	≥24時間	≥48 時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
50～80	≥36時間	≥72時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
30～50	≥48時間	≥96時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
15～30	禁忌		≥36時間	≥48時間	≥36時間	≥48時間
<15	禁忌					

参考資料：各医薬品インタビューフォーム
Eur Heart J 2013 34:2094-2106

2) プラザキサカプセルと他の抗凝固薬の切り替えについて

プラザキサカプセルから、他の抗凝固薬（注射剤：ヘパリン等）へ切り替える際には、下記要領で切り替えをお願いします。

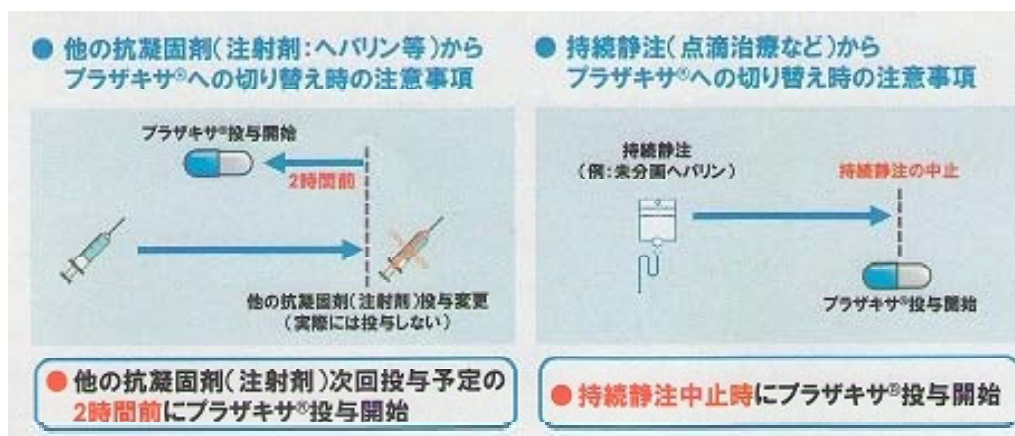
① プラザキサから他の抗凝固薬（注射剤）への切り替え

プラザキサ最終投与から12時間の間隔をあけて、他の抗凝固薬開始。



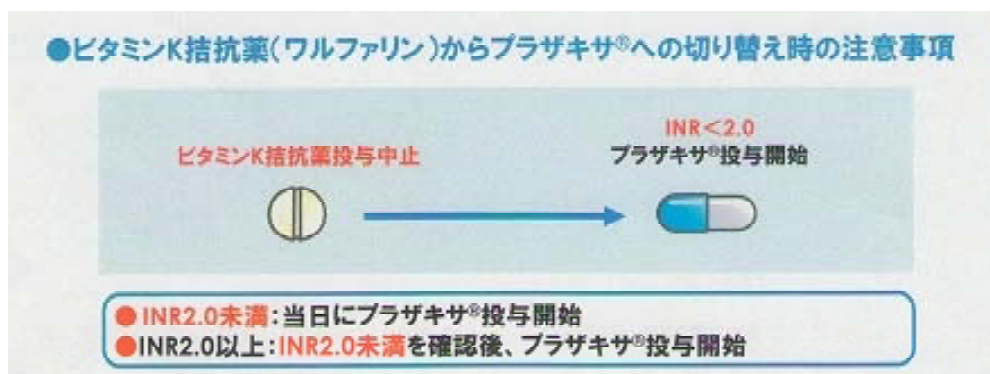
② 他の抗凝固薬（注射剤）からプラザキサへの切り替え

他の抗凝固薬の次回投与予定時間の2時間前から、あるいは持続静注中止時に、プラザキサ投与開始。



③ ワーファリンからプラザキサへの切り替え

ワーファリンからの切り替え時は、INRが2.0未満を確認した時点で、投与開始可能です。



(2011年5月作成 薬剤部)

1-3. 手術前に注意が必要な薬剤

* 一般的な目安です。詳しくは主治医および麻酔科医師の指示に従って下さい。

術前内服評価のタイミング	薬効分類	主な薬剤名(当院採用薬)	継続または中断により増加する主なリスク	継続または中止の目安	備考
数週間前	喫煙		術後肺合併症	術前4～8週間禁煙	
	経口避妊薬(低用量ピル)	トリキュラー、プラノパール、ヤーズ、ルナベル	深部静脈血栓・肺塞栓症	添付文書を参照。薬剤により、術前4週間～術後2週間(大手術または下肢の手術において)	腹腔鏡下手術など小手術に関しては、血栓症のリスクを伴わなければ休薬の必要はない
	ホルモン補充療法	デュファストン、プロベラ、プロスタールヒスロン			
	免疫抑制剤(メトトレキセート)	リウマトレックス	創部感染	MTX12.5mg/週以上の高用量では1週間前から中止	低用量では休薬の必要なし
	免疫抑制剤(TNF阻害剤)	レミケード	創部感染	最終投与の4週間後から全身麻酔による手術可能	
	パーキンソン病治療薬(MAO阻害剤)	エフピー	術中の交感神経刺激薬投与による高血圧、高体温、けいれん	3週間前から専門医と相談し、中止などを検討	麻酔をMAO sage techniqueで行う場合は休薬の必要なし
	ハーブ、サプリメント	イチョウ葉エキス、朝鮮人参、ニンニク、アロエ、魚油、ノコギリヤシ、ビタミンE	出血	2～3週間前から中止	
		カバ、バレリアン、セントジョーンズ・ワート	麻酔作用増強		
	抗血小板薬	(付録 抗血液凝固薬休薬の目安 参照)	出血	(付録 抗血液凝固薬休薬の目安 参照)	
数日前	骨粗鬆症治療薬(ホルモン剤)	エビスタ	深部静脈血栓・肺塞栓症	手術3日前から完全に歩行可能になるまで中止	
	NSAIDs	アスピリン(低用量を除く)、オステラック、セレコックス、ボルタレン、ジクロフェナク、ポンタール、モービック、ロキソプロフェン	出血	通常は継続して問題なし。中止をするならば48時間前	
	ジギタリス製剤	ジゴシン、ラニラピッド	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	心臓手術では48時間前、非心臓手術では24時間前に中止 ※上室性頻拍の抑制に使用している場合は手術当日まで継続する	
	ワルファリン	ワーファリン	出血	(別紙参照)	
	ED治療薬(PDE5阻害剤)	シアリス、バイアグラ	-	手術前36時間から中止	
	ステロイド(長期投与)	コートリル、デカドロン、プレドニゾン、フロリネフ、リンデロン、ベタメタゾン、レナデックス	中断後の手術侵襲による急性副腎不全(副腎危機)	当日朝まで内服することが望ましい 必要に応じてステロイドカバーを行う	

1-3. 手術前に注意が必要な薬剤

* 一般的な目安です。詳しくは主治医および麻酔科医師の指示に従って下さい。

術前内服評価のタイミング	薬効分類	主な薬剤名(当院採用薬)	継続または中断により増加する主なリスク	継続または中止の目安	備考
手術当日朝	インスリン	(K. 代謝性医薬品 3. 糖尿病用薬 参照)	—	絶食時または術当日より、スライディングスケールによる管理を行う	※長時間作用のSU剤(オイグルコン、グリミクロン)などは効果が2～3日継続することを考慮し、術前2～3日前よりインスリンに切り替える
	経口血糖降下薬	アクトス、グリメピリド、エクア、グリミクロン、グルファスト、ジャスピア、セイブル、ファスティック、ベイスン、メトホルミン、トラゼンタ、オングリザ、テネリア、スーグラ、フォシーガ、カナグル、ジャディアンス	低血糖		
	降圧薬 (ACE阻害薬・ARB)	オルメテック、タナトリル、バルサルタン、カンデサルタン、ロサルタン、ミカルディス、エナラプリル 【配合剤】エックスフォージ、エカード、プレミネット、ミカムロ、レザルタス、ユニシア	血圧低下、腎機能低下	当日朝の内服は中止	
	パーキンソン病治療薬 (レボドパ製剤)	ネオドパストン、マドパー	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	前日夜まで内服可能、経口摂取開始とともに速やかに再開	
	パーキンソン病治療薬 (ドパミン作動薬)	カバサル、パーロデル、ピ・シフロール、ミラベックス	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	術前12時間以上中止、経口摂取開始とともに速やかに再開	
	利尿薬	アルダクトン、サムスカ、アゾセミド、ダイアモックス、ナトリックス、フルイトラン、フロセミド、ルブラック 【配合剤】プレミネット	脱水、低カリウム血症	当日朝まで内服することが望ましい	
	降圧薬 (β遮断薬)	カルベジロール、インデラル、セレクトール、テノーミン、ロブレゾール、ミケラン、メインテート	中断による心拍数増加、反跳性高血圧		
	降圧薬 (カルシウム拮抗薬)	ニフェジピン、セバミット、アムロジピン、シルニジピン、アゼルニジピン、ベニジピン、ジルチアゼム、ワソラン 【配合剤】エックスフォージ、ミカムロ、レザルタス	中断による高血圧性臓器障害		
	降圧薬 (Kチャネル開口薬)	ニコランジル	—		
	脂質異常症治療薬 (スタチン系)	クレストール、プラバスタチン、ピタバスタチン、アトルバスタチン、ローコール	術中術後の心筋梗塞、脳梗塞		
	甲状腺薬 (T4製剤、抗甲状腺薬)	チラーヂン、メルカゾール、チウラジール	代謝異常、循環不全		
	向精神薬	(A. 神経系 5. 抗精神病薬 参照)	中断による術中異常高血圧等		血圧低下、心電図異常、電解質異常、肝機能異常、抗コリン作用等に注意が必要
	抗けいれん薬	アレビアチン、イーケブラ、エクセグラン、エビリオプチマル、ザロンチン、ガバペン、セルシン、セレニカ、テグレトール、デパケン、トピナ、バレリン、ビムバット、フィコンパ、フェノバル、プリミドン、マイスタン、ラミクタール、リボトリール	術中術後のてんかん発作		
	呼吸器系吸入薬	アドエア、インタール、エンクラッセ、ステリ・ネブクロモリン、キュパール、サルタノール、シープリ、ウルティプロ、シムビコート、スピリーバ、セレベント、テルシガン、バルミコート、ビソルボン、フロムヘキシシ、フルタイド、ベネトリン、メブチン、フルティフォーム	術中術後の喘息発作、肺合併症	当日朝まで継続が望ましい	

2. 医薬品とグレープフルーツジュースとの相互作用

グレープフルーツジュースの飲用により、種々の医薬品（Ca拮抗薬、HMG-CoA還元酵素阻害薬、免疫抑制剤など）の血中濃度が上昇して効果が増強されるとともに、時に副作用が増加するとの報告が数多くなされています。

①発現機序

グレープフルーツジュースに含まれる成分（フラノクマリン）による消化管粘膜のチトクロームP450 (CYP) 3A4（薬物の解毒代謝酵素）やP-糖蛋白質に対する抑制効果に基づくバイオアベイラビリティの上昇が考えられます。

②相互作用の程度

バイオアベイラビリティの違いにより同効医薬品でも異なります。

例えば、Ca拮抗薬では、最大血中濃度が約4倍に上昇するニソルジピン（当院未採用）からほとんど変化のないアムロジウムまで、様々です。

③グレープフルーツの果肉との相互作用

代謝阻害物質（フラノクマリン）は、グレープフルーツの果肉の部分にも存在しているためグレープフルーツジュースと同様に注意が必要です。

④グレープフルーツの近縁種との相互作用

スイーティ、ポメロ（ブンタンなどを含む）、サワーオレンジ（ダイダイなどを含む）はフラノクマリンを含有し、チトクロームP450 (CYP) 3A4の活性を阻害します。

一方、バレンシアオレンジ、レモン、カボス、温州ミカンには、フラノクマリンはほとんど含まれていません。

⑤患者への服薬指導

グレープフルーツジュースと薬物との併用で重篤な相互作用の報告はありませんが、グレープフルーツジュースをコップ1杯程度飲用してもバイオアベイラビリティに影響を及ぼすこと、あるいはその効果が10時間程度持続するなどの報告があります。

そのため、特にチトクロームP450 (CYP) 3A4で代謝される医薬品を服薬している患者に対しては、グレープフルーツジュースの飲用について説明し、その多量の摂取を控えさせるなどの服薬指導が必要です。

添付文書にグレープフルーツジュース併用注意の記載のある医薬品（当院採用薬）

分類	医薬品名
Ca拮抗薬	アイミクス配合錠, アゼルニジピン, アムロジウム, エックスフォーゼ OD配合錠, カスロット(限), シルニジピン, ニフェジピン, ベニジピン, セパミットR, レザルタス配合錠, ワソラン, ミカロ配合錠, ユニシア配合錠
肺高血圧症用薬	アドシルカ(限), トラクリア(限)
高脂血症用薬	アトルvastatin
抗血小板剤	シロスタゾール
免疫抑制剤	ネオール(限), サンディムン(限), フロクダフ(限), グラセプター(限)
精神神経用薬	テグレトール
抗癌剤	アイクルシグ(限), アフィニール(限), アムノレク(限), イムブルビカ(限), イレッサ, イリノテカン注, インライタ(限), ヴォトリント, グリベック, ザルティア, スーテント(限), スプリセル(限), タイケルブ(限), タシグナ(限), タルセバ(限), トーリセル注(限), ボシユリフ(限)
麻薬	アブストラル舌下錠
その他	サムスカ, シアリス(限), センタコート, メチルエルゴメトリン, レスピア経口静注液, レミッチ(限), レミニールOD錠(限), レグパラ(限), レルパックス(限), ロナセン(限)

(2017年2月改訂 薬剤部)

(医薬品情報2004年2月号より抜粋・改訂)

3. 各種輸液製剤の予備容量について

輸液剤は、他の注射薬を混合して使用されることが、多くあります。このときに、その輸液剤に混合可能な注射薬容量を予備容量といいます。

今回、本院採用の輸液製剤について、それぞれの予備容量(混合可能容量)を調べ、一覧表としました。この予備容量はおおよその値ですが、輸液剤の処方や、外来・病棟等での注射剤混合の際に、参考としてください。

予備用量
(混合可能用量)



表1. 各種輸液製剤の予備容量(混合可能容量)

輸液剤名	予備用量	輸液剤名	予備用量
アミノレバン(500 mL)	160 mL	ネオアミュー(200 mL)	180 mL
ヴィーンD(500 mL)	150 mL	ハイカリック1号(700 mL)	670 mL
エルネオパ1号(1500mL)	2700mL	ハイカリック2号(700 mL)	670 mL
エルネオパ2号(1500mL)	2700mL	ハイカリックRF(500 mL)	750 mL
蒸留水(100 mL)	70 mL	ビーフリード(500 mL)	1200 mL
生食(50 mL)	30 mL	ビカーボン(500 mL)	230 mL
生食(100 mL)	70 mL	フィジオ140(500mL)	160 mL
生食(250 mL)	140 mL	5%ブドウ糖(50 mL)	30 mL
生食(500 mL)	160 mL	5%ブドウ糖(100 mL)	70 mL
生食キットH(100 mL)	20 mL	5%ブドウ糖(250 mL)	165 mL
生食(1000 mL)	650 mL	5%ブドウ糖(500 mL)	160 mL
ソルデム1(200 mL)	100 mL	10%ブドウ糖(500 mL)	160 mL
ソルデム1(500 mL)	160 mL	50%ブドウ糖(200 mL)	460mL
ソルデム2(500 mL)	160 mL	フルカリック1号(903 mL)	開通前: 500mL 開通後: 1300mL
ソルデム3A(200 mL)	100 mL	フルカリック2号(1003 mL)	開通前: 500mL 開通後: 1300mL
ソルデム3A(500 mL)	160 mL	フルカリック3号(1103 mL)	開通前: 500mL 開通後: 1200mL
ソルデム3AG(200 mL)	100 mL	プロテアミン12(200 mL)	110 mL
ソルデム3AG(500 mL)	160 mL	ヘスパンダー(500 mL)	250 mL
ソララクト(500 mL)	160 mL	ハイカリックIVHバッグ(2000 mL)	400mL
低分子デキストラン(250 mL)	140 mL	ハイカリックIVHバッグ(3000 mL)	500mL
デノサリン(500 mL)	160 mL		

(2017年2月改訂 薬剤部)
(2016年11月改訂 薬剤部)
(2016年3月改訂 薬剤部)
(2012年10月改訂 薬剤部)
(2011年2月改訂 薬剤部)
(2008年4月21日作成 薬剤部)
(医薬品情報2007年4月号抜粋)

4. 感染症治療薬の点滴速度（当院採用薬）

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
1	MRSA用薬	キュビシン	ダプトマイシン	30分かけて、または緩徐に静注		12時間(生食・リンゲル液)	48時間(生食・リンゲル液)
2		ザイボックス	リネゾリド	30分～2時間かけて (10mL/kg/hr以下)	ブドウ糖水和物5%を含有するため		
3		タゴシッド	テイコブラニン	30分以上かけて	ショック及びレッドマン症候群が報告されているため		
4		塩酸バンコマイシン	バンコマイシン	1時間以上	ヒスタミンが遊離されてredneck症候群、 血圧低下などを起こす	24時間(希釈後)	24時間(希釈後)
5	ペニシリン系	スルバシリン	アンピシリン、スルバクタム	出来るだけ遅くする	血管痛、血栓又は静脈炎を起こすことがある		
6		ゾシン	タゾバクタム、ピペラシリン	できるだけ遅く			
7		ピクシリン	アンピシリン	1～2時間かけて			
8		ペニシリンG	ベンザルペンシリン	できるだけ遅く		9時間	48時間
9		ペントシリン	ピペラシリン	1～2時間かけて			24時間
10	セフェム系	クラフォラン	セフトキシム	およそ1時間かけて	静脈内大量投与により血管痛、血栓性静脈炎等を起こすことがある		
11		セファゾリン	セファゾリン	できるだけ遅く		48時間(遮光)	48時間(遮光)
12		セフトジジム	セフトジジム	30分～2時間かけて		6時間	72時間
13		セフトリアキソン	セフトリアキソン	30分以上かけて			
14		セフメタゾール	セフメタゾール	できるだけ遅く		24時間	
15		ファーストシン	セフトロファン	30分～2時間かけて		12時間	12時間
16		フルマリリン	フロモセフ	できるだけ遅く		6時間	24時間
17		マキシピーム	セフエピム	30分～1時間かけて			
18	アミノグリコシド系	ワイスタール	セフトラザソン、スルバクタム	できるだけ遅く	眩暈、耳鳴り、難聴などの第8脳神経障害を起こす恐れあり	6時間	48時間
19		アミカシン	アミカシン	30分～1時間かけて			
20		ゲンタシン	ゲンタマイシン	30分～2時間かけて			
21		トブラシン	トブラマイシン	30分～2時間かけて 1回90mgの場合は1時間以上かけて			
22		ハベカシン	アルベカシン	成人:30分～2時間、小児:30分			
23	カルバペネム系	パニマイシン(限定)	ジベカシン	30分～1時間	静脈内投与により、ときに血管痛を起こすことがある		
24		オメガシン(限定)	ピニアペム	30分～1時間かけて		6時間以内に投与終了	24時間以内に投与終了
25		カルベニン	パニアペム	30分以上かけて 1回1gのときは60分以上かけて	痙攣、意識障害などの中枢神経症状があらわれることがある	6時間	
26		チエナム	イミペム	30分以上かけて		4時間	
27		フィニバックス	ドリパペム	30分以上かけて		8時間	24時間

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
28	カルバペネム系	メロペネム	メロペナム	30分以上かけて	5%ブドウ糖液との配合は力価がより早く低下する	6時間(生食)	24時間(生食)
29	ホスホマイシン系	ホスミシンS	ホスホマイシン	1～2時間かけて	血管痛、血栓又は静脈炎を起こすことがある		
30	マクロライド系	ジスロマック	アジスロマイシン	2時間かけて	注射部位疼痛が発現する可能性がある(注射溶液濃度は1.0mg/mLを超えない)	24時間	
31	リンコマイシン系	ダラシンS	クリンダマイシン	30分～1時間	急速静注では心停止をきたす恐れあり		
32	グリシルサイクリン系	タイガシル	チゲサイクリン	30～60分かけて		18時間	
33	テトラサイクリン系	ミノサイクリン	ミノサイクリン	30分～2時間かけて	血管痛・血栓性静脈炎をおこすことがある	12時間以内に投与終了	12時間以内に投与終了
34	ニューキノロン系	クラビット	レボフロキサシ	およそ1時間かけて			
35		シプロキサ	シプロフロキサシ	1時間かけて(30分以内の点滴静注は避ける)	血管痛や静脈炎の危険を軽減するため、希釈して投与またはすでに投与している補液等の側管に連結して投与。 なお水分負荷がかけられない場合には希釈せずに投与することができるが、その際はできるだけ太い静脈から投与することが望ましい。		
36		パシル	パースフロキサシ	30分～1時間かけて 1回1000mgの場合は1時間以上かけて			
37	サルファ剤	バクトラミン	スルファメトキサゾール、トリメトロム	1～2時間かけて			
38	モノバクタム系	アザクタム(限定)	アズトレオナム	出来るだけ遅くする	静脈内大量投与により血管痛、静脈炎、灼熱感を起こすことがある	24時間	48時間
39	抗結核薬	ストレプトマイシン	ストレプトマイシン	筋注のみ	眩暈、耳鳴り、難聴などの第8脳神経障害を起こす恐れあり		
40	抗ウイルス薬	アシクロビン	アシクロベル	1時間以上かけて	血管痛、血管の脆弱化があらわれることがある 1アンプルあたり100mL以上の補液で希釈する(用時調製)。		冷所保管不可(結晶析出)
41		シナジス	パロリビスマブ	筋注のみ		6時間	6時間
42		デノシン	ガンシクロベル	1時間以上かけて	強アルカリ性を呈することから、血管痛・静脈炎があらわれることがある(希釈10mg/mL以下)	24時間	冷所保管不可(結晶析出)
43		ホスカビル(限定)	ホスカルネット	60mg/kg/回：1時間以上 90～120mg/kg/回：2時間以上	中心静脈投与：希釈不要 末梢静脈投与：血管への刺激を軽減するため5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液にて2倍希釈(12mg/mL)	24時間	

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
44	抗真菌薬	アムビゾーム	アムテリジンB	1～2時間以上かけて	投与時間関連反応(発熱, 悪寒, 悪心, 嘔吐, 頭痛, 背部痛, 骨痛等)が発現した場合は、点滴を一時中断し、患者の様子をみながら点滴速度を遅らせて投与を再開するなどの措置をとること。		24時間(注射用水で溶解) 6時間(5%TZに希釈)
45		カンサイダス	カスホファンギン	約1時間かけて緩徐に	点滴速度とヒスタミン遊離作用に相関が認められるため(発疹・血管浮腫・アレルギー-症状などが予測される)		
46		ファンガード	ミカファンギン	75mg以下：30分以上かけて 75mgを超える：1時間以上かけて	調整後6時間以降は遮光	24時間(遮光)	
47		ブイフェンド	ボリコナゾール	3mg/kg/時間を超えない速度で	添加物の血漿中濃度の上昇に伴い、アナフィラキシー様反応を起こす恐れあり	溶解または希釈後25℃以下で24時間以内	溶解または希釈後25℃以下で48時間以内
48		プロジフ	ホスフルコナゾール	10mL/分を超えない速度で静注			
49	嫌気性菌感染症治療剤	アネメトロ	メロニダゾール	20分以上かけて			
50	抗インフルエンザウイルス剤	ラピアクタ	ペラミビル	15分以上			

(医薬品情報2004年8月号抜粋・改訂)
(2016年3月改訂 薬剤部)

5. バイアル入り注射剤および消毒剤等の開封後の安定性について

2009年度医療監視の際、バイアル入り注射剤等の開封後の使用期限について指摘がありましたので、再度徹底をお願いいたします。

当院におけるバイアル入り注射剤および消毒剤・軟膏剤・点眼剤の容器開封後の使用期限に関する取り決めは、以下の通りとなっています。

1. 注射剤

- 1) 保存剤を含まないバイアル入り注射剤（抗生剤等）

開封（溶解）後速やかに使用すること。

（原則として、1回あるいは1日以内の使用）

- 2) 保存剤を含むバイアル入り注射剤

（ヘパリンCa(2万単位瓶)、ヘパリンNa(5千単位瓶)、キシロカインエピレナミン含有、インスリン等）開封後30日以内に使用すること。

【バイアル入り注射剤使用の手順と注意】

- ・手順① 開封した日付をバイアルに記入（確認）
- ② ゴム栓部分のアルコール綿での清拭
- ③ ゴム栓部分の同一箇所を避けて穿刺すること
- ④ 汚染の無い場所での保管
- ・細菌汚染・異物混入を避ける操作を行う。
- ・保存剤を含むバイアルは、開封後は約30日間の使用が可能であるが、頻回に穿刺する場合は、速やかに使い切るようにする。

2. 消毒剤

- 1) 希釈滅菌消毒剤

（0.05%マスキン水、0.025%チアミトール水、0.02%アクリノール液等）

原則として容器開封後3ヶ月まで有効とする。

- 2) 消毒剤原液

（消毒用エタプロコール、ポビドンヨード外用液、エルエイジー10液、チアミトール10%、0.1%アクリノール液等）

原則として容器に記載されている使用期限まで有効とする。

【消毒剤使用時の注意】

- ・いずれについても室温保存の下、清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- ・容器の注ぎ口やキャップの内側に手指が触れた場合（特に希釈消毒剤）には、廃棄処分すること。

3. 軟膏剤

原則として容器に記載されている**使用期限まで有効とする。**

【軟膏剤使用時の注意】

- ・薬剤毎に定められた保存方法（冷所、室温等）に従い、清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- ・小分けや混合した軟膏については、なるべく速やかに使用し、変色・分離・敗油臭があるときは廃棄処分すること。

4. 点眼剤

開封後**30日以内**に使用すること。

【点眼剤使用時の注意】

- ・点眼剤は、薬剤毎に定められた条件下で保存し（冷所、室温等）、開封後は清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- ・開封後の保存方法について、必ず冷所で保存するもの（キサラン点眼、ベストロン点眼等）や冷所保存を避けるもの（リザベン点眼）があるため、薬剤毎に確認すること。
- ・用時溶解する点眼剤で使用期限が限定されているもの（ベストロン点眼、タチオン点眼）は、溶解した日付を書き込み、期限をすぎた時点で廃棄処分とする。
- ・検査用点眼剤など不特定多数の患者に対して使用する場合、点眼瓶のノズルが患者の睫毛や皮膚に接した時には廃棄処分とする。
- ・院内製剤品は使用期限を遵守すること。

参考文献

- 1) 第14改正 日本薬局方（2001）
- 2) 注射剤—その基礎と調剤と運用—，南山堂（1995）
- 3) 改訂版 消毒剤の選び方と使用上の留意点，薬業時報社（1998）
- 4) 増補 消毒と滅菌のガイドライン，へるす出版（2002）
- 5) 第11改訂 調剤指針，薬事日報社（2002）
- 6) 臨眼，Vol. 50, No. 3, p411-414（1996）

（2009年11月作成 薬剤部）

（2017年3月改定 薬剤部）

6. パクリタキセル注（タキソール注）の投与時に「フィルター付き点滴セット」の使用

先日（5/16）、ブリストル・マイヤーズ（株）より、「パクリタキセル（タキソール）注射液 100mg」バイアル中に微かな浮遊物があるとの報告、及び現時点でのメーカーとしての見解の連絡を受けました。

報告と見解の概要は次の通りです。

- 1) 分析の結果、浮遊物はシリコンであった。
- 2) 原因としては、ゴム栓由来のシリコンが考えられる。
- 3) 浮遊物は、輸液フィルターを使用することにより除去される。
- 4) 現在までに、浮遊物が原因と考えられる副作用等の報告はない。

加えて、次の要請を受けました

「パクリタキセル（タキソール）注射液の投与に際しては、添付文書（※）に記載されている通り、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通しての投与をお願いいたします。」

パクリタキセル注（タキソール注）の投与時には「フィルター付き点滴セット」の使用をお願いします。

**当院では、フィルター付き点滴セット
（J E - P F P W 8 0 1 L 0 2）が該当します**

本件の問い合わせ先 : 薬剤部医薬品情報室 内線 2 7 2 5

※：（添付文書）本剤投与時には、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。また、点滴用セット等で本剤の溶解液が接触する部分に、可塑剤としてDEHP〔di-(2-ethylhexyl)phthalate：フタル酸ジ-(2-エチルヘキシル)〕を含有しているものの使用を避けること。

点滴セットの注意書きは、他にアムビゾーム、イントラファット、エルネパ、パルクス、ビタジェクト、フルリック、プロムフォル、ベプシド、ミプラ、リポドール、リポナがあります。

追記：2008年4月17日、ブリストル・マイヤーズ（株）より、タキソール注射液のシリコン浮遊物の発生を防止するために、天面部分（針刺し部）をフッ素樹脂でラミネートしている新ゴム栓へ変更したものへ切り替えると連絡がありました。
0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通しての投与は引き続き行ってください。

（2011年2月2日改訂 薬剤部）
（医薬品情報2007年6月号より抜粋）

7. 抗MRSA薬のTDMについて

抗MRSA薬の薬物治療モニタリング（TDM）について、2012年9月、日本化学療法学会、日本TDM学会より「抗菌薬TDMガイドライン2012」が発表されました。
バンコマイシン及びテイコプラニンについて、その概略をご紹介します。

商品名	バンコマイシン注	タゴシッド注
一般名(略号)	バンコマイシン（VCM）	テイコプラニン（TEIC）
採血 タイミング	トラフ値(投与前30分以内) ルーチンでのピーク値測定は推奨しない	トラフ値 ピーク値測定の意義はない
目標 血中濃度	目標トラフ値: 10-20 $\mu\text{g/mL}$ * 菌血症、心内膜炎、骨髓炎、髄膜炎、肺炎(院内肺炎、医療・介護関連肺炎)、重症皮膚軟部組織感染においては、トラフ値は15-20 $\mu\text{g/mL}$ を推奨する。ただし、小児においてトラフ値15-20 $\mu\text{g/mL}$ とした場合の有効性及び安全性は確立していない。	目標トラフ値: 10-30 $\mu\text{g/mL}$ 重症例や複雑性感染症(心内膜炎、骨関節感染症など)では、良好な効果を得るために目標トラフ値を20 $\mu\text{g/mL}$ 以上に設定する。
初回TDM	腎機能正常で1日2回投与の場合、 4-5回投与直前(3日目) にTDMを行う。	負荷投与を行った症例では腎機能に関わらず3日間投与後、 4日目 にTDMを行う。
2回目以降の TDM	1週間に1回のTDM実施を推奨する。 病態次第では頻回な実施を考慮する。	通常は1週間に1度であるが、 病態次第では頻回な実施を考慮する。
半減期	約5時間	46～56時間
組織移行性	◎胸水、腹水 ○肺組織(血中濃度の1/3～1/5)、髄液、骨組織、関節液	◎心臓、肺組織、骨、皮下組織 △髄液
中毒域	トラフ値20 $\mu\text{g/mL}$ 以上は腎毒性の発現が高率となり推奨されない。 透析患者において、有害事象が高率となる血中濃度に関してはコンセンサスが得られていない。	トラフ値が30 $\mu\text{g/mL}$ 以上で、有効率が高まるとの報告はない。 トラフ値が40～60 $\mu\text{g/mL}$ 以上では、腎障害、血液毒性、肝障害などの副作用が報告されている。
備考	トラフ値15～20 $\mu\text{g/mL}$ を目標値とする場合、安全性を考慮し、初回投与は通常投与量またはトラフ値10～15 $\mu\text{g/mL}$ を目標とした投与設計で投与を開始し、実測値、臨床経過をもとに15～20 $\mu\text{g/mL}$ を目指した投与設計を行う。	初回投与時は腎機能に関わらず、負荷投与を含め3日間は腎機能正常者と同量の投与を行う。

* バンコマイシンの添付文書には、「トラフ値は10 $\mu\text{g/mL}$ を超えないことが望ましい。」と記載されています。
トラフ値10-20 $\mu\text{g/mL}$ で投与した場合においても、腎機能等には十分に注意をお願いいたします。

2012年10月作成

8. 透析患者への投与禁忌薬剤について～第4版～

1. 抗血液凝固薬

商 品 名	理 由（添付文書記載事項）
イグザレルト錠 （リバーロキサバン）	CCr15mL/min未満の患者における使用経験がない。
プラザキサカ [®] セル （ダビガトラン）	本剤は主に腎臓を介して排泄されるため、血中濃度が上昇し出血の危険性が増大するおそれがある。
リクシアナ錠 （エドキサバントシル酸塩）	＜循環器適応＞CCr15mL/min未満のある患者では、使用経験がない。 また、ベネフィットを上回る出血のリスクが生じるおそれがある。 ＜整形適応＞CCr30mL/min未満の患者では、使用経験が少ない。 また、静脈血栓塞栓症発症抑制効果を上回る出血のリスクを生じるおそれがある。
アリクストラ皮下注 （フォンダパリヌクス） 【限定採用薬】	重篤な腎障害（Ccr<30mL/min）のある患者の場合、本剤は腎臓を介して排泄されるので、血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある。
クレキサン注 （エキサパリンナトリウム）	重度の腎障害（CCr30mL/min未満）のある患者では、血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある。
エリキウス錠 （アピキサバン）	＜非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制＞CCr15mL/min未満の患者における使用経験がない。 ＜静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制＞重度の腎障害（CLcr 30mL/min未満）の患者における使用経験が少ない。

2. 循環器用薬

①不整脈薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
リスモダンR錠 （ジグピラミド）	本剤は主に腎臓で排泄されるため、血中半減期が延長することがあるので、徐放性製剤の投与は適さない。
シベンゾリン錠 シベノール注 （コハク酸シベンゾリン）	本剤は透析ではほとんど除去されない。 急激な血中濃度上昇により意識障害を伴う低血糖などの重篤な副作用を起こしやすい。
ソタコール錠 （塩酸ソタロール） 【限定採用薬】	重篤な腎障害（Ccr<10mL/min）のある患者の場合、本剤は腎臓から排泄されるため、血中濃度が高くなることにより、重篤な副作用が発現するおそれがある。

②ACE阻害薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
タナトリル錠 （塩酸イダプリル） エナラプリル錠 （マレイン酸エナラプリル） カプトリル錠 （カプトプリル） 【限定採用薬】	1. デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフエレーシスを施行中の患者：ブラジキニンの蓄積により血圧低下、潮紅、嘔気、嘔吐、腹痛、しびれ、熱感、呼吸困難、頻脈等のショック症状を起こすことがある。 2. アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜（AN69）

ロンゲス錠 (リシナプリル) 【限定採用薬】	を用いた血液透析施行中の患者：ブラジキニンの代謝が妨げられ蓄積することによるアナフィラキシー様症状を発現することがある。

※なお、「デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフェレーシス」および「アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜 (AN69) による血液透析」は、当院では行われておりません。

③持続性ARB／利尿薬(ヒドロクロチアジド：HCTZ) 合剤

商 品 名	理 由 (添付文書等記載事項)
プレミネットLD配合錠 (ロサルタンカリウム/HCTZ)	血清クレアチニン値が2.0mg/dLを超える腎機能障害患者においては、ヒドロクロチアジドにより腎血流量が低下し、ロサルタンカリウムにより腎機能障害が悪化するおそれがある。
エカード配合錠LD エカード配合錠HD (カンデサルタンシルキセチル/HCTZ) 【限定採用薬】	ヒドロクロチアジドの効果が期待できない。 血清クレアチニン値が2.0mg/dLを超える腎機能障害患者においては、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。

④高脂血症用薬

商 品 名	理 由 (添付文書等記載事項)
ベザトールSR錠 (ベサフィブラート)	本剤投与中、急激な腎機能の悪化を伴う横紋筋融解症があらわれることがある。この症状は透析患者、腎不全などの重篤な腎機能障害を有する患者であらわれやすいため、これらの患者には投与しないこと。
リピディル錠 (フィフィブラート) 【限定採用薬】	腎機能障害を有する患者においては、AUCの増加、Cmaxの上昇、及びT1/2の延長傾向がみられる。また、他のフィブレート系薬剤において、横紋筋融解症発現症例の多くが腎機能障害を有する患者であったことが報告されているため、目安としてSCr2.5mg/dL以上の患者には投与しないこと。

⑤利尿薬

商 品 名	理 由 (添付文書等記載事項)
フルイトラン錠 (トリクロルメチアジド)	GFRが30mL/min以下では無効である(ただし、ループ利尿剤と併用すると相乗効果が認められる)。無尿患者には禁忌。
アルダクトンA錠 (スピロラクトン) ソルダクトン注 (カン/酸カリウム)	腎機能を更に悪化させるおそれがある。また、腎からのカリウム排泄が低下しているため高カリウム血症を誘発又は増悪させるおそれがある。無尿患者には無効である。
フロセミド錠・注 (フロセミド) ルブラック錠 (トラセミド) アゾセミド錠 (アゾセミド)	無尿患者には効果がないため投与しない。
ナトリックス錠 (インダパミド)	GFRが30mL/min以下では無効である。

⑥抗アルドステロン薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
セララ錠 （エプ レノソ）	中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランス50mL/分未満のある患者）は、高カリウム血症を誘発させるおそれがある。

⑦硝酸薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
ニトロプロ注 （ニトロプロシド ナトリウム）	腎循環が抑制されるため尿量のある患者では禁忌であるが、無尿の患者では減量の必要はない。

⑧肺高血圧症治療薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
アドシルカ錠 （タダラフィル）	重度の腎障害のある患者では本剤の血漿中濃度が上昇すること、使用経験が限られていること及び透析によるクリアランスの促進は期待されないため。
アデムパス錠【限定】 （リオシガート）	使用経験がなく、本剤の血中濃度が著しく上昇するおそれがある。

3. 消化器管用薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
スクラルファート内用液 （スクラルファート水和物） F K 散 （メタケイ酸アルミン酸Mg等） アシドレス液 （水酸化Alゲル等） アドソルビン （天然ケイ酸Al）	長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症があらわれることがある。
ボノサップパック （ヒドロ除菌薬セット）	アモキシシリン水和物、クラリスロマイシンの血中濃度が上昇することがあり、本製品では各製剤の投与量を調節できないため、本製品の使用を避けること。

4. 糖尿病治療薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
バイエッタ皮下注 （エキセナチド）	本剤の消化器系副作用により忍容性が認められていない。
ファスティック錠 （ナテグリニド）	低血糖を起こすおそれがある。 （活性代謝物の蓄積による）
メトホルミン塩酸塩錠 （メトホルミン塩酸塩）	高い血中濃度が持続するおそれがあり、乳酸アシドーシスを起こしやすい。
アクトス錠 （ヒドログリタゾン）	重篤な腎機能障害（CCr<10mL/min）のある患者には投与禁忌。
グリメピリドOD錠 （グリメピリド） グリミクロン錠 （グリクラジド）	重篤な腎機能障害のある患者では、未変化体や活性代謝物の蓄積により低血糖を起こすおそれがある。

カナグル錠 (カガリフロゾン水和物) ジャディアンス錠 (エンパグリフロゾン)	高度腎機能障害患者又は透析中の末期腎不全患者では本剤の効果が期待できないため、投与しないこと。

5. 抗パーキンソン薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
ドブスカプセル (ドレシドパ)	症状が悪化するおそれがある。 用法（透析開始30分から1時間前に経口投与）・用量を遵守し、透析後の追加など過剰投与（過度の昇圧反応が見られることがある）にならないように注意すること。
シンメトレル錠 (アマタジン塩酸塩)	本剤は大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクロヌス等の副作用が発現することがある。また、本剤は血液透析によって少量しか除去されない。
ミラベックスLA錠 (プラミベキソール徐放錠) 【限定採用薬】	主に尿中に未変化体として排泄されるため、腎機能障害患者では副作用が発現しやすくなるおそれがある。高度な機能障害患者（CCr<30mL/min）に対しては状態を観察しながら速放錠であるビ・シフロール錠を慎重に投与すること。

6. 泌尿生殖器用薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
ザルティア錠 (タダラフィル)	重度の腎障害のある患者では本剤の血漿中濃度が上昇すること及び使用経験が限られているため。
レビトラ錠【限定】 (バルデナフィル)	本剤は血漿蛋白結合率が高く、尿中排泄率が低いため腎透析によるクリアランスの促進は期待できない。
ユリノーム錠 (ベソズブロマロン)	尿中排泄促進剤であり、尿量が減少した患者では無効のため投与しない。
ボンゾール錠【限定】 (タナゾール)	重篤な腎疾患では浮腫等の症状が強く現れることがある。

7. 抗ウイルス薬／抗真菌薬

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
シンメトレル錠 (アマタジン塩酸塩)	本剤は大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクロヌス等の副作用が発現することがある。また、本剤は血液透析によって少量しか除去されない。
コペガス錠 レベトール錠 (リバビリン)	慢性腎不全又はCCrが50mL/min以下の腎機能障害のある患者では、本剤の血中濃度が上昇し、重大な副作用が生じることがある。
ホスカビル注【限定】 (ホスカリットナトリウム)	本剤の投与により重度の腎障害を起こすことがあり、また、腎機能の低下により本剤の排泄遅延が起こるため、CCr0.4mL/min/kg（体重50kgの場合20mL/min）以下では使用を避ける。
ブイフェンド注 (ボリコナゾール)	腎排泄である注射剤の添加物スルホブチルエーテルβ-シクロデキストリンナトリウム(SBECN)の蓄積により腎機能障害が悪化するおそれがあるため、重度の腎機能障害のある患者（CCr<30mL/min）には経口剤の投与を考慮すること。

ソバルディ錠 (ソホスブビル) ハーボニー配合錠 (レジパスビル/ソホスブビル)	重度の腎機能障害（eGFR<30mL/分/1.73m ² ）又は透析を必要とする腎不全の患者には禁忌。重度腎機能障害の被験者では、ソホスブビルおよび代謝物のAUCがそれぞれ171%、451%高かった。

8. ビタミン剤（ビタミンAおよび誘導体）

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
チョコラ注 (ビタミンA)	腎不全患者では元々ビタミンA過剰例が多いので投与しない。
チガソンカプセル (エトナート)	腎障害のある患者では本剤の代謝・排泄が遅れ、作用が増強するおそれがある。
ベサノイドカプセル (トナイン)	腎障害のある患者では重篤な腎障害を起こすおそれがあり、透析患者ではビタミンA過剰症が増悪するおそれがある。

9. その他

商 品 名	理 由（添付文書等記載事項）
抗アレルギー薬 ザイザル錠、シロップ (レボセチリジン)	重度の腎障害（CCr<10mL/min）のある患者では、高い血中濃度が持続するおそれがあるため、投与禁忌。
抗うつ薬（SNRI） サインバルタカプセル (デュロキセチン)	高度（CCr<30mL/min）の腎機能障害のある患者では、血中濃度が上昇するため投与禁忌。
慢性疼痛治療剤 トラムセット配合錠 (トラマール/アセトアミノフェン)	腎機能障害患者では、トラマールおよびアセトアミノフェンのt _{1/2} 、AUCがともに増大する。また非ステロイド性消炎鎮痛剤の投与により腎障害が悪化することがあり、アセトアミノフェンの腎障害を悪化させる可能性がある。高度腎機能障害患者（CCr<30mL/min）における、本剤の薬物動態について検討はされていない。
抗利尿ホルモン用剤 ミニリンメルトOD錠 (デスモプレシン)	中等度以上（CCr<50mL/min）の腎機能障害のある患者では、血中半減期の延長、血中濃度の増加が認められ、水分貯留を引き起こし低ナトリウム血症発現のリスクを高める可能性がある。
月経困難症治療剤 ヤーズ配合錠 (ドロスピレノン/ エチルエストラジオール)	重篤な腎障害又は急性腎不全のある患者では、ドロスピレノンの弱い抗ミネラルコルチコイド作用により、血漿中レニン及びアルドステロン活性が上昇することがある。
脳保護薬 ラジカット注 (エタラボーン)	腎機能障害が悪化するおそれがあるため、重篤な腎機能障害のある患者には禁忌。
関節リウマチ治療薬 リウマトレックスCp (メトトレキサート)	腎障害のある患者では排泄が遅延し、副作用が強くあらわれるおそれがある。
骨粗鬆症治療剤 アクトネル錠 (リセドロン酸ナトリウム)	クレアチニンクリアランス値が約30mL/分未満の患者では排泄が遅延するおそれがある。

参考文献：[改訂2版]腎機能別薬剤使用マニュアル，（株）じほう

[改訂2版]透析患者への投薬ガイドブック，（株）じほう

各種添付文書

（医薬品情報2010年12月号抜粋）

（2017年2月改訂）

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
1	中枢 神経 用薬	内服	P L 配合顆粒	配合剤	眠気
2			S G 配合顆粒	配合剤	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
3			アーテン錠	トリヘキソフェニジル	ねむけ、眼の調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
4			アキネトン錠	ヒペリデン	眠気、調節障害および注意力・集中力・反射機能等の低下
5			アタラックス-Pカプセル	ヒドロキシジン	眠気
6			アナフラニール錠	クロミプラミン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
7			アモキサカプセル	アモキサピン	
8			アレビアチン錠・散	フェニトイン	
9			イーケプラ錠・ドライシロップ	レベチラセタム	
10			インフリーSカプセル	イントメタシン	眠気、めまい
11			エクセグラン錠・散	ゾニサミド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
12			エチゾラム錠	エチゾラム	
13			エバミール錠	ロルメタセパム	
14			エビリファイOD錠・内用液	アリピプラゾール	
15			エフピーOD錠	セレギリン	めまい、注意力・集中力・反射機能等の低下
16			カバサル錠	カベルゴリン	前兆のない突発的睡眠、傾眠、起立性低血圧
17			ガバペン錠	ガバペンチン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
18			クエチアピン錠	クエチアピン	
19			グラマリール錠	チアフリド	眠気、めまい・ふらつき等
20			グランダキシン錠	トフィパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
21			コンサータ錠	メチルフェニデート	めまい、眠気、視覚障害等
22			コントロール散	クロルジアセボキシド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
23			コントミン錠	クロルプロマジン	
24			サインバルタカプセル	デュロキセチン	眠気、めまい等
25			シンメトレル錠	アマンタジン	めまい、ふらつき、立ちくらみ、霧視等
26			ジェイゾロフト錠	セルトラリン	眠気、めまい等
27			ジプレキサザイデイス錠	オランザピン	傾眠、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
28			ストラテラカプセル	アトモキセチン	眠気、めまい等
29			セパゾン錠	クロキサゾラム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
30			セルシン錠・散	ジアセパム	
31			セレニカR顆粒	バルプロ酸ナトリウム	
32			セレネース錠・液	ハロペリドール	
33			ソラナックス錠	アルプラゾラム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
34			ゾルピデム酒石酸塩OD錠	ゾルピデム	
35			テグレート錠・細粒	カルバマゼピン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
36			テトラミド錠	ミアンセリン	
37			ディアコミットドライシロップ	スチラントール	
38			デジレル錠	トラゾトン	
39			デパケン錠・R錠・細粒	バルプロ酸ナトリウム	
40			トピナ錠・細粒	トピラマート	
41			トフラニール錠	イミプラミン	
42			トリアゾラム錠	トリアゾラム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
43			トリクロリールシロップ	トリクロリスナトリウム	傾眠、頭痛、めまい、ふらつき等
44			トリプタノール錠	アミトリプチン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
45			トレドミン錠	ミルナシプラン	眠気、めまい等
46			トレリーフOD錠	ゾニサミド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
47			ドパストン静注	レボドパ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
47					・集中力・反射機能等の低下
48			ドラル錠	クアセパム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
49			ネオドパストン配合錠L	レボドパ・カルビドパ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
50			ノウリアスト錠	イストラデフィリン	前兆のない突発的睡眠、睡眠発作、起立性低血圧、傾眠、めまい、意識消失、失神等
51			ノバミン錠	プロクロラゼジン	
52			バレリンシロップ	バルプロ酸ナトリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
53			パキシル錠・CR錠	パロキセチン	眠気、めまい等
54			ヒダントール錠	フェニトイン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
55			ビ・シフロール錠	フラミペキソール	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等 (自動車事故に到った例も報告されている)
56			ビムパット錠	ラコサミド	浮動性めまい、霧視、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
57			フィコンパ錠	ペランパネル	めまい、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
58			フェノバルビタール散10%	フェノバルビタール	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
59			フルニトラゼパム錠	フルニトラゼパム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
60			フロチゾラムOD錠	フロチゾラム	
61			ブリミドン細粒99.5%	フリミドン	
62			プロチアデン錠	トスレピン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
63			ベゲタミン-A配合錠	クロルプロマジン他	
64			ベルソムラ錠	スボレキサント	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
65			ベンザリン錠	ニトラゼパム	
66			マイスタン錠	クロハサム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
67			マドパー配合錠	レボドパ・ベンゼラジド	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
68			ミラペックスLA錠	フラミペキソール	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等 (自動車事故に到った例も報告されている)
69			メイラックス錠	ロフラゼパム酸エチル	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
70			メマリーOD錠	メマンチン	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい及び傾眠
71			ユーロジン錠	エストゾラム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
72			ラミクタール錠小児用	ラモトリギン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
73			リーゼ錠	クロチアゼパム	
74			リーマス錠	炭酸リチウム	めまい、ねむけ等
75			リスペリドンOD錠・内用液	リスパリドン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
76			リスミー錠	リルマサホン	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
77			リタリン錠	メチルフェネデート	めまい、眠気、視覚障害等
78			リフレックス錠	ミルタサピン	眠気、めまい等
79			リボトリール錠	クロチアゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
80			リリカカプセル	プレガバリン	めまい、傾眠、意識消失等 (自動車事故に到った例も報告されている)
81			リルテック錠	リルゾール	めまい又は眠気
82			ルーラン錠	ペロシピロン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
83			ルネスタ錠	エスゾピクロン	翌朝以降に、眠気、注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
84			ルボックス錠	フルボキサミン	眠気、意識レベルの低下・意識消失等の意識障害
85			レキソタン錠	プロマゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
86			レキップCR錠	ロピニロール	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等 (自動車事故に到った例も報告されている)
87			レキップ錠	ロピニロール	
88			レクサプロ錠	エシタロプラム	眠気、めまい等
89			レミニールOD錠	ガラントミン	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい、眠気

中枢神経用薬

内服

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
90	中枢神経用薬	内服	ロゼレム錠	ラメルテオン	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
91			ロドピン錠	ゾレピドン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
92			ロナセン錠	プロナセリン	
93			ワイパックス錠	ロラセパム	
94			臭化カリウム	臭化カリウム	
95		注射	アキネトン注射液	ヒペリデン	眠気、調節障害および注意力・集中力・反射機能等の低下
96			アタラックス-P注射液	ヒドロキシジン	眠気
97			アナフラニール点滴静注液	クロミプラミン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
98			アレビアチン注	フェニトイン	
99			コントミン筋注	クロルプロマジン	
100			セルシン注射液	ジアセパム	
101			セレネース注	ハロペリドール	
102			ディプリバン注	フロピオール	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に從事しないこと
103			ノーベルバール静注用	フェノバルビタールナトリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
104			フェノバール注射液	フェノバルビタール	
105			プレセデックス静注液	デクスメトミジン	
106			プロポフォール注	フロピオール	鎮静の影響が完全に消失するまでは自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に從事しないこと
107			ホストイン静注	ホスフェニトインナトリウム	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に從事しないこと
108			イクセロンパッチ	リバスチガミン	眠気、めまい、ふらつき感等
109		外用	インテバンSP	イントメタジン	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい及び傾眠
110			スープレン吸入麻酔液	デスフルラン	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に從事しないこと
111			ニュープロパッチ	ロクロチン	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
112			フォーレン吸入麻酔液	イソフルラン	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に從事しないこと
113	末梢神経用薬	内服	エペリゾン錠	エペリゾン	脱力感、ふらつき、眠気等
114			ダントリウムカプセル	ダントロレンナトリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
115			チザニジン錠・顆粒	チザニジン	反射運動能力の低下、眠気、めまい及び低血圧等
116			トランコロン錠	メソソラート臭化物	視調節障害
117			ブスコパン錠	ブチルスコポラミン	眼の調節障害等
118			リンラキサー錠	クロルフェニジン	ねむけ、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
119			硫酸アトロピン散	硫酸アトロピン	視調節障害、散瞳等
120		注射	アトロピン注0.05%シリンジ	アトロピン硫酸塩	視調節障害、散瞳等
121			ギャバロン錠	バクロフェン	眠気等
122			ハイスコ皮下注	スコポラミン	眼の調節障害、眠気、めまい等
123			ブチルスコポラミン注	ブチルスコポラミン	
124			ボトックス注用	A型ボツリヌス毒素	脱力感、筋力低下、めまい、視力低下
125	循環器官用薬	内服	アイミクス配合錠	イルベサルタン/アムロジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
126			アジルバ錠	アジルサルタン	
127			アスペノンカプセル	アフリンジン	手指振戦、めまい、ふらつき等
128			アゼルニジピン錠	アゼルニジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
129			アデムパス錠	リオシグアト	めまい等
130			アドシルカ錠	タダラフィル	めまいや視覚障害
131			アバプロ錠	イルベサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
132			アムロジピンOD錠	アムロジピン	
133			アルダクトンA錠・細粒	スピロラクトン	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
134	循環器 官 用 薬	アルドメット錠	メチルト [®] ハ [®]	眠気、脱力感等（投与初期、増量時）
135		インデラル錠	プロプラノロール	めまい、ふらつき
136		ウブトラビ錠	セキシハ [®] グ [®]	意識障害
137		エカード配合錠	カンテサルタン/ヒドロクロチアジド [®]	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
138		エックスフォージOD配合錠	バルサルタン/アムロジピン	
139		エナラプリル錠	エナラプリル	
140		エブランチルカプセル	ラシニジル	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
141		オルメテック錠	オルメサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
142		カタプレス錠	クロニジン	静作用により反射運動等
143		カプトプリル錠	カプトプリル	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
144		カルベジロール錠	カルベジロール	めまい・ふらつき
145		カンデサルタンOD錠	カンデサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
146		サムスカ錠	トルバプタン	めまい等
147		シベンゾリン錠	シベンゾリン	めまい、ふらつき、低血糖
148		シルニジピン錠	シルニジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
149		ジルチアゼム錠・Rカプセル	ジルチアゼム	
150		セパミット-R細粒	ニフェジピン	
151		セララ錠	エフレノン	
152		セレクトール錠	セリプロロール	めまい、ふらつき
153		タナトリル錠	イミダプリル	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
154		ダイアモックス錠	アセタゾラミド [®]	
155		テノーミン錠	アテノロール	めまい、ふらつき
156		トランデート錠	ラベタロール	
157		ドキサゾシン錠	ドキサゾシン	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
158		ナトリックス錠	インタハミド [®]	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
159		ニトロペン舌下錠	ニトログリセリン	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
160		ニフェジピンCR錠	ニフェジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
161		バソメット錠	テラゾシン	
162		バルサルタン錠	バルサルタン	
163		フルイトラン錠	トリクロルメチアジド [®]	
164		フロセミド錠	フロセミド [®]	
165		プレミネント配合錠	ロサルタンカリウム/ヒドロクロチアジド [®]	
166		ベニジピン錠	ベニジピン	
167		ミカムロ配合錠	テルミサルタン/アムロジピン	めまい・ふらつき
168		ミカルディス錠	テルミサルタン	
169		ミケラン錠・細粒	カルテオロール	めまい・ふらつき
170		ミニプレス錠	プロラゾシン	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
171		ミリステープ	ニトログリセリン	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
172		メインテート錠	ビソプロロール	めまい、ふらつき
173		メキシチールカプセル	メキシチン	頭がボーとする、めまい、しびれ等の精神神経系症状
174		ユニシア配合錠	カンテサルタン/アムロジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
175		ラシックス細粒	フロセミド [®]	めまい、低血糖等
176		リスモダンカプセル・R錠	ジソピラミド [®]	
177		ルブラック錠	トラセミド [®]	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
178		レザルタス配合錠	オルメサルタン/アゼル	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
178				ニジピン	
179			レバチオ錠	シルデナフィル	めまいや視覚障害、色視症、霧視等
180			レルパックス錠	エリトリアタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
181			ロプレソール錠	メフロロール	めまい、ふらつき
182			ロングス錠	リシノプリル	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
183			一硝酸イソソルビド錠	一硝酸イソソルビド	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
184			インデラル注射液	プロプラノロール	めまい、ふらつき
185			ダイアモックス注射用	アセタゾラミド	
186			フロセミド注	フロセミド	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
187			ビソノテープ	ビソプロロール	めまい、ふらつき
188			フランドルテープ	硝酸イソソルビド	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
189			ミオコールスプレー	ニトログリセリン	
190			コデインリン酸塩散	コデインリン酸塩	眠気、めまい
191			メジコン錠	デキストロメトルファン	眠気
192			ゾレア皮下注	オマリスマブ	めまい、疲労、失神、傾眠
193			フルマゼニル注射液	フルマゼニル	本剤投与により患者が覚醒した後もベンゾジアゼピン系薬剤の作用が再出現する可能性がある
194			サラジェン錠	ヒロカルピン	縮瞳（夜間の自動車の運転及び暗所での危険を伴う機械の操作に注意）
195			サリグレンカプセル	セビメリン	
196			スルピリド錠50mg	スルピリド	眠気、めまい等
197			ドンペリドン錠	ドンペリドン	眠気、めまい・ふらつき
198			ブリンペランシロップ	メクロプラミド	
199			ペラプリン錠	メクロプラミド	
200			ロペミンカプセル・細粒	ロペラミド	眠気、めまい
201			ブリンペラン注射液	メクロプラミド	眠気、めまい
202			ナウゼリン坐剤	ドンペリドン	眠気、めまい・ふらつき
203			ペガシス皮下注	ヘクインターフェロン アルファ-2a	
204			ペグイントロン皮下注	ヘクインターフェロン アルファ-2b	めまい、錯乱、傾眠、疲労
205			ジクロフェナク錠・SRカプセル	ジクロフェナクナトリウム	眠気、めまい、霧視
206			セレコックス錠	セレコキシブ	浮動性めまい、回転性めまい、傾眠等
207			ゾーミッグRM錠	ゾルミトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
208			トラムセット配合錠	トラマール/アセタミノフェン	眠気、めまい、意識消失 （自動車事故に到った例も報告されている）
209			ポンタールシロップ・カプセル	メフェナム酸	めまい、眠気
210			モービック錠	メロキシカム	眼の調節障害、眠気等の精神神経系症状
211			イミグラン注	スマトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
212			イミグラン点鼻液	スマトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
213			ボルタレンサポ	ジクロフェナクナトリウム	眠気、めまい、霧視
214			アレジオン錠・DS	エビナスチン	
215			アレロック顆粒	オロパタジン	
216			エバステル錠	エバスタチン	
217			オロパタジン塩酸塩OD錠	オロパタジン	
218			ザイザル錠・シロップ	レボセチリジン	眠気
219			ザジテンドライシロップ0.1%	ケチフェン	
220			タリオンOD錠	ベホタスチン	
221			ペリアクチン錠	シプロヘパタジン	
222			レスタミンコーワ錠	ジフェンヒドラミン	
223			クロール・トリメトン注	クロルフェニラミン	眠気

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
224	ホルモン剤	内服	クロミッド錠	クロミフェン	霧視等の視覚症状
225			セレスタミン配合錠	ベタメタゾン・d-クロルフェニラミン	眠気
226		注射	テリボン皮下注	テリパラチド	一過性の血圧低下に基づくめまいや立ちくらみ、意識消失等
227			バイエッタ皮下注	エキセナチド	低血糖（SU剤併用時）
228	血液・体液用薬	内服	ベラプロストNa錠 20	ベラプロストナトリウム	意識障害等
229	その他代謝性医薬品	内服	アクトス錠15	ヒオクサリゾン	低血糖症状
230			エクア錠	ビルタグリフチン	低血糖及び低血糖症状
231			エクジェイド懸濁用錠	デフェラシロクス	めまい、視覚・聴覚障害
232			オングリザ錠	サキサグリフチン	低血糖症状、めまい等
233			カナグル錠	カナグリフロジン	低血糖症状
234			グリミクロン錠	グリクラジド	重篤かつ遷延性の低血糖
235			グリメピリドOD錠	グリメピリド	
236			グルベス配合錠	ミチグリトール/ホセリホース	低血糖症状
237			シアナマイド内服液1%「タナベ」	シアナミド	注意力・集中力・反射運動能力等の低下
238			シュアポスト錠	レバグリニド	低血糖症状
239			ジャディアンス錠	エンバグリフロジン	
240			ジャヌビア錠	シタグリフチン	めまい、ふらつき（投与初期）
241			ジレニアカプセル	フィンゴリト	
242			セイブル錠	ミグリトール	低血糖症状
243			テネリア錠	テネリグリフチン	
244			トラゼンタ錠	リナグリフチン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
245			ノックビン原末	ジスルフィラム	
246			ピレスパ錠	ビルフェニドン	眠気、めまい、ふらつき
247			ファスティック錠	ナテグリニド	本剤の服用後、低血糖及び低血糖症状
248			フォシーガ錠	ダハグリフロジン	低血糖症状
249			ボグリボースOD錠	ホセリホース	
250			メトピロンカプセル	メチラホン	めまい、眠気
251			メトホルミン塩酸塩錠	メトホルミン	低血糖症状
252		注射	デスフェラル注射用	デフェロキサミン	めまい、視覚・聴覚障害
253			パミドロン酸2Na点 滴静注用	パミドロン酸二ナトリウム	眠気、めまい、注意力の低下等
254			フォルテオ皮下注キット	テリパラチド	起立性低血圧、めまい
255	腫瘍用薬	内服	アロマシン錠	エキセメスタン	嗜眠、傾眠、無力症及びめまい
256			イクスタンジカプセル	エンザルタミド	痙攣発作
257			イレッサ錠250	ケフィチニブ	無力症
258			グリベック錠	イマチニブ	めまい、眠気、霧視等
259			サレドカプセル	サリトマイド	傾眠、眠気、めまい、徐脈、起立性低血圧
260			ザーコリカプセル	クリゾチニブ	視覚障害（視力障害、光視症、霧視、硝子体浮遊物、複視、視野欠損、羞明、視力低下等）
261			スーテントカプセル	スニチニブ	めまい、傾眠、意識消失等
262			タシグナカプセル	ニロチニブ	めまい、霧視・視力低下等の視力障害等
263			フェマール錠	レトロゾール	疲労、めまい、まれに傾眠
264			ボシュリフ錠	ホスチニブ	浮動性めまい、疲労、視力障害等
265			ポマリストカプセル	ホマリトミド	傾眠、錯乱、疲労、意識レベルの低下、めまい
266			レブラミドカプセル	レナリトミド	疲労、めまい、傾眠、霧視
267			レンビマカプセル	レンバチニブ	疲労、無力症、めまい、筋痙攣等
268		注射	アラノンジー静注用	ネララピン	傾眠
269			ゲムシタピン注射用	ゲムシタピン	
270			タキソール注射液	パクリタキセル	無水エタノールを含有するため、前投薬で投与される抗ヒスタミン剤とアルコールの相互作用による中枢神経抑制作用の増強の可能性がある
271			トーリセル点滴静注液	テムシロリムス	
272			ハイカムチン注射用	ノギテカン	易疲労感

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
273	腫瘍薬	注射	ベルケイド注射用	ホルテゾミド	疲労、浮動性めまい、失神、起立性低血圧、霧視
274	抗生物質製剤	内服	ジスロマック錠・SRドラッグ	アジスロマイシン	意識障害等
275			ミノサイクリン塩酸塩錠	ミノサイクリン	めまい感
276		注射	ジスロマック点滴静注用	アジスロマイシン	意識障害等
277			ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用	ミノサイクリン	めまい感
278	化学療法剤	内服	アベロックス錠	モキシフロキサシン	失神、意識消失、めまい等
279			ジェニナック錠	ガレノキサシン	意識障害等
280			ゾビラックス錠	アシクロビル	
281			テラビック錠	テラプレビル	
282			バラシクロビル錠・顆粒	バラシクロビル	
283			バリキサ錠	バルガンシクロビル	痙攣、鎮静、めまい、運動失調、錯乱
284			ファムビル錠	ファムシクロビル	意識障害等
285			ブイフェンド錠	ホリコナゾール	【警告】羞明、霧視、視覚障害等 (投与中止後も持続することがある)
286			ラミシール錠	テルビナフィン	眠気、めまい・ふらつき等
287			レボフロキサシン錠	レボフロキサシン	意識障害等
288		注射	アシクロビン点滴静注	アシクロビル	意識障害等
289			クラビット点滴静注バッグ500mg	レボフロキサシン	
290			ゾビラックス点滴静注用250	アシクロビル	
291			デノシン点滴静注用	ガンシクロビル	痙攣、鎮静、めまい、運動失調、錯乱
292			ブイフェンド静注用	ホリコナゾール	【警告】羞明、霧視、視覚障害等 (投与中止後も持続することがある)
293	寄生薬動	内服	ビルトリシド錠	フロシカンテル	眠気
294	感覚器用薬	内服	トラベルミン配合錠	ジフェニドラミン他	眠気
295		注射	ビスダイン静注用	ベルテホルフイン	視覚異常、視力低下又は視野欠損等の視覚障害
296			マキユエイド硝子体内注用	トリアムシロンアセトニド	霧視、飛蚊症等
297			マクジェン硝子体内注射用	ヘキサフルオロトリウム	注射後の一時的な霧視
298		外用	アイファガン点眼液	フリモニジン	眠気、めまい、霧視等
299			アイリーア硝子体内注射液	アフリヘルセプト	注射後の一時的な霧視
300			エイゾプト懸濁性点眼液	フリソゾラミド	点眼後の一時的な目のかすみ
301			キサラタン点眼液	ラタノプロスト	点眼後の一時的な霧視
302			サイプレジン点眼液	シクロペンタラート	散瞳又は調節麻痺
303			サンピロ点眼液	ピロカルピン	縮瞳(暗黒感)又は調節痙攣
304			ザラカム配合点眼液	ラタノプロスト・チモールマレイン酸塩	点眼後の一時的な霧視
305			タプロス点眼液	タフルプロスト	
306			デュオトラバ配合点眼液	トラホプロスト/チモールマレイン酸塩	
307			トラバタンズ点眼液	トラホプロスト	
308			ネオシネジンコーワ点眼液	フェニレフリン	散瞳
309			ミケルナ配合点眼液	カルテオロール/ラタノプロスト	点眼後の一時的な霧視
310			ミドリリンM点眼液	トロピカミド	散瞳又は調節麻痺
311			ミドリリンP点眼液	トロピカミド・フェニ	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

	分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
311	感覚器 用薬	外用		レフリソ	
312			ムコスタ点眼液UD	バミピト	点眼後の一時的な目のかすみ
313			ルセンティス硝子体内 注射液	ラビズマブ	注射後の一時的な霧視
314			ルミガン点眼液	ビマトプロスト	点眼後の一時的な霧視
315			日点アトロピン点眼液1 %	アトロピン	散瞳又は調節麻痺
316	泌尿生 殖器官 用薬	内服	ウリトスOD錠	イミダフェナシン	眼調節障害（羞明、霧視、眼の異常感等）、めまい、眠気
317			ザルティア錠	タラフィル	めまい、視覚障害
318			シアリス錠	タラフィル	めまいや視覚障害
319			タムスロシン塩酸塩OD 錠	タムスロシン	めまい等
320			デトルシトールカプセル	トルテロシン	眼調節障害（霧視等）、めまい、眠気
321			トビエース錠	フェソテロシン	眼調節障害（霧視等）、めまい、眠気等
322			バイアグラ錠	シルデナフィル	めまいや視覚障害
323			バップフォー錠・細粒	フロピペリン	眼調節障害、眠気、めまい
324			フリバスOD錠	ナフトピジル	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
325			ベシケアOD錠	コハ酸ソリフェナシン	眼調節障害（霧視等）、傾眠
326			ユリーフ錠	シロトシン	めまい等
327			レビトラ錠	バルデナフィル	めまいや視覚障害
328		外用	ネオキシテープ	オキシメチン	眼調節障害（視力障害、霧視等）、めまい、眠気
329	用診 薬断	注射	グルカゴン注射用1単位 「イトウ」	グルカゴン	二次的な低血糖
330	アルカ ロイド 系麻薬	内服	MSコンチン錠	モルヒネ硫酸塩	眠気、眩暈
331			アヘンチンキ	アヘン末	眠気、めまい
332			オキシコンチン錠	オキシコドン	眠気、眩暈
333			オキノーム散	オキシコドン	
334			オプソ内服液	モルヒネ塩酸塩	
335			コデインリン酸塩散1 0%「第一三共」	コデインリン酸塩	眠気、めまい
336			パシーフカプセル	モルヒネ塩酸塩	
337			モルヒネ塩酸塩錠・原 末	モルヒネ塩酸塩	
338			モルペス細粒	モルヒネ硫酸塩	
339		注射	オキファスト注	オキシコドン	眠気、眩暈
340			モルヒネ塩酸塩注射液	モルヒネ塩酸塩	眠気、めまい
341	非アル カロイド 系麻薬	外用	アンペック坐剤	モルヒネ塩酸塩	眠気、眩暈
342		内服	アブストラル舌下錠	フェンタニル	眠気、めまい
343			タペンタ錠	タペンタール	
344			メサペイン錠	メサドン	
345		注射	アルチバ静注用	レミフェンタニル塩酸 塩	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転 や危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
346			フェンタニル注射液	フェンタニル	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運 転、危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
347			フェントステープ	フェンタニル	眠気、めまい
348			ペチロルファン注射液	ペチジン塩酸塩 ・レバロルファン酒 石酸塩	
349			レミフェンタニル静注 用	レミフェンタニル塩酸 塩	
350		外用	デュロテップMTパッチ	フェンタニル	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転 や危険を伴う機械の操作等に従事しないこと
351	非麻 薬性 鎮 痛 剤	内服	トラマールOD錠	トラマール	眠気、めまい、意識消失 （自動車事故に到った例も報告されている）
352			ワントラム錠	トラマール	眠気、めまい、意識消失
353		注射	ペンタジン注射液	ペンタジン	眠気、めまい、ふらつき感等
354		外用	ノルスパンテープ	ブプレノルフィン	眠気、めまい、ふらつき
355	のそ	内服	チャンピックス錠	バルネクリン	めまい、傾眠、意識障害等

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

355	分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
	他				(自動車事故に到った例も報告されている)

(2 0 1 5 年 2 月 作 成 薬 剤 部)
(2 0 1 7 年 3 月 改 訂)

ビジクリア錠使用における確認表

1. ムーベンと異なって、残渣(薬包)が若干残りやすいので、大腸内視鏡検査前処置としてはムーベンを第一選択としてください。本剤はどうしてもムーベンがのめない患者様に投与してください。
2. ムーベンと異なって、前日のラキソベロン投与は通常不要です。
3. ムーベンと異なって、同日に胃および大腸内視鏡検査を行なうことはできません。

ビジクリア錠のご使用の際には以下の表をご活用下さい。

項目	疾患及び疾病等	担当医記入欄		添付文書対応			
				警告	禁忌	慎重投与	重要な基本的注意
心臓	心疾患を疑わせる所見	有	無	○			
	うっ血性心不全または不安定狭心症	有	無		○		
	急性心筋梗塞、心臓手術（冠動脈バイパス手術等）の既往	有	無			○	
	基礎心疾患（弁膜症、心筋症の既往も含む、不整脈等）がある、QT延長又は不整脈のコントロールができなかったことのある、またはできない患者	有	無			○	
	QT延長症候群、重篤な心室性不整脈	有	無		○		
腎臓	腎疾患を疑わせる所見	有	無	○			
	生検により急性リン酸腎症	有	無		○		
	腎機能障害	有	無			○	
	急性リン酸腎症の高リスク（循環血液量減少、腎疾患、高齢、腎血流量・腎機能に影響を及ぼす薬剤（利尿剤、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体阻害薬、NSAIDsなど）の使用）又は既往	有	無				○
電解質	電解質異常（脱水、または利尿剤使用に伴う二次性電解質異常など）を疑わせる所見	有	無	○			
	電解質濃度	異常	正常	○			
痙攣	痙攣発作の既往	有	無			○	
	痙攣発作のリスクが高い患者（三環系抗うつ薬など発作の閾値を低下させる薬剤を使用している患者、アルコールやベンゾジアゼピンの退薬症状（禁断症状）がある患者）	有	無			○	
胃腸	腹水を伴う疾患を合併	有	無		○		
	胃腸管閉塞症または胃腸管閉塞症の疑い	有	無	○	○		
	腸管穿孔又は腸管穿孔の疑い	有	無		○		○
	中毒性巨大結腸症	有	無		○		
	慢性炎症性腸疾患の急性増悪	有	無			○	
	高度な便秘	有	無	○		○	
	腹部手術歴	有	無			○	
	過去の検査により腸管狭窄や腸管憩室を認められ、臨床症状を呈している	有	無	○		○	
アレルギー	今まで本剤を服用して、アレルギー症状等がみられた	有	無		○		
	本剤以外で、薬物過敏症の既往歴	有	無			○	
服薬	インスリン、糖尿病のお薬の服用	有	無				○
	電解質濃度に影響を及ぼし得る薬剤の服薬 ・低カリウム血症を誘発する薬剤（インスリン、β刺激薬、副腎皮質ホルモン、ループ利尿剤、チアジド系利尿剤等） ・低ナトリウム血症を誘発する薬剤（血糖降下剤、向精神薬、抗けいれん薬、ループ利尿剤、チアジド系利尿剤等） ・高リン血症を誘発する薬剤（緩下剤（リン酸ナトリウム含有製剤）、輸液（リン含有製剤）、ビスホスホネート系製剤、成長ホルモン、甲状腺ホルモン等）	有	無	○			○
	QT延長をきたすおそれのある薬剤の服薬 抗不整脈薬、三環系抗うつ薬、向精神薬等	有	無	○			○
年齢	高齢者（65歳以上）	該当	非該当			○	○

処方せんの書き方（発行）と注意点

目 次

ページ

A. 処方せんの書き方（発行）について

1. 処方せんの種類	3
2. 入力（記載）必須事項	3
3. 標準的書き方	3
4. 書き方の留意点（複数の医薬品が処方されることが多い）	4
5. 特殊例の書き方	5
6. 1日分量表示の約束	7

B. 注射処方せんの書き方（発行）について

1. システム運用と紙運用の範囲について	8
2. 注射処方区分について	8
3. 処方入力について	9
4. 注射薬の中止・返品のしかた	10
5. 疑義問い合わせについて	11
【資料1】院内共通の救急カート・注射薬配置図	12
【資料2】特定生物由来製品を使用する際の説明および同意書の取得について	13

C. 麻薬の取り扱い

1. 麻薬取扱者（施用者・管理者）	14
2. 麻薬の施用	14
3. 麻薬処方せん	14
4. 麻薬入院患者持参連絡票	14
5. 注射用麻薬施用の手順（注射オーダーリングの場合）	14
6. 麻薬注射処方せん（手書き・4枚複写）の様式と保管	15
7. 注射用麻薬施用の手順（手書き・4枚複写）	15
8. 麻薬注射施用票記入についての注意事項	16
9. 診療録（カルテ）への麻薬施用記録	17
10. 麻薬の事故処理	17
11. 麻薬中毒者の届出	17
【資料3】採用している麻薬一覧表	18

D. 処方オーダーリングシステム利用上の注意点

1. 処方オーダーリングの全般的注意ならびに適応範囲	19
2. 使用する伝票	21
3. 処方せんの修正・削除	22
4. Q & A	23
5. オーダリング時の誤入力防止対策について	24
6. 入院処方入力時の注意点	24

E. 注射オーダリングシステム利用上の注意点

1. システム運用と紙運用の範囲について	2 5
2. 注射処方区分および締め切り時間について	2 6
3. 出力される帳票類について	2 7
4. 注射処方せんの修正・削除・発行・実施	2 8
5. 注射運用フロー	2 9
6. 修正・削除について	3 6
7. 医事伝達について	3 6
8. 抗がん剤の処方について	3 7
9. レジメンオーダーについて	3 7
10. よくある問い合わせ	3 7

例 4	R p. ルリコン液 1 %	1 0 mL
	1日1回患部に塗布	

例5	R p. ケトプロフェンパップ30mg(7枚/包) 腰に 1日1枚	2包

- ・1包6枚入り：アドフィードパップ[®]40mg等
- ・1包7枚入り：ケトプロフェンテープ[®]40mg・パップ[®]30mg等

- ・用法・用量とも同じ場合は、処方を1つにまとめる。
- ・服用回数の異なるものは処方を分ける。

例 6	R p .	1) テグレートール錠 200mg	3T	[不適]
		1日3回：朝昼夕食後		
		2) アレビアチン錠 100mg	3T	
		1日3回：朝昼夕食後		
		3) セルシン錠 2mg	3T	
		1日3回：朝昼夕食後		
		4) プリミドン細粒<成分量として>	250mg	
		1日1回：ねる前		
		各7日分		

例 7	R p . 1)	テグレートール錠 200mg	3T	[適正]
		アレビアチン錠 100mg	3T	
		セルシン錠 2mg	3T	
		1日3回：朝昼夕食後		
		7日分		
	2)	プリミドン細粒<成分量として>	250mg	mg は必ず記載（入力）する。
		1日1回：ねる前		
		7日分		

5. 特殊例の書き方

- 1) 1日のうちで、用量の異なる（不均等用法）場合、
例えば、プレドニゾン錠5mg 6錠 分2 朝4 T 昼2 Tの場合は、
①《内服不均等画面》を選択
②「1日2回朝昼食後：朝____、昼____」を選択し「朝4、昼2」と入力する
また、錠数の割り切れない場合にも、同様に入力する。

例8 R p. プレドニゾン錠5mg 6 T
(処方用法) 1日2回：朝昼食後：朝4、昼2
7日分

2) 隔日投与の場合

- ・《内服隔日投与画面》から任意の用法を選択し、実際に服用する日数（実日数）を入力（記載）する。

例9 R p. プレドニゾン錠5mg 2 T
1日1回：朝 隔日
4日分（実日数）

- ・隔日の服用個数が異なる場合：その旨を具体的に明示する

例10 R p. ①デカドロン錠0.5mg 2 T
1日1回：朝食後 隔日（奇数日）
4日分
②デカドロン錠0.5mg 0.5 T
1日1回：朝食後 隔日（偶数日）
3日分

3) 曜日指定を行う場合

- ・「曜日指定」を選択し、任意の曜日を指定する

例11 R p. ボナロン錠35mg 1 T
1日1回 起床時 [木]
1日分

4) 処方せん全体の開始日と異なる開始日をRp毎に指定を行う場合

①用法入力後に用法欄を右クリックし、開始日変更を選択

②処方せん全体の開始日以降の任意の開始日を選択

例12

処方せん開始日：2017年2月7日朝から

Rp. 1) プレドニゾロン錠5mg 2T

1日1回 朝食後

3日分

Rp. 2) プレドニゾロン錠5mg 1T

1日1回 朝食後

3日分

開始日：2017年2月10日朝から

5) 調剤時に錠剤・カプセル剤を粉末化する場合：『粉碎』と指示する

例13

Rp. モサプリド／ガスマチン錠5mg 3T (粉碎)

1日3回：朝昼夕食後

7日分

6) 調剤時に一包化する場合：処方せんコメントで『一包化にして下さい』と指示する

例14

一包化にして下さい

Rp. 1) バイアスピリン錠100mg 1T

1日1回：朝食後

5日分

2) ベニジピン塩酸塩／コニール錠4mg 2T

1日2回：朝夕食後

5日分

6. 1日分量表示の約束

- 1) 散薬の1日分量は、原則として成分量で入力（記載）する。特に、テグレート細粒などの50%散の場合、製剤量で入力（記載）せず、（〈成分量〉として）と括弧書きし、成分量で入力（記載）する。

例13 R p. テグレート細粒(500mg / g) 〈成分量〉 4 0 0 mg
1 日 3 回：朝昼夕食後 1 4 日分

【注】散薬の1日分量は、“成分量”で入力（記載）する。しかしながら、保険医療においては、“製剤量”での入力（記載）が求められていることもあり、処方せんには成分量と製剤量を併せて表示している。

- 2) 手書きの場合、表示単位の省略はg、mLのみとする。その他の単位は必ず記載する。

例14 R p. カロナールシロップ (2 0 m g / mL) 2 0 mL
頓用 疼痛時・発熱時 5 回分

- ・製剤としては1mL中に20mgを含有する。したがって、単位の入力（記載）がないときには、20mLすなわち400mgとなる。

以上
(2017年3月改訂)

B. 注射処方せんの書き方（発行）について

1. システム運用と紙運用の範囲について

現在、注射処方せんにて運用しているものを注射オーダーリングの範囲とする。

対象外の部門	:	手術室
システムと紙運用が混在の部署	:	I C U、救急外来
その他	:	原則システム運用

麻薬の注射についても上記と同様に運用

インスリン、吸入については下記の通り運用

[インスリン]		物 品	コスト
スライディングスケール		製剤伝票	専用伝票
ヒューマリンR（複数患者分割使用）		製剤伝票	注射オーダー
個人使用ペン型インスリン		処方オーダー	注射オーダー

- ・ 定期打ちインスリンは注射オーダーを使用する（払い出しなし）。
- ・ インスリン量の変更があった場合は、医師に新しい処方を出し直してもらい、変更前の処方 は看護師が実績中止する。

[吸入]		物 品	コスト
吸入液		製剤伝票	汎用オーダー
生食		製剤伝票	汎用オーダー

注射オーダーでは、注射用生食と処置用の生食が医事課で区別できないため、運用の統一、コストの重複回避のため上記運用とした。

2. 注射処方区分について

- 外来・・・外来患者に対し、登録方法「予定入力」を選択した際に「外来」と登録される。
- 通常・・・入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間前であった場合に「通常」として登録される。

- 臨時・・・入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間後であった場合に「臨時」として登録される。
- 事後・・・入院・外来ともに、登録方法「事後入力」を選択した際に「事後」と登録される。
- 必要時・・・入院患者に対し、医師が前もって指示・登録しておいた「必要時」処方について、看護師が発行した場合に「必要時」と登録される。
- 化療・・・入院・外来ともに、レジメンオーダーにて抗がん剤をオーダーした場合「化療」と登録される。（オーダエントリ画面“RG”と表示）

締め切り時間

通常の締め切り時間は次の通りとする。

実施予定日	4北・5北・6北病棟	その他の病棟
火～金曜日実施予定分	前日の13時	前日の10時
土・日曜日実施予定分	前々日の13時	前々日の10時
月曜日実施予定分	直前の平日の13時	直前の平日の10時

3. 処方入力について

注射薬の処方オーダーリングは、1施用毎にラベルが出力されるため、入力に際しては以下の注意が必要である。

- ・使用量は1回の使用量を入力する。

(誤)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	3	袋
点滴静注(div) (予定入力)	04/20～04/22 (1) (1) (1)	

(正)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	1	袋
点滴静注(div) (予定入力)	04/20～04/22 (3) (3) (3)	

- ・施用毎にRpを分けて入力する。

(誤)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	1	袋
ヴィーンD 500mL/本	1	本
点滴静注(div) (予定入力)	04/20～04/22 (2) (2) (2)	

(正)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	1	袋
点滴静注(div) (予定入力)	04/20～04/22 (2) (2) (2)	

薬剤名	使用量	単位
ヴィーンD 500mL/本	1	本
点滴静注(div) (予定入力)	04/20～04/22 (2) (2) (2)	

- ・処方せん番号は処方登録時に発行され、同じ処方せん番号のRp. が1枚の処方せんに印字される。処方を分けたい場合は、登録のタイミングをずらして入力する。

4. 注射薬の中止・返品のしかた

1) 外来

- ・発行前の処方 : 医師が削除、修正
- ・発行後(薬剤受領前) : 薬剤部へ中止依頼
- (薬剤受領後) : 当該注射処方せんに返品内容を記載し、返品薬剤を受領、調剤印押印

①外来看護師は、指示変更内容を「②(カルテ)」に記載し、そのコピーを医事課へまわす。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

②薬剤師は、「②(カルテ)」の変更内容を当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて転記(返品薬剤を囲み、返品の旨記載)する。

2) 入院

- ・未実施 : 医師が削除、修正
- ・実施待、実施済 : 看護スタッフが「注射処方せん②(カルテ)」のコピーで返品

①医師は中止がある場合、看護師へ伝達する。

②病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載。ラベル剥離・マジック消去は病棟で行い、返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

③看護師が実績入力にて実績中止を行う。

Rp. 単位での処方のため、未来日の部分返品も問題ない。

5. 疑義問い合わせについて

処方せんの記載不備、投与量その他、内容に疑義がある場合、薬剤師は主治医に問い合わせを行う。

1) 抗がん剤及び毒薬(一部を除く)*の問い合わせ

研修医・レジデントが処方した抗がん剤及び毒薬(一部を除く)の疑義問い合わせは、①主治医②指導医③担当診療部長の順に疑義の理由を説明し確認を行う。

確認前、あるいは後も疑義が完全に解けない場合、薬剤の払い出しをしてはならない。

*：抗がん剤、毒薬その他の類似医薬品の処方研修医・レジデントのサインだけでは無効で、必ず指導医又は担当診療科部長のサインを必要とする(院長通知/2003.3.12)。

2) 疑義問い合わせ後の処理、変更について

問い合わせの結果、訂正が必要となった場合には、薬剤師は一旦処方中止とし、オーダ削除を行い、医師に新たにオーダ入力してもらう。

それが困難な場合は、薬剤師がオーダの修正操作を行い、修正された処方指示票の変更部分に朱書きで○をつけ、新たに発行された「②カルテ」と薬剤とともに病棟へ搬送する。ただし、処方指示票は、変更されたRp.にのみ発行されるため、処方の一部を削除した場合は、処方指示票は発行されない。

修正済み処方せんは、修正内容を記載した修正前処方せんとホッチキスでとめ保管する。

- 注射処方の修正について医師の確認を不要とするもの
- ① 薬剤の規格を変更し、薬価の安い組み合わせにする
 - ② 薬剤の溶解に注射用水等が必要であるが、処方されていない場合に溶解液（注射用水等）を追加する
 - ③ アンプルの薬剤に生食キットHが処方されている場合、生食100mL 1本に変更する

【資料 1】

院内共通の【救急カート・注射薬配置図】

1) 新型救急カート (6 段)

1 段目	ドミニン	3	硝酸イソソルビド	3	メイロン (20mL)	5
	プロタノール L	3	硫酸マグネシウム補正液	1	アドレナリンシリンジ	5
	ノルアドリナリン	3	アデホス-L10 (冷)	2		
	リドカインシリンジ	3	ニカルジピン硫酸塩	1		
	ヘルベッサ-50	1	アトロピンシリンジ	4		

2 段目	ネオフィリン	3	セルシン	2	カルチコール	3
	ソル・コーテフ500	2	ミダゾラム	2	生理食塩液 (20mL)	10

輸液：ソルラクト (500mL)、生理食塩液 (500mL)、メイロン (250mL) 各 1 袋

2) 旧型救急カート (5 段)

アトロピン シリンジ <4本>	ドミニン <3A>	リドカイン シリンジ <3本>	ニカルジピン 硫酸塩 <1A>	ノルアドリナリン <3A>	プロタノール <3A>	アドレナリン シリンジ <5本>	ヘルベッサ-50 <1V>
硫酸マグネシウム補正液 <1A>		ソル・コーテフ500 <2V>	アデホス-L10 <2A> (冷所)		硝酸イソソルビド <3A>		
ネオフィリン <3A>	セルシン <2A>	ミダゾラム <2A>		メイロン (20) <5A>	カルチコール <3A>	生理食塩液 (20) <10A>	

輸液：ソルラクト (500mL)、生理食塩液 (500mL)、メイロン (250mL) 各 1 袋

【資料 2】

患者さんへの説明および同意書の取得をお願いします

生物由来製品（ワクチン、抗毒素、ヘパリンなど）・特定生物由来製品（血液製剤、血漿分画製剤など）に関する改正薬事法が平成15年5月15日に公布され、平成15年7月30日より施行されました。

このうち特定生物由来製品の使用にあたっては、「製品の便益と感染リスクを患者へ説明」することが必要となります（改正薬事法68条の7）。

また、このことについて、「同意書を取得する」ことが病院の方針です。

特定生物由来製品

一 般 名	商 品 名
人血漿由来 乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	フィブロガミンP 静注用
フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	ベリプラストP コンビセット
フィブリノゲン配合剤	タコシール
乾燥濃縮人アンチロビンⅢ	ノイアート
乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	PPSB-HT 静注用
人免疫グロブリン	ガンマグロブリン
乾燥スル化人免疫グロブリン	献血ベニロン-I
乾燥ポリエチレングリコール処理 人免疫グロブリン	献血グロベニン-I
乾燥抗HBs人免疫グロブリン	乾燥HBグロブリン
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗Dグロブリン
乾燥ポリエチレングリコール処理 抗破傷風人免疫グロブリン	テタノブリン-IH
pH4処理酸性人免疫グロブリン	献血ポリグロビンN
人免疫グロブリンG	献血ヴェノグロブリンIH
ルリオクトコグアルファ	アドベイド注射用
乾燥ポリエチレングリコール処理 抗HBs人免疫グロブリン	ヘブスブリン-IH
皮下注用免疫グロブリン	ハイゼントラ
人ハプトグロビン	ハプトグロビン静注
インターフェロン-β-1b(遺伝子組換え)	ベタフェロン皮下注
人血清アルブミン含有製剤	アブラキサン点滴静注用
人C1-インアクチベーター	ベリナートP静注用
活性化プロテインC	注射用アナクトC
ヒトロビン含有ゼラチン使用吸収性 局所止血剤	フロシール（OP室管理医療機器）

【2017年3月現在】

本件の問い合わせ先：薬剤部 注射薬調剤室（内線：2721）

C. 麻 薬 の 取 り 扱 い

1. 麻薬取扱者（施用者・管理者）

1) 麻薬施用者

麻薬を施用または施用のため交付（麻薬処方せん）する医師は、本院における麻薬施用者免許証を有しなければならない。

なお、本院の医師は全員麻薬施用者免許を申請し免許を受ける。

2) 麻薬管理者

施用のため交付される麻薬を業務上管理する者で、薬剤部長を麻薬管理者とする。

3) 麻薬取扱者（施用者・管理者）の免許の申請および更新

免許は本院事務局職員課を経て福岡県知事に申請する。県内で2カ所以上の診療施設において麻薬を施用する医師は一方を従たる業務所として申請する。

免許の有効期間は免許された日から翌々年の12月31日までであり、3年毎に免許を更新する。

2. 麻薬の施用

1) 調剤用麻薬（オキシコンチン錠、フェントステープなど）は、処方オーダーリングによる。オーダーリング端末近傍のプリンターに麻薬処方せん（外来患者は『処方せん』）が出力されるので、署名（フルネーム）または押印をして薬剤部へ届ける（患者に渡す）。

2) 注射用麻薬（塩酸モルヒネ注、フェンタニル注など）は、注射オーダーリングによる。オーダーリング端末近傍のプリンターに麻薬注射せん・麻薬注射施用票と麻薬注射せん（控え）・注射せん（麻薬あり）控えが出力されるので、押印または署名（フルネーム）をして薬剤部へ届ける。

手術室、ICU、救急外来は麻薬注射処方せん（手書き）による。

3. 麻薬処方せん

麻薬処方せんは、通常の処方せんに比して①麻薬施用者免許番号、②記名押印または署名（フルネーム）の記載が必要とされる。

4. 麻薬入院患者持参連絡票

入院患者が麻薬を持参したときには、「麻薬入院患者持参連絡票」（ピンクの用紙）に記入のうえ、薬剤部へ連絡する。薬剤部では、麻薬を持参した患者の氏名と受け入れた品名及び数量を薬剤部の麻薬帳簿に記載する。

以下は、注射用麻薬の取扱いについて記載する。

5. 注射用麻薬施用の手順（注射オーダーリングの場合）

1) 麻薬施用者は麻薬注射せん・麻薬注射施用票に記名押印または署名（フルネーム）する。

☆ 処方は1処方せんに1品目とする。

☆ 1回請求本数は1日分以内として処方する。

2) 麻薬注射処方せんを薬剤部に提出し、受領者はサインまたは押印する。

処方せん（控え）は、薬剤部麻薬係で保管する。

- 3) 患者に施用し、診療録に記録する。

麻薬注射施用票には施用月日、施用量、残量を記載する。

- 4) 施用票等の返納処理を行う。

麻薬注射施用票、返納薬袋、空アンプル、残液または未使用アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。返納者は返品残量返納者欄にサインまたは押印する。

注射オーダーリングによる麻薬注射施用票

薬剤名	施用本数	返品本数
[麻]塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	1 A (V)	0 A (V)

施用記録

施用薬剤名	施用月日	施用量	残量
[麻]塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	4 / 1	0.5mL	0.5mL

6. 麻薬注射処方せん（手書き・4枚複写）の様式と保管

1枚目	薬剤部	麻薬注射処方箋	薬剤部保管
2枚目	薬剤部	麻薬注射施用票	〃
3枚目	医事課	麻薬注射納付通知書	医事課保管
4枚目	病棟	麻薬注射施用票	病棟保管

7. 注射用麻薬施用の手順（手書き・4枚複写）

- 1) 麻薬施用者は麻薬注射処方せん（4枚複写）に所定事項を記入する。

☆ 処方せんは1処方せんに1品目とする。

☆ 1回請求本数は1日分以内として処方する。

- 2) 麻薬注射処方せんを薬剤部に提出し、受領者はサインまたは捺印する。

処方せん1枚目（薬剤部）は、薬剤部麻薬係で保管する。

- 3) 患者に施用し、診療録に記録する。

麻薬注射施用票（薬剤部）（注射薬とともに戻った3枚複写分）には施用月日、施用時刻、施用量、残量を記載する。

- 4) 施用票等の返納処理を行う。

麻薬注射施用票（必要事項を記載した3枚複写分）、返納薬袋、空アンプル、残液または未使用アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。返納者は返品残量返納者欄にサインまたは押印する。

8. 麻薬注射施用票記入についての注意事項

1) 施用欄・残量欄は1回ごとに施用量（mL）、残量（mL）を記入する。

麻薬品名	施用月日	時刻	施用量mL	残量mL
塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	9/1	9:00	0.5	0.5
	/			
	/			
	/			
受領本数	施用本数		返品本数	
1 Amp	1 Amp		0 Amp	

2) 1アンプルを分割して施用する場合は、アンプルごとの施用を明確にするため施用数量（mL）を括弧でくくる。

麻薬品名	施用月日	時刻	施用量mL	残量mL
フェンタニル注 (2.0mL)	9/1	9:00	1.0	0
	9/1	9:30	1.0	
	/			
	/			
	/			
受領本数	施用本数		返品本数	
1 Amp	1 Amp		0 Amp	

3) 施用本数欄には施用したアンプルの合計数を、返品本数欄には未開封アンプルの合計数を記入する。

麻薬品名	施用月日	時刻	施用量mL	残量mL
塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	9/1	9:00	0.5	0.5
	9/1	9:30	1.5	0
	/			
	/			
	/			
受領本数	施用本数		返品本数	
3 Amp	2 Amp		1 Amp	

4) 特殊な事例について

★ 麻薬注射液の施用を中止した場合

返品本数を記入した麻薬注射施用票（3枚複写）と一緒に、麻薬アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。

★ 麻薬アンプルをカットしたが施用しなかった場合

施用数量、残量、施用本数、返品本数およびアンプルをカットしたが施用しなかった理由を記載し、アンプルとともに薬剤部に提出する（内容液が流出しないように注意し、注射筒にはいった液はそのまま提出する）。

9. 診療録（カルテ）への麻薬施用記録

麻薬施用者は施用後ただちに診療録（カルテ）に施用年月日、麻薬品名、数量（mg、g、mL）のほか麻と朱書することが望ましい。

また、処方せんなどの記入事項を訂正した場合は必ず訂正印を押印する。

10. 麻薬の事故処理

麻薬を誤って破損、内容液が流出した場合、「麻薬事故届（院内用）」に必要事項を記載し、破損した容器（アンプル、注射筒など）を添付して薬剤部麻薬係へ提出する。

麻薬についての滅失、破損、盗難などの事故が生じた時は、現場を保存し、すみやかに麻薬管理者に報告し、その指示を受ける。

11. 麻薬中毒者の届出

麻薬を長期にわたり施用している患者について、麻薬中毒と認められたとき、「医療用麻薬中毒者診断届」を提出する。

また、これに関わる患者が死亡、転院などした時は、すみやかに「転帰届」を提出する。

「麻薬事故届（院内用）」などの用紙は、薬剤部麻薬係に請求する。

【資料 3】 採用している麻薬一覧表

	内用・外用薬（規格）		注射薬（規格）
1	アブトラル舌下錠 (100 μ g)	33	アルチバ注 (2mg/v)
2	アブストラル舌下錠 (200 μ g)	34	レミフェニル注 (2mg/v)
3	アンペック坐薬 (10mg)	35	モルヒネ注 (10mg/1mL)
4	アンペック坐薬 (20mg)	36	モルヒネ注 (50mg/5mL)
5	MSコンチン錠 (10mg)	37	モルヒネ注 (200mg/5mL)
6	塩酸モルヒネ末	38	フェニル注 (0.1mg/2mL)
7	塩酸モルヒネ散 (10%) 《院内》	39	ペチジン注 (35mg/1mL)
8	塩酸モルヒネ錠 (10mg)	40	ペチロルファン注 (50mg/1mL)
9	オキシコンチン錠 (5mg)	41	ケタラル注 (200mg/20mL)
10	オキシコンチン錠 (10mg)	42	ケタラル注 (500mg/10mL)
11	オキシコンチン錠 (20mg)	43	オキファスト注 (10mg/1mL)
12	オキシコンチン錠 (40mg)	44	オキファスト注 (50mg/5mL)
13	オキノーム散 (0.5% 0.5g) (2.5mg/包)		
14	オキノーム散 (0.5% 1.0g) (5mg/包)		
15	オキノーム散 (1% 1.0g) (10mg/包)		
16	オブソ内服液 (5mg/2.5mL)		
17	タペンタ錠25mg		
18	タペンタ錠50mg		
19	デュロテップMTパッチ2.1mg		
20	デュロテップMTパッチ4.2mg		
21	デュロテップMTパッチ8.4mg[用時購入]		
22	デュロテップMTパッチ16.8mg[用時購入]		
23	パシーフカプセル (30mg)		
24	パシーフカプセル (60mg)		
25	パシーフカプセル (120mg)		
26	フェントステープ (1mg)		
27	フェントステープ (2mg)		
28	フェントステープ (4mg)		
29	フェントステープ (8mg)		
30	メサペイン錠 (5mg)		
31	メサペイン錠 (10mg)		
32	モルペス細粒 (2%0.5g) (10mg/包)		

D. 処方オーダーリングシステム利用上の注意点

処方オーダーリングシステムに関して、端末操作方法を除く利用上の注意点を以下にまとめています。

1. 処方オーダーリングの全般的注意ならびに適応範囲

- 内用薬・外用薬（麻薬、治験薬を含む）は全て処方オーダーリングの対象です。
- 入院期間中の個人使用ペン型注入器（使い捨てタイプ）の物品は処方オーダーリングで受け、コストは注射オーダーリングでおとしてください。退院時処方は、針も含め処方オーダーリングです。（針は、『医療材料等払い出し伝票』でも可）
- 院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具・ペン型注入器（カートリッジタイプ）等は従来通り、それぞれ、『院内製剤等指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載してください。
- 外来診療において処方せんは医師の手元のプリンターに打ち出されます。処方内容を確認したのち押印して患者さんに渡してください。
- 入院患者の処方せんは薬剤部に直接プリントアウトされます。
ただし薬剤師が処方せんをプリントアウトしてチェックする時間は緊急度によって違います。
例外として、麻薬処方せんは医師の手元のプリンターに出力されますので、署名（フルネーム）または押印して薬剤部に搬送してください。
- 健康保険と自賠、自費など保険種別に処方せんを打ち分けることが必要です。
- 外来患者に至急使用したい薬剤を処方する場合は、「検査・処置用薬請求伝票」に手書きで記載し、薬剤部まで提出して下さい（同一日に、院外処方と院内処方をオーダーすることはできません）。ただし、麻薬が必要な場合は院内処方を入力して下さい。

分類	外来患者	入院患者	備考
内用・外用薬 (麻薬を含む)	○	○	【退院確認】が入力されれば院外処方せんも発行可能
治験薬（内用・外用）	○	○	
在宅注射薬 (注射針を含む)	○	×	退院時は処方オーダーリングシステムで処方 【退院確認】が入力されれば院外処方せんも発行可能
注射薬	×	×	注射オーダーリングシステムで処方 (入院患者の個人使用ペン型注入器（使い捨てタイプ）の物品は処方オーダーリングで)
院内製剤	×	×	外来・入院とも『院内製剤等指示せん』に手書き
検査・処置の医薬品	×	×	外来・入院とも処置伝票を用いて常備の医薬品を使用
医療材料等 (自己血糖測定関連器具 ・ペン型注入器等)	×	×	外来・入院とも『医療材料等払い出し伝票』に手書き あるいはSPDで請求して使用

(○：処方オーダー、×：オーダー外)

注

- 1) 全ての処方せんは、A4サイズ用の紙に縦書きで印字されます。
- 2) 入院処方せん控え（青用紙）は処方せんと同時に薬剤部で発行されます。調剤済み薬剤と一緒に病棟に届きます。

2. 使用する伝票

処方区分		内容説明
外来処方	院外調剤	・ 原則、外来患者全員（職員及びその家族も含む）
	院内調剤	・ 治験薬投与期間中、適用保険が未確定、時間外、及び院長が特に指定した患者
入院処方	通常処方	・ 緊急を要さない場合の処方（他科受診も含む） ・ 原則として7日分処方（他科受診についてはこの限りでない。但し、16:45まで） ・ 開始日当日に入力された処方 は医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行されるが、それ以外は薬剤師の指示で発行する
	臨時処方	・ 緊急を要する場合及び時間外（夜間、土日・祝日）の処方 ・ 3日分までの処方。医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行される
	必要時	・ 緊急を要する場合に、予め医師が指示・登録しておいた必要時処方について看護師が発行する
	麻薬を含む処方	・ 麻薬を含む処方せんは医師の署名もしくは押印を必要とするため、入力側のプリンターで処方せんを発行し薬剤部へ搬送する
	退院処方	・ 退院時の処方 ・ 医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行される ・ 【退院確認】を入力すれば院外処方せんでの発行も可能 ・ 【退院予定】をして入力することが望ましい ・ 投与開始日は退院予定日までとする
	事後処方	・ 手書き処方せんの薬歴入力（医事へ反映されない）

（2017年3月改訂）

3. 処方せんの修正・削除

<外来>

区分	担当者	院内				院外			
		未実施		実施済		未実施		実施済	
		未会計	会計済	未会計	会計済	未会計	会計済	未会計	会計済
*1 修正	医師	○	×	×	×	○	○	○	○
	薬剤師	△	○	○	○	△	○	○	○
*2 削除	医師	○	×	×	×	○	○	×	×
	薬剤師	△	○	○	○	△	○	○	○

<入院>

区分	担当者	未実施		実施待・実施済	
		未会計	会計済	未会計	会計済
*1 修正	医師	○	×	×	×
	薬剤師	△	○	○	○
*2 削除	医師	○	×	×	×
	薬剤師	△	○	○	○
補足		1) 会計済となった処方せんへの修正は、医師は行えないため、薬剤部へ連絡し、薬剤師が修正を行う 2) 未会計・会計済に関わらず発行された処方せんの変更を薬剤師に依頼する場合は、処方医が直接薬剤部へ電話連絡する 3) 保険調剤薬局からの疑義照会があったときは、薬剤師が電話で処方医に確認をし、処方医の指示により薬剤師が修正を行う			

*1 修正：処方薬又は用法・用量の変更や、Rpの追加や削除

*2 削除：処方全体の取り消し

(2017年3月 改訂)

4. Q & A

Q 1 : 手書きの処方せん（内用・外用）を使うことは出来ますか？

A 1 : 信頼性の確保と改ざんの防止のため、システムダウン時（Q 8）を除き手書き処方せんは使用出来ません。

Q 2 : プリントアウトした処方せんを手書きで修正してもいいですか？

A 2 : Q 1 と同様の理由から原則として認められません。例外として、処方医による「処方せんの使用期間」の修正、および医事課職員による「保険者番号」の修正については認められます。この場合、訂正のうえ訂正印を押して下さい。（Q 9 も参照のこと）

Q 3 : 再来患者の処方せんを患者が受診する前にあらかじめ出力しておくことは出来ますか？（例えば薬のみの再来など）

A 3 : 処方せんの発行は受診した患者に対してのみ行なうことが出来ます。外来受診時に主治医が診察、処方せん発行をすることができない場合（たとえば午前受診の予定が午後に来院した場合など）は、同じ診療科の別の医師が処方せんを発行する必要があります。なお薬のみでも基本診療料が算定されますので基本カードが必要となります。

Q 4 : 採用薬以外の内服薬・外用薬を使用したいのですが？

A 4 : 原則として出来ません。非採用薬品の処方については限定採用の手続きが必要となりますので、医薬品情報管理室の担当薬剤師（内線2725）までご相談下さい。

Q 5 : 院外処方と院内処方を同時に発行出来ますか？

A 5 : 原則として認められていません。詳しくは医事課までお問い合わせ下さい。

Q 6 : 在宅指導算定患者への消毒薬などはどのように処方すればいいのですか？

A 6 : これまで通り「医療材料等払い出し伝票」の空欄に手書きで記載してください。

Q 7 : 自己注射の針のみを出すことは出来ますか？

A 7 : 原則として出来ません。

Q 8 : システムがダウンしたときはどうすればいいのですか？

A 8 : 手書き処方せんで対応します。

Q 9 : 外来処方せんを発行したあとでまちがいに気づいたとき誰が訂正をするのですか？

A 9 : 患者さんが外来にいる場合、外来以外の院内にいる場合、会計が終了し院外の処方せん薬局にいる場合で異なります。簡単な変更は薬剤師が処方せん発行医師に電話で確認をとり変更をしますが、薬剤の変更など大きな訂正については当該医師があらためて処方し直す必要があります。詳細は「3. 処方せんの修正・削除」を見てください。

Q 10 : 入院処方せん発行後の変更・訂正はどのようにすればいいのですか？

A 10 : 原則的には医師が画面からおこないます。処方せんが既に発行されている場合（例えば「臨時処方」の場合）には画面からの訂正が出来ないので、薬剤部に電話で連絡してください。

5. オーダリング時の誤入力防止対策について

近年、オーダリング時に別の医薬品を選択したり（例：ノルバスクと入力するところノルバデックスを選択）、用量入力を間違っただめに起こった医療事故が報道されています。

今回のシステムでは、できる限りこれらの間違いを起こさないようにマスタを作成しています。

- 1) 毒薬、麻薬入力時の確認メッセージ
- 2) 抗癌剤[腫]、毒薬[毒]、糖尿病用薬[糖]などを医薬品名の頭に表示
例：[腫・毒]アルケラン錠 2mg、 [糖]グリメピリドOD錠 1mg
- 3) 麻薬は赤文字表示
- 4) 頭3文字以上の入力
- 5) 併用禁忌薬チェック
- 6) 妊婦、授乳婦への投与禁忌チェック
- 7) 投与量の誤入力チェック（最大投与量設定）
原則成人の通常投与量の最大値の2倍を越える量で警告（入力可能）、5倍を越える量では入力不可となります。
それ以上の処方が必要な場合には、薬剤部まで連絡下さい。
注射薬、外用薬および小児用量には対応していないのでご注意下さい。
例：レボフロキサシン錠500mg（通常1錠）では3錠で警告、6錠で入力不可
- 8) アレルギーを起こす恐れがある医薬品のチェック
ピリン、キシロカイン、ヨード、抗生剤（ペニシリン、セフェム、ニューキノロン、ペネム系）、NSAIDS（アスピリン、その他）等についてアレルギー歴にチェックをつけた患者に対し、対象成分が含まれる医薬品を処方した場合には警告が表示されます。
- 9) 透析患者への投与禁忌チェック
- 10) 最大投与日数の規定がある医薬品のチェック

6. 入院処方入力時の注意点

1) 入院中他科受診時の処方入力方法

入院患者に対して『通常』処方で入力した場合、診療科名に関係なく処方日数は7日までとなります。

もし、他科受診で7日以上 of 処方が必要な場合は、長期投与コメントから『入院中他科受診』を選択することで、7日以上 of 入力が可能となります。但し、16：45以降の入力は、『臨時』処方になり、3日分までの入力となります。

以上

E. 注射オーダーリングシステム利用上の注意点

注射オーダーリングシステムに関して、端末操作方法を除く利用上の注意点を以下にまとめています。

1. システム運用と紙運用の範囲について

- 注射オーダーリングは、注射処方せんにて運用されているものを原則として対象にします。したがって、処置で使用される造影剤、手術室で使用される薬剤などはその対象としません。
- 院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具等は従来通り、それぞれ、『院内製剤等指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載してください。
- 麻薬処方せんは医師の手元のプリンターに出力されますので、署名（フルネーム）または捺印して薬剤部に搬送してください。

現在、注射処方せんにて運用しているものを注射オーダーリングの範囲とする。

対象外の部門	:	手術室
システムと紙運用が混在の部署	:	I C U、救急外来
その他	:	原則システム運用

麻薬の注射についても上記と同様に運用

- インスリン、吸入については下記の通り運用

[インスリン]		物 品	コスト
スライディングスケール		製剤伝票	専用伝票
ヒューマリンR（複数患者分割使用）		製剤伝票	注射オーダー
個人使用ペン型インスリン		処方オーダー	注射オーダー

- ・定期打ちインスリンは注射オーダーを使用する（払い出しなし）。
- ・インスリン量の変更があった場合は、医師に新しい処方を出し直してもらい、変更前の処方看護師が実績中止する。

〔吸入〕		物 品	コスト
吸入液		製剤伝票	汎用オーダー
生食		製剤伝票	汎用オーダー

注射オーダーでは、注射用生食と処置用の生食が医事課で区別できないため、運用の統一、コストの重複回避のため上記運用とした。

2. 注射処方区分および締め切り時間について

〔処方区分〕

処方区分		内容説明
外来		・ 外来患者に対し、登録方法「予定入力」を選択した際に「外来」と登録される。
入院 処 方	通常	・ 入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間前であった場合に「通常」として登録される。
	臨時	・ 入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間後であった場合に「臨時」として登録される。
	事後	・ 入院・外来ともに、登録方法「事後入力」を選択した際に「事後」と登録される。
	必要時	・ 入院患者に対し、医師が前もって指示・登録しておいた「必要時」処方について、看護師が発行した場合「必要時」と登録される。
化療		・ 入院・外来ともに、レジメンオーダーにて抗がん剤をオーダーした場合「化療」と登録される。（発行処理：外来は医師、入院は薬剤部）

〔締め切り時間〕

実施予定日	4北・5北・6北病棟	その他の病棟
火～金曜日実施予定分	前日の13時	前日の10時
土・日曜日実施予定分	前々日の13時	前々日の10時
月曜日実施予定分	直前の平日の13時	直前の平日の10時

3. 出力される帳票類について

処方区分によって各部署から出力される帳票は以下の通りである。

		近傍プリンター (NEC)	薬剤部 (部門システム)
外来		注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚 注射指示票 : 1 枚	_____
入院	(通常)	注射指示票 : 1 枚	注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚
	(臨時)	注射指示票 : 1 枚 注射引き換え票 : 1 枚	注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚
	無菌調製	注射指示票 : 1 枚	注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚 注射処方せん(調製) : 1 枚
	化学療法	注射指示票 : 1 枚 c h e m o シート : 2 枚	注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚 注射処方せん(調製) : 1 枚
化学療法 (レジメンオーダー)		注射指示票 : 1 枚 c h e m o シートなし	注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚 注射処方せん(調製) : 1 枚
麻薬		注射指示票 : 1 枚 麻薬注射せん : 1 枚 麻薬注射せん控え : 1 枚	注射処方せん : 1 枚 注射処方せん(カルテ) : 1 枚

4. 注射処方せんの修正・削除・実績・発行

【医師】 △→ 実施カレンダーから操作

		修正			削除			実績入力			実績中止			再発行
		未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	
入院	通常	○	×	×	○	×	×	△	－	－	△	△	×	×
	事後	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	×	－
	臨時	－	×	×	－	×	×	△	－	－	△	△	×	×
	必要時	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	×	×
外来	外来	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	△	×	○
	事後	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	×	－

【看護師】 △→ 実施カレンダーから操作

		修正			削除			実績入力			実績中止			
		未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	
入院	通常	×	×	×	×	×	×	△	－	－	△	△	×	
	事後	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	×	
	臨時	－	×	×	－	×	×	△	－	－	△	△	×	
	必要時	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	×	
外来	外来	×	－	－	×	－	－	－	－	－	－	×	×	
	事後	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	×	

【薬剤師・管理者】 △→ 実施カレンダーから操作

		修正			削除			実績入力			実績中止			再発行
		未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	
入院	通常	○	○	△	○	○	△	△	－	－	△	△	△	○
	事後	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	△	－
	臨時	－	○	△	－	○	△	△	－	－	△	△	△	○
	必要時	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	△	○
外来	外来	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	△	△	○
	事後	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	－

★レジメンオーダーについて

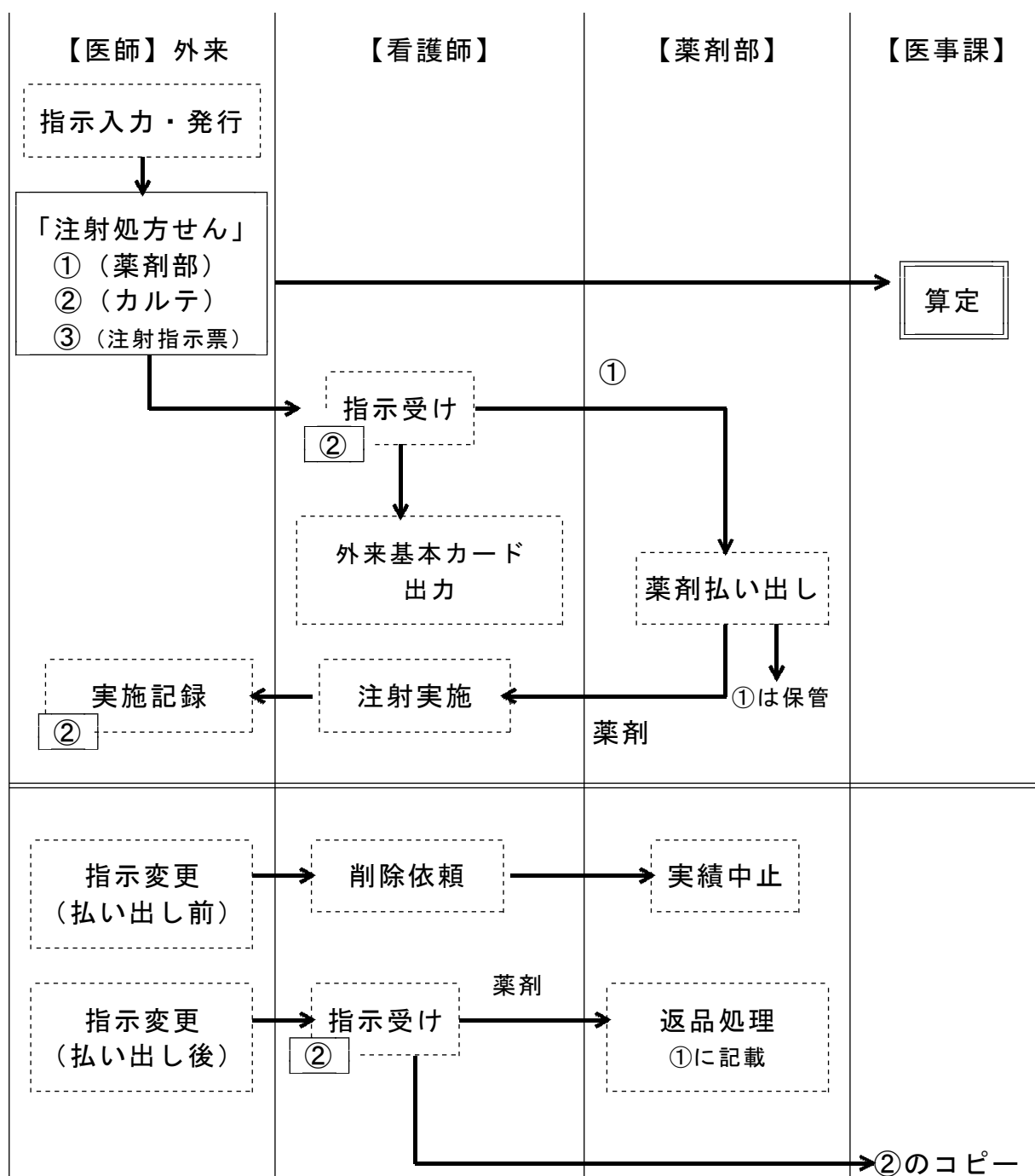
レジメンオーダーの修正、削除、中止操作はレジメンカレンダーからのみ可能

5. 注射運用フロー

(1) 外来注射処方せんの流れ

【払い出し】

- 1) 医師がオーダー指示入力を行い、看護師は「②(カルテ)」にて指示受けを行う。
- 2) 外来各診療科は、外来注射処方せん「①(薬剤部)」をもって、薬剤部へ出向く。
- 3) 外来看護師(又はクラーク)は、「①(薬剤部)」を薬剤部に提出し、注射薬を受け取り外来へ運ぶ。
- 4) 外来看護師は、注射薬と「②(カルテ)」の内容を再度確認し、注射を施行する。



【中止・返品】

- 5) 外来看護師は、指示変更内容を「②(カルテ)」に記載し、そのコピーを医事課へまわす。
- 6) 返品薬剤とともに薬剤部へ提出する。
- 7) 薬剤師は、「②(カルテ)」の変更内容を当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて転記（返品薬剤を囲み、返品の旨記載）、受取印を押す。

(2) 入院注射処方せんの流れ

【払い出し】

- 1) 医師がオーダー指示入力を行い、看護師は「a) 注射指示票」にて指示受けを行う。
- 2) 薬剤部は、調剤、鑑査終了後、「②(カルテ)」と注射薬とラベルを病棟に払い出す。

※月～水曜日：翌日分まで調剤する。

木曜日：土曜日の分まで(通常、金・土曜日の2日分)調剤する。

金曜日：月曜日の分まで(通常、日・月曜日の2日分)調剤する。

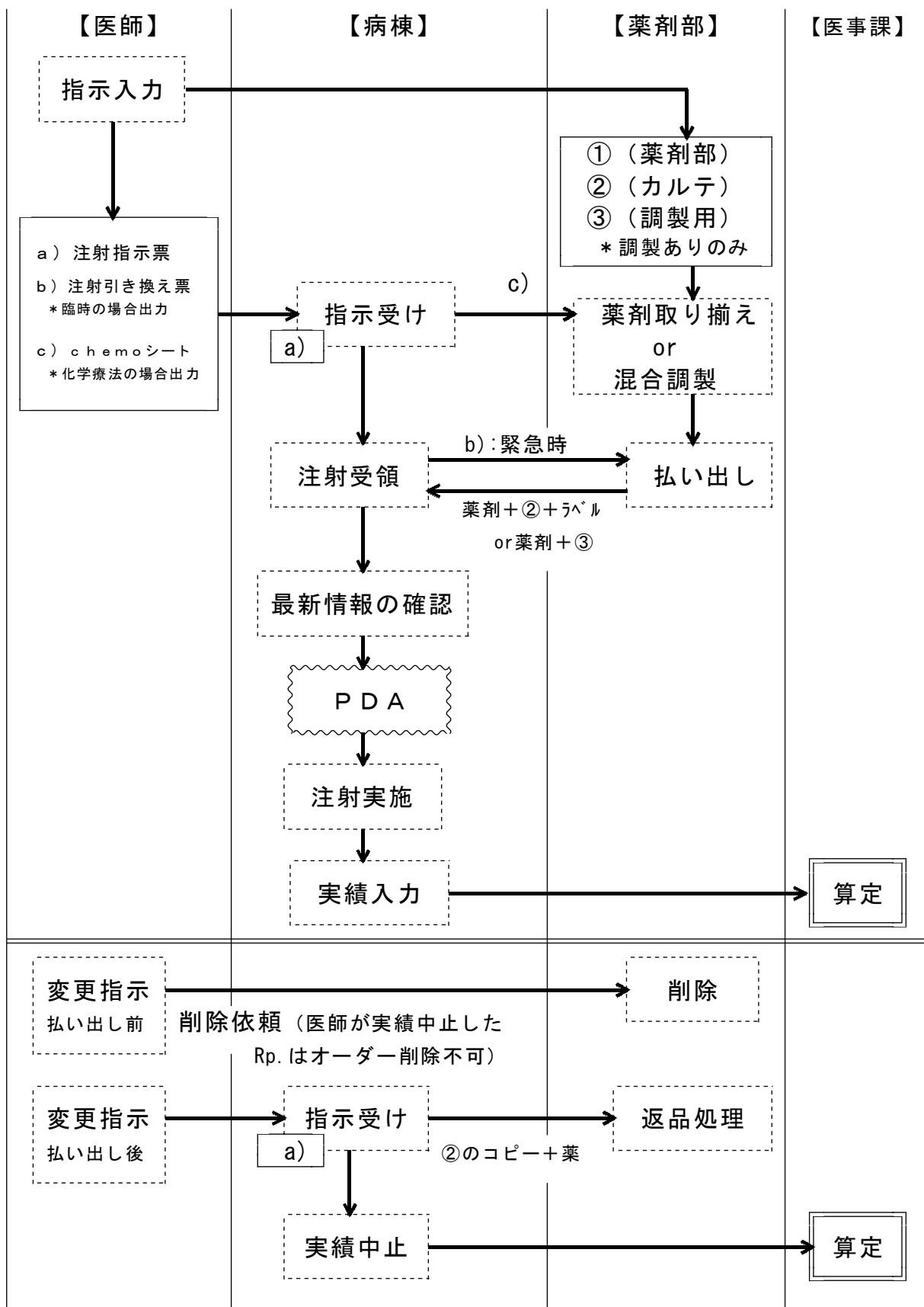
なお、急ぎの場合や夜勤時は、薬剤部へ電話連絡の上、「b) 注射引き換え票」を持って注射薬を受領に来る。

【中止・返品】

- 3) 病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載。ラベル剥離・マジック消去は病棟で行い、返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

看護師が実績入力にて中止入力を行う。

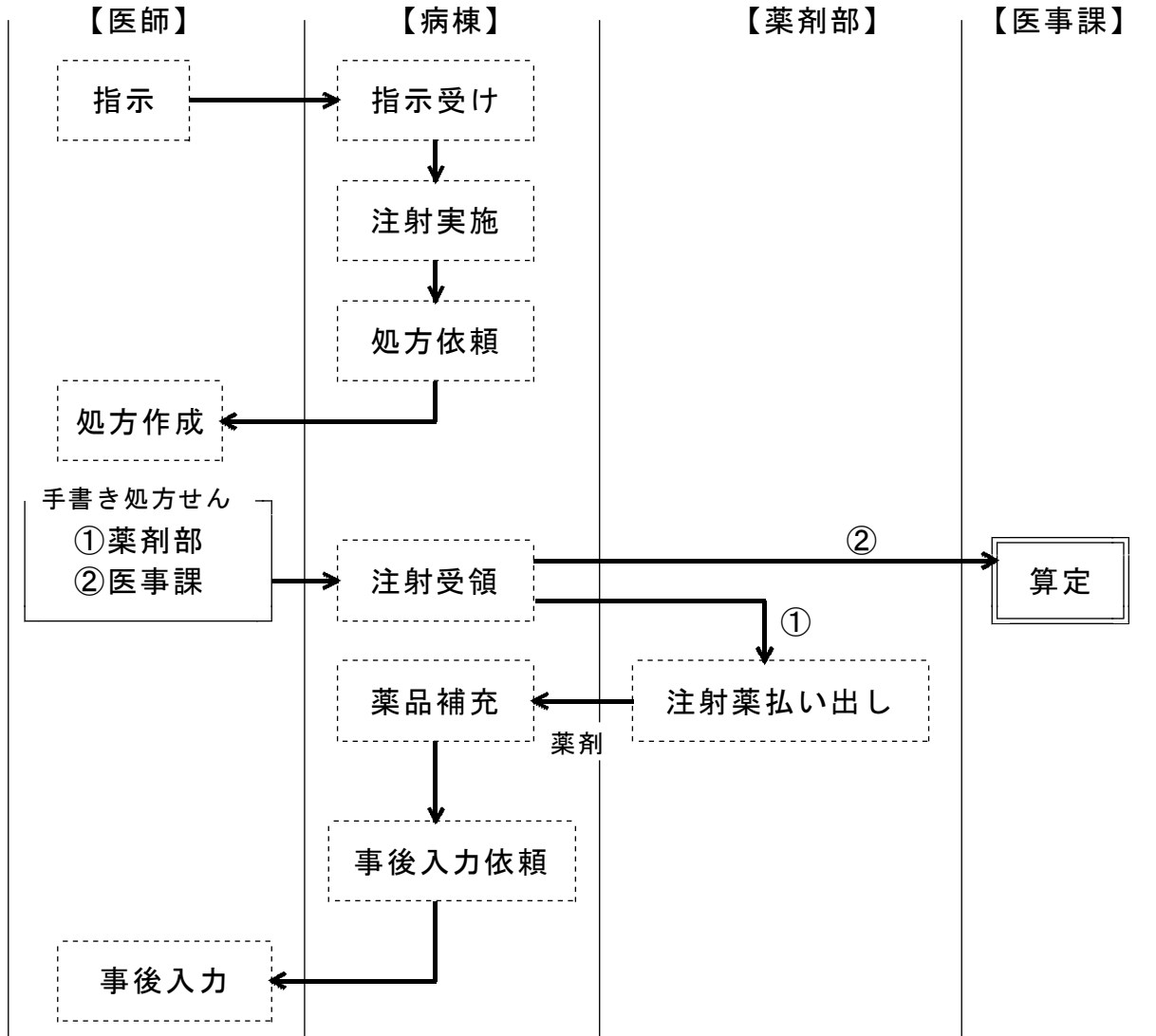
(Rp. 単位での処方のため、未来日の部分返品も問題ない。)



3) 緊急時・事後処方せんの流れ（手書きの注射処方せんを使用する）

【払い出し】

- 1) 医師は、緊急時等のみ、手書き処方せんに指示を書き、看護師または看護助手は手書き処方せんを持って薬剤部へ注射薬を受領に来る。
- 2) 薬剤師は処方せんに従って薬剤を払い出す。
- 3) 医師は、手書きされた処方せんの内容を、オーダーにて事後入力を行う。



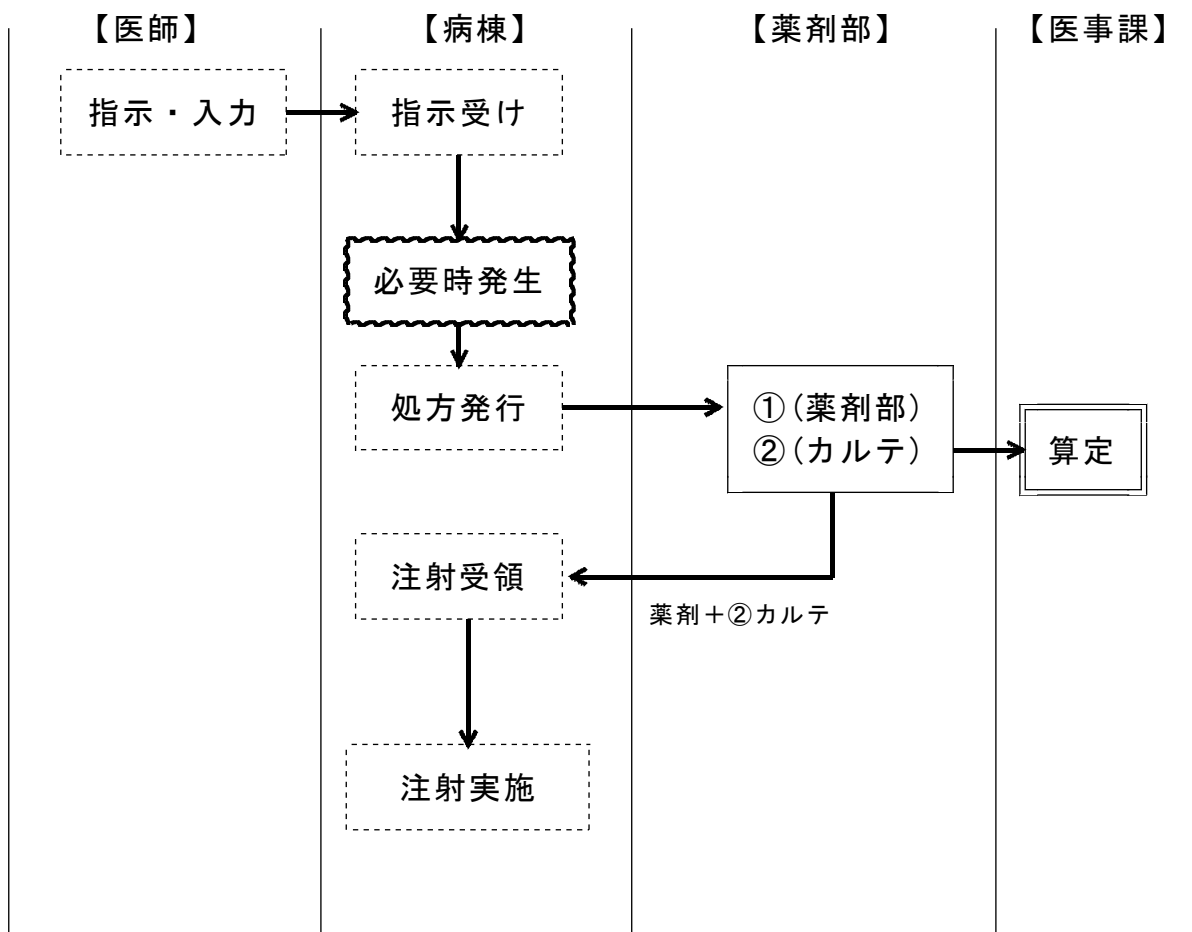
4) 必要時処方せんの流れ

【払い出し】

- 1) 医師は、あらかじめ必要になると予想される処方がある場合、前もって『必要時』オーダを入力し、指示しておく。
- 2) 看護師は、必要になった時、指示及び指示を出した医師の確認を行い、『必要時』処方を発行する
- 3) 薬剤師は、処方せんに従って薬剤を払い出す。

【中止・返品】

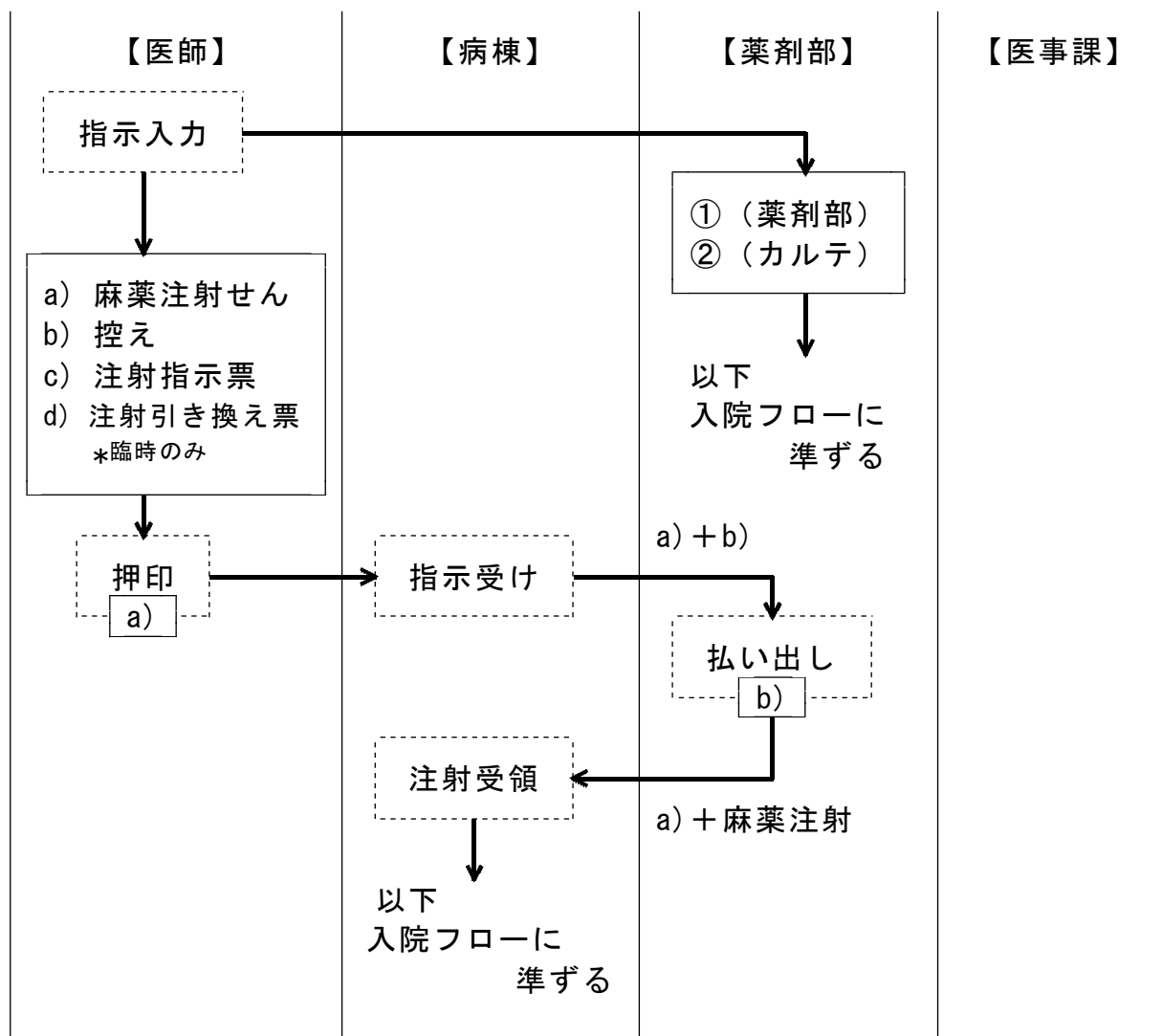
- 4) 病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載する。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。
看護師が実績カレンダーにて実績中止を行う。



5) 麻薬処方せんの流れ

麻薬処方せんは医師の近傍プリンターに出力されるので、署名（フルネーム）または捺印して薬剤部に搬送する。

麻薬施患者番号が登録されていない医師は、処方入力が出来ない。同じ科で登録されている医師に処方入力を依頼する。



6. 修正・削除について

1) 外来

事前入力した発行前の処方…医師が修正・削除

- ①発行後の処方は、修正・削除出来ない。医師または看護師は、薬剤部にオーダー削除（＝中止）の連絡をし、当該処方せんを破棄する。薬剤師は、実施カレンダーにて実績中止をする。
- ②修正処方とは新規にオーダーする。
- ③薬剤受領後の中止・変更は、その内容を注射処方せん「②（カルテ）」に記載し、コピーを医事課に送る。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。
- ④薬剤師は、「②（カルテ）」の変更内容を当該注射処方せん「①（薬剤部）」に、赤字にて転記（返品薬剤を囲み、返品の旨記載）する。

2) 入院

オーダーの進捗状況によって対応が異なる。

- ①未実施の場合
→ 医師が修正・削除・実績中止
- ②実施待、実施済（未会計）の場合
→ 医師は修正・削除できないので、中止がある場合、看護師へ伝達する。看護師が「②（カルテ）」にて返品処理を行い、実績カレンダーにて実績中止を行う。
- ③実施済（会計済）の場合
→ 中止がある場合、看護師は医事課へ中止の内容を連絡、薬剤部へ実績中止の依頼を行う。「②（カルテ）」にて返品処理を行う。
- ④必要時
→ 処方修正・削除が出来ない。中止の場合は実績中止とし、修正がある場合は一端実績中止として、正しい内容で登録し直してもらう。

7. 医事伝達について

コスト送信時の医事進捗は「未会計」、医事課処理が終了したら「会計済」となる。

1) 外来

注射せん発行時に医事にコストが送信される。
外来化学療法加算、無菌製剤処理料、規格違いについては、薬剤部にて該当処方せんに押印・記載することで、医事に伝達する。

2) 入院

実績入力を行った時点で医事にコストが送信される。

3) 必要時

処方せん発行と同時に医事にコストが送信される。

4) 事後

外来、入院ともにオーダーでの医事コストは送信されない。手書きの伝票にてコスト伝達する。

8. 抗がん剤の処方について

入院抗がん剤をオーダーした場合、近傍プリンタにchemoシートが2部出力される。このchemoシートに処方医とは別の確認医がフルネームでサインし、1部を薬剤部に提出する。

* 確認医：抗がん剤、毒薬その他の類似医薬品の処方は研修医・レジデントのサインだけでは無効で、必ず指導医又は担当診療科部長のサインを必要とする（院長通知/2003.3.12）。

外来抗がん剤は、処方せんに主治医の確認印もしくはサインをし、薬剤部にFAX送信する。処方医がレジデントの場合は、指導医も確認印を押す。

9. レジメンオーダーについて

レジメンオーダーにて抗がん剤をオーダーした場合、chemoシート・治療計画書は使用しない。

外来の発行は医師が、入院の発行は薬剤部にて行う。

なお、発行後は、処方修正ができなくなるので注意する。

10. よくある問い合わせ

Q 1：採用薬以外の注射薬を使用したいのですが？

A 1：原則として出来ません。非採用薬品の処方については限定採用の手続きが必要となりますので、医薬品情報管理室の担当薬剤師（内線2725）までご相談下さい。

Q 2：在宅指導算定患者への消毒薬などはどのように処方すればいいのですか？

A 2：これまで通り「医療材料等払い出し伝票」に記載してください。

Q 3：自己注射の針のみを出すことは出来ますか？

A 3：処方せんとしての交付は原則として出来ません。（厚労省保険局より通知：平20保医発0305001）「医療材料等払い出し伝票」にて院内で交付することは可能です。

Q 4：システムがダウンしたときはどうすればいいのですか？

A 4：手書き処方せんで対応します。（各部署へ配置済み。請求は用度へ）

静注・点滴静注薬リスト：投与法による分類

A：医師が実施すべき薬剤

- ① 当院指定のハイリスク医薬品
(麻酔・鎮静薬、筋弛緩薬、静注用抗不整脈薬、静注用抗がん剤など)
- ② 呼吸抑制作用が強い薬剤
- ③ 配合薬による結晶化など特異な薬剤
- ④ 毒薬指定
- ⑤ 治験薬
- ⑥ 造影剤・診断用薬剤（医師の立ち会いで実施する検査用薬剤）

B：一定の制限のもと看護師が実施してもよい薬剤

初回投与は、医師が実施して一定時間効果及び副作用を観察する必要があるが、継続する場合は、医師の指示に従い、看護師が実施してもよい薬剤である。

- ① 当院指定のハイリスク医薬品
(点滴静注用カテコラミン製剤、点滴静注用血管拡張薬、インスリン注射薬など)
- ② 点滴静注・皮下注射用抗がん剤
- ③ 抗生剤（抗菌薬、抗ウイルス用薬含む）
- ④ 血液製剤
- ⑤ 生物学的製剤
- ⑥ 副腎皮質ホルモン
- ⑦ 精神神経用剤

C：看護師が実施してもよい薬剤

- ① 輸液
- ② その他

註：この投与法分類は、各部署（外来；一般病棟、ICU、緩和病棟；画像センター、検査室等）で注射用医薬品の標準的投与実施法を確立するために、診療・看護チームが協議する際の基礎となるものである。

JCHO九州病院医療安全管理室
(2008年10月作成)
(2013年3月作成)

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
全身麻酔剤	0.5gインゾール	A	○	○		○		○
	2%プロポフォール注「マルイシ」(限定)	A			○			○
	1%ディプリバン注	A			○			○
	1%ディプリバン注ーキット	A			○			○
	ドロレプタン注射液25mg	A	○	○				
催眠鎮静剤・抗不安剤	セルシン注射液5mg	B	○	○		○		
	ドルミカム注射液10mg	B	○		○			○
	プレセデックス静注液200μg「マルイシ」	A	○					
抗てんかん剤	アレビアチン注250mg	A	○			○		
	ノーベルパール静注用250mg	B	○					
	ホストイン静注750mg	A	○	○				
解熱鎮痛消炎剤	ノイトロピン注射液3.6単位	C		○				
	ペンタジン注射液15	B	○	○	○			
	ロピオン静注50mg	C		○				
抗パーキンソン剤	アキネトン注射液5mg	B						
	ドバストン注射液(限定)	C		○				
精神神経用剤	アナフラニール点滴静注液25mg	B		○				
	アタラックス-P注射液(25mg/ml)	C		○	○	○		
	セレネース注5mg	B						
中枢神経用剤	ラジカット点滴静注バッグ30mg	C		○	○			
(抗不整脈剤)	静注用キシロカイン2%	B		○	○			○
骨格筋弛緩剤	サクシン注射液100mg	A	○	○				○
	エスラックス静注50mg/5.0mL	A	○	○	○			○
	ダントリウム静注用20mg	A		○	○			
	マスキュラックス静注用4mg	A	○	○	○			○
	ミオブロック静注4mg	A	○	○	○			○
自律神経剤	ワゴスチグミン注0.5mg	A		○				
	アトワゴリバース静注シリンジ3mL	A	○	○	○			○
鎮痙剤	アトロピン注0.05%シリンジ「テルモ」(1mL)	A		○	○			
	ブスコパン注射液	C		○	○			
	日本薬局方 パパペリン塩酸塩注射液	A	○					
	補正用硫酸マグネシウム液	B						
	ビスサイン静注用15mg	A			○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
強心剤	ドミン点滴静注100mg	B				○		○
	イノバン注0.3%シリンジ	B						○
	ドブトレックス注射液100mg	B				○		○
	プロタノール-L注(0.2mg)	B						○
	ジゴシン注0.25mg	B				○		
	コアテック注5mg	B						
	エホチール注射液	B						○
血圧上昇剤	エビネフリン注0.1%シリンジ「テルモ」	A						○
	ネオシネジンコーワ注5mg	A						○
	ノルアドリナリン注1mg	B				○		○
	ボスミン注	B				○		○
抗不整脈剤	アスペノン 静注用100	A						○
	アミサリン注100mg	A						○
	アンカロン注150	A			○		○	○
	サンリズム注射液50(限定)	A						○
	シベノール注射液	A		○				○
	シンビット 静注用50mg	A				○		○
	タンボコール 静注50mg(限定)	A						○
	リスモダンP 静注50mg	A		○				○
	リドカイン 静注用2%シリンジ「テルモ」	B		○	○			○
	ワソラン 静注5mg	A						○
β 遮断剤	インデラル 注射液2mg	A						○
	注射用オノアクト50	A		○				○
	コアベータ 静注用12.5mg	A		○		○		
血圧降下剤 (Ca拮抗薬)	ペルジピン 注射液10mg	A						○
冠血管拡張剤	ヘルベッサー 注射用50	A						○
	シグマート注48mg	B						
	ニトロール注5mg	B		○				○
	ミオコール注5mg	B						○
血管拡張剤	ハンプ 注射用1000	B		○				

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
その他の循環器用薬	インダシン静注用1mg	B		○			○	
	エリル点滴静注液30mg	A	○	○				
	ノバスタンHI注10mg/2mL	C		○	○			
	パルクス注5 μ g	B		○	○			
	パルクス注10 μ g	B		○	○			
	注射用プロスタンディン20	B		○	○			
	注射用プロスタンディン500	A	○	○				
	静注用フローラン0.5mg	B		○				
	静注用フローラン1.5mg	B		○				
	20%マンニトール注射液「YD」	C						
	グリセオール注	C						
利尿剤	ソルダクトン100mg	C		○				
	ダイアモックス注射用500mg	C		○				
	ラシックス注20mg	C		○	○			
呼吸促進剤	アネキセート注射液0.5mg	B		○				
	アプニジョン静注15mg	B		○	○			
	塩酸ナロキソン注射液「三共」	B						
	ネオフィリン注250mg	B		○	○			
	ドブラム注射液400mg	C						
去たん剤	ビスルボン注射液	C		○	○			
消化性潰瘍用剤	ガスター注射液10mg	C		○	○			
	ガスター注射液20mg	C		○	○			
	ザンタック注射液50mg(限定)	C		○	○			
	タガメット注射液200mg	C		○	○			
	タケプロン静注用30mg	C		○	○			
	カイトリルバック注3mg	C			○			
制吐剤	ナゼア注射液0.3mg	C		○	○			
	ブリンペラン注射液10mg	C		○	○			
	アロキシ静注0.75mg	B		○	○	○		
	プロイメンド点滴静注用150mg	B			○	○		
	コートロシン注(限定)	C		○				
脳下垂体ホルモン製剤	アトニン-O注5単位	B		○				
	ピトレシン注射液	B		○				
	メルカゾール注10mg(限定)	B						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
副腎皮質ホルモン製剤	水溶性ハイドロコトロン注射液100mg	B		○	○			
	ソル・コーテフ	B		○	○			
	ソル・コーテフ500	B		○	○			
	デカドロン注射液(0.5mLアンプル)	B		○	○		○	
	デカドロン注射液(2mLバイアル)	B		○	○		○	
	リメタゾン静注2.5mg(限定)	B		○	○			
	リンデロン注2mg(0.4%)	B		○	○			
	注射用ソル・メルコート40	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート125	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート500	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート1,000	B		○	○		○	
	水溶性プレドニン20mg	B		○	○			
インスリン製剤	ヒューマリンR注U-100	B			○			○
その他のホルモン剤	サンドスタチンLAR筋注用20mg(限定)	B			○			
	プロスタルモン・F注射液1000	B		○				
子宮収縮剤	エルゴメトリン注射液F	B						
その他の泌尿生殖器官用薬	マグセント注100mL	B						
	ウテメリン注50mg	B		○				
その他の器官系用薬	セファランチン注10mg(限定)	C		○	○			
ビタミンD製剤	オキサロール注5 μ g	C						
	オキサロール注10 μ g	C						
ビタミンB製剤	フラビタン注射液20mg(限定)	C						
パントテン酸系製剤	パントール注射液100mg	C						
ビタミンB12製剤	メチコバル注射液500 μ g	C			○			
ビタミンC製剤	ビーシー注500	C						
ビタミンK製剤	ケイツーN静注用10mg	C		○				
ビタミンB複合剤	ビタメジン静注用	C		○				
総合ビタミン剤	ビタジェクト注キット	C		○	○			
ビオチン	ビオチン注1mg「フソー」(限定)	C						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
ブドウ糖製剤	大塚糖液5%(20mLプラスチックアンプル)	C						
	大塚糖液5%(50mLプラボトル)	C						
	大塚糖液5%(100mLプラボトル)	C						
	大塚糖液5%(250mLプラボトル)	C						
	大塚糖液5%(500mLプラボトル)	C						
	大塚糖液10%(500mLプラボトル)	C						
	大塚糖液20%(20mLプラスチックアンプル)	C				○		
	ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」(20mL)	C				○		
	大塚糖液50%(200mL袋)	C				○		
	エルネオパ1号輸液 (1500mL)	C		○	○			
	エルネオパ2号輸液 (1500mL)	C		○	○			
	フルカリック1号輸液(903mL)	C		○	○			
	フルカリック2号輸液(1003mL)	C		○	○			
	フルカリック3号輸液(1103mL)	C		○	○			
	ハイカリック液-1号(700mL)	C						
	ハイカリック液-2号(700mL)	C						
	ハイカリック液-3号(700mL)(限定)	C						
	ハイカリックRF輸液 (500mL)	C						
アミノ酸製剤	アミノレバン点滴静注 (500mL袋)	C						
	ネオアミュー	C						
	プレアミン-P注射液	C						
総合アミノ酸製剤	ビーフリード輸液 (500mL袋)	C		○				
	プロテアミン12X注射液(200mL)	C						
	プロテアミン12注射液(200mL)	C						
脂肪製剤	イントラリポス輸液10%(250mL)	C		○	○			
電解質輸液	大塚生食注(1000mL袋)	C						
	大塚生食注(20mL管)	C						
	大塚生食注(50mL瓶)	C						
	大塚生食注(100mL瓶)	C						
	大塚生食注(500mL袋)	C						
	大塚生食注(1000mL瓶・広口)	C						
	大塚生食注(250mL袋)	C						
	生食溶解液キットH(100mL)	C						
電解質輸液(開始液)	ソルデム1輸液 (200mL)	C						
	ソルデム1輸液 (500mL)	C						
	ビカーボン輸液	C						
	フィジオ140輸液	C						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
電解質輸液(維持液)	ヴィーン3G注(500mL)(限定)	C						
	ヴィーンD注(500mL)	C						
	ヴィーンF注(500mL)(限定)	C						
	ソルデム3A輸液(200mL)	C						
	ソルデム3A輸液(500mL)	C						
	ソルデム3AG輸液(200mL)	C						
	ソルデム3AG輸液(500mL)	C						
	ソルラクト輸液(500mL)	C						
	デノサリン1輸液(500mL)	C						
	ラクテックD輸液(500mL袋)	C						
血液代用剤	低分子デキストランL注(250mL袋)	C		○	○			
	ヘスパンダー(500mL)	C		○	○			
補正用電解質製剤	KCL注10mEqキット「テルモ」	C				○		○
	フェジン静注40mg	B		○		○		
	エレメンミック注	C						
	補正用塩化ナトリウム液	C						
	カルチコール注射液 8.5% 5mL	C				○		
	リン酸ナトリウム補正液	C						
止血剤	アドナ注(静脈用)50mg	C		○				
	トランサミン注5%	C		○				
	トランサミン注10%	C		○				
	ノボ・硫酸プロタミン静注用100mg	C		○				
血液凝固阻止剤	ノボ・ヘパリン注5千単位	C		○	○			
	フラグミン静注5000	C		○	○			
	ヘパフラッシュ100単位/mLシリンジ100mL	C		○	○			
	ヘパリンNa透析用250単位/mLシリンジ20mL「AT」	C		○	○			
	ヘパリンナトリウム注N5千単位/5mL「味の素」	C		○	○			
	ダルテパリンNa静注5000単位/20mLシリンジ「ニプロ」	C		○	○			
白血球減少症治療剤	グランシリンジ75	C		○	○			
	グランシリンジ150	C		○	○			
	グラン注射液M300	C		○	○			
	ノイトロジン注100μg	C		○	○			
	ノイトロジン注250μg	C		○	○			
	ノイアップ注50(限定)	C		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
肝臓疾患用剤	強力ネオミノファーゲンシーP20mL	C		○	○			
	強力ネオミノファーゲンシー静注シリンジ40mL	C		○	○			
	タチオン注射用200mg(限定)	C			○			
解毒剤	デスフェール注射用500mg	C		○	○			
	デトキソール静注液2g	A						
	ウロミテキサン注100mg	C						
	ウロミテキサン注400mg	C						
	バム静注500mg	B						
	メイロン静注7%(20mL管)	B				○		
	メイロン静注7%(250mL袋)	B				○		
酵素製剤	ウロナーゼ静注用6万単位	A		○	○			
	クリアクター静注用40万	A		○	○			
	グルトパ注 1200万	A		○	○			
代謝性医薬品	アデホス-Lコーワ注40mg	A		○				
	アデホス-Lコーワ注10mg	A		○				
	ゾメタ注射液4mg	C						
	ネスプ静注用20 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用30 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用40 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用10 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用60 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用120 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用180 μ gシリンジ	C		○	○			
	アレディア注15mg	C		○	○			
	エスポー注射液750シリンジ	C		○	○			
	エスポー皮下用24000シリンジ	C		○	○			
	エボジン注シリンジ1500	C		○	○			
	エボジン注シリンジ3000	C		○	○			
	エボジン注シリンジ6000	C		○	○			
	エボジン注シリンジ24000	C		○	○			
	注射用エラスポール100	B						
	エルシトニン注40単位	C		○	○			
	キサンボンS注射液40mg	C		○	○			
	サンディミュン注射液(限定)	B		○				
	プログラフ注射液2mg	B		○	○			
	ミラクリッド注射液2万5千単位	B		○	○			
	ミラクリッド注射液10万単位	B		○	○			
	コアヒビター注射用10mg	A		○	○			
	コアヒビター注射用50mg	A		○	○			
	レミナロン注射用100mg	B		○	○	○		
	レミナロン注射用500mg	B		○	○	○		

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(アルキル化剤)	注射用イホマイド1g	B				○	○	○
	注射用エンドキサン100mg	B		○	○	○	○	○
	注射用エンドキサン500mg	B		○	○	○	○	○
	ブスルフェクス点滴静注用60mg(限定)	B		○	○	○	○	○
	アルケラン静注用50mg(限定)	B		○	○	○	○	○
	注射用サイメリン50mg	B				○	○	○
	ダカルバジン注用100	B			○	○	○	○
	ニドラン注射用50mg	B				○	○	○
	注射用メソトレキセート5mg	B		○	○		○	○
抗癌剤(代謝拮抗剤)	注射用メソトレキセート50mg	B		○	○		○	○
	メソトレキセート点滴静注液200mg	B		○	○		○	○
	5-FU注250協和	B		○	○	○	○	○
	5-FU注1000協和	B		○	○	○	○	○
	キロサイド注20mg	B		○	○		○	○
	キロサイド注40mg	B		○	○		○	○
	キロサイド注200mg	B		○	○		○	○
	キロサイドN注400mg	B		○	○		○	○
	キロサイドN注1g	B		○	○		○	○
	ジェムザール注射用200mg	B			○	○	○	○
	ジェムザール注射用1g	B			○	○	○	○
	ビダーザ注射用100mg	B		○	○			○
	フルダラ静注用50mg	B				◎	○	○
	アリムタ注射用100mg	B		○	○			○
	アリムタ注射用500mg	B		○	○			○
抗癌剤(抗生物質製剤)	マイトマイシン注用2mg	B		○	○	◎	○	○
	マイトマイシン注用10mg(限定)	B		○	○	◎	○	○
	コスメゲン静注用0.5mg	B			○	◎	○	○
	ブレオ注射用15mg	B		○		○	○	○
	ペブレオ注射用10mg	B		○	○	○	○	○
	アクラシノン注射用20mg	B		○		○	○	○
	アドリアシン注用10	B		○		◎	○	○
	アドリアシン注用50	B		○		◎	○	○
	ドキシル注20mg	A			○	○		○
	イダマイシン注	B		○		◎	○	○
	カルセド注射用20mg	B				◎	○	○
	カルセド注射用50mg	B				◎	○	○
	ダウノマイシン静注用20mg	B		○		◎	○	○
	ピノルビン注射用10mg	A		○		◎	○	○
	ピノルビン注射用20mg	A		○		◎	○	○
	ファルモルビシン注射用10mg	B		○		◎	○	○
	ファルモルビシン注射用50mg	B		○		◎	○	○

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(植物成分製剤)	エクザール注射用10mg	B			○	◎	○	○
	オンコビン注射用1mg	A			○	◎	○	○
	カンプト点滴静注40mg	B		○	○	○	○	○
	カンプト点滴静注100mg	B		○	○	○	○	○
	ドセタキセル注(20mg)	B		○	◎	◎	○	○
	ドセタキセル注(80mg)	B		○	◎	◎	○	○
	ワンタキソテル点滴静注20mg/1mL	B		○	◎	◎	○	○
	ワンタキソテル点滴静注80mg/4mL	B		○	◎	◎	○	○
	パクリタキセル注射液30mg	B		○	◎	◎	○	○
	パクリタキセル注射液100mg	B		○	◎	◎	○	○
	ナベルピン注10	B		○	○	◎	○	○
	ナベルピン注40	B		○	○	◎	○	○
	ハイカムチン注射用1.1mg	B				○	○	○
	注射用フィルデシン1mg	A			○	◎	○	○
	注射用フィルデシン3mg	A			○	◎	○	○
	ベブシド注100mg	B		○	○	○	○	○
	アブラキサン点滴静注用100mg	A		○	○	○		○
抗癌剤(分子標的治療薬)	アバスチン点滴静注用100mg/4mL	B		○	○		○	○
	アバスチン点滴静注用400mg/16mL	B		○	○		○	○
	ハーセプチン注射用60	B		○	◎		○	○
	ハーセプチン注射用150	B		○	◎		○	○
	マイロターグ点滴静注用5mg(限定)	B		○	○		○	○
	リツキサン注10mg/mL(100mg/10mL)	B		○	◎		○	○
	リツキサン注10mg/mL(500mg/50mL)	B		○	◎		○	○
	レミケード点滴静注用100(限定)	B		○	◎		○	
	ベクティビックス点滴静注100mg	B			○	○		○
	アービタックス注射液100mg	B		○	○			○

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(その他)	アクブラ静注用50mg	B		○	○	○	○	○
	アクブラ静注用100mg	B		○	○	○	○	○
	コホリン(限定)	B				○	○	○
	トリセノックス注10mg(限定)	B				○	○	○
	ノバントロン注10mg	B		○	○	◎	○	○
	パラプラチン注射液50mg	B		○	◎	○	○	○
	パラプラチン注射液150mg	B		○	◎	○	○	○
	パラプラチン注射液450mg	B		○	◎	○	○	○
	ベルケイド注射用3mg(限定)	A		○			○	○
	ランダ注(10mg/20mL)	B		○	◎	○	○	○
	ランダ注(25mg/50mL)	B		○	◎	○	○	○
	ランダ注(50mg/100mL)	B		○	◎	○	○	○
	エルプラット点滴静注液50mg	A		○	◎		○	○
	エルプラット点滴静注液100mg	A		○	◎		○	○
	ロイスタチン注8mg(限定)	B				○	○	○
	ロイナーゼ注用5000	B		○	○	○	○	○
解毒剤	レボホリナート点滴静注用「NK」100mg	C						
	レボホリナート点滴静注用「NK」25mg	C						
	ロイコボリン注3mg	C						
抗ヒスタミン剤	クロール・トリメトン注10mg	C		○				
抗生物質(ペニシリン系)	ゾシン静注用2.25	B		○	○			
	ゾシン静注用4.5	B		○	○			
	注射用ピクシリン(250mg(力価))	B		○	○			
	注射用ピクシリン(500mg(力価))	B		○	○			
	注射用ピクシリン(1g(力価))	B		○	○			
	ペントシリン注射用1g	B		○	○			
	ペントシリン注射用2g	B		○	○			
	ユナシン-S静注用0.75g	B		○	○			
	ユナシン-S静注用1.5g	B		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗生物質(セフェム系)	クラフォラン注射用0.5g	B		○	○			
	クラフォラン注射用1g	B		○	○			
	セファゾリン注射用0.5g	B		○	○			
	セファゾリン注射用1g	B		○	○			
	セフトアジジム静注用0.5g「メルク」	B		○	○			
	セフトアジジム静注用1g「メルク」	B		○	○			
	セフメタゾン静注用0.25g	B		○	○			
	セフメタゾン静注用0.5g	B		○	○			
	セフメタゾン静注用1g	B		○	○			
	ファーストシン静注用0.5g	B		○	○			
	ファーストシン静注用1g	B		○	○			
	フルマリノ静注用1g	B		○	○			
	注射用マキシーム 1g	B		○	○			
	ロセフィン静注用0.5g	B		○	○			
	ロセフィン静注用1g	B		○	○			
抗生物質(カルバペネム系)	ワイスターール静注用1g	B		○	○			
	オメガシン点滴用0.3g(限定)	B		○	○			
	カルベニン点滴用0.25g	B		○	○			
	カルベニン点滴用0.5g	B		○	○			
	チエナム点滴静注用0.5g	B	○	○	○			
	フィニバックス点滴用0.25g	B		○	○			
	フィニバックス点滴用0.5g	B		○	○			
抗生物質(モノバクタム系)	メロペン点滴用バイアル0.5g	B		○	○			
抗生物質(ニューキノロン系)	アザクタム注射用1g	B		○				
	シプロキサゾン注300mg	B		○	○			
	パシル点滴静注液500mg	B		○	○			
	パシル点滴静注液300mg(限定)	B		○	○			
抗生物質(アミノグリコシド系)	クラビット点滴静注バッグ500mg/100mL	B		○	○	○		
	硫酸アミカシン注射液「萬有」100mg	B	○	○	○			
	エクサシン注射液200	B		○	○			
	ゲンタシン注10	B		○				
	ゲンタシン注60	B		○				
	トブラシン注60mg	B		○	○			
	注射用パニマイシン100mg(限定)	B		○				
	ハベカシン注射液100mg	B	○	○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗生物質(グリコペプチド系)	注射用タゴシッド200mg	B		○	○			
	塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	B		○	○			
抗生物質(ホスホマイシン系)	ホスミシンS静注用0.5g	B		○	○			
	ホスミシンS静注用2g	B		○	○			
抗生物質(マクロライド系)	注射用エリスロシン	B		○	○			
	ジスロマック点滴静注用500mg	B		○	○	○		
抗生物質(テトラサイクリン系)	ミノマイシン点滴静注用100mg	B		○	○			
抗生物質(リンコシン系)	ダラシンS注射液300mg	B		○	○			
	ダラシンS注射液600mg	B		○	○			
抗生物質(オキサゾリニノン系)	ザイボックス注射液600mg	B		○	○			
抗生物質(リホペプチド系)	キュビシン静注用350mg	B		○	○			
抗真菌剤	アムビゾーム点滴静注用50mg	B		○	○			
	ファンギゾン注射用50mg	B	○		○			
	ファンガード点滴用50mg	B		○	○			
	ブイフェンド200mg静注用	B			○			
	プロジフ静注液100	B		○	○			
	プロジフ静注液200	B		○	○			
	プロジフ静注液400	B		○	○			
	フロリードF注200mg(限定)	B		○	○			
抗結核剤	イスコチン注100mg(限定)	B						
抗ウイルス剤	アシクロビン点滴静注250mg	B	○		○			
	アラセナーA点滴静注用300mg(限定)	B		○				
	デノシン点滴静注用500mg	B					○	
抗毒素類	乾燥まむし抗毒素“化血研”	A		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
血液製剤	アドベイト注射用250(限定)	B			○			
	献血アルブミンートニチヤク	B		○	○			
	献血アルブミン20-ニチヤク	B		○	○			
	赤十字アルブミン20	B		○	○			
	アンスロビン P	B			○			
	アンスロビン P1500注射用	B			○			
	献血グロベニン-Iニチヤク0.5g	B		○	○			
	献血グロベニン-Iニチヤク2.5g	B		○	○			
	テタノブリン-IIH(250国際単位)	B		○				
	ハプトグロビン注-ヨシトミ(献血)	B		○	○			
	フィブロガミンP	B		○				
	献血ベニロン-I(500mg)	B		○	○			
	献血ベニロン-I(2,500mg)	B		○	○			
	献血ベニロン-I(5,000mg)	B		○	○			
	静注用ヘブスブリン-IIH(限定)	B		○				
	日赤ポリグロビンN注5%(0.5g製剤 10mL)	B		○	○			
	日赤ポリグロビンN注5%(2.5g製剤 50mL)	B		○	○			
	日赤ポリグロビンN注5%(5.0g製剤 100mL)	B		○	○			
生物学的製剤(その他)	リンフォグロブリン注射液100mg(限定)	B		○	○			
抗ウイルス剤	ベナンボックス300(限定)	B		○	○			
サルファ剤	バクトラミン注	B		○	○			
溶解剤	大塚蒸留水(20mL管)	C						
	大塚蒸留水(100mL瓶)	C						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
X線造影剤	ウログラフィン60%(20ml)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(20mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(50mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(100mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(20mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(50mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(100mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300シリンジ(100mL)(限定)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370シリンジ(100mL)	A		○	○	○		
	イオメロン400(尿路・血管用)(50mL)	A		○	○	○		
	イオメロン400(尿路・血管用)(100mL)	A		○	○	○		
	イソピスト注240	A		○	○	○		
	オムニパーク240(脳槽・脊髄用)10mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300(尿路・血管用)100mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300シリンジ(CT用)150mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300シリンジ(尿路・血管・CT用)100mL	A		○	○	○		
	オムニパーク350シリンジ(血管・CT用)100mL	A		○	○	○		
	ピリスコピンDIC50	A		○	○	○		
機能検査薬	アルギニン注「味の素」	A						
	ヒトCRH注「ミツビシ」	A						
	注射用GRF住友50	A						
	ヒルトニン0.5mg注射液	A		○				
	ジアグノグリーン注射用25mg	A		○				
	インジゴカルミン静注200mg「第一三共」	A		○				
	アンチレクス静注10mg	A						
	グルカゴン注射用1単位「イトウ」	A		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
その他の診断用薬	オムニスキャンシリンジ10mL	A		○	○	○		
	オムニスキャンシリンジ15mL	A		○	○	○		
	ソナゾイド注射用	A						
	フルオレサイト静注500mg	A		○		○		
	プロハンス注	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ(10mL)	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ(15mL)	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ(20mL)	A		○	○	○		
	リゾビスト注	A		○	○	○		
	レボビスト注射用	A				○		
麻薬	モルヒネ塩酸塩注射液(200mg)	B	○					
	モルヒネ塩酸塩注射液(10mg)	B	○					
	モルヒネ塩酸塩注射液(50mg)	B	○					
	ケタラール静注用200mg	B	○					
	オピスタン注射液35mg	B	○					
	アルチバ静注用2mg	B	○	○	○			
	フェンタニル注射液0.1mg「三共」	B	○	○	○			
抗インフルエンザウィルス剤	ペチロルファン注射液	B	○					
	ラビアクタ点滴用バイアル150mg	B		○				
酵素製剤	ラビアクタ点滴用バッグ300mg	B		○				
	ラスリテック点滴静注用7.5mg	C		○	○			

参考資料

- 九州厚生年金病院 診療マニュアル
医薬品添付文書に「同意を得る」ことが明記されている医薬品
院内ハイリスク医薬品(危険医薬品)
- 薬剤の血管炎・血管外漏出対策 九州厚生年金病院 第1版2007.4.18
- 各社添付文書

2008年10月作成
2017年 4月改訂

★夜間・休日に中毒事故の急患が運ばれてきたとき

中毒１１０番電話番号

日本中毒情報センターが開設している中毒１１０番の電話番号を示した。応答は訓練を受けた薬剤師が行っている。

・大阪中毒１１０番

・医療機関専用有料電話：０７２－７２６－９９２３

１件 ２，０００円 ２４時間 ３６５日

・一般市民向け：０７２－７２７－２４９９

相談料無料 ２４時間 ３６５日

・タバコ専用電話：０７２－７２６－９９２２（テープによる一般市民向け）

相談料無料 ２４時間 ３６５日

・つくば中毒１１０番

・医療機関専用有料電話：０２９－８５１－９９９９

１件 ２，０００円 ９時～２１時

・一般市民向け：０２９－８５２－９９９９

相談料無料 ９時～２１時

《 中毒１１０番の取扱う対象 》

化学物質（タバコ、家庭用品など）、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定して情報提供している。

中毒１１０番へ問い合わせ時の確認項目

- １．医療機関名とその電話番号
- ２．連絡者（問い合わせ者）の氏名とその所属・職種
- ３．患者の年齢・体重・性別
- ４．中毒起因物質（正確な商品名、会社名、用途）
- ５．中毒事故の発生状況（摂取量、摂取経路、発生時刻）
- ６．受診時刻
- ７．患者の状態（来院時の症状、現在の症状）
- ８．問い合わせまでに行われた処置
- ９．特に問い合わせたい事柄

***患者が来院していない場合も含め、できる限り詳しい情報を確認の上お電話下さい**

新規採用医薬品添付文書情報

■DICS未登録の新薬について、当院採用品目の添付文書を掲載しています。

【2017年5月採用】

ステラーラ点滴静注130mg ⇒ 添付文書

ムンデシンカプセル100mg ⇒ 添付文書

ニンラーロカプセル2.3mg, 3mg, 4mg ⇒ 添付文書

【2017年6月採用】

スインプロイク錠0.2mg ⇒ 添付文書

サムス力顆粒1% ⇒ 添付文書

貯 法：遮光し、凍結を避け2～8℃で保存すること
使用期限：包装に表示

日本標準商品分類番号
873999

ヒト型抗ヒトIL-12/23p40モノクローナル抗体製剤

生物由来製品
劇薬
処方箋医薬品*

ステララ®点滴静注130mg

Stelara® Intravenous Infusion
ウステキヌマブ(遺伝子組換え)製剤

*注意－医師等の処方箋により使用すること

承認番号	22900AMX00514000
薬価収載	2017年 5月
販売開始	2017年 5月
国際誕生	2008年12月

【警 告】

1. 本剤はIL-12/23の作用を選択的に抑制する薬剤であるため、感染のリスクを増大させる可能性があり、また結核の既往歴を有する患者では結核を活動化させる可能性がある。また、本剤との関連性は明らかではないが、悪性腫瘍の発現が報告されている。本剤が疾病を完治させる薬剤でないことも含め、これらの情報を患者に十分説明し、患者が理解したことを確認した上で、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、本剤投与後に副作用が発現した場合には、主治医に連絡するよう患者に注意を与えること。
2. 重篤な感染症
ウイルス、細菌及び真菌による重篤な感染症が報告されているため、十分な観察を行うなど感染症の発症に注意すること。
3. 結核等の感染症について診療経験を有する内科等の医師と十分な連携をとり使用すること。
4. クロウン病患者に本剤の治療を開始する前に、栄養療法、ステロイド、免疫調節剤等の使用を十分に勘案すること。また、本剤についての十分な知識とクロウン病の治療経験を持つ医師が使用すること。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 1) 重篤な感染症の患者[症状を悪化させるおそれがある。]
- 2) 活動性結核の患者[症状を悪化させるおそれがある。]
- 3) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組 成・性 状】

販売名	ステララ点滴静注130mg
成分・分量 (1バイアル26mL中)	ウステキヌマブ(遺伝子組換え)130mg含有
添加物 (1バイアル26mL中)	精製白糖2210mg、L-ヒスチジン20mg、L-ヒスチジン塩酸塩水和物27mg、ポリソルベート80 10.4mg、L-メチオニン10.4mg、エドト酸ナトリウム水和物0.52mg
色・性状	無色～淡黄色の澄明な液
pH	5.7～6.3
浸透圧比	0.9～1.1(生理食塩液に対する比)

本剤はマウスミエローマ(Sp2/0)細胞株を用いて製造される。

【効 能・効 果】

中等症から重症の活動期クロウン病の導入療法(既存治療で効果不十分な場合に限り)

《効能・効果に関連する使用上の注意》

過去の治療において、栄養療法、他の薬物療法(5-アミノサリチル酸製剤、ステロイド、アザチオプリン等)等による適切な治療を行っても、疾患に起因する明らかな臨床症状が残る場合に投与すること。

【用 法・用 量】

通常、成人にはウステキヌマブ(遺伝子組換え)として、導入療法の初回に、以下に示す用量を単回点滴静注する。

患者体重	投与量
55kg以下	260mg
55kgを超える85kg以下	390mg
85kgを超える	520mg

《用法・用量に関連する使用上の注意》

維持療法については、本剤初回投与の8週後、ウステキヌマブ(遺伝子組換え)皮下投与用製剤の投与を行う。維持療法における用法・用量は、ウステキヌマブ(遺伝子組換え)皮下投与用製剤の添付文書を参照すること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 感染症の患者、感染症が疑われる又は再発性感染症の既往歴のある患者[感染症を悪化又は顕在化させるおそれがある。] (「重要な基本的注意」の項参照)
- 2) 結核の既往歴を有する患者[結核を活動化させるおそれがあるので、胸部レントゲン検査等を定期的に行うなど、結核症の発現に十分に注意すること。] (「重要な基本的注意」の項参照)
- 3) 悪性腫瘍の既往歴のある患者、悪性腫瘍を発現し、本剤投与継続を考慮している患者[悪性腫瘍の既往歴のある患者を対象とする試験は実施されていない。] (「重要な基本的注意」の項参照)
- 4) 高齢者 (「高齢者への投与」の項参照)

2. 重要な基本的注意

- 1) 本剤はIL-12/23の作用を選択的に抑制する薬剤であり、感染のリスクを増大させる可能性がある。そのため本剤の投与に際しては、十分な観察を行い、感染症の発症や増悪に注意すること。感染の徴候又は症状があらわれた場合には、直ちに主治医に連絡するよう患者を指導すること。また、重篤な感染症が発症した場合には、適切な処置を行い、感染症が消失するまで本剤を投与しないこと。
- 2) 本剤投与に先立って結核に関する十分な問診及び胸部レントゲン検査に加え、インターフェロン- γ 遊離試験又はツベルクリン反応検査を行い、適宜胸部CT検査等を行うことにより、結核感染の有無を確認すること。下記のいずれかの患者には、結核等の感染症について診療経験を有する医師と連携の下、原則として本剤の投与開始前に適切な抗結核薬を投与すること。
 - (1) 胸部画像検査で陳旧性結核に合致するか推定される陰影を有する患者
 - (2) 結核の治療歴(肺外結核を含む)を有する患者
 - (3) インターフェロン- γ 遊離試験やツベルクリン反応検査等の検査により、既感染が強く疑われる患者
 - (4) 結核患者との濃厚接触歴を有する患者また、本剤投与中も、胸部レントゲン検査等の適切な検査を定期的に行うなど結核症の発現には十分に注意し、患者に対し、結核を疑う症状が発現した場合(持続する咳、発熱等)には速やかに担当医に連絡するよう説明すること。なお、結核の活動性が確認された場合は本剤を投与しないこと。(「禁忌」、「慎重投与」の項参照)

- 3) 本剤はIL-12/23の作用を選択的に抑制する薬剤であり、悪性腫瘍発現の可能性があり、臨床試験において皮膚及び皮膚以外の悪性腫瘍の発現が報告されている。本剤との因果関係は明確ではないが、悪性腫瘍の発現には注意すること。〔「臨床成績」の項参照〕
- 4) 生ワクチン接種に起因する感染症発現の可能性を否定できないので、本剤による治療中は、生ワクチンを接種しないこと。
- 5) 本剤と他の生物製剤の併用について安全性及び有効性は確立していないので併用を避けること。また他の生物製剤から変更する場合は感染症の徴候について患者の状態を十分に観察すること。
- 6) アレルゲン免疫療法を受けた患者における本剤の使用については評価されていないが、本剤はアレルゲン免疫療法に影響を与える可能性があるため、注意すること。特にアナフィラキシーに対するアレルゲン免疫療法を受けている又は過去に受けたことのある患者については注意すること。
- 7) 本剤投与中又は投与当日にInfusion Reaction(発熱、悪寒、嘔気、嘔吐、頭痛、発疹等)が発現する可能性があるため、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置(抗ヒスタミン薬、解熱鎮痛薬の投与等)を行うこと。

3. 副作用

導入試験

国際共同第Ⅲ相試験における安全性評価対象症例941例(日本人症例55例を含む)中188例(20.0%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められた。主なものは頭痛29例(3.1%)、悪心14例(1.5%)、上気道感染12例(1.3%)、鼻咽頭炎11例(1.2%)、疲労11例(1.2%)、嘔吐11例(1.2%)であった(承認時)。

1) 重大な副作用

- (1) **アナフィラキシー(頻度不明^{注)})**: アナフィラキシー(発疹、蕁麻疹、血管浮腫等)があらわれることがあるので、治療中は患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、投与中止等の適切な処置を行うこと。
- (2) **重篤な感染症(1%未満)**: ウイルス、細菌あるいは真菌による重篤な感染症(蜂巣炎、憩室炎、骨髄炎、胃腸炎、肺炎及び尿路感染等)があらわれることがあるため、治療中は患者の状態を十分に観察し、感染の症状が疑われる場合には、医師に相談すること。重篤な感染症が発現した場合には、患者を十分に観察し、感染が回復するまで本剤の投与をしないこと。
- (3) **結核(頻度不明^{注)})**: 結核が発現又は再活性化する可能性があるため、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (4) **間質性肺炎(頻度不明^{注)})**: 間質性肺炎があらわれることがあるので、咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常(捻髪音)等が認められた場合には、速やかに胸部X線、胸部CT、血清マーカー等の検査を実施すること。間質性肺炎が疑われた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

2) その他の副作用

	1%以上	1%未満	頻度不明 ^{注)}
感染症および寄生虫症	上気道感染、鼻咽頭炎	帯状疱疹、外陰腔真菌感染	歯肉炎
精神障害			うつ病
神経系障害	頭痛	浮動性めまい	
呼吸器、胸郭および縦隔障害		咽喉頭疼痛、鼻閉	
胃腸障害	悪心、嘔吐	下痢	
皮膚および皮下組織障害	発疹	蕁麻疹、そう痒症、ざ瘡	膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症
筋骨格系および結合組織障害		関節痛、筋痛、背部痛	
全身障害および投与局所様態	疲労	無力症、注射部位反応	

頻度はクローン病を対象とした国際共同試験(導入試験)の集計結果による。
注)ウステキヌマブ製剤において国内市販後あるいは海外で報告された副作用については頻度不明とした。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、感染症等の副作用の発現に留意し、十分な観察を行うこと。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤はカニクイザルにおいて胎児への移行が報告されているが、胚・胎児毒性及び催奇形性は認められていない。〕
- 2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。〔本剤のヒトにおける乳汁への移行は不明であるが、動物実験(サル)で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児及び小児に対する安全性は確立していない(小児等に対しては使用経験はない)。

7. 過量投与

臨床試験において、6mg/kgまでの用量の単回静脈内投与で用量制限毒性は認められていない。過量投与時には、副作用の徴候や症状を注意深く観察し、症状が認められた場合には速やかに適切な対症療法を行うこと。

8. 適用上の注意

1) 調製時

- (1) 患者の体重に基づき投与量及び必要な本剤のバイアルの数を算出する。〔「用法・用量」の項参照〕
- (2) 日局生理食塩液の250mL点滴バッグから、追加する本剤と同量分を抜き取る。
- (3) 必要なバイアルごとに本剤26mLを250mL点滴バッグに加え、穏やかに混合する。総液量は250mLとする。

2) 投与時

- (1) 投与前に本剤の希釈液を目視で確認すること。不透明粒子や変色又は異物が認められた場合は使用しないこと。
- (2) 本剤の希釈液を1時間以上かけて投与すること。
- (3) 調製後は4時間以内に使用すること。
- (4) 本剤は無菌・パイロジェンフリーで蛋白結合性の低いインラインフィルター(ポアサイズ0.2ミクロン)を用いて投与すること。
- (5) 他の薬剤と同じ静注ラインで同時注入はしないこと。
- (6) 本剤のバイアルは1回使い切りである。未使用残液については適切に廃棄すること。

9. その他の注意

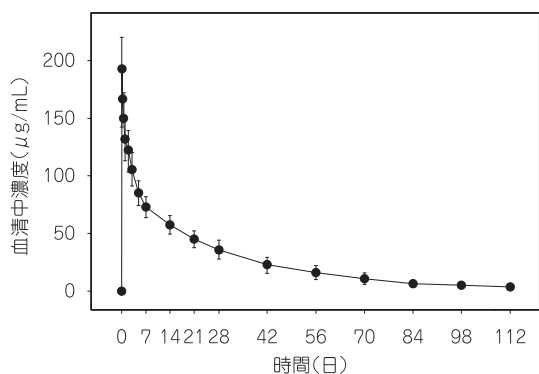
- 1) 尋常性乾癬(関節症性乾癬を合併した患者を含む)を対象としたウステキヌマブ皮下投与用製剤の国内臨床試験は、72週間までの期間で実施されている。また、尋常性乾癬を対象としたウステキヌマブ皮下投与用製剤の海外臨床試験は、5年間までの期間で実施されており、関節症性乾癬を対象とした海外臨床試験は24ヵ月までの期間で実施されている。また、クローン病を対象とした国際共同臨床試験(本剤単回投与後にウステキヌマブ皮下投与用製剤を反復投与)は、52週間までの期間で実施されている。これらの期間を超えた本剤の長期投与時の安全性は確立していない。
- 2) 尋常性乾癬(関節症性乾癬を合併した患者を含む)を対象としたウステキヌマブ皮下投与用製剤の国内臨床試験において、153例中10例(6.5%)が72週目までに抗ウステキヌマブ抗体陽性となり、尋常性乾癬を対象とした海外臨床試験においても、ウステキヌマブ皮下投与用製剤投与により約5%の患者が抗ウステキヌマブ抗体陽性であったとの報告がある。クローン病を対象とした国際共同臨床試験において、本剤及びウステキヌマブ皮下投与用製剤の投与により3%未満の患者が抗ウステキヌマブ抗体陽性となった。抗ウステキヌマブ抗体が陽性となった患者では効果が減弱化する傾向がみられた。
- 3) 尋常性乾癬を対象としたウステキヌマブ皮下投与用製剤の海外臨床試験において、糖尿病を合併する患者では皮下投与後の血清中ウステキヌマブのトラフ濃度が低く、効果が低い傾向がみられた。

- 4) 本剤との関連性は明らかではないが、海外において可逆性後白質脳症症候群(RPLS)の症例が報告されている。
- 5) げっ歯類のIL-12及びIL-23に対して中和活性を示さないため、がん原性試験は実施されていない。げっ歯類のモデルにおいて、IL-12/IL-23p40の阻害により、悪性腫瘍の増大が報告されている¹⁾。また、IL-12及びIL-23の両方の遺伝子を欠損させたマウスでは、紫外線による皮膚癌の発生時期が早まり、発生頻度も増加することが報告されている²⁾。

【薬 物 動 態】

1. 血清中濃度 単回投与

健康成人に本剤6mg/kgを単回静脈内投与したときの血中濃度推移と薬物動態パラメータは以下であった。(外国人データ)³⁾



外国人健康成人に本剤を単回静脈内投与したときの
血清中ウステキヌマブ濃度推移(平均値±標準偏差、69例)

薬物動態パラメータ(外国人データ)

AUC _∞ (μg·day/mL)	3132.4* (690.2)
t _{1/2} (day)	24.7* (6.2)

平均値(標準偏差)、69例(*68例)

国際共同臨床試験⁴⁾

日本人及び外国人のクローン病患者に、用法・用量に従って本剤を単回静脈内投与したとき、血清中ウステキヌマブ濃度は投与1時間後に113(23.7) μg/mL(n=28)及び126(34.1) μg/mL(n=412)、8週後に4.04(2.92) μg/mL(n=15) 及び7.09(4.57) μg/mL(n=292)を示した。[平均値(標準偏差)]

2. 代謝・排泄

ウステキヌマブは、ヒトIgG1由来の抗体であることから、他の免疫グロブリン⁵⁾と同様に分解されると推察される。

【臨 床 成 績】

1. クローン病に対する国際共同臨床試験(第Ⅲ相試験)^{6),7)}

中等症から重症の活動期のクローン病患者(日本人を含む)を対象とし、プラセボ、本剤130mg又は体重別用量(6mg/kg)^{***}を0週目に単回静脈内投与した2つの導入試験(CRD3001試験及びCRD3002試験)を実施した。CRD3001試験では、抗TNF薬で効果不十分又は忍容性がなかった患者を対象とし、CRD3002試験では、既存治療(コルチコステロイド又は免疫調節剤)で効果不十分であり、かつ抗TNF薬による治療歴がないか又は抗TNF薬治療歴を有するものの効果不十分又は忍容性がなかったことが示されていない患者を対象とした。6週目にclinical response^{注1)}が得られた被験者の割合は、CRD3001試験でプラセボ群の21.5%に対して、本剤130mg群で34.3%、本剤体重別用量(6mg/kg)^{***}群で33.3%であり、CRD3002試験でプラセボ群の28.7%に対して、本剤130mg群で51.7%、本剤体重別用量(6mg/kg)^{***}群で55.5%であった。

注1) Crohn's Disease Activity Index(CDAI)スコアのベースラインからの100ポイント以上の減少(ベースラインのCDAIスコアが220ポイント以上248ポイント以下の被験者については、CDAIスコアが150ポイント未満を達成していた場合、clinical responseが得られたとみなした)

投与量	プラセボ	130mg****	体重別用量 (6mg/kg)***
Clinical response rate(6週目) (CRD3001)	21.5% (53/247例)	34.3%* (84/245例)	33.3%* (83/249例)
Clinical response rate(6週目) (CRD3002)	28.7% (60/209例)	51.7%** (108/209例)	55.5%** (116/209例)

* : p<0.01、対プラセボ群、Cochran-Mantel-Haenszelカイニ乗検定

** : p<0.001、対プラセボ群、Cochran-Mantel-Haenszelカイニ乗検定

*** : 本剤の体重別用量群 : 体重55kg以下=本剤260mg、体重55kg超85kg以下=本剤390mg、体重85kg超=本剤520mg

**** : 国内未承認用量

2. 悪性腫瘍発現頻度(海外臨床試験)

海外の尋常性乾癬、関節症性乾癬、クローン病を対象とした臨床試験(第Ⅱ相及び第Ⅲ相試験)において、プラセボ対照期間の非黒色腫皮膚癌を除く悪性腫瘍の発現頻度は、ウステキヌマブ投与群が0.12/100人年(1例/829人年)、プラセボ投与群が0.26/100人年(1例/385人年)であった。非黒色腫皮膚癌の発現頻度は、ウステキヌマブ投与群が0.48/100人年(4例/829人年)、プラセボ投与群が0.52/100人年(2例/385人年)であった。また、対照及び非対照期間において、5884名(10935人年)にウステキヌマブが投与された。その追跡調査中央値は1年で、尋常性乾癬を対象とした臨床試験では3.2年、関節症性乾癬を対象とした臨床試験では1年、クローン病を対象とした臨床試験では0.6年であった。非黒色腫皮膚癌を除く悪性腫瘍の発現頻度は、0.53/100人年(58例/10935人年)で、主なものは前立腺癌、黒色腫、結腸直腸癌、乳癌であった。ウステキヌマブ投与群で報告された悪性腫瘍の発現頻度は、一般人口で予測される発現頻度と同様であった(標準化発生比 : 0.87[95%信頼区間 : 0.66, 1.14]年齢、性別、人種により補正)。非黒色腫皮膚癌の発現頻度は0.49/100人年(53例/10919人年)であった。皮膚基底細胞癌と皮膚有棘細胞癌の発現比率は4 : 1であり一般人口で予測される発現頻度と同様であった。

【薬 効 薬 理】

- 本剤はヒトインターロイキン(IL)-12及びIL-23を構成するp40たん白サブユニットに結合し、*in vitro*試験において以下の作用を示した。

- IL-12及びIL-23に特異的かつ高い親和性で結合した⁸⁾。
- IL-12及びIL-23受容体複合体へのIL-12及びIL-23の結合を阻害した⁹⁾。
- IL-12及びIL-23によって活性化されるヘルパーT細胞及びナチュラルキラー細胞などの免疫担当細胞の細胞内シグナル伝達並びにIFN-γ、IL-17A、IL-17F及びIL-22の分泌を抑制した¹⁰⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名 : ウステキヌマブ(遺伝子組換え)

Ustekinumab(Genetical Recombination)

本 質 : ウステキヌマブは、ヒトインターロイキン-12及びインターロイキン-23のp40サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体である。

ウステキヌマブは、マウスミエローマ(Sp2/0)細胞により産生される。

ウステキヌマブは、449個のアミノ酸残基からなるH鎖(γ1鎖)2分子及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖(κ鎖)2分子で構成される糖タンパク質(分子量 : 148,079~149,690)である。

分子式 : H鎖 C₂₂₀₇H₃₄₁₀N₅₈₂O₆₇₁S₁₇

L鎖 C₁₀₃₄H₁₅₉₆N₂₇₄O₃₃₇S₆

分子量 : 148,079~149,690

【取扱い上の注意】

激しく振盪しないこと。

【承 認 条 件】

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【包 装】

ステアラール点滴静注130mg : 130mg×1バイアル

【主要文献及び文献請求先】

〈主要文献〉

- 1) Langowski, J.L., et al. : Nature. **442**, 461, 2006
- 2) Maeda, A., et al. : Cancer Res. **66**, 2962, 2006
- 3) 健康成人におけるウステキヌマブ製剤の薬物動態比較試験(社内資料)
- 4) クローン病に対する国際共同臨床試験の薬物濃度データの併合結果(社内資料)
- 5) Tabrizi, M.A., et al. : Drug Discov Today, **11**, 81, 2006
- 6) Sandborn W.J. : 国際共同第Ⅱ相臨床試験成績(CRD3001) (社内資料)
- 7) Feagan B. : 国際共同第Ⅱ相臨床試験成績(CRD3002) (社内資料)
- 8) Luo, J., et al. : J. Mol. Biol. **402**, 797, 2010
- 9) ウステキヌマブのヒトIL-12及びIL-23中和作用機序(社内資料)
- 10) ウステキヌマブのヒトIL-12及びIL-23中和作用の機能的効果(社内資料)

〈文献請求先・製品情報お問い合わせ先〉

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

ヤンセンファーマ株式会社 ヤンセンコールセンター

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
フリーダイヤル 0120-183-275
FAX 0120-275-831
受付時間 9:00~17:40(土・日・祝日および会社休日を除く)

製造販売元
ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
JP503077CN

janssen 

規制区分	劇薬、処方箋医薬品 ^{注1)}
貯 法	室温保存
使用期限	外箱に表示の使用期限内に使用すること

抗悪性腫瘍剤/PNP^{注2)}阻害剤

ムンデシン[®] カプセル100mg

mundesine[®] Capsule 100mg

フォロデシン塩酸塩カプセル

日本標準商品分類番号	874291
承認番号	22900AMX00532000
薬価基準収載	2017年 5 月
販売開始	2017年 5 月
国際誕生	2017年 3 月

注1) 注意－医師等の処方箋により使用すること

注2) Purine Nucleoside Phosphorylase

【警 告】

本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、造血器悪性腫瘍の治療に対して十分な知識と経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、本剤による治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分に説明し、同意を得てから投与を開始すること。

【禁 忌】(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

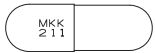
3. 本剤の投与により副作用が発現した場合には、以下の基準を目安に、本剤の休薬等を考慮すること。

＜本剤の休薬・減量・中止の基準＞

副作用*	処置
Grade 3 以上の非血液毒性 Grade 4 の好中球減少及び血小板減少	・副作用が回復するまで休薬し、再開する場合には本剤の減量を考慮する。 なお、減量後に再度増量はしないこと。 ・減量しても投与再開後に左記の副作用が発現した場合には本剤の投与を中止する。

* GradeはNCI-CTCAE v4.0による

【組成・性状】

販売名	ムンデシンカプセル100mg
有効成分・含量 (1カプセル中)	フォロデシン塩酸塩113.6mg (フォロデシンとして100mg)
添加物	結晶セルロース、ヒプロメロース、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム カプセル本体にゼラチン、ラウリル硫酸ナトリウム、酸化チタン、黄色三酸化鉄を含有
色・剤形	頭部黄色、胴部淡黄色の硬カプセル剤
外形	
大きさ	長径19.4mm, 短径6.9mm, 質量約326mg, 1号カプセル
識別コード	MKK211

【効能・効果】

再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

1. 本剤投与の適応となる疾患の診断は、病理診断に十分な経験を持つ医師又は施設により行うこと。
2. 臨床試験に組み入れられた患者の病理組織型等について、【臨床成績】の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者の選択を行うこと。

【用法・用量】

通常、成人にはフォロデシンとして1回300mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

1. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していない。
2. 腎機能障害患者では、本剤の血中濃度が上昇することが報告されているため、本剤の減量を考慮するとともに、患者の状態をより慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意すること。〔慎重投与〕及び【薬物動態】の項参照)

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 感染症を合併している患者〔感染症が増悪するおそれがある。〕〔「重要な基本的注意」, 「重大な副作用」の項参照〕
- (2) 重篤な骨髓機能低下のある患者〔リンパ球減少, 好中球減少及び血小板減少が増悪するおそれがある。〕
- (3) 腎機能障害のある患者〔本剤の血中濃度が上昇するおそれがある。〕〔＜用法・用量に関連する使用上の注意＞及び【薬物動態】の項参照〕

2. 重要な基本的注意

- (1) リンパ球減少, 好中球減少, 血小板減少等の骨髓抑制があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与中は定期的に血液検査を行い、患者の状態を十分に観察すること。〔「慎重投与」, 「重大な副作用」の項参照〕
- (2) 本剤投与により、重篤な感染症や日和見感染が発現又は増悪することがあり、B型肝炎ウイルス、帯状疱疹ウイルス等が再活性化するおそれがあるため、本剤投与に先立って肝炎ウイルス等の感染の有無を確認し、本剤投与前に適切な処置を行うこと。本剤投与中は感染症の発現又は増悪に十分注意すること。〔「慎重投与」, 「重大な副作用」の項参照〕

3. 副作用^{注3)}

再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫患者を対象とした国内第I/II相臨床試験(FDS-J02試験)¹⁾において、安全性評価対象48例中、48例(100%)に副作用が認められた。主な副作用(10%以上)は、リンパ球減少47例(97.9%)、白血球減少29例(60.4%)、貧血17例(35.4%)、好中球減少16例(33.3%)、鼻咽頭炎8例(16.7%)、頭痛8例(16.7%)、帯状疱疹7例(14.6%)、低アルブミン血症7例(14.6%)、発疹7例(14.6%)、血小板減少7例(14.6%)、アラニンアミノトランスフェラーゼ増加7例(14.6%)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加7例(14.6%)、尿中蛋白陽性7例(14.6%)、便秘6例(12.5%)、サイトメガロウイルス感染5例(10.4%)、不眠症5例(10.4%)であった。(承認時)

(1)重大な副作用

- 1)感染症：带状疱疹(14.6%)，サイトメガロウイルス感染(10.4%)，肺炎(8.3%)，ニューモシスチス・イロベチイ肺炎(2.1%)，带状疱疹性髄膜炎(2.1%)等の感染症があらわれることがある。また，B型肝炎ウイルス等の再活性化があらわれることがあるので，患者の状態を十分に観察し，異常が認められた場合には，本剤の休薬，減量又は投与中止等の適切な処置を行うこと。
- 2)骨髄抑制：リンパ球減少(97.9%)，白血球減少(60.4%)，貧血(35.4%)，好中球減少(33.3%)，血小板減少(14.6%)等の骨髄抑制があらわれることがあるので，患者の状態を十分に観察し，異常が認められた場合には，本剤の休薬，減量又は投与中止等の適切な処置を行うこと。
- 3)エプスタイン・バーウイルス(EBV)関連悪性リンパ腫：EBV関連悪性リンパ腫(8.3%)があらわれることがあるので，患者の状態を十分に観察し，異常が認められた場合には，本剤の投与を中止し，適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には，症状に応じて適切な処置を行うこと。

	10%以上	5%～ 10%未満	5%未満	頻度不明
精神・神経系	頭痛，不眠症		ヘルペス後神経痛，抑うつ症状，浮動性めまい，味覚異常，痙攣発作，強直性痙攣，末梢性感覚ニューロパチー，感覚鈍麻，末梢性ニューロパチー，末梢性運動ニューロパチー	
血液・リンパ系			リンパ節炎，好酸球増加，白血球増加，血中免疫グロブリンA減少，血中免疫グロブリンE減少，血中免疫グロブリンG減少，血中免疫グロブリンM減少，免疫グロブリン減少	
呼吸器			咳嗽，低酸素症，鼻炎，気管支炎	喉頭炎，上気道の炎症，口腔咽頭不快感
心・血管系				心不全，うっ血性心不全
消化器	便秘	悪心，口内炎	胃腸炎，口唇炎，下痢，口内乾燥，小腸穿孔，嘔吐，心窩部不快感	上腹部痛，消化不良，胃潰瘍
内分泌				甲状腺機能低下症

	10%以上	5%～ 10%未満	5%未満	頻度不明
皮膚	発疹	そう痒症	毛包炎，皮膚炎，水疱性皮膚炎，皮膚乾燥，湿疹，紅斑，嵌入爪，陰茎潰瘍形成，乾癬，脂漏性皮膚炎，中毒性皮疹，多形紅斑，膿疱性乾癬，斑状丘疹状皮疹	
眼			眼の異常感，眼精疲労，アレルギー性結膜炎，眼そう痒症，結膜炎	
筋・骨格系			筋力低下，関節痛，背部痛，滑液包炎，筋痙攣，筋攣縮	
泌尿器	尿中蛋白陽性		出血性膀胱炎，蛋白尿，腎機能障害，膀胱炎，尿中血陽性，血中クレアチニン増加，血中尿素増加	排尿困難
代謝	低アルブミン血症		糖尿病，高カリウム血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低リン酸血症，血中トリグリセリド増加，総蛋白減少	低蛋白血症
肝臓	ALT(GPT)増加，AST(GOT)増加		血中ビリルビン増加，肝機能異常，γ-グルタミルトランスフェラーゼ増加，B型肝炎DNA測定陽性	肝機能検査値異常，血中乳酸脱水素酵素増加
その他		倦怠感，発熱	末梢性浮腫，体重減少，過敏症，疲労，食欲減退，浮腫，限局性浮腫，血圧上昇，血中アルカリホスファターゼ増加，C-反応性蛋白増加	異常感，血圧低下，腫瘍疼痛

注3)「重大な副作用」及び「その他の副作用」の項について，副作用の発現率は国内第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験(FDS-J02試験)¹⁾に基づいて記載した。また，当該試験以外で報告された副作用の発現率は頻度不明とした。

4.高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いので，患者の状態を観察しながら投与すること。

5.妊婦，産婦，授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が胎児への危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊婦における使用経験はない。ラット及びウサギ胚・胎児発生に関する試験では，臨床曝露量(AUC)の約12.1倍及び1.1倍で骨化遅延が認められた。]

(2)授乳婦に投与する場合には授乳を中止させること。[乳汁中に移行する可能性がある。]

6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。〔低出生体重児、新生児、乳児又は幼児に対しては使用経験がなく、小児に対しては使用経験が少ない。〕

7. 適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕

8. その他の注意

国内外の臨床試験において、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫等の悪性腫瘍(二次発がん)の発現が報告されている。

【薬物動態】

1. 吸収

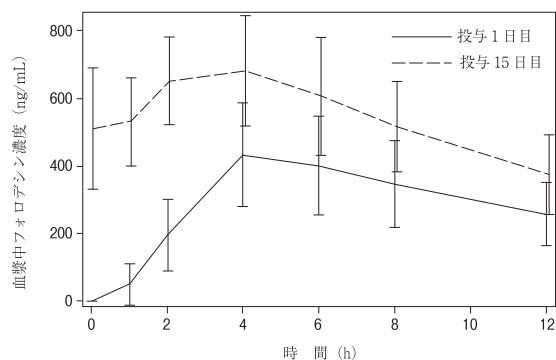
日本人患者での薬物動態

末梢性T細胞リンパ腫患者7例に本剤300mgを1日2回反復経口投与したときの、投与1日目及び15日目における薬物動態パラメータ及び血漿中フォロデシン濃度推移は以下のとおりであった。

薬物動態パラメータ	投与1日目 (7例)	投与15日目 (7例)
C _{max} (ng/mL) 平均値±標準偏差	450±156	699±157
t _{max} (h) 中央値(範囲)	4(4-6)	4(2-6)
AUC (ng・hr/mL) 平均値±標準偏差	3540±1250	6520±1660

投与1日目のAUCは、投与0～12時間後の測定時点のデータを用いて算出した。

投与15日目のAUCは、投与間隔を12時間とした場合の定常状態でのデータを用いて算出した。



再発又は難治性の日本人末梢性T細胞リンパ腫患者に
本剤300mgを1日2回反復経口投与した時の
血漿中フォロデシン濃度の推移(平均値±標準偏差)

食事の影響

外国人の健康成人に本剤300mgを絶食下及び食後経口投与*したときの絶対的バイオアベイラビリティは、絶食下で19.5%、食後経口で23.2%であった。食後投与では絶食下投与に比べて最高濃度(C_{max})及びAUCはそれぞれ13%及び18%増加する傾向が認められた。

*承認用法・用量は300mgを1日2回反復経口投与

2. 分布

本剤の血漿タンパク結合率を*in vitro*で評価したところ、0.1～100 μmol/Lの濃度範囲で0.2%～32%であった。

3. 代謝

本剤はヒト肝ミクロソーム中で安定であったことから、ほとんど代謝されないと考えられた。

4. 排泄

外国人の健康成人に本剤300mgを絶食下及び食後に単回経口投与*したときの、投与72時間後までの本剤の尿中排泄率は、絶食下で12.5%、食後投与で14.1%であった。また、外国人の健康成人に本剤40mg/m²を単回静脈内投与したときの、投与72時間後までの本剤の尿中排泄率は91.0%であった。

*承認用法・用量は300mgを1日2回反復経口投与

5. 腎機能障害患者における薬物動態

外国人の腎機能障害患者に本剤100mgを単回経口投与*したとき、腎機能の低下とともにAUCが増加し、高度腎機能障害患者では正常被験者の1.8倍であった。

*承認用法・用量は300mgを1日2回反復経口投与

外国人腎機能障害患者に本剤100mgを単回経口投与した時の
薬物動態パラメータ

薬物動態パラメータ	腎機能正常 (9例)	軽度腎機能障害 (8例)	中等度腎機能障害 (3例)	高度腎機能障害 (5例)
C _{max} (ng/mL) 平均値±標準偏差	214±134	248±90.8	218±72.6	257±115
t _{max} (h) 中央値(範囲)	3(2-48)	2(2-5)	5(2-6)	4(3-12)
AUC _{last} (ng・hr/mL) 平均値±標準偏差	8949±3227.5	11640±2457.3	13183±2093.6	16382±2950.4

【臨床成績】

＜国内第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験(FDS-J02試験)＞¹⁾

直近の治療で部分奏効以上が認められた、再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫^{注4)}患者48例(第Ⅰ相部分4例、第Ⅱ相部分44例)を対象に、本剤300mgを1日2回経口投与した。第Ⅱ相部分の有効性解析対象41例における奏効は9例に認められ、主要評価項目とされた奏効率は、22.5% (90%信頼区間: 12.0%～35.3%)と推定された(一様最小分散不変推定量)。

また、第Ⅰ相部分及び第Ⅱ相部分を合わせた有効性の解析対象45例を対象とした病理組織型別の奏効率は、下表のとおりであった。

注4) 対象とされた病理組織型は、末梢性T細胞性リンパ腫、非特定型(PTCL-NOS)、血管免疫芽球形T細胞性リンパ腫(AITL)、ALK陽性未分化大細胞型リンパ腫(ALCL)、ALK陰性ALCL、節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型、形質転換菌状肉腫、腸管症関連T細胞リンパ腫、肝脾T細胞リンパ腫及び皮下脂肪組織炎様T細胞リンパ腫。

対象例数	完全奏効	部分奏効	奏効例数	奏効率 (95%信頼区間) (%)
合計	45	4	6	10 22.2 (11.2～37.1)
PTCL-NOS	22	2	2	4 18.2 (5.2～40.3)
AITL	18	2	4	6 33.3 (13.3～59.0)
ALK陰性ALCL	2	0	0	0 (0～84.2)
ALK陽性ALCL	1	0	0	0 (0～97.5)
節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型	1	0	0	0 (0～97.5)
形質転換菌状肉腫	1	0	0	0 (0～97.5)

【薬効薬理】

作用機序²⁾

フォロデシンは、PNPを阻害し、細胞内に蓄積された2'-デオキシグアノシン(dGuo)がリン酸化され、2'-デオキシグアノシン三リン酸(dGTP)が蓄積されることにより、アポトーシスを誘導し、腫瘍の増殖を抑制すると考えられている。フォロデシンは、ヒト赤血球由来PNPを阻害し、そのIC₅₀(50%阻害濃度)値は1.19nmol/Lであった。

【有効成分に関する理化学的知見】

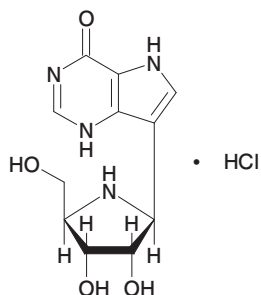
一般名：フォロデシン塩酸塩 (JAN) forodesine (INN)

化学名：7-[(2*S*,3*S*,4*R*,5*R*)-3,4-Dihydroxy-5-(hydroxymethyl)pyrrolidin-2-yl]-1,5-dihydro-4*H*-pyrrolo[3,2-*d*]pyrimidin-4-one monohydrochloride

分子式：C₁₁H₁₄N₄O₄・HCl

分子量：302.71

構造式：



性状：白色から微褐色の粉末

溶解性：水にやや溶けやすく、ジメチルスルホキシドに溶けにくく、*N,N*-ジメチルホルムアミド及びエタノール(99.5)にほとんど溶けない。

融点：約294℃(分解)

分配係数：*n*-オクタノール／水分配係数はlog P=-3.42である。

【取扱い上の注意】

小児の手の届かない、高温にならないところに保管すること。

【承認条件】

1. 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。
2. 国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

【包装】

ムンデシンカプセル100mg：84カプセル(PTP)

【主要文献及び文献請求先】

- 1) 社内資料(日本人再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫患者を対象としたフォロデシンの第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験, FDS-J02試験)
- 2) 社内資料(BCX1777: Inhibition of nonhuman and human red blood cell purine nucleoside phosphorylase by forodesine, P98-1777-001)

ムンディファーマ株式会社 お客様相談室

〒108-6019 東京都港区港南2-15-1

電話 0120-525-272



製造販売元

ムンディファーマ株式会社

〒108-6019 東京都港区港南2-15-1

®：ムンデシン及びmundesineはムンディファーマの登録商標です。

E11G1B04



*2017年5月改訂(第2版)
2017年3月作成

抗悪性腫瘍剤(プロテアソーム阻害剤)

日本標準商品分類番号 874291

毒薬 処方箋医薬品^{注1)}

ニンラーロ[®]カプセル 2.3mg
ニンラーロ[®]カプセル 3mg
ニンラーロ[®]カプセル 4mg

「タケダ」

NINLARO[®] capsules 2.3mg, 3mg, & 4mg.

イキサゾミブクエン酸エステルカプセル

貯 法: 室温保存
使用期限: 外箱に表示の使用期限内に使用すること。
(使用期限内であっても開封後はなるべく速やかに使用すること。)

	承認番号	薬価収載	販売開始
* 2.3mg	22900AMX00533	2017年5月	2017年5月
* 3mg	22900AMX00534	2017年5月	2017年5月
* 4mg	22900AMX00535	2017年5月	2017年5月

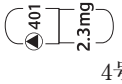
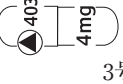
【警告】

本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、造血器悪性腫瘍の治療に対して十分な知識と経験を持つ医師のもとで、本剤が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- (1)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2)妊婦又は妊娠している可能性のある女性(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

【組成・性状】

	ニンラーロカプセル 2.3mg	ニンラーロカプセル 3mg	ニンラーロカプセル 4mg
1カプセル中の有効成分	イキサゾミブクエン酸エステルとして3.29mg (イキサゾミブとして2.3mg)	イキサゾミブクエン酸エステルとして4.30mg (イキサゾミブとして3.0mg)	イキサゾミブクエン酸エステルとして5.73mg (イキサゾミブとして4.0mg)
剤 形	硬カプセル剤		
色 調	微赤色	明るい灰色	淡橙色
識別コード	▲ 401	▲ 402	▲ 403
形状・号数	 4号	 4号	 3号
長 径(mm)	約14.3	約14.3	約15.9
短 径(mm)	5.3	5.3	5.8
質 量(mg)	約108	約108	約163

添加物: 結晶セルロース、ゼラチン、タルク、ステアリン酸マグネシウム、酸化チタン、ラウリル硫酸ナトリウム(以上、全製剤に含有)、黄色三酸化鉄(カプセル4mgにのみ含有)、黒酸化鉄(カプセル3mgにのみ含有)、三酸化鉄(カプセル2.3mg、4mgにのみ含有)

【効能・効果】

再発又は難治性の多発性骨髄腫

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

- (1)本剤による治療は、少なくとも1つの標準的な治療が無効又は治療後に再発した患者を対象とすること。
- (2)臨床試験に組み入れられた患者の前治療歴等について、【臨床成績】の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分理解した上で、適応患者の選択を行うこと。

【用法・用量】

レナリドミド及びデキサメタゾンとの併用において、通常、成人にはイキサゾミブとして1日1回4mgを空腹時に週1回、3週間(1、8及び15日目)経口投与した後、13日間休薬(16～28日目)する。この4週間を1サイクルとし、投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。

注1) 処方箋医薬品: 注意—医師等の処方箋により使用すること

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

- (1)本剤を単独投与した場合の有効性及び安全性は確立していない。
- (2)レナリドミド及びデキサメタゾンの投与に際しては、【臨床成績】の項の内容を熟知し、投与すること。また、併用薬剤の添付文書を熟読すること。
- (3)レナリドミド及びデキサメタゾン以外の抗悪性腫瘍剤との併用における有効性及び安全性は確立していない。
- (4)中等度以上の肝機能障害のある患者及び重度の腎機能障害のある患者では、本剤の血中濃度が上昇するとの報告があるため、減量を考慮するとともに、患者の状態をより慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意すること。(「慎重投与」及び【薬物動態】の項参照)
- (5)食後に本剤を投与した場合、本剤のC_{max}及びAUCが低下するとの報告がある。食事の影響を避けるため、食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。(【薬物動態】の項参照)
- (6)新たなサイクルの開始にあたっては、以下の基準を参考に投与の可否を判断すること。

サイクル開始基準

好中球数	1,000/mm ³ 以上
血小板数	75,000/mm ³ 以上
非血液毒性	ベースライン又はGrade 1以下に回復

GradeはNCI-CTCAE v4.0に基づく

- (7)本剤投与により副作用が発現した場合には、以下の基準を参考に、本剤を休薬、減量、中止すること。

本剤の減量ステップ

開始用量	4mg
ステップ1(1段階減量)	3mg
ステップ2(2段階減量)	2.3mg
ステップ3	投与中止

休薬・減量・中止基準

副作用	程度	処置
血小板減少症	血小板数 30,000/mm ³ 未満	30,000/mm ³ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び30,000/mm ³ 未満に減少した場合は、30,000/mm ³ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
好中球減少症	好中球数 500/mm ³ 未満	500/mm ³ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び500/mm ³ 未満に減少した場合は、500/mm ³ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。

副作用	程度	処置
皮膚障害	Grade 2	対症療法を行い、投与を継続できる。 忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。
	Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
	Grade 4	投与を中止する。
末梢神経障害	疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2	ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。
	疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
	Grade 4	投与を中止する。
上記以外の副作用	Grade 3の非血液毒性	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
	Grade 4の非血液毒性	投与を中止する。

GradeはNCI-CTCAE v4.0に基づく

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)中等度以上の肝機能障害のある患者[本剤の血中濃度が上昇し、副作用が強くあらわれるおそれがある。](＜用法・用量に関連する使用上の注意＞、【薬物動態】の項参照)
- (2)重度の腎機能障害のある患者[本剤の血中濃度が上昇し、副作用が強くあらわれるおそれがある。](＜用法・用量に関連する使用上の注意＞、【薬物動態】の項参照)

2. 重要な基本的注意

血小板減少症があらわれることがあるので、本剤の投与中は定期的に血液学的検査を行い、患者の状態を十分に観察すること。(＜用法・用量に関連する使用上の注意＞、「重大な副作用」の項参照)

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
CYP3A誘導剤 リファンピシン、カルバマゼピン、フェニトイン、セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品等	本剤の血中濃度が低下し、効果が減弱するおそれがあるの で、CYP3A誘導作用のない薬剤への代替を考慮すること。 (【薬物動態】の項参照)	リファンピシンの薬物代謝酵素(CYP3A等)に対する誘導作用により、本剤の代謝が促進される。

4. 副作用

再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした国際共同第Ⅲ相臨床試験において、本剤とレナリドミド及びデキサメタゾンを併用した361例(日本人20例を含む)中、335例(93%)に副作用が認められた。主な副作用(20%以上)は、下痢110例(30%)、好中球減少症107例(30%)、血小板減少症101例(28%)、末梢神経障害81例(22%)及び疲労75例(21%)であった(承認時)。

(1)重大な副作用^{注2)}

- 1) **血小板減少症(28%)**：血小板減少症があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認め

られた場合には、本剤の休薬、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。(＜用法・用量に関連する使用上の注意＞、「重要な基本的注意」の項参照)

- 2) **重度の下痢(5%)**：重度の下痢があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、本剤の休薬、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。(＜用法・用量に関連する使用上の注意＞の項参照)
- 3) **皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)(頻度不明)**：皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) **末梢神経障害**：末梢性感覚ニューロパチー(16%)、末梢性ニューロパチー(7%)、末梢性感覚運動ニューロパチー(1%未満)等があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、本剤の休薬、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。(＜用法・用量に関連する使用上の注意＞の項参照)
- 5) **可逆性後白質脳症症候群(頻度不明)**：可逆性後白質脳症症候群(症状：痙攣発作、血圧上昇、頭痛、意識変容、視覚障害等)があらわれることがあるので、可逆性後白質脳症症候群が疑われた場合には本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注2) 副作用の発現頻度は、国際共同第Ⅲ相試験の結果から集計し、それ以外で報告された副作用は頻度不明とした。

(2)その他の副作用^{注3)}

	10%以上	5～10%未満	5%未満
1) 感染		肺炎	気管支炎、上気道感染、带状疱疹、気道感染、鼻咽頭炎、口腔カンジダ症、口腔ヘルペス、インフルエンザ、気管支肺炎、感染、口腔真菌感染、咽頭炎
2) 血液／リンパ系	好中球減少症、貧血	白血球減少症	リンパ球減少症、汎血球減少症
3) 神経系		味覚異常、浮動性めまい、錯感覚、多発ニューロパチー	頭痛、振戦、傾眠、注意力障害、嗜眠、味覚減退、神経痛
4) 眼		白内障	霧視、眼乾燥、眼刺激
5) 血管			深部静脈血栓症、高血圧、潮紅、低血圧
6) 呼吸器			呼吸困難、しゃっくり、肺塞栓症、鼻出血、咳嗽
7) 消化器	悪心(19%)、嘔吐(16%)、便秘	消化不良	上腹部痛、腹痛、胃食道逆流性疾患、腹部膨満、胃炎、口内炎、腹部不快感、口内乾燥、放屁、口腔内潰瘍形成
8) 肝臓			ALT(GPT)増加、ALP増加

	10%以上	5～10%未満	5%未満
9) 皮膚	発疹(15%)	掻痒症	紅斑性皮疹、紅斑、剥脱性皮膚炎、薬疹、多汗症、全身性掻痒症、掻痒性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症(Sweet症候群)
10) その他	疲労、不眠症、末梢性浮腫、筋痙攣	無力症、食欲減退	発熱、筋力低下、高血糖、低カリウム血症、倦怠感、気分変化、激越、体重減少、挫傷、易刺激性、体重増加、錯乱状態、クッシング様症状、うつ病、顔面浮腫、筋肉痛、四肢痛、不安、背部痛、血中クレアチニン増加、低カルシウム血症、気分動揺、動悸、腎不全、耳鳴、回転性めまい

注3) 副作用の発現頻度は、国際共同第Ⅲ相試験の結果から集計した。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いので、患者の状態を観察しながら投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないこと。また、妊娠可能な女性及びパートナーが妊娠する可能性のある男性に対しては、本剤投与中及び投与終了後一定期間は適切な避妊を行うよう指導すること。[ウサギにおいて、AUC比較で臨床曝露量の1.8倍に相当する用量で催奇形性(胎児の尾椎異常及び短尾)が認められた。また、ラットにおいてAUC比較で臨床曝露量を下まわる用量で精巣毒性が認められた。]

(2)授乳中の女性に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。[ヒト乳汁中への移行は不明である。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

8. 過量投与

本剤の過量投与により、重度の悪心、嘔吐、下痢、血小板減少症等が報告されている。

本剤の過量投与に対する解毒剤は存在しない。過量投与が認められた場合は、症状に応じ適切な処置を行うこと。なお、本剤は血液透析により除去されない。

9. 適用上の注意

調剤時：調剤時に脱カプセルをしないこと。

薬剤交付時：吸湿を防ぐためPTP包装のまま保存し、服用時にPTPシートから取り出すように指導すること。

服用時：カプセルはつぶしたり、噛んだり、開けたりせず、そのまま水とともに服用するように指導すること。

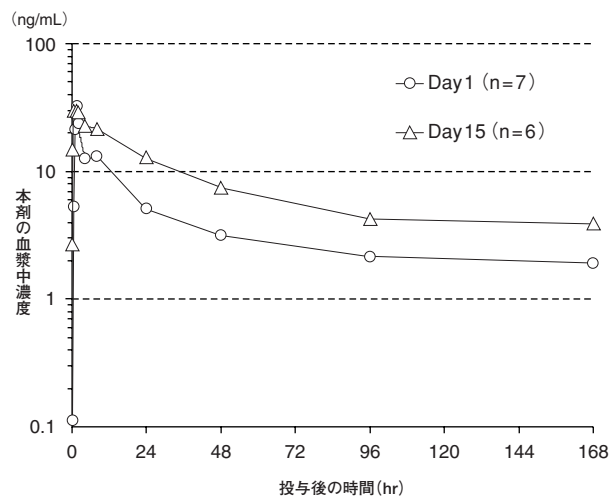
【薬物動態】

1. 吸収

(1)血中動態¹⁾

再発又は難治性の多発性骨髄腫患者にレナリドミド及びデキサメタゾン併用下、イキサゾミブとして1日1回4mg

を週1回、3週間経口投与時の本剤の血漿中濃度を測定した。1日目及び15日目共に、本剤の血漿中濃度は投与後約2時間までに最高値に達し、その後多相性の指数関数的な消失プロファイルを示した。投与15日目における本剤の終末相半減期は5.2日であり、また、平均蓄積比は1.78であった。



本剤の血漿中濃度推移(平均値)

本剤の薬物動態パラメータ

パラメータ	1日目	15日目
N	7	6
T _{max} (hr) ^{a)}	1.45 (1.00-7.17)	1.38 (0.47-7.08)
C _{max} (ng/mL)	32.9 (52)	34.5 (95)
AUC(0-168) (ng·hr/mL)	564 (41)	1086 (54)

幾何平均(%変動係数)、a)：中央値(最小値、最大値)、AUC(0-168)：投与後168時間までの血漿中濃度-時間曲線下面積、C_{max}：最高血漿中濃度、T_{max}：C_{max}到達時間

(2)食事の影響(外国人データ)²⁾

本剤4mgを進行がん患者15例に高脂肪食摂取後に投与した時のC_{max}及びAUCは、空腹時投与時と比較してそれぞれ69%、28%減少した。

2. 分布(外国人データ)^{3) 注4)}

本剤は高い血漿蛋白結合率(99%)を示した。また、本剤は赤血球に多く分布し、AUCに基づく血液-血漿分配比は約10であった。

3. 代謝

(1)本剤の放射性標識体を経口投与した時、血漿中に認められた放射能の70%を未変化体が占めていた(外国人データ)^{4) 注4)}

(2)臨床用量における血漿中濃度付近のイキサゾミブの代謝には主にCYP以外の蛋白が関与し、特定のCYP分子種が関与しないことが示唆された。臨床用量における血漿中濃度より高いイキサゾミブ濃度(10μmol/L)では、各CYP分子種の寄与率はCYP3A4が42.3%、1A2が26.1%、2B6が16.0%、2C8が6.0%、2D6が4.8%、2C19が4.8%、2C9が1%未満であった(*in vitro*)⁵⁾

4. 排泄(外国人データ)^{4) 注4)}

本剤の放射性標識体を進行がん患者5例に単回経口投与した時、投与後34日までに投与した放射能の62%が尿中に、22%が糞中に排泄された。また、投与後7日までに尿中に回収された未変化体は投与量の3.2%であった。

5. 肝機能障害患者における薬物動態(外国人データ)^{6) 注4)}

本剤2.3mgを中等度肝機能障害(総ビリルビン値が基準値上限の1.5倍超3倍以下)を有する患者13例及び本剤1.5mgを重度肝機能障害(総ビリルビン値が基準値上限の3倍超)を有する患者18例に投与時の用量補正した非結合型のAUCは、本剤4mgを肝機能正常患者12例に投与した時と比較してそれぞれ32%及び23%高かった。

6. 腎機能障害患者における薬物動態(外国人データ)^{7) 注4)}

本剤3mgを重度腎機能障害(クレアチニンクリアランスが30 mL/min未満)を有する患者14例又は血液透析を要する末期腎不全を有する患者6例に投与時の非結合型のAUCは、本剤3mgを腎機能正常患者(クレアチニンクリアランスが90mL/min以上)18例に投与した時と比較して38%高かった。また、本剤は血液透析により除去されないことが示唆された。

7. 薬物相互作用

(1)CYP3A阻害剤(外国人データ)^{2) 注4)}

クラリスロマイシン500mgを進行がん患者15例に1日2回反復投与時に、本剤2.5mgを併用投与した時、本剤のC_{max}及びAUCに対する明確な影響は認められなかった。(本剤のC_{max}が4%減少、AUCが11%増加した。)

(2)CYP3A誘導剤(外国人データ)²⁾

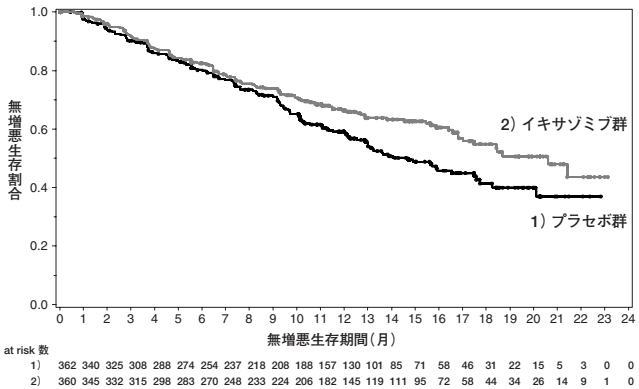
リファンピシン600mgを進行がん患者16例に1日1回反復投与時に、本剤4mgを併用投与した時、本剤のC_{max}が54%、AUCが74%減少した。

注4) 本剤の承認用法・用量とは異なる用法・用量で投与された試験。本剤の承認用法・用量は【用法・用量】の項を参照のこと。

【臨床成績】

1～3レジメンの前治療歴を有する再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした国際共同第Ⅲ相二重盲検比較試験を実施し、レナリドミド^{注5)}及びデキサメタゾン^{注6)}の併用下で、プラセボを対照としてイキサゾミブとして4mg^{注7)}を経口投与した。なお、レナリドミド又はプロテアソーム阻害剤に難治性の患者は対象から除外した。

合計722例(日本人患者41例を含む)が無作為割付され、主要評価項目である無増悪生存期間(PFS)は盲検化された独立評価委員会(IRC)により中央検査結果に基づき評価され、イキサゾミブ投与群において有意な延長が認められた(2014年10月30日データカットオフ)。⁸⁾



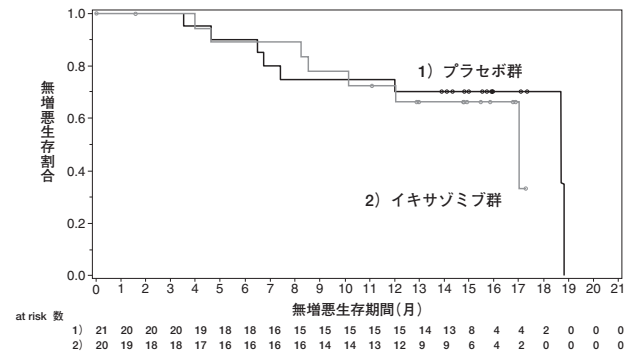
IRCの判定に基づく無増悪生存期間のKaplan-Meier曲線(ITT)
(2014年10月30日データカットオフ)

国際共同第Ⅲ相二重盲検比較試験における有効性解析の要約

	プラセボ群 (n=362)	イキサゾミブ群 (n=360)
PFSイベント数	157	129
無増悪生存期間の中央値(月) (95%信頼区間)	14.7 (12.91~17.58)	20.6 (17.02~NE ^{注10)})
p値 ^{注8)}	0.012	
ハザード比(95%信頼区間) ^{注9)}	0.742(0.587~0.939)	

また、副次評価項目である全生存期間(OS)の中間解析(2015年7月12日データカットオフ)の時点でOSイベント数はイキサゾミブ投与群で81件、プラセボ投与群で90件であり、OSは両群とも中央値に到達していない(ハザード比:0.868、95%信頼区間:0.642~1.175、p=0.359)(2015年7月12日データカットオフ)。⁸⁾日本人部分集団41例(イキサゾミブ投与群20例、プラセボ投与群21例)における2015年7月12日データカットオフ時点のPFS

イベント数はイキサゾミブ投与群で7件、プラセボ投与群で8件であり、PFSの中央値(95%信頼区間)は、イキサゾミブ投与群で17.0ヵ月(10.18~推定不能)、プラセボ投与群で18.7ヵ月(7.43~18.83)であった(ハザード比:1.323、95%信頼区間:0.443~3.954)(2015年7月12日データカットオフ)。⁸⁾



IRCの判定に基づく無増悪生存期間のKaplan-Meier曲線(日本人部分集団)
(2015年7月12日データカットオフ)

注5) レナリドミドの用法・用量:28日間を1サイクルとし、1日1回25mg

を1~21日に連日経口投与した後、7日間(22~28日目)休薬した。
注6) デキサメタゾンの用法・用量:28日間を1サイクルとし、1日1回40mgを1、8、15、22日に経口投与した。

注7) イキサゾミブの用法・用量:28日間を1サイクルとし、1日1回4mgを1、8、15日に経口投与した。

注8) 無作為化の層別因子による層別ログランク検定

注9) 無作為化の層別因子による層別Cox比例ハザードモデル

注10) NE: Not Estimable(推定不能)

【薬効薬理】

1. 作用機序^{9,10)}

イキサゾミブは20Sプロテアソームのβ5サブユニットに結合し、キモトリプシン様活性を阻害することにより、腫瘍細胞のアポトーシスを誘導し、腫瘍増殖を抑制すると考えられている。

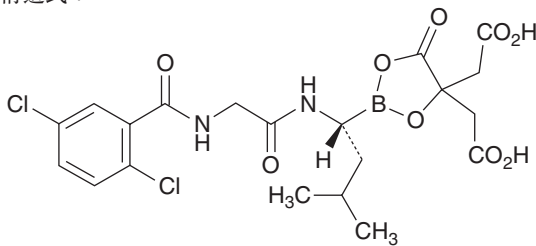
2. 抗腫瘍効果

(1) ヒト多発性骨髄腫(MM)由来細胞株(MM.1S、NCI-H929、RPMI-8226等)及びMM患者由来のMM細胞に対して、増殖抑制作用を示した(*in vitro*)。^{9,10)}

(2) MM.1S細胞株を皮下移植したマウスにおいて、腫瘍増殖抑制作用を示した(*in vivo*)。⁹⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

化学構造式:



一般名: イキサゾミブクエン酸エステル

(Ixazomib Citrate) [JAN]

化学名: 2,2'-[2-[(1*R*)-1-[(1,3,2-dioxaborolane-4,4-diyl]diacetyl]amino]-3-methylbutyl]-5-oxo-1,3,2-dioxaborolane-4,4-diyl] diacetic acid

分子式: C₂₀H₂₃BCl₂N₂O₉

分子量: 517.12

融点: 231℃(分解)

性状: イキサゾミブクエン酸エステルは白色～ほとんど白色の粉末である。ジメチルスルホキシドに極めて溶けやすく、テトラヒドロフランにやや溶けやすく、アセトニトリル又は酢酸エチルに極めて溶けにくい。

経口末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬

処方箋医薬品^{注 1)}

スインプロイク錠 0.2 mg

ナルデメジントシル酸塩錠
Symproic[®]

シオノギ製薬

承認番号	22900AMX00513
薬価収載	2017年5月
販売開始	2017年6月
国際誕生	2017年3月

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 消化管閉塞若しくはその疑いのある患者，又は消化管閉塞の既往歴を有し再発のおそれの高い患者〔消化管穿孔を起こすおそれがある。〕

【組成・性状】

1. 組成

販売名	スインプロイク錠 0.2mg
成分・含量 (1 錠中)	ナルデメジントシル酸塩 0.2604mg (ナルデメジンとして 0.2mg に相当)
添加物	D-マンニトール，クロスカルメロースナトリウム，ステアリン酸マグネシウム，ヒプロメロース，タルク，黄色三酸化鉄

2. 性状

販売名	スインプロイク錠 0.2mg
性状・剤形	黄色の円形のフィルムコーティング錠である。
外形	
大きさ	直径 約 6.5mm 厚さ 約 3.5mm
重量	約 0.12g
識別コード	① 222 : 0.2

【効能・効果】

オピオイド誘発性便秘症

【用法・用量】

通常，成人にはナルデメジンとして 1 回 0.2mg を 1 日 1 回経口投与する。

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

オピオイドの投与を中止する場合は本剤の投与も中止すること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 消化管壁の脆弱性が認められる又は疑われる疾患を有する患者（例：消化管潰瘍，憩室疾患，浸潤性消化管がん，がんの腹膜転移，クローン病）〔消化管穿孔の危険性が高まるおそれがある。〕〔「重要な基本的注意」の項参照〕
- (2) 脳腫瘍（転移性を含む）等の血液脳関門が機能していない又は機能不全が疑われる患者〔オピオイド離脱症候群（「重要な基本的注意」の項参照）又はオピオイドの鎮痛作用の減弱を起こすおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 海外で類薬の投与により，消化管穿孔を来し死亡に至ったとの報告がある。激しい又は持続する腹痛等，消化管穿孔が疑われる症状が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。〔「慎重投与」の項参照〕

- (2) オピオイド離脱症候群（一般的には，投与後数分あるいは数日以内に起こる次の症状の複合的な発現：不安，悪心，嘔吐，筋肉痛，流涙，鼻漏，散瞳，立毛，発汗，下痢，あくび，発熱，不眠）を起こすおそれがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。〔「慎重投与」及び「過量投与」の項参照〕

3. 相互作用

本剤は，主に肝代謝酵素 CYP3A4 で代謝される。〔「薬物動態」の項参照〕

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
CYP3A 阻害剤 イトラコナゾール， フルコナゾール等	本剤の血中濃度が上昇し，副作用が発現するおそれがある。〔「薬物動態」の項参照〕	CYP3A4 を介する本剤の代謝が阻害される。
CYP3A 誘導剤 リファンピシン等	本剤の血中濃度が低下し，効果が減弱するおそれがある。〔「薬物動態」の項参照〕	CYP3A4 を介する本剤の代謝が促進される。
P-糖蛋白阻害剤 シクロスポリン等	本剤の血中濃度が上昇し，副作用が発現するおそれがある。また，血液脳関門への影響により，本剤の脳内濃度が上昇するおそれがある。	P-糖蛋白を介する本剤の輸送が阻害される。

4. 副作用

オピオイド誘発性便秘症〔opioid-induced constipation (OIC)〕を有するがん患者を対象とした国内臨床試験において，安全性評価対象症例 224 例中，副作用（臨床検査値異常変動を含む）は 67 例（29.9％）に認められた。主なものは，下痢 49 例（21.9％），腹痛 5 例（2.2％）であった。

OIC を有する非がん性慢性疼痛患者を対象とした国内臨床試験において，安全性評価対象症例 53 例中，副作用（臨床検査値異常変動を含む）は 17 例（32％）に認められた。主なものは，下痢 10 例（19％），腹痛 3 例（6％）であった。

(1) 重大な副作用

重度の下痢（1％未満）：重度の下痢があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

以下の副作用があらわれた場合には，投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

種類／頻度	5％以上	1～5％未満	1％未満
消化器	下痢	腹痛，嘔吐，悪心，食欲減退	
その他		ALT（GPT）増加，AST（GOT）増加	倦怠感

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので，注意すること。

6. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。動物試験において，ウサギで流産及び早産，胎児体重の低値，ラットで分娩中の母

注 1) 注意－医師等の処方箋により使用すること

- 動物の死亡、出生率及び出生児生存率の低下、並びに発育遅延が報告されている。また、ラットで胎児への移行が認められているが、いずれの動物種でも催奇形性は認められていない¹⁾。]
- (2) 授乳中の婦人には、本剤投与中は授乳を避けさせること。[ヒト母乳中への移行は不明だが、ラットで乳汁中への移行が報告されている。]
7. 小児等への投与
低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。[使用経験がない。]
8. 過量投与
徴候、症状：海外臨床試験（0.01～3mg 単回投与）において、1mg を投与した場合に、重度の悪心、胃痙攣を含むオピオイド離脱症候群が認められている。また、国内及び海外臨床試験において、0.4mg を1日1回2週間又は4週間投与した場合に、投与初期に胃腸症状の副作用発現頻度の増加が認められている。
処置：特異的な解毒剤は知られていない。過量投与に対する有効な処置に関する情報は得られていないが、上記の徴候、症状があらわれた場合は、モニタリングや患者の状態に応じて対症療法を行うこと。なお、本剤は血液透析により除去されない。
9. 適用上の注意
薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

【薬物動態】

1. 血漿中濃度

(1) 健康成人

1) 単回投与

健康成人男女に、0.2mg を空腹時（15例）又は食後（高脂肪食）（18例）に単回経口投与したときのナルデメジンの薬物動態パラメータを表1に、平均血漿中濃度推移を図1に示す。空腹時投与と比べ食後投与でCmaxは35%減少したが、AUCはほぼ同様の値であった。Tmaxは空腹時の0.75時間から2.50時間に遅延した。食事摂取による吸収の遅延が示唆されたが、吸収量への影響は認められなかった²⁾。（外国人によるデータ）

表1 単回経口投与時の薬物動態パラメータ

投与量 (mg)	食事条件	n	Cmax※1 (ng/mL)	Tmax※2 (hr)	AUC _{0-inf} ※1 (ng・hr/mL)	T _{1/2,z} ※1 (hr)
0.2	空腹時投与	15	3.07 (18.7%)	0.75 (0.50, 2.00)	23.79 ^a (17.1%)	10.9 ^a (14.3%)
0.2	食後投与	18	2.01 (19.0%)	2.50 (0.75, 5.02)	23.13 (14.0%)	10.9 (17.9%)

※1：幾何平均値（%変動係数）

※2：中央値（最小値，最大値）

a：n=14

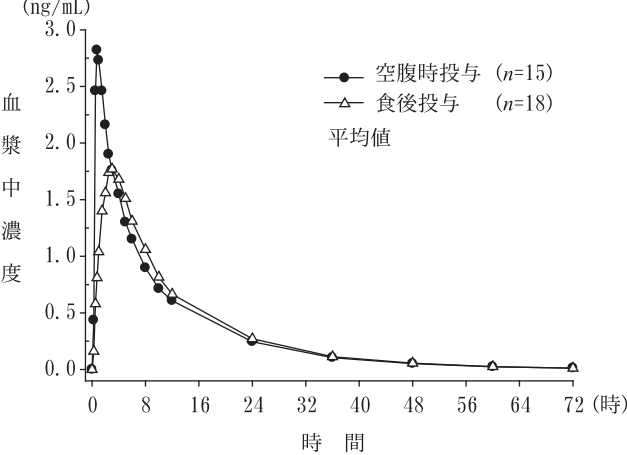


図1 ナルデメジンの平均血漿中濃度推移

2) 反復投与

健康成人男性各9例に3, 10, 30mg（すべて承認外用量）を1日1回10日間空腹時反復経口投与したとき、血漿中濃度は2日以内に定常状態に達し、Cmax及びAUCはわずかに蓄積（1～1.3倍）した³⁾。

(2) がん患者

OICを有するがん患者に0.2mgを1日1回14日間経口投与したときの投与1日目の薬物動態パラメータを表2に示す⁴⁾。

表2 OICを有する日本人がん患者における投与1日目の薬物動態パラメータ

投与量 (mg)	n	Cmax※1 (ng/mL)	Tmax※2 (hr)	AUC _{0-inf} ※1 (ng・hr/mL)	T _{1/2,z} ※1 (hr)
0.2	16	2.02 (31.4%)	2.00 (0.96, 11.50)	23.79 ^a (19.7%)	9.53 ^b (19.7%)

※1：幾何平均値（%変動係数）

※2：中央値（最小値，最大値）

a：n=8, b：n=13

(3) 非がん患者

OICを有する非がん慢性疼痛患者に0.2mgを1日1回28日間反復経口投与したときの投与1日目及び28日目の薬物動態パラメータを表3に示す⁵⁾。（外国人によるデータ）

表3 OICを有する外国人非がん患者における反復経口投与時の薬物動態パラメータ

投与量 (mg)	日数	n	Cmax※1 (ng/mL)	Tmax※2 (hr)	AUC _{0-τ} ※1 (ng・hr/mL)	T _{1/2,z} ※1 (hr)
0.2	1	9	1.89 (48.2%)	1.03 (0.97, 4.02)	15.95 ^a (42.6%)	8.47 ^b (35.9%)
	28	4	2.00 (22.7%)	1.00 (1.00, 1.03)	16.94 (46.6%)	7.11 (28.7%)

※1：幾何平均値（%変動係数）

※2：中央値（最小値，最大値）

a：n=8, b：n=7

2. 高齢者

母集団薬物動態解析で、OICを有するがん患者の高齢患者（65～85歳）47例と非高齢患者（37～64歳）50例を比較した結果、年齢は本剤の薬物動態に影響を及ぼさなかった。

また、OICを有する非がん慢性疼痛患者の高齢患者（65～79歳）58例と非高齢患者（19～64歳）387例を比較した結果、年齢は本剤の薬物動態に影響を及ぼさなかった⁶⁾。（外国人によるデータ）

3. 腎機能障害患者

健康成人、軽度～重度腎機能障害患者、血液透析を要する末期腎機能不全（ESRD）患者各6～8例に0.2mgを単回経口投与したとき、健康成人と比較し、軽度、中等度、重度の腎機能障害患者及びESRD患者でAUC_{0-inf}の比がそれぞれ1.08, 1.06, 1.38, 0.83倍であった。ナルデメジンは血液透析により除去されなかった⁷⁾。（外国人によるデータ）

4. 肝機能障害患者

健康成人、軽度（Child-Pugh分類A）、中等度（Child-Pugh分類B）の肝機能障害患者各8例に0.2mgを単回経口投与したとき、健康成人と比べ軽度及び中等度の肝機能障害患者でAUC_{0-inf}の比がそれぞれ0.83, 1.05倍であった⁸⁾。（外国人によるデータ）

5. 分布

0.02～2μg/mLの濃度範囲で、ヒト血清蛋白結合率は93.2～94.2%⁹⁾、ヒト血球移行率は13.9～15.5%¹⁰⁾であった。

6. 代謝

- (1) 健康成人男性12例に2mg（承認外用量）単回経口投与したときの血漿中代謝物を検索した結果、血漿中の主要な成分は未変化体であり、nor-ナルデメジン及びナルデメジン3-Gの全身曝露量は、それぞれ未変化体の9～13%及び1～2%であった¹¹⁾。（外国人によるデータ）
- (2) *In vitro*試験の結果、ナルデメジンは主にCYP3A4によってnor-

ナルデメジンに代謝され、一部の代謝に UGT1A3 が寄与し、UGT1A3 によりナルデメジン 3-G へと代謝されると推定された¹²⁾。

7. 排泄

放射能で標識した [carbonyl-¹⁴C]-ナルデメジン及び [oxadiazole-¹⁴C]-ナルデメジン 2mg (承認外用量) をそれぞれ健康成人男性 6 例に空腹時単回経口投与したとき、[oxadiazole-¹⁴C]-ナルデメジン投与では投与された放射能の 57.3% 及び 34.8% がそれぞれ尿及び糞中に排泄され、[carbonyl-¹⁴C]-ナルデメジン投与では投与された放射能の 20.4% 及び 64.3% がそれぞれ尿及び糞中に排泄された。投与量の約 20% が尿中に未変化体として排泄された¹¹⁾。(外国人によるデータ)

8. 薬物相互作用

- (1) *In vitro* 試験の結果、ナルデメジンは主に CYP3A4 によって代謝された¹²⁾。また、P-糖蛋白トランスポーターの基質であった¹³⁾。
- (2) 健康成人男性 14 例にナルデメジン 0.4mg (承認外用量) 単独、あるいはシクロスポリン 600mg との併用で、空腹時単回経口投与した。P-糖蛋白の阻害剤シクロスポリンとの併用により、ナルデメジンの AUC は 1.8 倍に増大し、Cmax は 1.4 倍であった¹⁴⁾。(外国人によるデータ)
- (3) 健康成人男女 14 例にナルデメジン 0.2mg を単回単回経口投与したのち、リファンピシン 600mg を 1 日 1 回 17 日間反復経口投与し、リファンピシン投与 15 日目にナルデメジン 0.2mg を併用投与した。強力な CYP3A 誘導剤リファンピシンとの併用で、ナルデメジンの Cmax は 38%, AUC は 83% 低下した¹⁵⁾。(外国人によるデータ)
- (4) 健康成人男女 14 例にナルデメジン 0.2mg を単回単回経口投与したのち、イトラコナゾールを 7 日間反復経口投与 (1 日目に 200mg を 1 日 2 回投与、その後 200mg を 1 日 1 回 6 日間投与) し、イトラコナゾール投与 5 日目にナルデメジン 0.2mg を併用投与した。強力な CYP3A 阻害剤及び P-糖蛋白の阻害剤イトラコナゾールとの併用で、ナルデメジンの AUC は 2.9 倍に増大し、Cmax は 1.1 倍であった¹⁶⁾。
- (5) 健康成人男女 14 例にナルデメジン 0.2mg を単回単回経口投与したのち、フルコナゾールを 7 日間反復経口投与 (1 日目に 400mg を 1 日 1 回投与、その後 200mg を 1 日 1 回 6 日間投与) し、フルコナゾール投与 5 日目にナルデメジン 0.2mg を併用投与した。中程度の CYP3A 阻害剤フルコナゾールとの併用で、ナルデメジンの AUC は 1.9 倍に増大し、Cmax は 1.4 倍であった¹⁶⁾。

【臨床成績】

1. がん患者でのオピオイド誘発性便秘症

(1) 二重盲検並行群間比較試験

本剤又はプラセボ投与開始日前 14 日間のオピオイド投与量が安定し、かつその間の自発排便回数が 5 回以下である OIC を有するがん患者に、本剤 0.2mg 又はプラセボを 2 週間投与した。主要評価指標である自発排便レスポンド率は表 4 のとおりであり、本剤のプラセボに対する優越性が示された¹⁷⁾。

表 4 自発排便レスポンド率

投与群	n	レスポンド率 ^{注1}	レスポンド率の 95%信頼区間 ^{注2}		プラセボ群との対比較	
			下限	上限	群間差 (標準誤差)	p 値 ^{注3}
プラセボ	96	34.4%	25.0%	44.8%	36.8% (6.7%)	<0.0001*
0.2mg	97	71.1%	61.0%	79.9%		

注 1：自発排便回数が 3 回/週以上かつベースラインから 1 回/週以上増加した患者の割合
注 2：Clopper-Pearson 法
注 3：カイ二乗検定
p：有意確率，*：有意差あり (p<0.05)

(2) 継続投与試験

OIC を有するがん患者 131 例を対象として、本剤 0.2mg を 12 週間投与した。患者報告型便秘症状評価 (PAC-SYM) の全体スコア、患者報告型便秘 QOL 評価 (PAC-QOL) の全体及び満足度スコアは治療期間にわたりベースラインと比較し有意な改善がみられた。最終観測時点の PAC-SYM (全体) レスポンド率は 18.5%, PAC-QOL (満足度) レスポンド率は 35.3% であった¹⁸⁾。

2. 非がん性慢性疼痛患者でのオピオイド誘発性便秘症

長期投与試験

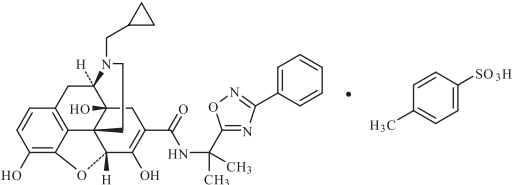
本剤投与開始日前 14 日間のオピオイド投与量が安定し、かつその間の自発排便回数が 5 回以下である OIC を有する非がん性慢性疼痛患者 53 例を対象に本剤 0.2mg を 48 週間投与した (2 試験の併合)。有効性評価項目未観測 1 例を除く計 52 例における、投与 2 週間での自発排便レスポンド率は 82.7% であった¹⁹⁾。

【薬効薬理】

- 1. オピオイド受容体に対する結合親和性
受容体結合実験において、選択的なヒト組換え μ 、 δ 及び κ オピオイド受容体結合親和性を示した²⁰⁾。
- 2. オピオイド受容体に対する機能活性
ヒト組換え μ 、 δ 及び κ オピオイド受容体に対し、アンタゴニスト活性を示し、アゴニスト活性を示さなかった²⁰⁾。
- 3. 便秘に対する作用
単回経口投与により、ラットでモルヒネ及びオキシコドン皮下投与により誘発される小腸輸送能阻害作用及びヒマシ油誘発下痢モデルにおけるモルヒネにより誘発される便秘に対する改善が 0.03mg/kg 以上で認められた²¹⁾。
- 4. モルヒネ誘発鎮痛作用に対する影響
ラットに皮下投与したモルヒネの鎮痛作用に対し、単回経口投与で 3mg/kg まで有意な影響を及ぼさなかった²²⁾。
- 5. オピオイド離脱症状
モルヒネ依存ラットへの単回経口投与で 1mg/kg の用量まで中枢性のオピオイド離脱症状は認められなかった²³⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般的名称：ナルデメジントシル酸塩 (JAN)
Naldemedine Tosilate
化学名：(5R)-17-(Cyclopropylmethyl)-6,7-didehydro-4,5-epoxy-3,6,14-trihydroxy-N-[2-(3-phenyl-1,2,4-oxadiazol-5-yl)propan-2-yl]morphinan-7-carboxamide mono(4-methylbenzenesulfonate)
分子式：C₃₂H₃₄N₄O₆・C₇H₈O₃S
分子量：742.84
化学構造式：



性状：白色～微褐色の粉末である。
ジメチルスルホキシドに溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、水又はエタノール (99.5) に溶けにくく、アセトニトリルに極めて溶けにくい。
融点：明確な融点は示さない。
分配係数：1.02 [1-オクタノール/水]

【承認条件】

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【包装】*

スインプロイク錠 0.2mg : PTP14 錠 (14 錠 ×1),
PTP50 錠 (10 錠 ×5)

【主要文献】

〔文献請求番号〕

- 1) 社内資料 (生殖発生毒性試験) [201700044]
- 2) 社内資料 (商用製剤と治験用製剤との BA/FE 試験)
[201700053]
- 3) 社内資料 (健康成人を対象とした反復投与試験) [201700052]
- 4) 社内資料 (がん患者を対象とした日韓後期第Ⅱ相用量設定試験)
[201700054]
- 5) 社内資料 (非がん性慢性疼痛患者を対象とした海外後期第Ⅱ相
用量設定試験) [201700055]
- 6) 社内資料 (母集団薬物動態解析) [201700068]
- 7) 社内資料 (腎機能障害患者での薬物動態試験) [201700059]
- 8) 社内資料 (肝機能障害患者での薬物動態試験) [201700060]
- 9) 社内資料 (*In vitro* 蛋白結合) [201700031]
- 10) 社内資料 (血球移行性) [201700032]
- 11) 社内資料 (海外マスバランス試験) [201700061]
- 12) 社内資料 (*In vitro* 代謝試験) [201700034]
- 13) 社内資料 (*In vitro* 薬物相互作用試験) [201700035]
- 14) 社内資料 (シクロスポリンとの薬物相互作用試験)
[201700063]
- 15) 社内資料 (リファンピシンとの薬物相互作用試験)
[201700065]
- 16) 社内資料 (イトラコナゾール又はフルコナゾールとの薬物相互
作用試験) [201700066]
- 17) 社内資料 (がん患者を対象とした国内第Ⅲ相検証試験)
[201700047]
- 18) 社内資料 (がん患者を対象とした国内第Ⅲ相継続投与試験)
[201700048]
- 19) 社内資料 (非がん性慢性疼痛患者を対象とした国内第Ⅲ相オー
ブンラベル試験の併合) [201700050]
- 20) 社内資料 (ナルデメジンの効力を裏付ける *In vitro* 試験)
[201700036]
- 21) 社内資料 (ラットにおける便秘改善作用) [201700037]
- 22) 社内資料 (ラットにおけるモルヒネ鎮痛に対する作用)
[201700038]
- 23) 社内資料 (その他の毒性試験) [201700045]

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

塩野義製薬株式会社 医薬情報センター
〒541-0045 大阪市中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号
電話 0120-956-734
FAX 06-6202-1541
<http://www.shionogi.co.jp/med/>

製造販売元

塩野義製薬株式会社

〒 541-0045 大阪市中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号

V₂-受容体拮抗剤

劇薬、処方箋医薬品

注意－医師等の処方箋により使用すること

サムスカ®錠7.5mg
サムスカ®錠15mg
サムスカ®錠30mg
※※サムスカ®顆粒1%

※※トルバプタン製剤

Samsca®

貯 法：室温保存

※※使用期限：外箱等に表示

※※

日本標準商品分類番号	
87 2139 (錠7.5mg、15mg、顆粒1%)	
87 249 (錠7.5mg、15mg、30mg、顆粒1%)	

※※

	錠7.5mg	錠15mg	錠30mg	顆粒1%
承認番号	22500AMX 00010	22200AMX 00956	22600AMX 00552	22900AMX 00508
薬価収載	2013年5月	2010年12月	2014年5月	2017年5月
販売開始	2013年6月	2010年12月	2014年5月	2017年6月
効能追加	2014年3月			
国際誕生	2009年5月			

AD93X2B24

【警 告】

I. 心不全及び肝硬変における体液貯留の場合	本剤投与により、急激な水利尿から脱水症状や高ナトリウム血症を来し、意識障害に至った症例が報告されており、また、急激な血清ナトリウム濃度の上昇による橋中心髄鞘崩壊症を来すおそれがあることから、入院下で投与を開始又は再開すること。また、特に投与開始日又は再開日には血清ナトリウム濃度を頻回に測定すること。（「2. 重要な基本的注意 I-(4)、II-(6)」の項及び「4. 副作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症」の項参照）
II. 常染色体優性多発性のう胞腎の場合	II-1. 本剤は、常染色体優性多発性のう胞腎について十分な知識をもつ医師のもとで、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。また、本剤投与開始に先立ち、本剤は疾病を完治させる薬剤ではないことや重篤な肝機能障害が発現するおそれがあること、適切な水分摂取及び定期的な血液検査等によるモニタリングの実施が必要であることを含め、本剤の有効性及び危険性を患者に十分に説明し、同意を得ること。 II-2. 特に投与開始時又は漸増期において、過剰な水利尿に伴う脱水症状、高ナトリウム血症などの副作用があらわれるおそれがあるので、少なくとも本剤の投与開始は入院下で行い、適切な水分補給の必要性について指導すること。また、本剤投与中は少なくとも月1回は血清ナトリウム濃度を測定すること。（「2. 重要な基本的注意 III-(5)」の項及び「4. 副作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症」の項参照） II-3. 本剤の投与により、重篤な肝機能障害が発現した症例が報告されていることから、血清トランスアミナーゼ値及び総ビリルビン値を含めた肝機能検査を必ず本剤投与開始前及び増量時に実施し、本剤投与中は少なくとも月1回は肝機能検査を実施すること。また、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。（「禁忌」II-5.」の項、

「2. 重要な基本的注意 III-(2)、III-(3)」の項、「4. 副作用 (1) 重大な副作用 4) 肝機能障害」の項及び「10. その他の注意 (1)」の項参照）

【禁 忌（次の患者には投与しないこと）】

I. 心不全及び肝硬変における体液貯留の場合	I-1. 本剤の成分又は類似化合物（モザパタン塩酸塩等）に対し過敏症の既往歴のある患者 I-2. 無尿の患者〔本剤の効果が期待できない。〕 I-3. 口渇を感じない又は水分摂取が困難な患者〔循環血漿量の減少により高ナトリウム血症及び脱水のおそれがある。〕 I-4. 高ナトリウム血症の患者〔本剤の水利尿作用により高ナトリウム血症が増悪するおそれがある。〕 I-5. 適切な水分補給が困難な肝性脳症の患者〔適切な水分補給が困難なため、循環血漿量の減少により高ナトリウム血症及び脱水のおそれがある。〕 I-6. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
II. 常染色体優性多発性のう胞腎の場合	II-1. 本剤の成分又は類似化合物（モザパタン塩酸塩等）に対し過敏症の既往歴のある患者 II-2. 口渇を感じない又は水分摂取が困難な患者〔循環血漿量の減少により高ナトリウム血症及び脱水のおそれがある。〕 II-3. 高ナトリウム血症の患者〔本剤の水利尿作用により高ナトリウム血症が増悪するおそれがある。〕 II-4. 重篤な腎機能障害（eGFR 15mL/min/1.73m²未満）のある患者〔本剤の効果が期待できない。〕 II-5. 慢性肝炎、薬剤性肝機能障害等の肝機能障害（常染色体優性多発性のう胞腎に合併する肝のう胞を除く）又はその既往歴のある患者〔肝障害を増悪させるおそれがある。〕 II-6. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）

※※〔組成・性状〕

1. 組成

販売名	有効成分	添加物
サムス力錠7.5mg	1錠中 トルバプタン7.5mg	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、青色2号アルミニウムレーキ、ステアリン酸マグネシウム
サムス力錠15mg	1錠中 トルバプタン15mg	
サムス力錠30mg	1錠中 トルバプタン30mg	
サムス力顆粒1%	1g中 トルバプタン10mg	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸、青色2号アルミニウムレーキ

2. 製剤の性状

販売名	性状	外形	径(mm)	厚さ(mm)	重さ(mg)
サムス力錠7.5mg	青色の割線入りの変形長方形の素錠		7.7 (長径) 4.4 (短径)	2.6	約90
サムス力錠15mg	青色の割線入りの素錠		8 (直径)	3.1	約180
サムス力錠30mg	青色の割線入りの四角形の素錠		7.4 (一辺)	3.1	約174
サムス力顆粒1%	うすい青色の顆粒剤				

※※〔効能・効果〕

サムス力錠7.5mg

- ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留
- ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留
- 腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制

サムス力錠15mg

- ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留
- 腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制

サムス力錠30mg

- 腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制

サムス力顆粒1%

- ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留
- ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留
- 腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制

＜参考＞

効能・効果	錠7.5mg	錠15mg	錠30mg	顆粒1%
心不全における体液貯留	○	○	—	○
肝硬変における体液貯留	○	—	—	○
常染色体優性多発性のう胞腎	○	○	○	○

○：効能あり、—：効能なし

《効能・効果に関連する使用上の注意》

I. 心不全及び肝硬変における体液貯留の場合	本剤は他の利尿薬（ループ利尿薬、サイアザイド系利尿薬、抗アルドステロン薬等）と併用して使用すること。なお、ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドとの併用経験はない。（〔2. 重要な基本的注意 I-（1）、II-（3）〕の項参照）

II. 常染色体優性多発性のう胞腎の場合

- II-1. 以下のいずれにも該当する場合に適用すること。
- II-①両側総腎容積が750mL以上であること。
- II-②腎容積増大速度が概ね5%/年以上であること。〔臨床試験には、両側腎容積750mL以上で、腎容積の増加が速いと推定される患者を組み入れた。〕（〔臨床成績〕の項参照）
- II-2. 投与開始時のクレアチニークリアランスが60mL/min未満の患者における有効性及び安全性は確立していない。〔臨床試験には、投与開始時のクレアチニークリアランスが60mL/min以上の患者を組み入れた。〕（〔臨床成績〕の項参照）

〔用法・用量〕

●心不全における体液貯留の場合

通常、成人にはトルバプタンとして15mgを1日1回経口投与する。

●肝硬変における体液貯留の場合

通常、成人にはトルバプタンとして7.5mgを1日1回経口投与する。

●常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制の場合

通常、成人にはトルバプタンとして1日60mgを2回（朝45mg、夕方15mg）に分けて経口投与を開始する。1日60mgの用量で1週間以上投与し、忍容性がある場合には、1日90mg（朝60mg、夕方30mg）、1日120mg（朝90mg、夕方30mg）と1週間以上の間隔を空けて段階的に増量する。なお、忍容性に応じて適宜増減するが、最高用量は1日120mgまでとする。

＜参考＞

用法・用量	投与方法	投与量
心不全における体液貯留	1日1回	15mg
肝硬変における体液貯留	1日1回	7.5mg
常染色体優性多発性のう胞腎	1日2回	開始用量 1日60mg（朝45mg、夕方15mg） ↓ 1日90mg（朝60mg、夕方30mg） （漸増） 1日120mg（朝90mg、夕方30mg）

《用法・用量に関連する使用上の注意》

I. 心不全における体液貯留の場合	I-（1）体液貯留所見が消失した際には投与を中止すること。〔症状消失後の維持に関する有効性は確認されていない。〕 I-（2）目標体重（体液貯留状態が良好にコントロールされているときの体重）に戻った場合は、漫然と投与を継続しないこと。〔国内臨床試験において2週間を超える使用経験はない。〕 I-（3）体液貯留状態が改善しない場合は、漫然と投与を継続しないこと。（〔臨床成績〕の項参照） I-（4）血清ナトリウム濃度が125mEq/L未満の患者、急激な循環血漿量の減少が好ましくないと判断される患者に投与する場合は、半量（7.5mg）から開始することが望ましい。（〔1. 慎重投与 I-（1）、I-（2）〕の項参照） I-（5）口渇感が持続する場合には、減量を考慮すること。（〔2. 重要な基本的注意 I-（3）〕の項参照） I-（6）CYP3A4阻害剤（イトラコナゾール、クラリスロマイシン等）との併用は避けることが望ましい。やむを得ず併用する場合は、本剤の減量あるいは低用量からの開始などを考慮すること。〔本剤

	の血漿中濃度が上昇するおそれがある。】〔3. 相互作用〕の項及び〔薬物動態〕の項参照) I-(7) 夜間の排尿を避けるため、午前中に投与することが望ましい。												
II. 肝硬変における体液貯留の場合	II-(1) 体液貯留所見が消失した際には投与を中止すること。〔症状消失後の維持に関する有効性は確認されていない。〕 II-(2) 本剤の投与により、重篤な肝機能障害があらわれることがあること、国内臨床試験において2週間を超える使用経験はないことから、体重、腹囲、下肢浮腫などの患者の状態を観察し、体液貯留が改善した場合は、漫然と投与を継続せず、必要最小限の期間の使用にとどめること。 II-(3) 体液貯留状態が改善しない場合は、漫然と投与を継続しないこと。〔臨床成績〕の項参照) II-(4) 血清ナトリウム濃度が125mEq/L未満の患者、急激な循環血漿量の減少が好ましくないと判断される患者に投与する場合は、半量(3.75mg)から開始することが望ましい。〔1. 慎重投与 I-(1)、I-(2)〕の項参照) II-(5) 口渇感が持続する場合には、減量を考慮すること。〔2. 重要な基本的注意 II-(5)〕の項参照) II-(6) CYP3A4阻害剤(イトラコナゾール、クラリスロマイシン等)との併用は避けることが望ましい。やむを得ず併用する場合は、本剤の減量あるいは低用量からの開始などを考慮すること。〔本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。〕〔3. 相互作用〕の項及び〔薬物動態〕の項参照) II-(7) 夜間の排尿を避けるため、午前中に投与することが望ましい。												
III. 常染色体優性多発性のう胞腎の場合	III-(1) 夜間頻尿を避けるため、夕方の投与は就寝前4時間以上空けることが望ましい。 III-(2) 口渇感が持続する場合には、減量を考慮すること。〔2. 重要な基本的注意 III-(1)〕の項参照) III-(3) CYP3A4阻害剤との併用は避けることが望ましい。やむを得ず併用する場合は、下表を参照し、本剤の用量調節を行うこと。〔本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。〕〔3. 相互作用〕の項及び〔薬物動態〕の項参照) <table><tr><th>通常の用法・用量</th><th>弱い又は中等度のCYP3A4阻害剤との併用時の用法・用量 (通常用量の1/2量)</th><th>強力なCYP3A4阻害剤との併用時の用法・用量 (通常用量の1/4量)</th></tr><tr><td>1日60mg (朝45mg、夕方15mg)</td><td>1日30mg (朝22.5mg、夕方7.5mg)</td><td>1日15mg (朝11.25mg、夕方3.75mg)</td></tr><tr><td>1日90mg (朝60mg、夕方30mg)</td><td>1日45mg (朝30mg、夕方15mg)</td><td>1日22.5mg (朝15mg、夕方7.5mg)</td></tr><tr><td>1日120mg (朝90mg、夕方30mg)</td><td>1日60mg (朝45mg、夕方15mg)</td><td>1日30mg (朝22.5mg、夕方7.5mg)</td></tr></table> III-(4) 重度の腎機能障害のある患者では減量すること。〔クレアチニンクリアランス30mL/min未満の患者で本剤の血漿中濃度が増加する。〕〔薬物動態〕の項参照)	通常の用法・用量	弱い又は中等度のCYP3A4阻害剤との併用時の用法・用量 (通常用量の1/2量)	強力なCYP3A4阻害剤との併用時の用法・用量 (通常用量の1/4量)	1日60mg (朝45mg、夕方15mg)	1日30mg (朝22.5mg、夕方7.5mg)	1日15mg (朝11.25mg、夕方3.75mg)	1日90mg (朝60mg、夕方30mg)	1日45mg (朝30mg、夕方15mg)	1日22.5mg (朝15mg、夕方7.5mg)	1日120mg (朝90mg、夕方30mg)	1日60mg (朝45mg、夕方15mg)	1日30mg (朝22.5mg、夕方7.5mg)
通常の用法・用量	弱い又は中等度のCYP3A4阻害剤との併用時の用法・用量 (通常用量の1/2量)	強力なCYP3A4阻害剤との併用時の用法・用量 (通常用量の1/4量)											
1日60mg (朝45mg、夕方15mg)	1日30mg (朝22.5mg、夕方7.5mg)	1日15mg (朝11.25mg、夕方3.75mg)											
1日90mg (朝60mg、夕方30mg)	1日45mg (朝30mg、夕方15mg)	1日22.5mg (朝15mg、夕方7.5mg)											
1日120mg (朝90mg、夕方30mg)	1日60mg (朝45mg、夕方15mg)	1日30mg (朝22.5mg、夕方7.5mg)											

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

I. 心不全及び肝硬変における体液貯留の場合	I-(1) 血清ナトリウム濃度125mEq/L未満の患者[急激な血清ナトリウム濃度の上昇により、橋中心髄鞘崩壊症を来すおそれがある。]（「2. 重要な基本的注意 I-(5)、II-(7)」の項参照） I-(2) 重篤な冠動脈疾患又は脳血管疾患のある患者及び高齢者[急激な利尿があらわれた場合、急速な循環血漿量減少、血液濃縮を来し、血栓塞栓症を誘発するおそれがある。]（「4. 副作用 (1) 重大な副作用 2) 血栓塞栓症」の項及び「5. 高齢者への投与」の項参照） I-(3) 高カリウム血症の患者[本剤の利尿作用により高カリウム血症が増悪するおそれがある。]（「2. 重要な基本的注意 I-(6)、II-(8)」の項参照） I-(4) 重篤な腎障害のある患者[利尿に伴う腎血流量の減少により腎機能が更に悪化するおそれがある。]（「4. 副作用 (1) 重大な副作用 1) 腎不全」の項参照） I-(5) 肝性脳症を有するかその既往のある患者[意識レベルが低下した場合、適切な水分補給に支障を来すおそれがある。]
II. 常染色体優性多発性のう胞腎の場合	II-(1) 重篤な冠動脈疾患又は脳血管疾患のある患者及び高齢者[急激な利尿があらわれた場合、急速な循環血漿量減少、血液濃縮を来し、血栓塞栓症を誘発するおそれがある。]（「4. 副作用 (1) 重大な副作用 2) 血栓塞栓症」の項及び「5. 高齢者への投与」の項参照） II-(2) 高カリウム血症の患者[本剤の利尿作用により高カリウム血症が増悪するおそれがある。]（「2. 重要な基本的注意 III-(7)」の項参照） II-(3) 腎機能が低下している患者[利尿に伴う腎血流量の減少により腎機能が更に悪化するおそれがある。]（「4. 副作用 (1) 重大な副作用 1) 腎不全」の項参照）

2. 重要な基本的注意

I. 心不全における体液貯留の場合	I-(1) 本剤は水排泄を増加させるが、ナトリウム排泄を増加させないことから、他の利尿薬と併用して使用すること。 I-(2) 本剤の投与初期は、過剰な利尿に伴う脱水、高ナトリウム血症などの副作用があらわれるおそれがあるので、口渇感等の患者の状態を観察し、適切な水分補給を行い、体重、血圧、脈拍数、尿量等を頻回に測定すること。 I-(3) 本剤の利尿作用に伴い、口渇、脱水などの症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、水分補給を行うよう指導すること。（「4. 副作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症」の項参照） I-(4) 本剤投与開始後24時間以内に水利尿効果が強く発現するため、少なくとも投与開始4～6時間後並びに8～12時間後に血清ナトリウム濃度を測定すること。投与開始翌日から1週間程度は毎日測定し、その後も投与を継続する場合には、適宜測定すること。（「4. 副

	作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症」の項参照) I-(5) 血清ナトリウム濃度125mEq/L未満の患者に投与した場合、急激な血清ナトリウム濃度の上昇により、橋中心髄鞘崩壊症を来すおそれがあるため、24時間以内に12mEq/Lを超える上昇がみられた場合には、投与を中止すること。 〔1. 慎重投与 I-(1)〕の項参照) I-(6) 本剤の水利尿作用により循環血漿量の減少を来し、血清カリウム濃度を上昇させ、心室細動、心室頻拍を誘発するおそれがあるので、本剤投与中は血清カリウム濃度を測定すること。〔1. 慎重投与 I-(3)〕の項参照) I-(7) 本剤の投与初期から重篤な肝機能障害があらわれることがあるため、本剤投与開始前に肝機能検査を実施し、少なくとも投与開始2週間は頻回に肝機能検査を行うこと。またやむを得ず、その後も投与を継続する場合には、適宜検査を行うこと。〔4. 副作用 (1) 重大な副作用 4) 肝機能障害〕の項及び〔10. その他の注意 (1)〕の項参照) I-(8) めまい等があらわれることがあるので、転倒に注意すること。また、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。	し、その後も投与を継続する場合には、適宜測定すること。〔4. 副作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症〕の項参照) II-(7) 血清ナトリウム濃度125mEq/L未満の患者に投与した場合、急激な血清ナトリウム濃度の上昇により、橋中心髄鞘崩壊症を来すおそれがあるため、24時間以内に12mEq/Lを超える上昇がみられた場合には、投与を中止すること。 〔1. 慎重投与 I-(1)〕の項参照) II-(8) 本剤の水利尿作用により循環血漿量の減少を来し、血清カリウム濃度を上昇させ、心室細動、心室頻拍を誘発するおそれがあるので、本剤投与中は血清カリウム濃度を測定すること。〔1. 慎重投与 I-(3)〕の項参照) II-(9) 肝硬変患者では、本剤の投与により消化管出血のリスクが高まるおそれがあるため、患者の状態を十分に観察し、消化管出血の兆候があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 II-(10) めまい等があらわれることがあるので、転倒に注意すること。また、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。
II. 肝硬変における体液貯留の場合	II-(1) 本剤の投与により重篤な肝機能障害があらわれることがある。肝硬変患者では、肝機能をより悪化させるおそれがあること、及び原疾患の悪化と本剤による肝機能障害の発現との区別が困難であることに留意して、本剤の投与にあたっては、リスクとベネフィットを考慮し、本剤投与の適否について慎重に判断すること。 II-(2) 本剤の投与初期から重篤な肝機能障害があらわれることがあるため、本剤投与開始前に肝機能検査を実施し、少なくとも投与開始2週間は頻回に肝機能検査を行うこと。またやむを得ず、その後も投与を継続する場合には、適宜検査を行うこと。〔4. 副作用 (1) 重大な副作用 4) 肝機能障害〕の項及び〔10. その他の注意 (1)〕の項参照) II-(3) 本剤は水排泄を増加させるが、ナトリウム排泄を増加させないことから、他の利尿薬と併用して使用すること。 II-(4) 本剤の投与初期は、過剰な利尿に伴う脱水、高ナトリウム血症などの副作用があらわれるおそれがあるので、口渇感等の患者の状態を観察し、適切な水分補給を行い、体重、血圧、脈拍数、尿量等を頻回に測定すること。 II-(5) 本剤の利尿作用に伴い、口渇、脱水などの症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、水分補給を行うよう指導すること。〔4. 副作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症〕の項参照) II-(6) 本剤投与開始後24時間以内に水利尿効果が強く発現するため、少なくとも投与開始4～8時間後に血清ナトリウム濃度を測定すること。さらに投与開始2日後並びに3～5日後に1回測定	III. 常染色体優性多発性のう胞腎の場合 III-(1) 本剤の使用にあたっては、適切な水分補給が必要なため、次の点に注意すること。 III-① 飲水能力の低下や飲水機会の制限により、十分に水分補給ができない場合は、本剤を減量あるいは休薬すること。 III-② 用量を増量又は減量する時は、急激な体重変化に注意すること。 III-③ 増量直後には特に口渇、脱水などの症状に注意すること。 III-(2) 本剤の増量により副作用の発現頻度が高くなる傾向が認められていること、1日120mg投与時に重篤な肝機能障害の発現が認められていることから、高用量投与時には、特に肝機能障害をはじめとする副作用の発現に十分注意すること。 III-(3) 本剤の投与により、重篤な肝機能障害があらわれることがあるので、投与にあたっては患者に当該副作用について十分説明するとともに、症状がみられた場合には速やかに診察を受けるよう指導すること。〔4. 副作用 (1) 重大な副作用 4) 肝機能障害〕の項及び〔10. その他の注意 (1)〕の項参照) III-(4) 投与開始前に脱水症状が認められた場合は、脱水症状が増悪するおそれがあるので、症状が改善してから投与を開始すること。 III-(5) 高ナトリウム血症があらわれることがあるので、投与開始後の用量漸増期においては、来院毎に血清ナトリウム濃度を測定し、その後も本剤投与中は少なくとも月1回は測定すること。異常が認められた場合は、減量又は中止すること。〔4. 副作用 (1) 重大な副作用 3) 高ナトリウム血症〕の項参照) III-(6) 投与開始前に血清ナトリウム濃度を測定し、低ナトリウム血症が認められ

	た場合は、急激な血清ナトリウム濃度の上昇により、橋中心髄鞘崩壊症を来すおそれがあるので、低ナトリウム血症の原因を明らかにするとともに、血清ナトリウム濃度を補正し、慎重に本剤投与の適否を判断した上で、投与が適切と判断された場合に限り投与を開始すること。
Ⅲ-(7)	本剤の水利尿作用により循環血漿量の減少を来し、血清カリウム濃度を上昇させ、心室細動、心室頻拍を誘発するおそれがあるので、本剤投与中は血清カリウム濃度を測定すること。〔1. 慎重投与Ⅱ-(2)〕の項参照)
Ⅲ-(8)	本剤の投与により腎臓における尿酸クリアランスが減少するため、血中尿酸が上昇することがあるので、本剤投与中は血中尿酸値に注意すること。
Ⅲ-(9)	失神、意識消失、めまい等があらわれることがあるので、転倒に注意すること。また、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。
Ⅲ-(10)	本剤の投与により緑内障があらわれることがあるので、定期的に検査を行うことが望ましい。

3. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素CYP3A4によって代謝される。また、P糖蛋白の基質であるとともに、P糖蛋白への阻害作用を有する。〔薬物動態〕の項参照)

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
CYP3A4阻害作用を有する薬剤 ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）、イトラコナゾール、クラリスロマイシン等 グレープフルーツジュース	代謝酵素の阻害により、本剤の作用が増強するおそれがあるので、これらの薬剤との併用は避けることが望ましい。やむを得ず併用する場合は、本剤の減量あるいは低用量から開始すること。〔用法・用量に関連する使用上の注意〕の項参照)	本剤の代謝酵素であるCYP3A4を阻害し、本剤の血漿中濃度を上昇させる。〔薬物動態〕の項参照)
CYP3A4誘導作用を有する薬剤 リファンピシン 等 セイヨウオトギリソウ (St. John's Wort、セントジョーンズワート) 含有食品	代謝酵素の誘導により、本剤の作用が減弱するおそれがあるので、本剤投与時はこれらの薬剤及び食品を摂取しないことが望ましい。	本剤の代謝酵素であるCYP3A4を誘導し、本剤の血漿中濃度を低下させる。〔薬物動態〕の項参照)
ジゴキシン	本剤によりジゴキシンの作用が増強されるおそれがある。	本剤はP糖蛋白を阻害し、ジゴキシンの血漿中濃度を上昇させる。〔薬物動態〕の項参照)
P糖蛋白阻害作用を有する薬剤 シクロスポリン 等	本剤の作用が増強するおそれがある。	これらの薬剤がP糖蛋白を阻害することにより、本剤の排出が抑制されるため血漿中濃度が上昇するおそれがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カリウム製剤 カリウム保持性利尿薬 スピロラクトン、トリウムテレン 等 抗アルドステロン薬 エプレレノン 等 アンジオテンシン変換酵素阻害薬 エナラプリルマレイン酸塩 等 アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬 ロサルタンカリウム 等 レニン阻害薬 アリスキレンフマル酸塩 等	これらの薬剤と併用する場合、血清カリウム濃度が上昇するおそれがある。	本剤の水利尿作用により循環血漿量の減少を来し、相対的に血清カリウム濃度が上昇するおそれがある。
バソプレシン誘導体 デスモプレシン酢酸塩水和物 等	本剤によりバソプレシン誘導体の止血作用が減弱するおそれがある。	本剤のバソプレシンV ₂ -受容体拮抗作用により、血管内皮細胞からの von Willebrand 因子の放出が抑制されるおそれがある。

4. 副作用

心不全における体液貯留の場合

国内臨床試験において、安全性解析対象症例213例中143例(67.1%)に臨床検査値の異常を含む副作用が認められている。主な副作用は、口渇65件(30.5%)、BUN上昇28件(13.1%)、血中尿酸上昇20件(9.4%)等であった。(承認時)

肝硬変における体液貯留の場合

国内臨床試験において、安全性解析対象症例266例中162例(60.9%)に臨床検査値の異常を含む副作用が認められている。主な副作用は、口渇83件(31.2%)、頻尿45件(16.9%)等であった。(効能追加時)

常染色体優性多発性のう胞腎の場合

国際共同試験において、安全性解析対象症例961例中(日本人118例を含む)851例(日本人117例を含む)(88.6%)に臨床検査値の異常を含む副作用が認められている。主な副作用は、口渇677件(70.4%)、頻尿503件(52.3%)、多尿366件(38.1%)、頭痛135件(14.0%)、多飲症100件(10.4%)等であった。(効能追加時)

(1) 重大な副作用

- 1)腎不全(1%未満)：腎不全等の重度の腎障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2)血栓塞栓症(1%未満)：急激な利尿により血液濃縮を来した場合、血栓症及び血栓塞栓症を誘発するおそれがあるため、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3)高ナトリウム血症(1～5%未満)：本剤の水利尿作用により血液濃縮を来し、高ナトリウム血症があらわれることがあり、意識障害を伴うこともある。投与中は、飲水量、尿量、血清ナトリウム濃度及び口渇、脱水等の症状の観察を十分に行うこと。口渇感の持続、脱水等の症状がみられた場合には、本剤の投与を減量又は中止し、症状に応じて、輸液を含めた水分補給等の適切な処置を行うこと。また、正常域を超える血清ナトリウム濃度の上昇がみられた場合には、直ちに本剤の投与を中止し、症状に応じて、輸液を含めた水分補給等の適切な処置を行うこと。〔2. 重要な基本的注意Ⅰ-(3)、Ⅰ-(4)、Ⅱ-(5)、Ⅱ-(6)、Ⅲ-(5)〕の項参照)
- 4)肝機能障害(5%以上)：AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、Al-P、ビリルビン等の上昇を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切

な処置を行うこと。また、肝機能障害が回復するまでは頻回に血液検査を実施するなど観察を十分に行うこと。〔2. 重要な基本的注意 I-(7)、II-(2)、III-(3)〕の項参照)

5) **ショック、アナフィラキシー**(頻度不明*)：ショック、アナフィラキシー(全身発赤、血圧低下、呼吸困難等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

6) **過度の血圧低下**(頻度不明*)、**心室細動**(頻度不明*)、**心室頻拍**(1%未満)：過度の血圧低下、心室細動、心室頻拍があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

7) **肝性脳症**(1%未満)：肝硬変患者の場合、意識障害を伴う肝性脳症があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。なお、肝性脳症は、主に肝性浮腫患者において報告されているので、これらの患者に投与する場合は、意識障害等の臨床症状を十分に観察すること。

8) **汎血球減少、血小板減少**(頻度不明*)：汎血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類/頻度	5%以上	1～5%未満	1%未満	頻度不明**
精神神経系	頭痛、めまい	不眠症	失神、意識消失、睡眠障害、嗜眠、傾眠、ナルコレプシー、注意力障害、感覚鈍麻、不随意性筋収縮、錯感覚、不安、うつ病、リビドー減退、神経過敏、パニック発作	
消化器	口渇、便秘	食欲不振、悪心、嘔吐、下痢、味覚異常、消化不良、腹痛、腹部膨満	胃食道逆流性疾患、食道炎、裂孔ヘルニア、腹部不快感、心窩部不快感、口唇乾燥、鼓腸、胃腸炎、胃炎、胃腸障害、憩室炎、結腸ポリープ、嚥下障害、消化管運動障害、舌痛、舌苔、舌変色、口唇炎、口内炎、口の感覚鈍麻、膈ヘルニア、食欲亢進、呼気臭、痔核	過敏性腸症候群
循環器		血圧上昇、血圧低下、動悸	頻脈、期外収縮、不整脈、起立性低血圧、不安定血圧	
血液			貧血、ヘモグロビン低下、平均赤血球容積増加、血小板減少、白血球増多、好酸球増多	
代謝	血中尿酸上昇	脱水、高カリウム血症、糖尿病、高血糖、脂質異常症、痛風	血液浸透圧上昇、血液量減少症、低カリウム血症、高カルシウム血症、低ナトリウム血症、低血糖、低リン酸血症、CK(CPK)上昇	血中抗利尿ホルモン増加
腎臓・泌尿器	頻尿、多尿、血中クレアチニン上昇	腎臓痛、BUN上昇、腎機能障害、血尿	尿浸透圧低下、尿失禁、尿意切迫、排尿困難、尿閉、乏尿、尿路感染、膀胱痛、腎結石、シスタチンC上昇	
過敏症		発疹、掻痒	蕁麻疹	
皮膚		皮膚乾燥	脱毛、ざ瘡、皮膚炎、色素沈着障害、爪の障害、多汗、乏汗、寝汗	

種類/頻度	5%以上	1～5%未満	1%未満	頻度不明**
呼吸器		咳嗽、呼吸困難	鼻咽頭炎、上気道感染、扁桃炎、副鼻腔炎、喘息、気管支炎、口腔咽頭痛、咽喉乾燥、鼻乾燥、鼻出血、発声障害	
眼			眼乾燥、緑内障、霧視、結膜出血	
その他	疲労、多飲症	体重変動(増加、減少)、無力症、倦怠感、浮腫、筋骨格痛、筋痙縮、胸痛	背部痛、関節痛、四肢痛、疼痛、側腹部痛、冷感、発熱、ほてり、熱感、粘膜乾燥、ウイルス感染、カンジダ症、真菌感染、筋硬直、関節腫脹、勃起不全、月経過多、不規則月経、乳房嚢胞、易刺激性、LDH上昇、耳鳴	不正子宮出血

*：自発報告又は海外で認められた副作用のため頻度不明。

**：常染色体優性多発性のう胞腎の国内臨床試験のみで認められた副作用を頻度不明とした。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しており、また、脱水症状を起こしやすいとされているため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。また、妊娠する可能性のある婦人には、適切な避妊を行うよう指導すること。〔動物実験(ウサギ)で催奇形性及び胚・胎児死亡が報告されている¹⁾。また、動物実験(ウサギ¹⁾、ラット²⁾)で胚あるいは胎児移行が報告されている。〕

(2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。〔動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている²⁾。〕

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない。)

8. 過量投与

徴候、症状：多尿、血清ナトリウム濃度の上昇、脱水又は口渇が予想される。

処置：呼吸、心電図及び血圧をモニタリングし、必要に応じて水分を補給する。水分の経口摂取で対応できない場合は、電解質及び体液平衡を注意深くモニターしながら、低張液を静脈内投与する。なお、血液透析は有効ではないと考えられる。

9. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕

10. その他の注意

(1) 常染色体優性多発性のう胞腎患者を対象とした第Ⅲ相二重盲検比較試験(国際共同試験)³⁾において、本剤60～120mg/日又はプラセボを3年間投与した結果、基準値上限の2倍を超える総ビリルビン上昇、かつ基準値上限の3倍を超える血清ALT(GPT)上昇又は血清AST(GOT)上昇が、本剤投与群の2例に認められた。また、基準値上限の2.5倍を超えるALT(GPT)上昇の発現頻度が、プラセボ群と比較して本剤投与群で高かった(本剤投与群960例中47例(4.9%)、プラセボ群483例中6例(1.2%))。なお、本剤投与群における基準値上限の3倍を超えるALT(GPT)上昇の多くは、投与開始3～14ヵ月の間に認められた。

(2) 常染色体優性多発性のう胞腎患者を対象とした第Ⅲ相二重盲検比較試験(国際共同試験)³⁾において、本剤投与群はプラセボ群と比較して皮膚の新生物の発現率が

高かった〔基底細胞癌(本剤投与群0.8%(8/961例)、プラセボ群0.2%(1/483例))、悪性黒色腫(本剤投与群0.2%(2/961例)、プラセボ群0%(0/483例)〕。本剤との関連性は全ての症例で否定され、日本人での発現はなかった。

※※〔薬物動態〕

1. 血漿中濃度

(1) 健康成人における薬物動態

1) 単回投与

健康成人にトルバプタン15～120mgを空腹時単回経口投与した時の血漿中濃度推移及び薬物動態パラメータを図1及び表1に示す⁴⁾。

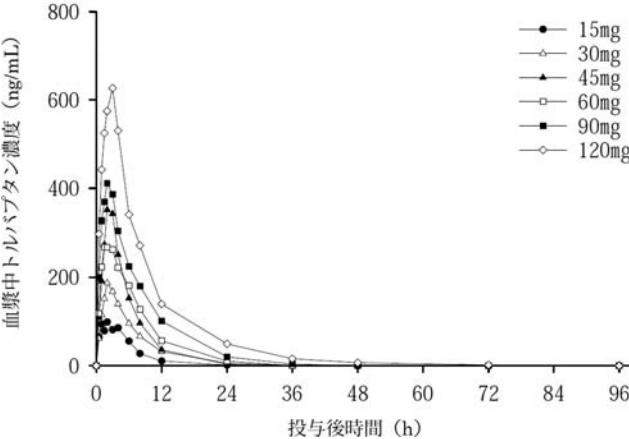


図1 健康成人におけるトルバプタン投与時の血漿中濃度推移(平均値)
6例、30mg群のみ12例

表1 トルバプタン単回投与時の薬物動態パラメータ

投与量	t _{max} (h)	C _{max} (ng/mL)	AUC _t (ng・h/mL)	t _{1/2} (h)
15mg	2.0(1.0～4.0)	135±53	645±367	3.3±1.2
30mg	2.0(1.5～6.0)	213±76	1,302±553	3.9±1.7
45mg	2.5(1.0～3.0)	363±318	2,098±1,950	2.9±0.8
60mg	3.0(1.5～4.0)	315±105	2,321±634	4.6±0.8
90mg	2.0(1.0～3.0)	429±146	3,600±922	5.8±1.4
120mg	2.0(2.0～3.0)	661±276	5,908±2,091	9.3±3.2

(平均値±標準偏差、t_{max}のみ中央値(範囲)、6例、30mg群のみ12例)

2) 反復投与

健康成人にトルバプタン30～120mgを空腹時1日1回7日間反復経口投与した時のトルバプタンの血漿中濃度に累積はみられなかった⁴⁾。

注) 本剤の承認された1日用量と異なる〔用法・用量〕の項参照)。

(2) 患者における薬物動態

1) 心性浮腫患者

心性浮腫患者にトルバプタン15mgを1日1回7日間反復経口投与した時のトルバプタンの薬物動態パラメータを表2に示す⁵⁾。

表2 心性浮腫患者にトルバプタン15mgを7日間反復投与時の薬物動態パラメータ

	t _{max} (h)	C _{max} (ng/mL)	AUC _{24h} (ng・h/mL)	t _{1/2} (h)
投与1日目	4.0(1.8～5.9)	258±95	2,057±795	6.6±2.1
投与7日目	3.9(2.0～6.0)	256±102	2,173±1,188	6.8±2.2

(平均値±標準偏差、t_{max}のみ中央値(範囲)、10例)

2) 肝性浮腫患者

肝性浮腫患者にトルバプタン7.5mgを1日1回7日間反復経口投与した時のトルバプタンの薬物動態パラメータを表3に示す⁶⁾。

表3 肝性浮腫患者にトルバプタン7.5mgを7日間反復投与時の薬物動態パラメータ

	t _{max} (h)	C _{max} (ng/mL)	AUC _{24h} (ng・h/mL)	t _{1/2} (h)
投与1日目	4.2(3.8～11.8)	100±54	1,061±732	9.1±5.4
投与7日目	4.0(1.7～7.9)	112±60	1,370±1,165	8.5±4.1

(平均値±標準偏差、t_{max}のみ中央値(範囲)、20例)

3) 常染色体優性多発性のう胞腎患者(外国人による成績)

常染色体優性多発性のう胞腎患者に1日120mgを2回(90mg、30mg)に分けて7日間反復経口投与した時のトルバプタンの薬物動態パラメータを表4に示す⁷⁾。

表4 常染色体優性多発性のう胞腎患者にトルバプタン1日120mgを7日間反復投与時の薬物動態パラメータ

	t _{max} (h)	C _{max} (ng/mL)	AUC _{24h} (ng・h/mL)
投与7日目	2.0(1.0～9.0)	716±344	6,570±3,230

(平均値±標準偏差、t_{max}のみ中央値(範囲)、12例)

(3) 食事の影響

健康成人にトルバプタン15mgを単回経口投与した時、空腹時投与に比べ食後投与ではC_{max}及びAUCはそれぞれ1.3倍及び1.1倍であった⁴⁾。

健康成人(外国人による成績)にトルバプタン60mg⁸⁾又は90mg⁹⁾を単回経口投与した時、空腹時投与に比べ食後投与ではC_{max}はそれぞれ1.4倍及び2.0倍、AUCはそれぞれ1.1倍及び1.0倍であった。

(4) 絶対的バイオアベイラビリティ(外国人による成績)

健康成人における経口投与時の絶対的バイオアベイラビリティは56%であった¹⁰⁾。

2. 蛋白結合率

ヒト血漿蛋白結合率は、98.0%以上であった(*in vitro*、限外ろ過)²⁾。

3. 代謝酵素

トルバプタンは、ヒト肝ミクロゾームチトクロームP450の分子種のうち、主としてCYP3A4により代謝される(*in vitro*)¹¹⁾。

4. 排泄(外国人による成績)

健康成人に、¹⁴C-トルバプタン60mgを空腹時に単回経口投与した時、糞中及び尿中にそれぞれ投与した放射能の58.7%及び40.2%が排泄された。未変化体の糞中及び尿中の回収率は、それぞれ投与量の18.7%及び1%未満であった¹²⁾。

5. 相互作用(外国人による成績)

- 健康成人において、強力なCYP3A4の阻害作用を有するケトコナゾール200mgとトルバプタン30mgの併用により、トルバプタンのC_{max}及びAUCはそれぞれ3.5倍及び5.4倍になった¹³⁾。
- 健康成人において、トルバプタン60mgをCYP3A4の阻害作用を有するグレープフルーツジュースにより服用した時、トルバプタンのC_{max}及びAUCはそれぞれ1.9倍及び1.6倍になった¹⁴⁾。
- 健康成人において、CYP3A4の誘導作用を有するリファンピシン600mgとトルバプタン240mgの併用により、トルバプタンのC_{max}及びAUCはそれぞれ1/6及び1/8になった¹³⁾。
- 健康成人において、CYP3A4の基質であるロバスタチン80mgとトルバプタン90mgの併用により、ロバスタチンのC_{max}及びAUCは1.3倍及び1.4倍になった¹⁵⁾。ロバスタチン80mgとトルバプタン60mgの併用によりトルバプタンのC_{max}とAUCはいずれも1.2倍になった¹⁶⁾。
- 不整脈患者において、CYP3A4の基質であるアミオダロン200mgとトルバプタン90mgの併用によるアミオダロンの薬物動態の変化は5%未満であった¹⁷⁾。
- 健康成人において、CYP2C9の基質であるワルファリン25mgとトルバプタン60mgの併用により、R-ワルファリンとS-ワルファリンの薬物動態は影響を受けなかった¹⁸⁾。
- 健康成人において、P糖蛋白の基質であるジゴキシン0.25mgとトルバプタン60mgの併用により、ジゴキシンのC_{max}及びAUCは、それぞれ1.3倍及び1.2倍になった。トルバプタンのC_{max}とAUCは、いずれも1.1倍になった¹⁹⁾。
- 健康成人において、トルバプタン30mgとフロセミド80mgとの併用により、トルバプタンのC_{max}及びAUCはいずれも1.2倍になった。ヒドロクロロチアジド100mgとの併用により、トルバプタンのC_{max}及びAUCは変化しなかった。トルバプタンはフロセミド及びヒドロクロロチアジドの薬物動態に影響を与えなかった²⁰⁾。

6. その他

腎障害(外国人による成績)：腎機能の程度の異なる被験者(C_{cr}<30mL/min、C_{cr}=30～60mL/min及びC_{cr}>60mL/min)にトルバプタン60mgを投与した時のAUCは、それぞれ7,360ng・h/mL、6,980ng・h/mL及び3,890ng・h/mLであった。また、血漿中遊離型分率は、それぞれ1.2%、0.6%及び1.0%であった。血漿中遊離型分率を用いて算出した血漿中遊離型濃度のAUCは、C_{cr}<30mL/min、C_{cr}=30

～60mL/min及び $C_{cr} > 60\text{mL/min}$ でそれぞれ71.8ng・h/mL、36.4ng・h/mL及び37.5ng・h/mLであった²¹⁾。

肝障害：肝性浮腫患者にトルバプタン15mgを投与した時のAUCは、中等度肝障害患者(Child-Pugh分類AまたはB)で1,618ng・h/mL、重度肝障害患者(Child-Pugh分類C)で2,172ng・h/mLであった²²⁾。

高齢者(65歳以上)、性別：トルバプタンの薬物動態には年齢及び性別による影響は認められなかった²³⁾。

※※〔臨床成績〕

サムス力錠の成績を以下に示す。

1. 心性浮腫

第Ⅲ相二重盲検比較試験において、他の利尿薬を投与しても体液貯留が認められるうっ血性心不全患者を対象に、トルバプタン15mg又はプラセボを1日1回7日間経口投与し有効性を検討した。主要評価項目である最終投与時の体重変化量は、トルバプタン15mg群 $-1.54 \pm 1.61\text{kg}$ (ベースライン：59.42 $\pm$ 12.30kg、53例)(平均値 $\pm$ 標準偏差、以下同様)、プラセボ群 $-0.45 \pm 0.93\text{kg}$ (ベースライン：55.68 $\pm$ 12.60kg、57例)であり、トルバプタン群では、プラセボ群に比較して有意な体重減少が認められた($p < 0.0001$, t検定)。体重減少は投与翌日よりみられ投与期間を通じて継続した(図2)。また、最終投与時における心性浮腫に伴う所見(頸静脈怒張、肝腫大、下肢浮腫)が改善した(表5)²⁴⁾。

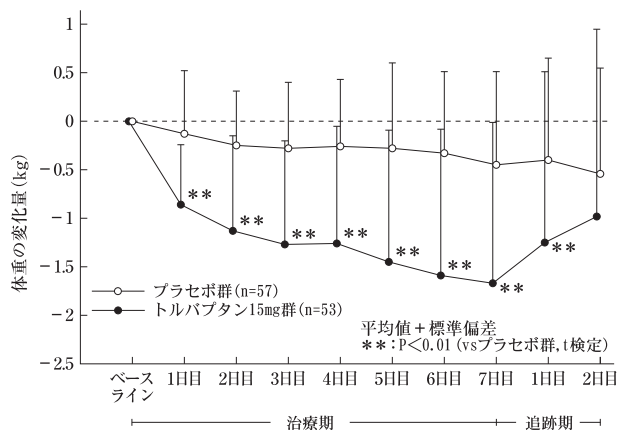


図2 心性浮腫患者における体重のベースラインからの変化量(プラセボとの二重盲検比較試験)

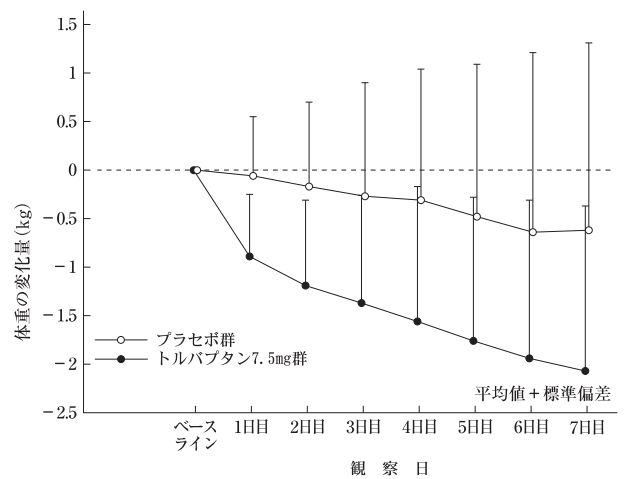
表5 心性浮腫に伴う所見の変化(プラセボとの二重盲検比較試験)

心性浮腫に伴う所見	トルバプタン15mg群	プラセボ群
頸静脈怒張変化量 (cm) [例数]	-2.03 ± 2.81 [27]	-0.51 ± 1.18 [19]
肝腫大変化量 (cm) [例数]	-1.07 ± 0.89 [18]	-0.35 ± 1.00 [17]
下肢浮腫改善率 (%) [例数]	63.9 [23/36]	42.1 [16/38]

(平均値 $\pm$ 標準偏差)

2. 肝性浮腫

第Ⅲ相二重盲検比較試験において、他の利尿薬を投与しても体液貯留が認められる肝硬変患者を対象に、トルバプタン7.5mg又はプラセボを1日1回7日間経口投与し有効性を検討した。主要評価項目である最終投与時の体重変化量は、トルバプタン7.5mg群 $-1.95 \pm 1.77\text{kg}$ (ベースライン：59.35 $\pm$ 12.69kg、82例)(平均値 $\pm$ 標準偏差、以下同様)、プラセボ群 $-0.44 \pm 1.93\text{kg}$ (ベースライン：59.15 $\pm$ 13.15kg、80例)であり、トルバプタン群では、プラセボ群に比較して有意な体重減少が認められた($p < 0.0001$, t検定)。体重減少は投与翌日よりみられ投与期間を通じて継続した(図3)。最終投与時における肝性浮腫に伴う所見(腹水量、腹囲、下肢浮腫)が改善した(表6)。また、臨床症状(腹部膨満感、倦怠感、臥位での圧迫感、呼吸困難感、全身状態)も改善した²⁵⁾。



プラセボ群	(80)	(78)	(79)	(74)	(73)	(71)	(70)	(71)
トルバプタン7.5mg群	(82)	(82)	(81)	(81)	(78)	(76)	(75)	(75)

図3 肝性浮腫患者における体重のベースラインからの変化量(プラセボとの二重盲検比較試験)

表6 肝性浮腫に伴う所見の変化(プラセボとの二重盲検比較試験)

肝性浮腫に伴う所見	トルバプタン7.5mg群	プラセボ群
腹水変化量 (mL) [例数]	-492.4 ± 760.3 [82]	-191.8 ± 690.8 [80]
腹囲変化量 (cm) [例数]	-3.38 ± 3.56 [81]	-1.11 ± 3.67 [79]
下肢浮腫改善率 (%) [例数]	54.8 [23/42]	28.3 [13/46]

(平均値 $\pm$ 標準偏差)

3. 常染色体優性多発性のう胞腎

第Ⅲ相二重盲検比較試験(国際共同試験)³⁾において、常染色体優性多発性のう胞腎患者(1,444例、日本人患者177例を含む)を対象に、トルバプタン45mg/15mg、60mg/30mg、90mg/30mg又はプラセボを朝、夕1日2回3年間経口投与し有効性を検討した。

対象とした常染色体優性多発性のう胞腎患者は、以下の条件を満たした。①20歳(海外は18歳)以上50歳以下、②無作為割付前31日以内のクレアチンクリアランスが60mL/min以上、③無作為割付時のMRIにより腎容積の増加が速いと推定される患者(両側腎容積750mL以上)。

投与は、1日60mg(朝45mg、夕15mg)より開始し、忍容性が認められれば、1日90mg(朝60mg、夕30mg)、1日120mg(朝90mg、夕30mg)と1週ごとに漸増し、各被験者が長期間服用可能な最大用量を3年間投与した。

主要評価項目である両側腎容積の変化率の群間差は -2.7% /年(トルバプタン群: 2.8% /年の増加、プラセボ群: 5.5% /年の増加)となり、プラセボ群に比べトルバプタン群で変化率を有意に減少させた($p < 0.001$)(図4)。また、常染色体優性多発性のう胞腎の臨床症状に関する複合評価項目(腎機能悪化、腎臓痛、高血圧悪化、アルブミン尿悪化)においても、複合イベントの発現リスクを有意に減少させた(表7)。複合評価項目の各項目及び腎機能の変化の結果については、表7に示す。日本人部分集団においても同様な結果であった。

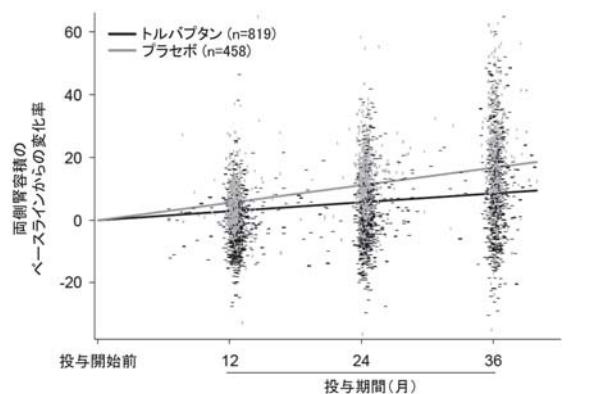


図4 常染色体優性多発性のう胞腎患者における両側腎容積の変化率に対する影響(プラセボとの二重盲検試験)

腎容積のベースラインの平均値：トルバプタン群1,704.8mL、プラセボ群1,667.5mL

表7 常染色体優性多発性のう胞腎における各評価項目の結果²⁶⁾

		全体集団		日本人集団		
		トルバプタン群	プラセブ群	トルバプタン群	プラセブ群	
腎容積の変化率	変化率 ¹⁾	2.80 (n=819)	5.51 (n=458)	1.27 (n=106)	5.04 (n=58)	
	群間差 (p値) ⁵⁾	-2.708 (p<0.0001)		-3.770 (p<0.0001)		
複合評価項目	イベント数 ²⁾	43.94 (n=961)	50.04 (n=483)	40.98 (n=118)	51.87 (n=59)	
	ハザード比 (p値) ⁶⁾	0.865 (p=0.0095)		0.771 (p=0.1281)		
複合評価項目における各項目	腎機能悪化	イベント数 ²⁾	1.85 (n=961)	4.84 (n=483)	1.33 (n=118)	8.25 (n=59)
		ハザード比 (p値) ⁶⁾	0.386 (p<0.0001)		0.167 (p=0.0011)	
	腎臓痛	イベント数 ²⁾	4.73 (n=961)	7.30 (n=483)	2.33 (n=118)	2.95 (n=59)
		ハザード比 (p値) ⁶⁾	0.642 (p=0.0071)		0.767 (p=0.6564)	
	高血圧悪化	イベント数 ²⁾	30.74 (n=961)	32.05 (n=483)	28.32 (n=118)	31.83 (n=59)
		ハザード比 (p値) ⁶⁾	0.942 (p=0.4223)		0.863 (p=0.5248)	
	アルブミン尿悪化	イベント数 ²⁾	8.17 (n=961)	7.75 (n=483)	9.00 (n=118)	8.84 (n=59)
		ハザード比 (p値) ⁶⁾	1.037 (p=0.7420)		0.994 (p=0.9827)	
腎機能 ³⁾ の変化	変化量 ⁴⁾	-2.609 (n=842)	-3.812 (n=464)	-4.837 (n=108)	-6.279 (n=58)	
	群間差 (p値) ⁵⁾	1.203 (p<0.0001)		1.442 (p=0.0119)		

1) %/年、2) イベント/100観察年、3) 血清クレアチニンの逆数
4) (mg/mL)⁻¹/年
5) 線形混合モデルによる投与群と時間の交互作用項の検定により算出
6) イベント発生までの時間 (再発を含む) について、投与群を因子とした proportional rates/means model を用いて算出

〔薬効薬理〕

1. 薬理作用

(1) バソプレシンV₂-受容体拮抗作用^{27, 28)}

トルバプタンは、ヒトバソプレシンV₂-受容体発現細胞及びラット、イヌ腎臓膜標本において、標識バソプレシンのV₂-受容体への結合を濃度依存的に阻害した。また、ヒトバソプレシンV₂-受容体発現細胞において、それ自身ではcAMPの産生増加を示さず、バソプレシンによるcAMPの産生を抑制したことから、バソプレシンV₂-受容体拮抗作用を有していることが示された。ヒトバソプレシンV₂-受容体に対する阻害定数は、0.43 ± 0.06nmol/Lであった。

(2) 利尿作用^{28, 29)}

トルバプタンは、覚醒ラット及びイヌにおいて、用量依存的に尿量を増加させ、尿浸透圧を低下させた。このとき、ループ利尿薬とは異なり、自由水クリアランスが正の値となり、自由水の排泄を増加させた(水利尿作用)。

(3) 抗浮腫作用^{30, 31)}

トルバプタンは、ラット浮腫モデルにおいて、カラゲニン誘発浮腫及びヒスタミン誘発毛細血管透過性の亢進を用量依存的に抑制した。また、覚醒心不全犬において水利尿作用を示し、前負荷を軽減させた。

(4) 腹水減少作用³²⁾

トルバプタンは、ラット肝硬変腹水モデルにおいて、腹水の指標である体重及び腹囲を減少させた。

(5) のう胞腎進行抑制作用^{33~35)}

トルバプタンは、多発性のう胞腎の動物モデルである*pcy*マウス、*Pkd2*^{flS25/-}マウス及びPCKラットにおいて腎容積の増大を抑制した。

2. 作用機序

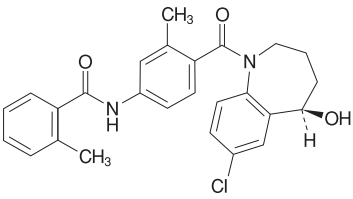
トルバプタンは、バソプレシンV₂-受容体拮抗作用を薬理学的特徴とする薬剤であり、腎集合管でのバソプレシンによる水再吸収を阻害することにより、選択的に水を排泄し、電解質排泄の増加を伴わない利尿作用(水利尿作用)を示す。また、多発性のう胞腎においてはバソプレシンによる細胞内cAMPの上昇を抑制することにより、腎容積及び腎のう胞の増大を抑制する。

〔有効成分に関する理化学的知見〕

一般名：トルバプタン〔Tolvaptan (JAN)〕

化学名：N-[4-[(5*S*)-7-Chloro-5-hydroxy-2, 3, 4, 5-tetrahydro-1*H*-benzo[*b*]azepine-1-carbonyl]-3-methylphenyl]-2-methylbenzamide

構造式：



及び鏡像異性体

分子式：C₂₆H₂₅ClN₂O₃

分子量：448.94

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。メタノール又はエタノール(99.5)にやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。本品のメタノール溶液(1→50)は旋光性を示さない。

融点：224~228℃

〔承認条件〕

腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制

- 常染色体優性多発性のう胞腎の治療及び本剤のリスクについて十分に理解し、投与対象の選択や肝機能や血清ナトリウム濃度の定期的な検査をはじめとする本剤の適正使用が可能な医師によってのみ処方され、さらに、医療機関・薬局においては調剤前に当該医師によって処方されたことを確認した上で調剤がなされるよう、製造販売にあたって必要な措置を講じること。
- 製造販売後、一定数の症例に係るデータが蓄積されるまでの間は、本剤が投与された全症例を対象に製造販売後調査を実施することにより、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。また、集積された結果については定期的に報告すること。

※※〔包装〕

サムスカ錠7.5mg：〔PTP〕20錠(10錠×2)、100錠(10錠×10)

サムスカ錠15mg：〔PTP〕20錠(10錠×2)、100錠(10錠×10)

サムスカ錠30mg：〔PTP〕10錠(10錠×1)

サムスカ顆粒1%：〔プラスチックボトル〕30g

〔主要文献及び文献請求先〕

主要文献

- Oi, A. et al. : Cardiovasc. Drugs Ther., **25** (Suppl. 1), S91-S99, 2011
- Furukawa, M. et al. : Cardiovasc. Drugs Ther., **25** (Suppl. 1), S83-S89, 2011
- Torres, V. E. et al. : N. Engl. J. Med., **367** (25), 2407-2418, 2012
- Kim, S. R. et al. : Cardiovasc. Drugs Ther., **25** (Suppl. 1), S5-S17, 2011
- 社内資料(心性浮腫患者における臨床薬理試験)
- 社内資料(肝性浮腫患者における臨床薬理試験)
- 社内資料(常染色体優性多発性のう胞腎患者を対象とした臨床薬理試験)
- 社内資料(食事の影響試験60mg)
- 社内資料(食事の影響試験90mg)
- Shoaf, S. E. et al. : Int. J. Clin. Pharmacol. Ther., **50** (2), 150-156, 2012
- 社内資料(ヒトにおける推定代謝経路)
- 社内資料(吸収、分布、代謝、排泄試験)
- Shoaf, S. E. et al. : Br. J. Clin. Pharmacol., **73** (4), 579-587, 2011
- Shoaf, S. E. et al. : Eur. J. Clin. Pharmacol., **68** (2), 207-211, 2012
- 社内資料(ロバスタチンとの相互作用1)
- 社内資料(ロバスタチンとの相互作用2)
- Shoaf, S. E. et al. : J. Cardiovasc. Pharmacol. Ther., **10** (3), 165-171, 2005
- Shoaf, S. E. et al. : Clinical Pharmacology in Drug Development, **1** (2), 67-75, 2012
- Shoaf, S. E. et al. : J. Clin. Pharmacol., **51** (5), 761-769, 2011
- Shoaf, S. E. et al. : J. Cardiovasc. Pharmacol., **50** (2), 213-222, 2007
- Shoaf, S. E. et al. : Kidney Int., **85** (4), 953-961, 2014
- 社内資料(肝性浮腫患者を対象とした母集団薬物動態解析)
- 社内資料(年齢、性別による影響)
- Matsuzaki, M. et al. : Cardiovasc. Drugs Ther., **25** (Suppl. 1), S33-S45, 2011

- 25) 社内資料(肝性浮腫患者におけるプラセボを対照とした二重盲検比較試験)
- 26) 社内資料(常染色体優性多発性のう胞腎患者を対象とした第Ⅲ相二重盲検比較試験：国際共同試験)
- 27) Yamamura, Y. et al. : J. Pharmacol. Exp. Ther., **287** (3), 860-867, 1998
- 28) Miyazaki, T. et al. : Cardiovasc. Drug Rev., **25** (1), 1-13, 2007
- 29) Hirano, T. et al. : J. Pharmacol. Exp. Ther., **292** (1), 288-294, 2000
- 30) Miyazaki, T. et al. : Cardiovasc. Drugs Ther., **25** (Suppl. 1), S77-S82, 2011
- 31) Onogawa, T. et al. : Cardiovasc. Drugs Ther., **25** (Suppl. 1), S67-S76, 2011
- 32) Miyazaki, T. et al. : Hepatol. Res., **43** (11), 1224-1230, 2013
- 33) Aihara, M. et al. : J. Pharmacol. Exp. Ther., **349** (2), 258-267, 2014
- 34) Wang, X. et al. : J. Am. Soc. Nephrol., **16** (4), 846-851, 2005
- 35) 社内資料(*Pkd2*^{NS25/-}マウスにおける作用)

文献請求先

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

大塚製薬株式会社 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4
品川グランドセントラルタワー
電話 0120-189-840
FAX 03-6717-1414

これらの発現率と癌種は、一般人口から予想されるものと類似していた。

■薬効薬理

1. アダリムマブは*in vitro*試験において、TNF α に選択的に結合し以下の作用を示した。
 - ・ヒトTNF α に対して高い親和性を示した。
 - ・TNF α 受容体(TNF R I 及びTNF R II)に対するTNF α の結合を阻害した(IC₅₀値：1.26~1.47×10⁻⁹mol/L)。
 - ・L929細胞に対するヒトTNF α 誘発細胞傷害において細胞死を中和した(IC₅₀値：1.4~3.5×10⁻¹¹mol/L)。
2. アダリムマブは*in vivo*試験において、ヒトTNF α トランスジェニックマウスモデルにおける関節炎の発症を抑制した¹⁷⁾。

■有効成分に関する理化学的知見

一般名：アダリムマブ(遺伝子組換え)(JAN)

Adalimumab(Genetical Recombination)

本 質：ヒト抗ヒトTNF α モノクローナル抗体であるIgG₁の重鎖(γ 1鎖)及び軽鎖(κ 鎖)をコードするcDNAの発現によりチャイニーズハムスター卵巣細胞で産生される451個のアミノ酸残基(C₂₁₉₇H₃₃₉₆N₅₈₄O₆₇₈S₁₅；分子量：49,318.95，C末端のリジン残基が欠落しているものC₂₁₉₁H₃₃₈₄N₅₈₂O₆₇₇S₁₅；分子量：49,190.78を含む)からなる重鎖2分子と214個のアミノ酸残基(C₁₀₂₇H₁₆₀₆N₂₈₂O₃₃₂S₆；分子量：23,407.82)からなる軽鎖2分子からなる糖たん白質

分子量：約148,000

■承認条件*

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

関節リウマチ

大規模な製造販売後調査を実施し、本剤の安全性について十分に検討するとともに、長期投与時の安全性、感染症等の発現について検討すること。

腸管型ベーチェット病

国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが蓄積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

■包装

ヒュミラ皮下注20mgシリンジ0.4mL：20mg×1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8mL：40mg×1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.4mL：40mg×1シリンジ

ヒュミラ皮下注80mgシリンジ0.8mL：80mg×1シリンジ

■主要文献

文献請求番号

- 1) Miyasaka N. The CHANGE Study Investigators : Mod. Rheumatol., **18** : 252(2008) HUR-0013
- 2) van de Putte LBA, et al. : Ann. Rheum. Dis., **63** : 508(2004) HUR-0001
- 3) Breedveld FC, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 26(2006) HUR-0005
- 4) Keystone EC, et al. : Arthritis Rheum., **50** : 1400(2004) HUR-0004
- 5) Asahina A, et al. : J. Dermatol., **37** : 299(2010) HUR-0259
- 6) van der Heijde D, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 2136(2006) HUR-0008
- 7) Lovell DJ, et al. : N. Engl. J. Med., **359** : 810(2008) HUR-0050
- 8) Watanabe M, et al. : J. Crohns Colitis, **6** : 160(2012) HUR-0443
- 9) Sandborn WJ, et al. : Ann. Intern. Med., **146** : 829(2007) HUR-0055

- 10) Colombel JF, et al. : Gastroenterology, **132** : 52(2007) HUR-0011
- 11) Weinblatt ME, et al. : Arthritis Rheum., **48** : 35(2003) HUR-0002
- 12) Furst DE, et al. : J. Rheumatol., **30** : 2563(2003) HUR-0003
- 13) Gladman DD, et al. : Ann. Rheum. Dis., **66** : 163(2007) HUR-0006
- 14) Gladman DD, et al. : Arthritis Rheum., **56** : 476(2007) HUR-0007
- 15) Hanauer SB, et al. : Gastroenterology, **130** : 323(2006) HUR-0009
- 16) Sandborn WJ, et al. : Gut, **56** : 1232(2007) HUR-0010
- 17) Salfeld J, et al. : Arthritis Rheum., **41** : S57(1998) HUR-0016

■文献請求先・製品情報お問い合わせ先

エーザイ株式会社 hhcホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497

abbvie

製造販売(輸入)元

アッヴィ合同会社
東京都港区三田 3-5-27

販 売 元



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

プロモーション提携



EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号

これらの発現率と癌種は、一般人口から予想されるものと類似していた。

■薬効薬理

1. アダリムマブは*in vitro*試験において、TNF α に選択的に結合し以下の作用を示した。
 - ・ヒトTNF α に対して高い親和性を示した。
 - ・TNF α 受容体(TNF R I 及びTNF R II)に対するTNF α の結合を阻害した(IC₅₀値：1.26~1.47 $\times 10^{-9}$ mol/L)。
 - ・L929細胞に対するヒトTNF α 誘発細胞傷害において細胞死を中和した(IC₅₀値：1.4~3.5 $\times 10^{-11}$ mol/L)。
2. アダリムマブは*in vivo*試験において、ヒトTNF α トランスジェニックマウスモデルにおける関節炎の発症を抑制した¹⁷⁾。

■有効成分に関する理化学的知見

一般名：アダリムマブ(遺伝子組換え)(JAN)

Adalimumab(Genetical Recombination)

本 質：ヒト抗ヒトTNF α モノクローナル抗体であるIgG₁の重鎖(γ 1鎖)及び軽鎖(κ 鎖)をコードするcDNAの発現によりチャイニーズハムスター卵巣細胞で産生される451個のアミノ酸残基(C₂₁₉₇H₃₃₉₆N₅₈₄O₆₇₈S₁₅；分子量：49,318.95，C末端のリジン残基が欠落しているものC₂₁₉₁H₃₃₈₄N₅₈₂O₆₇₇S₁₅；分子量：49,190.78を含む)からなる重鎖2分子と214個のアミノ酸残基(C₁₀₂₇H₁₆₀₆N₂₈₂O₃₃₂S₆；分子量：23,407.82)からなる軽鎖2分子からなる糖たん白質

分子量：約148,000

■承認条件*

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

関節リウマチ

大規模な製造販売後調査を実施し、本剤の安全性について十分に検討するとともに、長期投与時の安全性、感染症等の発現について検討すること。

腸管型ベーチェット病

国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが蓄積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

■包装

ヒュミラ皮下注20mgシリンジ0.4mL：20mg $\times$ 1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8mL：40mg $\times$ 1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.4mL：40mg $\times$ 1シリンジ

ヒュミラ皮下注80mgシリンジ0.8mL：80mg $\times$ 1シリンジ

■主要文献

文献請求番号

- 1) Miyasaka N. The CHANGE Study Investigators : Mod. Rheumatol., **18** : 252(2008) HUR-0013
- 2) van de Putte LBA, et al. : Ann. Rheum. Dis., **63** : 508(2004) HUR-0001
- 3) Breedveld FC, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 26(2006) HUR-0005
- 4) Keystone EC, et al. : Arthritis Rheum., **50** : 1400(2004) HUR-0004
- 5) Asahina A, et al. : J. Dermatol., **37** : 299(2010) HUR-0259
- 6) van der Heijde D, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 2136(2006) HUR-0008
- 7) Lovell DJ, et al. : N. Engl. J. Med., **359** : 810(2008) HUR-0050
- 8) Watanabe M, et al. : J. Crohns Colitis, **6** : 160(2012) HUR-0443
- 9) Sandborn WJ, et al. : Ann. Intern. Med., **146** : 829(2007) HUR-0055

- 10) Colombel JF, et al. : Gastroenterology, **132** : 52(2007) HUR-0011
- 11) Weinblatt ME, et al. : Arthritis Rheum., **48** : 35(2003) HUR-0002
- 12) Furst DE, et al. : J. Rheumatol., **30** : 2563(2003) HUR-0003
- 13) Gladman DD, et al. : Ann. Rheum. Dis., **66** : 163(2007) HUR-0006
- 14) Gladman DD, et al. : Arthritis Rheum., **56** : 476(2007) HUR-0007
- 15) Hanauer SB, et al. : Gastroenterology, **130** : 323(2006) HUR-0009
- 16) Sandborn WJ, et al. : Gut, **56** : 1232(2007) HUR-0010
- 17) Salfeld J, et al. : Arthritis Rheum., **41** : S57(1998) HUR-0016

■文献請求先・製品情報お問い合わせ先

エーザイ株式会社 hhcホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497

abbvie

製造販売(輸入)元

アッヴィ合同会社
東京都港区三田 3-5-27

販 売 元



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

プロモーション提携



EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号